FUJITSU Software
PRIMECLUSTER

活用ガイド
＜メッセージ集＞

Oracle Solaris / Linux

J2X1-4260-13Z0(00)
2014年10月

はじめに

本書は、PRIMECLUSTER の環境設定や運用時に発生するメッセージについてまとめたガイドブックです。

本書の読者

本書は PRIMECLUSTER を使用して、クラスタシステムの導入、運用管理を行うシステム管理者、および PRIMECLUSTER 上にアプリケーションを作成するプログラマを対象にしています。

本書の構成について

本書の構成は以下のとおりです。

章タイトル	内容
第1章 メッセージの検索手順	メッセージの種類と参照先について説明します。
第2章 インストール時のメッセージ	インストール時のエラーメッセージについて説明します。
第3章 GUI のメッセージ	Cluster Admin で設定作業を行うときに表示されるメッセージについて説明します。
第4章 FJSVcluster 形式のメッセージ	PRIMECLUSTER の環境設定時や運用時に表示される一般的なメッセージおよびメッセージへの対処方法について説明します。
第5章 CF のメッセージ	CF に関するメッセージおよびメッセージへの対処方法について説明します。
第6章 RMS に関するメッセージ	RMS に関するメッセージおよびメッセージへの対処方法について説明します。
第7章 特定コマンド実行時のメッセージ	特定のコマンドを実行したときに表示されるメッセージについて説明します。
付録A CF 理由コードテーブル	CF 理由コードの一覧です。
付録B Solaris/Linux ERRNO テーブル	Solaris および Linux に関する ERRNO の一覧です。
付録C リリース情報	マニュアルの変更について説明します。

OS の表記について

本書には、オペレーティングシステム固有の情報が含まれています。オペレーティングシステム固有の説明箇所には、以下のように記述して区別しています。

何も表記されていない箇所は、Oracle Solaris（以降、Solaris）と Linux で共通の内容です。

オペレーティングシステムの種類	表記
Oracle Solaris	"Solaris" または "（Solaris）"
Linux	"Linux" または "（Linux）"
説明の都合上、オペレーティングシステム共通であることを示す必要がある場合	"Solaris／Linux" または "（Solaris／Linux）"

関連マニュアル

以下のマニュアルはクラスタ設定を行う際に必要に応じて参照してください。

- PRIMECLUSTER コンセプトガイド
- PRIMECLUSTER 導入運用手引書
- PRIMECLUSTER Cluster Foundation 導入運用手引書
- PRIMECLUSTER RMS 導入運用手引書
- PRIMECLUSTER RMS リファレンスガイド
- PRIMECLUSTER RMS 導入運用手引書（トラブルシューティング編）
- PRIMECLUSTER ソフトウェア説明書
- PRIMECLUSTER インストールガイド
- PRIMECLUSTER Web-Based Admin View 操作手引書
- PRIMECLUSTER Global Disk Services 説明書
- PRIMECLUSTER Global File Services 説明書
- PRIMECLUSTER Global Link Services 説明書（伝送路二重化機能編）
- PRIMECLUSTER Global Link Services 説明書 (伝送路二重化機能 仮想NIC方式編)
- PRIMECLUSTER Global Link Services 説明書（マルチパス機能編）
- RC2000ユーザーズガイド
- PRIMECLUSTER DR/PCI Hot Plug ユーザーズガイド
- PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞
- PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞
- PRIMECLUSTER 活用ガイド＜クラスタ構築・運用時の留意点＞

本書の表記について

表記

プロンプト

実行にシステム管理者（ルート）権限が必要なコマンドライン例の場合、先頭にシステム管理者プロンプトを示すハッシュ記号（#）が付いています。システム管理者権限を必要としないエントリの場合、先頭にドル（$）が付いています。

マニュアルページのセクション番号

UNIX オペレーティングシステムコマンドの後ろにマニュアルページのセクション番号が括弧付きで示されています。―例: cp(1)

キーボード

印字されない文字のキーストロークは、＜Enter＞や＜F1＞などのキーアイコンで表示されます。例えば、＜Enter＞は *Enter* というラベルの付いたキーを押すことを意味し、＜Ctrl＞+＜B＞は、*Ctrl* または *Control* というラベルの付いたキーを押しながら＜B＞キーを押すことを意味します。

書体／記号

以下の書体は特定要素の強調に使用されます。

書体 / 記号	表記
均等幅	コンピュータ出力、およびプログラムリスト:テキスト本文中のコマンド、ファイル名、マニュアルページ名、他のリテラルプログラミング項目
斜体, <*斜体*>	具体的な数値/文字列に置き換える必要のある変数 ―入力値―
<均等幅>	具体的な数値/文字列に置き換える必要のある変数 ―表示値―
太字	記述どおりに入力する必要のあるコマンドライン項目
"均等幅"	参照先のタイトル名、マニュアル名、画面名等

書体 / 記号	表記
[均等幅]	ツールバー名、メニュー名、コマンド名、アイコン名
＜均等幅＞	ボタン名

例1.

以下に /etc/passwd ファイルのエントリの一部を示します。

```
root:x:0:1:0000-Admin(0000):/:
sysadm:x:0:0:System Admin.:/usr/admin:/usr/sbin/sysadm
setup:x:0:0:System Setup:/usr/admin:/usr/sbin/setup
daemon:x:1:1:0000-Admin(0000):/:
```

例2.

cat(1) コマンドでファイルの内容を表示するには、以下のコマンドラインを入力します。

$ **cat** *ファイル名*

記号

特に注意すべき事項の前には以下の記号が付いています。

ポイント

ポイントとなる内容について説明します。

注意

注意する項目について説明します。

例

例題を用いて説明します。

参考

参考となる内容を説明します。

参照

参照するマニュアル名などを説明します。

略称

- Microsoft(R) Windows(R) XP operating system を Windows(R) XP と略しています。
- Microsoft(R) Windows(R) Vista(R) Business operating system を Windows(R) Vista と略しています。
- Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional operating system を Windows(R) 7 と略しています。
- Windows(R) XP、Windows Vista(R)、Windows(R) 7 を総称して Microsoft(R) Windows と表記します。
- Oracle Solarisは、Solaris、Solaris Operating System、Solaris OSと記載することがあります。

輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または第三者へ提供する場合は、お客様が居住する国および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

商標について

UNIX は、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商標です。

Oracle とJava は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Microsoft Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、WindowsXP、WindowsVista、Windows7、およびInternet Explorerは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

CORBA,OMG,ORB はオブジェクト・マネージメント・グループ（OMG）の登録商標です。

NetWorker は、米国およびその他の国における EMC Corporation の商標または登録商標です。

Symfoware は、富士通株式会社の登録商標です。

PRIMECLUSTER は、富士通株式会社の登録商標です。

その他各種製品名は、各社の製品名称、商標または登録商標です。

お願い

- 本書を無断で他に転載しないようお願いします。
- 本書は予告なしに変更されることがあります。

出版年月および版数

2014年10月 第14版

著作権表示

目　次

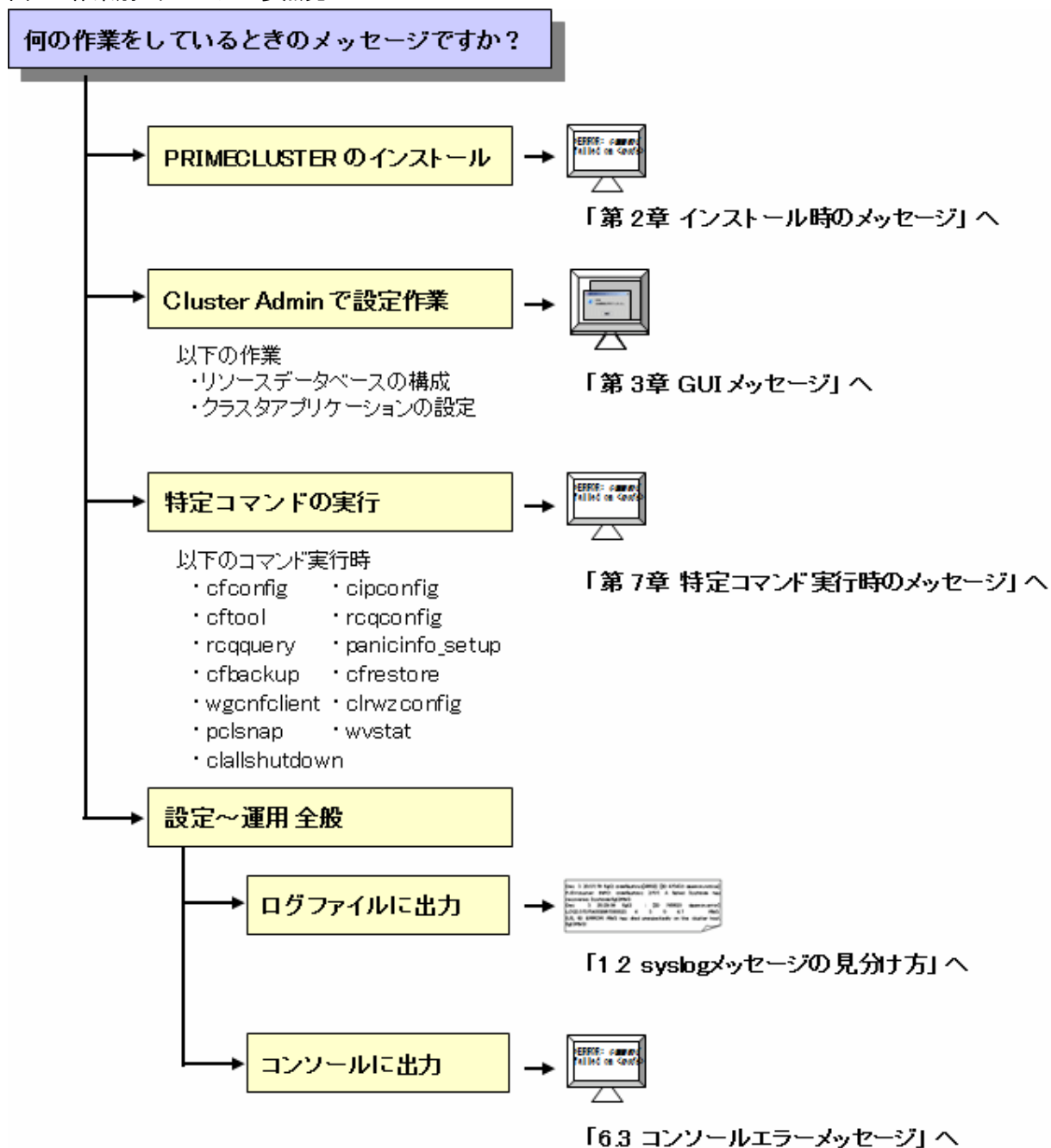
第1章 メッセージの検索手順

本章では、メッセージの参照先について説明しています。メッセージを検索する前に一読してください。本章の内容は以下のとおりです。

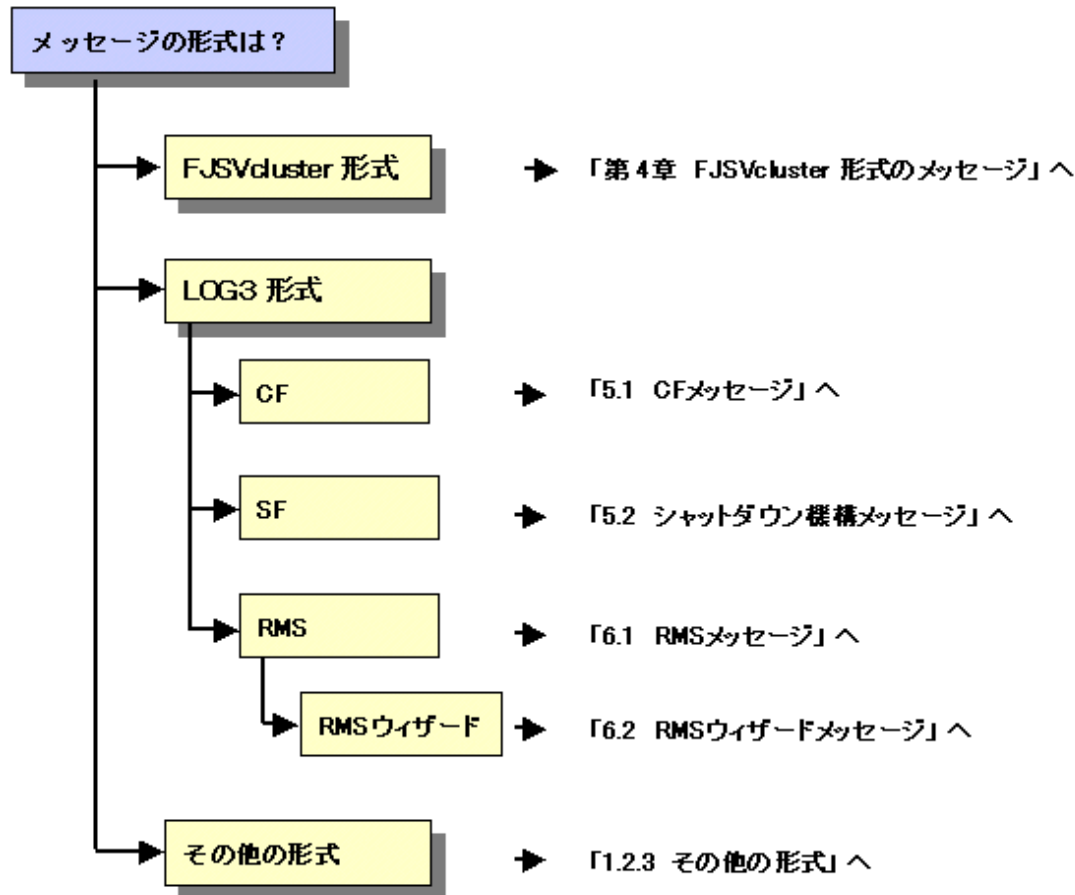
- 作業別メッセージの参照先
- syslog メッセージの見分け方

1.1 作業別メッセージの参照先

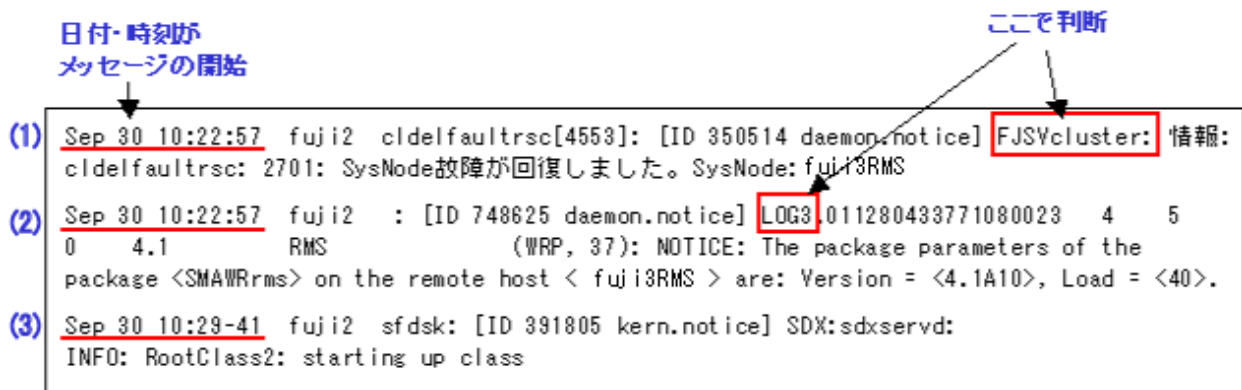
調べたいメッセージが、何の作業中に出力されたものかによって、本書の参照先を決定することができます。以下のフローで該当する作業を選んで、各参照先へ進んでください。

図1.1 作業別メッセージの参照先

1.2 syslog メッセージの見分け方

システムの設定・運用時には、さまざまなメッセージが syslog ファイルに出力されます。
syslog ファイルに出力されるメッセージの区分と、本書の参照先は以下のようになります。

図1.2 syslog メッセージの区分と参照先

ここでは、メッセージが上記のどの形式に該当するかを見分ける方法を説明します。以下の手順に従って、調べたいメッセージがどれに該当するかを判断し、参照先を決定してください。

FJSVcluster／LOG3／ その他 の見分け方

メッセージの中に "FJSVcluster" 、または "LOG3" という文字列があるかどうかで、メッセージの形式を見分けます。

- "FJSVcluster" という文字列がある（図中の (1)）

→ 1.2.1 FJSVcluster 形式

- "LOG3" という文字列がある(図中の (2))

  → 1.2.2 LOG3 形式

- "FJSVcluster" も "LOG3" もない(図中の (3))

  → 1.2.3 その他の形式

それぞれの形式の説明を参照してください。

参考

メッセージヘッダ部分の見方

メッセージのヘッダ部分には、以下の情報が出力されます。

ファシリティには以下の種類があります。

- kern :カーネルから出力されたメッセージを示します。
- daemon :デーモンから出力されたメッセージを示します。
- user :ユーザプロセスから出力されたメッセージを示します。

重要度には以下の種類があります。

- emerg :システムの異常終了
- alert :重大エラー(緊急対処必要)
- crit :重大エラー(早期対処必要)
- error :エラー(対処必要)
- warning :警告
- notice :注意
- info :情報
- debug :デバッグ

1.2.1 FJSVcluster 形式

FJSVcluster 形式と判断した場合は、メッセージ中の｢重要度｣と｢メッセージ番号｣を確認し、"第4章 FJSVcluster 形式のメッセージ" を参照してください。重要度ごとにメッセージ番号順に説明されています。

上記のメッセージが英語で出力される場合は、以下のようになります。

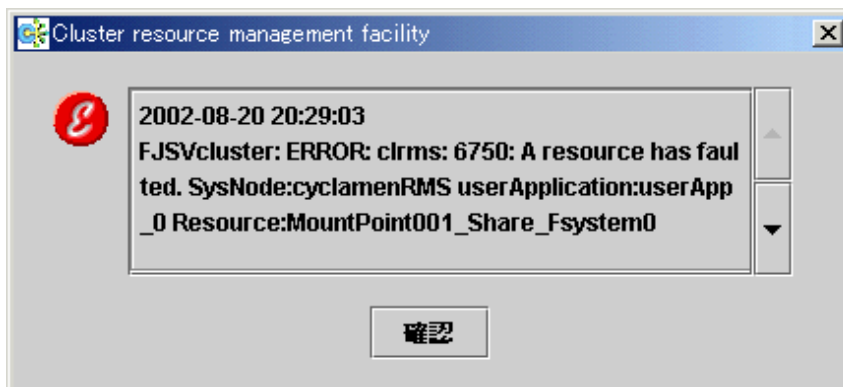
```
Sep 30 10:22:57  fuji2 cldelfaultrsc[4553]: [ID 350514 daemon.notice] FJSVcluster: INFO :
cldelfaultrsc: 2701: A failed resource has recovered. SysNode:fuji3RMS
```

重要度には、以下の種類があります。

重要度(英語)	重要度(日本語)	意味
HALT	停止	各機能が異常終了したことを通知するメッセージを示します。
QUESTION	応答	応答を要求するメッセージを示します。
INFO	情報	動作状況等の情報を通知するメッセージを示します。
WARNING	警告	異常終了に至らない程度の異常の発生を通知するメッセージを示します。
ERROR	エラー	異常終了する原因となる異常の発生を通知するメッセージを示します。

参考

FJSVcluster 形式のメッセージは、Cluster Admin に表示される場合もあります。

その場合は、以下のように表示されます。

1.2.2 LOG3 形式

LOG3 形式の場合は、そのメッセージが、CF、SF、RMS のどのメッセージなのかを見分けます。

CF／SF／RMS の見分け方

下図の枠で囲んだ数値の部分で判断します。
多くの場合、各メッセージにはそれぞれ "CF"、"SMAWsf"、"RMS" という文字列が出力されますので、それで判断することもできます。

ここで判断

```
(1) Sep 30 10:28:22  fuji2 cf_drv: [ID 520048 kern.info]  LOG3.0112804370210800024   1007 5
    0    1.0         cf:eventlog      CF: (TRACE): CFSF node leaving cluster failure passed
    to ENS: fuji3    (#0000 1)
(2) Sep 30 10:28:22  fuji2  : [ID 702911 daemon.notice] LOG3.0112804370210800028  10   5
    50   4.1A10      SMAWsf              : The RCSF-CF has received EVENT_NODE_LEFTDOWN_COMBO
(3) Sep 30 10:22:57  fuji2  : [ID 748625 daemon.notice] LOG3.0112804337710800023  4    5
    0    4.1         RMS                 (WRP, 37): NOTICE: The package parameters of the
    package <SMAWRrms> on the remote host < fuji3RMS  > are: Version = <4.1A10>, Load = <40>.
```

- "1080024" の場合

  → CF メッセージ(図中の (1))

- "1080028" の場合

  → SF メッセージ(図中の (2))

- "1080023" の場合

  → RMS メッセージ(図中の (3))

CF メッセージ

CF メッセージと判断した場合、メッセージ本文を確認し、"5.1 CF メッセージ" を参照してください。アルファベット順に説明されています

```
Sep 30 10:28:22  fuji2 cf_drv: [ID 520048 kern.info]  LOG3.0112804370210800024   1007 5
0    1.0         cf:eventlog      CF: (TRACE): CFSF node leaving cluster failure passed
to ENS: fuji3RMS  (#0000 1)
```

メッセージ本文

SF メッセージ

SF メッセージと判断した場合、メッセージ本文を確認し、"5.2 シャットダウン機構メッセージ" を参照してください。アルファベット順に掲載されています。

```
Sep 30 10:28:22  fuji2  : [ID 702911 daemon.notice] LOG3.0112804370210800028   10   5
50   4.1A10      SMAWsf              : The RCSF-CF has received EVENT_NODE_LEFTDOWN_COMBO
```

メッセージ本文

RMS メッセージ

RMS メッセージには、以下の 2 種類があります。

- RMS のメッセージ
- RMS ウィザードツールのメッセージ

RMS のメッセージ

"RMS" という文字列と、"(XXX, 99)" の形式のメッセージ番号が出力されているメッセージです。メッセージ番号 (XXX, 99) の "XXX" の部分は、RMS のコンポーネント名が出力されます。

メッセージ番号を確認し、"6.1 RMSメッセージ" を参照してください。RMS のコンポーネント名ごとに番号順に掲載されています。

メッセージ番号

```
Sep 30 10:36:11  fuji2  : [ID 748625 daemon.notice] LOG3.011280441711080023   4   5
0    4.1        RMS                (WRP, 37): NOTICE: The package parameters of the
package <SMAWRrms> on the remote host < fuji3RMS > are: Version = <4.1A10>, Load = <40>.
```

メッセージ本文

RMS ウィザードのメッセージ

"RMSWT" という文字列が出力されているメッセージです。メッセージ本文を確認し、"6.2 RMSウィザード メッセージ" を参照してください。重要度ごとにアルファベット順に掲載されています。多くの場合、メッセージ本文中に重要度が出力されます。

```
Sep 30 10:56:34  fuji2  : [ID 748625 daemon.notice] LOG3.011280453941080023   9   5
0    4.1        RMSWT              : : NOTICE: enable resource detection for Cmdline1
```

メッセージ本文

参考

監視対象とするメッセージについて

重要度が "notice" レベルのメッセージでも、運用・管理作業の視点から監視対象としたほうがよいメッセージがあります。

例えば、フェイルオーバ発生時に「状態遷移を開始します。」という "notice" レベルのメッセージが出力されますが、これは運用サーバに何らかの障害が発生し早急に対応をする必要がある、という意味ですので、運用・管理作業の視点からは、監視対象のメッセージとなります。

以下に、監視すべきメッセージの例を示します。

- 切替え処理の開始を示すメッセージ

  RMS メッセージの (US, 35)、(US, 17)、(US, 18)、(US, 26) がこれに該当します。

  出力例)

```
Dec 3 20:20:18 fuji2 : [ID 748625 daemon.notice] LOG3.010704504181080023 11 5 0 4.1 RMS
(US, 35): NOTICE: uap_sys1: starting Standby processing.

Dec 3 20:30:08 fuji2 : [ID 748625 daemon.notice] LOG3.010704510081080023 11 5 0 4.1 RMS
(US, 17): NOTICE: uap_sys1_sc: starting Online processing.

Dec 3 21:33:51 fuji2 : [ID 748625 daemon.notice] LOG3.010704548311080023 11 5 0 4.1 RMS
(US, 18): NOTICE: uap_sys1_sc: starting Offline processing.

Dec 5 14:46:25 fuji2 : [ID 748625 daemon.notice] LOG3.010706031851080023 25 5 0 4.1 RMS
(US, 26): NOTICE: userApp_1: Fault processing finished!
```

- 切替え処理の完了を示すメッセージ

  RMS メッセージの (US, 36)、(US, 16)、(US, 21)、(US, 40)、(US, 30) がこれに該当します。

  出力例)

```
Dec 5 15:17:45 fuji2 : [ID 748625 daemon.notice] LOG3.010706050651080023 25 5 0 4.1 RMS
(US, 36): NOTICE: userApp_1: Standby processing finished!


Dec 5 15:30:57 fuji2 : [ID 748625 daemon.notice] LOG3.010706058571080023 25 5 0 4.1 RMS
(US, 16): NOTICE: userApp_0: Online processing finished!


Dec 5 15:31:43 fuji2 : [ID 748625 daemon.notice] LOG3.010706059031080023 11 5 0 4.1 RMS
(US, 21): NOTICE: userApp_2: Offline processing finished!


Dec 5 18:51:40 fuji2 : [ID 748625 daemon.notice] LOG3.010706179001080023 11 5 0 4.1 RMS
(US, 40): NOTICE: userApp_0: Offline processing due to hvshut finished!


Dec 5 14:46:29 fuji2 : [ID 748625 daemon.notice] LOG3.010706031891080023 11 5 0 4.1 RMS
(US, 30): NOTICE: userApp_1: Offline processing after Fault finished!
```

【注意】

－ 運用系、待機系それぞれに、自ノードの切替えを示すメッセージが出力される。

－ フェイルオーバ時だけでなく、通常の起動・停止時もメッセージが出力される。

1.2.3 その他の形式

FJSVcluster 形式、LOG3 形式、およびCFのメッセージ以外については、本書では説明していません。

CFのメッセージ、GDS、GFS、GLS のメッセージについては、以下に見分け方を示しますので、各マニュアルを参照してください。

- CFのメッセージ

  文字列"CF:"を含むメッセージは、CFのメッセージです。

  本書の"第5章 CF のメッセージ"を参照してください。

- **GDS** のメッセージ

  文字列 "SDX:" または "sfdsk:" を含むメッセージは、GDS のメッセージです。

  "PRIMECLUSTER Global Disk Services 説明書" の "付録 E GDS のメッセージ" を参照してください。

- **GFS**のメッセージ

  文字列 "sfcfs" または "sfxfs" を含むメッセージは、GFS のメッセージです。

  "PRIMECLUSTER Global File Services 説明書"の"付録 A メッセージ一覧" を参照してください。

- **GLS** のメッセージ

  文字列 "hanet" を含むメッセージは、GLS のメッセージです。

  "PRIMECLUSTER Global Link Services 説明書（伝送路二重化機能編）" の "付録 A メッセージ一覧"を参照してください。

第2章 インストール時のメッセージ

本章では、PRIMECLUSTER のインストール時のメッセージについて説明します。

OS、インストール／アンインストール方法によって、以下を参照してください。
各参照先では、メッセージをアルファベット順に説明しています。

OS	参照先
Solaris	"2.1 インストールスクリプトのメッセージ（Solaris）"
	"2.2 One Shot Installer のメッセージ（Solaris）"
OS	"2.3 インストールスクリプトのエラーメッセージ（Linux）"
	"2.4 アンインストールスクリプトのエラーメッセージ（Linux）"

2.1 インストールスクリプトのメッセージ（Solaris）

インストールスクリプトのメッセージを、アルファベット順に説明します。

ERROR: Installation was failed.

内容

製品のインストールに失敗しました。

対処

以下のログファイルを参照して、製品のインストールに失敗した原因を取り除きます。

/var/sadm/install/logs/cluster_install.1（CD1 のログファイル）

/var/sadm/install/logs/cluster_install.2（CD2 のログファイル）

/var/sadm/install/logs/cluster_install.3（SUPPLEMENT CD のログファイル）

その後で、PRIMECLUSTERのインストールガイドの "アンインストール" を参照してパッケージを削除してから、再度インストールコマンド（cluster_install）を実行してください。

ERROR: Please install the first CD-ROM at first.

内容

1 枚目の CD-ROM がインストールされていません。

対処

1 枚目の CD-ROM のインストールが終了した後、2 枚目または 3 枚目の CD-ROM をインストールしてください。

ERROR: Please install the GUI packages of the first CD-ROM at first.

内容

1 枚目 CD-ROM の GUI パッケージがインストールされていません。

対処

1 枚目 CD-ROM の GUI パッケージのインストールが終了した後、2 枚目または 3 枚目 CD-ROM の GUI パッケージをインストールしてください。

ERROR: This installation is running now.

内容

すでにインストールコマンド（cluster_install）を実行しています。

対処

cluster_install の処理が完了してから、再度実行してください。

ERROR: This software needs Solaris 8 or later.

内容

インストールコマンド(cluster_install)を実行しようとしたマシンの OS のバージョンが、Solaris 8 以前となっています。

対処

OS のバージョンを Solaris 8 以降に変更後、再度 cluster_install を実行してください。

ERROR: This software needs <sparc> architecture.

内容

インストールコマンド(cluster_install)を実行しようとしたマシンの CPU 種別が sparc ではありません。

対処

CPU 種別が sparc のマシンで cluster_install を実行してください。

ERROR: To use this installer you will need to be the root user.

内容

インストールコマンド(cluster_install)を実行したユーザが、システム管理者権限ではありません。

対処

cluster_install はシステム管理者権限で実行してください。

Warning: The package <FJSViomp> has not been installed.

内容

FJSViomp パッケージがシステムにインストールされていません。

対処

cluster_install によるインストールが完了した後、pkgadd(1M) コマンドで FJSViomp パッケージをインストールしてください。

Warning: The package <FJSVsnap> has not been installed.

内容

FJSVsnap パッケージがシステムにインストールされていません。

対処

cluster_install によるインストールが完了した後、pkgadd(1M) コマンドで FJSVsnap パッケージをインストールしてください。

Warning: The package <SMAWccbr> has not been installed.

内容

SMAWccbr パッケージがシステムにインストールされていません。

対処

cluster_install によるインストールが完了した後、以下の手順で SMAWccbr パッケージをインストールしてください。

1. PRIMECLUSTER CD1 媒体を CD-ROM 装置にセットします。
2. 以下のコマンドを実行してください。

```
# cd /cdrom/cdrom0/Tool <Return>
```

```
# ./cluster_install -p CCBR <Return>
```

2.2 One Shot Installer のメッセージ(Solaris)

One Shot Installer のメッセージを、アルファベット順に説明します。

One Shot Installerは、PRIMECLUSTER 4.3A10以降では使用できません。

/opt/FJSVclis/bin/i_os_setup:test:unknown operator 8

内容

インストールサーバの IP アドレスが複数のネットワークインタフェースに存在しているため異常が発生しました。

対処

以下の手順をインストールサーバ上で実施してください。

1. 現在のネットワークインタフェースの情報を確認します。

   ```
   # ifconfig -a
   ```

2. 1. で取得した結果から "UP" が表示されていないすべてのネットワークインタフェースに対して以下のコマンドを実行します。

   ```
   # ifconfig <インタフェース名> unplumb
   ```

3. 再度 cluster_setup を実行してください。

* 2. の操作で指定されたインタフェースは、"ifconfig -a" で表示されない状態となっていますが、インストールサーバの次回のブート後に以前の状態に戻ります。

Allocated by another: *入力値*

内容

指定されたマウントポイントは他のスライスで既に設定済みです。

対処

他のマウントポイントを指定してください。

Cannot delete the directory.

内容

CD イメージが存在するため、格納先ディレクトリは削除できません。

対処

格納先ディレクトリ配下の CD イメージをすべて削除してから、格納先ディレクトリを削除してください。

ERROR: *HOSTNAME* : IP address not found in /etc/inet/hosts

内容

HOSTNAME を追加しようとしましたが、/etc/inet/hosts ファイルに IP アドレスが記述されていません。

対処

/etc/inet/hosts にノード名と IP アドレスを記述した後、再度 cluster_setup を実行してください。

ERROR: *HOSTNAME* : MAC address not found in /etc/ethers

内容

HOSTNAME を追加しようとしましたが、/etc/ethers ファイルに MAC アドレスが記述されていません。

対処

/etc/ethers にノード名と MAC アドレスを記述した後、再度 cluster_setup を実行してください。

FJSVclis: WARNING: <*HOSTNAME*>: rm_install_client not found.
filepath /export/install/<directory>/Solaris_X/Tools/rm_install_clinet
Cannot delete Solaris JumpStart definitions for <*HOSTNAME*>.
Please run rm_install_client from Solaris CD-ROM later.

内容

Solaris CD イメージで提供されている rm_install_client コマンドが存在しないため、<HOSTNAME> に関連する Solaris JumpStart の設定情報が削除できません。

対処

"1 of 2" または "CD1" という名前の Solaris CD を CD-ROM 装置にセットし、以下のように実行してください。

<CDROM-MountPoint>/Solaris_X/Tools/rm_install_client <HOSTNAME>

INFO: The following selected products are the same.
<製品名1>
<製品名2>
Please return to the menu and select again.
Hit enter key: <*prompt*>

内容

メッセージに表示された製品が同じ製品であるため、cluster_setup で同時にインストールできません。

対処

メッセージに沿って、ENTER キーを押した後、再度製品の一覧からインストールする製品を選択し直してください。

Input error : *入力値*

内容

入力した値が正しくありません。

対処

問い合わせメッセージに従って正しい値を入力してください。

Input error: *入力値*: "All" keyword exists.

内容

選択したスライス以外にすべてのディスク領域が割り当てられています。

対処

すべてのディスク領域を割り当てているスライスを修正して、再度選択してください。

Input error : *入力値* : Directory is not empty

内容

指定されたディレクトリは製品 CD の複写先に指定できません。

対処

製品 CD の複写先には空のディレクトリを指定してください。

Input error: *入力値*: "free" keyword exists.

内容

選択されたスライスより前に、残りのディスク領域がすべて割り当てられています。

対処

残りのディスク領域を割り当てているスライスを修正して、再度選択してください。

Input error: *入力値*: "Overlap slice" can not be modified.

内容

overlap スライスを変更することはできません。

対処

他のスライスを選択してください。

i_os_setup: ERROR: add_install_client command failed

内容

add_install_client コマンドでエラーが発生しました。ネットワークインストールに必要な /etc/bootparams に値を設定できませんでした。このファイルには、アーキテクチャ、IP アドレス、MAC アドレス、Solaris CD イメージ格納ディレクトリ、事前情報ファイル格納ディレクトリ、rules ファイル格納ディレクトリが設定されます。

対処

詳細情報によって、/etc/inet/hosts ファイル、/etc/ethers ファイルに正しくノードの IP アドレス、ノード名が記述されているか確認してください。その後、再度 cluster_setup を実行してください。

i_os_setup: ERROR: check command failed

内容

Solaris CD で提供されている check コマンドで異常が発生しました。

対処

再度 cluster_setup を実行し、詳細情報によって、正しいブートデバイスやディスクスライスの番号、容量、マウントポイントなどを設定してください。

i_os_setup: ERROR: check command was not found.

内容

Solaris CD の複写先に、check(1M) が存在していません。

対処

PRIMECLUSTERのインストールガイドの "インストール" を参照して再度 Solais CD を複写してください。

i_os_setup: ERROR: *HOSTNAME*: IP address was not found in /etc/inet/hosts

内容

インストールサーバとしている *HOSTNAME* のノード名や IP アドレスは /etc/inet/hosts に存在しません。

対処

/etc/inet/hosts に *HOSTNAME* のノード名と IP アドレスを追加した後、再度 cluster_setup を実行してください。

i_os_setup: ERROR: Solaris CD image was not found

内容

Solaris CD イメージが指定された複写先に複写されていません。

対処

PRIMECLUSTERのインストールガイドの "インストール" を参照して Solaris CD イメージを複写してください。

<NetworkInterfaceName> is not valid network interface line 6 position 19

内容

指定したネットワークインタフェースが存在しないため、インストールできません。

対処

cluster_setup で正しい情報を設定してください。その後、再度ネットワークインストールを実行(PRIMECLUSTER のインストールガイドを参照)してください。

---

panic -boot:Could not mount filesystem.
Program terminated

内容

Solaris CD イメージのディレクトリがマウントできません。

対処

/etc/dfs/dfstab ファイルに Solaris を複写したディレクトリを share する文を追加してください。

share -F nfs -o ro,anon=0 <Solaris を複写したディレクトリ>

その後、インストールサーバ上で shareall コマンドを実行し、再度ネットワークインストールを実行(PRIMECLUSTERのインストールガイドを参照)してください。

Product CD image registration failed.

内容

製品 CD の複写に失敗しました。

対処

複写先の空き容量が十分であるか確認してください。

このメッセージが表示された場合は、途中まで複写された製品 CD イメージは削除されます。

Product CD image registration failed.
Deleting the failed directory...

内容

CD イメージの複写に失敗しました。

対処

複写先のディスクの空き容量が十分あるか確認してください。

RPC: Timed out.
root directory:<Solaris格納ディレクトリ>/Tools/Boot mount server not responding

内容

Solaris CD イメージのディレクトリがマウントできません。

対処

/etc/dfs/dfstab ファイルに Solaris を複写したディレクトリを share する文を追加してください。

share -F nfs -o ro,anon=0 <Solaris を複写したディレクトリ>

その後、インストールサーバ上で shareall コマンドを実行し、再度ネットワークインストールを実行(PRIMECLUSTERのインストールガイドを参照)してください。

Share error : *入力値*

内容

指定されたディレクトリは既に share されています。

対処

share コマンドで現在の share 状況を確認し、指定したディレクトリまたは親階層のディレクトリが既に share されている場合、share されていないディレクトリを再度指定してください。

The directory can not be registered again: *入力値*

内容

入力された複写先は既に登録済みです。

対処

メニューから登録されたディレクトリを選択するか、または、登録されていないディレクトリ名を入力してください。

The selected product can not be installed with this installer program.

内容

サポート対象外の製品です。

対処

挿入された CD-ROM はサポート対象外の製品です。ファイルシステムから製品を複写する場合、指定したパスが正しいか確認してください。

This installer program is running by other process.

内容

cluster_setup は他で実行中です。または、前回正常に終了されませんでした。

対処

実行中の cluster_setup を終了し、再度 cluster_setup を実行してください。または、次のファイルが存在している場合は削除してください。

/tmp/FJSVclis_mainlock_file

2.3 インストールスクリプトのエラーメッセージ(Linux)

CLI インストーラのメッセージを、アルファベット順に説明します。

ERROR: /tmp needs <TMP_LEAST> KB at least

内容

/tmp ファイルシステムの空き容量が小さすぎます。

対処

/tmp ファイルシステムに少なくとも <TMP_LEAST>KB の空き容量を確保した後、再度コマンドを実行してください。

ERROR: </usr/sbin/dmidecode> command not found

内容

対象のシステムにコマンド</usr/sbin/dmidecode>がインストールされていません。

対処

正しい手順でOSがインストールされているか確認してください。

ERROR: /var needs <VAR_LEAST> KB at least

内容

/var ファイルシステムの空き容量が小さすぎます。

対処

/var ファイルシステムに少なくとも <VAR_LEAST>KB の空き容量を確保した後、再度コマンドを実行してください。

ERROR: CF driver is loaded

内容

CF ドライバがロードされています。

対処

CF ドライバをアンロードした後、再度コマンドを実行してください。詳細は "PRIMECLUSTER Cluster Foundation 導入運用手引書" を参照してください。

ERROR: failed: rpm *

内容

rpm コマンドの実行に失敗しました。

対処

ログファイルを参照し、エラーの原因となった問題を解決した後、再度コマンドを実行してください。

ERROR: Failed to install FJQSS<Information Collection Tool>

内容

FJQSSのインストールに失敗しました。

対処

以下の資料を採取して、当社技術員(SE)に連絡してください。

- /tmp/fjqssinstaller.log

ERROR: internal error: *

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、当社技術員(SE)に連絡してください。

ERROR: no package of product <PROD> on CDx

内容

CDx にはプロダクト <PROD> のパッケージは含まれません。

対処

正しい CD を CD-ROM 装置にセットし、再度コマンドを実行してください。

ERROR: no package of product set <PSET> on CDx

内容

CDx にはプロダクトセット <PSET> のパッケージは含まれません。

対処

正しい CD を CD-ROM 装置にセットし、再度コマンドを実行してください。

ERROR: platform <PLAT> not supported

内容

この基本ソフトウェアは PRIMECLUSTER によりサポートされていません。

対処

実行環境がPRIMECLUSTERのインストールガイドの "動作環境" を満たしているかどうかご確認ください。満たしている場合には、このメッセージを記録して、当社技術員(SE)に連絡してください。

ERROR: please install the first CD-ROM at first

内容

CD1 からインストールしてください。

対処

CD-ROM 装置に CD1 を入れ、再度コマンドを実行してください。

ERROR: product <PROD> on platform <PLAT> not supported

内容

この基本ソフトウェアではプロダクト <PROD> のインストールはサポートされていません。

対処

コマンドオプションの指定が正しいことをご確認ください。正しい場合、実行環境がPRIMECLUSTERのインストールガイドの "動作環境" を満たしているかどうかご確認ください。満たしている場合には、このメッセージを記録して、当社技術員(SE)に連絡してください。

ERROR: product <PROD1> and <PROD2> contains the same package <PKG>

内容

プロダクト <PROD1> とプロダクト <PROD2> は共通のパッケージ <PKG> を含むため、同時にインストールすることができません。

対処

プロダクト <PROD1> とプロダクト <PROD2> を同時にオプション指定することはできません。

ERROR: product set <PSET> on platform <PLAT> not supported

内容

この基本ソフトウェアではプロダクトセット <PSET> のインストールはサポートされていません。

対処

コマンドオプションの指定が正しいことをご確認ください。正しい場合、実行環境がPRIMECLUSTERのインストールガイドの "動作環境" を満たしているかどうかご確認ください。満たしている場合には、このメッセージを記録して、当社技術員(SE)に連絡してください。

ERROR: syntax error

内容

不適切なオプションが指定されました。

対処

オプションを正しく指定し、再度コマンドを実行してください。

ERROR: syntax error (<PSET> <PLAT>)

内容

不適切なオプションが指定されました。

この基本ソフトウェアではプロダクトセット <PSET> のインストールはサポートされていません。

対処

コマンドオプションの指定が正しいことをご確認ください。正しい場合、実行環境がPRIMECLUSTERのインストールガイドの "動作環境" を満たしているかどうかご確認ください。

ERROR: the installation process is running now

内容

他のインストールプロセスが実行中です。

対処

他のインストールプロセスが終了してからコマンドを再度実行してください。

他のインストールプロセスが実行中でないにもかかわらずこのメッセージが表示される場合は、フラグファイル /tmp/cluster_install および /tmp/cluster_uninstall を削除後、コマンドを再度実行してください。

ERROR: to use this installer you will need to be the root user

内容

システム管理者権限以外でコマンドが実行されました。

対処

システム管理者権限でコマンドを実行してください。

INFO: no package to update

内容

CD に収録のものと同等、もしくは CD に収録のものよりも新しいパッケージがすでにシステムにインストール済みであるため、CD に収録のパッケージのインストールを実行しません。

対処

CD に収録のパッケージをインストールしたい場合は、PRIMECLUSTERのインストールガイド の "アンインストール" に従って対象システムから PRIMECLUSTER を削除後、再度コマンドを実行してください。

INFO: The installation process stopped by user request

内容

ユーザーからの要求によりインストールプロセスを停止しました。

対処

インストールを実行したい場合、再度コマンドを実行してください。

Installation failed

内容

インストールに失敗しました。

対処

エラーメッセージおよびログファイルを参照し、エラーの原因となった問題を解決した後、再度コマンドを実行してください。

Please see the following log file.
/var/log/install/cluster_install

内容

ログファイル /var/log/install/cluster_install を参照してください。

対処

ログファイルを参照し、エラーの原因となった問題を解決した後、再度コマンドを実行してください。

Please see the following log file.
/var/log/install/cluster_install.x

内容

ログファイル /var/log/install/cluster_install.x を参照してください。

対処

ログファイルを参照し、エラーの原因となった問題を解決した後、再度コマンドを実行してください。

2.4 アンインストールスクリプトのエラーメッセージ（Linux）

CLI アンインストーラのメッセージを、アルファベット順に説明します。

ERROR: /tmp needs <TMP_LEAST> KB at least

内容

/tmp ファイルシステムの空き容量が小さすぎます。

対処

/tmp ファイルシステムに少なくとも <TMP_LEAST>KB の空き容量を確保した後、再度コマンドを実行してください。

ERROR: /var needs <VAR_LEAST> KB at least

内容

/var ファイルシステムの空き容量が小さすぎます。

対処

/var ファイルシステムに少なくとも <VAR_LEAST>KB の空き容量を確保した後、再度コマンドを実行してください。

ERROR: CF driver is loaded

内容

CF ドライバがロードされています。

対処

CF ドライバをアンロードした後、再度コマンドを実行してください。詳細は "PRIMECLUSTER Cluster Foundation 導入運用手引書" を参照してください。

ERROR: failed: rpm *

内容

rpm コマンドの実行に失敗しました。

対処

ログファイルを参照し、エラーの原因となった問題を解決した後、再度コマンドを実行してください。

ERROR: internal error: *

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、当社技術員(SE)に連絡してください。

ERROR: product <PROD> on platform <PLAT> not supported

内容

プロダクト <PROD> が不正です。

対処

正しいコマンドオプションを指定して再度コマンドを実行してください。

ERROR: product set <PSET> on platform <PLAT> not supported

内容

プロダクトセット <PSET> が不正です。

対処

正しいコマンドオプションを指定して再度コマンドを実行してください。

ERROR: syntax error

内容

不適切なオプションが指定されました。

対処

オプションを正しく指定し、再度コマンドを実行してください。

ERROR: syntax error (<PSET> <PLAT>)

内容

不適切なオプションが指定されました。

プロダクトセット <PSET> が不正です。

対処

正しいコマンドオプションを指定して再度コマンドを実行してください。

ERROR: the installation process is running now

内容

他のインストールプロセスが実行中です。

他のインストールプロセスが終了してからコマンドを再度実行してください。

対処

他のインストールプロセスが実行中でないにもかかわらずこのメッセージが表示される場合は、フラグファイル /tmp/cluster_install および /tmp/cluster_uninstall を削除後、コマンドを再度実行してください。

ERROR: There exists GDS object(s)

内容

GDS のオブジェクトが存在します。

対処

GDS のすべてのオブジェクトを削除後、再度コマンドを実行してください。

ERROR: to use this uninstaller you will need to be the root user

内容

システム管理者権限以外でコマンドが実行されました。

対処

システム管理者権限でコマンドを実行してください。

INFO: no package to uninstall

内容

すべてのアンインストール対象パッケージがシステムにインストールされていません。

対処

ありません。

INFO: The uninstallation process stopped by user request

内容

ユーザーからの要求によりアンインストールプロセスを停止しました。

対処

アンインストールを実行したい場合、再度コマンドを実行してください。

Please see the following log file.
/var/log/install/cluster_uninstall

内容

ログファイル /var/log/install/cluster_uninstall を参照してください。

対処

ログファイルを参照し、エラーの原因となった問題を解決した後、再度コマンドを実行してください。

Please see the following log file.
/var/log/install/cluster_uninstall.x

内容

ログファイル /var/log/install/cluster_uninstall.x を参照してください。

対処

ログファイルを参照し、エラーの原因となった問題を解決した後、再度コマンドを実行してください。

Uninstallation failed.

内容

アンインストールに失敗しました。

対処

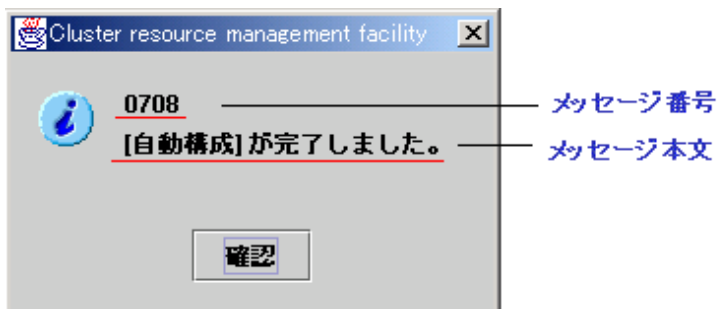
エラーメッセージおよびログファイルを参照し、エラーの原因となった問題を解決した後、再度コマンドを実行してください。

第3章 GUI のメッセージ

本章では、Cluster Admin GUI で作業中に、メッセージダイアログボックスに表示されるメッセージについて説明します。

GUI メッセージは、メッセージ番号とメッセージ本文から構成されており、メッセージ番号によって以下の 4種類に分かれます。

メッセージ番号	メッセージ種別
0000～00xx	Web-Based Admin View のメッセージ
0700～07xx 2000～31xx	Cluster Admin のメッセージ
0701～07xx	CRMビューのメッセージ
0800～08xx	userApplication Configuration Wizard のメッセージ

図3.1 GUI メッセージ例

各メッセージの参照先は以下のとおりです。

- Web-Based Admin View のメッセージ

  "PRIMECLUSTER Web-Based Admin View 操作手引書" の "付録 A メッセージ一覧" を参照してください。

- Cluster Admin のメッセージ

  "3.1 Cluster Admin のメッセージ" を参照してください。

- CRMビューのメッセージ

  "3.2 CRMビューのメッセージ"を参照してください。

- userApplication Configuration Wizard のメッセージ

  "3.3 userApplication Configuration Wizard GUI のメッセージ(Solaris)" を参照してください。

3.1 Cluster Admin のメッセージ

Cluster Admin が表示するメッセージについて説明します。

3.1.1 対処不要な情報メッセージ

Cluster Admin が表示する対処不要な情報メッセージを、メッセージ番号順に説明します。

0708 :*proc1* finished.

proc1 が完了しました。

内容

proc1 に表示される処理を完了しました。
proc1 に表示される処理名によって、行われる処理が以下のように異なります。

- 初期構成設定

  リソースデータベースの設定

- 自動構成

  装置をリソースデータベースに登録

対処

＜確認＞ボタンをクリックしてメッセージダイアログを終了してください。

2022 : The *language* Language is not available. Defaulting to English.

*language*は使用できません。デフォルト言語は英語です。

内容

指定された言語のメッセージカタログは存在しません。

対処

対処する必要はありません。

2023 : The file *file* has been replaced on node *node*.
View has been restarted with the current file.

ノード*node*のファイル*file*が置き換えられています。
表示は現在のファイルで再開します。

内容

ログファイルが置き換えられました。表示はファイルの最初から再開します。

対処

対処する必要はありません。

2593 :The unload operation was not successful:

アンロードに失敗しました:

内容

アンロード操作に失敗しました。

対処

次に表示されるメッセージを確認してください。

2752 :The following services are running on *node*:

CFMnager.java: CFの停止ダイアログ

内容

表示されたサービスが、ノード上で動作しています。

対処

対処する必要はありません。

2757 :The following services are installed on *node*:

CFManager.java: Services Dialogを起動します

内容

表示されたサービスが、*node*にインストールされています。

対処

対処する必要はありません。

2924 :Information:SF Wizard:Reconfig started on *node*.

SF:*node*の再設定が開始しました。

内容

*node*で、シャットダウン構成ウィザードの再構成を開始しました。

対処

対処する必要はありません。

3009 : Information: Reconnect to node *node* succeeded.

ノード*node*への再接続に成功しました。

内容

ノードへの再接続に成功しました。

対処

対処する必要はありません。

3022 : Information: RMS not installed on host *node*.

ホスト*node*にRMSがインストールされていません。

内容

RMSがノードにインストールされていません。

対処

対処する必要はありません。

3027 : Information: Reinitializing hvdisp connections to all hosts.

全てのホストへのhvdispの接続を再初期化しています。

内容

すべてのホストへのhvdispの接続を再初期化しています。

対処

対処する必要はありません。

3039 :RMS is not running on any of the hosts.

RMSが動作しているホストがありません。

内容

RMSが動作しているホストがありません。

対処

対処する必要はありません。

3071 :removed session *message*.

セッション*message*は削除されました。

内容

GUIをシャットダウンしている間の、内部デバッグメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

3080 :RMS is not installed on *node*.

*node*にRMSがインストールされていません。

内容

RMSがノードにインストールされていません。

対処

対処する必要はありません。

3081 :Connecting to cluster nodes...Please Wait...

クラスタノードに接続しています...お待ちください...

内容

GUIは、クラスタノードに接続しています。

対処

対処する必要はありません。

3100 :Information: Ignoring env node.

envノードを無視します。

内容

RMSツリーを描画する間、envノードを無視します。

対処

対処する必要はありません。

3101 :Information: Ignoring envL node.

envLノードを無視します。

内容

RMSツリーを描画する間、envLノードを無視します。

対処

対処する必要はありません。

3.1.2 対処が必要な情報メッセージ

Cluster Admin が表示する対処が必要な情報メッセージを、メッセージ番号順に説明します。

0700 :The resource database is not configured. Please configure it by using [Tool] - [Initial setup] menu.

リソースデータベースが設定されていません。[ツール] － [初期構成設定] でリソースデータベースの設定を行ってください。

内容

リソースデータベースが設定されていないため、リソースデータベースの情報を表示することができません。

対処

CRM メインメニューの [ツール] - [初期構成設定] メニューを選択して、リソースデータベースの設定を行ってください。

0702 :The screen cannot be displayed from the main CRM window.

CRM メインウィンドウからの表示は行えません。

内容

マシン管理画面を、クラスタリソース管理機構メインウィンドウから表示できません。

対処

＜確認＞ボタンをクリックしてメッセージダイアログを終了した後、Web-Based Admin View のトップメニューの [MISC] カテゴリから [マシン管理] メニューを選択して表示してください

0703 :Do you want to start up *resource_name* (rid=*rid*) ?

resource_name(rid=rid) を起動しますか。

内容

リソースの活性指示を行うかどうかを問い合わせています。
resource_name はリソース表示名を示し、*rid* はリソース ID を示します。

対処

以下のいずれかのボタンをクリックして、選択したリソースの活性指示を行ってください。

- ＜はい＞:リソースの活性指示を行います。
- ＜いいえ＞:リソースの活性指示を行いません。

0704 :Do you want to stop *resource_name* (rid= *rid)*

resource_name(rid=rid) を停止しますか。

内容

リソースの非活性指示を行うかどうかを問い合わせています。
resource_name はリソース表示名を示し、*rid* はリソース ID を示します。

対処

以下のいずれかのボタンをクリックして、選択したリソースの非活性指示を行ってください。

- ＜はい＞:リソースの非活性指示を行います。
- ＜いいえ＞:リソースの非活性指示を行いません。

0705 :Do you want to diagnose *resource_name* (rid=*rid*) ?

resource_name(rid=*rid*) の診断を行いますか。

内容

リソースのパトロール診断を行うかどうかを問い合わせてます。
resource_name はリソース表示名を示し、*rid* はリソース ID を示します。

対処

以下のいずれかのボタンをクリックして、選択したリソースのパトロール診断を行ってください。

- ＜はい＞:リソースのパトロール診断を行います。
- ＜いいえ＞:リソースのパトロール診断を行いません。

0707 :Do you want to begin the *proc* processing?

proc を開始しますか。

内容

proc に表示される処理を開始するかどうかを問い合わせています。
proc に表示される処理名によって、行われる処理が以下のように異なります。

- 初期構成設定

  リソースデータベースの設定

- 自動構成

  装置をリソースデータベースに登録

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- ＜はい＞: *proc* に表示される処理を実行します。
- ＜いいえ＞:処理を終了します。

0709 :The configuration change function cannot be used because it is being used by another task.

構成を変更する機能が、他で操作中のため使用できません。

内容

同様の操作を実行する機能が起動中のため、この処理は実行できません。

対処

＜確認＞ボタンをクリックしてメッセージダイアログを終了後、同一クライアントまたは、他のクライアント(Web ブラウザ)の処理実行画面を終了してから、再度操作を実行してください。

0710 :Processing cannot be ended because the following operation instruction is not completed.

以下の操作指示が未完了のため、終了できません。

内容

クラスタリソース管理機構に対して操作依頼中(コマンド送信中)であるため、終了できません。

対処

1、2 分待って再度 [ファイル] - [終了] メニューを選択してください。それでも発生する場合は、ブラウザを閉じ、再度表示してください。

0711 :Can't get information from the resource database.

構成情報を獲得できていません。

内容

リソースデータベースの獲得ができていません。

対処

画面を表示したまましばらくお待ちください。リソースデータベースが獲得できれば、リソースデータベースの情報が表示されます。

0712 :The resource database has already been configured.

すでにリソースデータベースの設定が行われています。

内容

リソースデータベースの設定に失敗している可能性があります。

対処

＜確認＞ボタンをクリックしてメッセージダイアログを終了後、全クラスタノードで clinitreset(1M) コマンドを実行しリソースデータベースを初期化し、全クラスタノードを再起動してください。
全クラスタノードが起動したら 再度 CRM メインウィンドウを起動し、[ツール] - [初期構成設定] でリソースデータベースの初期構成設定を行ってください。

0713 :The node which completed the settings of resource database exists.

リソースデータベースが設定済みのノードが存在します。

内容

リソースデータベースの設定に失敗している可能性があります。

対処

＜確認＞ボタンをクリックしてメッセージダイアログを終了後、全クラスタノードで clinitreset(1M) コマンドを実行しリソースデータベースを初期化し、全クラスタノードを再起動してください。
全クラスタノードが起動したら 再度 CRM メインウィンドウを起動し、[ツール] - [初期構成設定] でリソースデータベースの初期構成設定を行ってください。

2012 : No matching entries found.

該当するエントリがありません。

内容

ログメッセージに、指定されたエントリが見つかりませんでした。

対処

エントリを変更してください。

2019 : Exit Cluster Admin?

Cluster Adminを終了しますか？

内容

Cluster Admin GUIを終了しますか？

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:Cluster Admin GUIを終了します。
- <いいえ>:Cluster Admin GUIを終了しません。

2584 :*node* failed to stop. Do you wish to retry?

*node*の停止に失敗しました。再試行しますか？

内容

ノードの停止に失敗しました。再試行しますか？

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:ノードの停止を再試行します。
- <いいえ>:ノードを停止しません。

2589 :*node* failed to start. Do you wish to retry?

*node*の起動に失敗しました。再試行しますか？

内容

ノードの起動に失敗しました。再試行しますか？

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:ノードの起動を再試行します。
- <いいえ>:ノードを起動しません。

2597 :Do you wish to invoke the Shutdown Facility Wizard to configure this cluster?

SFウィザードを起動してクラスタ設定を続けますか？

内容

シャットダウン構成ウィザードを起動してクラスタ設定を続けますか？

対処

クラスタ設定を続ける場合にはシャットダウン構成ウィザードを起動してください。

2751 :This configuration uses unconnected interfaces. It is not possible to verify the integrity of the configuration. Do you wish to continue?

Findall.java: 未接続のインタフェースの設定を確認してください

内容

この構成は、未接続のインターフェースを使用しています。構成の整合性を確認することができません。継続しますか？

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:処理を継続します。
- <いいえ>:処理を停止します。

2753 :Are you sure you want to mark *node0* as down on *node1*?

CFManager.java: ノードにDOWNマークを付ける確認

内容

本当に*node1*上の*node0*にDOWNマークを付けますか？

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:DOWNマークを付けます。
- <いいえ>:DOWNマークをつけません。

2754 :Are you sure you wish to remove *node* from CIM?

CFManager.java: CIMの確認から削除します

内容

CIMから*node*を削除しますか？

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:ノードを削除します。
- <いいえ>:ノードを削除しません。

2755 : Are you sure you wish to stop CF and all services on all nodes?

全てのノードでCFと全てのサービスを停止します。よろしいですか？

内容

CFを停止し、すべてのノードを停止しますか？シャットダウンされるノードの1つが管理サーバである場合は、ブラウザがCluster Admin GUIにアクセスできなくなるので注意してください。

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:すべてのノードを停止します。
- <いいえ>:ノードを停止しません。

2756 :Are you sure you wish to override CIM on *node*?

CFManager.java: CIMオーバーライドの確認

内容

*node*上のCIMを上書きしますか？

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:CIMを上書きします。
- <いいえ>:CIMを上書きしません。

2904 : Exit Shutdown Facility configuration wizard?

SFウィザードを終了しますか？

内容

シャットダウン構成ウィザードを終了しますか?

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:シャットダウン構成ウィザードを終了します。
- <いいえ>:シャットダウン構成ウィザードを終了しません。

3011 : Information: RMS is not running on any of the hosts. It must be started.

RMSが動作しているホストがありません。起動してください。

内容

RMSが動作しているホストがありません。

対処

RMSが稼動しているかどうかを確認してください。稼動していない場合は、RMSを起動してください。そうでない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3035 :Shutdown failed.
Click "msg" tab for details of the error returned from hvshut.
Do you want to force a shutdown ?

停止に失敗しました。
hvshutから返されるエラーの詳細については [msg] タブをクリックしてください。
強制的に停止しますか？

内容

停止に失敗しました。強制的に停止しますか?

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:強制的に停止します。
- <いいえ>:強制的に停止しません。

3045 :Are you sure you want to activate application *application* across the entire cluster ?
Note that a separate Online request will be needed to actually start the application.

クラスタ全体のアプリケーション*application*を活性化します。よろしいですか？
このアプリケーションを起動するには別途Online要求が必要になります。

内容

クラスタアプリケーション*userApplication*を活性化しますか？

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:クラスタアプリケーションを活性化します。
- <いいえ>:クラスタアプリケーションを活性化しません。

3046 :Are you sure you want to deactivate application *application* across the entire cluster ?
Node that an Activation request will be needed to bring the application out of its deactivated state.

クラスタ全体のアプリケーション*application*を非稼動にします。よろしいですか？
非稼動状態のアプリケーションを稼動するには稼動要求が必要になります。

内容

クラスタアプリケーション*userApplication*を無効にしますか？

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:クラスタアプリケーションを無効にします。

- <いいえ>:クラスタアプリケーションを無効にしません。

3047 :Are you sure you wish to attempt to clear all faults for application *application* on <*node type*> <*node name*>?

<*node type*> <*node name*>上のアプリケーション*application*の全てのFaultをクリアします。よろしいですか？

内容

ノード<*node name*>上のクラスタアプリケーション*userAppliction*のFaultをクリアしますか？

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:Faultをクリアします。
- <いいえ>:Faultをクリアしません。

3049 :Are you sure you want to attempt to clear wait state for <*node name*> <*node type*> on all cluster hosts ?
Note that this command assumes the cluster host has been manually "Killed",
i.e, it has been shut down such that no cluster resources are online.
If this command is executed without first having manually "killed" the luster host,
data corruption may occur!

全てのクラスタホスト上の<*node name*> <*node type*>のWait状態をクリアします。よろしいですか？
このコマンドはクラスタホストが手動で停止していることを前提にしています。
これは全てのクラスタリソースがOfflineの状態で停止されていることを意味します。
クラスタホストを手動で停止せずにこのコマンドを実行すると、
データが破壊される可能性があります。

内容

全てのホストで<*node name*>のWait状態をクリアしますか？

※データ破壊の可能性があるため、いいえを推奨します。

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:Wait状態をクリアします。
- <いいえ>:Wait状態をクリアしません。

3050 :Are you sure you want to attempt to clear wait state for <*node name*> <*node type*> on all cluster hosts ?
Note that it would be done by returning the specified <*node type*> to online state.

全てのクラスタホスト上の<*node name*> <*node type*>のWait状態をクリアします。よろしいですか？
この場合、指定された<*node type*>はOnline状態に戻ります。

内容

全てのホストで<*node name*>のWait状態をクリアしますか？

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:Wait状態をクリアします。
- <いいえ>:Wait状態をクリアしません。

3051 :Are you sure you wish to force application *application* online on <*node type*> <*node name*> ?
Warning: The forced switch option ignores potential error conditions. Used improperly, it can result in data corruption.

***<node type> <node name>*上のアプリケーション*application*を強制的にOnlineにします。よろしいですか？**
警告: 切替えオプションの強制実行により潜在的なエラー状態は無視されます。使い
方を間違えるとデータが破損する可能性があります。

内容

クラスタアプリケーション*userApplication*をノード*<node name>*で強制的にOnlineにしますか？

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:クラスタアプリケーションを強制的にOnlineにします。
- <いいえ>:クラスタアプリケーションを強制的にOnlineにしません。

3052 :Are you sure you wish to take application *application* offline on host *node* and bring it online on <*node type*> <*node name*> ?

ホスト*node*上のアプリケーション*application*をOfflineにし、*<node type> <node name>*上で
Onlineにします。よろしいですか？

内容

クラスタアプリケーション*userApplication*をノード*node*から*<node name>*に切替えますか？

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:クラスタアプリケーションを切替えます。
- <いいえ>:クラスタアプリケーションを切替えません。

3053 :Are you sure you wish to bring application *application* online on <*node type*> <*node name*> ?

***<node type> <node name>*上のアプリケーション*application*をOnlineにします。よろしいですか？**

内容

クラスタアプリケーション*userApplication*を*<node name>*でOnlineにしますか？

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:クラスタアプリケーションをOnlineにします。
- <いいえ>:クラスタアプリケーションをOnlineにしません。

3054 :Are you sure you wish to bring application *application* online on the highest priority host?
Note: If the application is already online on the highest priority host,
this operation will not have any effect.

最も優先順位の高いホスト上のアプリケーション*application*をOnlineにします。よろしいですか？
注意: アプリケーションがすでに最も優先順位の高いホスト上でOnlineの場合、
この操作は無効です。

内容

最も優先度の高いホストでクラスタアプリケーション*userApplication*をOnlineにしますか？

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:クラスタアプリケーションをOnlineにします。
- <いいえ>:クラスタアプリケーションをOnlineにしません。

3055 :Are you sure you wish to start the RMS Configuration Monitor on <*node type*> <*node name*> ?

<*node type*> <*node name*>上のRMS構成モニタを起動します。よろしいですか？

内容

ホスト<*node name*>でRMSを起動しますか？

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:RMSを起動します。
- <いいえ>:RMSを起動しません。

3056 :Are you sure you wish to bring application *application* to a standby state ?

アプリケーション*application*をStandby状態にします。よろしいですか？

内容

クラスタアプリケーション*userApplication*をStandby状態にしますか？

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:クラスタアプリケーションをStandbyにします。
- <いいえ>:クラスタアプリケーションをStandbyにしません。

3060 :Fatal Error internal: RMS.clone called with null pointer.

RMS.cloneがnullポインタで呼び出されました。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3061 :Error: Remote connection failed, Exception: *message*.

リモート接続に失敗しました。例外: *message*

内容

リモートホストへの接続に失敗しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3062 :Error: Unable to connect to *host domain port*.
message

Verify node name, port number and if web server is running.

***host domain port*に接続できません。**
message
ノード名とポート番号を確認し、Webサーバが稼動していることを確かめてください。

内容

リモートホストへの接続に失敗しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3063 :Error: Unable to open reader for file *file* Exception: *exception*.

ファイル*file*のリーダをオープンできません
例外: *exception*

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3064 :No open sessions.

オープンされているセッションがありません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3065 :Error: Session <*rms session*> not found.

セッション<*rms session*>が見つかりません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3066 :Missing rc: internal Error.

rcが見つかりません: 内部エラー

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3067 :rmsCluster.RT is not null.

rmsCluster.RTがnull値ではありません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3068 :Warning: Configuration has no graph, only <*number of nodes*> disjoint nodes.

設定にグラフがありません。接続されていないノードは<*number of nodes*>だけです。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3069 :Warning: Unable to draw graph.

グラフを描けません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3083 :CRM is not installed on *node*.

*node*にFJSVwvfrmパッケージがインストールされていません。

内容

指定されたノードに、CRMソフトウェアがインストールされていません。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3138 : All SysNodes are online or coming up.

アクションが不正です: 全てのSysNodeがOnlineまたは起動処理中になっています。

内容

すべてのsysnodesがUP、またはUPになるところです。

対処

ノードがOnlineになるまで待ってください。

3141 : Unable to get valid RMS or CF Node list.

RMSまたはCFノードリストを取得することができません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3146 :Are you sure you want to activate scalable application *application* across the entire cluster ? Note that a separate Online request will be needed to actually start the application.

クラスタ全体のスケーラブルアプリケーション*application*を起動します。よろしいですか？
このアプリケーションを起動するには他のOnline要求が必要になります。

内容

hvutil -aの起動を要求するGUIメッセージです。

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:スケーラブルアプリケーションを起動します。
- <いいえ>:スケーラブルアプリケーションを起動しません。

3147 :Are you sure you want to deactivate scalable application *application* across the entire cluster ? Note that an Activation request will be needed to bring the application out of its deactivated state.

クラスタ全体のスケーラブルアプリケーション*application*を非稼動にします。よろしいですか？
非稼動状態のスケーラブルアプリケーションを起動するには稼動要求が必要になります。

内容

hvutil -dの起動を要求するGUIメッセージです。

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:スケーラブルアプリケーションを停止します。
- <いいえ>:スケーラブルアプリケーションを停止しません。

3148 :Are you sure you wish to attempt to clear all faults for scalable application *application* on *<node type> <node name>* ?

*<node type> <node name>*上のスケーラブルアプリケーション*application*の全てのFaultをクリアします。よろしいですか？

内容

hvutil -cの起動を要求するGUIメッセージです。

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:スケーラブルアプリケーションのすべてのFaultをクリアします。

- <いいえ>:スケーラブルアプリケーションのすべてのFaultをクリアしません。

3151 :Are you sure you wish to take scalable application *application* offline on host *node* and bring it online on <*node type*> <*node name*> ?

ホスト*node*上のスケーラブルアプリケーション*application*をOfflineにし、<*node type*> <*node name*>上でOnlineにします。よろしいですか？

内容

hvswitchの起動を要求するGUIメッセージです。

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:スケーラブルアプリケーション切替えます。
- <いいえ>:スケーラブルアプリケーションを切替えません。

3152 :Are you sure you wish to bring scalable application *application* online on <*node type*> <*node name*> ?

<*node type*> <*node name*>上のスケーラブルアプリケーション*application*をOnlineにします。よろしいですか？

内容

- hvswitchの起動を要求するGUIメッセージです。

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:スケーラブルアプリケーションをOnlineにします。
- <いいえ>:スケーラブルアプリケーションをOnlineにしません。

3153 :Are you sure you wish to bring scalable application *application* online on the highest priority host? Note: If the application is already online on the highest priority host, this operation will not have any effect.

最も優先順位の高いホスト上のスケーラブルアプリケーション*application*をOnlineにします。よろしいですか？ 注意: アプリケーションがすでに最も優先順位の高いホスト上でOnlineの場合、この操作は無効です。

内容

- hvswitchの起動を要求するGUIメッセージです。

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:スケーラブルアプリケーションをOnlineにします。
- <いいえ>:スケーラブルアプリケーションをOnlineにしません。

3154 :Are you sure you wish to bring scalable application *application* to a standby state ?

スケーラブルアプリケーション*application*をStandby状態にします。よろしいですか？

内容

hvutil -sの起動を要求するGUIメッセージです。

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:スケーラブルアプリケーションをStandbyにします。
- <いいえ>:スケーラブルアプリケーションをStandbyにしません。

3161 :Are you sure you wish to take application *application* out of maintenance mode?

アプリケーション*application*の保守モードを終了します。よろしいですか?

内容

hvutil -mの起動を要求するGUIメッセージです。

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:クラスタアプリケーションの保守モードを終了します。
- <いいえ>:クラスタアプリケーションの保守モードを終了しません。

3163 :Are you sure you wish to take scalable application *application* out of maintenance mode?

スケーラブルアプリケーション*application*の保守モードを終了します。よろしいですか?

内容

hvutil -mの起動を要求するGUIメッセージです。

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:スケーラブルアプリケーションの保守モードを終了します。
- <いいえ>:スケーラブルアプリケーションの保守モードを終了しません。

3164 :Are you sure you wish to take ALL the applications on the cluster out of maintenance mode?

クラスタ内の全アプリケーションの保守モードを終了します。よろしいですか?

内容

hvutil -Mの起動を要求するGUIメッセージです。

対処

以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

- <はい>:すべてのクラスタアプリケーションの保守モードを終了します。
- <いいえ>:すべてのクラスタアプリケーションの保守モードを終了しません。

3.1.3 警告メッセージ

Cluster Admin が表示する警告メッセージを、メッセージ番号順に説明します。

2905 :Please select at least one CF node to continue.

1つ以上のCFノードを選択し、処理を続行してください。

内容

継続するには、少なくとも1つのノードを選択してください。

対処

継続するには、少なくとも1つのノードを選択してください。

2909 :Empty SF configuration found. Click "ok" to create a new configuration.

SF設定がありません。新規設定を作成するには[確認]ボタンをクリックします。

内容

SF設定が見つかりました。新しい構成を作成するには、[確認]ボタンをクリックしてください。

対処

SF設定が見つかりました。新しい構成を作成するには、[確認]ボタンをクリックしてください。

2945 :*Interface* is being used by CF on *node*. Using the same interface for the Shutdown Facility may cause problems in split brain situations. Do you wish to continue using the same interface ?

Interface は*node* のCFに使用されています。シャットダウン機構と同じインタフェースを使用することにより、クラスタパーティション発生時に問題が起こる可能性があります。同じインタフェースを使用して続行しますか？

内容

インタフェースは、CFによって使用されています。シャットダウン機構に対して同じインタフェースを使用すると、クラスタパーティション発生時に問題が起こる可能性があります。

対処

シャットダウン機構で使用するインタフェースを見直してください。

2949 :Following nodes are unreachable:*node.* Running the SF Wizard when some nodes are unreachable can result in incorrect node elimination later on. We strongly recommend you to exit the SF Wizard and do the configuration at a later time when all the nodes are up and reachable. Do you want to exit the SF Wizard?

以下のノードと通信できません:*node* 通信できないノードがある時にSFウィザードを実行すると、不適切なノード強制停止設定が行なわれる可能性があります。一旦SFウィザードを終了して、全てのノードが稼働中で通信可能になるのを待ってから設定を行なってください。SFウィザードを終了して良いですか？

内容

アクセスできないノードがあります。アクセスできないノードがあるときにシャットダウン構成ウィザードを実行すると、後で不適切なノード削除が起こる可能性があります。シャットダウン構成ウィザードを終了し、すべてのノードがUP状態でアクセス可能であること確認した後、設定することを強く推奨します。

対処

シャットダウン構成ウィザードを終了し、すべてのノードがUP状態でアクセス可能であること確認した後、設定してください。

2953 : Timeout for the *agent* Shutdown Agent is *timeout* which is different from the default timeout :*timeout* for this Shutdown Agent.The timeout value should be 20 if number of hosts is less than or equal to 4.If number of hosts are more than 4 the timeout value should be (6 x no. of nodes) + 2.Do you want to set the default timeout value ?

agent シャットダウンエージェントのタイムアウト値は *timeout* 秒ですが、このシャットダウンエージェントのデフォルトのタイムアウト値は*timeout* 秒です。タイムアウト値は、ホスト数が4以下のとき20秒、4より多いとき(6×ホスト数)+2秒であるべきです。タイムアウト値をデフォルトのタイムアウト値にしますか？

内容

RCCU シャットダウンエージェントに対して指定されたタイムアウトが、デフォルトのタイムアウトと異なります。

対処

タイムアウト値をデフォルトのタイムアウト値にしてください。

2954 :Unable to get status of shutdown agent on the following nodes:*node* Check the hardware/software configuration for the shutdown agent. Running the SF Wizard now can result in incorrect configuration. We strongly recommend you to exit the SF Wizard and do the configuration after correcting the shutdown agent setup. Do you want to exit the SF Wizard?

次のノードのシャットダウンエージェントの状態情報が取得できません:*node* シャットダウンエージェントのハードウェアおよびソフトウェアの構成を確認してください。
この状態でSFウィザードを実行すると、構成設定が正しく行われない可能性があります。いったんSFウィザードを終了し、シャットダウンエージェントの設定を修正してから構成を実行することをお奨めします。SFウィザードを終了しますか？

内容

シャットダウンエージェントの状態を取得できません。シャットダウンエージェントのハードウェアおよびソフトウェア構成を確認してください。今すぐにシャットダウン構成ウィザードを実行すると、間違った構成になる可能性があります。シャットダウン構成ウィザードを終了し、シャットダウンエージェントの設定を修正してから設定することを強く推奨します。

対処

シャットダウン構成ウィザードを終了し、シャットダウンエージェントの設定を修正してから設定してください。

2958 :By choosing "Use Defaults", you will reset the previously configured username and passwords. Are you sure you want to use the default settings?

[デフォルトを使用]チェックボックスをオンにすると、ユーザ名とパスワードがデフォルト値に設定されます。よろしいですか？

内容

[デフォルトを使用]チェックボックスを選択すると、前回設定したユーザー名とパスワードをリセットします。本当にデフォルトの設定を使用しますか？

対処

前回設定したユーザー名とパスワードをリセットしても問題ない場合には [デフォルトを使用]チェックボックスを選択してください。

3007 : Warning: Reconnect to *node* failed, trying again after *time* sec...

警告: *node*への再接続に失敗しました。*time* 秒後に再試行します...

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3008 : Warning: Lost data connection for node *node*. Attempting to reconnect...

警告: ノード*node*のデータ接続が解除されました。再接続しています...

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

3014 : Warning: Ignoring remote data:

警告: リモートデータを無視します:

内容

内部情報です。

対処

対処は不要です。

3015 : Warning: Interrupt while reading data, line :

警告: データの読込み中に割り込みが発生しました。行 :

内容

内部情報です。

対処

対処は不要です。

3017 : Warning: RMS node *node* already marked as localhost.

警告: RMSノード*node*にはローカルホストのマークが付いています。

内容

内部情報です。

対処

対処は不要です。

3019 : Warning: node *node* not found.

警告: ノード*node*が見つかりません。

内容

内部情報です。

対処

対処は不要です。

3036:Shut down RMS on the local node without shutting down running applications. All RMS nodes are notified that a controlled shutdown is under way on the local node. This may break the consistency of the cluster. No further action may be executed by RMS until the cluster consistency is re-established. This re-establishment includes restart of RMS on the shutdown host.Do you want to continue ?

実行中のアプリケーションを停止せずにローカルノードのRMSを停止します。全てのRMSノードにローカルノードで停止の制御を実行中であることが通知されます。これによりクラスタの整合性が失われる可能性があります。クラスタの整合性が回復するまでRMSの処理は続行されません。整合性の回復には停止されたホスト上のRMSの再起動も含まれます。続行しますか？

内容

このメッセージは、アプリケーションを停止しない強制終了をユーザが許可するか、または許可しないかを尋ねています。

対処

アプリケーションを停止しない強制終了をユーザが許可する場合は＜はい＞を選択してください。許可しない場合は＜いいえ＞を選択してください。

3037:This option forces the configuration monitor to clean up and shut down RMS on the local system without performing offline processing. This may break the consistency of the cluster. No further action may be executed by RMS until the cluster consistency is re-established. This re-establishment includes restart of RMS on the shutdown host. Do you want to continue ?

このオプションにより構成モニタはOffline処理をせずにローカルシステムのRMSを強制的にクリーンアップおよび停止します。これによりクラスタの整合性が失われる可能性があります。
クラスタの整合性が回復するまでRMSの処理は続行されません。整合性の回復には停止されたホスト上のRMSの再起動も含まれます。続行しますか？

内容

このメッセージは、アプリケーションを停止しない強制終了をユーザが許可するか、または許可しないかを尋ねています。

対処

アプリケーションを停止しない強制終了をユーザが許可する場合は＜はい＞を選択してください。許可しない場合は＜いいえ＞を選択してください。

3038:This option shuts down RMS on all nodes along with the user applications.An attempt will be made to bring all online user applications offline.Do you want to continue ?

このオプションを選択すると、全てのノードのRMSおよびユーザアプリケーションが停止されます。
稼動中の全てのユーザアプリケーションがOfflineになります。続行しますか？

内容

このメッセージは、すべてのノードで、RMSの停止をユーザが許可するか、または許可しないかを尋ねています。

対処

すべてのノードの上でのRMSの停止をユーザが許可する場合は<はい>を選択してください。許可しない場合は<いいえ>を選択してください。

3085:RMS cannot be started. Please start CF first.

RMSを起動できません。まずCFを起動してください。

内容

RMSを起動できません。まずCFを起動してください。

対処

CFを起動してください。

3094:Maximum number of post cards open should not be more than five. Please close some of the post cards.

同時に開くことができるポップアップウィンドウは5枚です。ポップアップウィンドウを閉じてください。

内容

同時に開くことができるポップアップウィンドウは5枚です。ポップアップウィンドウを閉じてください。

対処

ポップアップウィンドウを閉じてください。

3120:Lost connection to gateway host. Status of RMS is unknown. Press the Retry button to try and reconnect to the host.

ゲートウェイホストへの接続が解除されました。RMSの状態が不明です。ホストに再接続するには再試行ボタンを押してください。

内容

Cluster Admin から RMS の状態を確認する処理は各ノードで管理されています。

この処理は、Web-Based Admin View や Cluster Admin 起動時に接続/選択しているノードとは別に管理されています。どちらで管理されているか確認する方法はありません。

本メッセージは、システムシャットダウンなどが原因で、該当しているノードとWeb-Based Admin View の接続が切れた場合に出力されます。

そのため、Cluster Admin での管理状況によって、システムを停止してもメッセージが出力される場合とされない場合がありますが、正常動作ですので問題はありません。

対処

再試行ボタンを押してください。

Web-Based Admin View がホストに再接続することにより、Cluster Admin が、RMS の状態を取得します。

3149:Are you sure you wish to bring scalable application *userapplication* offline ? Note that it would be brought offline without initiating a switchover or shutting down RMS.

スケーラブルアプリケーション*userapplication*をOfflineにします。よろしいですか？OfflineにしてもRMSの切替えまたは停止は開始されません。

内容

スケーラブルアプリケーションをOfflineにすることを確認するメッセージです。

対処

スケーラブルアプリケーションをOfflineにする場合は＜はい＞を選択してください。Offlineにしない場合は＜いいえ＞を選択してください。

3150:Are you sure you wish to force scalable application *userapplication* online on *node type node name*? Warning: The forced switch option ignores potential error conditions. Used improperly, it can result in data corruption.

node type node name 上のスケーラブルアプリケーション*userapplication*を強制的にOnlineにします。よろしいですか？
警告: 切替えオプションの強制実行により潜在的なエラー状態は無視されます。使い方を間違えるとデータが破損する可能性があります。

内容

スケーラブルアプリケーションを強制的にOnlineにすることを確認するメッセージです。

対処

スケーラブルアプリケーションを強制的にOnlineにする場合は＜はい＞を選択してください。強制的にOnlineにしない場合は＜いいえ＞を選択してください。

3155:This option forces the configuration monitor to clean up and shut down RMS on all systems without performing offline processing. This may break the consistency of the cluster. No further action may be executed by RMS until the cluster consistency is re-established. Do you want to continue ?

このオプションにより構成モニタはOffline処理をせずに全システムのRMSを強制的にクリーンアップおよび停止します。これによりクラスタの整合性が失われる可能性があります。
クラスタの整合性が回復するまでRMSの処理は実行されません。続行しますか？

内容

Offline処理をせずに全ノードのRMSを強制的に停止することを確認するメッセージです。

対処

Offline処理をせずに全ノードのRMSを強制的に停止する場合は<はい>を選択してください。全ノードのRMSを強制的に停止しない場合は<いいえ>を選択してください。

3160:Are you sure you wish to take application *userapplication* into maintenance mode? Warning: RMS monitors applications in maintenance mode, but does not take any corrective actions if the application resources fail.

アプリケーション*userapplication*を保守モードに変更します。よろしいですか？
警告: RMSはアプリケーションが保守モードの場合も監視を継続しますが、アプリケーションのリソースに障害が生じても修正処置は一切行いません。

内容

アプリケーションを保守モードに変更することを確認するメッセージです。

対処

アプリケーションを保守モードに変更する場合は<はい>を選択してください。保守モードに変更しない場合は<いいえ>を選択してください。

3162:Are you sure you wish to take scalable application *userapplication* into maintenance mode? Warning: RMS monitors applications in maintenance mode, but does not take any corrective actions if the application resources fail.

スケーラブルアプリケーション*userapplication*を保守モードに変更します。よろしいですか？
警告: RMSはアプリケーションが保守モードの場合も監視を継続しますが、アプリケーションのリソースに障害が生じても修正処置は一切行いません。

内容

スケーラブルアプリケーションを保守モードに変更することを確認するメッセージです。

対処

スケーラブルアプリケーションを保守モードに変更する場合は<はい>を選択してください。保守モードに変更しない場合は<いいえ>を選択してください。

3165:Are you sure you wish to take ALL the applications on the cluster into maintenance mode? Warning: RMS monitors applications in maintenance mode, but does not take any corrective actions if the application resources fail.

クラスタ内の全アプリケーションを保守モードに変更します。よろしいですか？
警告: RMSはアプリケーションが保守モードの場合も監視を継続しますが、アプリケーションのリソースに障害が生じても修正処置は一切行いません。

内容

クラスタ内の全アプリケーションを保守モードに変更することを確認するメッセージです。

対処

クラスタ内の全アプリケーションを保守モードに変更する場合は<はい>を選択してください。保守モードに変更しない場合は<いいえ>を選択してください。

3.1.4 エラーメッセージ

Cluster Admin が表示するエラーメッセージを、メッセージ番号順に説明します。

0760 :A requested operation failed. (エラー詳細)

操作指示が失敗しました。(エラー詳細)

内容

行おうとした操作指示が失敗しました。(エラー詳細) にクラスタリソース管理機構のエラーメッセージが表示されます。

対処

(エラー詳細) を確認後、エラーメッセージの対処方法に従って対処を行ってください。

＜確認＞ボタンをクリックしてメッセージダイアログを終了してください。

0761 :An internal contradiction occurred in the main CRM window. (エラー詳細)

CRM メインウィンドウで内部矛盾が発生しました。(エラー詳細)

内容

以下のいずれかの現象が発生している可能性があります。

- ネットワーク負荷により Web ブラウザの Java 実行環境がクラスタリソース管理機構を構成する Java クラスファイルのローディングに失敗した場合
- CRM メインウィンドウでプログラム矛盾を検出した場合

対処

＜確認＞ボタンをクリックしメッセージダイアログを終了後、Web-Based Admin View を再起動してください。その後ブラウザを再起動し、再度操作を行ってください。Web-Based Admin View の再起動方法は、"PRIMECLUSTER Web-Based Admin View 操作手引書" の "6.2 再起動" を参照してください。

再度このメッセージが表示された場合には、Java コンソール／エラーダイアログのハードコピー／調査情報を採取後、当社技術員（SE）に連絡してください。

0763 :The operation cannot be executed because the resource database is not configured on all nodes, or all nodes are not communicating with Web-Based Admin View.

すべてのノードでリソースデータベースが設定されていない、または、Web-Based Admin View と接続されていないノードのため、操作を行うことができません。

内容

以下の事象が考えられます。

- すべてのノードが起動直後で、クラスタリソース管理機構が起動していない。
- すべてのノードが Web-Based Admin View に接続されていない。

対処

クラスタリソース管理機構が起動処理中ですので、＜確認＞ボタンをクリックしメッセージダイアログを終了後、しばらく待ってから再度操作を行ってください。それでも発生する場合は、ノードの電源が投入されているか、ノード上でクラスタリソース管理機構が正常に動作しているか確認してください。

ノードの電源が投入されていて、クラスタリソース管理機構が正常に動作している場合は、操作を行おうとしたノードの Web-Based Admin View を 再起動してください。Web-Based Admin View の再起動方法に関しては、"PRIMECLUSTER Web-Based Admin View 操作手引書" の "6.2 再起動" を参照してください。

上記対応後も本エラーメッセージが表示される場合は、Java コンソール／エラーダイアログのハードコピー／調査情報を採取後、当社技術員（SE）に連絡してください。

＜確認＞ボタンをクリックしてメッセージしてメッセージダイアログを終了してください。

0764 :An I/O error occurred.

入出力エラーが発生しました。

内容

入出力エラーが発生しました。

対処

以下に示す事象に該当するかを確認してください。

a. CRM メインウィンドウを表示中に頻繁にノードの停止操作を行った

b. CRM メインウィンドウからの操作指示中である

c. ノードもしくはクライアントマシンに負荷がかかっている、あるいはネットワークに負荷がかかっている

d. CRM メインウィンドウ表示中に、CRM メインウィンドウの初期化処理を行った

何らかの操作指示中であった場合、＜確認＞ボタンでメッセージダイアログを閉じ、数分(3～ 5 分程度)待って から、再度操作指示を行ってください。

操作指示中ではない場合、＜確認＞ボタンでメッセージダイアログを閉じ、ブラウザの再起動を行ってください。

上記で対処できない場合、全ノードで Web-Based Admin View の再起動を行ってください。

Web-Based Admin View の再起動方法に関しては、"PRIMECLUSTER Web-Based Admin View 操作手引書" の "6.2 再起動" を参照してください。

0765 :Communication with the management server failed.

管理サーバへのアクセス中に異常が発生しました。

内容

ブラウザとWeb-Based Admin View 管理サーバとの間で通信エラーが発生しています。このエラーはクライアントのブラウザがオペレータ介入メッセージに応答しようとしたときに発生します。

対処

＜OK＞をクリックしてエラーメッセージ画面を閉じてください。

再実行してもエラーが発生する場合は、clreply コマンドを使用して応答します。Web-Based Admin View のメッセージが表示される場合は、そのメッセージの指示に従ってください。
メッセージ 0001 ～0099 の詳細については、"PRIMECLUSTER Web-Based Admin View 操作手引書" の "付録 A メッセージ一覧" を参照してください。

上記の方法で問題が解決しない場合は、調査情報を採取して、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

0766 :The command terminated abnormally.

コマンドが異常終了しました。

内容

cldispfaultrsc コマンドまたは clreply コマンドが異常終了しました。

対処

コマンドの失敗により出力されるエラーメッセージを参照して、メッセージに示される処置を実行してください。

0767 :The command execution failed.

コマンドの実行に失敗しました。

内容

ノードにアクセスして clreply コマンドを実行できません。

対処

詳細情報に参照できない SysNode が示されている場合は、SysNode 上で clreply コマンドを実行してオペレータ介入メッセージに応答できます。GUI で応答を行う場合は、SysNode 上で Web-Based Admin View を再起動してください。

それ以外の場合は、Web-Based Admin View の管理サーバとなるノード上で Web-Based Admin View を再起動してください。Web-Based Admin View を再起動する方法については、"PRIMECLUSTER Web-Based Admin View 操作手引書" の "6.2 再起動" を参照してください。

上記の方法で問題が解決しない場合は、調査情報を採取して、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

0768 :The processing for the *proc1* cannot finish normally.

proc1 が正常に終了しませんでした。

内容

proc1 に表示される処理が正常に終了しませんでした。

対処

＜確認＞ボタンをクリックしメッセージダイアログを終了後、しばらくたってから再度操作を行ってください。

それでも本エラーメッセージが表示される場合には、Java コンソール／画面のハードコピー／調査情報を採取後、当社技術員(SE)に連絡してください。
調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

proc1 に表示される処理名によって、行われる処理が以下のように異なります。

- 初期構成設定

  リソースデータベースの設定

- 自動構成

  装置をリソースデータベースに登録

0769 :The processing was aborted because it could not be done on all nodes. (エラー詳細)

処理を実行できないノードが存在するため、処理を終了します。(エラー詳細)

内容

処理を実行できないノードが存在するため、処理を終了したことを示しています。

対処

エラー詳細に表示されるノードへのコマンドが発行できません。

そのノードの Web-Based Admin View を再起動後、しばらく待ってから再度実行してください。
Web-Based Admin View の再起動方法に関しては、"PRIMECLUSTER Web-Based Admin View 操作手引書" の "6.2 再起動" を参照してください。
上記方法でも同じメッセージが表示される場合は、そのノードを再起動してください。

上記すべての対処法が失敗した場合には、Java コンソール／エラーダイアログのハードコピー／調査情報を採取後、当社技術員(SE)に連絡してください。
調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

＜確認＞ボタンをクリックしてメッセージダイアログを終了してください。

0773 :The initial setup of the resource database failed. (エラー詳細)

リソースデータベースの初期構成設定に失敗しました。(エラー詳細)

内容

リソースデータベースの初期構成設定に失敗しました。

対処

以下の事象が考えられます。事象に応じて対処を行ってください。

事象1

エラー詳細に表示されたノードで、クラスタリソース管理機構のリソースデータベースを設定するための Web-Based Admin View の情報が獲得できていない。

＜確認＞ボタンをクリックしメッセージダイアログを終了後、エラー詳細に表示されたノードの Web-Based Admin View を再起動し、再度操作指示を行ってください。Web-Based Admin View の再起動方法に関しては、"PRIMECLUSTER Web-Based Admin View 操作手引書" の "6.2 再起動" を参照してください。

事象2

CF が未構築のため、リソースデータベースの設定が行えない。

＜確認＞ボタンをクリックしメッセージダイアログを終了後、CF を構築後、再度操作指示を行ってください。

上記以外の場合や、上記対処を行っても同様のエラーが発生する場合には、Java コンソール／エラーダイアログのハードコピー／調査情報を採取後、当社技術員（SE）に連絡してください。
調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

0774 :Initial setup failed: the resource database could not be initialized.

初期構成設定の初期化処理に失敗しました。

内容

初期構成設定の初期化処理に失敗しました。

対処

Java コンソール／エラーダイアログのハードコピー／調査情報の採取後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ハードコピー採取後、＜確認＞ボタンをクリックしメッセージダイアログを終了してください。

0775 :CF is not running, or CF is not configured.

CF が構築されていない、または、CF が起動していません。

内容

CF が構築されていない状態、もしくは CF が停止しているノードが存在するため、リソースデータベースの初期構成設定が実行できません。

対処

[cf] タブを選択して CF メインウィンドウを表示し、CF の状態を確認した後、CF の構築もしくは CF の起動を行ってください。

2000 : Error getting nodes or no active nodes to manage.

ノードの取得にエラーが発生したか、管理する稼動中ノードがありません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2001: Error in loading image: *image*.

イメージのロード中にエラーが発生しました: *image*

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2002: Timeout checking installed packages.

インストール済みパッケージのチェックがタイムアウトしました。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2004 : Connection to port *port* on host *node* failed: *message.* Please Verify node name, port number, and that the web server is running.

ホスト *node* のポート *port* への接続に失敗しました: *message* ノード名、ポート番号、Webサーバが稼働していることを確認してください。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2010 : No node object for: *node*.

node のノードオブジェクトがありません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2011 : Unknown data stream.

不明なデータストリーム

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2013 : Finished searching the document.

ドキュメントの検索が終了しました。

内容

ログメッセージの、指定されたフィルタ基準に対する結果が見つかりませんでした。

対処

フィルタ基準を変更してください。

2014 : File not found.

ファイルがありません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2016 : Invalid time range.

時間の範囲が無効です。

内容

起動時間が、ログビューアにあるフィルタリングログメッセージの終了時間より後に設定されています。

対処

時間範囲を変更してください。

2017 : Unknown Message Identifier in resource file:

リソースファイルに不明なメッセージ識別子があります:

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2018 : Illegal arguments for Message Identifier:

メッセージ識別子の引数が不正です:

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2020 : Start time is invalid.

開始時刻が無効です。

内容

ログビューアにある、メッセージ検索に対する起動時間が正しくありません。

対処

起動時間を修正してください。

2021 : End time is invalid.

終了時刻が無効です。

内容

ログビューアにある、メッセージ検索に対する終了時間が正しくありません。

対処

終了時間を修正してください。

2501 :There was an error loading the driver:

ドライバのロード中にエラーが発生しました。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2502 :There was an error unloading the driver:

ドライバのアンロード中にエラーが発生しました。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2504 :There was an error unconfiguring CF:

CFの設定を削除中にエラーが発生しました

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2505 :There was an error communicating with the back end:

バックエンドとの通信中にエラーが発生しました

内容

Cluster Admin が、Web-Based Admin View の mip に対応するホスト名の取得に失敗しました。

対処

すべてのクラスタノードで以下のコマンドを実行し、mip の値を確認してください。

```
# /etc/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam mip
```

上記で確認した mip の値とそれに対応するホスト名を、すべてのクラスタノードの hosts ファイルに記載してください。

mip の詳細は、“Web-Based Admin View 操作手引書”の“4.5.1 動作環境変数”を参照してください。

wvGetparam コマンドについては、“PRIMECLUSTER 活用ガイド ＜コマンドリファレンス編＞”の“第10章 Web-Based Admin View”を参照してください。

hostsファイルは、以下を確認してください。

- Solaris の場合

  /etc/inet/hosts

- Linux の場合

/etc/hosts

2506 :There are no nodes in a state that can be stopped.

停止できる状態のノードがありません

内容

停止可能な状態にあるノードがありません。

対処

停止可能な状態にあるノードがありません。停止されるノードは、UP、INVALID、COMINGUPまたはLOADEDのいずれかの状態でなければなりません。

2507 :Error starting CF on *node*:

*node*のCFを起動中にエラーが発生しました

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2508 :Error listing services running on *node*:

*node*で動作中のサービスを表示中にエラーが発生しました。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2510 :Error stopping CF on *node*:

*node*のCFを停止中にエラーが発生しました。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2511 :Error stopping *service* on *node*:

*node*の*service*を停止中にエラーが発生しました。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2512 :Error clearing statistics on *node*:

*node*の統計をクリア中にエラーが発生しました。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2513 :Error marking down *node*:

*node*にDOWNマークを付ける際にエラーが発生しました。

内容

ノードにDOWNマークを付ける際にエラーが発生しました。

対処

ノードにDOWNマークを付ける際にエラーが発生しました。DOWNマークを付けるため、ノードはLEFTCLUSTER状態でなければなりません。

2514 :To start CF on the local node, click on the appropriate button in the left hand panel.To start CF on a remote node, CF must be running on the local node.

ローカルノードのCFを起動するには、左側パネルの該当ボタンをクリックしてください。
リモートノードのCFを起動するには、ローカルノードのCFが動作している必要があります

内容

ローカルノード上でCFを起動するには、左側のパネルにある、適切なボタンをクリックしてください。リモートノード上でCFを起動するには、CFがローカルノード上で動作している必要があります。

対処

左側のパネルにある、適切なボタンをクリックして、ローカルノード上でCFを起動してください。リモートノード上でCFを起動するには、CFがローカルノード上で動作している必要があります。

2515 :To unconfigure CF on the local node, click on the appropriate button in the left hand panel.To unconfigure CF on a remote node, CF must be running on the local node.

ローカルノードのCFの設定を削除するには、左側パネルの該当ボタンをクリックしてください。
リモートノードのCF設定を解除するには、ローカルノードのCFが動作している必要があります。

内容

ローカルノード上でCFの構成を解除するには、左側のパネルにある、適切なボタンをクリックしてください。リモートノード上でCFの構成を解除するには、CFがローカルノード上で動作している必要があります。

対処

左側のパネルにある、適切なボタンをクリックして、ローカルノード上でCFの構成を解除してください。リモートノード上でCFの構成を解除するには、CFがローカルノード上で動作している必要があります。

2516 :CF is not running on the local node, and cannot be stopped.To stop CF on a remote node, CF must be running on the local node.

ローカルノードのCFが動作していないため停止できません。
リモートノードのCFを停止させるには、ローカルノードのCFが動作している必要があります。

内容

CFがローカルノード上で動作しておらず、停止できません。リモートノード上でCFを停止するには、ローカルノード上でCFが動作している必要があります。

対処

CFがローカルノード上で動作しておらず、停止できません。リモートノード上でCFを停止するには、ローカルノード上でCFが動作している必要があります。

2517 :In order to mark nodes as DOWN, CF must be running on the local node.

ノードにDOWNマークを付けるには、ローカルノードのCFが動作している必要があります。

内容

ノードにDOWNマークを付けるには、CFがローカルノード上で動作している必要があります。

対処

ノードにDOWNマークを付けるために、左側のパネルにある、適切なボタンをクリックして、ローカルノード上でCFを起動してください。

2518 :In order to display network topology, CF must be running on the local node.

ネットワークトポロジを表示するには、ローカルノードのCFが動作している必要があります。

内容

ネットワークトポロジを表示するには、CFがローカルノード上で動作している必要があります。

対処

ネットワークトポロジを表示するために、左側のパネルにある、適切なボタンをクリックして、ローカルノード上でCFを起動してください。

2519 :In order to display any statistics, CF must be running on the local node.

統計を表示するには、ローカルノードのCFが動作している必要があります。

内容

いずれかの統計を表示するには、CFがローカルノード上で動作している必要があります。

対処

いずれかの統計を表示するために、左側のパネルにある、適切なボタンをクリックして、ローカルノード上でCFを起動してください。

2520 :In order to clear statistics, CF must be running on the local node.

統計をクリアするには、ローカルノードのCFが動作している必要があります。

内容

統計をクリアするには、CFがローカルノード上で動作している必要があります。

対処

統計をクリアするために、左側のパネルにある、適切なボタンをクリックして、ローカルノード上でCFを起動してください。

2521 :There are no nodes in a state where statistics can be displayed.

統計を表示できる状態のノードがありません。

内容

統計を表示できる状態にあるノードがありません。

対処

統計を表示できる状態にあるノードがありません。この操作をするには、ノードがUP状態でなければなりません。

2522 :There are no nodes in a state where messages can be displayed.

メッセージを表示できる状態のノードがありません。

内容

メッセージを表示できる状態にあるノードがありません。

対処

メッセージを表示できる状態にあるノードがありません。この操作をするには、ノードがUNKNOWN以外の状態でなければなりません。

2523 :There are no nodes in a state where they can be started.

起動できる状態のノードがありません。

内容

起動できる状態にあるノードがありません。

対処

起動できる状態にあるノードがありません。この操作をするには、ノードがLOADED、UNLOADED、NOT_INITEDのいずれかの状態でなければなりません。

2524 :There are no nodes in a state where they can be unconfigured.

設定を削除できる状態のノードがありません。

内容

設定を解除できる状態にあるノードがありません。

対処

設定を解除できる状態にあるノードがありません。この操作をするには、ノードがLOADED、UNLOADED、NOT_INITEDのいずれかの状態でなければなりません。

2526 :Error scanning for clusters:

クラスタのスキャン中にエラーが発生しました。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

2528 :Please select a cluster to join.

参入させるクラスタを選択してください。

内容

参加するクラスタを選択してください。

対処

参加するクラスタを選択してください。

2529 :The specified cluster name is already in use.

指定されたクラスタ名はすでに使用されています。

内容

指定されたクラスタ名はすでに使用中です。

対処

他のクラスタ名を使用してください。

2532 :Probing some nodes failed. See status window for details.

一部のノードの検索に失敗しました。詳細は状態ウィンドウを参照してください。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

2533 :Some nodes failed CIP configuration.

一部のノードのCIP設定に失敗しました。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

2534 :Insufficient IPs for net *net* available in /etc/hosts. There are not enough unassigned IPs in /etc/hosts on the cluster nodes. Please remove any unneeded addresses for this subnet from /etc/hosts, or use a different subnet.

/etc/hostsに、ネット*net*用のIPが十分ありません。クラスタノードの/etc/hostsで、未割り当てのIPが足りません。このサブネットで現在使用していないアドレスを/etc/hostsから削除するか、別のサブネットを使用してください。

内容

/etc/hostsに、利用可能なIPが不足しています。クラスタノード上の/etc/hostsに、割り当てられていないIPが十分にありません。このサブネット用に、/etc/hostsから不要なアドレスを削除するか、別のサブネットを使用してください。

対処

/etc/hostsに、利用可能なIPが不足しています。クラスタノード上の/etc/hostsに、割り当てられていないIPが十分にありません。このサブネット用に、/etc/hostsから不要なアドレスを削除するか、別のサブネットを使用してください。

2535 :Missing node suffix for net *net*.

ネット*net*のノードサフィックスが入力されていません。

内容

ノードサフィックスが入力されていません。

対処

ノードサフィックスを定義してください。

2536 :The node suffix for net *net* is too long.

ネット*net*のノードサフィックスが長すぎます。

内容

ノードサフィックスが長すぎます。

対処

ノードサフィックスは、10以下でなければなりません。

2537 :Invalid node suffix for net *net*. Node names may only contain letters, numbers, and - characters.

ネット*net*のノードサフィックスが無効です。ノード名に使用できるのは英数字と'-'キャラクタのみです。

内容

無効なノードサフィックスです。ノード名は、英字、数字および符号だけを含むことができます。

対処

有効なノードサフィックスを入力してください。

2538 :Invalid subnet mask for net *net*. The subnet mask must be in the form of 4 numbers 0-255 separated by dots. Also, when written in binary, it must have all 1s before 0s.

ネット*net*のサブネットマスクが無効です。サブネットマスクは0から255の数字をドット区切りで4つ並べた形式で指定します。2進法で表記した場合に連続した1のビットに続いて連続した0のビットとなる必要があります。

内容

無効なサブネットマスクです。サブネットマスクは、ドットで区切られた、0から255までの4つの数値でなければなりません。また、2進法で記入される場合は、0の前にはすべて1がなければなりません。

対処

有効なサブネットマスクを入力してください。

2539 :Invalid subnet number for net *net*. The subnet number must be in the form of 4 numbers 0-255 separated by dots.

ネット*net*のサブネット番号が無効です。サブネット番号は0から255の数字をドット区切りで4つ並べた形式で指定します。

内容

無効なサブネット番号です。サブネット番号は、ドットで区切られた、0から255までの4つの数値でなければなりません。

対処

有効なサブネット番号を入力してください。

2540 :net *net* is too small.The cluster has *number of nodes* nodes. Only *number of nodes* possible host ids is supported by the IP subnet and netmask given for net *net*. Please use a subnet and netmask combination that has more host ids.

ネット*net*内のアドレスが足りません。クラスタには*ノード数*ノードあります。ネット*net*に割り当てられたIPサブネットおよびネットマスクネットでサポートされたホストidは*ノード数*のみです。
より多くのホストidを持つサブネットとネットマスクの組合せを使用してください。

内容

IPとネットマスクの組み合わせが小さすぎます。

対処

より多くのホストIDを持つ、サブネットとネットマスクの組み合わせを使用してください。

2541 :The IP range *ip1/netmask1* overlaps with *ip2/netmask2*, which is in use on *node*.

*ip1/netmask1*と*node*上で活性されている*ip2/netmask2*のネットワークが重複しています。

注意

ip1

IPv4では、画面上のサブネット番号が表示されます。

IPv6では、画面上のネットワークプレフィックスが表示されます。

ip2

IPv4では、*node*上のネットワークインタフェースで活性しているIPv4アドレスが表示されます。

IPv6では、*node*上のネットワークインタフェースで活性しているIPv6アドレスが表示されます。

netmask1 netmask2

IPv4では、サブネットマスクが表示されます。

IPv6では、プレフィックス長が表示されます。

内容

- IPv4の場合

  サブネット番号(*ip1*)とサブネットマスク(*netmask1*)のネットワークが、*node*上のネットワークインタフェースで活性しているIPv4アドレス(*ip2*)とサブネットマスク(*netmask2*)のネットワークと重複しています。

- IPv6の場合

  ネットワークプレフィックス(*ip1*)とプレフィックス長(*netmask1*)のネットワークが、*node*上のネットワークインタフェースで活性しているIPv6アドレス(*ip2*)とプレフィックス長(*netmask2*)のネットワークと重複しています。

対処

IPv4の場合、ほかのネットワークとなるサブネット番号とサブネットマスクを使用してください。

IPv6の場合、ほかのネットワークとなるネットワークプレフィックスとプレフィックス長を使用してください。

2542 :The IP ranges for net *net1* and net *net2* overlap.

ネット*net1*とネット*net2*のIP範囲が重複しています。

内容

与えられたIPとネットマスクの組み合わせがお互いに重複しています。

対処

ほかのIPとネットマスクの組み合わせを使用してください。

2543 :The *subnet* subnet has no nodes on it.

*subnet*サブネットにノードが含まれていません。

内容

サブネット上にノードがありません。

対処

リストからノードを選択してください。

2544 :There are no nodes in a LEFTCLUSTER state.

DOWNマークを付けることができるLEFTCLUSTER状態のノードがありません。

内容

LEFTCLUSTER状態にあるノードがありません。

対処

このオプションは、LEFTCLUSTER状態のノードが存在する場合に有効です。

2549 :Error adding *node* to CIM:

CIMに*node*を追加中にエラーが発生しました:

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2550 :Error removing *node* from CIM:

CIMから*node*を削除中にエラーが発生しました:

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2551 :In order to add nodes to CIM, CF must be running on the local node.

CIMにノードを追加するには、ローカルノードのCFが動作している必要があります。

内容

CIMにノードを追加するには、CFがローカルノード上で動作している必要があります。

対処

ローカルノード上でCFをUPにしてください。

2552 :In order to remove nodes from CIM, CF must be running on the local node.

CIMからノードを削除するには、ローカルノードのCFが動作している必要があります。

内容

CIMからノードを削除するには、CFがローカルノード上で動作している必要があります。

対処

ローカルノード上でCFをUPにしてください。

2553 :There are no nodes in a state where they can be added to CIM.

CIMに追加できる状態のノードがありません。

内容

CIMに追加できる状態にあるノードがありません。

対処

CIMにノードを追加するには、CFがノード上でUPでなければなりません。また、ノードがまだCIMに追加されていない必要があります。

2554 :There are no nodes in a state where they can be removed from CIM.

CIMから削除できる状態のノードがありません。

内容

CIMから削除できる状態にあるノードがありません。

対処

CIMからノードを削除するには、CFがノード上でUPでなければなりません。また、ノードがすでにCIMに追加されている必要があります。

2556 :CIM Configuration failed.

CIM設定に失敗しました。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2557 :Please select a node to add.

追加するノードを選択してください。

内容

追加するノードを選択してください。

対処

追加するノードを選択してください。

2558 :Please select a node to remove.

削除するノードを選択してください。

内容

削除するノードを選択してください。

対処

削除するノードを選択してください。

2559 :Nodes already in the cluster cannot be removed.

クラスタに参入しているノードは削除できません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2560 :The local node cannot be removed.

ローカルノードは削除できません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2561 :Some nodes were not stopped. See status window for details.

一部のノードが停止していません。詳細は状態ウィンドウを参照してください。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2562 :Some nodes failed CF configuration.

一部のノードのCF設定に失敗しました。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2563 :Error adding CIM override on *node*:

*node*上でCIMオーバーライドを追加中にエラーが発生しました:

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2564 :Error removing CIM override on *node*:

*node*上でCIMオーバーライドを削除中にエラーが発生しました:

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2565 :In order to override CIM, CF must be running on the local node.

CIMをオーバーライドするには、ローカルノードのCFが動作している必要があります。

内容

CIMをオーバーライドするには、CFがローカルノード上で動作している必要があります。

対処

CIMをオーバーライドするには、CFがローカルノード上で動作している必要があります。

2566 :In order to remove CIM override, CF must be running on the local node.

CIMオーバーライドを削除するには、ローカルノードのCFが動作している必要があります。

内容

CIMオーバーライドを削除するには、CFがローカルノード上で動作している必要があります。

対処

CIMオーバーライドを削除するには、CFがローカルノード上で動作している必要があります。

2567 :There are no nodes in a state where they can be overridden.

オーバーライドできる状態のノードがありません。

内容

オーバーライドできる状態にあるノードがありません。

対処

CIMにノードを追加するには、CFがノード上でUPでなければなりません。また、ノードがまだCIMに追加されていない必要があります。

2568 :There are no nodes in a state that can have a CIM override removed.

CIMオーバーライドを削除できる状態のノードがありません。

内容

CIMオーバーライドを削除可能な状態にあるノードがありません。

対処

CIMからノードを削除するには、ノードがすでにCIMに追加されてなければなりません。

2578 :For *node*, the IP address for interconnect *interconnect_name* and interconnect *interconnect_name* are the same.

*node*のインタコネクト interconnect_nameとインタコネクト*interconnect_name*のIPアドレスが同じです。

内容

2つのインタコネクトのアドレスが同一アドレスとなっています。

対処

ノードに対して、インタコネクトのIPアドレスが同じです。2つのインタコネクトには、別のIPアドレスを使用してください。

2579 :The address for *node* on interconnect *interconnect_name* is missing.

インタコネクト *interconnect_name*の*node*のアドレスが選択されていません。

内容

インタコネクトのアドレスが選択されていません。

対処

ドロップダウンから適切なアドレスを選択してください。

2580 :The IP address and broadcast address for *node* on interconnect *interconnect_name* are not consistent with each other.

インタコネクト *interconnect_name*の*node*のIPアドレスとブロードキャストアドレスに不整合があります。

内容

インタコネクトのIPアドレスとブロードキャストアドレスに不整合があります。

対処

インタコネクトのIPアドレスとブロードキャストアドレス一致させてください。

2582 :In order to check heartbeats, CF must be running on the local node.

ハートビートを確認するには、ローカルノード上でCFが稼動している必要があります。

内容

ハートビートを確認するには、CFがローカルノード上で動作している必要があります。

対処

ハートビートを確認するには、CFがローカルノード上で動作している必要があります。

2583 :For interconnect *interconnect_name*, the IP address for *node* is not on the same subnet as the IP address for *node*.

インタコネクト*interconnect_name*の*node*のIPアドレスと*node*のIPアドレスのサブネットが異なります。

内容

インタコネクトに対して、ノードのIPアドレスが同じサブネットマスク上ではありません。

対処

インタコネクトに対して、ノードのIPアドレスが同じサブネットマスク上ではありません。1つのインタコネクトに対して、すべてのクラスタノード上で、IPアドレスが同じサブネットマスクでなければなりません。

2585 :On interconnect *interconnect_name*, the IP address for node *node* and node *node* are the same.

インタコネクト*interconnect_name*のノード*node*とノード*node*のIPアドレスが同じです。

内容

2つのノードに対するインタコネクトのIPアドレスが同じです。

対処

2つのノードに対するインタコネクトのIPアドレスが同じです。適切に修正してください。

2586 :Invalid CF node name for *node*. Lowercase a-z, 0-9, _ and - are allowed.

*node*のCFノード名が無効です。使用可能な文字は英小文字、数字、_ 、-です。

内容

*node*に対するCFノード名が無効です。小文字のaからz、数字の0から9、および、アンダーバー(_)とハイフン(-)が使用できます。

対処

*node*に対するCFノード名が無効です。小文字のaからz、数字の0から9、および、アンダーバー(_)とハイフン(-)が使用できます。有効なCFノード名を入力してください。

2587 :The CF node name for *node1* and *node2* are the same.

*node1*と*node2*のCFノード名が同じです。

内容

2つのノードに対するCFノード名が同じです。

対処

2つのノードに対するCFノード名が同じです。別のCFノード名を選択してください。

2588 :The CF node name for *node* is empty.

*node*のCFノード名が空です。

内容

CFノード名が空です。

対処

CFノード名が空です。CFノード名を入力するか選択してください。

2590 :Invalid cluster name. The cluster name may contain letters, numbers, dashes, and underscores.

クラスタ名が無効です。クラスタ名に使用可能な文字は英数字、-、_です。

内容

無効なクラスタ名です。クラスタ名には、英字、数字、ダッシュ、およびアンダーバーだけが使用できます。

対処

有効なクラスタ名を入力してください。

2591 :The CF node name for *node1* is the same as the public name of *node2*.

*node1*のCFノード名が*node2*のノード名と同じです。

内容

ノードのCFノード名が、他のノードのノード名と同じです。

対処

ノードのCFノード名が、他のノードのノード名と同じです。別のCFノード名を選択してください。

2594 :CF is not running on the local node. To check CF for unload, CF must be running on the local node.

ローカルノードのCFが動作していません。CFのアンロードを確認するには、ローカルノードのCFが動作している必要があります。

内容

ローカルノード上で、CFが動作していません。CFがアンロードしたかどうかを確認するには、CFがローカルノード上で動作している必要があります。

対処

ローカルノード上で、CFが動作していません。CFがアンロードしたかどうかを確認するには、CFがローカルノード上で動作している必要があります。

2595 :There are no nodes in a state where the unload status can be checked.

アンロード状態を確認できる状態のノードがありません。

内容

アンロード状態をチェックできる状態にあるノードがありません。

対処

アンロード状態をチェックできる状態にあるノードがありません。少なくとも1つのノードがUP状態でなければなりません。

2600 :For *node*, the interfaces for interconnect *interconnect_name* and interconnect *interconnect_name* are on the same subnet.

node のインタコネクト*interconnect_name* とインタコネクト*interconnect_name* のネットワークインタフェースが同一サブネット上に存在します。

内容

複数のインタコネクトのインタフェースが同じサブネット上にあります。

対処

複数のインタコネクトのインタフェースが同じサブネット上にあります。別のサブネットを使用してください。

2921 :Internal Error:SF Wizard:Unable to run *command* on *node*.

内部エラー:SFウィザード: *node* で *command* を実行できません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2922 :Internal Error:SF Wizard:Error reading file *file* from *node*.

内部エラー:SFウィザード: *node* からファイル *file* の読込み中にエラーが発生しました。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2923 :Internal Error:SF Wizard:Reading *file* :Ignoring Unknown data:

内部エラー:SFウィザード: *file* の読込み中:不明なデータは無視します:

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2925 :Internal Error:SF Wizard:Unknown data: *SA_xcsf*.

内部エラー:SFウィザード:不明なデータ: *SA_xcsf*

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2926 :Passwords do not match. Retype.

パスワードが一致しません。再入力してください。

内容

パスワードが一致しません。再入力してください。

対処

パスワードが一致しません。再入力してください。

2939 :Internal Error:SF Wizard:Empty data, not writing to file *file* on *node*.

内部エラー:SFウィザード:空のデータ: *node* のファイル *file* に書込まれていません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2940 :Internal Error:SF Wizard:Error writing to file *file* on *node*.

内部エラー:SFウィザード: *node* のファイル *file* に書込み中にエラーが発生しました。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2941 :You must enter weight for each of the CF nodes.

各CFノードの重みを入力してください。

内容

各CFノードの重みを入力する必要があります。

対処

各CFノードの重みを入力してください。

2942 :Invalid CF node weight entered.

入力されたCFノードの重みが無効です。

内容

無効なCFノードの重みが入力されました。

対処

有効なCFノードの重みを入力してください。

2943 :You must enter admin IP for each of the CF nodes.

各CFノードの管理LAN IPアドレスを入力してください。

内容

各CFノードの管理LAN IPアドレスを入力する必要があります。

対処

各CFノードの管理LAN IPアドレスを入力してください。

2944 :CF node weight must be between 1 and 1000000.

CFノードの重みは1から1000000の範囲で値を入力してください。

内容

CFノードの重みは、1から1000000の間である必要があります。

対処

CFノードの重みを、1から1000000の範囲で入力してください。

2946 :You must select at least one agent to continue.

続行するには、1つ以上のエージェントを選択する必要があります。

内容

継続するには、少なくとも1つのエージェントを選択する必要があります。

対処

継続するには、少なくとも1つのエージェントを選択する必要があります。

2946 :You must select one agent to continue. (Solaris 版 4.3A10 以後)

続行するには、シャットダウンエージェントを1つ選択してください。

内容

続行するには、シャットダウンエージェントを1つ選択してください。

対処

続行するには、シャットダウンエージェントを1つ選択してください。

2947 :Timeout value must be an integer greater that zero and less than 3600.

タイムアウト値は1以上3600未満の整数を入力してください。

内容

タイムアウト値は、0より大きく、3600より小さい整数値である必要があります。

対処

タイムアウト値は、0より大きく、3600より小さい整数値である必要があります。

2948 :Shutdown Facility reconfiguration failed on *node*.

*node*でシャットダウン機構の再設定に失敗しました。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

2950 :You must specify XSCF-Name and User-Name for each of the CF nodes.

各CFノードのXSCF名とユーザ名を入力してください。

内容

各CFノードの、XSCF名とユーザー名を指定する必要があります。

対処

各CFノードの、XSCF名とユーザー名を入力してください。

2952 :You must specify RCCU-Name for each of the CF nodes.

各CFノードのRCCU名を入力してください。

内容

各CFノードのRCCU名を指定する必要があります。

対処

各CFノードのRCCU名を入力してください。

2959 :Timeout value is out of range.

タイムアウト値が設定範囲外です。

内容

タイムアウト値が範囲外です。

対処

タイムアウト値は、3600より小さい必要があります。

2960 :You must specify a MMB User-Name for each of the hosts.

それぞれのホストに対してMMBのユーザ名を設定しなければなりません。

内容

各ホストのMMB ユーザ名を指定する必要があります。

対処

各ホストのMMB ユーザ名を指定する必要があります。

2961 :The MMB User-Name must be between 8 and 16 characters long.

MMBのユーザ名は8文字から16文字の間にしなければなりません。

内容

MMBのユーザ名は、8文字から16文字の長さである必要があります。

対処

MMBのユーザ名は、8文字から16文字の長さである必要があります。

2962 :The MMB Password must be between 8 and 16 characters long.

MMBのパスワードは8文字から16文字の間にしなければなりません。

内容

MMBのパスワードは、8文字から16文字の長さである必要があります。

対処

MMBのパスワードは、8文字から16文字の長さである必要があります。

2963 :The MMB Panic Agent must have higher precedence than the MMB Reset Agent.

MMB Panic エージェントはMMB Reset エージェントより優先度を高くしなければなりません。

内容

MMB Panic エージェントはMMB Reset エージェントよりも優先度が高い必要があります。

対処

MMB Panic エージェントはMMB Reset エージェントよりも優先度が高い必要があります。

2967 :You must specify ILOM-name and User-Name for each of the CF nodes.

各CFノードのILOM名とユーザ名を入力してください。

内容

各CFノードのILOM名とユーザー名を入力してください。

対処

各CFノードのILOM名とユーザー名を入力してください。

2968 :You must specify ALOM-name and User-Name for each of the CF nodes.

各CFノードのALOM名とユーザ名を入力してください。

内容

各CFノードのALOM名とユーザー名を入力してください。

対処

各CFノードのALOM名とユーザー名を入力してください。

2969 :You must specify a unique hostname or IP address for XSCF Name1 and XSCF Name2.

XSCF名1とXSCF名2に異なるホスト名またはIPアドレスを入力してください。

内容

XSCF名1とXSCF名2に異なるホスト名またはIPアドレスを入力してください。

対処

XSCF名1とXSCF名2に異なるホスト名またはIPアドレスを入力してください。

2970 :You must specify XSCF Password for each of the CF nodes.

各CFノードのXSCFパスワードを入力してください。

内容

各CFノードのXSCFパスワードを入力してください。

対処

各CFノードのXSCFパスワードを入力してください。

2971 :You must specify ILOM Password for each of the CF nodes.

各CFノードのILOMパスワードを入力してください。

内容

各CFノードのILOMパスワードを入力してください。

対処

各CFノードのILOMパスワードを入力してください。

2972 :You must specify ALOM Password for each of the CF nodes.

各CFノードのALOMパスワードを入力してください。

内容

各CFノードのALOMパスワードを入力してください。

対処

各CFノードのALOMパスワードを入力してください。

2973 :Invalid network prefix for net{0}. The subnet number must be in the form of hexadecimal numbers separated by colons.

ネット{0}のネットワークプレフィックスが無効です。
ネットワークプレフィックスは、コロンで区切った数値列を16進数で表記する形式で指定します。

内容

無効なネットワークプレフィックスです。

対処

有効なネットワークプレフィックスを入力してください。

ネットワークプレフィックスは、下記の条件を満たしている必要があります。

- "::"が複数存在しないこと
- ":"で終わらないこと(::で終わる場合を除く)
- ":"区切のフィールドの数は8以下であること
- ":"区切のフィールドの数が8未満の場合、"::"を含んでいること
- ":"区切の各フィールドが、0 ～ 4 桁で構成されていること
- ":"区切の各フィールドの文字が 0 ～ 9 もしくは、a ～ f もしくは、A ～ F であること

2974 :net {0} does not have enough address space.
The cluster has {2} nodes. Only {1} possible host ids are supported by the network prefix given for net {0}. Please use network prefix and
prefix-length combination that has more host ids.

ネット{0}内のアドレスが足りません。
クラスタには{2}ノードあります。ネット{0}に割り当てられたネットワークプレフィックスでサポートされたホストidは{1}のみです。より多くのホストid
を持つネットワークプレフィックスとプレフィックス長の組合せを使用してください。

内容

ネットワークプレフィックスとプレフィックス長の組み合わせが小さすぎます。

対処

より多くのホストIDを持つ、ネットワークプレフィックスとプレフィックス長の組み合わせを使用してください。

2975 :Invalid prefix-length for net{0}. The prefix-length must be specified in the range of from 64 to 128.

ネット{0}のプレフィックス長が無効です。プレフィックス長は64から128の範囲内で指定します。

内容

無効なプレフィックス長です。プレフィックス長は、64から128の範囲内で指定しなければなりません。

対処

有効なプレフィックス長を入力してください。

2976 :The nodesuffix of net{0} and net{1} overlaps.

ネット{0}とネット{1}のノードサフィックスが重複しています。

内容

ネット{0}とネット{1}のノードサフィックスが重複しています。

対処

複数のCIPサブネットに対して、それぞれユニークなノードサフィックスを入力してください。

2977 :"RMS" was entered to the nodesuffix of net{0}.
If you want to use "RMS" to the nodesuffix, select "For RMS".

ネット{0}のノードサフィックスにRMSが入力されています。
ノードサフィックスをRMSにしたい場合は、「RMSを使用する」を選択してください。

内容

「RMSを使用する」を選択していないのにも関わらず、ネット{0}のノードサフィックスに"RMS"が入力されています。

対処

ノードサフィックスに"RMS"を使用したい場合は、「RMSを使用する」を選択してください。

2978 :The first character of CF node name *node* is not a lower case letter.
RMS Wizard Tools cannot operate by this CF node name.
Please use a lower case letter to the first character of CF node name.

CFノード名 *node* は、文字列の先頭が英小文字以外となっています。
この設定では RMS Wizard Tools が動作できません。
先頭が英小文字の名前を設定してください。

内容

node に対するCF名が無効です。CF名の先頭文字には英小文字(aからz)を使用してください。

対処

CF名の先頭文字には英小文字(aからz)を使用してください。

2980 :Failed to get domain information of OVM on the CF node <*CF nodename*>.
Please confirm the OS's release is "Oracle Solaris 11" or higher than "Oracle Solaris 10 9/10" and that the domain type is control domain or guest domain.

CFノード<*CFノード名*>において、OVMのドメイン情報が取得できませんでした。
OSがOracle Solaris 11または、Oracle Solaris 10 9/10 以降のリリースであること、
ドメインの種類が制御ドメインまたは、ゲストドメインであることを確認してください。

内容

OVM(Oracle VM for SPARC)のドメイン情報の取得に失敗しました。

対処

以下を調査し、OVM(Oracle VM for SPARC)のドメイン情報が取得できる環境であることを確認してください。

- Oracle Solaris 10 9/10 以降を使用していること
- OVM 対応環境であること
- グローバルゾーンであること
- /usr/sbin/virtinfo -ap コマンドで、ドメイン情報が取得できること

  実行例

```
$ virtinfo -ap
VERSION 1.0
DOMAINROLE|impl=LDoms|control=true|io=true|service=true|root=true
DOMAINNAME|name=primary
DOMAINUUID|uuid=8e0d6ec5-cd55-e57f-ae9f-b4cc050999a4
DOMAINCONTROL|name=san-t2k-6
DOMAINCHASSIS|serialno=0704RB0280
```

2981 :PPAR-ID of the CF node <*CF nodename*> is invalid.
Please input the numerical value within the range of 0-64 to PPAR-ID.

CFノード<*CFノード名*>のPPAR-IDが無効です。
PPAR-IDには0～64の範囲の数値を入力してください。

内容

<*CFノード名*>のPPAR-IDの入力値が無効です。

対処

PPAR-IDには、0～64の範囲の数値を入力してください。

2982 :The domain name of the CF node <*CF nodename*> is invalid.
Please enter correct name to domain name.

CFノード<*CFノード名*>のドメイン名が無効です。
正しいドメイン名を入力してください。

内容

<*CFノード名*>のドメイン名の入力値が無効です。

対処

以下の規約に従い、ドメイン名を入力してください。

- 最長256文字の、アルファベット、数字、-(ハイフン)、.(ピリオド)から構成される文字列であること
- 先頭文字は、アルファベットまたは数字であること

2983 :You must specify XSCF-Name1 of the CF node <*CF nodename*>.

CFノード<*CFノード名*>のXSCF名1を入力してください。

内容

<*CFノード名*>のXSCF名1が入力されていません。

対処

<*CFノード名*>のXSCF名1に、ホスト名またはIPアドレスを入力してください。

2984 :You must specify XSCF-Name2 of the CF node <*CF nodename*>.

CFノード<*CFノード名*>のXSCF名2を入力してください。

内容

<*CFノード名*>のXSCF名2が入力されていません。

対処

<*CFノード名*>のXSCF名2に、ホスト名またはIPアドレスを入力してください。

2985 :You must specify user of the CF node <*CF nodename*>.

CFノード<*CFノード名*>のユーザ名を入力してください。

内容

<*CFノード名*>のユーザー名が入力されていません。

対処

<*CFノード名*>のユーザー名に、XSCFのユーザー名を入力してください。

2987 :You must specify a unique hostname or IP address for XSCF Name1 and XSCF Name2 of the CF node <*CF nodename*>.

CFノード<*CFノード名*>のXSCF名1とXSCF名2に異なるホスト名または、IPアドレスを入力してください。

内容

<*CFノード名*>のXSCF名1とXSCF名2が重複しています。

対処

<*CFノード名*>のXSCF名1とXSCF名2には、それぞれ異なるホスト名またはIPアドレスを入力してください。

2988 :Passwords of the CF node <*CF nodename*> do not match. Please retry.

CFノード<*CFノード名*>のパスワードが一致しません。再入力してください。

内容

<*CFノード名*>のパスワードが一致していません。

対処

<*CFノード名*>のパスワードを再入力してください。

3000 : Fatal Error processor internal:RMS session is null.

プロセッサ内部の致命的エラー:RMSセッションがnull値です。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3001 : Fatal Error processor internal:RMS session graph is null.

プロセッサ内部の致命的エラー:RMSセッショングラフがnull値です。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3002 : Fatal Error processor internal:Not initialized as local or remote.

プロセッサ内部の致命的エラー:ローカルまたはリモートで初期化されていません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3003 : Error: Unable to get remote stream reader.

エラー: リモートストリームリーダを取得できません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3004 : Error: Unable to obtain remote data stream : *message*.

エラー: リモートデータストリームを取得できません : *message*

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3005 : Error: new Thread() failed for *""* *node*.

"" *node* のnew Thread()に失敗しました。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3006 : Error: Reconnect failed. Data displayed for *node* will no longer be current.

エラー: 再接続に失敗しました。表示されている *node* のデータは最新ではありません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3010 : Error: Exception while closing data reader: *message*.

エラー: データリーダのクローズ中に例外が発生しました: *message*

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3012 : Error: RMS and GUI are not compatible. Use newer version of RMS GUI.

エラー: RMSとGUIに互換性がありません。新しいバージョンのRMS GUIをご使用ください。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3013 : Error: Missing local host indication from *node*.

エラー: *node* からのローカルホスト指示が不明です。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3016 : Error INTERNAL: exception while reading line :

内部エラー: 行の読込み中に例外が発生しました :

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3018 : Error: Missing SysNode name *declaration block*.

エラー: SysNode名*declaration block*が不明です。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3021 : Error *node* : Missing token.

エラー *node* : トークンが見つかりません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3024 : Received Error: *message*.

受信エラー: message

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

3026 : Error: Connection to node *node* failed.

エラー: ノード*node*への接続に失敗しました。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

3028 : Error: Connections to all hosts failed.

エラー: 全てのホストへの接続に失敗しました。

内容

全てのホストへの接続に失敗しました。

対処

対処する必要はありません。GUIは再接続を試みます。

3030:Unable to shutdown RMS on *node*.

*node*のRMSを停止できません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

3031:Error returned from hvshut. Click "msg" tab for details.

hvshutからエラーが返されました。詳細は [msg] タブをクリックしてください。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

3040:switchlog Error: R=null.

switchlogエラー: R=null

内容

Switchlogは、RMSがダウンしているノードでは表示されません。

対処

ノード上のRMSをOnlineにしてください。

3042:Error Intern: Nodecmd.exec() R==null.

内部エラー: Nodecmd.exec() R==null

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3043:Error: Remote connection to *node* failed, Exception: *message*.

エラー: *node* へのリモート接続に失敗しました。例外: *message*

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3044:Error: Invoking remote application *command* on *node* exited with the following error: *message*.

エラー: *node* 上のリモートアプリケーション *command* の起動が、次のエラーで終了しました: *message*

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3072:Error: SysNode *node_name* points to *node_kind node_name*.

エラー: SysNode node_name はnode_kind node_name を示します。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3088:empty graph.

グラフが空です。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

3089:Graph has only *number_of_nodes* disjoint nodes and no arcs.

グラフには *number_of_nodes* 個の孤立したグラフノードのみがあります。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

3091:Application is inconsistent. Analyse configuration before applying any RMS operation.

アプリケーションがInconsistent状態です。RMSの操作を行う前にRMS設定を調べてください。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

3102:Internal Error: Unknown node type: *node_type*.

内部エラー: 不明なノードタイプ : *node_type*

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

3130:Error in loading image: *image_name*.

イメージのロード中にエラーが発生しました: *image_name*

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

3131=Fatal Error clusterTable: No clusterWide in clusterTable.

clusterTableの致命的エラー：clusterTableにclusterWideがありません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3132=Fatal Error clusterTable: No tableLayout in clusterTable.

clusterTableの致命的エラー：clusterTableにtableLayoutがありません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3133=Fatal Error clusterWide: no pointer to rmsCluster.

clusterWideの致命的エラー: rmsClusterへのポインタがありません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3134=Fatal Error clusterWide: no pointer to session.

clusterWideの致命的エラー: セッションへのポインタがありません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3135=Fatal Error clusterWide: update_display called without cluster_table.

clusterWideの致命的エラー: update_displayの呼び出しにcluster_tableが指定されていません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3136=Fatal Error nodeTable: No layout in nodeTable.

nodeTableの致命的エラー: nodeTableにレイアウトがありません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3137=Fatal Error nodeTable: Null value at row *row* and at column *column*.

nodeTableの致命的エラー: 行 *row* 、列 *column* の値がnull値です。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3143=Error: No output received from command *rcinfo*.

エラー: コマンド *rcinfo*の出力がありません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3156:Error: Unable to get HV_RCSTART value on *node.*

エラー: *node* のHV_RCSTART値が取得できません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3157:Error: Unable to get HV_AUTOSTARTUP value on *node.*

エラー: *node* のHV_AUTOSTARTUP値が取得できません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3158:Error: Unable to set HV_RCSTART value on *node.*

エラー: *node* のHV_RCSTART値が設定できません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3159:Error: Unable to set HV_AUTOSTARTUP value on *node*.

エラー: *node* のHV_AUTOSTARTUP値が設定できません。

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

3.2 CRMビューのメッセージ

CRMビューに関するメッセージを以下に示します。

以下の表示形式を持つメッセージが表示された場合には、必要に応じて各メッセージの対処を行ってください。

◆表示形式

CRMビューでの操作中に表示されたメッセージ、およびメッセージダイアログのフレームタイトルが“Cluster resource management facility”となっているメッセージが表示された場合

3.2.1 情報メッセージ

CRMビューの情報メッセージについて説明します。

0701 There is not the fault resource.
故障しているリソースはありません。

内容

cldispfaultrsc コマンドの出力結果に、故障リソースが見つかりませんでした。

3.2.2 エラーメッセージ

CRMビューのエラーメッセージについて、メッセージ番号順に説明します。

0765 Communication with the management server failed.
管理サーバへのアクセス中に異常が発生しました。

内容

ブラウザとWeb-Based Admin View 管理サーバとの間で通信エラーが発生しています。このエラーはクライアントのブラウザがオペレータ介入メッセージに応答しようとしたときに発生しました。

対処

＜OK＞をクリックしてエラーメッセージ画面を閉じてください。
再実行してもエラーが発生する場合は、clreply コマンドを使用して応答します。Web-Based Admin View のメッセージが表示される場合は、そのメッセージの指示に従ってください。

上記の方法で問題が解決しない場合は、メンテナンス情報を収集して、当社技術員 (SE) に連絡してください。メンテナンス情報の収集については、“PRIMECLUSTER Web-Based Admin View 操作手引書”の“B.2 トラブル調査情報の採取方法”を参照してください。
メッセージ0001 ～0099 の詳細については、“PRIMECLUSTER Web-Based Admin View 操作手引書”の“付録A メッセージ一覧”を参照してください。

0766 The command terminated abnormally.
コマンドが異常終了しました。

内容

cldispfaultrsc コマンドまたはclreply コマンドが異常終了しました。

対処

コマンドの失敗により出力されるエラーメッセージを参照して、メッセージに示される処置を実行してください。

0767 The command execution failed.
コマンドの実行に失敗しました。

内容

ノードにアクセスしてclreply コマンドを実行できません。

対処

詳細情報に参照できないSysNode が示されている場合は、SysNode 上でclreply コマンドを実行してオペレータ介入メッセージに応答できます。GUI で応答を行う場合は、SysNode 上でWeb-Based Admin View を再起動してください。
それ以外の場合は、Web-Based Admin View の管理サーバとなるノード上でWeb-Based Admin View を再起動してください。Web-Based Admin View を再起動する方法については、“Web-Based Admin View 操作手引書”の“6.2 再起動”を参照してください。
障害が解決しない場合は、メンテナンス情報を収集して、当社技術員 (SE) に連絡してください。
メンテナンス情報の詳細については、“PRIMECLUSTER Web-Based Admin View 操作手引書”の“B.2 トラブル調査情報の採取方法”を参照してください。

0790 The error occurred while collecting the fault resources.
故障リソースの収集に失敗しました。

内容

リソースデータを収集中にノードへの接続に失敗しました。

対処

影響を受けるクライアントのWeb-Based Admin View の管理サーバを再起動してください。詳細については、“PRIMECLUSTER Web-Based Admin View 操作手引書”を参照してください。
サーバを再起動して問題を解決できない場合は、メンテナンス情報を収集して、当社技術員(SE) に連絡してください。メンテナンス情報の詳細については、“PRIMECLUSTER Web-Based Admin View 操作手引書”の“B.2 トラブル調査情報の採取方法”を参照してください。

0791 You are not the access authority which can reply to this message.
メッセージに応答できるユーザ権限ではありません。

内容

Web-Based Admin View にログインしたユーザアカウントには、このオペレータ介入メッセージに応答する権限がありません。

対処

Web-Based Admin View からログアウトしてください。root として、あるいはwvroot 、clroot 、またはcladmin に属するユーザとして再びログインし、オペレータ介入メッセージに応答してください。

0792 The error occurred while accessing the management server. Please select [Continue], and end the Resource Fault History.

管理サーバアクセス中にエラーが発生しました。「続行」を選択して、Resource Fault History を終了させてください。

内容

Web-Based Admin View の管理サーバにアクセスしているときに、エラーが発生しました。

対処

＜続行＞ボタンを選択して“故障リソース一覧”画面を閉じてください。ブラウザと管理サーバの間のネットワークが一時的に切断されているだけの場合は、＜続行＞ボタンを選択して“故障リソース一覧”画面を閉じます (たとえば、再起動した場合やLAN ケーブルを一時的に切断した場合などには＜接続＞を選択する必要があります)。Web-Based Admin View のメッセージが表示される場合は、そのメッセージの指示に従います。Web-Based Admin View のメッセージが表示されない場合は、トップメニューから [故障リソース一覧] を選択して再起動してください。

＜続行＞ボタンで接続し直しても問題が修正されない場合は、メンテナンス情報を収集して、当社技術員 (SE) に連絡してください。メンテナンス情報の収集については、“PRIMECLUSTER Web-Based Admin View 操作手引書”の“B.2 トラブル調査情報の採取方法”を参照してください。

3.3 userApplication Configuration Wizard GUI のメッセージ（Solaris）

userApplication Configuration Wizard GUI が表示するメッセージについて説明します。
メッセージ番号を確認し、以下の表から該当箇所を参照してください。

メッセージ番号	参照箇所
0801～	"3.3.1 情報メッセージ"
0830～	"3.3.2 警告メッセージ"
0880～	"3.3.3 エラーメッセージ"

3.3.1 情報メッセージ

userApplication Configuration Wizard GUI の情報メッセージを、メッセージ番号順に説明します。

0801 Do you want to exit userApplication Configuration Wizard GUI?

処理を終了しますか？

内容

userApplication Configuration Wizard GUI を終了するかどうか問い合わせています。

対処

userApplication Configuration Wizard GUI を終了する場合は＜はい＞を選択し、終了しない場合は＜いいえ＞を選択してください。

0802 Do you want to cancel the setup process?

処理を中断しますか？

内容

userApplication Configuration Wizard GUI で操作中の処理を中断するかどうか問い合わせています。

対処

userApplication Configuration Wizard GUI で操作中の処理を中断する場合は＜はい＞を選択し、中断を取り消す場合は＜いいえ＞を選択してください。

0803 Do you want to register setup in a cluster system?

設定内容をシステムに登録しますか？

内容

設定内容をシステムに登録するかどうか問い合わせています。

対処

設定内容をシステムに登録する場合は＜はい＞を選択し、設定内容をシステムに登録しない場合は＜いいえ＞を選択してください。

0805 GUI is generating RMS Configuration.

RMS Configuration 情報を生成しています。

内容

RMS Configuration 情報が生成中であることを示しています。

対処

このメッセージは、RMS Configuration の生成が完了すると自動的に消えます。このメッセージが表示されなくなるまで待ってください。

0807 Do you want to remove only selected userApplication (*userApplication name*)? Do you want to remove all the resources under userApplication?

選択されているクラスタアプリケーション (*userApplication name*) だけを削除しますか？ クラスタアプリケーション配下のすべてのリソースも削除しますか？

内容

削除する対象が、選択されているクラスタアプリケーションだけか、クラスタアプリケーション配下のすべてのリソースもかを問い合わせています。
userApplication name は、削除対象となるクラスタアプリケーションの名前を表します。

対処

クラスタアプリケーションのみの削除を行う場合は、＜userApplication のみ＞を選択し、クラスタアプリケーション配下のリソースもすべて削除する場合は、＜全て＞を選択し、中止する場合は＜取消＞を選択してください。

0808 Do you want to remove only selected Resource (*resource name*) and all the resources under Resource?

選択されているリソース (*resource name*) およびリソース配下のすべてのリソースを削除しますか？

内容

選択されているリソースおよびリソース配下のすべてのリソースを削除するかを問い合わせています。

対処

メッセージ内の *resource name* で示されるリソースとその配下のリソースを削除する場合は＜はい＞を選択し、削除しない場合は＜いいえ＞を選択してください。

0810 Node name takeover is registered or removed in userApplication. You need to restart SysNode to enable or disenable takeover network. Restart SysNode after completing setup.

ノード名引継ぎがクラスタアプリケーションに登録、または削除されました。引継ぎネットワークを有効、または無効にするためには SysNode の再起動が必要です。設定処理終了後、SysNode の再起動を行ってください。

内容

ノード名引継ぎがクラスタアプリケーションに登録、または削除された場合、引継ぎネットワークを有効、または無効にするためには SysNode の再起動が必要です。

対処

設定処理が完了次第、ノード名引継ぎを設定したクラスタアプリケーションを含むすべての SysNode を再起動してください。

0813 GUI is reading RMS Configuration.

RMS Configuration 情報を読み込み中です。しばらくお待ちください。

内容

userApplication Configuration Wizard GUI が RMS Configuration 情報を収集しています。

対処

GUI 内部で、処理が終了するまで閉じることはできません。

0814 GUI is saving RMS Configuration in a system.

RMS Configuration をシステムに反映中です。しばらくお待ちください。

内容

userApplication Configuration Wizard GUI が RMS Configuration 情報を収集しています。

対処

GUI 内部で、処理が終了するまで閉じることはできません。

0815 GUI is generating RMS Configuration.

RMS Configuration を生成しています。しばらくお待ちください。

内容

userApplication Configuration Wizard GUI が RMS Configuration 情報を生成しています。

対処

GUI 内部で、処理が終了するまで閉じることはできません。

0816 Do you want to generate RMS Configuration?

RMS Configuration 情報の生成を行いますか？

内容

userApplication Configuration Wizard GUI が RMS Configuration 情報の生成を行うかどうかを問い合わせています。

対処

userApplication Configuration Wizard GUI が RMS Configuration 情報を生成する場合は＜はい＞を選択し、生成しない場合は＜いいえ＞を選択してください。

0817 Do you want to distribute RMS Configuration?

RMS Configuration 情報の配布を行いますか？

内容

userApplication Configuration Wizard GUI が RMS Configuration 情報の配布を行うかどうかを問い合わせています。

対処

userApplication Configuration Wizard GUI が RMS Configuration 情報を配布する場合は＜はい＞を選択し、配布しない場合は＜いいえ＞を選択してください。

3.3.2 警告メッセージ

userApplication Configuration Wizard GUI の警告メッセージを、メッセージ番号順に説明します。

0830 Since other client is using userApplication Configuration Wizard GUI or the hvw(1M), GUI cannot be started.

userApplication Configuration Wizard GUI や hvw コマンドが他のクライアントで使用中のため、起動できません。

内容

userApplication Configuration Wizard GUI や hvw コマンドは、他のクライアントで使用中の場合、起動できません。

対処

他のクライアントで userApplication Configuration Wizard GUI がすでに起動されていないか、hvw コマンドを使用していないかを確認してください。他の操作を終了してから、再度起動し直してください。

GUI を表示中に Web ブラウザや Web-Based Admin View のクラスタ管理サーバが再起動した場合でも、次回起動時に、このメッセージが表示される場合があります。このような場合は、5 分程度待ってから、再度 Web ブラウザおよび GUI を起動してください。

0832 Cluster resource management facility is not running. Since a list of candidate interfaces cannot be obtained, GUI is terminated.

クラスタリソース管理機構が動作していません。インタフェースの候補一覧が取得できないため処理を終了します。

内容

クラスタリソース管理機構が動作していません。インタフェースの候補一覧が取得できないため処理を終了します。

対処

本現象が発生する原因として、以下のものがあります。

- **原因1**

  クラスタリソース管理機構の初期構成設定を完了していないノードが、Web-Based Admin View の監視対象ノードに含まれている。

- **原因2**

  クラスタリソース管理機構が動作していないノードが、Web-Based Admin View の監視対象ノードに含まれている。

- **原因3**

  /etc/inet/services ファイルの内容に誤りがあり、ネットワークサービスを使用するソフトが起動できない状態となっている可能性があります。

原因1の確認方法

クラスタリソース管理機構の初期構成設定を完了していないノードが、Web-Based Admin View の監視対象ノードに含まれていないかを確認してください。

以下の手順で確認します。

1. Web-Based Admin View の監視対象ノードの確認

   wvstat (1M) を実行して、各運用管理サーバの監視対象ノードを確認します。
   wvstat (1M) については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照してください。

2. リソースデータベースの設定の確認

   Cluster Admin の CRM メインウィンドウ、または、clgettree (1) を使用し、手順1.で確認したすべてのノードが表示されることを確認します。
   clgettree (1) については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照してください。

Web-Based Admin View で業務 LAN とは異なるネットワークを使用して運用管理を行っている場合は、手順1.で表示されるノード名と手順 2.で表示されるノード名が異なります。

原因1の対処

クラスタリソース管理機構の初期構成設定のみが完了していない場合は、クラスタリソース管理機構の初期設定が完了していないノードで、初期構成設定および、自動構成を行ったあと、userApplication Configuration Wizard GUI を使用してください。

クラスタリソース管理機構の初期設定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照してください。

製品パッケージのインストールのみ完了している場合は、"ノード増設" に従って、ノードを増設したあと、userApplication Configuration Wizard GUI を使用してください。

これ以外の場合は、クラスタリソース管理機構の初期構成設定が完了していないノードの、Web-Based Admin View の運用管理サーバの設定を、現在設定されている運用管理サーバとは異なるホストに変更してください。

Web-Based Admin View の運用管理サーバの変更方法については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" の "運用管理サーバの初期設定" を参照してください。

原因2の確認方法

クラスタリソース管理機構が動作していないノードが、Web-Based Admin View の監視対象ノードに含まれていないかを確認してください。

以下の手順で確認します。

1. Web-Based Admin View の監視対象ノードの確認

   wvstat (1M) を実行して、各運用管理サーバの監視対象ノードを確認します。
   wvstat (1M) については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照してください。

2. クラスタリソース管理機構の動作状況の確認

   Cluster Admin の CRM メインウィンドウ、または、clgettree (1) を使用し、ノードの状態が、「ON」以外になっているノードを確認します。
   clgettree (1) については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照してください。

原因2の対処

クラスタリソース管理機構が動作していないノードを起動してください。

原因3の対処

/etc/inet/services ファイルを正しい内容に編集してください。

0833 RMS is running. Since Configuration might not be saved, GUI is terminated.

RMS が動作中です。構成情報が反映できない可能性があるため処理を終了します。

内容

RMS が動作中です。作成や変更を行おうとした Configuration 情報の生成や配布に失敗する可能性があります。

対処

RMS を停止後、再度実行してください。

0834 An invalid character is included.

不適切な文字が含まれています。

内容

クラスタアプリケーション名、リソース名、スクリプト名、スクリプトパスに不適切な文字が含まれています。

対処

クラスタアプリケーション名、リソース名、スクリプト名、スクリプトパスに不適切な文字が含まれないように入力し直してください。

0835 Removing resource (*resource name*) will concurrently remove userApplication (*userApplication name*). Do you want to continue?

この Resource (*resource name*) を削除するとクラスタアプリケーション (*userApplication name*) も同時に削除されます。処理を続けますか？

内容

クラスタアプリケーション配下のすべてのリソースを削除しようとしています。

対処

メッセージ内の *userApplication name* で示されるクラスタアプリケーションとその配下のリソース (*resource name*) をすべて削除する場合は＜はい＞を選択し、削除処理を行わない場合は＜いいえ＞を選択してください。

0836 A name is not entered.

名前が設定されていません。

内容

クラスタアプリケーションまたはリソース名、スクリプト名が設定されていません。

対処

クラスタアプリケーションまたはリソース名、スクリプト名を入力してください。

0837 A value is invalid.

適切な数値ではありません。

内容

TIMEOUT やネットマスク、プレフィックス長などに入力した数値が適切な値ではありません。

対処

適切な値を再度入力してください。

0838 The specified takeover IP address is not available.

指定された引継ぎ IP アドレスは使用できません。

内容

指定された引継ぎ IP アドレスは使用できません。

対処

引継ぎ IP アドレスを入力し直してください。

0839 There is an incorrect setup.

設定した項目に誤りがあります。(誤りのある内容)

内容

設定した項目に、示された内容の誤りがあります。

対処

(誤りのある内容) の属性を変更し、操作を続行してください。

0840 The takeover network name has been defined. Do you want to use the following definitions?

引継ぎネットワーク名の定義が既に設定されています。以下の定義値をそのまま使用しますか？ (設定済の内容)

内容

すでに /usr/opt/reliant/etc/hvipalias ファイルに、引継ぎネットワークの情報が記載されています。

対処

その設定値を使用する場合は、「はい」を選択してください。

「いいえ」を選択した場合は、userApplication Configuration Wizard GUI が、前述のファイルと /etc/inet/hosts の引継ぎネットワーク情報を再作成します。この場合、Ipaddress リソースの削除時に、/usr/opt/reliant/etc/hvipalias と /etc/inet/hosts から、引継ぎネットワークの情報を自動的に削除できるようになります。

0841 There is an attribute different than the ones of other resources. Do you want to continue?"

他のリソースと設定値の異なる属性があります。処理を続行しますか？（設定値の異なる属性の情報）

内容

他のリソースと設定値の異なる属性があるが、処理を続行するかどうかを確認しています。

対処

表示された属性値に問題がないか見直してください。

「はい」を選択した場合は、設定された属性情報をそのまま設定します。

0848 The file name is not specified.

ファイル名が指定されていません。

内容

ファイル名が指定されていません。

対処

参照ファイルのパスを入力してください。

0849 A required setup is missing.

必要な項目が設定されていません。

内容

必要な項目が設定されていません。

対処

画面で必要な項目の設定を行ってください。

0852 It is not a proper combination.

適切な組み合せではありません。

内容

排他関係を設定したクラスタアプリケーションの組み合せが正しくありません。

対処

1つの排他グループには、2つ以上のクラスタアプリケーションを設定する必要があります。

0856 The selected userApplication or Resource cannot be edited.

指定された名前が無効、または既に使用されています。

内容

指定された名前が無効、または既に使用されています。

対処

クラスタアプリケーション名、Resource 名を変更して、再度設定処理を行ってください。

0857 The specified takeover Ipaddress or host name has been used.

指定された引継ぎ IP アドレスまたは、ホスト名が既に使用されています。

内容

指定された引継ぎ IP アドレスまたは、ホスト名が既に使用されています。

対処

IP アドレスやホスト名を入力し直してください。

0859 Invalid file name or path.

指定されたファイルまたはディレクトリが見つかりません。

内容

指定されたファイルまたはディレクトリが見つかりません。

対処

参照ファイルのパスを入力し直してください。

0860 The specified file exists. Do you want to replace it?

指定されたファイルが既に存在します。置換えますか？

内容

作成しようとしたファイルがすでに存在しています。

対処

＜はい＞を選択した場合は、置換します。＜いいえ＞を選択した場合は、置換しません。

0861 The specified interface is different. Do you want to set up IP address?

指定されたインタフェースが異なります。IP アドレスを設定しますか？

内容

引継ぎネットワークで使用するネットワークインタフェースカード（NIC）に割り当てている IP アドレスのセグメントが異なっています。

対処

このまま設定を続ける場合は、＜はい＞を選択します。NIC を再度選択する場合は、＜いいえ＞を選択してください。

0866 The file system has been used.

ファイルシステムはすでに使用されています。

内容

作成しようとしているファイルシステムが、すでに使用中です。

対処

他のデバイスパスやマウントポイントを設定してください。

0867 Since a list of candidate interfaces cannot be obtained. The process is exited.

インタフェースの候補一覧が取得できないため処理を終了します。

内容

リソースに設定しようとしているインタフェースの候補が取得できませんでした。

対処

クラスタリソース管理機構に事前登録を行っているか確認し、再度操作を行ってください。

0868 It is not an executable file.

実行可能なファイルではありません。

内容

指定されたファイルは、実行可能なファイルではありません。

対処

他のファイルを使用するか、ファイルに実行権を付けてください。

3.3.3 エラーメッセージ

userApplication Configuration Wizard GUI のエラーメッセージを、メッセージ番号順に説明します。

0880 A non-classified error occurred.

未分類のエラーが発生しました。(サーバからのエラー)

内容

userApplication Configuration Wizard GUI 内部でエラーが発生しました。

対処

Java コンソール／エラーダイアログのハードコピー／調査情報の採取後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

0881 Connection to the server failed.

サーバとの通信に失敗しました。

内容

サーバの内部矛盾または、Web ブラウザとクラスタ管理サーバ間のネットワークを切断するような事象(再起動、シャットダウン、緊急停止、LAN のケーブルが抜けている)が発生している可能性があります。

対処

Web-Based Admin View のメッセージが表示されている場合は、そのメッセージの対処方法に従ってください。

Web-Based Admin View のメッセージが表示されていない場合は、このメッセージに応答し、userApplication Configuration Wizard を再度起動してください。

上記方法で対処できない場合には、Java コンソール／エラーダイアログのハードコピー／調査情報の採取後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

0882 A non-supported package is installed.　Check the version.

未サポートのパッケージがインストールされています。パッケージのバージョン情報を確認してください。(詳細情報)

内容

userApplication Configuration Wizard GUI が必要としているパッケージのバージョンと異なるバージョンのパッケージが、クラスタノードにインストールされています。

対処

(詳細情報)に出力された情報を参照し、クラスタノードの該当パッケージを再度インストールしてください。

0883 Since the specified file is in the non-supported format, it cannot be edited.

指定されたファイルは、未サポートのフォーマットであるため、編集できません。

内容

編集しようとしたファイルは、Bourne, C, korn shell 以外のため、編集できません。

対処

別のファイルを指定してください。

0886 Since a list of candidate interfaces that can set in Resource is not acquired, the process is exited.

リソースに設定することができるインタフェースの候補一覧を取得できませんでした。処理を終了します。

内容

リソースに設定する情報の候補一覧が取得できませんでした。

対処

クラスタリソース管理機構が動作しているか、自動リソース登録は行われているか、Gds や Gls の設定が行われているかを確認してください。それらの設定が行われていなかった場合、それらの設定を行った後、再度処理を実行してください。

0888 The command is abnormally terminated.

コマンドが異常終了しました。(コマンドからのメッセージ出力)

内容

コマンドが異常終了しました。コマンドからのメッセージが出力されます。

対処

再度同様の操作を行っても、現象が変わらない場合は、Java コンソール／エラーダイアログのハードコピー／調査情報の採取後、当社技術員(SE)に連絡してください。
また、コマンドからのメッセージ出力には "FJSVcluster" のキーワードとメッセージ番号が記載されていることがあります。その場合は、"第4章 FJSVcluster 形式のメッセージ" に従って対処してください。

調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

0889 The command execution failed.

コマンドの実行に失敗しました。(コマンドからのメッセージ出力)

内容

コマンドの実行に失敗しました。コマンドからのメッセージが出力されます。

対処

再度同様の操作を行っても、現象が変わらない場合は、Java コンソール／エラーダイアログのハードコピー／調査情報の採取後、当社技術員(SE)に連絡してください。
調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

0890 The SysNode for executing a command cannot be found.

コマンドを実行する SysNode が見つかりません。

内容

Web-Based Admin View の 3 層構成を使用している場合で、その管理サーバからアクセスできるクラスタノードがありません。

対処

クラスタノードの Web-Based Admin View が動作しているかを確認してください。Web-Based Admin View の動作状況は、/etc/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvstat を実行することで確認できます。

Web-Based Admin View の環境に問題がなく、現象が変らない場合は、Java コンソール／エラーダイアログのハードコピー／調査情報の採取後、当社技術員(SE)に連絡してください。
調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

0891 Reading RMS Configuration failed.

RMS Configuration 情報の読み込みが失敗しました。

内容

RMS Configuration 情報が、解析できない状態です。

対処

クラスタアプリケーションやリソースを作成していない状態であれば、別の Configuration 情報に変更してください。

現象が変らない場合は、Java コンソール／エラーダイアログのハードコピー／調査情報の採取後、当社技術員(SE)に連絡してください。
調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

0893 RMS Configuration generation failed.

RMS Configuration 情報の生成が失敗しました。(コマンドからのメッセージ出力)

内容

RMS Configuration 情報の生成が失敗しました。コマンドからのメッセージが出力されます。

対処

最初から操作をやり直してください。

上記方法で対処できない場合には、Java コンソール／エラーダイアログのハードコピー／調査情報の採取後、当社技術員(SE)に連絡してください。
調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

0895 RMS Configuration distribution failed.

RMS Configuration 情報の配布が失敗しました。(コマンドからのメッセージ出力)

内容

RMS Configuration 情報の配布が失敗しました。コマンドからのメッセージが出力されます。

対処

以下のことを確認してください。

1. クラスタアプリケーションに関連していないリソースが存在していないか。
2. リソースが 1つもないクラスタアプリケーションが存在していないか。

上記の状態の場合は、不要なクラスタアプリケーションやリソースを削除してください。

上記現象でない場合は、最初から操作をやり直してください。

それでもエラーとなる場合には、Java コンソール／エラーダイアログのハードコピー／調査情報の採取後、当社技術員（SE）に連絡してください。
調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

第4章 FJSVcluster 形式のメッセージ

本章では、PRIMECLUSTER の環境設定や運用を行う際に出力される FJSVcluster 形式のメッセージについて説明します。

メッセージに出力されている重要度とメッセージ番号を確認し、以下の表から該当箇所を参照してください。本書では、メッセージ番号以降の部分だけを掲載しています。

重要度	メッセージ番号	参照先
停止 (HALT)	0000～0999	"4.1 停止(HALT)メッセージ"
応答 (QUESTION)	1000～1999	"4.2 応答(QUESTION)メッセージ"
情報 (INFO)	2000～2206, 2208～3999	"4.3 情報(INFO)メッセージ"
警告 (WARNING)	2207, 4000～5999	"4.4 警告(WARNING)メッセージ"
エラー (ERROR)	????, 6000～7999	"4.5 エラー(ERROR)メッセージ"

4.1 停止(HALT)メッセージ

FJSVcluster 形式の停止(HALT)メッセージを、メッセージ番号順に説明します。

0100 Cluster configuration management facility terminated abnormally.

クラスタ制御の構成管理機構が異常終了しました。

内容

クラスタ制御の構成管理機構が異常終了したことを示しています。

対処

本メッセージの直前に表示されたエラーメッセージの対処法に従って対処してください。直前にエラーメッセージが表示されていなければ、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

0101 Initialization of cluster configuration management facility terminated abnormally.

クラスタ制御の構成管理機構の初期化処理が異常終了しました。

内容

クラスタ制御の構成管理機構の初期化処理が異常終了したことを示しています。

対処

本メッセージの直前に表示されたエラーメッセージの対処法に従って対処してください。直前にエラーメッセージが表示されていなければ、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

0102 A failure occurred in the server. It will be terminated.

ノードで異常が発生したため強制停止します。

内容

ノードで異常が発生したため強制停止することを示しています。

対処

本メッセージの直前に表示されたエラーメッセージの対処法に従って対処してください。

4.2 応答(QUESTION)メッセージ

応答を要求するメッセージをメッセージ番号順に説明します。

応答の方法には、以下の 2 通りの方法があります。

- GUI(Cluster Admin) での応答
- コマンドプロンプトから clreply コマンドでの応答

1421 The userApplication " *userApplication* " did not start automatically because not all of the nodes where it can run are online.
Do you want to force the userApplication online on the SysNode " *SysNode*"?
Message No.:*number*
Do you want to do something? (yes/no) Warning:Forcing a userApplication online ignores potential error conditions. Used improperly, it can result in data corruption. You should not use it unless you are certain that the userApplication is not running anywhere in the cluster.

クラスタアプリケーション "*userApplication*" は、クラスタアプリケーションを構成するすべての SysNode が所定時間内に起動しなかったため、自動起動しませんでした。
クラスタアプリケーションを SysNode " *SysNode* " で強制起動しますか ? (yes/no) メッセージ番号: *number*
警告:クラスタアプリケーションの強制起動は安全性チェックが無効になります。使い方を誤ると、データが破損したり整合性が失われる場合があります。強制起動するクラスタアプリケーションが、クラスタ内でオンラインでないことを確認した上で実行してください。

内容

Solaris PRIMECLUSTER 4.2A00以前、Linux PRIMECLUSTER 4.3A20以前の場合

クラスタアプリケーションを構成するすべての SysNode が所定時間内に起動しなかったため、クラスタアプリケーションが自動起動しなかったことを示しています。

クラスタアプリケーションを強制起動するかどうかを問い合わせています。

SysNode は、yes を選択すればクラスタアプリケーションが Online になる SysNode を示します。

number はメッセージ番号を示します。

1421 The userApplication " *userApplication* " did not start automatically because not all of the nodes where it can run are online.
Forcing the userApplication online on the SysNode "*SysNode*" is possible.
Warning: When performing a forced online, confirm that RMS is started on all nodes in the cluster,manually shutdown any nodes where it is not started and then perform it.For a forced online, there is a risk of data corruption due to simultaneous access from several nodes.In order to reduce the risk, nodes where RMS is not started maybe forcibly stopped.
Are you sure wish to force online? (yes/no) Message No: *number*

クラスタアプリケーション "*userApplication*" は、クラスタアプリケーションを構成するすべての SysNode が所定時間内に起動しなかったため、自動起動しませんでした。
クラスタアプリケーションを SysNode " *SysNode* " で強制起動できます。
警告: 強制起動を行う場合、クラスタを構成するすべてのノードでRMSが起動しているか確認し、起動していないノードは、手動でシャットダウンしてから行ってください。強制起動では、複数ノードからの同時アクセスによるデータ破損のリスクがあります。そのリスクを低減するため、RMSが起動していないノードを強制停止する場合があります。
強制起動してもよろしいですか ? (yes/no) メッセージ番号:*number*

内容

Solaris PRIMECLUSTER 4.3A10以降、Linux PRIMECLUSTER 4.3A30以降の場合

クラスタアプリケーションを構成するすべての SysNode が所定時間内に起動しなかったため、クラスタアプリケーションが自動起動しなかったことを示しています。クラスタアプリケーションを強制起動するかどうかを問い合わせています。

SysNode は、yes を選択すればクラスタアプリケーションが Online になる SysNode を示します。

number はメッセージ番号を示します。

クラスタアプリケーションを強制起動する際は、PRIMECLUSTER 4.3A30以降の場合、“PRIMECLUSTER 導入運用手引書”の“7.5.1 クラスタアプリケーションの強制切替えに関する注意”、PRIMECLUSTER 4.3A20以前の場合、“PRIMECLUSTER 活用ガイド＜クラスタ構築・運用時の留意点＞”の“6.1.1 クラスタアプリケーションの強制切替えに関する注意”を確認してから行ってください。

1422 On the SysNode " *SysNode* ", the userApplication " *userApplication* " is in the Faulted state due to a fault in the resource " *resource* ". Do you want to clear fault? Message No.:*number*
Do you want to do something? (yes/no)

SysNode "*SysNode*" のクラスタアプリケーション "*userApplication*" はリソース "*resource*" が故障したため Faulted 状態です。
Faulted 状態をクリアしますか。(yes/no) メッセージ番号: *number*

内容

リソースが故障したため Faulted 状態になったクラスタアプリケーションの Faulted 状態をクリアするかどうかを問い合わせています。

SysNode は障害が発生した SysNode の名前を示します。*userApplication* は障害が発生したクラスタアプリケーションの名前を示します。*resource* はクラスタアプリケーションの障害の原因となったリソースの名前を示します。*number* はメッセージ番号を示します。

対処

故障が回復している場合は、yes を選択してください。
故障が回復していない場合は、no を選択して故障原因を取り除いてから hvutil コマンドで Faulted 状態をクリアしてください。

- yes を選択した場合
  yes を選択すると、オペレータ介入機能が hvutil コマンドにクリアオプションを指定して実行し、クラスタアプリケーションを Offline にします。Cluster Admin でクラスタアプリケーションが Offline 状態になっているかどうかを確認してください。または、hvdisp コマンドを使用して、クラスタアプリケーションが Offline になったかどうかを確認してください。

- no を選択した場合
  no を選択すると、オペレータ介入機能はクラスタアプリケーションを Offline にする RMS コマンドを実行しません。

1423 On the SysNode " SysNode ", the userApplication " *userApplication* " has the faulted resource " resource ". The userApplication " *userApplication* " did not start automatically because not all of the nodes where it can run are online.
Do you want to force the userApplication online on the SysNode " *SysNode* "?
Message No.:*number*
Do you want to do something? (yes/no) Warning:Forcing a userApplication online ignores potential error conditions. Used improperly, it can result in data corruption. You should not use it unless you are certain that the userApplication is not running anywhere in the cluster.

SysNode " *SysNode* " のクラスタアプリケーション "*userApplication*" は、リソース "resource" が故障しています。クラスタアプリケーション "*userApplication*" は、すべての SysNode が所定時間内に起動しなかったため、自動起動しませんでした。
クラスタアプリケーションを SysNode "*SysNode*" で強制起動しますか? (yes/no) メッセージ番号: *number*
警告:クラスタアプリケーションの強制起動は安全性チェックが無効になります。使い方を誤ると、データが破損したり整合性が失われる場合があります。強制起動するクラスタアプリケーションが、クラスタ内でオンラインでないことを確認した上で実行してください。

内容

Solaris PRIMECLUSTER 4.2A00以前、Linux PRIMECLUSTER 4.3A20以前の場合

クラスタアプリケーションのリソースが故障しており、すべての SysNode が所定時間内に起動しなかったため、クラスタアプリケーションが自動起動しなかったことを示しています。

クラスタアプリケーションを強制起動するかどうかを問い合わせています。

SysNode は障害が発生した SysNode の名前を示します。*userApplication* は障害が発生したクラスタアプリケーションの名前を示します。

resource はクラスタアプリケーションの障害の原因となったリソースの名前を示します。*number* はメッセージ番号を示します。

1423 On the SysNode " *SysNode* ", the userApplication " *userApplication* " has the faulted resource " *resource* ".The userApplication " *userApplication* " did not start automatically because not all of the nodes where it can run are online.
Forcing the userApplication online on the SysNode "*SysNode*" is possible.
Warning: When performing a forced online, confirm that RMS is started on all nodes in the cluster,manually shutdown any nodes where it is not started and then perform it.For a forced online, there is a risk of data corruption due to simultaneous access from several nodes. In order to reduce the risk, nodes where RMS is not started maybe forcibly stopped.
Are you sure wish to force online? (yes/no) Message No: *number*

SysNode " *SysNode* " のクラスタアプリケーション "*userApplication*" は、リソース "*resource*" が故障しています。クラスタアプリケーション "*userApplication*" は、すべての SysNode が所定時間内に起動しなかったため、自動起動しませんでした。
クラスタアプリケーションを SysNode " *SysNode* " で強制起動できます。
警告: 強制起動を行う場合、クラスタを構成するすべてのノードでRMSが起動しているか確認し、起動していないノードは、手動でシャットダウンしてから行ってください。強制起動では、複数ノードからの同時アクセスによるデータ破損のリスクがあります。そのリスクを低減するため、RMSが起動していないノードを強制停止する場合があります。
強制起動してもよろしいですか ? (yes/no) メッセージ番号:*number*

内容

Solaris PRIMECLUSTER 4.3A10以降、Linux PRIMECLUSTER 4.3A30以降の場合

クラスタアプリケーションのリソースが故障しており、すべての SysNode が所定時間内に起動しなかったため、クラスタアプリケーションが自動起動しなかったことを示しています。クラスタアプリケーションを強制起動するかどうかを問い合わせています。

SysNode は障害が発生した SysNode の名前を示します。*userApplication* は障害が発生したクラスタアプリケーションの名前を示します。*resource* はクラスタアプリケーションの障害の原因となったリソースの名前を示します。

number はメッセージ番号を示します。

クラスタアプリケーションを強制起動する際は、PRIMECLUSTER 4.3A30以降の場合、“PRIMECLUSTER 導入運用手引書”の“7.5.1 クラスタアプリケーションの強制切替えに関する注意”、PRIMECLUSTER 4.3A20以前の場合、“PRIMECLUSTER 活用ガイド＜クラスタ構築・運用時の留意点＞”の“6.1.1 クラスタアプリケーションの強制切替えに関する注意”を確認してから行ってください。

4.3 情報（INFO）メッセージ

FJSVcluster 形式の情報（INFO）メッセージを、メッセージ番号順に説明します。
ほとんどの情報メッセージには対処の必要はありません。対処が必要な場合のみ対処方法を記載します。

2100 The resource data base has already been set. (detail:*code1-code2*)

リソースデータベースはすでに設定されています。(detail:*code1-code2*)

内容

リソースデータベースがすでに設定されていることを示しています。

2200 Cluster configuration management facility initialization started.

クラスタ制御の構成管理機構の初期化処理を開始しました。

内容

クラスタ制御の構成管理機構の初期化処理を開始したことを示しています。

2201 Cluster configuration management facility initialization completed.

クラスタ制御の構成管理機構の初期化処理を完了しました。

内容

クラスタ制御の構成管理機構の初期化処理が完了したことを示しています。

2202 Cluster configuration management facility exit processing started.

クラスタ制御の構成管理機構の停止処理を開始しました。

内容

クラスタ制御の構成管理機構の停止処理を開始したことを示しています。

2203 Cluster configuration management facility exit processing completed.

クラスタ制御の構成管理機構の停止処理を完了しました。

内容

クラスタ制御の構成管理機構の停止処理が完了したことを示しています。

2204 Cluster event control facility started.

クラスタ制御のイベント制御機構を開始しました。

内容

クラスタ制御のイベント制御機構を開始したことを示しています。

2205 Cluster event control facility stopped.

クラスタ制御のイベント制御機構を終了しました。

内容

クラスタ制御のイベント制御機構を終了したことを示しています。

2206 The process (*count*: *appli*) was restarted.

プロセス (*count*: *appli*) を再起動しました。

内容

プロセス監視機能は、監視対象のプロセスが停止したことを検出して、このプロセスを再起動しました。
count は、監視対象プロセスの再起動回数を示します。*appli* は、再起動した監視対象プロセスの絶対パス名を示します。

対処

本メッセージの前には 2207 番のメッセージが出力されています。
2207 番の説明を参照してください。

2620 On the SysNode " *SysNode* ", the userApplication " *userApplication* " transitioned to the state *state* . Therefore, message " *number* " has been canceled.

SysNode "*SysNode*" のクラスタアプリケーション "*userApplication*" が *state* 状態となったためメッセージ (メッセージ番号: *number*) を取り消しました。

内容

クラスタアプリケーションの状態が変更されたので、オペレータ介入メッセージに応答する必要はなくなり、メッセージがキャンセルされました。
SysNode はクラスタアプリケーションの状態が変更された SysNode の名前を示します。*userApplication* は状態が変更されたクラスタアプリケーションの名前を示します。*state* はクラスタアプリケーションの状態を示します。*number* はメッセージ番号を示します。

2621 The response to the operator intervention message " *number* " was action.

オペレータ介入要求メッセージ (メッセージ番号: *number*) に対し action が応答されました。

内容

オペレータ介入メッセージに対する応答が行われました。
number は応答したオペレータ介入メッセージの番号を示します。action は応答の有無を yes または no で示します。

2622 There are no outstanding operator intervention messages.

オペレータ介入要求メッセージは存在しません。

内容

未処理のオペレータ介入メッセージはありません。

2700 The resource fail has recovered.SysNode:*SysNode* userApplication:*userApplication* Resorce:*resource*

リソース故障が回復しました。SysNode:*SysNode* userApplication:*userApplication* Resource:*resource*

内容

リソースは障害から回復しました。
SysNode はリソースが回復した SysNode の名前を示します。*userApplication* は回復したリソースが属するクラスタアプリケーションの名前を示します。*resource* はエラー状態から回復したリソースの名前を示します。

2701 A failed resource has recovered. SysNode:*SysNode*

SysNode 故障が回復しました。SysNode:*SysNode*

内容

Faulted 状態であった *SysNode* が Online 状態になりました。
SysNode は回復した SysNode を示します。

2914 A new disk device(*disk*) was found.

ディスク装置 (*disk*) を新規に検出しました。

内容

ディスク装置を新規に検出しました。*disk* は新たに検出した共用ディスク装置を示します。

対処

新たに検出した共用ディスク装置 (*disk*) をリソースデータベースに登録してください。リソースデータベースへの共用ディスク装置の登録は、clautoconfig (1M) コマンド、または CRM メインウィンドウから行うことができます。clautoconfig(1M) コマンドの詳細については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照してください。

補足

本メッセージは、DVD-ROM 装置に DVD または CD-ROM が挿入されている状態で、ノードを起動した場合にも表示されます。"(*disk*)" に DVD-ROM 装置を示すデバイス名が表示されている場合は、リソースデータベースへ登録する必要はありません。DVD-ROM 装置に DVD または CD-ROM が挿入されていないことを確認してから、ノードを起動してください。

2927 A node (*node*) detected an additional disk. (*disk*)

ノード (*node*) でディスク装置を新規に検出しました。(*disk*)

内容

示されたノードでディスク装置を新規に検出しました。
node はディスク装置を新規に検出したノードのノード識別名、*disk* は新たに検出したディスク装置を示します。

対処

新たに検出したディスク装置 (*disk*) をリソースデータベースに登録してください。リソースデータベースへのディスク装置の登録は、clautoconfig(1M) コマンド、または CRM メインウィンドウから行うことができます。clautoconfig(1M) コマンドの詳細については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照してください。
新規に検出したディスク数が多い場合、*disk* の末尾に "..." が付加されます。その場合、*node* に表示されたノードの /var/adm/messages ファイルで 2914 番のメッセージを検索することで新規に検出したすべてのディスク装置を参照できます。

補足

本メッセージは、DVD-ROM 装置に DVD または CD-ROM が挿入されている状態で、ノードを起動した場合にも表示されます。
"(*disk*)" に DVD-ROM 装置を示すデバイス名が表示されている場合は、リソースデータベースへ登録する必要はありません。DVD-ROM 装置に DVD または CD-ROM が挿入されていないことを確認してから、ノードを起動してください。

3040 The console monitoring agent has been started. (node:*nodename*)

コンソール非同期監視機能を開始しました。(node:*nodename*)

内容

示されたノードでコンソール非同期監視機能を開始しました。

3041 The console monitoring agent has been stopped. (node:*nodename*)

コンソール非同期監視機能を停止しました。(node:*nodename*)

内容

示されたノードでコンソール非同期監視機能が停止しました。

3042 The RCI monitoring agent has been started.

RCI 非同期監視機能を開始しました。

内容

RCI 非同期監視機能を開始したことを示しています。

3043 The RCI monitoring agent has been stopped.

RCI 非同期監視機能を停止しました。

内容

RCI 非同期監視機能が停止したことを示しています。

3044 The console monitoring agent took over monitoring Node targetnode.

コンソール非同期監視機能の監視対象にノード targetnode を追加しました。

内容

コンソール非同期監視機能の監視対象にノード targetnode を追加したことを示しています。

3045 The console monitoring agent cancelled to monitor Node targetnode.

コンソール非同期監視機能の監視対象からノード targetnode を削除しました。

内容

コンソール非同期監視機能の監視対象からノード targetnode を削除したことを示しています。

3046 The specified option is not registered because it is not required for device. (option:*option*)

指定されたオプションは、device には必要ないので登録しませんでした。(option:*option*)

内容

指定されたオプションが、device には必要ないので登録しなかったことを示しています。

3050 Patrol monitoring started.

パトロール診断を開始しました。

内容

パトロール診断を開始したことを示しています。

3051 Patrol monitoring stopped.

パトロール診断を終了しました。

内容

パトロール診断を終了したことを示しています。

3052 A failed LAN device is found to be properly running as a result of hardware diagnostics. (device:altname rid:rid)

故障中の LAN デバイスはハード診断の結果、正常に動作しています。(device:altname rid:*rid*)

内容

故障中の LAN デバイスはハード診断の結果、正常に動作していることを示しています。
altname は指定した LAN デバイスのインタフェース名、*rid* はそのリソース ID を示します。

3053 A failed shared disk unit is found to be properly running as a result of hardware diagnostics. (device:altname rid:rid)

故障中の共用装置はハード診断の結果、正常に動作しています。(device:*altname* rid:*rid*)

内容

故障中の共用装置はハード診断の結果、正常に動作していることを示しています。*altname* は正常に動作していると診断された共用装置のデバイス名、*rid* はそのリソース ID を示します。

3070 "Wait-For-PROM" is enable on the node. (node:*nodename*)

"Wait-For-PROM" 機能は本ノードにおいて有効となりました。(node:*nodename*)

内容

RCI非同期監視の "Wait-For-PROM" 機能が、ノード *nodename* において有効になったことを示します。

対処

未サポート機能である "Wait-For-PROM" 機能が有効になっています。シャットダウン機構の設定を変更し、"Wait-For-PROM" 機能を無効としてください。シャットダウン機構の設定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照してください。

3071 "Wait-For-PROM" of the console monitoring agent is enable on the node. (node:*nodename*)

コンソール非同期監視の "Wait-For-PROM" 機能は本ノードにおいて有効となりました。(node:*nodename*)

内容

コンソール非同期監視の "Wait-For-PROM" 機能が、ノード *nodename* において有効になったことを示します。

対処

未サポート機能である "Wait-For-PROM" 機能が有効になっています。シャットダウン機構の設定を変更し、"Wait-For-PROM" 機能を無効としてください。シャットダウン機構の設定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照してください。

3080 The MMB monitoring agent has been started.

MMB 非同期監視を開始しました。

内容

MMB 非同期監視を開始したことを示しています。

3081 The MMB monitoring agent has been stopped.

MMB 非同期監視を停止しました。

内容

MMB 非同期監視を停止したことを示しています。

3082 MMB has been recovered from the failure. (node:*nodename* mmb_ipaddress1:*mmb_ipaddress1* mmb_ipaddress2:*mmb_ipaddress2* node_ipaddress1:*node_ipaddress1* node_ipaddress2:*node_ipaddress2*)

MMB 非同期監視を復旧しました。(node:*nodename* mmb_ipaddress1:*mmb_ipaddress1* mmb_ipaddress2:*mmb_ipaddress2* node_ipaddress1:*node_ipaddress1* node_ipaddress2:*node_ipaddress2*)

内容

MMB 非同期監視を復旧したことを示しています。

3083 Monitoring another node has been started.

他ノードの非同期監視を開始しました。

内容

他ノードの非同期監視を開始したことを示しています。

3084 Monitoring another node has been stopped.

他ノードの非同期監視を停止しました。

内容

他ノードの非同期監視を停止したことを示しています。

3085 The MMB IP address or the Node IP address has been changed. (mmb_ipaddress1:*mmb_ipaddress1* mmb_ipaddress2:*mmb_ipaddress2* node_ipaddress1:*node_ipaddress1* node_ipaddress2:*node_ipaddress2*)

MMBの IP アドレス、または、自管理 IP アドレスが変更されています。(mmb_ipaddress1:*mmb_ipaddress1* mmb_ipaddress2:*mmb_ipaddress2* node_ipaddress1:*node_ipaddress1* node_ipaddress2:*node_ipaddress2*)

内容

MMB の IP アドレス、または、自管理IPアドレスが変更されていることを示しています。

3110 The SNMP monitoring agent has been started.

SNMP非同期監視を開始しました。

内容

SNMP非同期監視を開始したことを示しています。

3111 The SNMP monitoring agent has been stopped.

SNMP非同期監視を停止しました。

内容

SNMP非同期監視を停止したことを示しています。

3200 Cluster resource management facility initialization started.

クラスタリソース管理機構の初期化処理を開始しました。

内容

クラスタリソース管理機構の初期化処理を開始したことを示しています。

3201 Cluster resource management facility initialization completed.

クラスタリソース管理機構の初期化処理を完了しました。

内容

クラスタリソース管理機構の初期化処理が完了したことを示しています。

3202 Cluster resource management facility exit processing completed.

クラスタリソース管理機構の停止処理を完了しました。

内容

クラスタリソース管理機構の停止処理が完了したことを示しています。

3203 Resource activation processing started.

リソースの活性処理を開始します。

内容

リソースの活性処理を開始することを示しています。

3204 Resource activation processing completed.

リソースの活性処理を完了しました。

内容

リソースの活性処理が完了することを示しています。

3205 Resource deactivation processing started.

リソースの非活性処理を開始します。

内容

リソースの非活性処理を開始することを示しています。

3206 Resource deactivation processing completed.

リソースの非活性処理を完了しました。

内容

リソースの非活性処理が完了したことを示しています。

4.4 警告（WARNING）メッセージ

FJSVcluster 形式の警告（WARNING）メッセージを、メッセージ番号順に説明します。

2207 Process (*appli*) has stopped.

プロセス (*appli*) が停止しました。

内容

プロセス監視機能の監視対象であるプロセスが、Offline スクリプトの実行による正常な停止処理以外の原因で停止したことを警告しています。
appli は、停止した監視対象プロセスの絶対パス名を示します。

対処

プロセスが停止したことが不当であれば、その停止理由を調査してください。停止理由の調査方法は、プロセスの仕様から停止理由の確認、core ファイルなどにより異常の確認などです。core ファイルは、そのプロセスのカレントディレクトリに書き出されます（書き込み可能な場合で、通常のアクセス制御が適用されます）。実ユーザ ID と異なる実効ユーザ ID を有するプロセスの core ファイルは生成されません。これら調査については、そのプロセスの作成者に連絡してください。

4250 The line switching unit cannot be found because FJSVclswu is not installed

FJSVclswu がインストールされていないため、回線切替装置を検出することができません。

内容

FJSVclswu がインストールされていないため、回線切替装置を検出することができないことを示しています。

対処

回線切替装置以外の装置は自動リソース登録を行います。

回線切替装置を利用する場合は、FJSVclswu パッケージをインストールして、回線切替装置を自動リソース登録してください。

5001 The RCI address has been changed. (node:*nodename* address:*address*)

RCI アドレスが変更されています。(node:*nodename* address:*address*)

内容

運用中に RCI アドレスが変更されたことを検出しました。
nodename は RCI アドレスが変更されたノード名を示し、*address* は変更された RCI アドレスを示します。

対処

出力されたノードの RCI アドレスの設定を見直してください。

5021 An error has been detected in part of the transmission route to MMB. (node:*nodename* mmb_ipaddress1:*mmb_ipaddress1* mmb_ipaddress2:*mmb_ipaddress2* node_ipaddress1:*node_ipaddress1* node_ipaddress2:*node_ipaddress2*)

MMB の通信経路の片系の異常を検出しました。(node:*nodename*

mmb_ipaddress1:*mmb_ipaddress1* mmb_ipaddress2:*mmb_ipaddress2* node_ipaddress1:*node_ipaddress1* node_ipaddress2:*node_ipaddress2*)

内容

MMB の通信経路の片系の異常を検出したことを示しています。

対処

MMB の通信経路の片系で異常が発生したか、または MMB が高負荷状態であることが考えられます。以下の点を確認してください。

- HUB と LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- MMB ポートのコネクタ、HUB 側コネクタから LAN ケーブルが抜けていないか。
- MMB に負荷がかかっているか。

上記項目が原因だと判明した場合、対処を行った後、MMB 非同期監視は自動復旧します。自動復旧には最大で 10 分かかります。

自動復旧の 3082 番のメッセージが表示されており、10 分経過して再度本メッセージが表示されない場合には、MMB が一時的に高負荷状態であったことが考えられます。この場合、対処は不要です。

上記項目を確認しても接続に失敗する場合は、ネットワーク障害や MMB、あるいは HUB などのハードウェア故障が考えられるので、当社技術員（CE）に連絡してください。本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取し、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

5100 An error was detected in the failover unit of the line switching unit. (RCI:*addr* LSU:*mask* status:*status* type:*type*)

回線切替装置の切替ユニットの異常を検出しました。(RCI:*addr* LSU:*mask* status:*status* type:*type*)

内容

回線切替装置の切替制御ボードで異常が検出されました。

addr: 異常が検出された回線切替装置の RCI アドレス

mask: 制御対象の LSU マスク

status: エラー種別ごとの回線切替装置の内部ステイタス

type: エラー種別

- 3: リザーブ状態が解除されなかった。

  status: 切替装置内の各 LSU のリザーブ状態を LSU マスクの値で示します。

  0: 該当 LSU は、リリース状態であることを示します。

  1: 該当 LSU は、リザーブ状態であることを示します。

- 4: 接続が変わらなかった。

  status: 切替装置内の各 LSU の接続（コネクト）状態を LSU マスクの値で示します。

  0: 該当 LSU は、ポート 0 に接続されていることを示します。

  1: 該当 LSU は、ポート 1 に接続されていることを示します。

- 5: リザーブ状態にならなかった。

  status: 切替装置内の各 LSU のリザーブ状態を LSU マスクの値で示します。

  0: 該当 LSU は、リリース状態であることを示します。

  1: 該当 LSU は、リザーブ状態であることを示します。

LSU マスクの値

LSU15 LSU14 LSU13 LSU12 ・・・ LSU03 LSU02 LSU01 LSU00

0x8000 0x4000 0x2000 0x1000 ・・・ 0x0008 0x0004 0x0002 0x0001

対処

処理はリトライされるので対処は不要です。ただし、何度リトライしても失敗する場合、および、本警告が多発する場合は、当社技術員(CE)に連絡してください。

5200 There is a possibility that the resource controller does not start. (ident::*ident* command:*command*, ...)

リソースコントローラが起動していない可能性があります。(ident:*ident* command:*command, ...*)

内容

リソースコントローラが起動の完了通知をまだ送信していません。*ident* はリソースコントローラの識別子を示し、*command* はリソースコントローラの起動スクリプトを示します。

対処

GDS のリソースコントローラの起動が遅れている可能性があります。本警告メッセージ以降にエラーメッセージが出力されている場合は、そのエラーメッセージの対処法に従って対処してください。

メッセージが再表示された場合は、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

エラーメッセージが出力されなければ、後から GDS のリソースコントローラが動作するので問題ありません。

---

ccmtrcstr: FJSVclerr Onltrc start fail

内容

オンライントレースの開始に失敗しました。

本メッセージ出力時には下記メッセージも出力されます。

FJSVcldbm: WARNING: ccmtrcstr: FJSVcldbm.mst Onltrc start fail
FJSVcldbm: WARNING: ccmtrcstr: FJSVcldbm.lck Onltrc start fail
FJSVcldbm: WARNING: ccmtrcstr: FJSVcldbm.dbc Onltrc start fail
FJSVcldbm: WARNING: ccmtrcstr: FJSVcldbm.dbu Onltrc start fail
FJSVcldbm: WARNING: ccmtrcstr: FJSVcldbm.com Onltrc start fail
FJSVcldbm: WARNING: ccmtrcstr: FJSVcldbm.syn Onltrc start fail
FJSVcldbm: WARNING: ccmtrcstr: FJSVcldbm Onltrc start fail
FJSVcldbm: WARNING: ccmtrcstr: FJSVcldbm.svlib Onltrc start fail
FJSVcldbm: WARNING: ccmtrcstr: FJSVcldbm.evm Onltrc start fail
FJSVcldbm: WARNING: ccmtrcstr: FJSVcldbm.evmhty Onltrc start fail
FJSVcldbm: WARNING: ccmtrcstr: FJSVcldbm.evmslb Onltrc start fail
FJSVcldbm: WARNING: ccmtrcstr: FJSVcldbm.evmmtx Onltrc start fail
FJSVcldbm: WARNING: ccmtrcstr: FJSVcldbm.cem Onltrc start fail
FJSVcldbm: WARNING: ccmtrcstr: FJSVcldbm.cemtm Onltrc start fail
FJSVcldbm: WARNING: ccmtrcstr: FJSVcldbm.cemlck Onltrc start fail

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER導入運用手引書" を参照してください。

4.5 エラー(ERROR)メッセージ

FJSVcluster 形式のエラー(ERROR)メッセージを、メッセージ番号順に説明します。

エラーメッセージが出力された場合、Solaris の場合は /var/adm/messages ファイル、Linux の場合は /var/log/messages ファイルから、メッセージが出力された時間帯のログ解析を行い、それ以前に他のエラーメッセージが出力されているかを確認してください。もし出力されている場合は、対処方法に従って、まずそちらの対処を行う必要があります。

???? Message not found!!

内容

メッセージ番号に対応するメッセージのテキストがありません。
メッセージカタログが存在しない可能性、またはメッセージカタログへのシンボリックリンクがない可能性があるので確認してください。

対処

メッセージカタログが存在しない場合は、再インストールしてください。
シンボリックリンクがない場合は、ln コマンドでリンクを作成してください。
上記で解決しない場合は、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

- メッセージカタログは下記参照
  - **Solaris/Linux**

    /opt/FJSVclapi/locale/C/LC_MESSAGES/FJSVcluster

    /opt/FJSVcldev/locale/C/LC_MESSAGES/FJSVcldev

    /opt/FJSVclapi/locale/ja/LC_MESSAGES/FJSVcluster

    /opt/FJSVcldev/locale/ja/LC_MESSAGES/FJSVcldev
- シンボリックリンクは下記参照
  - **Solaris**

    /usr/lib/locale/C/LC_MESSAGES/FJSVcluster

    /usr/lib/locale/C/LC_MESSAGES/FJSVcldev

    /usr/lib/locale/ja/LC_MESSAGES/FJSVcluster

    /usr/lib/locale/ja/LC_MESSAGES/FJSVcldev
  - **Linux**

    /usr/share/locale/C/LC_MESSAGES/FJSVcluster

    /usr/share/locale/C/LC_MESSAGES/FJSVcldev

    /usr/share/locale/ja_JP.UTF-8/LC_MESSAGES/FJSVcluster

    /usr/share/locale/ja_JP.UTF-8/LC_MESSAGES/FJSVcldev

    /usr/share/locale/ja_JP/LC_MESSAGES/FJSVcluster

    /usr/share/locale/ja_JP/LC_MESSAGES/FJSVcldev

    /usr/share/locale/ja_JP.eucJP/LC_MESSAGES/FJSVcluster

    /usr/share/locale/ja_JP.eucJP/LC_MESSAGES/FJSVcldev

6000 An internal error occurred. (function:*function* detail:*code1-code2-code3-code4*)

内部異常が発生しました。(function:*function* detail:*code1-code2-code3-code4*)

内容

プログラムに内部異常が発生したことを示しています。
function, *code1*, *code2*, *code3*, *code4* は調査のための情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6001 Insufficient memory. (detail:*code1-code2*)

メモリ資源が不足しています。(detail:*code1-code2*)

内容

メモリ資源が不足していることを示しています。*code1*、*code2* は、エラー調査に必要な情報を示します。

対処

以下のいずれかが考えられます。

- メモリ資源が不足している
- カーネルパラメタの設定に誤りがある

システム全体で必要となるメモリ資源の見積りを見直してください。PRIMECLUSTER の動作に必要なメモリ容量については、各製品に添付されているPRIMECLUSTERのインストールガイドを参照してください。

上記で解決しない場合は、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" の "カーネルパラメタ・ワークシート" の説明を参照して、カーネルパラメタの設定が正しいことを確認してください。設定に誤りがあった場合は、設定変更後、システムを再起動します。

上記対処によってこのエラーを解決できない場合は、このメッセージを記録してから、調査用の情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6002 Insufficient disk or system resources. (detail:*code1-code2*)

ディスク資源またはシステム資源が不足しています。(detail:*code1-code2*)

内容

ディスク資源またはシステム資源が不足していることを示しています。*code1*、*code2* は、エラー調査に必要な情報を示します。

対処

以下のいずれかが考えられます。

- ディスク資源が不足している
- カーネルパラメタの設定に誤りがある

このメッセージを記録してから、調査用の情報を採取します。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

PRIMECLUSTER の動作に必要なディスクの空き容量があることを確認し、不要なファイルを削除して領域を確保し、システムを再起動します。PRIMECLUSTER の動作に必要なディスク容量は、各製品に添付されているPRIMECLUSTERのインストールガイドを参照してください。

上記で解決しない場合は、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" の "カーネルパラメタ・ワークシート" の説明を参照して、カーネルパラメタの設定が正しいことを確認してください。設定に誤りがあった場合は、設定変更後、システムを再起動します。

上記対処によってこのエラーを解決できない場合は、当社技術員(SE)に連絡してください。

6003 Error in option specification. (option:*option*)

オプションに誤りがあります。(option:*option*)

内容

オプションの指定が正しくありません。*option* はオプションを示します。

対処

オプションを正しく指定し、再度実行してください。

6004 No system administrator authority.

システム管理者権限ではありません。

内容

システム管理者権限で実行する必要があります。

対処

システム管理者権限で実行してください。

6005 Insufficient shared memory. (detail:*code1*-*code2*)

共用メモリ資源が不足しています。(detail:*code1*-*code2*)

内容

リソースデータベースの稼動に必要な共用メモリリソースが不足しています。

対処

"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" の "カーネルパラメタ・ワークシート" の説明を参照して共用メモリリソース(カーネルパラメタ)の割当て見積りを見直し、変更したカーネルパラメタを持つノードを再起動します。

上記対処によってこのエラーを解決できない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取します。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

code1、*code2* は、エラー調査に必要な情報を示します。

6006 The required option *option* must be specified.

必須オプション *option* を指定してください。

内容

option に示された必須オプションを指定してください。

対処

オプションを正しく指定し、再度実行してください。

6007 One of the required options (*option*) must be specified.

必須オプション *option* のいずれかを指定してください。

内容

option に示された必須オプションのいずれかを指定してください。

対処

オプションを正しく指定し、再度実行してください。

6008 If option *option1* is specified, option *option2* is required.

オプション *option1* 指定時はオプション *option2* は必須です。

内容

option1 にオプションを指定した場合は、*option2* にも指定が必要です。

対処

正しいオプションを指定してから、処理を再度実行してください。

6009 If option *option1* is specified, option *option2* cannot be specified.

オプション *option1* 指定時はオプション *option2* は指定できません。

内容

コマンドに指定された2つのオプションが矛盾しています。

対処

どちらか一方のオプションを指定してコマンドを再実行してください。

6010 If any one of the options *option1* is specified, option *option2* cannot be specified.

オプション *option1* のいずれかの指定時はオプション *option2* は指定できません。

内容

option1 にいずれかのオプションを指定した場合、*option2* は指定できません。

対処

正しいオプションを指定してから、処理を再度実行してください。

6021 The *option* option(s) must be specified in the following order:*order*

オプション *option* は *order* の順で指定してください。

内容

オプションを正しい順番で指定してください。*option* は誤った順番で指定されているオプションを示し、*order* は正しい指定の順番を示します。

対処

options に、*order* に示す順番でオプションを指定します。次に、実行を再試行します。

6025 The value of option *option* must be specified from *value1* to *value2*

オプション *option* の値は *value1* から *value2* の範囲で指定してください。

内容

オプション *option* の値は *value1* から *value2* の範囲で指定してください。
option は指定されているオプションを示し、*value1*、*value2* は値を示します。

対処

option のオプション値を *value1* ～ *value2* の範囲で指定し、再度実行してください。

6200 Cluster configuration management facility:configuration database mismatch. (name:*name* node:*node*(node-number))

クラスタ制御の構成管理機構でクラスタ構成データベースの不一致が発生しました。(name:*name* node:*node*(node-number))

内容

クラスタ制御の構成管理機構でクラスタ構成データベースの不一致が発生したことを示しています。

対処

すべてのノードで調査用の情報を採取してから、次の手順で復旧します。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

本メッセージが出力されていないノードが、クラスタ構成データベースが不一致となっているノードですので、本メッセージが出力されていないノードを再起動してください。

name は不一致となったクラスタ構成データベース名、*node* は、クラスタ構成データベースが古いノードのノード識別名、node-number の *node* はクラスタ構成データベースが正常なノードのノード識別番号、*number* はクラスタ構成データベースの一致化処理の処理識別番号です。

上記対処によってこのエラーを解決できない場合は、このメッセージを記録して、当社技術員(SE)連絡してください。

6201 Cluster configuration management facility:internal error. (node:*node* code:*code*)

クラスタ制御の構成管理機構で内部異常が発生しました。(node:*node* code:*code*)

内容

クラスタ制御の構成管理機構で内部異常が発生したことを示しています。
node はエラーが発生しているノードを示し、*code* はエラーに対して実行された詳細処理のコードを示します。

対処

以下のいずれかが考えられます。

- カーネルパラメタの設定に誤りがある
- メモリ資源が不足している
- ディスク資源が不足している

  "PRIMECLUSTER 導入運用手引書" の "カーネルパラメタ・ワークシート" の説明を参照して、カーネルパラメタの設定が正しいことを確認してください。

  設定が正しくない場合は、設定変更後、システムを再起動してください。

  カーネルパラメタを変更したにも関わらず、本メッセージが出力された場合は、システム全体で必要となるメモリ資源の見積りを見直してください。

  クラスタ制御が必要とするメモリ容量については、各製品に添付されているPRIMECLUSTERのインストールガイドを参照してください。

  メモリ資源を見直したにも関わらず、本メッセージが出力された場合は、PRIMECLUSTER の動作に必要なディスクの空き容量があることを確認し、不要なファイルを削除して領域を確保し、システムを再起動してください。

  PRIMECLUSTER の動作に必要なディスク容量は、各製品に添付されているPRIMECLUSTERのインストールガイドを参照してください。

- CF およびクラスタインタコネクトが動作していない

  cftool およびciptool を使用し、CF およびクラスタインタコネクトが動作しているか確認してください。CF またはクラスタインタコネクトが動作していない場合、CF のメッセージを確認して表示されているメッセージに従い対処してください。

  メッセージに対処したにも関わらず、本メッセージが表示される場合は、クラスタインタコネクトの接続およびネットワークの設定を見直してください。

上記対処によってこのエラーを解決できない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6202 Cluster event control facility:internal error. (detail:*code1*-*code2*)

クラスタ制御のイベント制御機構で内部異常が発生しました。(detail:*code1*-*code2*)

内容

クラスタ制御のイベント制御機構で内部異常が発生したことを示しています。
code1、*code2* は、エラー調査に必要な情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6203 Cluster configuration management facility: communication path disconnected.

クラスタ制御の構成管理機構で他ノードへの通信経路が切断されました。

内容

クラスタ制御の構成管理機構で他ノードへの通信経路が切断されたことを示しています。

対処

その他のノードの状態とプライベート LAN のパスを確認します。

6204 Cluster configuration management facility has not been started.

クラスタ制御の構成管理機構が起動していません。

内容

クラスタ制御の構成管理機構が起動していないことを示しています。

対処

このメッセージと、このメッセージの前後のメッセージを記録し、調査用の情報を採取します。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6206 Cluster configuration management facility:error in definitions used by *target* command.

クラスタ制御の構成管理機構で使用する command コマンドの定義情報に誤りがあります。

内容

クラスタ制御の構成管理機構で使用するコマンドの定義情報に誤りがあることを示しています。
target はコマンド名を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6207 Cluster domain contains one or more inactive nodes.

クラスタドメインを構成するノードの中に起動していないノードがあります。

内容

クラスタドメインを構成するノードの中に起動していないノードがあることを示しています。

対処

停止状態のノードを起動します。

6208 Access denied (command).

アクセス権がありません。(*target*)

内容

アクセス権がありません。*target* はコマンド名を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6209 The specified file or cluster configuration database does not exist (*target*).

指定されたファイルまたはクラスタ構成データベースが存在しません。(*target*)

内容

指定されたファイルまたはクラスタ構成データベースが存在しないことを示しています。
target はファイル名またはクラスタ構成データベース名を示します。

対処

以下のいずれかが考えられます。

- カーネルパラメタの設定に誤りがある
- メモリ資源が不足している
- ディスク資源が不足している

"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" の "カーネルパラメタ・ワークシート" の説明を参照して、カーネルパラメタの設定が正しいことを確認してください。

設定が正しくない場合は、設定変更後、システムを再起動します。

上記で解決しない場合は、システム全体で必要となるメモリ資源の見積りを見直してください。クラスタ制御が必要とするメモリ容量については、各製品に添付されているPRIMECLUSTERのインストールガイドを参照してください。

上記で解決しない場合は、PRIMECLUSTER の動作に必要なディスクの空き容量があることを確認し、不要なファイルを削除して領域を確保し、システムを再起動します。PRIMECLUSTER の動作に必要なディスク容量は、各製品に添付されているPRIMECLUSTERのインストールガイドを参照してください。

上記対処によってこのエラーを解決できない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取します。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6210 The specified cluster configuration database is being used (*table*).

指定されたクラスタ構成データベースは現在使用中です。(*table*)

内容

指定されたクラスタ構成データベースが現在使用中であることを示しています。
table は、クラスタ構成データベース名を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6211 A table with the same name exists (*table*).

同一名のクラスタ構成データベースが存在しています。(*table*)

内容

同一名のクラスタ構成データベースが存在していることを示しています。
table は、クラスタ構成データベース名を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6212 The specified configuration change procedure is already registered (*proc*).

指定された構成変更プロシジャはすでに登録されています。(*proc*)

内容

指定された構成変更プロシジャはすでに登録されていることを示しています。
proc は構成変更手順名を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6213 The cluster configuration database contains duplicate information.

クラスタ構成データベース内に同一情報があります。

内容

クラスタ構成データベース内に同一情報があることを示しています。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6214 Cluster configuration management facility:configuration database update terminated abnormally (*target*).

クラスタ制御の構成管理機構でクラスタ構成データベースの反映処理が異常終了しました。(*target*)

内容

クラスタ制御の構成管理機構でクラスタ構成データベースの反映処理が異常終了したことを示しています。
target は、クラスタ構成データベース名を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

すべてのノードで調査情報を採取してから、すべてのノードを再起動します。

6215 Cannot exceed the maximum number of nodes.

最大構成ノード数以上のノード追加は行えません。

内容

最大構成ノード数以上のノード追加を行おうとした場合に表示されます。

対処

クラスタ構成ノード数が最大構成ノード数以内となるように、PRIMECLUSTER システムの構成を見直してください。

6216 Cluster configuration management facility:configuration database mismatch occurred because another node ran out of memory. (name:*name* node:*node*)

他ノードのメモリ資源不足により、クラスタ制御の構成管理機構でクラスタ構成データベースの不一致が発生しました。(name:*name* node:*node*)

内容

他ノードのメモリ資源不足により、クラスタ制御の構成管理機構でクラスタ構成データベースの不一致が発生したことを示しています。
name は不一致の発生しているデータベース名を示し、*node* はメモリ不足の発生しているノードを示します。

対処

メモリのリソース割当てを見直し、ノードを再起動します。それでもこのエラーを修正できない場合は、このメッセージを記録して調査用の情報を採取します。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

メモリのリソース割当てを見直します。オペレータ応答によってこのエラーを修正できない場合は、当社技術員（SE）に連絡してください。全ノードのデータを採取したら、ノードを停止し、再起動します。

6217 Cluster configuration management facility:configuration database mismatch occurred because another node ran out of disk or system resources. (name:*name* node:*node*)

他ノードのディスク資源またはシステム資源不足により、クラスタ制御の構成管理機構でクラスタ構成データベースの不一致が発生しました。(name:*name* node:*node*)

内容

他ノードのディスク資源またはシステム資源不足により、クラスタ制御の構成管理機構でクラスタ構成データベースの不一致が発生したことを示しています。
name は不一致の発生しているデータベース名を示し、*node* はディスクリソース不足またはシステムリソース不足の発生しているノードを示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取します。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" の "カーネルパラメタ・ワークシート" の説明を参照し、ディスクリソースとシステムリソース（カーネルパラメタ）の割当てを見直します。ノードのカーネルパラメタを変更したときは、そのノードを再起動します。

上記対処によってこのエラーを解決できない場合は、当社技術員（SE）に連絡してください。

6218 An error occurred during distribution of file to the stopped node. (name:*name* node:*node* errno:*errno*)

停止中ノードへのファイルの配付処理で異常が発生しました。(name:*name* node:*node* errno:*errno*)

内容

停止中ノードへのファイルの配付処理で異常が発生したことを示しています。
name は障害の発生時に配布されたファイルの名前を示し、*node* は障害が発生したノードを示し、*errno* は障害発生時のエラー番号を示します。

対処

エラーのあるノードから停止しているノードにファイルを配布することはできません。稼動しているノードが停止する前に、停止しているノードを起動するようにしてください。コマンドを再度実行する必要はありません。

6219 The cluster configuration management facility cannot recognize the activating node. (detail:*code1-code2*)

クラスタ制御の構成管理機構で起動ノードが認識できません。(detail:*code1-code2*)

内容

クラスタ制御の構成管理機構で起動ノードが認識できないことを示しています。
code1 、*code2* は、エラー調査に必要な情報を示します。

対処

Cluster Foundation(CF) およびクラスタインタコネクトに異常が発生していないことを確認してください。CF に異常が発生している場合、CF のメッセージに従い、対処してください。クラスタインタコネクトに異常が発生している場合、クラスタインタコネクトの接続およびネットワークの設定を見直してください。解決できない場合には、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6220 The communication failed between nodes or processes in the cluster configuration management facility. (detail:*code1-code2*)

クラスタ制御の構成管理機構でノード間通信またはプロセス間通信ができません。(detail:*code1-code2*)

内容

クラスタ制御の構成管理機構でノード間通信またはプロセス間通信ができないことを示しています。
code1、*code2* は、エラー調査に必要な情報を示します。

対処

クラスタインタコネクトに異常が発生していないことを確認してください。クラスタインタコネクトに異常が発生している場合、クラスタインタコネクトの接続およびネットワークの設定を見直してください。

解決できない場合には、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6221 Invalid kernel parameter used by cluster configuration database. (detail:*code1-code2*)

クラスタ制御で使用するカーネルパラメタの設定に誤りがあります。(detail:*code1-code2*)

内容

クラスタ制御で使用するカーネルパラメタの設定に誤りがあることを示しています。
code1、*code2* は、エラー調査に必要な情報を示します。

対処

リソースデータベースで使用するカーネルパラメタの設定値に誤りがあります。"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" の "カーネルパラメタ・ワークシート" の説明を参照し、カーネルパラメタの見積りを見直してください。

カーネルパラメタを変更した場合は、カーネルパラメタを変更したノードを再起動してください。上記対処によってこのエラーを解決できない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6222 The network service used by the cluster configuration management facility is not available. (detail:*code1-code2*)

クラスタ制御の構成管理機構で使用するネットワークサービスがありません。(detail:*code1-code2*)

内容

クラスタ制御の構成管理機構で使用するネットワークサービスがないことを示しています。
code1、*code2* は、エラー調査に必要な情報を示します。

対処

/etc/inet/services が /etc/services にリンクされているか確認してください。リンクされていない場合は、/etc/inet/services を正しい設定内容に編集後、/etc/services にシンボリックリンクを行ってください。上記に問題がない場合、/etc/inet/services に以下のネットワークサービスが設定されているか確認してください。設定されていない場合は、追加してください。

```
dcmcom 9331/tcp# FJSVcldbm package

dcmsync 9379/tcp# FJSVcldbm package

dcmlck 9378/tcp# FJSVcldbm package

dcmfcp 9377/tcp# FJSVcldbm package

dcmmst 9375/tcp# FJSVcldbm package

dcmevm 9376/tcp# FJSVcldbm package
```

/etc/inet/services が正しく設定されている場合は、/etc/nsswitch.confファイルの services が、以下のように定義されているか確認してください。

定義されていない場合は、修正してください。

```
services: files nisplus
```

定義を修正したノードを再起動してください。

/etc/nsswitch.conf が正しく設定されている場合は、/etc/inet/hosts (Solars の場合)または /etc/hosts (Linux の場合)に SysNode 名が正しく設定されていることを確認してください。

上記対処により問題が解決しない場合は、メッセージを記録し、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6223 A failure occurred in the specified command. (command: *command* , detail:*code1-code2*)

指定されたコマンドで異常が発生しました。(command: *command* , detail:*code1-code2*)

内容

指定されたコマンドで異常が発生したことを示しています。
command 、*code1* 、*code2* は、エラー調査に必要な情報を示します。

対処

clexec コマンドで 指定したプログラムが正常に起動できるか確認してください。解決できない場合には、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6226 The kernel parameter setup is not sufficient to operate the cluster control facility. (detail:*code*)

クラスタ制御で使用するカーネルパラメタの設定値が不足しています。(detail:*code*)

内容

クラスタ制御で使用するカーネルパラメタの設定値が不足していることを示しています。
code は、不足しているカーネルパラメタとクラスタ制御が動作するために必要な最小値を示します。

対処

リソースデータベースで使用するカーネルパラメタの設定値が不足しています。"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" の "カーネルパラメタ・ワークシート" の説明を参照し、カーネルパラメタの見積りを見直してください。

カーネルパラメタを変更した場合は、カーネルパラメタを変更したノードを再起動してください。

リソースデータベースの初期設定時に本メッセージが出力された場合は、カーネルパラメタの見積もりを見直した後、clinitreset コマンドを実行し、ノードを再起動後、再度リソースデータベースの初期設定を行ってください。

上記対処によって解決できない場合には、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6250 Cannot run this command because FJSVclswu is not installed.

FJSVclswu がインストールされていないため、本コマンドは実行できません。

内容

本コマンドを実行するためには FJSVclswu がインストールされている必要があります。

対処

FJSVclswu をインストール後、再度実行してください。

FJSVclswu のインストール方法については、各製品に添付されているPRIMECLUSTERのインストールガイドを参照してください。

6300 Failed in setting the resource data base. (detail:*code1*-*code2*)

リソースデータベースの設定に失敗しました。(detail:*code1*-*code2*)

内容

リソースデータベースの設定に失敗したことを示しています。
code1 と*code2* は調査用の情報を表します。

対処

以下の対処を行ってください。

1. すべてのノードで clinitreset コマンドを実行します。
2. すべてのノードを再起動します。
3. 以下のいずれかが考えられます。
   - 本メッセージよりも以前に表示されたエラーメッセージに起因したエラー
   - CIP の設定誤り
   - ネットワークのフィルタリングなど(iptables など)によりPRIMECLUSTERで使用する通信が使用できない

   本メッセージよりも以前にエラーメッセージが表示されている場合は、エラーメッセージの対処を参照して対処してください。

   エラーメッセージが表示されていない場合には、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照して、CIPの設定が正しいことを確認してください。

   設定が正しくない場合は、設定を修正してください。

   上記で解決しない場合は、ネットワークのフィルタリングなど(iptables など)によりPRIMECLUSTERで使用する通信が使用できなくなっていないか確認してください。

   設定が正しくない場合は、設定変更後、システムを再起動してください。
4. CRM メインウィンドウで本メッセージが出力された場合は、再度、CRM の初期構成設定を行います。clsetup コマンド実行時に本メッセージが出力された場合は、再度、clsetup コマンドを実行します。

上記対処により問題が解決しない場合は、メッセージを記録し、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6302 Failed to create a backup of the resource database information. (detail:*code1*-*code2*)

リソースデータベースの資産退避に失敗しました。(detail:*code1*-*code2*)

内容

リソースデータベースの資産退避に失敗したことを示しています。
code1、*code2* は、調査に必要な情報を示します。

対処

ディスク資源が不足している可能性があります。1MB 以上のディスク容量を確保し、再度実行してください。上記対処によって解決できない場合には、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6303 Failed restoration of the resource database information. (detail:*code1*- *code2*)

リソースデータベースの資産復元に失敗しました。(detail:*code1*-*code2*)

内容

リソースデータベースの資産復元に失敗したことを示しています。
code1、*code2* は、調査に必要な情報を示します。

対処

ディスク資源が不足している可能性があります。1MB 以上のディスク容量を確保し、再度実行してください。

上記対処によって解決できない場合には、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6600 Cannot manipulate the specified resource. (insufficient user authority)

指定されたリソースは操作できません。(ユーザ権限なし)

内容

ユーザ権限がないため、指定されたリソースは操作できません。

対処

登録済みのユーザとしてログインし、指定のリソースを再度実行してください。

6601 Cannot delete the specified resource. (resource:*resource* rid:*rid*)

指定されたリソースは削除できません。(リソース:*resource* rid:*rid*)

内容

リソースを正しく指定していないため削除できません。
resource は指定されているリソースの名前を示し、*rid* はそのリソースの ID を示します。

対処

リソースを正しく指定してから再度実行してください。

6602 The specified resource does not exist. (detail:*code1-code2*)

指定されたリソースは存在しません。(detail:*code1-code2*)

内容

指定されたリソースは存在しません。*code1*, *code2* は調査のための情報を示します。

対処

リソースを正しく指定し、再度実行してください。メッセージが再び表示される場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取し、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6603 The specified file does not exist.

指定されたファイルは存在しません。

内容

存在していないファイルを指定しています。

対処

正しいファイルを指定してから、処理を再度実行してください。

6604 The specified resource class does not exist.

指定されたリソースクラスは存在しません。

内容

存在していないリソースクラスを指定しています。

対処

正しいリソースクラスを指定してから、処理を再度実行してください。

指定可能なリソースクラスは /etc/opt/FJSVcluster/classes にあるファイル名です。

リソースクラスとして指定されている文字列にエラーがないことを確認してください。

6606 Operation cannot be performed on the specified resource because the corresponding cluster service is not in the stopped state. (detail:*code1- code2*)

指定されたリソースはサービスが停止中でないため操作できません。(detail:*code1-code2*)

内容

指定されたリソースはサービスが停止中でないため操作できないことを示しています。
code1、*code2* は、エラー調査に必要な情報を示します。

対処

サービスを停止してから、処理を再度実行してください。

6607 The specified node cannot be found.

指定されたノードは存在しません。

内容

存在していないノードを指定しています。

対処

正しいノードを指定し、再度実行してください。

6608 Operation disabled because the resource information of the specified resource is being updated. (detail:*code1-code2*)

リソースの情報が更新中のため操作できません。(detail:*code1-code2*)

内容

リソースの情報が更新中のため操作できないことを示しています。
code1、*code2* は、エラー調査に必要な情報を示します。

対処

処理を再度実行してください。

6611 The specified resource has already been registered. (detail:*code1-code2*)

指定されたリソースはすでに登録されています。(detail:*code1-code2*)

内容

指定されたリソースはすでに登録されていることを示しています。
code1、*code2* は、エラー調査に必要な情報を示します。

対処

リソースの登録時にこのメッセージが表示された場合は、指定したリソースがすでに登録されていることを示します。再度リソースを登録する必要はありません。

表示名の変更時にこのメッセージが表示された場合は、指定した表示名がすでに登録されているため、別の名前を指定してください。

6614 Cluster configuration management facility:internal error. (detail:*code1- code2*)

クラスタ制御の構成管理機構で内部異常が発生しました。(detail:*code1-code2*)

内容

クラスタ制御の構成管理機構で内部異常が発生したことを示しています。
code1、*code2* は、エラー調査に必要な情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

6615 The cluster configuration management facility is not running.(detail:*code1-code2*)

クラスタ制御の構成管理機構が動作していません。(detail:*code1-code2*)

内容

クラスタ制御の構成管理機構が動作していません。*code1* 、*code2* は当社技術員(SE)に必要な情報を示します。

対処

このメッセージを表示しているノードを再起動して構成管理機構を動作させてください。メッセージが再び表示される場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

6616 Cluster configuration management facility: error in the communication routine.(detail:*code1-code2*)

クラスタ制御の構成管理機構の通信処理で異常が発生しました。(detail:*code1-code2*)

内容

クラスタ制御の構成管理機構の通信処理で異常が発生したことを示しています。*code1* 、*code2* は当社技術員(SE)に必要な情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

6617 The specified state transition procedure file does not exist.

指定された状態遷移プロシジャファイルは存在しません。

内容

指定された状態遷移プロシジャファイルは存在しないことを示しています。

対処

状態遷移プロシジャファイルを正しく指定し、再度実行してください。
本対処で解決できない場合は、調査用の情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

6618 The state transition procedure file could not be written. A state transition procedure file with the same name already exists.

状態遷移プロシジャファイルの格納に失敗しました。同一名の状態遷移プロシジャファイルがすでに存在しています。

内容

同一名の状態遷移プロシジャファイルがすでに存在しているため、状態遷移プロシジャファイルの格納に失敗しました。

対処

状態遷移プロシジャファイルを上書きする場合は、-o オプションを指定し、再度実行してください。

6619 The state transition procedure file could not be written. There was an error in the resource class specification.

状態遷移プロシジャファイルの格納に失敗しました。リソースクラスの指定に誤りがあります。

内容

リソースクラスの指定に誤りがあるため、状態遷移プロシジャファイルの格納に失敗しました。

対処

リソースクラスを正しく指定し、再度実行してください。指定できるリソースクラスは、/etc/opt/FJSVcluster/classes 配下のファイル名です。リソースクラスとして指定した文字列に誤りがないか確認してください。

6621 Could not perform file operation on state transition procedure file. (detail:*code1*-*code2*)

状態遷移プロシジャファイルの操作に失敗しました。(detail:*code1*-*code2*)

内容

状態遷移プロシジャファイルの操作に失敗したことを示しています。*code1* は調査のための情報、*code2* はエラー番号を示します。

対処

- 状態遷移プロシジャの取出し時

  状態遷移プロシジャの取出し先のディスク資源またはファイルシステムのノード資源が不足している可能性があります。資源を確認し、資源が不足している場合には、資源不足を解消させた後、再度実行するか、状態遷移プロシジャの取出し先を変更してください。

  資源の確認は、以下のコマンドで行います。

  - Solaris の場合

    df(1M)

  - Linux の場合

    df(1)

- 状態遷移プロシジャの登録時

  クラスタシステムをインストールしたディスク資源またはファイルシステムのノード資源が不足している可能性があります。資源を確認し、資源が不足している場合は、資源不足を解消させた後、再度実行してください。

  - Solaris の場合

    df(1M)

  - Linux の場合

    df(1)

本対処で解決できない場合は、調査用の情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6623 Cannot delete the specified state transition procedure file.

指定された状態遷移プロシジャファイルは削除できません。

内容

指定された状態遷移プロシジャファイルは削除できないことを示しています。

対処

削除できる状態遷移プロシジャファイルは、利用者が定義した状態遷移プロシジャファイルのみです。
利用者が定義していない状態遷移プロシジャファイルの削除方法は、該当する状態遷移プロシジャファイルの提供元に確認してください。

6624 The specified resource does not exist in cluster service. (resource:*resource* rid:*rid*)

指定されたリソースはクラスタサービスに存在しません。(リソース: *resource* rid:*rid*)

内容

指定されたリソースはクラスタサービスに存在しないことを示しています。
Resource はリソースデータベースに登録されていないリソース名、*rid* はリソースデータベースに登録されていないリソースのリソース ID を示します。

対処

Solaris

クラスタアプリケーションに登録されているプロシジャリソースが、リソースデータベースに存在しません。userApplication Configuration Wizard(GUI) でプロシジャリソースを選択する手順でクラスタアプリケーションを登録した場合、本メッセージが出力されることはありません。userApplication Configuration Wizard(GUI) でプロシジャリソースを選択する手順でクラスタアプリケーションを登録したにも関わらず、本メッセージが出力された場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Linux

クラスタアプリケーションに登録されているプロシジャリソースが、リソースデータベースに存在しません。hvw でプロシジャリソー スを選択する手順でクラスタアプリケーションを登録した場合、本メッセージが出力されることはありません。hvw でプロシジャリソースを選択する手順でクラスタアプリケーションを登録したにも関わらず、本メッセージが出力された場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

メッセージ本文に表示されたプロシジャリソースがリソースデータベースに登録されていないことを clgettree コマンドで確認してください。リソースデータベースに登録されていない場合は、リソースデータベースにメッセージ本文に表示されたプロシジャリソースを登録してください。

プロシジャリソースの登録方法は、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照し、製品に応じた設定方法に従ってください。リソースデータベースに登録されている場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6651 The specified instruction contains an error.

指定された指示に誤りがあります。

内容

このメッセージはブラウザを起動しているクライアントシステムには表示されません。このメッセージは、CLI コマンド (clreply) でオペレータ介入メッセージに応答したときに標準出力に表示されます。入力に yes または no 以外の文字列を指定した場合にこのメッセージが表示されます。

対処

オプションを正しく指定して、再実行してください。

6653 Operation cannot be performed on the specified resource.

指定されたリソースは操作できません。

内容

指定されたリソースは操作できないことを示しています。

対処

指定されたリソースが登録されている userApplication が Deact 状態ではありません。

ClusterAdmin または hvutil コマンドで、指定されたリソースが登録されている userApplication を Deact 状態にした後、再度実行してください。

6655 Use the absolute path to specify the option (*option*).

オプション *option* は絶対パスで指定してください。

内容

オプション *option* は絶対パスで指定する必要があります。

対処

オプションを正しく指定し、再度実行してください。

6657 The specified resource is not being monitored. (detail:*code*)

指定されたリソースは監視されていません。(detail:*code*)

内容

指定されたリソースは監視されていないことを示しています。*code* は調査のための情報を示します。

対処

監視対象プロセスが動作中の状態で本メッセージが出力された場合、clmonproc コマンドに指定するリソース ID に誤りがないか、clgettree コマンドで確認してください。clgettree コマンドの詳細については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照してください。
監視対象プロセスが終了している状態で本メッセージが出力された場合、対処は不要です。

6658 The specified process does not exist. (pid:*pid*)

指定されたプロセスは存在しません。(pid:*pid*)

内容

指定されたプロセスは存在していないことを示しています。*pid* は指定されたプロセスのプロセス ID を示します。

対処

ps コマンドでプロセス ID を確認して、プロセス ID を正しく指定してから再度実行してください。

6659 The specified command does not exist. (command:*command*)

指定されたコマンドは存在しません。(command:*command*)

内容

指定されたコマンドは存在しないことを示しています。*command* は指定されたコマンドを示します。

対処

コマンドを正しく指定し、再度実行してください。コマンドはフルパスで指定してください。

6661 Cluster control is not running. (detail:*code*)

クラスタ制御が動作していません。(detail:*code*)

内容

クラスタ制御が動作していないことを示しています。*code* は、調査に必要な情報を示します。

対処

リソースデータベースが動作していることを clgettree(1) コマンドで確認してください。リソースデータベースが動作していない場合は、ノードを再起動してください。

上記対処によって解決できない場合には、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6662 A timeout occurred in process termination. (detail:*code1-code2*)

プロセスの終了待ち合わせ処理でタイムアウトが発生しました。(detail:*code1-code2*)

内容

プロセスの終了待ち合わせ時間内にプロセスが終了しませんでした。
code1, code2 は調査のための情報を示します。

対処

本コマンドで指定したプロセスが、プロセスの終了待ち合わせ時間内に終了しない原因を調査してください。調査については、そのプロセスの作成者に連絡してください。

6665 The directory was specified incorrectly.

ディレクトリの指定に誤りがあります。

内容

ディレクトリの指定に誤りがあったため、実行できなかったことを示しています。

対処

ディレクトリを正しく指定し、再度実行してください。

6668 Cannot run this command in single-user mode.

シングルユーザモードのため、本コマンドは実行できません。

内容

シングルユーザモードのため、コマンドが実行できなかったことを示しています。

対処

ノードをマルチユーザモードで起動し、再度実行してください。

6675 Cannot run this command because *product_name* has already been set up.

product_name の設定が行われているため、本コマンドは実行できません。

内容

product_name に示される製品の設定が行われているため、コマンドが実行できなかったことを示しています。

対処

リソースデータベースの *product_name* に関する設定を解除し、再度実行してください。解除方法については、*product_name* のマニュアルを参照してください。

6680 The specified directory does not exist.

指定されたディレクトリは存在しません。

内容

存在していないディレクトリを指定しています。

対処

存在するディレクトリを指定し、再度実行してください。

6690 The specified userApplication or resource is not monitored. (*resource*)

指定されたクラスタアプリケーションまたはリソースは監視されていません。(*resource*)

内容

パトロール診断対象に登録されていないクラスタアプリケーションまたは資源が指定されました。*resource* には、指定されたクラスタアプリケーションまたは資源が出力されます。

対処

"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照し、パトロール診断の構成を見直してください。

6691 The userApplication cannot do the patrol monitoring because of *status* .

クラスタアプリケーションが *status* のため、パトロール診断はできません。

内容

クラスタアプリケーションの状態によって、パトロール診断はできません。*status* には、クラスタアプリケーションの状態が出力されます。

対処

以下の状態のクラスタアプリケーションを指定し、再度実行してください。

```
Standby 、Offline 、Faulted 、Deact
```

6692 Patrol monitoring timed out.

パトロール診断でタイムアウトが発生しました。

内容

パトロール診断でタイムアウトが発生したことを示しています。

対処

パトロール診断を行うノードの電源が入っていることを確認してください。パトロール診断を行うノードの電源が入っていない場合は、ノードの電源を投入し、再度実行してください。
RMS が起動していることを確認してください。
RMS が起動されていない場合は、Cluster Admin または hvcm (1M) コマンドで、RMS を起した後、再度実行してください。

6750 A resource has faulted.SysNode:*SysNode* userApplication:*userApplication* Resorce:*resource*

リソース故障が発生しました。SysNode:*SysNode* userApplication:*userApplication* Resource:*resource*

内容

メッセージで指定されたリソースに障害が発生したため、エラーとなっています。

対処

- ハードウェアを表すリソースに障害が発生した場合は、ハードウェアの修理を行ってください。
- アプリケーションを表すリソースに障害が発生した場合は、各アプリケーションのエラー原因を確認してください。
- ユーザで作成したプロシジャを表す Cmdline リソースに障害が発生した場合は、check スクリプトで監視しているプロセスが異常終了した原因を確認し、そのプロシジャが正常に動作するかプログラムの見直しを行ってください。
- プロセス監視リソースに障害が発生した場合は、監視しているプログラムが異常終了した原因を確認してください。

- GDS リソース、GLS リソースに障害が発生した場合は、それぞれの製品のマニュアルを参照してエラーの原因を確認してください。
- Fsystem リソースに障害が発生した場合、I/O 負荷等により、マウントポイントチェック処理(システムコール)が一定時間内に完了しない旨の警告メッセージが出力されていないか確認してください。頻繁に出力されている場合、マウントポイントの監視時間(HV_GMOUNTMAXLOOP 値)をチューニングし、I/O 負荷を軽減してください。

6751 A SysNode has faulted. SysNode:*SysNode*

SysNode 故障が発生しました。SysNode:*SysNode*

内容

SysNode 故障が発生したことを示しています。*SysNode* は故障の発生した SysNode を示します。

対処

ノード起動後に表示されるオペレータ介入メッセージに応答を行うか、RMS メインウィンドウまたは hvdisp コマンドで、故障が発生したノードのクラスタアプリケーションの状態を確認してください。クラスタアプリケーションが Fault 状態の場合は、RMS メインウィンドウまたはhvutil コマンドの -c オプションで、Fault のクリア操作を行ってください。

6752 The processing was canceled due to the following error.
Error message from RMS command

以下の異常のため処理を終了します。
RMS コマンドから出力されるエラーメッセージ

内容

RMS コマンド(hvdisp)で故障リソースの履歴機能またはオペレーション介入機能を実行して失敗すると、エラーメッセージが表示されます。このエラーメッセージを調査し、適切な修正を行ってから要求を再試行してください。

対処

メッセージの内容および必要な対処法を確認して、再実行してください。必要な対処法は、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6753 Failed to process the operator intervention message due to the following error.(message number:*number* response:*action* command :*command*)
Error message from RMS command

以下の異常のためオペレータ介入要求メッセージの応答に失敗しました。
(メッセージ番号: *number* 応答: *action* コマンド: *command*)
RMS コマンドから出力されるエラーメッセージ

内容

RMS コマンドが異常終了したため、メッセージのオペレータ介入機能が失敗しました。
command は異常終了した RMS コマンドを示します。Error message from RMS command は RMS コマンドが標準エラーに出力するエラーメッセージを示します。

対処

このエラーメッセージを調査し、適切な修正を行ってから要求を再試行してください。
number は処理に失敗したオペレータ介入メッセージを示します。*action* はオペレータからのメッセージに対する最初の応答状態を yes または no で示します。

6754 The specified message number (*number*) does not exist.

指定されたメッセージ番号 (No.*number*) は存在しません。

内容

指定されたメッセージ番号は存在しません。*number* には、指定されたメッセージ番号が表示されます。

対処

このメッセージは以下の場合に出力されます。

- clreply コマンドの実行時にオペレータが誤って存在しないメッセージ番号を指定しました。この問題は未処理メッセージのリストにあるメッセージ番号を指定することで解決します。
- 応答したメッセージは、オペレータ介入機能が自動的に他のメッセージに置換しています。例えば、オペレータ介入機能メッセージ 1422 がメッセージ番号 1423 に置換されている場合、またはその逆などの場合があります。その場合、オペレータ介入機能は元のメッセージに応答し、メッセージを表示して、メッセージ番号が変更されていることをユーザに通知します。
- 応答したメッセージはキャンセルされています。これはアプリケーションの状態が変更されたためにメッセージが古くなったことによる現象です。この場合、対処は不要です。

6755 Failed to respond to the operator intervention message due to the SysNode (*SysNode*) stop. (message number:*number* response : *action*)

SysNode(*SysNode*) が停止したためオペレータ介入要求メッセージの応答に失敗しました。(メッセージ番号: *number* 応答: *action*)

内容

SysNode で示されるノードが停止したため、オペレータ介入メッセージへの応答が失敗しました。*SysNode* は停止しているノードの SysNode の名前を示します。*number* は応答に失敗したオペレータ介入メッセージの番号を示します。*action* はオペレータの応答を yes または no で示します。

対処

ノードを再起動して RMS が動作しているかどうかを確認してください。

6780 Cannot request to the process monitoring daemon.

プロセス監視機能への処理要求ができません。

内容

clmonproc コマンドがプロセス監視機能に対して監視開始、監視停止などの要求をすることに失敗しました。

対処

プロセス監視機能のデーモンプロセスが動作していない可能性があります。ps コマンドにより、prmd プロセスが存在するか確認してください。prmd プロセスが存在しない場合、/etc/init.d/clprmd start を実行し、復旧してください。prmd プロセスが存在している場合は、/etc/init.d/clprmd stop と /etc/init.d/clprmd start を順に実行し、復旧してください。

上記対処によってこのエラーを解決できない場合は、当社技術員(SE)に連絡してください。

6781 The process (*appli*) cannot be monitored because the process hasn't made a process group at starting.

プロセス (*appli*) は、プロセスの開始時にプロセスグループを作成しなかったため監視できません。

内容

clmonproc コマンドに -g オプションを指定して監視するプロセスは、「子孫プロセスを生成後直ぐに終了するもの」という条件を満たす必要があります。しかし、プロセスが起動されてから特定時間(デフォルト 10 秒)を過ぎても親プロセスが終了しませんでした。このようなプロセスを監視しつづけるとシステムへの負荷が高くなってしまうため、プロセス監視機能の監視対象から除外しました。*appli* は、監視対象プロセスの絶対パス名を示します。

対処

以下のいずれかの見直しを行ってください。

1. 子孫プロセスの監視をしない。または、clmonproc コマンドに -g オプションを指定しない。
2. 監視対象プロセスの処理を変更可能なのであれば子孫プロセスにおいてプロセスグループを変更しないようにし、clmonproc コマンドに -g オプションを指定しない。

3. 親プロセスは、プロセスを生成したならば直ぐに終了する。最初に生成された子プロセスは動作直後にプロセスリーダになるようにしてください。

6782 The process(*appli*) was not able to be executed. (errno:*error*)

プロセス (*appli*) の起動に失敗しました。(errno:*error*)

内容

clmonproc コマンドの -a オプションで指定した、コマンドが実行できませんでした。
appli は、起動に失敗したプロセスの絶対パス名を示します。*error* は、詳細コードを示します。

対処

clmonproc コマンドの -a オプションで指定したコマンドが実行可能かどうか確認してください。また、コマンド単体で実行させてエラーが発生していないかどうか確認してください。コマンドが実行可能である場合でも、再びこのメッセージが出力されるときは当社技術員(SE)に連絡してください。

詳細コードとして、errno を出力しているので当社技術員(SE)は、このメッセージの情報から原因を調査してください。例えば、errno が 13(EACCES) の場合、clmonproc コマンドの -a オプションに指定したコマンドパスに実行権がないことが主な原因だと考えられます。

6807 Disk device (NodeID *NodeID* , *disk*) cannot be detected.

ディスク装置 (ノード識別番号 *NodeID* 、*disk*) が検出できません。

内容

ディスク装置の電源が投入されていないか、配線が接続されていない可能性があります。このままクラスタアプリケーションを起動すると、正常にクラスタアプリケーションが起動できない可能性があります。
配線の接続状態により、本メッセージと 6836 番のメッセージの 2つが表示されることがあります。
NodeID はディスク装置が接続されていたノードのノード識別番号、*disk* は検出できなかった共用ディスク装置を示します。

対処

共用ディスク装置の電源が投入されていること、共用ディスク装置の接続が誤っていないことを確認してください。共用ディスク装置の電源が投入されていない場合は、ノードを停止して、共用ディスク装置の電源を投入し、ノードを起動してください。共用ディスク装置の接続が誤っている場合は、ノードを停止して、正しく接続を行い、ノードを起動してください。

6817 An error occurred during state transition procedure execution. (*error* procedure:*procedure* detail:*code1-code2-code3-code4-code5-code6-code7*)

状態遷移プロシジャの実行で異常が発生しました。(error procedure:procedure detail:code1-code2-code3-code4-code5-code6-code7)

内容

状態遷移プロシジャの実行で異常が発生したことを示しています。
procedure は異常となった状態遷移プロシジャを示します。*procedure* に示される状態遷移プロシジャを作成した場合は、以降の情報を参考にし、状態遷移プロシジャを修正してください。

code1、*code2*、*code3*、*code4*、*code5*、*code6* は異常となった状態遷移指示を示します。*code7* は調査のための情報を示します。

code1: 第1引数(状態遷移指示種別)

code2: 第2引数(クラスタサービスインスタンス種別)

code3: 第3引数(状態遷移指示タイミング)

code4: 第4引数(リソース ID)

code5: 第5引数(状態遷移事象種別)

code6: 第6引数(状態遷移事象詳細)

error はエラー原因を示します。エラー原因には、以下があります。

- procedure file exit error

対処

以下の原因が考えられます。

- 状態遷移プロシジャ(*procedure*)が Bourne シェルスクリプトでない
- 状態遷移プロシジャ(*procedure*)の各引数(*code1*〜*code6*)に対する状態遷移処理が、異常復帰した。プロシジャリソースの制御プログラムは状態遷移処理の成功、失敗を状態遷移プロシジャの終了コード(関数exit)により判断しています。

  終了コード0 :状態遷移処理が正常と判断します

  終了コード0以外 :状態遷移処理が異常と判断します

以下の対処を行ってください。

- 状態遷移プロシジャを取出し、状態遷移プロシジャ(procedure)が Bourne シェルスクリプトであることを確認してください。Bourne シェルでない場合は、状態遷移プロシジャの先頭行に、以下を記述し、状態遷移プロシジャを再登録してください。

  ```
  #!/bin/sh
  ```

状態遷移プロシジャの取出しは clgetproc コマンド、状態遷移プロシジャの登録は clsetproc コマンドで行います。各コマンドの詳細については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照してください。

- 各引数(*code1*〜*code6*)に対する状態遷移処理の復帰値について確認してください。終了コード(関数 exit)の処理が存在しない場合は、状態遷移プロシジャ内の最終コマンドの実行結果が復帰値となり、本現象が発生する場合がありますので、必ず終了コード(関数exit)の処理を設定してください。

上記本対処法で解決できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6836 The disk device (NodeID *NodeID* , *disk*) has changed.

ディスク装置 (ノード識別番号 *NodeID* 、*disk*) が以前と異なっています。

内容

本メッセージは、以下の原因の可能性があります。

1. 共用ディスク装置の配線が誤っている。
2. vtoc のボリューム名に値が設定されていない。
   主な理由として、ディスク交換時に自動構成を行わなかったことが原因と考えられます。

このままクラスタアプリケーションを起動すると、正常にクラスタアプリケーションが起動できない可能性があります。
配線の接続状態により、本メッセージと 6807 番のメッセージの 2つが表示されることがあります。
NodeID は共用ディスク装置が接続されているノード識別番号、*disk* は異常を検出した共用ディスク装置を示します。

対処

共用ディスク装置の接続が誤っていないことを確認してください。接続が誤っている場合は、ノードを停止して、接続を正しく行い、ノードを起動してください。
“2”の場合、自動構成を行ってください。

6900 Automatic resource registration processing terminated abnormally. (detail:*reason*)

自動リソース登録が異常終了しました。(detail: *reason*)

内容

自動リソース登録が異常終了したことを示しています。
reason は異常終了した箇所(コマンド名など)およびその復帰値を返します。

対処

ディスク資源およびシステム資源が正しく設定されていない場合に発生する可能性があります。あらかじめ作成している "システム設計ワークシート" を参照して設定を確認してください。それでも解決しない場合には、このメッセージを記録して、調査用の情報

を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

"システム設計ワークシート" の作成については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照してください。

6901 Automatic resource registration processing is aborted due to one or more of the stopping nodes in the cluster domain.

クラスタドメイン内に停止中のノードが存在するため、自動リソース登録を中止しました。

内容

クラスタドメイン内に停止中のノードが存在すると、自動リソース登録は行えません。

対処

すべてのノードを起動した後、自動リソース登録を行ってください。

6902 Automatic resource registration processing is aborted due to cluster domain configuration manager not running.

クラスタ制御の構成管理機構が動作していないため自動リソース登録を中止します。

内容

クラスタ制御の構成管理機構が動作していないと、自動リソース登録は行えません。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

調査情報を採取した後、全ノードを再起動することで復旧できる可能性があります。ノードは、shutdown(8) コマンドを実行して再起動してください。

6903 Failed to create logical path. (*node dev1 dev2*)

論理パスの作成に失敗しました。(*node dev1 dev2*)

内容

論理パスの作成に失敗したことを示しています。
node は論理パスの作成に失敗したノード識別名、*dev1* は作成しようとした論理パス(mplb2048等)、*dev2* は論理パスに対して実体となるパス(c1t0d0、c2t0d0等)を表示します。

対処

当社技術員(SE)に連絡し、共用ディスク装置の設定が正しく論理パスを作成できる設定になっているかを確認してください。それでも解決しない場合には、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

保守情報 (システム管理者向け)

ノード識別名に示されるノードの以下のファイルに論理パスを作成するために実行したコマンドラインが格納されています。

/var/opt/FJSVcluster/data/ACF/acfmk*device("*" は 0 文字以上任意の文字)

コマンドラインが正しければ、共用ディスク装置の設定が論理パスでサポートしていない設定になっている可能性があります。

6904 Fail to register resource. (detail:*reason*)

リソースの登録に失敗しました。(detail: *reason*)

内容

リソースの登録に失敗したことを示しています。*reason* はエラーとなった原因を表示します。

対処

ディスク資源およびシステム資源が正しく設定されていない場合に発生する可能性があります。それでも解決しない場合には、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。

その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

6905 Automatic resource registration processing is aborted due to mismatch instance number of logical device between nodes.

論理パスのインスタンス番号がノード間で異なっているため自動リソース登録を中止します。

内容

本メッセージは、以下の原因の可能性があります。

1. 自動リソース登録を実行する前にユーザがマルチパスディスクの論理パスを作成していた。
2. ディスクの交換をしたにもかかわらず、自動リソース登録を実施していなかった。この場合、vtoc のボリューム名に値が設定されていないことで判断できます。
3. ディスク装置やノードの増設後の自動リソース登録実行時に発生した場合、作成されているマルチパスディスクの論理パスにアクセスできなかったために、インスタンス番号の確認ができなかった。この場合、以下の条件から判断できます。
    1. 複数のノードに同じ名前の論理パスが作成されている。かつ、
    2. その論理パスに対して、あるノードからはアクセスでき、他のノードからはアクセスできない。

対処

本メッセージは、自動リソース登録を実行する前にユーザがマルチパスディスクの論理パスを作成していた場合に発生します。また、ディスク装置やノードの増設後の自動リソース登録実行時に発生した場合には、作成されているマルチパスディスクの論理パスにアクセスできなかったために、インスタンス番号の確認ができなかったケースもありえます。このケースの条件を満たしている必要があります。

1. 複数のノードに同じ名前の論理パスが作成されている
2. その論理パスに対して、あるノードからはアクセスでき、他のノードからはアクセスできない場合

PRIMECLUSTER の自動リソース登録には、すべてのアプリケーションに同一の環境を提供する機能があります。同一のディスク装置にある論理パスのインスタンス番号(mplb2048 の 2048)が、ノード間で異なっている場合は、本メッセージが出力され、自動リソース登録が中止されます。

本メッセージが出力された場合は、全ノードの論理パスを確認してください。必要に応じて論理パスを再作成し、インスタンス番号が同じになるようにしてください。確認作業が完了したら、再度自動リソース登録を実行してください。

マルチパスディスクの論理パスにアクセスできなかったことが原因である場合は、ディスク装置自身の異常や、ディスク装置の接続パス抜けなどが発生している可能性があります。

必要な修正処置を実行し、再度自動リソース登録を実行してください。上記の処置を行っても問題が解決しない場合は、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>"を参照してください。

保守情報(システム管理者向け)

自動リソース登録では、ディスク装置の vtoc にユニークなボリューム名が設定しています。このボリューム名を参照することによって、ディスク装置が同一であるかどうかを判断できます。ディスク装置のボリューム名は prtvtoc(1M) コマンドで確認します。以下に同一のディスク装置(ボリューム名が等しい)である論理パスのインスタンス番号が異なっている例を示します。

```
node0:

# /usr/sbin/prtvtoc /dev/FJSVmplb/rdsk/mplb2048s2 |head - 1

* /dev/FJSVmplb/rdsk/mplb2048s2 (volume "vol00001") partition map

(" " で囲まれたv0100001 はボリューム名を表しています。)
```

```
# /usr/sbin/prtvtoc /dev/FJSVmplb/rdsk/mplb2049s2 |head - 1

* /dev/FJSVmplb/rdsk/mplb2049s2 (volume "vol00002") partition map

node1:

# /usr/sbin/prtvtoc /dev/FJSVmplb/rdsk/mplb2048s2 |head - 1

* /dev/FJSVmplb/rdsk/mplb2048s2 (volume "vol00002") partition map

# /usr/sbin/prtvtoc /dev/FJSVmplb/rdsk/mplb2048s2 |head - 1

* /dev/FJSVmplb/rdsk/mplb2049s2 (volume "vol00001") partition map
```

ノード間でインスタンス番号が異なる論理パスを解除して、/dev/rdsk/cXtXdXs2 に対して prtvtoc(1M) コマンドでボリューム名を確認しながら同一のディスク装置が同じインスタンス番号となるように論理デバイスを作成してください。

論理デバイスを作成する方法については "マルチパスディスク制御説明書" を参照してください。

ディスク装置にアクセスできないことが原因であった場合には、prtvtoc(1M) コマンドが異常終了します。この場合はディスク装置の異常、接続パス異常などの状態を見直してください。

6906 Automatic resource registration processing is aborted due to mismatch setting of disk device path between nodes.

ディスク装置の設定がノード間で異なっているため自動リソース登録を中止します。

内容

ディスク装置の設定がノード間で異なっているため自動リソース登録が行えませんでした。

対処

本メッセージが発生した場合には以下のような設定誤りが考えられます。

- 同一の共用ディスク装置が接続されているノードで、マルチパスディスク制御のパッケージが適用されているノードと適用されていないノードが存在する
- 共用ディスク装置自動認識の優先モードがノード間で異なっている
- 共用ディスク装置へのパス数が、ノードごとに異なっている

上記の設定誤りの原因を取り除いた後、再度自動リソース登録を実行してください。

6907 Automatic resource registration processing is aborted due to mismatch construction of disk device between nodes.

ディスク装置の構成に矛盾があるために自動リソース登録を中止します。

内容

ディスク装置の構成に矛盾があるために自動リソース登録が行えませんでした。

対処

同一の共用ディスク装置を他のクラスタシステムに接続するなどの原因で、識別子(ボリュームラベル)が書き替えられてしまった可能性があります。
ディスク装置の構成を見直す必要があります。
共用ディスク装置の識別子(ボリュームラベル)が書き換えられるような設定(クラスタシステムを構成するノード以外から書き込まれていないかどうか)であることを確認してください。

正しい構成であるにもかかわらずこのメッセージが表示される場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6910 It must be restart the specified node to execute automatic resource registration. (node:*node_name...*)

クラスタ自動リソース登録を行うにはノードの再起動が必要です。(node: *node_name ...*)

内容

クラスタ自動リソース登録を行うにはノードの再起動が必要です。
node_name は再起動が必要なノードの識別子を示します。

対処

クラスタシステムを構成しているノードを再起動する必要があります。クラスタシステムを構成しているノードを再起動し、必要なリソースを再登録します。

複数のノードが *node_name* に表示される場合、これらのノードの識別子はコンマで区切られます。*node_name* が "All" になっている場合は、クラスタシステムを構成しているすべてのノードを再起動します。

保守情報(システム管理者向け)

自動リソース登録を行うためには、ノード間で sfdsk ドライバのメジャー番号が一致化していなければなりません。上記ドライバのメジャー番号は、PRIMECLUSTER インストール時に予約されるため、通常、本メッセージは出力されることはありません。本メッセージが表示されるケースは、PRIMECLUSTER インストール後、メジャー番号を予約したがノードを再起動していないため、予約されたメジャー番号でドライバが動作していないケースです。

6911 It must be matched device number information in all nodes of the cluster system executing automatic resource registration. (dev:*dev_name...*)

クラスタ自動リソース登録を行うには全ノードで装置情報を一致化させる必要があります。(dev: *dev_name ...*)

内容

クラスタ自動リソース登録を行うには全ノードで装置情報を一致化させる必要があることを示しています。
dev_name は調査用の情報を表します。

対処

このメッセージを記録して、当社技術員(SE)に連絡してください。SE が、ディスクデバイスの情報に関するトランザクションの照合を行います。

保守情報(システム管理者向け)

自動リソース登録を行うためには、ノード間で sfdsk ドライバのメジャー番号を合わせる必要があります。そのため、PRIMECLUSTER インストール時にメジャー番号の予約を行っていますが、すでに他のドライバが使用中等のため予約に失敗しています。新たに未使用のメジャー番号で各ドライバのメジャー番号予約を行って、反映のためノードを再起動してください。dev_name は、再予約が必要なドライバのプレフィックスを示します。

7003 An error was detected in RCI. (node:*nodename* address:*address* status:*status*)

RCI の異常を検出しました。(node:*nodename* address:*address* status:*status*)

内容

RCI の異常を検出したことを示しています。

対処

メッセージが表示されたノードと、メッセージ中の *nodename* 間の RCI 通信に異常があります。

この異常の原因は、RCI が正しく接続されていない、またはシステムの異常が考えられます。

以下の点を確認してください。

- RCI ケーブルが抜けていないか
- RCI 装置側でファームの再起動やファームアップなどの操作を行っていないか

これらが原因の場合は、対処を行った上で、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構(SF)とRCI 非同期監視(MA)を再起動します。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrcimonctl stop
```

```
# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrcimonctl start
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で対処できない場合は、RCI ケーブル、システム監視機構(以降、System Control Facility: SCF と略す)などのハードウェア故障と考えられます。このメッセージを記録して、SCF ダンプおよび調査情報を採取し、当社技術員(SE, CE)に連絡してください。SCF ダンプおよび調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

当社技術員(SE, CE)は、ハードウェアの復旧作業を実施した後、上記のコマンドにより、RCI非同期監視(MA)およびシャットダウン機構(SF)を再起動します。

7004 The RCI monitoring agent has been stopped due to an RCI address error. (node:nodename address:address)

RCI アドレス異常のためRCI 非同期監視機能を停止します。(node:nodename address:address)

内容

RCI アドレスが異常であることを示しています。

対処

以下の原因が考えられます。

- RCI アドレスを設定していない。
- RCI アドレスが重複している。
- RCI 非同期監視が動作している状態で、他のノードの RCI アドレスを変更した。

このメッセージを記録して、SCF ダンプおよび調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。SCF ダンプおよび調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

当社技術員(SE, CE)は、次の対処を行います。メッセージに表示された nodename の RCI アドレスが、正しく設定されているか確認します。設定変更前の RCI アドレスを確認するには、任意のノードで以下のコマンドを実行してください。

```
# /opt/FJSVmadm/sbin/setrci -c stat
```

正しい RCI アドレスを設定した後、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、RCI 非同期監視(MA)およびシャットダウン機構(SF)を再起動します。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrcimonctl stop
```

```
# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrcimonctl start
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

7012 Hardware error occurred in RCI setup.

RCIの設定処理でハードウェアエラーが発生しました。

内容

RCIの設定に問題があります。

対処

RCIが設定されていない、または、RCIの設定誤りが考えられます。

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、また、システム監視機構(SCF)のメッセージが出力されている場合は、そのメッセージの記録およびSCFダンプを採取し、当社技術員(SE, CE)に連絡してください。調査情報およびSCFダンプの採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。システム監視機構(SCF)から出力されるメッセージについては、"Enhanced Support Facility ユーザーズガイド"を参照してください。

対処を行った上で、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構(SF)とRCI非同期監視(MA)を再起動します。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e

# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrcimonctl stop

# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrcimonctl start

# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

7018 The console monitoring agent has been started.

コンソール非同期監視機能は既に起動されています。

内容

コンソール非同期監視機能が既に起動されていることを示しています。

対処

コンソール非同期監視機能を再起動する必要がない場合には、対処する必要はありません。コンソール非同期監視機能を再起動する必要がある場合は、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、コンソール非同期監視(MA)およびシャットダウン機構(SF)を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e

# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccumonctl stop

# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccumonctl start

# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

7019 The RCI monitoring agent has already been started.

RCI非同期監視機能は既に起動されています。

内容

RCI非同期監視機能が既に起動されていることを示しています。

対処

RCI非同期監視機能を再起動する必要がない場合には、対処する必要はありません。RCI非同期監視機能を再起動する必要がある場合は、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、RCI非同期監視(MA)およびシャットダウン機構(SF)を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e

# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrcimonctl stop

# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrcimonctl start

# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7026 HCP is not supported. (version:*version*).

HCP の版数がサポートされていない版数です。(version:*version*)

内容

サポートされていない版数の HCP(Hardware Control Program) が使用されています。

対処

XSCF をコンソールとして使用するためには、HCP の更新が必要です。更新方法については、"XSCF (eXtended System Control Facility) ユーザーズガイド" を参照してください。

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7027 The XSCF is not supported.

XSCF がサポートされていません。

内容

XSCF がサポートされていないことを示しています。

対処

以下の原因が考えられます。

- XSCF が実装されていない本体装置である。
- ESF(Enhanced Support Facility) がインストールされていない。

本体装置添付の取扱説明書を参照し XSCF が実装されているか確認してください。また、ESF のインストールガイドを参照し ESF がインストールされているか確認してください。XSCF が実装されており、ESF がインストールされていない場合は、ESF をインストールしてください。

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7030 CF is not running.

CF が動作していません。

内容

CF が動作していないことを示しています。

対処

CF が未設定の場合は、"PRIMECLUSTER Cluster Foundation 導入運用手引書" を参照し、CF を設定してください。CF が設定済みの場合は、CF を起動してください。

CF の起動方法については、"PRIMECLUSTER Cluster Foundation 導入運用手引書" を参照してください。

7031 Cannot find the HCP version.

HCP の版数を取得できません。

内容

HCP の版数を取得できないことを示しています。

対処

ESF(Enhanced Support Facility) が正しくインストールされていない可能性があります。ESF のインストールガイドを参照し、ESF のインストール状態を確認してください。

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7033 Cannot find the specified CF node name.(nodename:*nodename*).

指定された CF ノード名は存在しません。(nodename:*nodename*)

内容

指定された CF ノード名は存在していないことを示しています。

対処

以下の点を確認して、再度実行してください。

1. 指定された CF ノード名が正しいか。
   cftool を使用し、指定した CF ノード名が誤っていないか確認してください。誤った CFノード名を指定していた場合は、正しい CF ノード名を指定してください。

2. 指定されたノードの CF は動作しているか。
   cftool を使用し、CF が動作しているか確認してください。
   CF が動作していない場合は、CF を起動してください。cftool コマンドについては、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を、CF の起動方法については、"PRIMECLUSTER Cluster Foundation 導入運用手引書" を参照してください。

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7034 The console information is not set.(nodename:*nodename*)

コンソール情報が登録されていません。(nodename:*nodename*)

内容

指定された CF ノード名のコンソール情報が登録されていません。

対処

clrccusetup -l コマンドを実行し、現在登録されているコンソール情報を確認してください。そして、必要があればシャットダウン設定ウィザードまたは clrccusetup コマンドを使用して、コンソール情報を登録してください。シャットダウン設定ウィザードについては "PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を、clrccusetup コマンドについては "PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照してください。

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7035 An address error is detected in RCI. (node:*nodename* address:*address*)

RCI アドレス異常を検出しました。(node:*nodename* address:*address*)

内容

RCI アドレス異常を検出したことを示しています。

対処

RCI アドレスが正しい設定かどうかを確認する必要があります。このメッセージを記録して、SCF ダンプおよび調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。SCF ダンプおよび調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

当社技術員(SE, CE)は、次の対処を行います。メッセージに表示された *nodename* の RCI アドレスが、正しく設定されているか確認します。設定変更前の RCI アドレスを確認するには、任意のノードで以下のコマンドを実行してください。

```
# /opt/FJSVmadm/sbin/setrci stat
```

RCI アドレスが正しく設定されていない場合、RCI アドレスを設定しなおします。設定方法の詳細については、当社技術員(CE)向けの現調手順書を参照してください。メッセージに表示された *nodename* は、シャットダウン機構(SF)を再起動するまで、RCI 非同期監視によるノードの監視、および、強制停止の対象としません。正しい RCI アドレスを設定した後、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構(SF)を再起動します。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

7036 The RCI is not supported.

RCIがサポートされていません

内容

RCI が動作できる環境ではありません。

対処

Enhanced Support Facility(以降、ESF と略す)が正しくインストールされ、正しく動作しているかを確認してください。ESF に問題がある場合は、対処を行った上で、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構(SF)とRCI 非同期監視(MA)を再起動します。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrcimonctl stop
```

```
# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrcimonctl start
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、また、システム監視機構(SCF)のメッセージが出力されている場合は、そのメッセージの記録および SCF ダンプを採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報および SCF ダンプの採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。システム監視機構(SCF)から出力されるメッセージについては、"Enhanced Support Facility ユーザーズガイド" を参照してください。

7037 The SNMP information is not set.(nodename:*nodename*)

SNMP情報が登録されていません。(nodename:*nodename*)

内容

指定された CF ノード名の SNMP 情報が登録されていません。

対処

clsnmpsetup -l コマンドを実行し、現在登録されているコンソール情報を確認してください。

必要であればシャットダウン設定ウィザードまたは clsnmpsetup コマンドを使用して、コンソール情報を登録してください。

シャットダウン設定ウィザードについては "PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を、clsnmpsetup コマンドについては"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照してください。

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7040 The console was disconnected. (node:nodename portno:portnumber detail:code)

コンソール接続ができなくなりました。(node:*nodename* portno:*portnumber* detail:*code*)

内容

コンソールへの接続が切断されたことを示しています。

対処

以下の点を確認してください。

<コンソールに**RCCU**を使用している場合>

- リモートコンソール接続装置の電源が投入されているか。
- HUB と LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- リモートコンソール接続装置側コネクタ、HUB 側コネクタから LAN ケーブルが抜けていないか。
- システム、または、リモートコンソール接続装置のネットワークに負荷がかかっていないか。

<コンソールに**XSCF**を使用している場合>

- HUB と LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- XSCF の XSCF-LAN ポートのコネクタ、HUB 側コネクタから LAN ケーブルが抜けていないか。
- XSCF の telnet ポートのうち XSCF シェルポートにクラスタ外から接続されていないか。
  シリアルポート(tty-a)経由で XSCF シェルに接続し確認してください。接続方法および確認方法については、"XSCF (eXtended System Control Facility) ユーザーズガイド" を参照してください。
- システム、または、XSCFのネットワークに負荷がかかっていないか。
- XSCF側でファームの再起動やファームアップなどの操作やXSCFのフェイルオーバなどの事象が発生していなかったか。

<コンソールに**ILOM**を使用している場合>

- HUB と LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- ILOM のネットワーク管理(NET MGT)ポートのコネクタ、HUB 側コネクタからLAN ケーブルが抜けていないか。
- システム、または、ILOM のネットワークに負荷がかかっていないか。
- ILOM側でファームの再起動やファームアップなどの操作を行っていなかったか。

上記項目が原因だと判明した場合、対処を行った上で、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構(SF)とコンソール非同期監視(MA)を再起動します。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e

# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccumonctl stop

# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccumonctl start

# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

上記項目を確認しても接続に失敗する場合は、ネットワーク障害やリモートコンソール接続装置、XSCF、ILOM、あるいは HUB などのハードウェア故障が考えられるので、当社技術員(CE)に連絡してください。

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7042 Connection to the console is refused. (node:*nodename* portno:*portnumber* detail:*code*)

コンソールへの接続ができません。(node:*nodename* portno:*portnumber* detail:*code*)

内容

コンソール非同期監視の起動時に、コンソールへの接続が確立できません。

対処

以下の点を確認してください。

<コンソールに**RCCU**を使用している場合>

- リモートコンソール接続装置の IP アドレスまたはノード名が誤っていないか。
  clrccusetup(1M) を使用して設定されている IP アドレスまたはノード名を確認してください。
  IP アドレスまたはノード名が誤っていた場合は、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照して SF ウィザードの設定をやり直してください。
- リモートコンソール接続装置の電源が投入されているか。
- HUB と LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- リモートコンソール接続装置側コネクタ、HUB 側コネクタから LAN ケーブルが抜けていないか。
- RCCU の IP アドレスが、管理 LAN と同一セグメントになっているか。
- リモートコンソール接続装置のコンソール情報が誤っていないか。
  clrccusetup(1M) を使用して設定されているコンソール情報を確認してください。コンソール情報が誤っていた場合は、clrccusetup(1M) を使用して、コンソール情報を再登録してください。

<コンソールに**XSCF**を使用している場合>

- XSCFのIP アドレスまたはノード名が誤っていないか。
  clrccusetup(1M) を使用して設定されている IP アドレスまたはノード名を確認してください。IP アドレスまたはノード名が誤っていた場合は、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照して SF ウィザードの設定をやり直してください。
- HUB と LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- XSCF の XSCF-LAN ポートのコネクタ、HUB 側コネクタから LAN ケーブルが抜けていないか。
- XSCF の telnet ポートのうち XSCF シェルポートにクラスタ外から接続されていないか。
  シリアルポート(tty-a)経由で XSCF シェルに接続し確認してください。接続方法および確認方法については、"XSCF (eXtended System Control Facility) ユーザーズガイド" を参照してください。
- XSCF の IP アドレスが、管理 LAN と同一セグメントになっているか。
- XSCF のコンソール情報が誤っていないか。
  clrccusetup(1M) を使用して設定されているコンソール情報を確認してください。コンソール情報が誤っていた場合は、clrccusetup(1M) を使用して、コンソール情報を再登録してください。
- XSCF への接続方法に SSH を使用している場合、シャットダウン機構用のログインユーザアカウントを使用して、クラスタノードから XSCF へ SSH 接続し、SSH 初回接続時のユーザ問い合わせ(RSA 鍵の生成など)が完了しているか。
- XSCF側でファームの再起動、ファームアップなどの操作、またはXSCFのフェイルオーバなどの事象が発生していなかったか。

<コンソールに**ILOM**を使用している場合>

- ILOM のIP アドレスまたはノード名が誤っていないか。
  clrccusetup(1M) を使用して設定されている IP アドレスまたはノード名を確認してください。IP アドレスまたはノード名が誤っていた場合は、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照して SF の設定をやり直してください。
- HUB と LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- ILOM のネットワーク管理(NET MGT)ポートのコネクタ、HUB 側コネクタからLAN ケーブルが抜けていないか。
- ILOM のコンソール情報が誤っていないか。
  clrccusetup(1M) を使用して設定されているコンソール情報を確認してください。コンソール情報が誤っていた場合は、clrccusetup(1M) を使用して、コンソール情報を再登録してください。
- ILOM 3.0 の場合、シャットダウン機構用のログインユーザに必要な権限が設定されているか。権限については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照してください。
- シャットダウン機構用のログインユーザアカウントを使用して、クラスタノードから ILOM へ SSH 接続し、SSH 初回接続時のユーザ問い合わせ(RSA 鍵の生成など)が完了しているか。
- ILOM 側でファームの再起動、またはファームアップなどの操作を行っていなかったか。

上記項目が原因だと判明した場合、対処を行った上で、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構(SF)とコンソール非同期監視(MA)を再起動します。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e

# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccumonctl stop

# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccumonctl start

# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

上記項目を確認しても接続に失敗する場合は、ネットワーク障害やリモートコンソール接続装置、XSCF、ILOM、あるいは HUB などのハードウェア故障が考えられるので、当社技術員(CE)に連絡してください。

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

7050 A failure is detected in a LAN device as a result of hardware diagnostics. (node:*nodename* device:*altname* rid:*rid* detail:*code*)

LAN デバイスへハード診断を実施した結果、故障と判定しました。(node:*nodename* device:*altname* rid:*rid* detail:*code*)

内容

LAN デバイスへハード診断を実施した結果、故障と判定したことを示しています。
altname は故障と診断された LAN デバイスのインタフェース名が出力されます。*nodename* 、*rid* 、*code* は調査のための情報を示します。

対処

"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" の "パトロール診断で異常を検出した場合の対処方法" を参照し、対処してください。

7051 A network device monitoring command is abnormally terminated as a result of diagnosing a LAN device.(node:*nodename* device:*altname* rid:*rid* detail:*code*)

LAN デバイスへハード診断を実施した結果、ネットワークデバイス診断コマンドが異常終了しました。(node:*nodename* device:*altname* rid:*rid* detail:*code*)

内容

LAN デバイスへハード診断を実施した結果、ネットワークデバイス診断コマンドが異常終了したことを示しています。
altname は故障と診断された LAN デバイス名が出力されます。*nodename* 、*rid* 、*code* は調査のための情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

7052 A failure of the shared disk device is detected as a result of the hardware diagnostics. (node:*nodename* device:*altname* rid:*rid* detail:*code*)

共用装置へハード診断を実施した結果、故障と判定しました。(node:*nodename* device:*altname* rid:*rid* detail:*code*)

内容

共用装置へハード診断を実施した結果、故障と判定したことを示しています。
altname は故障と診断されたデバイス名が出力されます。*nodename* 、*rid* 、*code* は調査のための情報を示します。

対処

"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" の "パトロール診断で異常を検出した場合の対処方法" を参照し、対処してください。

7053 A disk monitoring command is abnormally terminated as a result of the hardware diagnostics. (node:*nodename* device:*altname* rid:*rid* detail:*code*)

共用装置へハード診断を実施した結果、ディスク診断コマンドが異常終了しました。(node:*nodename* device:*altname* rid:*rid* detail:*code*)

内容

共用装置へハード診断を実施した結果、ディスク診断コマンドが異常終了したことを示しています。
altname は故障と診断された共用装置名が出力されます。*nodename* 、*rid* 、*code* は調査のための情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7054 A designated device cannot be opened as a result of diagnosing the shared disk device. (node:*nodename* device:*altname* rid:*rid* detail:*code*)

共用装置へハード診断を実施した結果、指定されたデバイスのオープンに失敗しました。(node:*nodename* device:*altname* rid:*rid* detail:*code*)

内容

共用装置へハード診断を実施した結果、指定されたデバイスのオープンに失敗したことを示しています。
altname は見つからなかったデバイス名が出力されます。*nodename* 、*rid* 、*code* は調査のための情報を示します。

対処

パトロール診断を行うハードウェアに、存在するハードウェアを指定してください。指定方法は、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" の "パトロール診断の設定" を参照してください。

7055 The designated LAN device cannot be found as a result of the hardware diagnostics. (node:*nodename* device:*altname* rid:*rid* detail:*code*)

LAN デバイスへハード診断を実施した結果、指定された LAN デバイスが見つかりません。(node:*nodename* device:*altname* rid:*rid* detail:*code*)

内容

LAN デバイスへハード診断を実施した結果、指定された LAN デバイスが見つからないことを示しています。
altname は見つからなかった LAN デバイスのインタフェース名が出力されます。*nodename* 、*rid* 、*code* は調査のための情報を示します。

対処

パトロール診断を行うハードウェアに、存在するハードウェアを指定してください。指定方法は、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" の "パトロール診断の設定" を参照してください。を参照してください。

7056 The flag settings of the activated LAN device is found improper as a result of the hardware diagnostics. (node:*nodename* device:*altname* rid:*rid* detail:*code*)

LAN デバイスへハード診断を実施した結果、指定された LAN デバイスの活性時のフラグが不適当です。(node:*nodename* device:*altname* rid:*rid* detail:*code*)

内容

LAN デバイスへハード診断を実施した結果、指定された LAN デバイスの活性時のフラグが不適当であることを示しています。
altname は不適当な状態になっているネットワークデバイス名が出力されます。*nodename* 、*rid* 、*code* は調査のための情報を示します。

対処

LAN デバイスの活性化時のフラグが、UP ではない、BROADCAST ではないなどの使用するのに不適当な状態になっています。システム構成を確認の上、正しく活性化してください。LAN デバイスの活性化時のフラグは ifconfig(1M) コマンドで確認してください。確認する点は以下の 5つです。

- UP がセットされていること

- BROADCAST がセットされていること
- LOOPBACK がセットされていないこと
- POINTOPOINT がセットされていないこと
- NOARP がセットされていないこと

7101 SCF cannot be accessed because it is in the busy state. (type:*type*)

SCF がビジー状態のためアクセスできません。(type:*type*)

内容

SCF がビジー状態のためアクセスできないことを示しています。*type* は調査のための情報を示します。

対処

数分時間を空けて再度実行してください。

7102 SCF open failed. (errno:*errno*)

SCF のオープンに失敗しました。(errno:*errno*)

内容

SCF のオープンに失敗したことを示しています。*errno* はエラー番号を示します。

対処

当社技術員(CE)に連絡して、SCF が正常に動作しているかを確認してください。

7103 SCF access failed. (errno:*errno*)

SCF のアクセスに失敗しました。(errno:*errno*)

内容

SCF のアクセスに失敗したことを示しています。*errno* はエラー番号を示します。

対処

当社技術員(CE)に連絡して、SCF が正常に動作しているかを確認してください。

errno はエラー番号を示します。

7104 The subclass of the line switching unit cannot be identified. (RCI:*addr* Subclass:*no*)

回線切替装置のサブクラスが不明です。(RCI:*addr* Subclass:*no*)

内容

サブクラスが不明な回線切替装置が接続されています。

- *addr*: 装置の RCI アドレス
- *no*: 装置のサブクラス

  0x01: 4 回線切替装置

  0x02: 16 回線切替装置

対処

サポート対象の回線切替装置かを確認してください。

7105 The specified line switching unit does not exist. (RCI:*addr*)

回線切替装置が存在しません。(RCI:*addr*)

内容

RCI アドレス(*addr*)で指定された回線切替装置が存在しません。*addr* は RCI アドレスを示します。

対処

当社技術員(CE)に連絡して、指定した回線切替装置の RCI アドレスに誤りがないか、または、正しく接続されているかを確認してください。

7106 The power to the line switching unit is not on, or the RCI cable has been disconnected. (RCI:*addr*)

回線切替装置の電源か RCI ケーブルが入っていません。(RCI:*addr*)

内容

回線切替装置の電源か RCI ケーブルが入っていないことを示しています。*addr* は回線切替装置の RCI アドレスを示します。

対処

指定した回線切替装置の電源が入っているか、RCI ケーブルが外れていないかを確認してください。

7108 Reservation of the line switching device failed. (RCI:*addr* LSU:*mask* retry:*no*)

回線切替装置のリザーブに失敗しました。(RCI:*addr* LSU:*mask* retry:*no*)

内容

RCI アドレス(*addr*)で指定された回線切替装置の*mask*で指定された切替ユニットのリザーブ処理を*no*回繰り返しても失敗しました。

addr は回線切替装置の RCI アドレス、*mask* は回線切替装置の切替ユニットを示すマスク、*no* はエラーを表示するまでのリトライ回数を示します。

対処

回線切替装置が故障していないか、RCI 接続に誤りがないか、装置の電源電圧に異常がないかを確認してください。多発する場合は当社技術員(CE)に連絡してください。

7109 An error was detected in the switching control board of the line switching unit. (RCI:*addr* status:*status* type:*type*)

回線切替装置の切替制御ボードの異常を検出しました。(RCI:*addr* status:*status* type:*type*)

内容

回線切替装置の切替制御ボードで異常が検出されたことを示しています。

addr: 異常が検出された回線切替装置の RCI アドレス

status: エラー種別ごとの回線切替装置の内部ステイタス

type: エラー種別

- 1: 切替制御系異常(*status*: ステイタス 0)

  status: 回線切替装置のステイタス 0 の値(以下を参照)を示します。

  - 0x80: QANS(0: 正常、1: 異常)

    切替え処理中以外であるのに、QSC の切替えラインがアサートされたままの状態(異常)であることを示します。

  - 0x40: QAST(0: 正常、1: 異常)

    切替え処理中において、QSC の切替えラインがアサートできないことを示します。いったん、異常状態になると電源が未供給になるまでその状態は保たれます。

- 2: 電源･回路異常（*status* :ステイタス 0）

  status: 回線切替装置のステイタス 0 の値（以下を参照）を示します。

  - 0x10: QENA（0: 正常、1: 異常）

    QSC 切替え機能イネーブル状態を示します。当 Bit が ON の場合は、接続されているすべての QSC が異常であることを示します。

  - 0x08: DCNV（0: 正常、1: 異常）

    QSC に実装された DC-DC コンバータの出力電圧が正常であることを示します。当 Bit が ON の場合は、DC-DC コンバータの出力電圧が異常であることを示します。

    備考）当 Bit は、4 回線切替装置のみ有効です。

  - 0x04: PW12

    電源が 1 台の場合は 0、電源が 2 台の場合は 1 を示します。

    備考）当 Bit は、16 回線切替装置のみ有効です。

  - 0x02: PRY1（0: 正常、1: 異常）

  - 0x01: PRY0（0: 正常、1: 異常）

    電源の正常/異常を示します（正常とは、故障もなく電力が供給されていることを示します）。

    備考）当 Bit は、16 回線切替装置のみ有効です。

- 3: QSC 接続異常（*status*: ステイタス 1）

  status: 回線切替装置のステイタス 1 の値（以下を参照）を示します。

  - 0x80: HSC（0:4 回線切替装置、1:16 回線切替装置）

    16 回線切替装置かどうかを示します。

  - 0x20: QSC1（スロット 1 実装）

  - 0x10: QSC0（スロット 0 実装）

    QSC（切替制御ボード）がどちらのスロットに実装されているかを示します。0x10、0x20 以外の値の場合は異常です。

  - 0x02: OBSY

    二重化された QSC において、もう一方の QSC が切替え処理（リザーブ解除、切替えコマンド 0、切替えコマンド 1）を実行中であることを示します。

対処

回線切替装置が故障していないか、RCI 接続に誤りがないか、装置の電源電圧に異常がないかを確認してください。多発する場合は当社技術員（CE）に連絡してください。

7110 An error was detected in the switching unit of the line switching unit. (RCI:*addr* LSU:*mask* status:*status* type:*type*)

回線切替装置の切替ユニットの異常を検出しました。(RCI:*addr* LSU:*mask* status:*status* type:*type*)

内容

回線切替装置の切替ユニットで異常が検出されたことを示しています。

addr: 異常が検出された回線切替装置の RCI アドレス

mask: 制御対象のLSU マスク

status: エラー種別ごとの回線切替装置の内部ステイタス（調査用）

type: エラー種別

- 1: 状態の異常

  status: 切替装置内の各 LSU の異常状態を LSU マスクの値で示します。

0: 該当 LSU は、正常であることを示します。

1: 該当 LSU は、異常であることを示します。

- 2: 未接続 LSU に切替え/リザーブ解除の指示を行った

status: 切替装置内の各 LSU の接続(実装)状態を LSU マスクの値で示します。

0: 該当 LSU は、未接続状態であることを示します。

1: 該当 LSU は、接続状態であることを示します。

LSU マスクの値

LSU15 LSU14 LSU13 LSU12 ・・・ LSU03 LSU02 LSU01 LSU00

0x8000 0x4000 0x2000 0x1000 ・・・ 0x0008 0x0004 0x0002 0x0001

対処

回線切替装置が故障していないか、RCI 接続に誤りがないか、装置の電源電圧に異常がないかを確認してください。多発する場合は当社技術員(CE)に連絡してください。

保守情報(システム管理者向け)

指示された回線切替装置に異常がないか検査してください。

7111 The cluster event control facility is not running. (detail:*code1*-*code2*)

クラスタ制御のイベント制御機構が動作していません。(detail:*code1*-*code2*)

内容

クラスタ制御のイベント制御機構が動作していないことを示しています。*code1*、*code2* は調査のための情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

すべてのノードで調査情報を採取した後、本メッセージが出力されたノードを再起動してください。ノードの停止手段については、shutdown(1M) コマンドを使用してください。

7112 Communication failed in the cluster event control facility (detail:*code1*-*code2*)

クラスタ制御のイベント制御機構で通信に失敗しました。(detail:*code1*-*code2*)

内容

クラスタ制御のイベント制御機構で通信に失敗したことを示しています。*code1*、*code2* は調査のための情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

すべてのノードで調査情報を採取した後、本メッセージが出力されたノードを再起動してください。ノードの停止手段については、shutdown(1M) コマンドを使用してください。

7113 Cluster event control facility: internal error. (detail:*code1*-*code2*)

クラスタ制御のイベント制御機構で内部異常が発生しました。(detail:*code1*-*code2*)

内容

クラスタ制御のイベント制御機構で内部異常が発生したことを示しています。*code1*、*code2* は調査のための情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

すべてのノードで調査情報を採取した後、本メッセージが出力されたノードを再起動してください。ノードの停止手段については、shutdown(1M) コマンドを使用してください。

7116 Port number information is not set for resource SWLine. (rid:*rid*)

リソース SWLine にポート番号情報が設定されていません。(rid:*rid*)

内容

リソース SWLine にポート番号情報が設定されていないことを示しています。
rid は回線切替装置の SWLine のリソース ID を示します。

対処

リソース SWLine に使用する回線切替装置のポート番号の属性情報(port)を設定してください。

7117 The port number specified for resource SWLine is incorrect. (rid:*rid* port:*port*)

リソース SWLine のポート番号が誤っています。(rid:*rid* port:*port*)

内容

リソース SWLine のポート番号が誤っていることを示しています。
rid は回線切替装置の SWLine のリソース ID を、*port* はポート番号を示します。

対処

正しくポート番号を設定してください。

7119 The LSU mask information has not been set for the shared resource SH_SWLine. (rid:*rid*)

共用リソース SH_SWLine に LSU マスク情報が設定されていません。(rid:*rid*)

内容

共用リソース SH_SWLine に LSU マスク情報が設定されていないことを示しています。
rid は回線切替装置の共用リソース SH_SWLine のリソース ID を示します。

対処

共用リソース SH_SWLine に使用する切替ユニットのマスク(lsu_mask)の属性情報を設定してください。

7121 The parent resource of the shared resource SH_SWLine is a resource other than the shared resource SH_SWU. (rid:*rid*)

共用リソース SH_SWLine の親リソースが共用リソース SH_SWU 以外です。(rid:*rid*)

内容

共用リソース SH_SWLine の親リソースが共用リソース SH_SWU 以外であることを示しています。
rid は回線切替装置の共用リソース SH_SWLine のリソース ID を示します。

対処

共用リソース SH_SWU の子リソースとして共用リソース SH_SWLine を作成し直してください。

7122 The RCI address information has not been set for the shared resource SH_SWU. (rid:*rid*)

共用リソース SH_SWU に RCI アドレス情報が設定されていません。(rid:*rid*)

内容

共用リソース SH_SWU に RCI アドレス情報が設定されていないことを示しています。
rid は回線切替装置の共用リソース SH_SWLine のリソース ID を示します。

対処

共用リソース SH_SWU に使用する回線切替装置の RCI アドレスの属性情報(addr)を設定してください。

7125 The resource ID of the node connected to the specified port *no* (rid: *rid*) is incorrect.

指定されたポート *no* 側に接続するノードのリソース ID (*rid*) は正しくありません。

内容

回線切替装置の指定されたポートに接続するノードのリソース ID に、ノード以外のリソース ID か、存在しないリソース ID が指定されています。
no は回線切替装置のポート番号、*rid* は指定されたリソース ID を示します。

対処

ノードのリソース ID を正しく設定してください。

7126 The resource ID (*rid*) of the same node is specified for ports 0 and 1.

ポート 0 側と 1 側に同じノードのリソース ID (*rid*) は指定できません。

内容

回線切替装置のポート 0 側と 1 側に同じノードのリソース ID は指定できません。クラスタサービスの運用と待機に同じノードは設定できません。
rid は指定されたノードのリソース ID を示します。

対処

ノードのリソース ID を正しく設定してください。

7130 The specified resource ID (*rid*) cannot be deleted because it is being used.

指定されたリソース ID (*rid*) は使用中のため削除できません。

内容

指定されたリソース ID は、すでに GDS 等で使用中のため削除できないことを示しています。
rid はリソース ID を示します。

対処

削除するリソース ID を確認し、リソース ID を正しく設定してください。

7131 The specified resource ID (*rid*) is not present in the shared resource class (*class*).

指定されたリソースID (*rid*) は共用リソースクラス (*class*) に存在しません。

内容

指定されたリソース ID は共用リソースクラスに存在しないことを示しています。
rid はリソース ID を、*class* は共用リソースクラスのクラス名を示します。

対処

リソース ID を正しく設定してください。

7132 The specified resource name (*name*) is not present in the shared resource class (*class*).

指定されたリソース名 (*name*) は共用リソースクラス (*class*) に存在しません。

内容

指定されたリソース名は共用リソースクラスに存在しないことを示しています。
name はリソース名を、*class* は共用リソースクラスのクラス名を示します。

対処

リソース名を正しく設定してください。

7200 The configuration file of the console monitoring agent does not exist. (file:*filename*)

コンソール非同期監視機能の設定ファイルが存在しません。(file:*filename*)

内容

コンソール非同期監視機能の設定ファイル :*filename* が存在しないことを示しています。

対処

補助情報に表示された設定ファイルを、クラスタを構成する他のノードから ftp によりダウンロードし、設定ファイル格納場所に配置します。設定ファイルに対して、他のノードと同一のアクセス権限情報を設定します。設定ファイルを配置した後、システムを再起動します。クラスタを構成するすべてのノードに設定ファイルが存在しない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7201 The configuration file of the RCI monitoring agent does not exist. (file:*filename*)

RCI 非同期監視機能の設定ファイルが存在しません。(file:*filename*)

内容

RCI 非同期監視機能の設定ファイル *filename* が存在しないことを示しています。

対処

補助情報に表示された設定ファイルを、クラスタを構成する他のノードから ftp によりダウンロードし、設定ファイル格納場所に配置します。設定ファイルに対して、他のノードと同一のアクセス権限情報を設定します。設定ファイルを配置した後、システムを再起動します。クラスタを構成するすべてのノードに設定ファイルが存在しない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7202 The configuration file of the console monitoring agent has an incorrect format. (file:*filename*)

コンソール非同期監視機能の設定ファイルの形式に誤りがあります。(file:*filename*)

内容

コンソール非同期監視機能の設定ファイル *filename* の形式に誤りがあることを示しています。

対処

補助情報に表示された設定ファイル名が SA_rccu.cfg の場合、シャットダウン機構(SF)の設定ウィザードからシャットダウン機構を再設定します。その際、RCCU 名を正しく入力していることを確認してください。本対処法で対処できない場合、または補助情報に表示された設定ファイル名が SA_rccu.cfg 以外のファイル名の場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7203 The username or password to login to the control port of the console is incorrect.

コンソールの制御ポートへログインするためのユーザ名、または、パスワードの設定に誤りがあります。

内容

コンソール(RCCU, XSCF, ILOM など)の制御ポートへログインできないことを示しています。

対処

クラスタシステムに登録されたコンソールの制御ポートへログインするためのユーザ名、または、パスワードが、コンソールに設定されたものと異なっています。コンソール非同期監視およびシャットダウン機構の設定を再度行ってください。

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7204 Cannot find the console's IP address. (nodename:*nodename* detail:*code*) .

コンソールの IP アドレスを取得できません。(nodename:*nodename* detail:*code*)

内容

コンソールの IP アドレスを取得できないことを示しています。

対処

リモートコンソール接続装置、XSCF または ILOM のノード名が誤っていないか、clrccusetup を使用して設定されているノード名を確認してください。

ノード名が誤っていた場合は、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照して SF ウィザードの設定をやり直してください。

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7210 An error was detected in MMB. (node:*nodename* mmb_ipaddress1:*mmb_ipaddress1* mmb_ipaddress2:*mmb_ipaddress2* node_ipaddress1:*node_ipaddress1* node_ipaddress2:*node_ipaddress2* status:*status* detail:*detail*)

MMB の異常を検出しました。(node:*nodename* mmb_ipaddress1:*mmb_ipaddress1* mmb_ipaddress2:*mmb_ipaddress2* node_ipaddress1:*node_ipaddress1* node_ipaddress2:*node_ipaddress2* status:*status* detail:*detail*)

内容

メッセージが表示されたノードの MMB による通信に異常があることを示しています。

対処

ハードウェア故障、またはシステムが高負荷状態であることが考えられます。以下の点を確認してください。

- MMB が故障しているか。
- ノードに負荷がかかっているか。

問題が解決されない場合、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

当社技術員(SE、CE)が、ハードウェアの復旧作業を実施した後、MMB 非同期監視機能は自動で復旧します。

7211 The MMB monitoring agent has already been started.

MMB 非同期監視機能はすでに起動されています。

内容

MMB 非同期監視機能はすでに起動されていることを示しています。

対処

MMB 非同期監視機能を再起動する必要がない場合には、対処する必要はありません。MMB 非同期監視機能を再起動する必要がある場合は、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、MMB 非同期監視(MA)およびシャットダウン機構(SF)を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clmmbmonctl stop
```

```
# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clmmbmonctl start
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7212 The MMB information is not set. (nodename:*nodename*)

MMB 情報が登録されていません。(nodename:*nodename*)

内容

指定された CF ノード名の MMB 情報が登録されていないことを示しています。

対処

clmmbsetup -l コマンドを実行し、現在登録されている MMB 情報を確認してください。そして、必要があればシャットダウン設定ウィザードまたは clmmbsetup コマンドを使用して、MMB 情報を登録してください。

シャットダウン設定ウィザードについては、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" の "5.1.2シャットダウン機構の設定" を、clmmbsetup(8) については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞"を参照してください。

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7213 An error has been detected in the transmission route to MMB. (node:*nodename* mmb_ipaddress1:*mmb_ipaddress1* mmb_ipaddress2:*mmb_ipaddress2* node_ipaddress1:*node_ipaddress1* node_ipaddress2:*node_ipaddress2*)

MMB の通信経路の異常を検出しました。(node:*nodename* mmb_ipaddress1:*mmb_ipaddress1* mmb_ipaddress2:*mmb_ipaddress2* node_ipaddress1:*node_ipaddress1* node_ipaddress2:*node_ipaddress2*)

内容

MMB の通信経路の異常を検出したことを示しています。

対処

以下の点を確認してください。

- HUB と LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- MMB ポートのコネクタ、HUB 側コネクタから LAN ケーブルが抜けていないか。
- 誤った IP アドレスを MMB の IP アドレス、または、自管理 IP アドレスに指定していないか。

上記項目が原因だと判明した場合、対処を行った後、MMB 非同期監視は自動復旧します。

自動復旧には最大で 10 分かかります。

上記項目を確認しても接続に失敗する場合は、ネットワーク障害や MMB、あるいは HUB などのハードウェア故障が考えられるので、当社技術員(CE)に連絡してください。本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

当社技術員(SE、CE)は、ハードウェアの復旧作業を実施した後、MMB 非同期監視機能は自動で復旧します。

7214 The username or password to login to the MMB is incorrect.

MMB にログインするためのパスワードの設定に誤りがあります。

内容

MMB にログインできません。
MMB へログインするためのユーザ名、または、パスワードが、MMB に設定されたものと異なっています。

対処

MMB 非同期監視およびシャットダウン機構の設定を再度行ってください。MMB の設定方法については "PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照してください。本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

7215 An error was detected in the MMB IP address or the Node IP address. (mmb_ipaddress1:*mmb_ipaddress1* mmb_ipaddress2:*mmb_ipaddress2* node_ipaddress1:*node_ipaddress1* node_ipaddress2:*node_ipaddress2*)

MMB の IP アドレス、または、自管理 IP アドレスが変更されています。

内容

メッセージが出力されたノードの MMB の IP アドレス、または、自管理 IP アドレスが変更されていることを示しています。

対処

本メッセージの出力直後にシャットダウン機構(SF)の Test State が TestFailed になっている場合は、以下の点を確認してください。

- MMB の IP アドレス、または、自管理 IP アドレスの変更が正しいか。

上記が原因だと判明した場合は、対処を行ったあと、すべてのノードで以下のコマンドを実行し、MMB非同期監視機能(MA)およびシャットダウン機構(SF)を再起動してください。なお、MMB の IP アドレスを変更した場合は、はじめに、変更したノードでだけ、以下のコマンドを実行してください。その後、残りのすべてのノードで以下のコマンドを実行してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e

# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clmmbmonctl stop

# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clmmbmonctl start

# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については "PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

7230 The Host OS information is not set. (nodename:*nodename*)

管理OS情報が登録されていません。(nodename:*nodename*)

内容

指定されたCFノード名が属する管理OS情報が登録されていないことを示しています。

対処

clvmgsetup -l コマンドを実行し、現在登録されている管理OS情報を確認してください。そして、必要があればclvmgsetup コマンドを使用して、管理OS情報を登録してください。

上記対処によってこのエラーが解決できない場合は、本メッセージを記録して、調査用の情報を採取します。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、“PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>”を参照してください。

7231 Cannot find the guest domain name.

ゲストドメイン名を取得できません。

内容

ゲストドメイン名を取得できないことを示しています。

対処

clvmgsetupコマンドを実行しているノードがゲストドメインであることを確認してください。

ゲストドメインで実行している場合は、“PRIMECLUSTER 導入運用手引書”の“3.2 仮想マシン機能を利用する場合” を参照し、ゲストドメインを設定してください。

7232 Cannot find the specified guest domain name. (domainname:*domainname*)

指定されたゲストドメイン名は存在しません。(domainname:*domainname*)

内容

指定されたゲストドメイン名は存在しません。

対処

指定されたゲストドメイン名は存在しません。以下の点を確認して、再度実行してください。

- 指定されたゲストドメイン名が正しいか。

  指定したゲストドメイン名が誤っていないか確認してください。誤ったゲストドメイン名を指定していた場合は、正しいゲストドメイン名を指定してください。

- 指定されたゲストドメインは動作しているか。

  ゲストドメインが動作しているか確認してください。ゲストドメインが動作していない場合は、ゲストドメインを起動してください。

- 論理ドメインの構成情報を保存したか。

  制御ドメインでldm add-spconfigコマンドを使用して、論理ドメインの構成情報を保存したか確認してください。論理ドメインの構成情報を保存していない場合は、ldm add-spconfigコマンドを使用して論理ドメインの構成情報を保存してください。

- XSCF側で論理ドメインの状態が確認できるか。

  XSCF側で論理ドメインの状態を確認してください。XSCF側で論理ドメインの状態が確認できない場合は、制御ドメインでldm add-spconfigコマンドを使用して論理ドメインの構成情報を保存してください。

- マイグレーション後のクラスタへの操作が行われているか。

  clsnmpsetup(1M)を使用して、設定されているXSCFのIPアドレスを確認してください。また、XSCF側で論理ドメインの状態を確認してください。

  XSCFのIPアドレスが誤っている、または、論理ドメインの状態が確認できない場合は、“PRIMECLUSTER 導入運用手引書”を参照してマイグレーション後の操作を行ってください。

- コールドマイグレーションで停止していたゲストドメインが起動されているか。

  コールドマイグレーションで停止していたゲストドメインが起動されているか確認してください。ゲストドメインが停止している場合は、“PRIMECLUSTER 導入運用手引書”を参照してコールドマイグレーション後の操作を行ってください。

上記対処によってこのエラーが解決できない場合は、本メッセージを記録して、調査用の情報を採取します。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、“PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>”を参照してください。

7233 The username or password to login to the Host OS is incorrect.

管理OS にログインするためのユーザ名またはパスワードの設定に誤りがあります。

内容

クラスタシステムに登録された管理OSへログインするためのユーザ名、または、パスワードが管理OSに設定されたものと異なっています。

対処

clvmgsetup コマンドを使用して、管理OS 情報を登録してください。

管理OS情報の登録については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"の“VMGuest(仮想マシン)”を参照してください。

上記対処によってこのエラーが解決できない場合は、本メッセージを記録して、調査用の情報を採取します。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、“PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>”を参照してください。

7234　Connection to the Host OS is refused. (node:*nodename* detail:*code*)

管理OSへの接続ができません。(node:*nodename* detail:*code*)

内容

管理OSへの接続が確立できません。

対処

以下の点を確認してください。

- 誤った IP アドレスを 管理OS の IP アドレスに指定していないか。
- ゲストOSに割り当てた仮想IPアドレスが正しいか。
- 管理OSへの接続にパスフレーズが設定されていないか。

上記項目が原因だと判明した場合、対処を行ったあと、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構(SF)を再起動します。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

上記項目を確認しても接続に失敗する場合は、ネットワーク障害、あるいは HUB などのハードウェア故障が考えられるので、当社技術員(CE)に連絡してください。

上記対処によってこのエラーが解決できない場合は、本メッセージを記録して、調査用の情報を採取します。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、“PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>”を参照してください。

7235　First SSH connection to the Host OS has not been done yet. (node:*nodename* detail:*code*)

管理OSに対してのSSHによる事前接続が完了していません。(node:*nodename* detail:*code*)

内容

管理OSに対してのSSHによる事前接続が完了していません。

対処

ゲストOSを強制停止するために作成したアカウント(FJSVvmSP)を使用して、管理OSに対してSSHによる事前接続を行ってください。

7236　Connection to the Host OS was disconnected. (node:*nodename* detail:*code*)

管理OSへの接続が切断されました。(node:*nodename* detail:*code*)

内容

管理OSへの接続が切断されました。

対処

ノードの状態とプライベートLAN のパスを確認してください。

7237　clvmgsetup has been executed.

clvmgsetupコマンドはすでに実行されています。

内容

clvmgsetupコマンドが二重実行されました。

対処

clvmgsetupコマンドがすでに実行されています。すでに実行中のコマンドが終了してから、再度実行してください。

7240 Connection to the XSCF is refused. (node:*nodename* ipadress:*ipadress* detail:*code*)

XSCFへの接続ができません。(node:*nodename* ipadress:*ipadress* detail:*code*)

内容

SNMP非同期監視から XSCF への接続が確立できません。

対処

以下の点を確認してください。

- XSCFのIPアドレスまたはノード名が誤っていないか。

  clsnmpsetup(1M) を使用して設定されているIPアドレスまたはノード名を確認してください。

  IPアドレスまたはノード名が誤っていた場合は、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照してSFウィザードの設定をやり直してください。

- HUBとLANケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- XSCFのXSCF-LANポートのコネクタ、HUB側コネクタからLANケーブルが抜けていないか。
- XSCFのtelnetポートのうちXSCFシェルポートにクラスタ外から接続されていないか。

  シリアルポート(tty-a)経由で XSCF シェルに接続し確認してください。

  接続方法および確認方法については、"SPARC M10 システム システム運用・管理ガイド" を参照してください。

- XSCFのIPアドレスが、管理LANと同一セグメントになっているか。
- XSCFへの接続方法にSSHを使用している場合、シャットダウン機構用のログインユーザアカウントを使用して、クラスタノードからXSCFへSSH接続し、SSH初回接続時のユーザ問い合わせ(RSA鍵の生成など)が完了しているか。
- XSCF側でファームの再起動、ファームアップなどの操作、またはXSCFのフェイルオーバなどの事象が発生していなかったか。

上記項目が原因だと判明した場合、対処を行った上で、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構(SF)とSNMP非同期監視(MA)を再起動します。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpmonctl stop
# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpmonctl start
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

上記項目を確認しても接続に失敗する場合は、ネットワーク障害やXSCF、あるいはHUBなどのハードウェア故障が考えられるので、当社技術員(CE)に連絡してください。

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7241 The username or password to login to the XSCF is incorrect.

XSCFにログインするためのユーザ名またはパスワードの設定に誤りがあります。

内容

XSCFにログインできません。

XSCFへログインするためのユーザ名、または、パスワードが、XSCF に設定されたものと異なっています。

対処

SNMP非同期監視およびシャットダウン機構の設定を再度行ってください。

XSCFの設定方法については、"SPARC M10 システム システム運用・管理ガイド" を参照してください。

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7242 The SNMP agent of XSCF is disabled.

XSCFのSNMPエージェントが無効になっています。

内容

XSCFのSNMPエージェントが無効になっています。

対処

XSCFのSNMP エージェントを有効にしてください。

XSCFの設定方法については、"SPARC M10 システム システム運用・管理ガイド" を参照してください。

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7243 The SNMP monitoring agent has been started.

SNMP非同期監視機能は既に起動されています。

内容

SNMP非同期監視機能が既に起動されていることを示しています。

対処

SNMP非同期監視機能を再起動する必要がない場合には、対処する必要はありません。

SNMP非同期監視機能を再起動する必要がある場合は、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、SNMP非同期監視(MA)およびシャットダウン機構(SF)を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpmonctl stop
# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpmonctl start
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7500 Cluster resource management facility:internal error. (function:*function* detail:*code1*-*code2*)

クラスタリソース管理機構で内部異常が発生しました。(function:*function* detail:*code1*- code2)

内容

クラスタリソース管理機構で内部異常が発生したことを示しています。
function、*code1*、*code2* は、エラー調査に必要な情報を示します。

対処

以下のいずれかが考えられます。

- メモリ資源が不足している
- ディスク資源が不足している

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取します。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"の"カーネルパラメタ・ワークシート" の説明を参照して、カーネルパラメタの設定が正しいことを確認してください。

上記で解決しない場合は、PRIMECLUSTER の動作に必要なディスクの空き容量があることを確認し、不要なファイルを削除して領域を確保し、システムを再起動します。PRIMECLUSTER の動作に必要なディスク容量は、各製品に添付されているPRIMECLUSTERのインストールガイドを参照してください。

上記対処によってこのエラーを解決できない場合は、当社技術員(SE)に連絡してください。

7501 Cluster resource management facility:insufficient memory. (function:*function* detail:*code1*)

クラスタリソース管理機構でメモリ資源が不足しています。(function:*function* detail:*code1*)

内容

クラスタリソース管理機構でメモリ資源が不足していることを示しています。
function、*code1* はエラー調査に必要な情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取します。メモリリソースの割当て見積りを確認してください。リソースデータベースに必要なメモリについては、各製品に添付されているPRIMECLUSTERのインストールガイドを参照してください。オペレータ応答によってこのエラーを修正できない場合は、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

7502 Cluster resource management facility:insufficient disk or system resources. (function:*function* detail:*code1*)

クラスタリソース管理機構でディスク資源またはシステム資源が不足しています。(function:*function* detail:*code1*)

内容

クラスタリソース管理機構でディスク資源またはシステム資源が不足していることを示しています。
function、*code1* はエラー調査に必要な情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取します。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

ディスクリソースおよびシステムリソース(カーネルパラメタ)の見積りを確認します。カーネルパラメタが変更されている場合は、カーネルパラメタの変更対象となったノードを再起動します。"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" の "カーネルパラメタ・ワークシート" の説明を参照してください。

オペレータ応答によってこのエラーを修正できない場合は、当社技術員(SE)に連絡してください。

7503 The event cannot be notified because of an abnormal communication. (type:*type* rid:*rid* detail:*code1*)

通信異常のためイベントを通知できません。(type:*type* rid:*rid* detail:*code1*)

内容

通信異常のためイベントを通知できないことを示しています。

type、*rid* はイベント情報を示し、*code1* は調査用の情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。本現象発生後は、クラスタドメイン内のすべてのノードを再起動します。

7504 The event notification is stopped because of an abnormal communication. (type:*type* rid:*rid* detail:*code1*)

通信異常のためイベントの通知を中止します。(type:*type* rid:*rid* detail:*code1*)

内容

通信異常のためイベントの通知を中止することを示しています。
type、*rid* はイベント情報を示し、*code1* は調査用の情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。本現象発生後は、クラスタドメイン内のすべてのノードを再起動します。

7505 The node (*node*) is stopped because event cannot be notified by abnormal communication. (type:*type* rid:*rid* detail:*code1*)

通信異常でイベントの通知が行えないためノード (*node*) を停止します。(type:*type* rid:*rid* detail:*code1*)

内容

通信異常でイベントの通知が行えないためノードを停止することを示しています。
node は停止されるノードの識別子、*type*、*rid* はイベント情報、*code1* は調査に必要な情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。停止したノードをシングルユーザモードで起動して、調査情報を採取します。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7506 The node (*node*) is forcibly stopped because event cannot be notified by abnormal communication. (type:*type* rid:*rid* detail:*code1*)

通信異常でイベントの通知が行えないためノード (*node*) を強制停止します。(type:*type* rid:*rid* detail:*code1*)

内容

通信異常でイベントの通知が行えないためノードを強制停止することを示しています。
node は停止されるノードの識別子、*type*、*rid* はイベント情報、*code1* は調査に必要な情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。停止したノードをシングルユーザモードで強制的に起動して、調査情報を採取します。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7507 Resource activation processing cannot be executed because of an abnormal communication. (resource:*resource* rid:*rid* detail:*code1*)

通信異常のためリソースの活性処理が行えません。(resource:*resource* rid:*rid* detail:*code1*)

内容

通信異常のためリソースの活性処理が行えないことを示しています。
resource は活性化処理が無効になったリソース名、*rid* はリソース ID、および *code1* は調査に必要な情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

この現象が起きた後に、リソース(*resource*)が属するノードを再起動します。

7508 Resource (*resource1* resource ID:*rid1*, ...) activation processing is stopped because of an abnormal communication. (resource:*resource2* rid:*rid2* detail:*code1*)

通信異常のためリソース(*resource1* resource ID:*rid1*, ...) の活性処理を中止します。(resource:*resource2* rid:*rid2* detail:*code1*)

内容

通信異常のためリソースの活性処理を中止することを示しています。
resource2 は活性化処理が実行されなかったリソース名、*rid2* はリソース ID、*resource1* は活性化処理が実行されないリソース名、*rid1* はリソース ID、*code1* は調査に必要な情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

この現象が起きた後に、リソース(*resource2*)が属するノードを再起動します。

7509 Resource deactivation processing cannot be executed because of an abnormal communication. (resource:*resource* rid:*rid* detail:*code1*)

通信異常のためリソースの非活性処理が行えません。(resource:*resource* rid:*rid* detail:*code1*)

内容

通信異常のためリソースの非活性処理が行えないことを示しています。
resource は非活性化処理が実行されなかったリソース名、*rid* はリソース ID、*code1* は調査に必要な情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

この現象が起きた後に、リソース(*resource*)が属するノードを再起動します。

7510 Resource (resource1 resource ID:rid1, ...) deactivation processing is aborted because of an abnormal communication. (resource:*resource2* rid:*rid2* detail:*code1*)

通信異常のためリソース (*resource1* resource ID:*rid1*, ...) の非活性処理を中止します。(resource:*resource2* rid:*rid2* detail:*code1*)

内容

通信異常のためリソースの非活性処理を中止することを示しています。
resource2 は非活性化処理が実行されなかったリソース名、*rid2* はリソース ID、*resource1* は非活性化処理が実行されないリソース名、*rid1* はリソース ID、*code1* は調査に必要な情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

この現象が起きた後に、リソース(*resource2*)が属するノードを再起動します。

7511 An error occurred by the event processing of the resource controller. (type:*type* rid:*rid* pclass:*pclass* prid:*prid* detail:*code1*)

リソースコントローラのイベント処理で異常が発生しました。(type:*type* rid:*rid* pclass:*pclass* prid:*prid* detail:*code1*)

内容

リソースコントローラのイベント処理で異常が発生したことを示しています。
type、*rid* はイベント情報を示し、*pclass*、*prid* はリソースコントローラ情報を示し、*code1* は調査用の情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

この現象が起きた後に、メッセージが表示されたノードを再起動します。

7512 The event notification is stopped because an error occurred in the resource controller. (type:*type* rid:*rid* pclass:*pclass* prid:*prid* detail:*code1*)

リソースコントローラで異常が発生したためイベントの通知を中止します。(type:*type* rid:*rid* pclass:*pclass* prid:*prid* detail:*code1*)

内容

リソースコントローラで異常が発生したためイベントの通知を中止することを示しています。
type、*rid* はイベント情報を示し、*pclass*、*prid* はリソースコントローラ情報を示し、*code1* は調査用の情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

この現象が起きた後に、メッセージが表示されたノードを再起動します。

7513 The node(*node*) is stopped because an error occurred in the resource controller. (type:*type* rid:*rid* pclass:*pclass* prid:*prid* detail:*code1*)

リソースコントローラで異常が発生したためノード (*node*) を停止します。(type:*type* rid:*rid* pclass:*pclass* prid:*prid* detail:*code1*)

内容

リソースコントローラで異常が発生したためノード(*node*)を停止することを示しています。
node は停止されるノードの識別子、*type*、*rid* はイベント情報、*pclass*、*prid* はリソースコントローラ情報、*code1* は調査用の情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。停止したノードをシングルユーザモードで起動して、調査情報を採取します。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7514 The node (*node*) is forcibly stopped because an error occurred in the resource controller. (type:*type* rid:*rid* pclass:*pclass* prid:*prid* detail:*code1*)

リソースコントローラで異常が発生したためノード (*node*) を強制停止します。(type:*type* rid:*rid* pclass:*pclass* prid:*prid* detail:*code1*)

内容

リソースコントローラで異常が発生したためノードを強制停止することを示しています。
node は強制的に停止されるノードの識別子、*type*、*rid* はイベント情報、*pclass*、*prid* はリソースコントローラ情報、*code1* は調査用の情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。停止したノードをシングルユーザモードで強制的に起動して、調査情報を採取します。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7515 An error occurred by the resource activation processing (resource:*resource* rid:*rid* detail:*code1*)

リソースの活性処理で異常が発生しました。(resource:*resource* rid:*rid* detail:*code1*)

内容

リソースの活性処理で異常が発生したことを示しています。
resource は活性化処理でエラーが発生したリソース名、*rid* はリソース ID、*code1* は調査に必要な情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

この現象が起きた後に、リソース(*resource*)が属するノードを再起動します。リソース活性化処理でエラーが発生したため、リソース(*resource*)の活性化を実行できなくなっています。

7516 An error occurred by the resource deactivation processing. (resource:*resource* rid:*rid* detail:*code1*)

リソースの非活性処理で異常が発生しました。(resource:*resource* rid:*rid* detail:*code1*)

内容

リソースの非活性処理で異常が発生したことを示しています。
resource は活性化処理でエラーが発生したリソース名、*rid* はリソース ID、*code1* は調査に必要な情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

この現象が起きた後に、リソース(*resource*)が属するノードを再起動します。リソース非活性化処理でエラーが発生したため、リソース (*resource*)の非活性化を実行できなくなっています。

7517 Resource (*resource1* resource ID:*rid1, ...*) activation processing is stopped because an error occurred by the resource activation processing. (resource:*resource2* rid:*rid2* detail:*code1*)

リソースの活性処理で異常が発生したためリソース(*resource1* resource ID *rid1, ...*)の活性処理を中止します。(resource:*resource2* rid:*rid2* detail:*code1*)

内容

リソースの活性処理で異常が発生したためリソースの活性処理を中止することを示しています。
resource2 は活性化処理でエラーが発生したリソース名、*rid2* はリソース ID、*resource1* は活性化処理が実行されないリソース名、*rid1* はリソース ID、*code1* は調査に必要な情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

この現象が起きた後に、リソース (*resource2*)が属するノードを再起動します。

7518 Resource (*resource1* resource ID:*rid1*, ...) deactivation processing is aborted because an error occurred by the resource deactivation processing. (resource:*resource2* rid:*rid2* detail:*code1*)

リソースの非活性処理で異常が発生たためリソース(*resource1* resource ID *rid1, ...*)の非活性処理を中止します。(resource:*resource2* rid:*rid2* detail:*code1*)

内容

リソースの非活性処理で異常が発生たためリソースの非活性処理を中止することを示しています。
resource2 は非活性化処理が無効になったリソース名、rid2 はリソース ID、*resource1* は非活性化処理が実行されないリソース名、*rid1* はリソース ID、*code1* は調査に必要な情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

この現象が起きた後に、リソース(*resource2*)が属するノードを再起動します。

7519 Cluster resource management facility:error in exit processing. (node:*node* function:*function* detail:*code1*)

クラスタリソース管理機構の停止処理で異常が発生しました。(node:*node* function:*function* detail:*code1*)

内容

クラスタリソース管理機構の停止処理で異常が発生したことを示しています。
node はエラーが発生したノード、*function*、*code1* は調査用の情報を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7520 The specified resource (resource ID:*rid*) does not exist or be not able to set the dependence relation.

指定されたリソース (resource ID:*rid*) は存在しない、または、依存関係を設定できないリソースです。

内容

指定されたリソースは存在しない、または、依存関係を設定できないリソースであることを示しています。
rid は指定されたリソースの ID を示します。

対処

正しいリソースを指定してから、処理を再度実行してください。

7521 The specified resource (class:*rclass* resource:*mame*) does not exist or be not able to set the dependence relation.

指定されたリソース (class:*rclass* resource:*rname*) は存在しない、または、依存関係を設定できないリソースです。

内容

指定されたリソースは存在しない、または、依存関係を設定できないリソースであることを示しています。
rname は指定されているリソース名、*rclass* はクラス名を示します。

対処

正しいリソースを指定してから、処理を再度実行してください。

7522 It is necessary to specify the resource which belongs to the same node.

同じノードに属するリソースを指定してください。

内容

その他のノードに属するリソースが指定されています。

対処

同じノードに属するリソースを指定し、再度実行してください。

7535 An error occurred by the resource activation processing.The resource controller does not exist. (*resource* resource ID:*rid*)

リソースの活性処理で異常が発生しました。リソースコントローラが存在しません。(*resource* resource ID:*rid*)

内容

リソースコントローラをリソース処理に使用できないため、リソースの活性化が実行されませんでした。
resource は活性化処理が無効になったリソース名を示し、*rid* はリソース ID を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7536 An error occurred by the resource deactivation processing.The resource controller does not exist. (*resource* resource ID:*rid*)

リソースの非活性処理で異常が発生しました。リソースコントローラが存在しません。(*resource* resource ID:*rid*)

内容

リソースコントローラをリソース非活性化処理に使用できないため、リソースの非活性化が実行されませんでした。
resource は非活性化処理を実行できなかったリソース名を示し、*rid* はリソース ID を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7537 Command cannot be executed during resource activation processing.

リソースの活性処理中のため実行できません。

内容

リソースの活性処理中のため実行できないことを示しています。

対処

リソースの活性化処理が完了した後に、再度実行してください。リソースが属するノードのコンソールで表示される 3204 メッセージで、リソース活性化処理の完了を確認できます。

7538 Command cannot be executed during resource deactivation processing.

リソースの非活性処理中のため実行できません。

内容

リソースの非活性処理中のため実行できないことを示しています。

対処

リソースの非活性化処理が完了した後に、再度実行してください。リソースが属するノードのコンソールで表示される 3206 メッセージで、リソース非活性化処理の完了を確認できます。

7539 Resource activation processing timed out. (code:*code* detail:*detail*)

リソースの活性処理でタイムアウトが発生しました。(code:*code* detail:*detail*)

内容

リソースの活性処理でタイムアウトが発生したことを示しています。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7540 Resource deactivation processing timed out. (code:*code* detail:*detail*)

リソースの非活性処理でタイムアウトが発生しました。(code:*code* detail:*detail*)

内容

リソースの非活性処理でタイムアウトが発生したことを示しています。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取します。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7542 Resource activation processing cannot be executed because node (*node*) is stopping.

ノード (*node*) が停止中のため、リソースの活性処理が行えません。

内容

活性化するリソースが属しているノードが停止しているため、リソース活性化処理は実行できません。

対処

この活性化するリソースが属しているノードを起動してから再度実行してください。

node は接続が切断されたノードのノード識別子を示します。

7543 Resource deactivation processing cannot be executed because node (*node*) is stopping.

ノード (*node*) が停止中のため、リソースの非活性処理を行えません。

内容

非活性化するリソースが属しているノードが停止しているため、リソース非活性化処理は実行できません。
node は接続が切断されたノードのノード識別子を示します。

対処

このノードを起動してから再度実行してください。

7545 Resource activation processing failed.

リソースの活性処理に失敗しました。

内容

リソースの活性処理に失敗したことを示しています。

対処

活性化処理の開始メッセージ(3203)と完了メッセージ(3204)の間に表示されるエラーメッセージ(このコマンドの実行時に表示)の対策を参照してください。

7546 Resource deactivation processing failed.

リソースの非活性処理に失敗しました。

内容

リソースの非活性処理に失敗したことを示しています。

対処

非活性化処理の開始メッセージ(3205)と完了メッセージ(3206)の間に表示されるエラーメッセー(このコマンドの実行時に表示)の対策を参照してください。

第5章 CF のメッセージ

本章では、CF に関する以下のメッセージについて説明します。

- CF の実行時に表示されるメッセージ
- シャットダウン機構に関するメッセージ

 参照

各メッセージの見分け方については、"第1章 メッセージの検索手順" を参照してください。

5.1 CF メッセージ

CF 実行時に出力されるメッセージを情報、警告、エラーの各種別に分類し、アルファベット順に説明します。

 参考

以下のメッセージは CF の初期化障害に関連があります。これらのメッセージは CF ドライバまたは他のカーネルコンポーネントに障害がある場合にのみ出力されます。この場合、当社技術員(SE)に連絡してください。

CF: cf_attach Error: invalid command. (#0425 bad_cmd)

CF: cf_attach Error: invalid instance. (#0425 *cf_instance instance*)

CF: cf_attach Error: phase 1 init failure. (#*reason_code*)

CF: cf_attach Error: phase 2 init failure. (#*reason_code*)

CF: cf_attach Error: unable to create cf minor.

CF: cf_detach Error: invalid instance. (#0425 *cf_instance instance*)

 参照

多くのメッセージに付いている #0407 のような形式の 16 進数は、CF 理由コードです。各コードの意味は、"付録A CF 理由コードテーブル" を参照してください。

5.1.1 対処不要な情報(NOTICE)メッセージ

CF: *clustername*: *nodename* is Down. (#0000 nodenum)

内容

このメッセージはノードが順番にクラスタから離脱した場合(cfconfig -u を実行した場合)に出力されます。

対処

対処する必要はありません。

cf: elmlog !rebuild complete in 1 lbolt.

内容

CF が他ノードとの接続を完了しました。

対処

対処する必要はありません。

cf: elmlog !rebuild starting～

内容

cf: elmlog !rebuild startingで始まるメッセージには以下の種類があります。

cf: elmlog !rebuild starting due to node joining configuration
cf: elmlog !rebuild starting due to node failure
cf: elmlog !rebuild starting due to administrator request
cf: elmlog !rebuild starting due to configuration disagreement

これらのメッセージは、ノードの再構成処理を開始した場合に出力されます。

対処

対処する必要はありません。

CF: Giving UP Mastering (Cluster already Running).

内容

このメッセージはノードが JOIN サーバを検出し、新規クラスタを作成する代わりに既存のクラスタに参入した場合に出力されます。

対処

対処する必要はありません。

CF: Giving UP Mastering (some other Node has Higher ID).

内容

このメッセージは JOIN サーバになろうとしたノードより上位の ID を持つ適格 JOIN サーバが検出された場合に出力されます。

対処

対処する必要はありません。

CF: Node *nodename* Joined Cluster *clustername*. (#0000 *nodenum*)

内容

このメッセージはノードが既存のクラスタに参入した場合に出力されます。

対処

対処する必要はありません。

CF: Node *nodename* Left Cluster *clustername*.(#0000 *nodenum*)

内容

LEFTCLUSTER イベントによりノード <*nodetname*> がクラスタ <clustername> のメンバから外れました。

対処

対処する必要はありません。

CF: Questionable node <*nodeA*> detected by node <*nodeB*>

内容

<*nodeB*>が<*nodeA*>をQuestionable nodeと判定したというメッセージが、<*nodeB*>より届いたことを示しています。CFは、クラスタタイムアウトの半分の時間ハートビートの応答がないノードを、"Questionable node" と判定します。

対処

対処する必要はありません。

CF: Questionable node message received from node <*nodeA*>: <*nodeB*> detected this node as questionable

内容

<*nodeB*>が自ノードをQuestionable nodeと判定したというメッセージが、<*nodeA*>より届いたことを示しています。CFは、クラスタタイムアウトの半分の時間ハートビートの応答がないノードを、"Questionable node" と判定します。

対処

対処する必要はありません。

CF: Starting Services.

内容

このメッセージは CF の起動時に出力されます。

対処

対処する必要はありません。

CF: Stopping Services.

内容

このメッセージは CF の停止時に出力されます。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): Cfset: CLUSTER_NODEDOWN_HTBTRPLY: DFLT. (#0000 *n1*)

内容

CLUSTER_NODEDOWN_HTBTRPLYにデフォルト値が設定されたことを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): Cfset: CLUSTER_NODEDOWN_HTBTRPLY: %s. (#0000 *n1*)

内容

CLUSTER_NODEDOWN_HTBTRPLYに値が設定されたことを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): Cfset: CLUSTER_TIMEOUT: %s. (#0000 *n1*)

内容

CLUSTER_TIMEOUTに値が設定されたことを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): Cfset: CLUSTER_FORCE_PANIC_TIMEOUT: %s. (#0000 *n1*)

内容

CLUSTER_FORCE_PANIC_TIMEOUTに値が設定されたことを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): Cfset: CLUSTER_IP_CTRL_TOS: %s. (#0000 *n1*)

内容

CLUSTER_IP_CTRL_TOSに値が設定されたことを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): Cfset: CLUSTER_IP_DATA_TOS: %s. (#0000 *n1*)

内容

CLUSTER_IP_DATA_TOSに値が設定されたことを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): Cfset: CLUSTER_IP_TTL: %s. (#0000 *n1*)

内容

CLUSTER_IP_TTLに値が設定されたことを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): Cfset: CLUSTER_TIMEOUT: DFLT. (#0000 *n1*)

内容

CLUSTER_TIMEOUTにデフォルト値が設定されたことを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): Cfset: CLUSTER_FORCE_PANIC_TIMEOUT: DFLT. (#0000 *n1*)

内容

CLUSTER_FORCE_PANIC_TIMEOUTにデフォルト値が設定されたことを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): Cfset: CLUSTER_IP_TTL: DFLT. (#0000 *n1*)

内容

CLUSTER_IP_TTLにデフォルト値が設定されたことを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): Cfset: CLUSTER_IP_CTRL_TOS: DFLT. (#0000 *n1*)

内容

CLUSTER_IP_CTRL_TOSにデフォルト値が設定されたことを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): Cfset: CLUSTER_IP_DATA_TOS: DFLT. (#0000 *n1*)

内容

CLUSTER_IP_DATA_TOSにデフォルト値が設定されたことを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): CFSF: Device close.

内容

SF (Shutdown Facility) が、CFデバイスのクローズに成功しました。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): CFSF failure detected: no SF open: passed to ENS: *nodename*. (#0000 *N*)

内容

LEFTCLUSTERイベントが発生したことを示しますが、SF (Shutdown Facility) がCFデバイスをまだオープンしていません。LEFTCLUSTERはCFによって処理されます。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): CFSF failure detected: queued for SF: *nodename*. (#0000 *N*)

内容

ノード <*nodename*> の異常を SF 処理用のキューに追加しました。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): CFSF failure handoff to SF: %s. (#0000 *n1*)

内容

CFがSF (Shutdown Facility) にノードのLEFTCLUSTERイベントを通知しました。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): CFSF: interrupted wait. (#xxxx)

内容

SF (Shutdown Facility) が停止準備中です。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): CFSF leftcluster broadcast: %s. (#0000 *n1*)

内容

クラスタ内のすべてのノードにLEFTCLUSTERイベントが送られることを示します。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): CFSF leftcluster received: removing new: *nodename*. (#0000 *N*)

内容

LEFTCLUSTERイベントが受信されたことと、保留中のほかのイベントがキューにあることを示します。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): CFSF leftcluster received: removing pending: *nodename*. (#0000 *N*)

内容

ノード <*nodename*> の LEFTCLUSTER イベントを受信したため、SF 処理中リストからこのノードに関するエントリを削除します。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): CFSF leftdown combo broadcast: %s. (#0000 *n1*)

内容

クラスタ内のすべてのノードにLEFTDOWNイベントが送られることを示します。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): CFSF nodedown broadcast: %s. (#0000 *n1*)

内容

クラスタ内のすべてのノードにNODEDOWNイベントが送られることを示します。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): CFSF node leaving cluster failure passed to ENS: *nodename*. (#0000 *N*)

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): CFSF: Pending failure for node down broadcast. (#xxxx *n1*)

内容

ノードダウンイベントが受信されたことを示しますが、最初に処理される予定のLEFTCLUSTERイベントがまだ処理されていません。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): CFSF: Successful open.

内容

SF (Shutdown Facility) が、CFデバイスのオープンに成功しました。

対処

対処する必要はありません。

CF (TRACE): EnsEV: Shutdown

内容

このメッセージは ENS イベントデーモンがシャットダウンしたときに出力されます。

対処

対処する必要はありません。

CF (TRACE): EnsND: Shutdown

内容

このメッセージは ENS ノードダウンデーモンがシャットダウンしたときに出力されます。

対処

対処する必要はありません。

CF (TRACE): Icf: Route UP: node src dest (#0000 *nodenum route_src route_dst*)

内容

このメッセージは、閉塞された ICF の経路が再び使用可能になったときに出力されます。

対処

一時的な CPU 高負荷状態によって表示されることがあります。負荷が軽減されるとハートビートは正常に動作します。したがって、短期間の CPU 高負荷では、本メッセージが出力されても影響はありません。

CF: (TRACE): Join Client: Setting cluster initialization timestamp.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): Join Master: Setting cluster initialization timestamp.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

CF (TRACE): JoinServer: Stop

内容

このメッセージは JOIN サーバが非稼動になったときに出力されます。

対処

対処する必要はありません。

CF (TRACE): JoinServer: Startup

内容

このメッセージは JOIN デーモンが起動したときに出力されます。

対処

対処する必要はありません。

CF (TRACE): JoinServer: ShutDown

内容

このメッセージは稼動中の JOIN デーモンがシャットダウンしたときに出力されます。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): Icf: Link+Route UP: node src dest. (#0000 *n1 n2 n3*)

内容

クラスタインタコネクトがリンクUPとなったことにより、指定されたルートがDOWNからUPに遷移したことを示します。

対処

対処する必要はありません。

CF (TRACE): Load: Complete

内容

このメッセージは CF の初期化が完了したときに出力されます。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): *nodename*: detected as a questionable node.

内容

指定されたノードが、クラスタタイムアウト値の1/2以内にハートビートに応答しなかったことを示します。クラスタタイムアウト値がデフォルトの10秒に設定されている場合、指定のノードから5秒以内にハートビートが受信されないと、このメッセージが表示されます。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): *nodename*: heartbeat reply received: Stopping requested heartbeat.

内容

ノード <*nodename*> の状態を確認するためのハートビートを停止します。

ノードの生存を確認したことを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): Starting requested heartbeat for node: *nodename*.

内容

ノード <*nodename*> の状態を確認するためのハートビートを開始します。

対処

対処する必要はありません。

CF: (TRACE): Starting voluntary heartbeat for node: *nodename*.

内容

ノード <*nodename*> の状態を確認するためのハートビートを開始します。

対処

対処する必要はありません。

---

cfregd normal termination

内容

cfregデーモンが正常終了したことを示します。

対処

対処する必要はありません。

---

cip: configured *cipN* as *Addr*.

内容

CF の起動処理において、CIP インタフェース <*cipN*> に IP アドレス <*Addr*> を設定し、起動しました。

対処

対処する必要はありません。

Deleting server nid %d from domain %d

内容

ノードダウン後のELMの再構築中に、存在しないロックサーバが見つかりました。サーバはサーバプールから削除されます。

対処

対処する必要はありません。

---

duplicate remote file copy request

内容

cfcpを使用して、重複したリモートファイルコピーが行われていることを示す通知メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

!rebuild cluster: reason: %s

内容

ELM (enhanced lock manager) のロックテーブルを再構築していることを示します。

対処

対処する必要はありません。

---

subsequent remote file copy request with stale handle

内容

cfcp機能の無効な使用が原因で、cfcpを使ったリモートファイルコピーに失敗しました。

対処

対処する必要はありません。

5.1.2 対処が必要な情報(NOTICE)メッセージ

block %x, obj %x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cf: elmlog ELM:001: cluster size *n*

内容

CF は、*n* ノードで接続されました。
本メッセージは、クラスタシステムを構成するノードが、クラスタシステムへ参入する際に表示されるメッセージです。

対処

連続運用中のシステムでは、本メッセージが出力されることはありません。連続運用中のシステムで本メッセージが出力された場合は、何らかの原因がノードの停止・起動が行われたことを示しています。ノードの停止・起動が意図されたものでない場合は、その原因を追求する必要があります。

CF: (TRACE): CFSF: Duplicate open attempt. (#xxxx)

内容

SF (Shutdown Facility) が既にデバイスをオープンしている状態で、再度オープンしようとしました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: (TRACE): CFSF: Invalid event for broadcast. (#xxxx *n1*)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: (TRACE): CFSF: Invalid nodeid for broadcast. (#xxxx *n1*)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: (TRACE): Link is DOWN for device: <*devicename*>. (#0000 *N*)

内容

指定されたクラスタインタコネクトが、リンクUPからDOWNに遷移したことを示します。

対処

クラスタインタコネクトが、リンクのUPからDOWNに遷移する原因を突き止めてください。原因不明の場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: (TRACE): Link is UP for device: <*devicename*>. (#0000 *N*)

内容

指定されたクラスタインタコネクトが、リンクDOWNからUPに遷移したことを示します。

対処

本メッセージが出力され続ける場合は、クラスタインタコネクトのリンクがUPとDOWN間で遷移する原因を突き止めてください。原因不明の場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

close failed: bad handle %x type=0x%x val=0x%x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

config nack failed: NOSPACE, state %s stage %s

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

config nreq %s to %d: NOBIGBUFF

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Deleting mlock during remaster: %x %x %x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

dir nreq failed: NOSPACE: dnode: %d

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

ELM:0003: rebuild: state: %d stage: %d NOSPACE

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

ELM:0004: %d DISAGREE (nack) from %d lm_visible: 0x%x 0x%x 0x%x 0%x

内容

クラスタ構成が変更されていること、およびELM (enhanced lock manager) のロックテーブルの再構成が行われないことを示します。再構成は成功するまで再試行します。

対処

本メッセージが出力され続ける場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

ELM:0006: %d DISAGREE (nreq) lm_visible: 0x%x 0x%x 0x%x 0%x nreq: 0x%x 0x%x 0x%x 0x%x from %d

内容

クラスタ構成が変更されていること、およびELM (enhanced lock manager) のロックテーブルの再構成が行われないことを示します。再構成は成功するまで再試行します。

対処

本メッセージが出力され続ける場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

ELM: destroying inactive resource %x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

ELM: invalid query paramater

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

elm_mrpc_configure failed, reason=#%lx

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

elm_mrpc_register failed, reason=#%lx

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ELM: Multiple rdomains for one resource %lx, %lx, %lx

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ELM: query 0x%x from %d failed, reason: 0x%x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ELM: Running out of recovery domains!

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ELM: Unknown query 0x%x from nid %d

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

fixup failed: bad handle %x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

freeze failed: bad resource handle 0x%x¥ntype=0x%x status=0x%x mlockp=0x%x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

handle failed: bad handle %x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

instance of cfregd already running

内容

cfregデーモンを開始しようとしましたが、すでにcfregデーモンが実行中であることを示します。

対処

cfregdを手動で実行する場合は、先にcfregdを停止してください。cfregdの仕様については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞"を参照してください。cfregdを手動で実行していない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Invalid ELM domain for server: %d, ignored.

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

lfreeze failed: NOSPACE for msg buffers

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

lfreeze from %d failed: lock closed %x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

lk_srv_cancel_nack: stale cv_cid %d for lock %x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

lk_srv_notify_nack: Stale procp for lock %x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

lk_swap_config_nreg: unknown convert stage: %d

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

lock destroy failed: NOSPACE for dir close

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

look_new: kdomain %x has rdomainp %x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

mopen/convert failed: bad handle %x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

mopen failed: bad handle %x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

mopen failed: %x %x: NOSPACE for msg buffers

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

mopen master lock open failed : MAXLOCK

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

plock destroy failed: bad lock %x %x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

plock destroy failed: NOSPACE for msg buffers

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

rdomain failed: NOSPACE for msg buffers

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

---

rdomain procp: %x exit, msgp: %x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

---

rdomainp %x != NULL for kernel domains

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

Rdomains: %lx and %lx for one single resource %lx

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

---

rebuild failed: NOSPACE for config_nreq, nid=%d

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

---

rebuild_pconvert_start: NOSPACE, state %s

内容

リソース不足が原因で、ELM (enhanced lock manager) のブロック割り当てが失敗したことを示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

Recovery was not registered yet: rdomainp %x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

refopened %x %x convert failed: NOSPACE

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

refopen failed: MAXLOCK

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

resp %x: Bad resource type or rdomain

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

rfreeze failed: bad directory handle %x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

rfreeze failed: NOSPACE for msg buffers

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

rm_sequence failed: NOSPACE for msg buffers

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Running out of recovery domains

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

send_cancel_cack_queue: invalid procp %x for lock %x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

send_convert_cack: bad procp: %x for lock %x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

send_queue: invalid proc: %x for lock %x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

unfreeze failed: bad res handle %x from %d

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

val nreq gq: lock %x closed

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

value failed: bad handle %x from %d

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

value failed: NOSPACE for msg buffers

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

5.1.3 警告(WARNING)メッセージ

CF: A node reconfiguration event has occured on cluster node: %s.

内容

指定されたノード上で再構成が行われました。ノード追加などを行うと、本メッセージが表示されます。

対処

対処する必要はありません。

CF: carp_event: bad nodeid (#0000 *nodenum*)

内容

このメッセージは不正なノード番号を受信した場合に CIP が出力します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: carp_event: Warning: CARP: Node %d trying to be our CIP address %d.%d.%d.%d. (#0000 n1 n2 n3 n4)

内容

表示されたノードで、CARP (CIP ARP デーモン) が、このノードと同じCIPアドレスとなっています。

対処

CIPアドレスが重複しないよう修正し、CFを再起動してください。

CF: cf_cleanup_module: defer work element still in use

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: cf_cleanup_module: input work element still in use

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: cflog: Check the keywords in the format specified. (#xxxx n1)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: cfng Error: cfng_unpack_def: nsi_getarrcnt failed. (#xxxx)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: cfng Error: cfng_unpack_def: nsi_setarrcnt failed. (#xxxx)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: cfng Error: cfng_unpack_def: nsi_unpack failed. (#xxxx)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: cfng Error: cfng_unpack_grpname: failed. (#xxxx)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: cfng Error: ng_create: cfng_unpack_def failed. (#xxxx)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: cfng Error: ng_create: group already exists. (#xxxx)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: cfng Error: ng_delete: cfng_unpack_def failed. (#xxxx)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: cfng Error: ng_delete: group does not exist. (#xxxx)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: cfng Error: ng_eventd: nsi_setarrcnt failed. (#xxxx)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: cfng Error: ng_op_done: cfng_unpack_def failed. (#xxxx)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: cfng Error: ng_replace: cfng_unpack_def failed. (#xxxx)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: cfng Error: ng_replace: failed. (#xxxx)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: cfng: ng_delete_all Error: %s. (#xxxx)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: cfng: ng_eventd: nsi_pack failed. (#xxxx)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: cfng: ng_eventd: nsi_size failed. (#xxxx)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: cfng: ng_node_change: failed to get name from node id. (#xxxx)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: cfset Error: linux_ioctl: not enough memory to return values.

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: cfset Error: linux_ioctl: OSD_copy_from_user fails.

内容

ユーザースペースからカーネルスペースへのバッファコピーに失敗しました。

対処

関連するOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。問題が解決された場合は、ノードを再起動してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: cfset Error: linux_ioctl: OSD_copy_to_user fails.

内容

カーネルスペースからユーザースペースへのバッファコピーに失敗しました。

対処

関連するOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。問題が解決された場合は、ノードを再起動してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: Cfset: Invalid value for CLUSTER_NODEDOWN_HTBTRPLY, setting to ON: %s. (#0000 n1)

内容

/etc/default/cluster.configファイルのCLUSTER_NODEDOWN_HTBTRPLYに設定された値が無効です。

対処

/etc/default/cluster.configファイルのCLUSTER_NODEDOWN_HTBTRPLYに有効な値を設定し、cfsetコマンドを使ってCF モジュールに適用してください。

CF: Cfset: Invalid value for CLUSTER_TIMEOUT, setting to 1: %s. (#0000 n1)

内容

/etc/default/cluster.configファイルのCLUSTER_TIMEOUTに設定された値が無効です。

対処

/etc/default/cluster.configファイルのCLUSTER_TIMEOUTに有効な値を設定し、cfsetコマンドを使ってCF モジュールに適用してください。

CF: cftool -k may be required for node: %s.

内容

ノードがクラスタに参入しようとしましたが、まだDOWN状態になっていません。

対処

SF (Shutdown Facility) が動作していない場合は、'cftool -k'を使用して、ノードを手動でDOWN状態に移行する必要あります。SF が動作している場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: CF-force-panic timeout: requires CFSF is not running.

内容

CFがDebugモードで動作していること、および、強制パニックが試みられたことを示しますが、SF (Shutdown Facility) はこのモードでは起動できません。

対処

当社技術員(SE)より指示がない限り、CFをDebugモードにしないでください。

CF: cip: Failed to register ens EVENT_CIP

内容

このメッセージは CIP の初期化処理において、ENS イベント EVENT_CIP 発生時に実行される関数の登録に失敗した場合に出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: cip: Failed to register ens EVENT_NODE_LEFTCLUSTER

内容

このメッセージは CIP の初期化処理において、ENS イベント EVENT_NODE_LEFTCLUSTER 発生時に実行される関数の登録に失敗した場合に出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: cip: Failed to register icf channel ICF_SVC_CIP_CTL

内容

このメッセージは CIP の初期化処理において、ICF サービス ICF_SVC_CIP_CTL への関数の登録に失敗した場合に出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: cip: message SYNC_CIP_VERSION is too short

内容

このメッセージは CIP が不正なメッセージを受信した場合に出力されます。

対処

メッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: Damaged raw icf packet detected in JoinGetMessage: dropped.

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: device %s ineligible for CF use. Now "enslaved" to a bonding driver.

内容

CFの初期化中に、指定されたCFのクラスタデバイスが不適当であることがわかりました。このデバイスは、他のドライバによってすでに使用されています。

対処

指定されたデバイスの構成を確認してください。デバイスが他のドライバによって使用されている場合は、そのデバイスをクラスタインタコネクト用に使用することはできません。

CF: device %s: link is %s

内容

CFの初期化中の、クラスタインタコネクトのリンク状態が出力されます。

対処

対処する必要はありません。

CF: ELM init: : %s.

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cf: eventlog　CF: Problem detected on cluster interconnect *device-name* to node *nodename*: missing heartbeat replies.

内容

CF 間のハートビートが途切れました。
クラスタインタコネクトのネットワークがハード故障により通信できないことが考えられます。

対処

LAN カード交換、ケーブル交換などを行い、ハード故障の要因を取り除いてください。

CF: Icf: Xmit timeout: flush svcq.

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: Initialization failed. Error: No network interface devices found.

内容

CFの初期化中に、ネットワークデバイスが見つかりませんでした。CFは、初期化を完了できません。

対処

ノード上にネットワークデバイスが存在するかを確認してください。ネットワークデバイスが存在する場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: Initialization failed. Error: Unsupported network interface devices found.

内容

PRIMECLUSTERが作成・使用する名前のネットワークデバイスが既に存在しています。

対処

ノード上にcip*X* (*X* は0から7までの数字)という名前のネットワークデバイスが存在するかを確認してください。
存在している場合、ネットワークデバイス名をcip*X* 以外の名前に変更してください。

CF: Join Aborted: *nodename1* or *nodename2* must be removed from cluster.

内容

クラスタ内の2つのノードが、同じノードIDを持っています。

対処

クラスタの構成を見直し、ノードIDが重複しないように設定してください。その後、CFを再起動してください。

CF: Join Aborted: Duplicate nodename *nodename* exists in cluster *clustername*.

内容

クラスタ内のほかのノードに同じノード名があるため、参入できません。

対処

クラスタ内の複数ノードに同じノード名が存在する原因を突き止め、問題を解消してください。その後、CFを再起動してください。

CF: Join client *nodename* timed out. (#0000 nodenum)

内容

このメッセージは一定時間にクライアントノードからの応答がない場合に JOIN サーバとなるノード上で出力されます。このとき、クライアントノードはクラスタに参入できていません。

対処

クライアントノードを再起動して問題が解決されるかどうか確認してください。
問題が解決されない場合、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: Join Error: Attempt to send message on unconfigured device. (#0000 n1)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: Join Error: Invalid configuration: another node has a device with a duplicate address.

内容

クラスタ内のほかのノードで、同じ内部固有ノードIDを使用しています。

対処

複数のクラスタノードが、同じMACアドレスを持っている可能性があります。仮想デバイスが間違って設定されていないか確認し、問題を解決してください。その後、CFを再起動してください。

CF: Join Error: Same node ID for *nodename1* and *nodename2* in same cluster. (#0000 n1)

内容

クラスタ内の2つのノードが、同じノードIDを持っています。

対処

クラスタの構成を見直し、ノードIDが重複しないように設定してください。その後、CFを再起動してください。

CF: Join Read Config Error: internal configuration error.

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: Join Server Reply Error: Attempt to send message on unconfigured device. (#0000 n1)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: MTU mismatch found on cluster interconnect *devname* to node *nodename*.

内容

クラスタノード間で指定されたクラスタインタコネクトに、異なったMTU(1回の転送で送信できるデータの最大値)が設定されています。

対処

MTUの設定を見直し、CFを再起動してください。

CF: No join servers found.

内容

このメッセージはノードが JOIN サーバとなるノードを検出できない場合に出力されます。

対処

他にアクティブなクラスタノードが存在しない場合には、対処する必要はありません。それ以外の場合には、ネットワークの構成を確認してください。
ネットワークの構成が正しい場合、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: *nodename*: busy serving another client: retrying.

内容

他のクライアントノードのクラスタ参入処理を実行中のため、サーバ <*nodename*> はこのクライアントノードのクラスタ参入要求を受け付けることができない状態です。クライアントノードは時間を置き、再度参入を試みます。

対処

情報メッセージであり、対処不要です。ただし、リトライを数度繰り返して成功しない場合には、ネットワークの構成を確認してください。可能な場合、各クラスタノードを再起動して問題が解決されるかどうかを確認してください。問題が解決されない場合、調査用の情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください

CF: *nodename* Error: local node has no route to node: join aborted.

内容

このメッセージはクラスタに参入しようとしたノードがクラスタメンバのノードへのルートを検出できなかった場合に出力されます。

対処

ネットワークの構成を確認してください。

CF: *nodename* Error: no echo response from node: join aborted.

内容

このメッセージはクラスタへの参入を試行したノードとクラスタのすべてのノードとの通信が困難な場合に出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: OSD_allocate_memory: Warning, vmalloc failure...retrying (%d %d)

内容

CFでメモリ要求処理に失敗しました。メモリ要求は再試行されます。

対処

OSメモリが不足していることを示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。カーネルのメモリ不足に関連するトラブルを解消するために、ノードの再起動が必要な場合があります。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: OSD_defer_work_element_alloc: no free work_elements

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: OSD_defer_work_element_alloc: no more work_elements, never should be here

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: OSD_iwork_element_alloc: no free work_elements

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: OSD_iwork_element_alloc: no more work_elements, never should be here

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: Problem detected on cluster interconnect *devicename* to node *nodename* : ICF route marked down.

内容

ICF を使用した通信で遅延が5回連続して発生したために ICF の経路が閉塞されました。

対処

LAN カード交換、ケーブル交換などを行い、ハード故障の要因を取り除いてください。

CF: Received out of sequence packets from join client: *nodename*

内容

このメッセージは JOIN サーバとなるノードとクライアントノードとの通信が困難な場合に出力されます。両方のノードが参入プロセスの再起動を試みます。

対処

対処する必要はありません。

CF: route ignored on local device: %s. (#0000 n1 n2 n3)

内容

クラスタノード間で指定されたクラスタインタコネクトに、異なったMTU(1回の転送で送信できるデータの最大値)が設定されています。

対処

MTUの設定を見直して、CFを再起動してください。

CF: Route recovery on *devname* to node *nodename*. (#xxxx n1 n2 n3 n4)

内容

ネットワークを追加した、またはネットワークの問題を修正したため、表示されたノードに対する新しいネットワークが見つかり、現在使用されていることを示します。

対処

対処する必要はありません。

CF: *servername*: ～

内容

CF:*servernsme* で始まるメッセージには以下の種類があります。

CF: *servername*: busy: cluster join in progress: retrying

CF: *servername*: busy: local node not DOWN: retrying

CF: *servername*: busy mastering: retrying

CF: *servername*: busy serving another client: retrying

CF: *servername*: local node's status is UP: retrying

CF: *servername*: new node number not available: join aborted

これらのメッセージはノードがクラスタへの参入を試行したときに JOIN サーバが他のクライアントノードと通信中である場合に出力されます(クラスタ内で一度に有効になる参入は 1 件のみです)。

クライアントノードが LEFTCLUSTER 状態になっている場合にもこのメッセージが出力されます。

ノードがクラスタに再参入するには DOWN 状態になっている必要があります("PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" の cftool -k の説明を参照してください)。

対処

クライアントノードが LEFTCLUSTER 状態の場合には DOWN 状態に変更します。方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" の cftool -k の説明を参照してください。その他の場合には、対処する必要はありません。

CF: socket refcnt less than initialized value: ignored. (#0000 n1)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: symsrv loadsyms Error: failure to upload symsrv semaphore function table. (#0000 n1)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: this node attempting to declare itself failed: ignored.

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: this node attempting to declare itself questionable: ignored.

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

CF: unexpected icfip_sock_data_ready call: ignored.

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

CF: unexpected icfip_sock_destruct call: ignored. (#0000 n1)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

CF: unexpected icfip_sock_error_report call: ignored.

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

CF: unexpected icfip_sock_state_change call: ignored.

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

CF: unexpected icfip_sock_write_space call: ignored.

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

CF: Unknown log event: strings: %s, %s

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: User level event memory overflow: Event dropped (#0000 *eventid*)

内容

このメッセージは ENS ユーザイベントを受信したときにこのイベントに使用するメモリがキューにない場合に出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: WARNING: a new symsrv driver will be used upon system reboot.

内容

カーネルにロードされたsymsrvドライバが、現在のCFドライバに適合しない古いバージョンです。システム再起動後に新しいsymsrvドライバを使用します。

対処

新しいsymsrvがロードされるように、ノードを再起動してください。

CF: WARNING: an old version of the symsrv driver is being used.

内容

カーネルにロードされたsymsrvドライバが、現在のCFドライバに適合しない古いバージョンです。symsrvドライバがカーネルにロードされている間に、CFパッチをインストールした可能性があります。

対処

新しいsymsrvがロードされるように、ノードを再起動してください。

CF: WARNING: cfconfig command execution will not be synchronized.

内容

カーネルにロードされたsymsrvドライバが、現在のCFドライバに適合しない古いバージョンです。cfconfigコマンドの実行が同期されません。

対処

新しいsymsrvがロードされるように、ノードを再起動してください。

CF: %s: busy: a node is leaving cluster: retrying.

内容

ノード接続先の相手ノードが、ノード停止処理中です。接続は再試行されます。

対処

対処する必要はありません。

CF: %s: busy: node down processing in progress: retrying.

内容

ノード接続先の相手ノードが、ノード停止処理中です。接続は再試行されます。

対処

対処する必要はありません。

CF: %s: device not found.

内容

CF初期化中に、指定されたデバイスが見つかりませんでした。

対処

CF構成で指定されたクラスタデバイスが有効であることを確認し、CFを再起動してください。

CF: %s: missed echo responses: retrying.

内容

ノード間の接続に失敗しました。接続は再試行されます。

対処

ネットワーク通信ができなくなるような高負荷状態となっているか、ネットワークに問題があります。

再試行後に接続が完了した場合は、対処する必要はありません。

再試行後も接続できない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: %s: Node down in progress. Joins retry until node down complete.

内容

クラスタ内で停止中のノードがある場合、クラスタに参入できません。ノードの停止が完了するまで、参入は待ち合わせます。

対処

対処する必要はありません。

CF: %s: Node leaving cluster. Joins retry until node leaves cluster.

内容

クラスタ内で停止中のノードがある場合、クラスタに参入できません。ノードの停止が完了するまで、参入は待ち合わせます。

対処

対処する必要はありません。

CF: %s: Node trying to join cluster but not declared DOWN.

内容

ノードがクラスタに参入しようとしましたが、まだDOWN状態になっていません。

対処

SF (Shutdown Facility) が動作していない場合は、'cftool -k'を使用して、手動でノードをDOWN状態に移行する必要あります。SFが動作している場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cf_register_ioctls: %d errors

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cf_unregister_ioctls: %d errors

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cip: Add device %s does not support multicast (0x%x)

内容

指定されたデバイスは、マルチキャストをサポートしていません。

対処

指定されたデバイスが故障してしないか、または間違って設定されていないか確認してください。

cip: Device %s does not support multicast (0x%x)

内容

指定されたデバイスは、マルチキャストをサポートしていません。

対処

指定されたデバイスが故障してしないか、または間違って設定されていないか確認してください。

cip: failed to allocate memory for device.

内容

CIPモジュールの初期化中に、メモリの割り当てに失敗しました。

対処

メモリ割り当てエラー、または他のOSエラーが原因と考えられます。OSのメモリ要求が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cip: Msg size %d exceeds mtu %d

内容

上層プロトコル(IP)が、CIPデバイスのMTU(1回の転送で送信できるデータの最大値)より大きなパケットを送信しようとしたことを示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cip: NULL in_dev for unit %d

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

cip: Only ETH_P_IP type packet is supported.

内容

CIPに、非IPパケットが送付されました。

対処

対処する必要はありません。

cip: receiving multicast address requests of invalid size (%d, %d)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

cip: Strange socket buffer. Insufficient room.

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

cluster interconnect is not yet configured.

内容

CIP初期化中に、有効なクラスタインタコネクトがないことを検出しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

create_dev_entry for %s: %s got 0x%08x

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

Failed to Register the CF driver (rc=0x%08x)

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

linux_setconf: no configured netinfo devices found

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

OSD_lock_user_memory: NOT IMPLEMENTED

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

OSD_NET_one_device_detach: invalid device index

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

OSD_SYS_create_device failed to create cip.

内容

CIPモジュールの初期化中に、デバイス作成に失敗しました。

対処

メモリ割り当てエラー、または他のOSエラーが原因と考えられます。OSのメモリ要求が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

OSD_unlock_user_memory: NOT IMPLEMENTED

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

size of base data structures do not match!!! cannot load!!! exiting...

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Warning!!! ifreq size is different

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Warning!!! in_device size is different

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Warning!!! in_ifaddr size is different

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Warning!!! net_device size is different

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Warning!!! packet_type size is different

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Warning!!! rwlock_t size is different

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Warning!!! semaphore size is different

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Warning!!! sk_buff size is different

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Warning!!! spinlock_t size is different

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Warning!!! timer_list size is different

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Warning!!! wait_queue_head_t size is different

内容

CFの内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

5.1.4 エラー(ERROR)メッセージ

cannot get data file configuration : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cfset: cfset_getconf_kernel: malloc failed : '#xxxx: %s : %s

内容

cfset処理中に、メモリの割り当てに失敗しました。

対処

OSメモリの不足により、メモリの割り当てに失敗した原因を突き止めてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

cfset: /etc/default/cluster.config is not loaded successfully : '#xxxx: %s : %s

内容

/etc/default/cluster.configファイルからカーネルへ値を再ロードするために、オプション -r を使ってcfsetコマンドが実行されましたが、処理が失敗しました。

対処

メモリ不足などによる、OSのリソース割り当ての失敗が原因です。問題の根本原因を示す、他のメッセージを確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

cfset_get_conf: malloc failed

内容

cfset処理中に、メモリの割り当てに失敗しました。

対処

OSのメモリ要求が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。メモリ不足を解決するために、ノードのリブートが必要な場合があります。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: carp_broadcast_version: Failed to announce version *cip_version*

内容

このメッセージは CIP と CF の不一致により CIP の初期化が失敗した場合に出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: ens_nicf_input Error:unknown msg type received. (#0000 *msgtype*)

内容

このメッセージは ENS が ICF から不正なメッセージを受信した場合に出力されます。このメッセージは破棄されます。

対処

対処する必要はありません。ただし、前後に他のエラーメッセージが出力されていないかどうかを確認してください。

CF: Icf Error: (service err_type route_src route_dst). (#0000 *service err-type route_src route_dst*)

内容

CF のハートビートによる通信に失敗しました。

対処

一時的な CPU 高負荷状態によって表示されることがあります。負荷が軽減されるとハートビートは正常に動作します。したがって、短期間の CPU 高負荷では、本メッセージが出力されても影響はありません。

CF: Join Error: Invalid configuration: asymmetric cluster.

内容

このメッセージは非対称クラスタリングをサポートしていない稼動中のノードを持つクラスタにノードが参入し、互換性のない(非対称の)クラスタインタコネクトを構成した場合に出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

CF: Join Error: Invalid configuration: multiple devs on same LAN.

内容

このメッセージはノードがクラスタへの参入またはクラスタの作成を試行した場合に出力されます。1 つの LAN セグメントに複数のネットワークインタコネクトを接続することはできません。

対処

それぞれのインタコネクトに別の LAN セグメントが割り当たるようにネットワークの構成、もしくはインタコネクトデバイスを変更してください。

CF: Join postponed: received packets out of sequence from *servername*.

内容

このメッセージはクラスタへの参入を試行したノードと JOIN サーバとの通信が困難な場合に出力されます。両方のノードが参入プロセスの再起動を試みます。

対処

対処する必要はありません。

CF: Join postponed, server *servername* is busy.

内容

このメッセージはノードがクラスタへの参入を試行したときに JOIN サーバが他のクライアントノードと通信中である場合に出力されます(クラスタ内で一度に有効になる参入は 1 件のみです)。

クライアントノードが LEFTCLUSTER 状態になっている場合にもこのメッセージが出力されます。

ノードがクラスタに再参入するには DOWN 状態になっている必要があります ("PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" の cftool -k の説明を参照してください)。

対処

クライアントノードが LEFTCLUSTER 状態の場合には DOWN 状態に変更します。
方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" の cftool -k の説明を参照してください。その他の場合には、対処する必要はありません。

CF: Join timed out, server *servername* ～

内容

CF: Join timed out, server *servername* で始まるメッセージには以下の種類があります。

CF: Join timed out, server *servername* did not send node number:retrying.

CF: Join timed out, server *servername* did not send nsm map: retrying.

CF: Join timed out, server *servername* did not send welcome message.

これらのメッセージはクラスタへの参入を試行したノードと JOIN サーバとの通信が困難な場合に出力されます。参入クライアントノードは参入プロセスの試行を続けます。

対処

情報メッセージであり、対処不要です。ただし、リトライを数度繰り返して成功しない場合には、ネットワークの構成を確認してください。可能な場合、各クラスタノードを再起動して問題が解決されるかどうかを確認してください。問題が解決されない場合、調査用の情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

CF: Local node is missing a route from node:*nodename*
CF: missing route on local device:*devicename*

内容

このメッセージはクラスタへの非対称参入が行われ、ローカルノードが新規ノードのルートを喪失した場合に出力されます。確認のため、メッセージには喪失したルートに関する情報(ノード名、インタコネクトのデバイス名)が含まれます。

対処

クラスタインタコネクトを構成する LAN(NIC、ケーブル、スイッチ) に異常がないか確認し、問題を解決してください。
問題が解決された場合は、ノードを再起動してください。

CF: Local Node *nodename* Created Cluster *clustername*. (#0000 *nodenum*)

内容

このメッセージはノードが新規クラスタを作成した場合に出力されます。

対処

対処する必要はありません。

CF: Local Node *nodename* Left Cluster *clustername*.

内容

このメッセージはノードがクラスタから離脱した場合に出力されます。

対処

対処する必要はありません。

---

cf:mipc : ib_available gethostbyname: No such file or directory

内容

このメッセージは、RAC 環境で、CF ノード名が uname -n と異なっている場合に表示されるデバッグメッセージです。

対処

表示しないようにするには、/etc/inet/hosts に CF ノード名を登録してください。

CF (TRACE): cip: Announcing version *cip_version*

内容

このメッセージは CIP の初期化が完了したときに出力されます。

対処

対処する必要はありません。

---

check_matching_key: malloc failed

内容

cfset処理中に、メモリの割り当てに失敗しました。

対処

OSのメモリ要求が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。メモリ不足を解決するために、ノードのリブートが必要な場合があります。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cluster file last updated by %s on node %s at %.24s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cluster is using empty data file

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cms_ack_event failed : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cms_post_event failed: check commit event : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

commit event received without active transaction

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

compare error: key read "%s", expected key "%s"

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

compare error: key "%s" entry size = %d, expected size %d

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

configuration not set for remote execution request: src node %d: cmd = %s

内容

リモートコマンドを実行するための、cfsh構成が設定されていません。

対処

以下のエントリを、/etc/default/cluster.configファイルに追加してください。

```
CFSH "cfsh"
```

追加後、'cfset -r'を使って値を再ロードするか、CFを再起動してcfshコマンドを再入力してください。

configuration not set for remote file copy request

内容

リモートノードで、cfcpコマンドからのファイルコピー要求に失敗しました。CFCP設定変数が、/etc/default/cluster.configに設定されていません。

対処

以下のエントリを、/etc/default/cluster.configファイルに追加してください。

```
CFCP "cfcp"
```

追加後、'cfset -r'を使って値を再ロードするか、CFを再起動してcfcpコマンドを再入力してください。

control event notification failed

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

corrupt file entry: key "%s" : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

corrupt sync data: key "%s": '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

data compare error: key "%s"

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

data file closed during sync

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

data file closed during transaction

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

data/temp file closed during update

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

duplicate name %s: line %d: ignored

内容

/etc/default/cluster.configファイルに、無効なエントリが見つかりました。エントリが重複しています。

対処

/etc/default/cluster.configファイルの無効なエントリを修正し、CFを再起動してください。

empty sync reply without EOF

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ENS events dropped

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

error setting data file gen num : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

expected EOF

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

failed to associate user event (index = %d) : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

failed to chmod remote file copy tmp file : '#xxxx: %s : %s

内容

chmodコマンドを利用して、コピー先ディレクトリ内の一時ファイルの許可モードを、コピー元ファイルと同一にできなかったため、リモートファイルコピーができませんでした。

対処

コピー先ディレクトリの一時ファイルで、chmodコマンドが失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

failed to chown remote file copy tmp file : '#xxxx: %s : %s

内容

chownコマンドを利用して、コピー先ディレクトリ内の一時ファイルのオーナーとグループを、コピー元ファイルと同一にできなかったため、リモートファイルコピーができませんでした。

対処

コピー先ディレクトリの一時ファイルで、chownコマンドが失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

failed to close remote file copy tmp file : '#xxxx: %s : %s

内容

コピー先ディレクトリ内の一時ファイルのクローズに失敗したので、リモートファイルコピーができませんでした。

対処

コピー先ディレクトリの一時ファイル上で、クローズに失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

failed to end daemon transaction : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

failed to find signaled event (index = %d)

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

failed to get daemon request : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

failed to get ENS event (index = %d) : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

failed to get node details : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

failed to get node id : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

failed to get node name : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

failed to handle left cluster : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

failed to init user event (index = %d) : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

failed to open remote file copy tmp file : '#xxxx: %s : %s

内容

リモートファイルのコピー中に、コピー先ディレクトリ内の一時ファイルのオープンに失敗しました。

対処

コピー先ディレクトリに、root権限での一時ファイル書き込み許可があることを確認してください。コピー先ファイルでstatが失敗した原因を示すOSエラーを確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

failed to register for user event (index = %d) : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

failed to set daemon state to ready : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

failed to set daemon state to sync : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

failed to start daemon transaction : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

failed to stat remote file copy dst : '#xxxx: %s : %s

内容

コピー先ファイルのstatが失敗したので、cfcpを使ったリモートファイルコピーに失敗しました。

対処

コピー先ファイルがアクセス可能であることを確認してください。コピー先ファイルでstatが失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

failed to write to remote file copy tmp file : '#xxxx: %s : %s

内容

コピー先ディレクトリ内の一時ファイルへの書き込みに失敗したので、リモートファイルコピーに失敗しました。

対処

コピー先ディレクトリに、root権限でのファイル読み書き許可があるか確認してください。コピー先ディレクトリでファイルへの書き込みが失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

failure to ack commit event : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

failure to open cfrs device : '#xxxx: %s : %s

内容

cfrsデバイスのオープンに失敗したので、リモートコマンド実行ができませんでした。

対処

/dev/cfrsデバイスファイルおよびデバイスファイルがオープンに失敗した原因、またはデバイスファイルが存在しない原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

failure to rename dstpath to %s : '#xxxx: %s : %s

内容

コピー先ファイルのファイル名の変更に失敗したので、リモートファイルコピーができませんでした。

対処

コピー先ファイルの名前の変更に失敗している原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

failure to set daemon info : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

failure to spawn: %s : '#xxxx: %s : %s

内容

リモートコマンドの実行による、プロセスの生成に失敗しました。

対処

プロセスの生成に失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

first sync request return pkg size = 0

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

fork failure : '#xxxx: %s : %s

内容

リモートコマンドの実行による、プロセスを生成するためのfork処理に失敗しました。

対処

forkの実行による新しいプロセスの作成に失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

fread temp output file error : '#xxxx: %s : %s

内容

リモートコマンドの実行が原因で、stdio tmpfile機能によって作成された一時ファイルのfread処理が失敗しました。

対処

stdio tmpfile機能によって作成された一時ファイルの、fread処理が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

fseek temp output file error : '#xxxx: %s : %s

内容

リモートコマンドの実行が原因で、stdio tmpfile機能によって作成された一時ファイルのfseek処理が失敗しました。

対処

stdio tmpfile機能によって作成された一時ファイルの、fseek処理が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

handle_notification(): id %ld get a null pointer

内容

ELMの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

handle_notification(): wrong context owner %ld

内容

ELMの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

invalid transaction timeout node id *NodeID*

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

invalid usage of %s: %s

内容

リモートコマンド実行で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

line %d: name %s missing value

内容

/etc/default/cluster.configファイルに、無効なエントリが見つかりました。名前に値がありません。

対処

/etc/default/cluster.configファイルに指定された無効なエントリを修正し、CFを再起動してください。

line %d: name %s value too long

内容

/etc/default/cluster.configファイルに、無効なエントリが見つかりました。値が長すぎます。

対処

/etc/default/cluster.configファイルに指定された無効なエントリを修正し、CFを再起動してください。

line %d: name too long (%d max)

内容

/etc/default/cluster.configファイルに、無効なエントリが見つかりました。名前が長すぎます。

対処

/etc/default/cluster.configファイルに指定された無効なエントリを修正し、CFを再起動してください。

---

line %d: premature EOF: last value ignored

内容

/etc/default/cluster.configファイルの解析に失敗しました。

対処

/etc/default/cluster.configファイルに、無効なエントリがないか確認してください。無効なエントリを修正した後、CFを再起動してください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

line %d: value without a name: ignored

内容

/etc/default/cluster.configファイルに、無効なエントリが見つかりました。値と名前のペアが無効です。

対処

/etc/default/cluster.configファイルに指定された無効なエントリを修正し、CFを再起動してください。

---

lk_wait(): Error wrong connection

内容

ELMの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

lk_wait(): Error wrong Owner

内容

ELMの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

lk_wait(): wrong context owner %ld

内容

ELMの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

local file last updated by %s on node %s at %.24s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

memory allocation failed (header: size = %d)

内容

cfregデーモンでメモリの割り当てに失敗しました。cfregdは終了します。

対処

OSのメモリ要求が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。メモリ不足を解決するために、ノードのリブートが必要な場合があります。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

memory allocation failed (init file copy req: size = %d)

内容

リモートファイルコピーの処理で内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

OSのメモリ要求が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。メモリ不足を解決するために、ノードのリブートが必要な場合があります。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

memory allocation failed (old data file: size = %d)

内容

cfregデーモンでメモリの割り当てに失敗しました。cfregdは終了します。

対処

OSのメモリ要求が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。メモリ不足を解決するために、ノードのリブートが必要な場合があります。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

memory allocation failed (remote file copy queue entry: size = %d)

内容

リモートファイルコピーの処理中に、メモリの割り当てに失敗しました。cfregdは終了します。

対処

OSのメモリ要求が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。メモリ不足を解決するために、ノードのリブートが必要な場合があります。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

memory allocation failed (req return: size = %d)

内容

cfregデーモンでメモリの割り当てに失敗しました。cfregdは終了します。

対処

OSのメモリ要求が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。メモリ不足を解決するために、ノードのリブートが必要な場合があります。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

memory allocation failed (sub file copy req: size = %d)

内容

リモートファイルコピーの処理で、メモリの割り当てに失敗しました。cfregdは終了します。

対処

OSのメモリ要求が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。メモリ不足を解決するために、ノードのリブートが必要な場合があります。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

memory allocation failed (sync entry key: size = %d)

内容

cfregデーモンによる、メモリの割り当てに失敗しました。cfregdは終了します。

対処

OSのメモリ要求が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。メモリ不足を解決するために、ノードのリブートが必要な場合があります。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

memory allocation failed (sync reply: size = %d)

内容

cfregデーモンによる、メモリの割り当てに失敗しました。cfregdは終了します。

対処

OSのメモリ要求が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。メモリ不足を解決するために、ノードのリブートが必要な場合があります。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

memory allocation failed (sync req: size = %d)

内容

cfregデーモンによる、メモリの割り当てに失敗しました。cfregdは終了します。

対処

OSのメモリ要求が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。メモリ不足を解決するために、ノードのリブートが必要な場合があります。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

memory allocation failed (sync request: size = %d)

内容

cfregデーモンによる、メモリの割り当てに失敗しました。cfregdは終了します。

対処

OSのメモリ要求が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。メモリ不足を解決するために、ノードのリブートが必要な場合があります。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

memory allocation failed (update infos: size = %d)

内容

cfregデーモンによる、メモリの割り当てに失敗しました。cfregdは終了します。

対処

OSのメモリ要求が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。メモリ不足を解決するために、ノードのリブートが必要な場合があります。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

missing entry with key "%s"

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

missing entry with key "%s" for delete

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

missing entry with key "%s" for modify

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

name %s: line %d: too many configuration entries (%d max) remaining entries ignored

内容

/etc/default/cluster.configファイルのエントリの、最大許容数に達しました。

対処

/etc/default/cluster.configファイルにあるエントリの数を確認して問題を修正し、CFを再起動してください。

next sync request return pkg size = 0

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nodegroup load failed due to malloc failure

内容

CFの初期化処理中に、メモリの割り当てに失敗しました。

対処

OSのメモリ要求が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。メモリ不足を解決するために、ノードのリブートが必要な場合があります。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nodegroup load failed due to nsi failure

内容

CFの初期化処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nodegroup load failed : '#xxxx: %s : %s

内容

ノードグループの初期化中に、カーネルからのデフォルト値のロードに失敗しました。cfregサブシステムとの通信に失敗しました。

対処

失敗の原因を示す、他のメッセージを確認してください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_getarrcnt error: init file copy data

内容

リモートファイルコピーの処理で内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_getarrcnt error: request key

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_getarrcnt error: sub file copy data

内容

リモートファイルコピーの処理で内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_getarrcnt error: sync reply data

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_getarrcnt error: update event data

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_pack error: check commit

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_pack error: control event

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

nsi_pack error: first sync request

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

nsi_pack error: next sync request

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

nsi_pack error: remote file copy response

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

nsi_pack error: sync reply

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

nsi_pack_buffer error: header

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

nsi_pack_buffer response error

内容

リモートコマンド実行で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_pack_size error: header

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_pack_size error: sync reply

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_setarrcnt error: init file copy data

内容

リモートファイルコピーの処理で内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_setarrcnt error: request key

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_setarrcnt error: sub file copy data

内容

リモートファイルコピーの処理で内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_setarrcnt error: sync reply data

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_setarrcnt error: sync request key

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_setarrcnt error: update event data

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_unpack error: commit event

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_unpack error: daemon down event

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_unpack error: first sync request return

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_unpack error: init file copy request

内容

リモートファイルコピーの処理で内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_unpack error: next sync request return

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_unpack error: sub file copy request

内容

リモートファイルコピーの処理で内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_unpack error: sync reply

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_unpack error: sync request

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

nsi_unpack error: update event

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

open %s : '#xxxx: %s : %s

内容

cfsetの処理中に、cfsetファイル(/etc/default/cluster.config)のオープンに失敗しました。

対処

/etc/default/cluster.configファイルの存在とパーミッションを確認し、コマンドを再実行してください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

OSDU_open_symsrv: failed to open /dev/symsrv: #%04x: %s: %s

内容

/dev/symsrvデバイスのオープンに失敗しました。

対処

/dev/symsrvデバイスファイルおよびデバイスファイルのオープンに失敗した原因、またはデバイスファイルが存在しない原因を示す、OSメッセージを確認してください。このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

OSDU_select_nic: %s not a selectable device

内容

クラスタデバイスの管理中に、内部異常が発生しました。指定したクラスタデバイスは、設定に追加されませんでした。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

OSDU_start: CF configured IP device %s not available

内容

CF-over-IP構成の起動中は、指定したIPデバイスは無効です。

対処

マニュアルのcfconfigのページを参照してください。有効なIPデバイスは、/dev/ip0、/dev/ip1、/dev/ip2または/dev/ip3です。無効な設定を修正して、CFを再起動してください。

OSDU_start: Could not get configuration: The fast start option requires a valid configuration file.

内容

オプション -L を使ったCFの起動中に、/etc/default/clusterファイルの解析に失敗しました。

対処

ファイル/etc/default/clusterの存在とパーミッションを確認し、CFを再起動してください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

OSDU_start: failed to load the driver

内容

cfドライバが、カーネルにロードされませんでした。CFが起動できません。

対処

ドライバのロードが失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

OSDU_start: failed to load the symsrv driver

内容

symsrvドライバが、カーネルにロードされませんでした。CFが起動できません。

対処

ドライバのロードが失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

OSDU_start: failed to open /dev/linux (%s)

内容

CFの起動処理中に、/dev/linuxのオープンに失敗しました。CFの起動を続行できません。

対処

デバイスのオープンが失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

OSDU_start: failure to determine boot time

内容

CFの起動中に、/proc/uptimeを使ったノードの起動時間の決定に失敗しました。起動時間は決定されませんでした。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

OSDU_start: LINUX_IOCTL_SETCONF ioctl failed

内容

CFの起動中に、クラスタデバイス構成の初期化に失敗しました。CFの起動を続行できません。

対処

問題を特定するため、他のメッセージを確認してください。

無効な設定のため、指定されたクラスタデバイスが見つからない場合があります。クラスタデバイス名を特定する設定を確認してください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

OSDU_stop: enable unload failed

内容

CFの終了処理中に、ドライバのアンロードに失敗しました。CFデバイスファイルがオープンされた状態である可能性があります。

対処

CFデバイスをオープンして、アンロードを妨げているプロセスを、メッセージファイルで確認してください。指定されたプロセスまたは製品を停止し、CFの停止を再試行してください。

rcqconfig failed to configure qsm due to cfreg failure.

内容

CFの初期化処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

rcqconfig failed to configure qsm due to cfreg_put failure.

内容

CFの初期化処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

rcqconfig failed to configure qsm due to ens post eventy failure.

内容

CFの初期化処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

read entry with key "%s"

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

received remote service request during sync phase

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

received sync request during sync phase

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

received transaction timeout request during sync phase

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

received wrong ENS event (received 0x%x, expected 0x%x)

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

remote file copy destination not regular file

内容

リモートファイルコピーのために指定されたコピー先のファイルに誤りがあります。

対処

リモートファイルコピーのコピー先を別の場所に指定するか、既存のコピー先ファイル名を変更してください。

---

response buffer size too large: %d

内容

リモートコマンド実行で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

send_request: bogus return value %d

内容

ELMの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

starting transaction without empty temp file

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

starting transaction without open data file

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

sync compare data overflow: size %d expected 0

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

sync data overflow: %d expected 0

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

sync data too small for compare: %d

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

sync reply data size corrupt: entsize = %d, datasize = %d

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

sync reply data size corrupt: size = %d, datasize = %d

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

sync reply data too small: %d

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

temp file not open

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

transaction handle validation error : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

uev_wait failed : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

unknown update type %d

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

wait failure : '#xxxx: %s : %s

内容

リモートコマンドの実行でプロセスの終了を待つ間に、wait処理が失敗しました。

対処

waitが失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

%s: cannot create

内容

cfregデーモンでファイルのオープン処理に失敗しました。cfregdは終了します。

対処

オープン処理が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認してください。問題が特定され、解決された場合は、cfregデーモンを再起動してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

%s: close failure

内容

cfregデーモンを利用した、cfregデータファイルのクローズ処理に失敗しました。cfregdは終了します。

対処

ファイルクローズが失敗している原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。I/Oの問題を解決するために、ノードのリブートが必要な場合があります。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

%s: failed to open for read

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

%s: failure to remove : '#xxxx: %s : %s

内容

古いcfregデータファイルの削除に失敗しました。cfregdは終了します。

対処

ファイルの削除に失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

%s: failure to rename to %s

内容

cfregデーモンでcfregデータファイルのファイル名の変更に失敗しました。cfregdは終了します。

対処

ファイル名の変更に失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。I/Oの問題を解決するために、ノードのリブートが必要な場合があります。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

%s: failure to rename to dstpath : '#xxxx: %s : %s

内容

コピー先ファイルのファイル名の変更に失敗したので、リモートファイルコピーができませんでした。

対処

コピー先ディレクトリの、一時ファイルの名前変更に失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

%s: fseek 0 failed

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

%s: fwrite entry returned %d, expected %d

内容

cfregデーモンで書き込み処理に失敗しました。cfregdは終了します。

対処

書き込み処理が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認してください。問題が特定され、解決された場合は、cfregデーモンを再起動してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

%s: fwrite entsize returned %d, expected %d

内容

cfregデーモンで書き込み処理に失敗しました。cfregdは終了します。

対処

書き込み処理が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認してください。問題が特定され、解決された場合は、cfregデーモンを再起動してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

%s: fwrite header returned %d, expected %d

内容

cfregデーモンで書き込み処理に失敗しました。cfregdは終了します。

対処

書き込み処理が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認してください。問題が特定され、解決された場合は、cfregデーモンを再起動してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

%s: fwrite sync data returned %d, expected %d

内容

cfregデーモンで書き込み処理に失敗しました。cfregdは終了します。

対処

書き込み処理が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認してください。問題が特定され、解決された場合は、cfregデーモンを再起動してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

%s: fwrite update info returned %d, expected %d

内容

cfregデーモンで書き込み処理に失敗しました。cfregdは終了します。

対処

書き込み処理が失敗した原因を示すOSエラーがないか確認してください。問題が特定され、解決された場合は、cfregデーモンを再起動してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

%s: not open for write

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

%s: read error : '#xxxx: %s : %s

内容

cfregデータファイルの読み込みができません。cfregdは終了します。ファイルが破損しているか、OS障害の可能性があります。

対処

cfregデータファイルに、ルート権限での読み書き許可があることを確認してください。ルート権限がある場合は、ファイルの読み込みに失敗した原因を示すOSエラーがないか確認し、問題を解決してください。

OSエラーがない場合、または、問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

%s: synchronization failed

内容

cfregデーモンで内部異常が発生しました。cfregdは終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

/etc/default/cluster.config is not loaded successfully : '#xxxx: %s : %s

内容

cfset処理中に、カーネルへのエントリのロードに失敗しました。

対処

ロードが失敗した原因を示す、他のメッセージを確認してください。メモリの割り当てエラーなど、OSリソースの問題である可能性が高いです。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

5.2 シャットダウン機構メッセージ

シャットダウン機構に関するメッセージを情報、エラーの各種別に分類し、アルファベット順に説明します。

参考

シャットダウンエージェントの動作に関するメッセージに使用されている変数、*Shutdown Agent* および *action* に対して、実際に出力される文字列を以下に記載します。

変数	出力される文字列
Shutdown Agent	SA_ilomp.so
	SA_ilomr.so
	SA_rccu.so
	SA_xscfp.so
	SA_xscfr.so
	SA_pprcip.so
	SA_pprcir.so
	SA_sunF
	SA_blade
	SA_icmp
	SA_ipmi
	SA_libvirtgp
	SA_libvirtgr
	SA_lkcd
	SA_mmbp.so
	SA_mmbr.so
	SA_vmchkhost
	SA_vmgp
	SA_vmSPgp
	SA_vmSPgr
	上記以外(新規シャットダウンエージェントなど)
action	init
	shutdown
	test
	unInit

5.2.1 対処不要な情報(NOTICE/INFO)メッセージ

Advertisement server successfully started

内容

シャットダウンデーモンのネットワーク通信が正しく開始されました。

対処

対処する必要はありません。

After the delay of *value* seconds, *nodename* would kill:

内容

value 秒後、ノード *nodename* はノード強制停止を行います。

対処

対処する必要はありません。

All cluster hosts have reported their weight

内容

ノード強制停止時に、すべてのクラスタノードからのデータ受信に成功しました。

対処

対処する必要はありません。

All hosts in the shutdown list are DOWN. Delay timer is terminated

内容

強制停止するノードがすべて停止状態のため、ノード強制停止処理を終了しました。

対処

対処する必要はありません。

Already killed node : *nodename*, ignoring InvokeSA()

内容

ノード *nodename* がすでに強制停止されています。ノード *nodename* に対するシャットダウンエージェントへの要求は無効としました。

対処

対処する必要はありません。

A reconfig request came in during a shutdown cycle, this request was ignored

内容

ノード強制停止処理中のため、シャットダウンデーモンの再構成要求 (sdtool -r) を無効としました。

対処

シャットダウンデーモンを再構成する必要がない場合は、対処する必要はありません。シャットダウンデーモンを再構成する必要がある場合は、ノード強制停止が完了した後、以下のコマンドを実行してシャットダウン機構(SF)を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

A reconfig request is being processed. This request was ignored

内容

シャットダウンデーモンの構成中のため、シャットダウンデーモンの再構成要求 (sdtool -r) を無効としました。

対処

シャットダウンデーモンを再構成する必要がない場合は、対処する必要はありません。再度、シャットダウンデーモンを再構成する必要がある場合は、しばらく待ってから、以下のコマンドを実行してシャットダウン機構(SF)を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

A request to clean rcsd log files came in during a shutdown cycle, this request was ignored

内容

ノード強制停止処理中のため、シャットダウンデーモンのログファイルを更新(再オープン)しませんでした。

対処

シャットダウンデーモンのログファイルを更新(再オープン)する必要がない場合は、対処する必要はありません。シャットダウンデーモンのログファイルを更新(再オープン)する必要がある場合には、ノード強制停止が完了した後、以下のコマンドを実行し、シャットダウンデーモンのログファイルを更新(再オープン)してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -l
```

A Shutdown request for host *nodename* is already in progress. Merging this request with the original request

内容

ノード *nodename* の強制停止要求がありましたが、すでに強制停止中のため、強制停止を行いませんでした。

対処

対処する必要はありません。

A shutdown request has come in during a test cycle, test of *Shutdown Agent* PID *pid* will be terminated

内容

rcsd がシャットダウンエージェントのテストを実行している間に sdtool -k が呼び出されるとこのメッセージが発生します。

対処

このメッセージが表示されても問題はありません。対処不要です。

Broadcasting KRlist...

内容

ノード強制停止のため、各ノードでの強制停止要求データの送受信を開始しました。

対処

対処する必要はありません。

Cleaning advertisements from the pipe *name*

内容

ノード強制停止が完了したので、ノード強制停止時に受信した、すべてのクラスタノードからの情報を破棄しました。

対処

対処する必要はありません。

cleaning pending InvokeSA()

内容

保留されているシャットダウンエージェントへの要求を実行します。

対処

対処する必要はありません。

Cleaning RCSD log files

内容

シャットダウンデーモンのログファイルの更新(再オープン)を開始しました。

対処

対処する必要はありません。

CLI request to Shutdown host *nodename*

内容

ノード *nodename* の強制停止要求がありました。

対処

対処する必要はありません。

could not get NON machine weights from RMS

内容

すべての構成済み userApplication の、重み合計値の採取に失敗しました。このノードに RMS がインストールされていない、または、RMS が正しく動作していない可能性があります。

対処

対処する必要はありません。

disablesb.cfg does not exist, errno *errno*

内容

シャットダウンデーモンの内部情報です。

対処

対処する必要はありません。

Eliminating host *nodename* has been taken care of

内容

強制停止するノードがすでに停止状態のため、強制停止を行いませんでした。

対処

対処する必要はありません。

Failed to break into subclusters

内容

ノード強制停止時の情報です。

対処

対処する必要はありません。

Failed to calculate subcluster weights

内容

ノード強制停止時の情報です。

対処

対処する必要はありません。

Failed to cancel *thread*, thread of string *string* of host *nodename*

内容

ノード <*nodename*> 用のスレッド <*thread*> のキャンセルに失敗しました。

対処

対処する必要はありません。

Failed to prune the KR list

内容

ノード強制停止時の情報です。

対処

対処する必要はありません。

Failed to VerifyMaster

内容

ノード強制停止時の情報です。

対処

対処する必要はありません。

Finished Resolving Split.

内容

ノード強制停止処理を完了しました。

対処

対処する必要はありません。

Finished wait for Delay Timer.starting to resolve split

内容

待ち合わせが完了し、ノード強制停止を開始しました。

対処

対処する必要はありません。

For *string*: MyCH = 0x*value*, MySC = 0x*value*

内容

ノード強制停止時の情報です。

対処

対処する必要はありません。

Forced to re-open CLI pipe due to a missing pipe *name*

内容

シャットダウンデーモンのコマンドインタフェース用のパイプに異常があったため、再作成しました。

対処

シャットダウン機構が、異常のあったコマンドインタフェース用のパイプを再作成しています。システムで動く他のプロセスへの影響はないので、対処不要です。

Forced to re-open CLI pipe due to an invalid pipe *name*

内容

シャットダウンデーモンのコマンドインタフェース用のパイプに異常があったため、再作成しました。

対処

シャットダウン機構が、異常のあったコマンドインタフェース用のパイプを再作成しています。システムで動く他のプロセスへの影響はないので、対処不要です。

Forced to re-open CLI pipe due to failed stat pipe *name errno*

内容

シャットダウンデーモンのコマンドインタフェース用のパイプに異常があったため、再作成しました。

対処

シャットダウン機構が、異常のあったコマンドインタフェース用のパイプを再作成しています。システムで動く他のプロセスへの影響はないので、対処不要です。

Fork *Shutdown Agent*(PID *pid*) to *action* host *nodename*

内容

ノード <*nodename*> に対するアクション <*action*> を実行するためにシャットダウンエージェント <*Shutdown Agent*> を起動しました。

対処

対処する必要はありません。

Gathering CF Status

内容

シャットダウンデーモンのCFに関する初期処理を開始しました。

対処

対処する必要はありません。

getservbyname returned *portnumber* as the port for sfadv server

内容

シャットダウンデーモンで使用するネットワーク通信用ポート番号 *portnumber* の取得に成功しました。

対処

対処する必要はありません。

host *nodename* has already been killed. Ignoring this request

内容

ノード *nodename*の強制停止要求がありましたが、そのノードはすでに停止されているため、強制停止は行いませんでした。

対処

対処する必要はありません。

Host *nodename* has been put in the shutdown list

内容

ノード <*nodename*> はすでにシャットダウン対象となっています。

対処

対処する必要はありません。

---

host *nodename* is the *value* highest weight in the cluster

内容

生存優先度の情報です。

対処

対処する必要はありません。

Host *nodename*, MA *Monitoring Agent*, MAHostGetState():*string*

内容

MA 監視スレッドにおいて MAHostGetState() が正常に動作しました。

対処

対処する必要はありません。

Host *nodename*, MA *Shutdown Agent*, MAHostInitState() returned *value*

内容

MA 監視スレッドにおいて MAHostInitState() を実行しました。

対処

対処する必要はありません。

Host *nodename* (reported-weight:*value*) wants to kill *nodename* - master *nodename*

内容

各ノードのノード強制停止要求情報です。

対処

対処する必要はありません。

---

icf_ping returned *value*(*string*)

内容

クラスタインタコネクト経由で、ノードの状態を確認しました。

対処

対処する必要はありません。

In *string* : Select returned *value*, errno *errno*

内容

シャットダウンデーモンの select 関数が異常復帰しました。

対処

シャットダウン機構が、対象のネットワーク通信用のパイプを再作成して処理を再開します。システムで動く他のプロセスへの影響はないので、対処不要です。

InvokeSA(*nodename*, *action*, *number*)

内容

ノード *nodename* に対するアクション *action* を保留中です。

対処

対処する必要はありません。

Kill requests:

内容

各ノードのノード強制停止要求情報を出力します。

対処

対処する必要はありません。

Kill Requests are:

内容

各ノードの強制停止要求の情報を出力します。

対処

対処する必要はありません。

KR from *nodename* to kill *nodename* had master *nodename*, now has master *nodename*

内容

ノード強制停止時の情報です。

対処

対処する必要はありません。

MA *Monitoring Agent* reported host *nodename* leftcluster, state *string*

内容

ノード状態の変化を検出しました。

対処

対処する必要はありません。

No kill requests from my subcluster

内容

自ノードが属するノード群にはノード強制停止要求がありませんでした。

対処

対処する必要はありません。

---

node-factor set to default value: *value*

内容

生存優先度の計算に使用する情報です。

対処

対処する必要はありません。

node-factor updated to : *value*

内容

生存優先度の計算に使用する情報です。

対処

対処する必要はありません。

nodename was leaving cluster

内容

ノード *nodename* がクラスタから切り離されようとしています。

対処

対処する必要はありません。

pclose failed for *command*.errno = *errno*

内容

コマンド *command* の終了時にエラーが発生しましたが、問題はありません。

対処

対処する必要はありません。

Pending InvokeSA():

内容

保留されているシャットダウンエージェントへの要求を出力します。

対処

対処する必要はありません。

PID *pid* has indicated a {successful | failed} host *action*

内容

シャットダウンエージェントが正常値、もしくは異常値を戻り値として終了しました。

対処

対処する必要はありません。

PID *pid* has indicated a successful host shutdown

内容

PID *pid* がノードの停止に成功しました。

対処

対処する必要はありません。

Processing *event* for host *nodename*

内容

受信したノード <*nodename*> の CF イベント <*event*> の処理を開始しました。

対処

対処する必要はありません。

RCSD already running

内容

シャットダウンデーモンはすでに起動されています。

対処

- シャットダウンデーモンを再起動する必要がない場合

  対処の必要はありません。

- シャットダウンデーモンを再起動する必要がある場合

  以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構(SF)を再起動してください。

  ```
  # /opt/SMAW/bin/sdtool -e
  ```

  ```
  # /opt/SMAW/bin/sdtool -b
  ```

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

RCSD controlled daemon exit completed

内容

シャットダウンデーモンの終了に成功しました。

対処

対処する必要はありません。

RCSD has detected some data on the pipe RCSDNetPipe.

内容

シャットダウンデーモンは、他ノードからの送信データを検出しました。

対処

対処する必要はありません。

RCSD log files cleaned successfully

内容

シャットダウンデーモンのログファイルの更新(再オープン)に成功しました。

対処

対処する必要はありません。

RCSD returned a successful exit code for this command

内容

sdtool コマンドの実行に成功しました。

対処

対処する必要はありません。

RCSD started

内容

シャットダウンデーモンが起動されました。

対処

対処する必要はありません。

Received the *string* command from the CLI PID *pid*

内容

シャットダウンデーモンは、コマンド要求を受け取りました。

対処

対処する必要はありません。

Restarting advertisement server thread after a reconfig

内容

シャットダウンデーモンのネットワーク通信用スレッドを生成します。

対処

対処する必要はありません。

RMS is NOT running on this system

内容

このノードにRMSがインストールされていない、または、RMSが正しく動作していない可能性があります。

対処

対処する必要はありません。

RMS is running on this system

内容

RMSは、このノードで動作しています。

対処

対処する必要はありません。

SA *Shutdown Agent* to init host *nodename* succeeded

内容

ノード <*nodename*> に対するシャットダウンエージェント <*Shutdown Agent*> の初期化処理に成功しました。

対処

対処する必要はありません。

SA *Shutdown Agent* to shutdown host *nodename* succeeded

内容

シャットダウンエージェント <*Shutdown Agent*> がノード <*nodename*> を停止するのに成功しました。

対処

対処する必要はありません。

SA *Shutdown Agent* to unInit host *nodename* succeeded

内容

ノード <*nodename*> に対するシャットダウンエージェント <*Shutdown Agent*> の終了時処理に成功しました。

対処

対処する必要はありません。

Sending a Dummy KRlist - No Kill req only weight

内容

ノード強制停止時に、自ノードから特定ノードの強制停止要求はなく、自ノードの情報だけを他ノードに送信しました。

対処

対処する必要はありません。

SF will be the Split Brain Manager on this system

内容

このシステム上で、シャットダウン機構がノード強制停止制御を行います。

対処

対処する必要はありません。

Shutdown request had come in. Reconfig is ignored
Exit request had come in. Reconfig is ignored

内容

ノード強制停止処理中、または、シャットダウンデーモンの終了処理中のため、シャットダウンデーモンの再構成要求 (sdtool -r) を無効としました。

対処

シャットダウンデーモンを再構成する必要がない場合は、対処する必要はありません。シャットダウンデーモンを再構成する必要がある場合、ノード強制停止処理中のときは処理の完了を待ち、シャットダウンデーモンの終了処理中のときは、しばらく待ってから、以下のコマンドを実行してシャットダウン機構(SF)を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

Skipping weight of *nodename*, it is DOWN

内容

ノード *nodename* は停止状態のため、生存優先度の計算対象から除外しました。

対処

対処する必要はありません。

Skipping weight of *nodename*, it has never joined the cluster

内容

ノード *nodename* はクラスタに組み込まれていないため、生存優先度の計算対象から除外しました。

対処

対処する必要はありません。

sleep *n* seconds before invoking *Shutdown Agent* to kill *nodename*

内容

ノード *nodename* に対して、シャットダウンエージェント *Shutdown Agent* を用いた強制停止を *n* 秒後に実行します。

対処

対処する必要はありません。

SMAWRrms is installed on this system

内容

このノードに、SMAWRrmsがインストールされています。

対処

対処する必要はありません。

SMAWRrms is NOT installed on this system

内容

このノードにRMSがインストールされていない可能性があります。

対処

対処する必要はありません。

Split Brain processing completed. Nothing to do on local node

内容

生存優先度の計算が完了しました。

対処

対処する必要はありません。

Split Brain processing is in progress, saving InvokeSA into the Buffer

内容

ノード強制停止処理中のため、シャットダウンエージェントへの要求を保留しました。

対処

対処する必要はありません。

Starting the Advertisement server on *host*(*IP address*), port:*number*

内容

シャットダウンデーモンのネットワーク通信のための初期処理を開始しました。

対処

対処する必要はありません。

Starting the RCSD Daemon

内容

シャットダウンデーモンの起動を開始しました。

対処

対処する必要はありません。

Sub-cluster master *nodename*, Sub-cluster weight *value* (*value*%) count *value*

内容

ノード群の統計情報です。

対処

対処する必要はありません。

Sub-cluster statistics:

内容

ノード群の統計情報を出力します。

対処

対処する必要はありません。

The RCSD on host *nodename* is running in CF mode

内容

ノード nodename に CF がインストールされていることを確認しました。

対処

対処する必要はありません。

The SF-CF has received *event*

内容

CF イベント監視スレッドが CF イベント <*event*> を受信しました。

対処

対処する必要はありません。

The SF-CF has successfully declared host *nodename event*

内容

ノード <*nodename*> に対する CF イベント <*event*> の発行に成功しました。

対処

対処する必要はありません。

Throwing away the KRlist

内容

すでに必要でなくなったノード強制停止要求のため、無効としました。

対処

対処する必要はありません。

Total Cluster weight is :*value*

内容

クラスタ全体のノードと userApplication の重みの総計は、*value* です。

対処

対処する必要はありません。

Total Cluster Weight: *value*, Percentage of Cluster weight missing: *value*%

内容

クラスタ全体の重み情報です。

対処

対処する必要はありません。

Total potential weight is *value* (*value* application + *value* machine)

内容

クラスタ全体のノード重みと userApplication の重みの情報です。

対処

対処する必要はありません。

Total user application weight for all user applications online on local host is *value*

内容

ローカルノードで現在 Online 状態である、すべての userApplication の、重みの合計値です。

対処

対処する必要はありません。

Total user application weight for the total cluster is *value*

内容

すべての構成済み userApplication の、重みの合計値です。

対処

対処する必要はありません。

unable to verify admIP: *IP address*

内容

認識しているクラスタノード以外からの送信データであるため、このデータは使用しません。

対処

対処する必要はありません。

Unknown command from sdtool, command *value*

内容

不正な sdtool コマンドラインが使用されています。

対処

sdtool の呼び出し時に正しい引数を選択してください。

Waiting for localCHost->CH_delay: *n*

内容

n 秒後にノードの強制停止を開始します。

対処

対処する必要はありません。

WARNING: No context allocation. MA *Monitoring Agent* for host *nodename* is neglected

内容

シャットダウンエージェント*Monitoring Agent*の初期化処理に失敗しました。

対処

本メッセージが出力された場合、シャットダウン機構は初期化処理が成功するまで2分間隔で初期化処理を再試行します。この処理により自動的に復旧した場合は、対処不要です。復旧せずにメッセージが出力され続ける場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

weight-factor set to default value: *value*

内容

生存優先度の計算に使用する情報です。

対処

対処する必要はありません。

---

weight-factor updated to : *value*

内容

生存優先度の計算に使用する情報です。

対処

対処する必要はありません。

5.2.2 対処が必要な情報(NOTICE/INFO)メッセージ

Advertisement to host:*nodename* on admIP:*string* failed

内容

ノード強制停止時に、ノード *nodename* への強制停止要求データ送信に失敗した可能性があります。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止されることがあります。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

All cluster hosts have NOT reported their weight

内容

ノード強制停止時に、すべてのクラスタノードからのデータ受信ができませんでした。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止されることがあります。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

A request to exit rcsd came in during a shutdown cycle, this request was ignored

内容

rcsd がノードを停止している最中に rcsd デーモン (sdtool -e) を停止しようとしました。

対処

停止タスクが終了してから再試行してください。

A shutdown is in progress. try again later

内容

rcsd デーモンが現在マシンを停止しています。
現在の要求は受け入れられません。

対処

マシンの停止が完了してから再試行してください。

Cannot open CIP configuration file : *file*

内容

CIP 構成定義ファイルのオープンに失敗したため、シャットダウンデーモンのネットワーク通信ができない状態です。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

CIP 構成定義ファイルが存在するか確認してください。

存在しない場合は、CIPの設定を行ってください。設定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"を参照してください。

存在する場合は、以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で復旧しない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

checkAdmInterface : can't open datagram socket. errno=*errno*

内容

シャットダウンデーモンのネットワーク通信ができない状態です。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で復旧しない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cleanUpServerThread: Failed to cancel advertisement server thread

内容

シャットダウンデーモンのネットワーク通信用スレッドの回収に失敗しました。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

以下のコマンドを実行し、その表示結果を確認してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -s
```

- 初期状態が InitWorked、および、テスト状態が TestWorked の場合

  対処は不要です。

- 初期状態が InitFailed、または、テスト状態が TestFailed の場合

  このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

- 上記以外の状態の場合

  しばらく待ってから、再度、上記コマンドを実行し、その表示結果を確認してください。

---

command timed out after 0.1 sec

内容

コマンド *command* がタイムアウトし、正しく実行できませんでした。

このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Could not execlp(RCSD). Errno = *errno*

内容

rcsd バイナリが存在しない可能性があります。

対処

シャットダウン機構を再インストールしてください。

ERROR:Admin LAN and CIP on the same interface

内容

CIP 構成定義ファイルとシャットダウンデーモンの構成定義ファイルに、同一のホスト名またはIP アドレスが指定されています。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

CIP 構成定義ファイル(cip.cf)とシャットダウンデーモンの構成定義ファイル(rcsd.cfg)に、同一のホスト名またはIP アドレスが指定されていないか確認してください。

同一のホスト名またはIP アドレスが指定されている場合は、CIPおよびシャットダウン機構を正しく設定してください。設定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"を参照してください。

同一のホスト名またはIP アドレスが指定されていない場合は、以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で復旧しない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Failed in plock(). errno *errno*

内容

シャットダウンデーモンプロセスの、メモリ内へのロックに失敗しました。システムの負荷が高い場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構(SF)を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

Failed in priocntl(*option*). errno *errno*. RCSD is not a real-time process

内容

シャットダウンデーモンプロセスの、実行優先度を上げられませんでした。システムの負荷が高い場合は、ノード強制停止時に、意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構(SF)を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

Failed to cancel thread of *string*

内容

スレッドのキャンセルに失敗しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

Failed to do fcntl(serversockfd, FD_CLOEXEC) errno *errno*

内容

システム内部の問題です。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

Failed to do *string*, reason (*value*)*string*

内容

内部機能の呼び出しに失敗しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

Failed to get *name* product information

内容

製品が正しくインストールされていない可能性があります。

対処

シャットダウン機構を再インストールしてください。

Failed to get nodeid for host *nodename*. reason (*value*)*string*

内容

ノードのクラスタノード id が取得できません。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Failed to open CLI response pipe for PID *pid*, errno *errno*

内容

rcsd デーモンが sdtool に応答するためにパイプを開くことができませんでした。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Failed to open lock file

内容

システム内部の問題です。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Failed to perform delay

内容

ノード強制停止処理中に異常が発生したため、ノード強制停止処理を中断しました。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Failed to read the received advertisement from the rcsd net pipe

内容

他ノードからの強制停止要求データの受信に失敗した可能性があります。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止されることがあります。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

host information for *string* not found
gethostbyname returned Invalid address for *string*

内容

システム内部に問題があるか、CIP 構成定義ファイルまたはシャットダウンデーモンの構成定義ファイル内に、誤ったホスト名またはIP アドレスが指定されて、シャットダウンデーモンのネットワーク通信ができない状態です。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

CIP構成定義ファイル内、またはシャットダウンデーモンの構成定義ファイル内に指定されている、ホスト名またはIPアドレスが正しいか確認してください。

ホスト名またはIP アドレスに誤りがある場合は、CIPおよびシャットダウン機構を正しく設定してください。設定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"を参照してください。

ホスト名およびIPアドレスが正しく設定されている場合は、以下のコマンドを実行して、シャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で復旧しない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

host *nodename* has no input in 2 seconds. Ignore it

内容

ノード強制停止時に、同期待ち合わせ時間内にノード *nodename* からのデータ送信がありませんでした。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Host *nodename*, MA *Monitoring Agent*, MAHostGetState() failed

内容

MA 監視スレッドにおいて MAHostGetState() を実行したところ、異常値で復帰しました。

対処

調査用の情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Illegal catlog open parameter

内容

ログファイルを開くことができませんでした。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Local host is not defined in rcsd.cfg

内容

メッセージが出力されたノードのCFノード名がrcsd.cfgに指定されていません。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

メッセージが出力されたクラスタノードのCFノード名が、rcsd.cfgに指定されているか確認してください。CF ノード名は cftool -n コマンドで確認してください。

CFノード名が誤っていた場合は、rcsd.cfgを修正してください。

以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で復旧しない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

makeXDRfromAdv: can't convert NULL ad to XDR

内容

シャットダウン機構で内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

mkfifo failed on RCSD response pipe *name*, errno *errno*

内容

rcsd 用のパイプを作成できませんでした。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

No/Invalid admin LAN specified. Advertisement server will not be started

内容

rcsd.cfg に指定されている IP アドレスまたはホスト名に誤りがあるため、シャットダウンデーモンのネットワーク通信用スレッドの生成に失敗しました。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

rcsd.cfg に指定した IP アドレスまたはホスト名を見直し、以下のコマンドを実行してシャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で復旧しない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

open failed on rcsdin pipe *name*, errno *errno*

内容

sdtool から rcsd への通信パイプを開くことができませんでした。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

open failed on rcsd net pipe *name*, errno *errno*

内容

他ノードからのデータ受信に失敗した可能性があります。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

open failed on RCSD response pipe *name*, errno *errno*

内容

rcsd 用のパイプを開くことができませんでした。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

PID *pid* exitted due to receiving signal number *number*

内容

シャットダウンエージェントが異常復帰しました。

対処

当メッセージ出力後の、シャットダウン機構のメッセージを確認して、対処を行ってください。

メッセージがない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

PID *pid* exitted with a non-zero value of *value*

内容

シャットダウンエージェントが異常復帰しました。

対処

当メッセージ出力後の、シャットダウン機構のメッセージを確認して、対処を行ってください。

メッセージがない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

PID *pid* was stopped with signal number *number*

内容

シャットダウンエージェントが異常復帰しました。

対処

当メッセージ出力後の、シャットダウン機構のメッセージを確認して、対処を行ってください。

メッセージがない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Pthread failed: pthread_XXXX : errcode *num string*

内容

ライブラリ関数 pthread_XXXX の実行に失敗しました。

対処

調査用の情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

WARNING : Pid *process id* is not able to be terminated. The SA *Shutdown Agent* is now disabled from host *nodename*

内容

ノード *nodename* に対するシャットダウンエージェント *Shutdown Agent* が使用できなくなりました。

対処

以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

popen failed for *command*.errno = *errno*

内容

コマンド *command* を正しく起動できませんでした。

このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

RCSD is exiting. Command is not allowed

内容

rcsd デーモンがシャットダウンされようとしています。
コマンドは受け入れられません。

対処

rcsd デーモンが起動してからコマンドを再試行してください。

RCSD returned an error for this command, error is *value*

内容

rcsd が sdtool からのコマンドの実行に失敗しました。

対処

このあとに関連するエラーメッセージがないかどうか確認してください。
関連メッセージがある場合は、それに基づいて対処を行ってください。
メッセージがない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

read failed, errno *errno*

内容

sdtool が rcsd デーモンからのデータの読込みに失敗しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

SA *Shutdown Agent* to shutdown host *nodename* failed

内容

シャットダウンエージェント *Shutdown Agent* が、ノード *nodename* の強制停止に失敗しました。このメッセージが、同じノード *nodename* に対して、すべてのシャットダウンエージェントで出力された場合は、意図しないノードが強制停止されている可能性があります。

対処

Cluster Admin で、クラスタノードおよびクラスタアプリケーションの状態を確認し、必要に応じて、クラスタノードの起動やクラスタアプリケーションの切替えを行ってください。

また、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

SA *string* does not exist

内容

指定されたシャットダウンエージェントが存在しません。

対処

rcsd.cfg に指定したシャットダウンエージェント名を確認してください。シャットダウンエージェント名については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"を参照してください。

以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

---

select failed, errno *errno*

内容

sdtool が rcsd から情報を取得できませんでした。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

Sending *type* to host *nodename* failed, ackId=*number*

内容

ノード強制停止時に、ノード *nodename* へのデータ送信に失敗した可能性があります。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止されることがあります。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

Shutdown Agent *Shutdown Agent* timeout for host <*nodename*> is less than 20 seconds

内容

rcsd.cfg に指定されているノード *nodename* の、シャットダウンエージェント *Shutdown Agent* の 'timeout' 秒が 20 秒未満です。

対処

rcsd.cfg に指定したノード *nodename* の、シャットダウンエージェント *Shutdown Agent* の 'timeout' 秒を確認してください。'timeout' の設定は、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"を参照してください。

修正した場合は、以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

The RCSD is not running

内容

rcsd デーモンが実行されていないため、コマンドの実行に失敗しました。

対処

rcsd デーモン (sdtool -b) を起動してからコマンドを再試行してください。rcsd デーモンが起動しているかどうかは、ps コマンドで確認できます。

The RCSD on host *nodename* is NOT running in CF mode

内容

ノード *nodename* に CF がインストールされていませんでした。

対処

システムに PRIMECLUSTER のパッケージが適切にインストールされていない可能性があります。インストール時にエラーが発生していないことを確認してください。

適切にインストールされている場合には、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取します。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

The SA *Shutdown Agent* to *action* host *nodename* has exceeded its configured timeout, pid *process id* will be terminated

内容

ノード *nodename* に対するアクション *action* の実行で、シャットダウンエージェント *Shutdown Agent* が rcsd.cfg に設定されている 'timeout' 秒内に復帰しませんでした。

対処

rcsd.cfg に設定されている 'timeout' 秒が正しいか確認してください。'timeout' の設定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照してください。

'timeout' 秒をチューニングした場合は、以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で対処できない場合、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

The SF-CF failed to declare host *nodename*(nodeid *number*) *string*, reason (*value*)*string*

内容

システム内部の問題です。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Unknown host *nodename*

内容

クラスタノード以外のノードの異常を検出しました。このメッセージが出力された場合は、クラスタ構成に異常がある可能性があります。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

unlink failed on RCSD response pipe *name*, errno *errno*

内容

古いパイプファイルを削除できません。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Usage: sdtool {-d[on | off] | -s | -S | -m | -M | -r | -b | -C | -l | -e | -k node-name}

内容

不正な引数/コマンドラインが使用されています。

対処

正しい引数を使用してください。

write failed on rcsdin pipe *name*, errno *errno*

内容

sdtool から rcsd にコマンドを渡すことができませんでした。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

write failed on rcsd net pipe *name*, errno *errno*

内容

他ノードからのデータ受信に失敗した可能性があります。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

5.2.3 致命的でないエラー(ERROR)メッセージ

Advertisement Client : can't open datagram socket. errno = *errno*

内容

シャットダウンデーモンのネットワーク通信用ソケットの生成に失敗しました。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

以下のコマンドを実行します。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -s
```

"The RCSD is not running" が表示された場合は、以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

以下のコマンドを実行し、その表示結果を確認してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -s
```

- 初期状態が InitWorked、および、テスト状態が TestWorked の場合

  対処は不要です。

- 初期状態が InitFailed、または、テスト状態が TestFailed の場合

  このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

- 上記以外の状態の場合

  しばらく待ってから、再度、上記コマンドを実行し、その表示結果を確認してください。

Advertisement Client : sendto error on socket errno *errno*

内容

シャットダウンデーモンが、ネットワーク通信によるデータ送信に失敗しました。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Calculation of sum of machine weights failed

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

checkAdmInterface : can't bind local address. errno=*errno*
Advertisement server: can't bind local address, errno *errno*

内容

シャットダウンデーモンのネットワーク通信ができない状態です。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

rcsd.cfg に指定した IP アドレスまたはホスト名(ホスト名は Solaris では /etc/inet/hosts ファイル、Linux では /etc/hosts ファイルに登録されている)が正しいか確認してください。誤りがある場合は、修正後、以下のコマンドを実行して、シャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で復旧しない場合は、このメッセージを記録して調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

<*command*> command failed. return_value=<*value*>.

内容

<*command*> が復帰値 <*value*> で異常終了しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Could not find <*file*>.

内容

<*file*> が存在しません。

対処

- /etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg の場合
  シャットダウン機構を設定してください。
- その他のファイルの場合
  <*file*> を作成してください。

Error in option specification. (option:*option*)

内容

オプション *option* の指定が正しくありません。

対処

オプションを正しく指定し、再度実行してください。

Failed to convert AdvData to XDR: *string*

内容

シャットダウンデーモンのネットワーク通信で、送信データの変換に失敗しました。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

以下のコマンドを実行します。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -s
```

"The RCSD is not running" が表示された場合は、以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

以下のコマンドを実行し、その表示結果を確認してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -s
```

- 初期状態が InitWorked、および、テスト状態が TestWorked の場合

  対処は不要です。

- 初期状態が InitFailed、または、テスト状態が TestFailed の場合

  このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

- 上記以外の状態の場合

  しばらく待ってから、再度、上記コマンドを実行し、その表示結果を確認してください。

Failed to convert XDR to advData: *string*

内容

シャットダウンデーモンのネットワーク通信で、受信データの変換に失敗しました。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

以下のコマンドを実行します。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -s
```

"The RCSD is not running" が表示された場合は、以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

以下のコマンドを実行し、その表示結果を確認してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -s
```

- 初期状態が InitWorked、および、テスト状態が TestWorked の場合

  対処は不要です。

- 初期状態が InitFailed、または、テスト状態が TestFailed の場合

  このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

- 上記以外の状態の場合

  しばらく待ってから、再度、上記コマンドを実行し、その表示結果を確認してください。

FATAL ERROR: Rcsd fails to continue. Exit now.

内容

エラーが発生し、シャットダウンデーモン (rcsd) を異常終了しました。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

当メッセージ出力前にシャットダウン機構のエラーメッセージが出力されてないか確認してください。エラーメッセージが出力されている場合は、その対処方法に従って対処を行ってください。

シャットダウン機構のエラーメッセージが出力されていない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

<*file*> is invalid.

内容

<*file*> に記載されている内容に誤りがあります。

対処

<*file*> の内容を確認し、正しい情報を記載してください。

Host list(hlist) Empty

内容

内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

No system administrator authority.

内容

システム管理者権限ではありません。

対処

システム管理者権限で実行してください。

Saving the configuration information of the logical domain failed.

内容

論理ドメインの構成情報の保存に失敗しました。

対処

マイグレーション対象となるゲストドメインの移行元の制御ドメイン、および移行先の制御ドメインにて、論理ドメインの構成情報を手動で保存してください。

---

sfsacfgupdate: ERROR: Could not find ipmitool command.

説明

ipmitoolコマンドが存在しません。

対処

ipmitoolコマンドをインストールしてください。

---

sfsacfgupdate: ERROR: ipmi service doesn't start.

説明

ipmiサービスが起動していません。

対処

ipmiサービスを起動してください。

---

sfsacfgupdate: ERROR: Reading the Shutdown Agent configuration failed.

説明

シャットダウンエージェントの構成定義ファイルの読み込みに失敗しました。

対処

シャットダウンエージェントの構成定義ファイルの内容を確認し、正しい情報が記載されているか確認してください。

---

sfsacfgupdate: ERROR: Failed to copy the backup of <*file*> on node <*node*>.

説明

<*node*>において、<*file*>のバックアップのコピーに失敗しました。

対処

<*node*>が通信可能な状態であることを確認してください。<*node*>の状態を復旧させた後、本コマンドを-r オプション付きで実行し、シャットダウンエージェントの構成情報を復旧してください。

---

sfsacfgupdate: ERROR: <*file*> generation failed.

説明

ファイルの生成に失敗しました。

対処

メッセージを控え、当社技術員(SE)までご連絡ください。

---

sfsacfgupdate: ERROR: Failed to distribute <*file*> to node <*node*>.

説明

*<node>*への*<file>*の配布に失敗しました。

対処

*<node>*が通信可能な状態であることを確認してください。*<node>*の状態を復旧させた後、本コマンドを-r オプション付きで実行し、シャットダウンエージェントの構成情報を復旧してください。

---

sfsacfgupdate: ERROR: Failed to change the access permission of *<file>* on node *<node>*.

説明

*<node>*において*<file>*のmode変更に失敗しました。

対処

*<node>*が通信可能な状態であることを確認してください。*<node>*の状態を復旧させた後、本コマンドを-r オプション付きで実行し、シャットダウンエージェントの構成情報を復旧してください。

---

sfsacfgupdate: ERROR: Failed to change the group of *<file>* on node *<node>*.

説明

*<node>*において*<file>*のgroup変更に失敗しました。

対処

*<node>*が通信可能な状態であることを確認してください。*<node>*の状態を復旧させた後、本コマンドを-r オプション付きで実行し、シャットダウンエージェントの構成情報を復旧してください。

---

sfsacfgupdate: ERROR: Failed to change the owner of *<file>* on node *<node>*.

説明

*<node>*において*<file>*のowner変更に失敗しました。

対処

*<node>*が通信可能な状態であることを確認してください。*<node>*の状態を復旧させた後、本コマンドを-r オプション付きで実行し、シャットダウンエージェントの構成情報を復旧してください。

The domain type is not a control domain.

内容

制御ドメインではありません。

対処

コマンドを実行している環境を確認し、制御ドメインで再度実行してください。

The guest domain information of the specified node name is not registered. (nodename:*nodename*)

内容

指定されたノード *nodename* のゲストドメイン情報が登録されていません。

対処

clovmmigratesetup -l コマンドを実行し、登録されているゲストドメイン情報を確認してください。

The Migration function cannot be used in this environment. (nodename:*nodename*)

内容

マイグレーション機能が使用できる環境ではありません。

対処

以下の点を確認してください。

- 指定したゲストドメイン名が正しいか。
- 指定したゲストドメインに PRIMECLUSTER がインストールされているか。
- 指定したゲストドメインに T007881SP-02以降(Solaris10)/T007882SP-02以降(Solaris11) が適用されているか。

上記項目が原因だと判明した場合、対処を行った上で、再度実行してください。

本対処法で復旧しない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

The SA <*Shutdown Agent*> is not registered.

内容

<*Shutdown Agent*> が登録されていません。

対処

<*Shutdown Agent*> を登録してください。

5.2.4 致命的エラー(CRITICAL)メッセージ

Advertisement server: Data received will be discarded due to receive error on socket. errno = *errno*

内容

シャットダウンデーモンが、ネットワーク通信によるデータ受信に失敗しました。このメッセージが出力された場合、ノード強制停止時に、意図しないノードが強制停止される可能性があります。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Agent *Shutdown Agent* uninitialization for host *nodename* failed

内容

シャットダウンエージェントが正常にアンインストールされていません。

対処

シャットダウンエージェントのログを確認し、当社技術員(SE)に連絡してください。

---

cannot determine the port on which the advertisement server should be started

内容

シャットダウンデーモンで使用するネットワーク通信用ポート番号の取得に失敗しました。

対処

以下のコマンドを実行します。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -s
```

"The RCSD is not running" が表示された場合は、以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

以下のコマンドを実行し、その表示結果を確認してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -s
```

- 初期状態が InitWorked、および、テスト状態が TestWorked の場合

  対処は不要です。

- 初期状態が InitFailed、または、テスト状態が TestFailed の場合

  Solaris では /etc/inet/services ファイル、Linux では /etc/services ファイルに、以下の行が設定されているか確認してください。

  ```
  sfadv           2316/udp                        # SMAWsf package
  ```

  設定されていない場合は、この行を上記ファイルに設定してください。ファイルの修正後、以下を行ってください。

  - Solaris の場合

    以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を再起動してください。

    ```
    # /opt/SMAW/bin/sdtool -e
    ```

    ```
    # /opt/SMAW/bin/sdtool -b
    ```

  - Linux の場合

    ファイルを修正したクラスタノードを再起動してください。

- 上記以外の状態の場合

  しばらく待ってから、再度コマンドを実行し、その表示結果を確認してください。

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Could not correctly read the rcsd.cfg file.

内容

rcsd.cfg ファイルが存在しないか、rcsd.cfg の構文が誤っています。

対処

rcsd.cfg ファイルを作成するか、構文を修正してください。

/etc/sysconfig/libvirt-guests is not configured on Hypervisor of host *nodename*. rcsd died abnormally.

内容

ノード <*nodename*> のハイパーバイザー上の /etc/sysconfig/libvirt-guests が設定されていません。シャットダウンデーモン (rcsd) を異常終了しました。

対処

以下の事象に応じて対処を行ってください。

事象1

ハイパーバイザーの停止または再起動により本メッセージが表示され、ノードの強制停止に失敗した場合

1. 強制停止を実施したゲストOSがLEFTCLUSTER状態になっていることを確認してください。この時点では、LEFTCLUSTER状態は回復しないでください。
2. 起動したゲストOSで、LEFTCLUSTER状態になるのを待ち合わせてください。
3. 全ノードでLEFTCLUSTER状態になるのを確認した後、すべてのハイパーバイザーで /etc/sysconfig/libvirt-guests が正しく設定されているかを確認してください。/etc/sysconfig/libvirt-guests の設定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"を参照してください。
4. クラスタアプリケーションを Online にしないゲストOS をすべて停止してください。
5. ゲストOS がすべて停止したことを確認した後、クラスタアプリケーションを Online にするゲストOSで以下のコマンドを実行し、LEFTCLUSTER 状態を回復してください。

   ```
   # cftool -k
   ```

6. クラスタアプリケーションをOnlineにするゲストOSで以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

事象2

事象1以外の場合

1. ノード<*nodename*>のハイパーバイザー上の/etc/sysconfig/libvirt-guestsが正しく設定されているか確認してください。/etc/sysconfig/libvirt-guestsの設定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"を参照してください。

2. 以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

   この方法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

Failed to create a signal handler for SIGCHLD
Failed to create a signal handler for SIGUSR1

内容

システム内部の問題です。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

Failed to unlink/create/open CLI Pipe

内容

システム内部の問題です。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

Failed to open CFSF device, reason (*value*)*string*

内容

CFSF デバイスが開けません。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

Fail to post LEFTCLUSTER event:*string*

内容

rciがノードの障害を検出したときにLEFTCLUSTERイベントの送信に失敗しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

FATAL: rcsd died too frequently.It will not be started by rcsd_monitor.

内容

シャットダウンデーモン(rcsd)の異常終了後、再起動に失敗しました。

対処

当メッセージが出力される前に、シャットダウン機構のエラーメッセージが出力されてないか確認してください。エラーメッセージが出力されている場合は、その対処方法に従って対処を行ってください。

シャットダウン機構のエラーメッセージが出力されていない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

fopen of /etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg failed, errno *errno*

内容

シャットダウン機構の設定が実施されておらず、シャットダウン機構の起動に失敗しています。

対処

シャットダウン機構の設定を見直した後、シャットダウンデーモンを起動し直してください。

Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64) xenカーネル環境の場合は対処する必要はありません。

Forced to re open rcsd net pipe due to an invalid pipe *name*

内容

シャットダウンデーモンのネットワーク通信用のパイプに異常があったため、再作成しました。

対処

シャットダウン機構が、異常のあったネットワーク通信用のパイプを再作成しています。システムで動く他のプロセスへの影響はないので、対処不要です。

Forced to re-open rcsd net pipe due to a missing pipe *name*

内容

シャットダウンデーモンのネットワーク通信用のパイプに異常があったため、再作成しました。

対処

シャットダウン機構が、異常のあったネットワーク通信用のパイプを再作成しています。システムで動く他のプロセスへの影響はないので、対処不要です。

Forced to re-open rcsd net pipe due to failed stat pipe *name* errno: *errno*

内容

シャットダウンデーモンのネットワーク通信用のパイプに異常があったため、再作成しました。

対処

シャットダウン機構が、異常のあったネットワーク通信用のパイプを再作成しています。システムで動く他のプロセスへの影響はないので、対処不要です。

function of *file* failed, errno *errno*

内容

システム内部の問題です。

対処

このあとに関連するエラーメッセージがないかどうか確認してください。
関連メッセージがある場合は、それに基づいて対処を行ってください。

メッセージがない場合は、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

h_cfsf_get_leftcluster() failed. reason: (*value*)*string*

内容

cfsf_get_leftcluster の呼び出しに失敗しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

HostList empty

内容

rcsd.cfg の設定に誤りがあるか、または、rcsd.cfg の読み込みに失敗しました。

対処

以下のコマンドを実行します。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -s
```

"The RCSD is not running" が表示された場合は、以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

以下のコマンドを実行し、その表示結果を確認してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -s
```

- 初期状態が InitWorked、および、テスト状態が TestWorked の場合

  対処は不要です。

- 初期状態が InitFailed、または、テスト状態が TestFailed の場合

  rcsd.cfg の設定を確認し、設定に誤りがある場合は修正してください。修正後、以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を再起動してください。

  ```
  # /opt/SMAW/bin/sdtool -e
  ```

  ```
  # /opt/SMAW/bin/sdtool -b
  ```

- 上記以外の状態の場合

  しばらく待ってから、再度コマンドを実行し、その表示結果を確認してください。

本対処法で復旧しない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください

Host <*nodename* > ICF communication failure detected

内容

ノード <*nodename* > のハートビート停止がシャットダウン機構に通知されました。

対処

対処する必要はありません。

Host nodename MA_exec: string failed, errno *errno*

内容

ノード <*nodename*> 用の MA 実行スレッドの実行中にエラーが発生しました。

対処

調査用の情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Malloc failed during *function*

内容

メモリ不足が原因です。

対処

仮想メモリサイズ (ulimit -v) を増加するか、システムメモリを増加してください。問題が解決しない場合は、当社技術員(SE)に連絡してください。

Node id *number* ICF communication failure detected

内容

CF 層がハートビート停止を検出しました。

対処

rcsd が対処します。

rcsd died abnormally. Restart it.

内容

シャットダウンデーモン (rcsd) が異常終了後、再起動しました。

対処

シャットダウンデーモンは自動復旧するため対処は不要です。

SA SA_blade to test host *nodename* failed
SA SA_ipmi to test host *nodename* failed
SA SA_lkcd to test host *nodename* failed

内容

メッセージが表示されたノードから、ノード *nodename* の BMC(iRMC)、またはブレードサーバへの接続確認に失敗しました。

対処

以下の点を確認してください。

<共通>

- システムまたはネットワークに負荷がかかっていないか。

  10分後に本メッセージが表示されていない場合、復旧していることがあります。以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構が正常に動作していることを確認してください。

  ```
  # /opt/SMAW/bin/sdtool -s
  ```

<出力メッセージが **SA_ipmi** の場合>

- /etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA_ipmi.cfg に指定した BMC の IP アドレス、およびBMC へログインするためのユーザ名およびパスワードなどが正しいか。

  /etc/opt/SMAW/SMAWsf/ SA_ipmi.cfg の指定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照してください。

- BMC 側の設定が正しいか。

  BMC の設定方法および確認方法については、各機種の “ユーザーズガイド”または“ServerView ユーザーズガイド” を参照してください。

- BMC の電源が投入されているか。
- HUB と LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- BMC 側コネクタ、または HUB 側コネクタから LAN ケーブルが抜けていないか。
- BMC の IP アドレスが、クラスタノードと同一セグメントになっているか。

- BMC 側でファームの再起動やファームアップなどの操作を行っていなかったか。

<出力メッセージが **SA_blade** の場合>

- /etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA_blade.cfg に指定した マネジメントブレードの IP アドレスやサーバブレードのスロット番号などが正しいか。

  /etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA_ blade.cfg の指定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"を参照してください。

- ブレードサーバ側の設定が正しいか。

  シャットダウン機構固有の設定留意点については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"を参照してください。

  ブレードサーバの設定方法および確認方法については、"ServerViewユーザーズガイド"、装置添付の各種ハードウェアガイドを参照してください。

- HUB と LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- マネジメントブレード側コネクタ、または HUB 側コネクタから LAN ケーブルが抜けていないか。
- マネジメントブレード側でファームの再起動やファームアップなどの操作や、マスターモードのマネジメントブレードが切替わったなどの事象が発生していないか。

<出力メッセージが **SA_lkcd** の場合>

- /etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg の SA_lkcd の timeout 値の指定、および、/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA_lkcd.tout の指定が正しいか。

  これらのファイルの指定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照してください。

  指定に誤りがある場合は修正してください。また、すべてのノードで確認および修正を行ってください。

- シャットダウンエージェント設定時に、以下のコマンドを実行しているか。

  ```
  # /etc/opt/FJSVcllkcd/bin/panicinfo_setup
  ```

  Diskdump シャットダウンエージェント、または、Kdump シャットダウンエージェントを使用する場合、IPMIシャットダウンエージェント、または、Bladeシャットダウンエージェントの設定後に上記コマンドを実行する必要があります。IPMIシャットダウンエージェント、または、Bladeシャットダウンエージェントの設定を変更した場合も上記コマンドを、再度、実行する必要があります。

- Diskdump シャットダウンエージェントを使用している場合は、Diskdump の設定が正しいか。Kdump シャットダウンエージェントを使用している場合は、kdump の設定が正しいか。

  Diskdump または kdump の設定方法および確認方法は、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照してください。

- IPMI シャットダウンエージェントを使用している場合は、前述の ＜出力メッセージが SA_ipmi の場合＞ の確認を行ってください。Blade シャットダウンエージェントを使用している場合は、前述の ＜出力メッセージが SA_blade の場合＞ の確認を行ってください。

上記項目が原因だと判明した場合、対処を行った上で、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

上記項目を確認しても接続に失敗する場合は、ネットワーク障害や BMC(iRMC)、ブレードサーバ、あるいは HUB などのハードウェア故障が考えられるので、当社技術員(CE)に連絡してください。

本対処法で復旧しない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

SA SA_icmp to test host *nodename* failed

内容

メッセージが表示されたノードから、ノード *nodename* への接続確認に失敗しました。

対処

以下の点を確認してください。

- 管理 OS側でパニックやハングアップなどの事象が発生していなかったか。
- ゲストOS、管理 OS、またはネットワークに負荷がかかっていないか。

  10分後に本メッセージが表示されていない場合、復旧していることがあります。以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構が正常に動作していることを確認してください。

  ```
  # /opt/SMAW/bin/sdtool -s
  ```

- ノードnodename が停止していないか。
- /etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA_icmp.cfg に指定した IP アドレス、およびネットワークインタフェースなどが正しいか。

  /etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA_icmp.cfg の指定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照してください。

- ゲスト OS に割り当てた仮想 IP アドレス、およびがネットワークインタフェースが正しいか。
- HUB と LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- ケーブルが正しく接続されているか。

上記項目が原因だと判明した場合、対処を行った上で、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

上記項目を確認しても接続に失敗する場合は、ネットワーク障害や HUB などのハードウェア故障が考えられるので、当社技術員(CE)に連絡してください。

本対処法で復旧しない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

SA SA_ilomp.so to test host *nodename* failed
SA SA_ilomr.so to test host *nodename* failed
SA SA_rccu.so to test host *nodename* failed
SA SA_xscfp.so to test host *nodename* failed
SA SA_xscfr.so to test host *nodename* failed

内容

メッセージが表示されたノードから、ノード *nodename* の XSCF、RCCU、または、ILOM への接続確認に失敗しました。

対処

以下の点を確認してください。

<共通>

- システムまたはネットワークに負荷がかかっていないか。
  - Solaris PRIMECLUSTER 4.2A00以前の場合

    以下のコマンドを実行し、コンソール非同期監視機能およびシャットダウン機構を再起動してください。

    ```
    # /opt/SMAW/bin/sdtool -e
    # /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccumonctl stop
    # /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccumonctl start
    # /opt/SMAW/bin/sdtool -b
    ```

  - Solaris PRIMECLUSTER 4.3A10以降の場合

    10分後に本メッセージが表示されていない場合、復旧していることがあります。以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構が正常に動作していることを確認してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -s
```

<コンソールに**RCCU**を使用している場合>

- RCCU の IP アドレスやノード名などのコンソール情報が正しいか。

  clrccusetup(1M) を使用して設定されているコンソール情報を確認してください。コンソール情報に誤りがある場合は、clrccusetup(1M) を使用して、コンソール情報を再登録してください。

- RCCU 側の設定が正しいか。

  RCCU の設定方法、および確認方法は、RCCU に添付の取扱説明書を参照してください。

- RCCU の電源が投入されているか。
- HUB と LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- RCCU 側コネクタ、またはHUB 側コネクタから LAN ケーブルが抜けていないか。
- RCCU の IP アドレスが、管理 LAN と同一セグメントになっているか。

<コンソールに**XSCF**を使用している場合>

- XSCF の IP アドレスやノード名、接続方法(telnet、SSH)などのコンソール情報が正しいか。

  clrccusetup(1M) を使用して、設定されているコンソール情報を確認してください。コンソール情報に誤りがある場合は、clrccusetup(1M) を使用して、コンソール情報を再登録してください。

- XSCF 側の設定が正しいか。

  シャットダウン機構固有の設定留意点は、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"を参照してください。
  XSCF の設定方法、および確認方法は、"XSCF (eXtended System Control Facility) ユーザーズガイド" を参照してください。

- XSCF への接続方法に SSH を使用している場合
  - シャットダウン機構用のログインユーザアカウントを使用してクラスタノードから XSCF へ SSH 接続し、SSH 初回接続時のユーザ問い合わせ(RSA 鍵の生成など)が完了しているか。
  - クラスタノードから XSCF へ SSH 接続する際のユーザ認証方法としてパスワード認証を使用しているか。

    公開鍵認証などパスワード認証を自動化する認証方法を XSCF で使用している場合は、無効化してください。XSCF の設定方法、および確認方法については、"XSCF (eXtended System Control Facility) ユーザーズガイド" を参照してください。

- HUB および LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- XSCF の XSCF-LAN ポートのコネクタ、またはHUB 側コネクタから LAN ケーブルが抜けていないか。
- XSCF の telnet ポートのうち、XSCF シェルポートにクラスタ外から接続されていないか。

  シリアルポート(tty-a)経由で XSCF シェルに接続して確認してください。接続方法および確認方法は、"XSCF (eXtendedSystem Control Facility) ユーザーズガイド" を参照してください。

- XSCF の IP アドレスが、管理 LAN と同一セグメントになっているか。
- XSCF側で、ファームの再起動やファームアップなどの操作や、XSCFのフェイルオーバなどの事象が発生していなかったか。

<コンソールに**ILOM**を使用している場合>

- ILOM の IP アドレスやノード名などのコンソール情報が正しいか。

  clrccusetup(1M) を使用して設定されているコンソール情報を確認してください。コンソール情報に誤りがある場合は、clrccusetup(1M) を使用して、コンソール情報を再登録してください。

- ILOM 側の設定が正しいか。

  シャットダウン機構固有の設定留意点については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照してください。
  ILOM の設定方法、および確認方法は、以下を参照してください。

  - ILOM 2.x の場合

    "Integrated Lights Out Manager ユーザーズガイド"

― ILOM 3.0 の場合

"Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド"

"Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド"

"Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド"

"Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 入門ガイド"

- シャットダウン機構用のログインユーザアカウントを使用して、クラスタノードから ILOM へ SSH 接続し、SSH 初回接続時のユーザ問い合わせ(RSA 鍵の生成など)が完了しているか。
- ILOM 3.0 の場合、クラスタノードから ILOM へ SSH 接続する際のユーザ認証方法として、パスワード認証を使用しているか。

  公開鍵認証・ホストキーベース認証などパスワード認証を自動化する認証方法を ILOM で使用している場合は、無効化してください。ILOM の設定方法および確認方法については、前述の ILOM 3.0 の各種ガイドを参照してください。
- HUB および LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- ILOM のネットワーク管理(NET MGT)ポートのコネクタ、またはHUB 側コネクタからLAN ケーブルが抜けていないか。
- ILOM側で、ファームの再起動やファームアップなどの操作を行っていなかったか。

上記項目が原因だと判明した場合、対処を行った上で、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、コンソール非同期監視機能およびシャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e

# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccumonctl stop

# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccumonctl start

# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

上記項目を確認しても接続に失敗する場合は、ネットワーク障害や RCCU、XSCF、ILOM、あるいは HUB などのハードウェア故障が考えられるので、当社技術員(CE)に連絡してください。

本対処法で復旧しない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

SA SA_libvirtgp to test host *nodename* failed
SA SA_libvirtgr to test host *nodename* failed

内容

メッセージが表示されたノードから、ノードnodename のハイパーバイザーへの接続確認に失敗しました。

対処

以下の点を確認してください。

- ゲストOS、ハイパーバイザー、またはネットワークに負荷がかかっていないか。

  10分後に本メッセージが表示されていない場合、復旧していることがあります。以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構が正常に動作していることを確認してください。

  ```
  # /opt/SMAW/bin/sdtool -s
  ```
- 以下の指定が正しいか。

  ― /etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA_libvirtgp.cfg

  ― /etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA_libvirtgr.cfg

  シャットダウン機構用のユーザのパスワードについては、/opt/SMAW/bin/sfcipher コマンドで暗号化したものを指定する必要があります。

  これらのファイルの指定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照してください。
- ハイパーバイザーへの接続にパスフレーズが設定されていないか。

- ゲスト OS に割り当てた仮想 IP アドレスが正しいか。
- ハイパーバイザー側、またはゲスト OS 側の設定が正しいか。

  ハイパーバイザー側、またはゲスト OS 側の設定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"を参照してください。
- シャットダウン機構用のログインユーザアカウントにsudoコマンドの設定が行われているか。

  sudoコマンドの設定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"を参照してください。
- シャットダウン機構用のログインユーザアカウントを使用して、ゲスト OS(ノード)からハイパーバイザーへ SSH 接続し、SSH 初回接続時のユーザ問い合わせ(RSA 鍵の生成など)が完了しているか。
- ゲスト OS(ノード)からハイパーバイザーへ SSH 接続する際のユーザ認証方法として、パスワード認証を使用しているか。

  公開鍵認証などパスワード認証を自動化する認証方法をハイパーバイザーで使用している場合は、無効化してください。
- HUB と LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- ケーブルが正しく接続されているか。
- ハイパーバイザー側でパニックやハングアップなどの事象が発生していなかったか。

上記項目が原因だと判明した場合、対処を行った上で、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

上記項目を確認しても接続に失敗する場合は、ネットワーク障害や HUB などのハードウェア故障が考えられるので、当社技術員(CE)に連絡してください。

本対処法で復旧しない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。

調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

SA SA_mmbp.so to test host *nodename* failed
SA SA_mmbr.so to test host *nodename* failed

内容

メッセージが表示されたノードから、ノード *nodename* の MMB への接続確認に失敗しました。

対処

本メッセージが OS 起動直後にのみ出力され、メッセージ出力の 10 分後に、下記 3083 のメッセージが出力されている場合は、snmptrapd デーモンが起動中のため表示されるもので、対処不要です。

3083: Monitoring another node has been started.

上記に該当しない場合は、以下の設定を確認してください。

- MMB の IP アドレス、または、MMB シャットダウン機構のシャットダウンデーモンに設定した、自ノードにおける管理 LAN の IP アドレスに、正しい IP アドレスが指定されているか。
- MMB シャットダウン機構のMMB情報に登録されている、RMCP で MMB を制御するためのユーザのユーザ名・パスワードが正しいか。
- MMB シャットダウン機構に設定した、RMCP で MMB を制御するためのユーザの[Privilege]が「Admin」になっているか。
- MMB シャットダウン機構に設定した、RMCP で MMB を制御するためのユーザの[Status]が「Enabled」になっているか。

MMB シャットダウン機構に設定した、RMCP で MMB を制御するためのユーザの設定を確認する方法については、本体装置添付のマニュアルを参照してください。

MMB の IP アドレスが変更されている場合や、設定に誤りがあり、MMB シャットダウン機構の MMB 情報の変更が必要な場合は、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" の運用構成変更の記事に従って対処してください。このとき、MMB の IP アドレスが変更されている場合は、その操作手順内の MMB の IP アドレス変更操作は不要です。

他の設定に誤りがある場合は修正し、すべてのノードで以下のコマンドを実行して、シャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

設定に誤りがない場合は、以下を確認してください。

- snmptrapd デーモンが起動しているか(ps(1) コマンド等により snmptrapd のプロセスの存在を確認)。
- HUB と LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- MMB ポートのコネクタ、または HUB 側コネクタから LAN ケーブルが抜けていないか。
- MMB 側でファームの再起動やファームアップなどの操作、Active MMB の切替わりなどの事象が発生していないか。
- MMB が故障していないか。
- ノードやネットワークに負荷がかかっていないか。

上記が原因と判明した場合、対処を行った後、MMB 非同期監視は自動復旧します。

自動復旧には最大で 10 分かかります。

上記項目を確認しても接続に失敗する場合は、ネットワーク障害や、MMB または HUB などのハードウェア故障が考えられるので、当社技術員(CE)に連絡してください。

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。

調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

SA SA_pprcip.so to test host *nodename* failed
SA SA_pprcir.so to test host *nodename* failed

内容

メッセージが表示されたノードから、ノード *nodename* の RCI への接続確認に失敗しました。

対処

以下の点を確認してください。

- システムに負荷がかかっていないか。
  - Solaris PRIMECLUSTER 4.2A00以前の場合

    以下のコマンドを実行し、コンソール非同期監視機能およびシャットダウン機構を再起動してください。

    ```
    # /opt/SMAW/bin/sdtool -e
    # /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrcimonctl stop
    # /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrcimonctl start
    # /opt/SMAW/bin/sdtool -b
    ```

  - Solaris PRIMECLUSTER 4.3A10以降の場合

    10分後に本メッセージが表示されていない場合、復旧していることがあります。以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構が正常に動作していることを確認してください。

    ```
    # /opt/SMAW/bin/sdtool -s
    ```

- RCI が正しく設定されているか。RCI アドレスにおいて以下の異常はないか。
  - RCI アドレスは設定されているか。
  - RCI アドレスが重複していないか。
  - RCI 非同期監視が動作している状態で他ノードの RCI アドレスを変更してないか。
- ケーブルが正しく接続されているか。
- SCF/RCI 経由での監視タイムアウト時間が、/etc/system ファイルに正しく設定されているか。監視タイムアウト時間の設定方法については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"を参照してください。
- RCI 装置側で、ファームの再起動やファームアップなどの操作を行っていなかったか。

上記項目が原因だと判明した場合、対処を行った上で、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、RCI 非同期監視機能およびシャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrcimonctl stop
```

```
# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clrcimonctl start
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

上記項目を確認しても接続に失敗する場合は、RCI ケーブル、システム監視機構(以降、System Control Facility: SCF と略す)などのハードウェア故障と考えられます。このメッセージを記録して、SCF ダンプおよび調査情報を採取し、当社技術員(SE, CE)に連絡してください。SCF ダンプおよび調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

SA SA_sunF to test host *nodename* failed

内容

メッセージが表示されたノードから、ノード *nodename* の ALOM への接続確認に失敗しました。

対処

以下の点を確認してください。

- システムまたはネットワークに負荷がかかっていないか。

  10分後に本メッセージが表示されていない場合、復旧していることがあります。以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構が正常に動作していることを確認してください。

  ```
  # /opt/SMAW/bin/sdtool -s
  ```

- /etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA_sunF.cfg に指定した ALOM の IP アドレスや ALOM へログインするためのユーザ名およびパスワードなどが正しいか。

  /etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA_sunF.cfg の指定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照してください。

- ALOM 側の設定が正しいか。

  シャットダウン機構固有の設定留意点については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照してください。
  ALOM の設定方法、確認方法については、"Advanced Lights Out Management (ALOM) CMT ガイド" を参照してください。

- HUB と LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。

- ALOM のネットワーク管理(NET MGT)ポートのコネクタ、または HUB 側コネクタからLAN ケーブルが抜けていないか。

- ALOM 側でファームの再起動やファームアップなどの操作を行っていなかったか。

上記項目が原因だと判明した場合、対処を行った上で、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

上記項目を確認しても接続に失敗する場合は、ネットワーク障害や ALOM、あるいは HUB などのハードウェア故障が考えられるので、当社技術員(CE)に連絡してください。

本対処法で復旧しない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

SA SA_vmchkhost to test host *nodename* failed
SA SA_vmgp to test host *nodename* failed
SA SA_vmSPgp to test host *nodename* failed
SA SA_vmSPgr to test host *nodename* failed

内容

メッセージが表示されたノードから、ノード *nodename* の 管理 OS への接続確認に失敗しました。

対処

以下の点を確認してください。

- 管理 OS 側でパニックやハングアップなどの事象が発生していなかったか。
- ゲストOS、管理 OS、またはネットワークに負荷がかかっていないか。

  10分後に本メッセージが表示されていない場合、復旧していることがあります。以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構が正常に動作していることを確認してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -s
```

- 出力メッセージが SA_vmchkhost 、SA_vmSPgp、またはSA_vmSPgr の場合、以下の指定が正しいか。

  － /etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA_vmchkhost.cfg

  － /etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA_vmSPgp.cfg

  － /etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA_vmSPgr.cfg

  管理 OS のアカウント FJSVvmSP のログインパスワードについては、/opt/SMAW/bin/sfcipher コマンドで暗号化したものを指定する必要があります。
  これらのファイルの指定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照してください。

- 出力メッセージが SA_vmgp の場合、管理 OS の IP アドレス、ユーザ名、またはノード名など、管理 OS 情報が正しいか。

  clvmgsetup(1M) を使用して、設定されている管理 OS 情報を確認してください。管理 OS 情報に誤りがある場合は、clvmgsetup(1M) を使用して、管理 OS 情報を修正してください。

- 管理 OS への接続にパスフレーズが設定されていないか。
- ゲスト OS に割り当てた仮想 IP アドレスが正しいか。
- 管理 OS 側、またはゲスト OS 側 の設定が正しいか。

  管理 OS 側、またはゲスト OS 側の設定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"を参照してください。

- シャットダウン機構用のログインユーザアカウントを使用して、ゲスト OS（ノード）から管理 OS へ SSH 接続し、SSH 初回接続時のユーザ問い合わせ（RSA 鍵の生成など）が完了しているか。
- ゲスト OS（ノード）から管理 OS へ SSH 接続する際のユーザ認証方法として、パスワード認証を使用しているか。公開鍵認証などパスワード認証を自動化する認証方法を管理 OS で使用している場合は、無効化してください。
- HUB と LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- PRIMEQUEST 側コネクタから LAN ケーブルが抜けていないか。

上記項目が原因だと判明した場合、対処を行った上で、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

上記項目を確認しても接続に失敗する場合は、ネットワーク障害や HUB などのハードウェア故障が考えられるので、当社技術員（CE）に連絡してください。

本対処法で復旧しない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

SA SA_xscfsnmpg0p.so to test host *nodename* failed
SA SA_xscfsnmpg1p.so to test host *nodename* failed
SA SA_xscfsnmpg0r.so to test host *nodename* failed

SA SA_xscfsnmpg1r.so to test host *nodename* failed
SA SA_xscfsnmp0r.so to test host *nodename* failed
SA SA_xscfsnmp1r.so to test host *nodename* failed

内容

メッセージが表示されたノードから、ノード *nodename* の XSCF への接続確認に失敗しました。

対処

以下の点を確認してください。

- マイグレーション後のクラスタへの操作が行われているか。
- コールドマイグレーションで停止していたゲストドメインが起動されているか。

上記項目が原因だと判明した場合、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"を参照してマイグレーション後の操作を行ってください。

- 論理ドメインの構成情報を保存したか。
- XSCF側で論理ドメインの状態が確認できるか。

上記項目が原因だと判明した場合、ldm add-spconfigコマンドを使用して論理ドメインの構成情報を保存してください。

- システムまたはネットワークに負荷がかかっていないか。
- XSCF の IP アドレスやノード名、接続方法(telnet、SSH)などのコンソール情報が正しいか。

  clsnmpsetup(1M)を使用して、設定されているSNMP非同期監視情報を確認してください。SNMP非同期監視情報に誤りがある場合は、clsnmpsetup(1M)を使用して、SNMP非同期監視情報を再登録してください。

- XSCF 側の設定が正しいか。

  シャットダウン機構固有の設定留意点は、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"を参照してください。

  XSCF の設定方法、および確認方法は、"SPARC M10 システム システム運用・管理ガイド"を参照してください。

- XSCF への接続方法に SSH を使用している場合

  - シャットダウン機構用のログインユーザアカウントを使用してクラスタノードから XSCF へ SSH 接続し、SSH 初回接続時のユーザ問い合わせ(RSA 鍵の生成など)が完了しているか。
  - クラスタノードから XSCF へ SSH 接続する際のユーザ認証方法としてパスワード認証を使用しているか。

    公開鍵認証などパスワード認証を自動化する認証方法を XSCF で使用している場合は、無効化してください。XSCF の設定方法、および確認方法については、"SPARC M10 システム システム運用・管理ガイド"を参照してください。

- HUB および LAN ケーブルが接続されているポートの正常ランプが点灯しているか。
- XSCF の XSCF-LAN ポートのコネクタ、またはHUB 側コネクタから LAN ケーブルが抜けていないか。
- XSCF シェルにクラスタ外から接続されていないか。

  シリアルポート経由で XSCF シェルに接続して確認してください。接続方法および確認方法は、"SPARC M10 システム システム運用・管理ガイド"を参照してください。

- XSCF の IP アドレスが、管理 LAN や非同期監視サブLANと同一セグメントになっているか。
- XSCF側で、ファームの再起動やファームアップなどの操作や、XSCFのフェイルオーバなどの事象が発生していなかったか。

上記項目が原因だと判明した場合、対処を行った上で、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、SNMP非同期監視機能およびシャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpmonctl stop
# /etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpmonctl start
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

上記項目を確認しても接続に失敗する場合は、ネットワーク障害や XSCF または HUB などのハードウェア故障が考えられるので、当社技術員(CE)に連絡してください。

本対処法で復旧しない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、“PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞”を参照してください。

SA *Shutdown Agent* to init host *nodename* failed

内容

ノード <*nodename*> に対するシャットダウンエージェント <*Shutdown Agent*> の初期化処理に失敗しました。

対処

シャットダウンエージェントが正しく設定されているか確認してください。シャットダウンエージェントの設定については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"を参照してください。設定が正しい場合は、調査用の情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

SA *Shutdown Agent* to test host *nodename* failed

内容

メッセージが表示されたノードから、ノード *nodename* の接続先への接続確認に失敗しました。

なお、接続先は各シャットダウンエージェントにより異なります。

対処

以下の点を確認してください。なお、以下の接続先は各シャットダウンエージェントにより異なります。

- システムまたはネットワークに負荷がかかっていないか。

  10分後に本メッセージが表示されていない場合、復旧していることがあります。以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構が正常に動作していることを確認してください。

  ```
  # /opt/SMAW/bin/sdtool -s
  ```

- シャットダウンデーモンの設定(/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg)、および、シャットダウンエージェントの設定が正しいか。
- 接続先側の設定が正しいか。
- 接続先への接続方法に SSH を使用している場合、シャットダウン機構用のログインユーザアカウントを使用して、クラスタノードから接続先へ SSH 接続し、SSH 初回接続時のユーザ問い合わせ(RSA 鍵の生成など)が完了しているか。
- 接続先への接続方法に SSH を使用している場合、クラスタノードから接続先へ SSH 接続する際のユーザ認証方法としてパスワード認証を使用しているか。

  公開鍵認証などパスワード認証を自動化する認証方法を接続先で使用している場合は、無効化してください。

- 接続先へのケーブルが正しく接続されているか。

上記項目が原因だと判明した場合、対処を行った上で、メッセージが出力されたノードで以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を再起動してください。なお、非同期監視機能の再起動も必要なシャットダウンエージェントもあります。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

上記項目を確認しても接続に失敗する場合は、ネットワーク障害や 接続先、あるいは HUB などのハードウェア故障が考えられるので、当社技術員(CE)に連絡してください。

本対処法で復旧しない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

SA *Shutdown Agent* to unInit host *nodename* failed

内容

ノード <*nodename*> に対するシャットダウンエージェント <*Shutdown Agent*> の終了時処理に失敗しました。

対処

調査用の情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

select of CLI Pipe & RCSDNetPipe failed, errno *errno*

内容

シャットダウンデーモン中の select 関数が異常復帰しました。

対処

シャットダウン機構が、CLI のパイプを再開させる動作を行います。また、システムで動く他のプロセスへの影響はないので、対処不要です。

string in file *file* around line *number*

内容

rcsd.cfg 内の構文が正しくありません。

対処

構文を修正してください。

The attempted shutdown of cluster host *nodename* has failed

内容

システム内部の問題です。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

The SF-CF event processing failed *string*, status *value*

内容

シャットダウン処理中に"status 6147"が表示された場合、他ノードからの停止通知を受信したことを示しています。

その他はシステム内部の問題です。

対処

シャットダウン処理中に"status 6147"が表示された場合は対処不要です。

上記以外の場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

The SF-CF has failed to locate host *nodename*

内容

rcsd.cfg 内のノード名が CF ノード名ではありません。

対処

rcsd.cfg 内のノード名に CF ノード名を指定してください。CF ノード名は cftool -n コマンドで確認してください。

rcsd.cfg の修正後、以下のコマンドを実行し、シャットダウン機構を再起動してください。

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -e
```

```
# /opt/SMAW/bin/sdtool -b
```

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

The SF-CF initialization failed, status value

内容

CFの構成が行われていないか、ロードされていない可能性があります。

対処

CF の設定を実施してください。
設定方法は以下を参照してください。

"PRIMECLUSTER Cluster Foundation導入運用手引書" の "クラスタの作成例"

The specified guest domain cannot be connected. (nodename:*nodename*)

内容

指定されたゲストドメイン *nodename* への接続ができません。

対処

以下の点を確認してください。

- システムまたはネットワークに負荷がかかっていないか。

  一時的な負荷であれば対処は不要です。

- 設定されたゲストOS の情報が正しいか。

  - Linux 版 4.3A30以降の場合

    /etc/opt/FJSVcluster/etc/kvmguests.conf に設定されたゲストOS の情報が正しいかを確認してください。
    ゲストOS の情報に誤りがある場合は、kvmguests.conf ファイルの情報を再設定してください。

  - Solaris 版 4.3A20 以降の場合

    clovmmigratesetup -l コマンドを実行し、ゲストOSの情報が正しいかを確認してください。
    ゲストOS の情報に誤りがある場合は正しいゲストOSの情報を再設定してください。
    clovmmigratesetup コマンド実行時にゲストOSの情報が出力される場合は、設定する内容が正しいかを確認してください。

- 指定されたゲストOS への接続ができるか。

  ゲストOS に接続できない場合は、ネットワークの設定を見直してください。

- root ユーザを使用して管理OS からゲストOS へ SSH 接続し、SSH 初回接続時のユーザ問い合わせ(RSA 鍵の生成など)が完了しているか。

  SSH 初回接続時のユーザ問い合わせ(RSA 鍵の生成など)が完了していない場合は、完了させてください。

本対処法で対処できない場合は、このメッセージを記録して、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

第6章 RMS に関するメッセージ

本章では、RMS に関するメッセージについて説明します。

- RMS メッセージ
- RMS ウィザードメッセージ
- コンソールメッセージ

 参照

各メッセージの見分け方については、"第1章 メッセージの検索手順" を参照してください。

6.1 RMSメッセージ

syslog ファイルに記録される、RMS メッセージについて説明します。なお、ここで説明するメッセージは switchlog ファイルにも出力されます。

各メッセージは、以下の形式で出力されます。

(*コンポーネント名*,*メッセージ番号*): *重要度*: *メッセージ本文*

重要度を確認し、以下の表から該当箇所を参照してください。メッセージはコンポーネント単位のメッセージ番号順に説明されています。

重要度	参照先
情報（NOTICE）	"6.1.1 情報(NOTICE)メッセージ"
警告（WARNING）	"6.1.2 警告(WARNING)メッセージ"
致命的でないエラー(ERROR)	"6.1.3 致命的でないエラー(ERROR)メッセージ"
致命的エラー（FATAL）	"6.1.4 致命的エラー(FATAL)メッセージ"

メッセージ中の斜体で表記している部分は、実際の値、名称、文字列に置き換えられます。

メッセージ本文の内容は変更される場合があるため、RMSメッセージを本マニュアルから検索する際は、"(コンポーネント名, メッセージ番号)"の文字列で検索してください。

 参照

ERRNO

RMS エラーメッセージでは、オペレーティングシステムエラー番号 <errno> が表示されることがあります。これは、ディテクタやスクリプトの処理が失敗した場合に返される番号です。エラー番号は問題を診断する際に重要な手がかりとなる場合があります。該当するオペレーティングシステムのユーザマニュアルや /usr/include/sys/errno.h ファイルを参照してください。

また、"付録B Solaris/Linux ERRNO テーブル" にも一覧があります。

6.1.1 情報(NOTICE)メッセージ

この章では、switchlog に現れるRMS 情報メッセージについて詳しく説明します。

表示されたメッセージのコンポーネント名を確認し、以下の表で参照先を決定します。メッセージ番号順に説明されています。

コンポーネント名	参照先
ADC	"6.1.1.1 ADC: Admin 構成"
ADM	"6.1.1.2 ADM: Adminキュー、コマンドキュー、ディテクタキュー"
BAS	"6.1.1.3 BAS: 起動および構成定義エラー"
BM	"6.1.1.4 BM: ベースモニタ"
CML	"6.1.1.5 CML: コマンドライン"
CTL	"6.1.1.6 CTL: コントローラ"
CUP	"6.1.1.7 CUP: userApplication コントラクト"
DET	"6.1.1.8 DET: ディテクタ"
GEN	"6.1.1.9 GEN: 汎用ディテクタ"
INI	"6.1.1.10 INI: init スクリプト"
MIS	"6.1.1.11 MIS: その他"
SCR	"6.1.1.12 SCR: スクリプト"
SHT	"6.1.1.13 SHT: シャットダウン"
SWT	"6.1.1.14 SWT: 切替要求 (hvswitch コマンド)"
SYS	"6.1.1.15 SYS: SysNode オブジェクト"
UAP	"6.1.1.16 UAP: userApplication オブジェクト"
US	"6.1.1.17 US: us ファイル"
WLT	"6.1.1.18 WLT: Wait リスト"
WRP	"6.1.1.19 WRP: ラッパ"

6.1.1.1 ADC: Admin 構成

(ADC, 6) Host <*SysNode*> with configuration <*configfile*> requested to join its cluster.

内容

ノード <*SysNode*> から RMS構成定義ファイル <*configfile*> を使用したクラスタへの組み込み要求がありました。

対処

対処する必要はありません。

(ADC, 22) Attempting to clear the cluster Wait state for SysNode <*sysnode*> and reinitialize the Online state.

内容

ノード<*sysnode*>のWait状態をクリアし、Online状態に戻します。

対処

対処する必要はありません。

(ADC, 26) An out of sync modification request *request1*, *request2* has been detected.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(ADC, 28) Dynamic modification finished.

内容

動的変更が終了しました。

対処

対処する必要はありません。

(ADC, 29) Config file "CONFIG.rms" is absent or does not contain a valid entry, remaining in minimal configuration.

内容

構成定義ファイル CONFIG.rms が存在しないか、有効なエントリが含まれないため、最小の構成を使用します。

対処

対処する必要はありません。

(ADC, 42) No remote host has provided configuration data within the interval specified by HV_WAIT_CONFIG. Running now the default configuration as specified in "CONFIG.rms"

内容

リモートホストから、HV_WAIT_CONFIG で指定された時間内に構成定義情報を提供されないため、CONFIG.rms で指定されたデフォルトの構成で起動します。

対処

対処する必要はありません。

(ADC, 50) hvdisp temporary file <*filename*> exceeded the size of <*size*> bytes, hvdisp process <*pid*> is restarted.

内容

RMS BM(ベースモニタ)が構成データを hvdisp プロセスに転送するために使用する一時ファイル <*filename*> のサイズが <*size*> を超えたため、hvdisp プロセス <*pid*> は再起動されます。

対処

対処する必要はありません。

(ADC, 52) Waiting for application <*userapplication*> to finish its <*request*> before shutdown.

内容

RMSの停止処理は、クラスタアプリケーションの処理の完了を待ち合わせ中です。

対処

対処する必要はありません。

(ADC, 53) Waiting for application <*app*> to finish its switch to a remote host before shutdown.

内容

RMS が停止する前に userApplication <*app*> のリモートノードへの切替えを待ち合わせています。

対処

対処する必要はありません。

(ADC, 54) Waiting for host <*sysnode*> to shut down.

内容

ノード<*sysnode*>のRMSが停止中です。

対処

対処する必要はありません。

(ADC, 55) No busy application found on this host before shutdown.

内容

RMS が停止する前にビジー状態の userApplication は見つかりませんでした。

対処

対処する必要はありません。

(ADC, 56) Waiting for busy or locked application <*app*> before shutdown.

内容

RMS は停止処理の前に userApplication <*app*> のビジーまたはロック状態の解消を待ち合わせています。

対処

対処する必要はありません。

(ADC, 66) Notified SF to recalculate its weights after dynamic modification.

内容

シャットダウン機構により重みの割当てが設定されました。

対処

対処する必要はありません。

(ADC, 71) Please check the bmlog for the list of environment variables on the local node.

内容

ローカルノードのRMS環境変数の一覧がbmlogに出力されます。

対処

対処する必要はありません。

6.1.1.2 ADM: Adminキュー、コマンドキュー、ディテクタキュー

(ADM, 35) Dynamic modification started with file <*configfilename*> from host <*sysnode*>.

内容

RMSは動的変更を開始します。

対処

対処する必要はありません。

(ADM, 92) Starting RMS now on all available cluster hosts

内容

クラスタのすべてのノードで RMS が起動します。

対処

対処する必要はありません。

(ADM, 93) Ignoring cluster host <*SysNode*>, because it's in state: *State*

内容

全ノードの RMS を起動する操作が実行されましたが、ノード <*SysNode*> の状態が<*State*> であるため、操作を無視しました。

対処

対処する必要はありません。

(ADM, 94) Starting RMS on host <*SysNode*> now!

内容

全ノードの RMS を起動する操作が実行されたため、ノード<*SysNode*>でRMSを起動します。

対処

対処する必要はありません。

(ADM, 101) Processing forced shutdown request for host *SysNode*. (request originator: *RequestSysNode*)

内容

ノード <*RequestSysNode*> で、ノード <*SysNode*> に対する RMS の強制停止コマンドが実行されました。

対処

対処する必要はありません。

(ADM, 103) *app*: Shutdown in progress. AutoSwitchOver (ShutDown) attribute is set, invoking a switchover to next priority host

内容

AutoSwitchOver に Shutdown 属性が設定されているため、RMS 停止により userApplication <*app*> は次の優先度のノードへ切り替わります。

対処

対処する必要はありません。

(ADM, 104) *app*: Shutdown in progress. AutoSwitchOver (ShutDown) attribute is set, but no other Online host is available. SwitchOver must be skipped!

内容

AutoSwitchOver に Shutdown 属性が設定されているため、RMS 停止により userApplication <*app*> が他のノードへ切り替わろうとしましたが、切替え可能な Online 状態のノードが存在しないため切替え要求は取り消されました。

対処

対処する必要はありません。

(ADM, 108) Processing shutdown request for host *SysNode*. (request originator: *RequestSysNode*)

内容

ノード <*RequestSysNode*> で、ノード <*SysNode*> に対する RMS の停止コマンド(hvshut -l/-s)が実行されました。

対処

対処する必要はありません。

(ADM, 109) Processing shutdown request for all hosts. (request originator: *SysNode*)

内容

ノード <*SysNode*> で、すべてのノードに対する RMS の停止コマンド(hvshut -a)が実行されました。

対処

対処する必要はありません。

(ADM, 112) local host is about to go down. CLI requests on this hosts are no longer possible

内容

メッセージが出力されたノードの RMS は間もなく停止するため、このノードの RMS に対する要求は処理されません。

対処

対処する必要はありません。

(ADM, 119) Processing hvdump command request for local host <*sysnode*>.

内容

hvdumpコマンドが呼びだされたときに、このメッセージが出力されます。

対処

対処する必要はありません。

(ADM, 124) Processing forced shutdown request for all hosts. (request originator: *SysNode*)

内容

ノード <*SysNode*> で、すべてのノードに対する RMS の強制停止コマンドが実行されました。

対処

対処する必要はありません。

(ADM, 127) debugging is on, watch your disk space in /var (notice #*count*)

内容

デバッグモードが on なので、/var のディスクスペースに注意してくださいというメッセージです。hvutil -l でデバッグモードを on にした場合に表示されます。

対処

/var のディスクスペースが充分であることを確認してください。

6.1.1.3 BAS: 起動および構成定義エラー

(BAS, 33) Resource <*resource*> previously received detector report "DetReportsOfflineFaulted", therefore the application <*app*> cannot be switched to this host.

内容

リソース <*resource*> はディテクタから "DetReportsOfflineFaulted" を通知されたため、userApplication <*app*> をローカルノードに切り替えることはできません。

対処

対処する必要はありません。

6.1.1.4 BM: ベースモニタ

(BM, 9) Starting RMS monitor on host <*sysnode*>.

内容

ノード <*SysNode*> の RMSが起動しました。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 27) Application <*userapplication*> does not transition to standby since it has one or more faulted or cluster exclusive online resources.

内容

少なくとも1つのリソースがFaulted状態、または排他リソースにもかかわらずOnline状態であるため、アプリケーション<*userapplication*>はStandby状態に遷移しません。

対処

前後のメッセージを確認し、必要に応じてそれらの対処を行ってください。

(BM, 34) RMS invokes hvmod in order to modify its minimal configuration with a startup configuration from the command line.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 35) RMS invokes hvmod in order to bring in a new host that is joining a cluster into its current configuration.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 36) RMS invokes hvmod in order to modify its minimal configuration with a configuration from a remote host while joining the cluster.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 37) RMS invokes hvmod in order to delete a host from its configuration while ejecting the host from the cluster.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 38) RMS invokes hvmod in order to bring a host from a cluster to which it is about to join.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 39) RMS invokes hvmod in order to run a default configuration.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 40) RMS starts the process of dynamic modification due to a request from hvmod utility.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 43) Package parameters for *packagetype* package <*package*> are <*packageinfo*>.

内容

パッケージ<*package*>に関する情報を表示するメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 44) Package parameters for <*package1*> / <*package2*> package not found.

内容

パッケージ <*package1*> および <*package2*> がインストールされていません。

対処

必要に応じて、パッケージ <*package1*> または <*package2*> をインストールしてください。

(BM, 45) This RMS monitor has been started as <*COMMAND*>.

内容

RMSは<*COMMAND*>で起動されました。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 47) RMS monitor has exited with the exit code <*code* >.

内容

RMSが終了コード<*code*> で終了しました。

対処

直前に出力されたメッセージを確認し、必要に応じてそれらの対処を行ってください。

(BM, 48) RMS monitor has been normally shut down.

内容

RMSの停止が正常に終了しました。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 50) RMS monitor is running in CF mode.

内容

CFの機能を使用してRMSが動作していることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 55) The RMS-CF-CIP mapping in <*configfile*> for SysNode name <*SysNode*> has matched the CF name <*cfname*>.

内容

CIP 構成定義ファイル <*configfile*> において、SysNode 名 <*SysNode*> に対応する CF ノード名 <*cfname*> が見つかりました。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 56) The RMS-CF-CIP mapping in <*CONFIGFILENAME*> for SysNode name <*SYSNODE*> has found the CF name to be <*CFNAME*> and the CIP name to be <*CIPNAME*>.

内容

<*SYSNODE*> は CIP 構成定義ファイルにおいて、CF ノード名が <*CFNAME*>, CIP 名が <*CIPNAME*> としてマッピングされています。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 57) The RMS-CF-CIP mapping in <*configfile*> for SysNode name <*SysNode*> has failed to find the CF name.

内容

CIP 構成定義ファイル <*configfile*> において、SysNode 名 <*SysNode*> に対応する CF ノード名が見つかりませんでした。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 60) The resulting configuration has been saved in <*filename*>, its checksum is <*checksum*>.

内容

RMS の起動処理で出力されるメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 61) A checksum verification request has arrived from host <*sysnode*>, that host's checksum is <*xxxx*>.

内容

RMS をすべてのノードで開始する際に、構成と環境変数がローカルノードと同じ場合は、チェックサムはリモートノードから到着します。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 62) The local checksum <*xxxx*> has been replied back to host <*sysnode*>.

内容

ローカルノードがリモートノードのチェックサムを得た後に、ローカルノードのチェックサムをリモートノードに返信します。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 63) Host <*sysnode*> has replied the checksum <*xxxx*> equal to the local checksum. That host should become online now.

内容

リモートノードのチェックサムを受けた後に、ローカルのノードはリモートノードのチェックサムとチェックサムを比べます。チェックサムが同じであるなら、両方のノードは Onlineになることができます。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 64) Checksum request has been sent to host <*hostname*>.

内容

RMS の起動処理で出力されるメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 65) Package parameters for <*package*> package not found.

内容

パッケージ <*package*> がインストールされていません。

対処

必要に応じて、パッケージ <*package*> をインストールしてください。

(BM, 84) The RMS-CF-CIP mapping in <*configfilename*> for SysNode name <*sysnode*> has found the CF name to be <*cfname*> and the CIP name to be <*cipname*>, previously defined as <*olscfname*>.

内容

<*sysnode*> は CF ノード名が <*olscfname*> ですが、CIP 構成定義ファイルにおいて、CF ノード名が <*cfname*>, CIP 名が <*cipname*> としてマッピングされています。

対処

CIP 構成定義ファイルの CF ノード名の記載に誤りがないか確認してください。

(BM, 87) The Process Id (pid) of this RMS Monitor is <*PID*>.

内容

BMプロセスのプロセスIDを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 91) Some scripts are still running. Waiting for them to finish before normal shutdown.

内容

RMSの停止処理は、スクリプトの完了を待ち合わせ中です。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 100) Controlled application <*app*> is controlled by a scalable controller <*controller*>, but that application's AutoStartUp attribute is set to 1.

内容

userApplication <*app*> はスケーラブルコントローラにより制御されますが、AutoStartUp 属性に 1 が設定されています。

対処

userApplication <*app*> の AutoStartUp 属性に 0 を設定してください。

(BM, 102) Application <*app*> has a scalable controller, but that application has its AutoStartUp attribute set to 0.

内容

スケーラブルコントローラを含む制御するアプリケーション userApplication <*app*> の AutoStartUp 属性に 0 が設定されています。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 115) The base monitor on the local host has captured the lock.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 120) The RMS base monitor is locked in memory via mlockall().

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 121) RMS monitor uses the <*class*> scheduling class for running scripts.

内容

RMS はスクリプトを <*class*> クラスで実行します。

対処

対処する必要はありません。

6.1.1.5 CML: コマンドライン

(CML, 3) *** New Heartbeat_Miss_Time = *time* sec.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(CML, 16) Turn log off by user.

内容

hvcm または hvutil の -l オプションでログレベルに off が指定された場合に、このメッセージが出力されます。

対処

対処する必要はありません。

(CML, 22) Modify log level, bmLogLevel = "*loglevel*".

内容

hvcm または hvutil の -l オプションで指定されたログレベルの値を <*loglevel*> で示します。

対処

対処する必要はありません。

6.1.1.6 CTL: コントローラ

(CTL, 3) Controller <*controller*> is requesting online application <*app*> on host <*SysNode*> to switch offline because more than one controlled applications are online.

内容

複数のノードで、コントローラ <*controller*> に制御される userApplication が Online であるため、コントローラ <*controller*> はノード <*SysNode*> 上の userApplication に対し Offline 要求を実行します。

対処

対処する必要はありません。

(CTL, 4) Controller <*controller*> has its attribute AutoRecoverCleanup set to 1. Therefore, it will attempt to bring the faulted application offline before recovering it.

内容

コントローラ<*controller*> の AutoRecoverCleanup 属性に 1 が設定されているため、異常が検出された userApplication を Offline 状態にした後、復旧を行います。

対処

対処する必要はありません。

(CTL, 5) Controller <*controller*> has its attribute AutoRecoverCleanup set to 0. Therefore, it will not attempt to bring the faulted application offline before recovering it.

内容

コントローラ<*controller*> の AutoRecoverCleanup 属性に 0 が設定されているため、異常が検出された userApplication を Offline 状態にすることなく復旧を行います。

対処

対処する必要はありません。

(CTL, 9) Controller <*controller*> has restored a valid combination of values for attributes <IgnoreOnlineRequest> and <OnlineScript>.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(CTL, 10) Controller <*controller*> has restored a valid combination of values for attributes <IgnoreOfflineRequest> and <OfflineScript>.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(CTL, 12) Controller <*controller*> has restored a valid combination of values for attributes <IgnoreStandbyRequest> and <OnlineScript>.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(CTL, 13) Controller <*controller*> does not propagate offline request to its controlled application(s) <*app*> because its attribute <IndependentSwitch> is set to 1.

内容

コントローラ <*controller*> の <IndependentSwitch> 属性に 1 が設定されているため、userApplication <*app*> に対する Offline 要求は行われません。

対処

対処する必要はありません。

(CTL, 14) Controller <*controller*> cannot autorecover application <*app*> because there is no online host capable of running this application.

内容

userApplication <*app*> が Online 状態になれるノードが存在しないため、コントローラ<*controller*> は userApplication の自動復旧を行いません。

対処

対処する必要はありません。

(CTL, 15) Controller <*controller*> cannot autorecover application <*app*> because the host <*SysNode*> from the application's PriorityList is neither in Online, Offline, or Faulted state.

内容

userApplication <*app*> の PriorityList に記載されているノード <*SysNode*> の状態が不定のため、コントローラ <*controller*> は userApplication の自動復旧を行いません。

対処

対処する必要はありません。

(CTL, 18) Scalable Controller <*controller*> from application <*app1*> cannot determine any online host where its controlled application(s) <*app2*> can perform the current request. This controller is going to fail now.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

6.1.1.7 CUP: userApplication コントラクト

(CUP, 6) *app* Prio_list request not satisfied, trying again ...

内容

userApplication <*app*> が Online に遷移するノードの再確認処理を行っています。

対処

対処する必要はありません。

6.1.1.8 DET: ディテクタ

(DET, 20) hvgdstartup file is empty.

内容

hvgdstartupファイルの内容が空です。

対処

hvgdstartupファイルを使用する場合、必要な情報を記述して下さい。なお、新しい RMS 構成定義ファイルの設定には必ず DetectorStartScript を使用してください。

hvgdstartup は、将来のリリースではサポートされない可能性があります。

(DET, 22) <*resource*>: received unexpected detector report "*ReportedState*" - ignoring it Reason: Online processing in progress, detector report may result from an interim transition state.

内容

ディテクタから*ReportedState*が通知されましたが、<*resource*>はOnline状態への遷移中のため通知が無視されたことを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(DET, 23) <*resource*>: received unexpected detector report "*ReportedState*" - ignoring it Reason: Offline processing in progress, detector report may result from an interim transition state.

内容

ディテクタから <*ReportedState*> が通知されましたが、<*resource*>はOffline状態への遷移中のため通知が無視されました。

対処

対処する必要はありません。

(DET, 25) <*resource*>: received unexpected detector report "*ReportedState*" - ignoring it Reason: Standby processing in progress, detector report may result from an interim transition state.

内容

ディテクタから <*ReportedState*> が通知されましたが、<*resource*>は Standby 状態への遷移中のため通知は無視されました。

対処

対処する必要はありません。

(DET, 30) Resource <*resource*> previously received detector report "DetReportsOnlineWarn", the warning is cleared due to report "DetReportsOnline".

内容

リソース <*resource*> はディテクタから "DetReportsOnlineWarn" を通知されていましたが、"DetReportsOnline" が通知されたため OnlineWarn状態をクリアします。

対処

対処する必要はありません。

(DET, 32) Resource <*resource*> previously received detector report "DetReportsOfflineFaulted", the state is cleared due to report "*report*".

内容

リソース <*resource*> はディテクタから "DetReportsOfflineFaulted" を通知されていましたが、"*report*" が通知されたため OfflineFault 状態をクリアします。

対処

対処する必要はありません。

6.1.1.9 GEN: 汎用ディテクタ

(GEN, 6) *command* ignores request for object *object* not known to that detector. Request will be repeated later.

内容

汎用ディテクタ <*command*> は不明なオブジェクト <*object*> 向けの要求を受信したため、この要求を無視します。要求は後に再送されます。

対処

前後のメッセージを確認し、必要に応じてそれらの対処を行ってください。

6.1.1.10 INI: init スクリプト

(INI, 2) InitScript does not exist in hvenv.

内容

RMS環境変数 RELIANT_INITSCRIPT が定義されていません。

対処

InitScript を使用する場合は、RMS環境変数 RELIANT_INITSCRIPT を定義して下さい。使用しない場合は、対処不要です。

(INI, 3) InitScript does not exist.

内容

RMS環境変数 RELIANT_INITSCRIPT で定義されたファイルが存在しません。

対処

InitScript を使用する場合は、RMS環境変数 RELIANT_INITSCRIPT で定義したファイルを配置して下さい。使用しない場合は、対処不要です。

(INI, 5) All system objects initialized.

内容

RMSの内部オブジェクトが全て初期化されました。

対処

対処する必要はありません。

(INI, 6) Using *filename* for the configuration file.

内容

RMS構成定義ファイルに <*filename*> を使用します。

対処

対処する必要はありません。

(INI, 8) Restart after un-graceful shutdown (e.g. host failure): A persistent fault entry will be created for all userApplications, which have PersistentFault attribute set

内容

直前の RMS の終了が正常終了でなかったため、PersistentFault 属性が設定された userApplication は Faulted 状態となります。

対処

必要に応じて userApplication の Faulted 状態をクリアしてください。

(INI, 15) Running InitScript <*InitScript*>.

内容

InitScript <*InitScript*> を実行します。

対処

対処する必要はありません。

(INI, 16) InitScript completed.

内容

InitScript が正常終了しました。

対処

対処する必要はありません。

6.1.1.11 MIS: その他

(MIS, 10) The file *filename* can not be located during the cleanup of *directory*.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

6.1.1.12 SCR: スクリプト

(SCR, 3) The detector that died is *detector_name*.

内容

ディテクタ <*detector_name*> は終了しました。

対処

前後のメッセージを確認し、必要に応じてそれらの対処を行ってください。

(SCR, 6) REQUIRED PROCESS RESTARTED: *detector_name* restarted.

内容

ディテクタ <*detector_name*> は再起動が必要なため、再起動されました。

対処

対処する必要はありません。

(SCR, 7) REQUIRED PROCESS NOT RESTARTED: *detector_name* is no longer needed by the configuration.

内容

ディテクタ <*detector_name*> は再起動が不要なため、再起動されませんでした。

対処

対処する必要はありません。

(SCR, 16) Resource <*resource*> WarningScript has completed successfully.

内容

リソース <*resource*> の WarningScript が正常終了しました。

対処

対処する必要はありません。

(SCR, 19) Failed to execute OfflineDoneScript with resource <*resource*>: *errorreason*.

内容

リソース <*resource*> の OfflineDoneScript が <*errorreason*> の理由で異常終了しました。

対処

OfflineDoneScript が異常終了した原因を調査し、必要に応じて対処を行ってください。

(SCR, 22) The detector <*detector*> with pid <*pid*> has been terminated. The time it has spent in the user and kernel space is <*usertim*> and <*kerneltime*> seconds respectively.

内容

PID <*pid*> のディテクタ <*detector*> が、ユーザ空間で <*usertime*> 秒、カーネル空間で <*kerneltime*> 秒動作し、終了しました。

対処

前後のメッセージを確認し、必要に応じてそれらの対処を行ってください。

(SCR, 23) The script with pid <*pid*> has terminated. The time it has spent in the user and kernel space is <*usertime*> and <*kerneltime*> seconds respectively.

内容

PID <*pid*> のスクリプトが、ユーザ空間で <*usertime*> 秒、カーネル空間で <*kerneltime*> 秒動作し、終了しました。

対処

前後のメッセージを確認し、必要に応じてそれらの対処を行ってください。

対処

対処する必要はありません。

6.1.1.13 SHT: シャットダウン

(SHT, 16) RMS on node *SysNode* has been shut down with *command*.

内容

ノード <*SysNode*> 上の RMS が <*command*> によりシャットダウンされました。

対処

対処する必要はありません。

6.1.1.14 SWT: 切替要求 (hvswitch コマンド)

(SWT, 9) *app*: AutoStartAct(): object is already in stateOnline!

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 10) *app*: Switch request forwarded to a responsible host: *SysNode*.

内容

ノード <*SysNode*> に、userApplication <*app*> を切り替える要求が通知されました。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 15) *app*: Switch request forwarded to the node currently online: *SysNode*.

内容

ノード <*SysNode*> に、userApplication <*app*> を切り替える要求が通知されました。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 17) *app*: target host of switch request is already the currently active host, sending the online request now!

内容

userApplication <*app*> を切り替える要求が実行されました。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 27) Cluster host <*SysNode*> is not yet online for application <*app*>.

内容

userApplication <*app*>が動作するノード <*SysNode*>がまだOnline状態ではありません。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 29) HV_AUTOSTARTUP_IGNORE list of cluster hosts to ignore when autostarting is: *SysNode*.

内容

RMS環境変数 HV_AUTOSTARTUP_IGNOREにノード<*SysNode*>が定義されています。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 38) Processing forced switch request for application *app* to node *SysNode*.

内容

userApplication <*app*> を強制的にノード <*SysNode*> に切り替える要求が実行されました。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 39) Processing normal switch request for application *app* to node *SysNode*.

内容

userApplication <*app*> をノード <*SysNode*> に切り替える要求が実行されました。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 40) Processing forced switch request for Application *app*.

内容

userApplication <*app*> を強制的に切り替える要求が実行されました。切替え先のノードは <*app*> の起動優先度に基づいて決定されます。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 41) Processing normal switch request for Application *app*.

内容

userApplication <*app*> を切り替える要求が実行されました。切替え先のノードは <*app*> の起動優先度に基づいて決定されます。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 48) A controller requested switchover for the application <*object*> is attempted although the host <*onlinehost*> where it used to be Online is unreachable. Caused by the use of the force flag the RMS secure mechanism has been overriden, switch request is processed. In case that host is in Wait state the switchover is delayed until that host becomes Online, Offline, or Faulted.

内容

object はリモートノード *onlinehost* で Online 状態でしたが、現在操作不能です。ただし、強制切替オプション (hvswitch -f) が使用されたため、切替要求は処理されます。

リモートノードがWait状態であれば、ノードがOnline、Offlineか、Faulted状態になるまで、この切替え処理は中断されます。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 49) Application <*app*> will not be switched Online on host <*oldhost*> because that host is not Online. Instead, it will be switched Online on host <*newhost*>.

内容

クラスタアプリケーション<*app*>は、優先度の高いノード<*oldhost*>がOnline状態でないため、次の優先度のノード<*newhost*>に切替わります。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 50) Application <*app*> is busy. Switchover initiated from a remote host <*remotenode*> is delayed on this local host <*localnode*> until a settled state is reached.

内容

userApplication <*app*> はビジー状態のため、ビジー状態が解消するまで、リモートノード <*remotenode*> からの userApplication の切替え要求がローカルノード <*localnode*> で保留されます。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 51) Application <*app*> is busy performing standby processing. Switchover initiated due to a shutdown of the remote host <*remotenode*> is delayed on this local host <*localnode*> until Standby processing finishes.

内容

userApplication <*app*> は Standby状態へ遷移中のため、Standby処理が完了するまで、

リモートノード <*remotenode*> 停止に伴うuserApplicationの切替え要求がローカルノード <*localnode*> で保留されます。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 52) Application <*app*> is busy performing standby processing. Therefore, the contracting process and a decision for its AutoStartUp is delayed on this local host <*localnode*> until Standby processing finishes.

内容

userApplication <*app*> は Standby状態へ遷移中のため、Standby処理が完了するまで、コントラクト処理や自動起動処理がローカルノード <*localnode*> で保留されます。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 53) Application <*app*> is busy performing standby processing. The forced switch request is delayed on this local host <*localnode*> until Standby processing finishes.

内容

userApplication <*app*> は Standby状態へ遷移中のため、Standby処理が完了するまで、userApplication に対する強制切替え要求がローカルノード <*localnode*> で保留されます。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 61) Processing request to enter Maintenance Mode for application *app*.

内容

userApplication <*app*> の保守モードへの移行を開始します。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 62) Processing request to leave Maintenance Mode for application *app*.

内容

userApplication <*app*> の保守モードの解除を開始します。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 63) Forwarding Maintenance Mode request for application *app* to the host *SysNode*, which is currently the responsible host for this userapplication.

内容

userApplication <*app*> に対する保守モードの要求がノード <*SysNode*> に通知されました。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 64) Request to leave Maintenance Mode for application *app* discarded. Reason: Application is not in Maintenance Mode.

内容

userApplication <*app*> が保守モードでないため、保守モードの終了要求が取り消されました。

対処

保守モードを終了する際は、対象となる userApplication が保守モードであることを確認してください。

(SWT, 65) Processing request to leave Maintenance Mode for application *app*, which was forwarded from host *SysNode*. Nothing to do, application is not in Maintenance Mode.

内容

userApplication <*app*> が保守モードでないため、ノード <*SysNode*> から通知された保守モードの終了要求が取り消されました。

対処

保守モードを終了する際は、対象となる userApplication が保守モードであることを確認してください。

(SWT, 66) Processing of Maintenance Mode request for application *app* is finished, transitioning into stateMaint now.

内容

userApplication <*app*> の保守モードへの移行が完了しました。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 67) Processing of Maintenance Mode request for application *app* is finished, transitioning out of stateMaint now.

内容

userApplication <*app*> の保守モードの解除が完了しました。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 70) AutoStartUp for application<*app*> is invoked though not all neccessary cluster hosts are Online, because PartialCluster attribute is set.

内容

すべてのノードで RMS が起動していませんが、userApplication <*app*> は PartialCluster 属性に 1 が設定されており、かつ、HV_AUTOSTART_WAIT が経過したため、Online 処理を開始しました。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 71) Switch requests for application <*app*> are now permitted though not all neccessary cluster hosts are Online, because PartialCluster attribute is set.

内容

userApplication が動作できるノードに Online 状態でないノードがありますが、PartialCluster 属性が有効であるため、userApplication <*app*> に対する起動要求が実行されます。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 73) Any AutoStart or AutoStandby for *app* is bypassed. Reason: userApplication is in Maintenance Mode

内容

userApplication <*app*> が保守モードのため、userApplication に対する自動起動が実行されませんでした。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 74) Maintenance Mode request for application *app* discarded. Reason: Application is busy or locked.

内容

userApplication <*app*> がビジーまたはロック状態のため、<*app*> に対する保守モードの要求が取り消されました。

対処

<*app*> のビジーまたはロック状態が解除されるのを待ってから、保守モードの要求を再度実行してください。

(SWT, 75) Maintenance Mode request for application *app* discarded. Reason: Application is Faulted.

内容

userApplication <*app*> が Faulted 状態のため、<*app*> に対する保守モードの要求が取り消されました。

対処

Faulted 状態をクリアしてから、保守モードの要求を再度実行してください。

(SWT, 76) Maintenance Mode request for application *app* discarded. Reason: A controlled application is not ready to leave Maintenance Mode.

内容

userApplication <*app*>により制御される userApplication が保守モードを解除できる状態でないため、<*app*> に対する保守モードの要求が取り消されました。

対処

<*app*>により制御されるuserApplicationの保守モードを解除できる状態にしてから、保守モードの要求を再度実行してください。

(SWT, 77) Maintenance Mode request for application *app* discarded. Reason: Application is controlled by another application and has "ControlledSwitch" attribute set.

内容

userApplication <*app*> が他のuserApplication により制御され、かつ、ControlledSwitch 属性が設定されているため、<*app*> に対する保守モードの要求が取り消されました。

対処

userApplication <*app*> を制御する userApplicationに対し保守モードの要求を再度実行してください。

(SWT, 78) Maintenance Mode request for application *app* discarded. Reason: Application has not yet finished its state initialisation.

内容

userApplication <*app*> の初期化が完了していないため、<*app*> に対する保守モードの要求が取り消されました。

対処

userApplication <*app*> の初期化が完了後、保守モードの要求を再度実行してください。

(SWT, 79) Maintenance Mode request for application *app* discarded. Reason: Some resources are not in an appropriate state for safely returning into active mode. A "forceoff" request may be used to override this security feature.

内容

いずれかのリソースの状態が、保守モードに移行する前の状態と異なるため、userApplication <*app*> に対する保守モード解除の要求が取り消されました。

対処

userApplication <*app*> に属するリソースの状態を、保守モードに移行する前の状態に戻してから、保守モードの解除要求を再度実行してください。

適切な状態にないリソースが存在する場合でも、forceoff オプションを使用することで、保守モードは強制的に解除されます。

(SWT, 80) Maintenance Mode request for application *app* discarded. Reason: Sysnode *SysNode* is in "Wait" state.

内容

ノード <*SysNode*> が Wait 状態のため、userApplication <*app*> に対する保守モードの要求が取り消されました。

対処

ノードの Wait 状態をクリアしてから、保守モードの要求を再度実行してください。

(SWT, 82) The SysNode *SysNode* is seen as Online, but it is not yet being added to the priority list of any controlled or controlling userApplication because there is ongoing activity in one or more applications (eg. <*app*> on <*SysNode*>).

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 83) The SysNode *SysNode* is seen as Online, and now all userApplications have no ongoing activity - SysNode being added to priority lists.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 85) The userApplication *app* is in state Inconsistent on host *SysNode*, the priority hvswitch request is being redirected there in order to clear the inconsistentcy.

内容

ノード <*SysNode*> における userApplication <*app*> の Inconsistent 状態をクリアするため、<*SysNode*>上で userApplication の起動を試みます。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 86) The userApplication *app* is in state Inconsistent on host *SysNode1*, the hvswitch request to host *SysNode2* is being redirected there in order to clear the inconsistency.

内容

ノード <*SysNode2*> に対する切替え要求が行われましたが、ノード <*SysNode1*> における userApplication <*app*> の Inconsistent 状態をクリアするため、<*SysNode1*> 上で userApplication の起動を試みます。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 87) The userApplication *app* is in state Maintenance. Switch request skipped.

内容

userApplication <*app*> は保守モード中のため、切替え要求は取り消されました。

対処

serApplication <*app*> の保守モードを解除してから、切替え要求を再度実行してください。

(SWT, 88) The following node(s) were successfully killed by the forced application switch operation: *hosts*

内容

userApplication の強制起動に伴い、ノード<*hosts*>は正常に強制停止されました。

対処

必要に応じて、強制停止されたノードを再起動してください。

なお、クラスタアプリケーションを強制起動する際の動作については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"の"7.5.1 クラスタアプリケーションの強制切替えに関する注意"を参照してください。

(SWT, 89) Processing forced switch request for resource *resource* to node *sysnode*.

内容

resource <*resource*> を強制的にノード <*sysnode*> に切り替える要求が実行されました。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 90) Processing normal switch request for resource *resource* to node *sysnode*.

内容

resource <*resource*> をノード <*sysnode*> に切り替える要求が実行されました。

対処

対処する必要はありません。

6.1.1.15 SYS: SysNode オブジェクト

(SYS, 2) This host has received a communication verification request from host <*SysNode*>. A reply is being sent back.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(SYS, 3) This host has received a communication verification reply from host <*SysNode*>.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(SYS, 5) This host is sending a communication verification request to host <*SysNode*>.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(SYS, 9) Attempting to shut down the cluster host *SysNode* by invoking a Shutdown Facility via (sdtool -k *hostname*).

内容

シャットダウン機構によりクラスタノード <*hostname*> の停止を試みます。

対処

対処する必要はありません。

(SYS, 12) Although host <*hostname*> has reported online, it does not respond with its checksum. That host is either not reachable, or does not have this host <*localhost*> in its configuration. Therefore, it will not be brought online.

内容

ノード<*hostname*>がOnlineであると通知されましたが、そのチェックサムが通知されません。ノード間で通信ができないか、リモートノードの構成定義情報にローカルノードが含まれていない可能性があります。

対処

すべてのクラスタノードで RMS 構成定義ファイルをチェックし、すべてのノードで同じ RMS 構成定義ファイルが稼動していることを確認してください。

(SYS, 51) Remote host <*SysNode*> replied correct checksum out of sync.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

6.1.1.16 UAP: userApplication オブジェクト

(UAP, 10) *app*: received agreement to go online. Sending Request Online to the local child now.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(UAP, 13) *appli* AdminSwitch: application is expected to go online on local host, sending the online request now.

内容

userApplication <*app*> の Online 処理をローカルノード上で開始する要求が通知されました。

対処

対処する必要はありません。

(UAP, 26) *app* received agreement to go online. Sending RequestOnline to the local child now.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(UAP, 31) *app*:AdminSwitch: passing responsibility for application to host <*SysNode*> now.

内容

userApplication <*app*> を online にする処理は ノード <*SysNode*> 上で行われます。

対処

対処する必要はありません。

(UAP, 46) Request <*request*> to application <*app*> is ignored because this application is in state Unknown.

内容

userApplication <*app*> は Unknown 状態のため、この userApplication に対する要求 <*request*> は無視されました。

対処

userApplication <*app*> の初期化が完了後、要求 <*request*> を再度実行してください。

6.1.1.17 US: us ファイル

(US, 2) FAULT RECOVERY ATTEMPT: The object *object* has faulted and its AutoRecover attribute is set. Attempting to recover this resource by running its OnlineScript.

内容

オブジェクト <*object*> の異常が検出されましたが、AutoRecover属性が設定されているため、Onlineスクリプトの実行による復旧を行います。

対処

対処する必要はありません。

(US, 3) FAULT RECOVERY FAILED: Re-running the OnlineScript for *object* failed to bring the resource Online.

内容

オブジェクト <*object*> の自動復旧のため再実行したOnlineスクリプトが失敗しました。

対処

前後のメッセージを確認し、必要に応じてそれらの対処を行ってください。

(US, 4) FAULT RECOVERY SUCCEEDED: Resource *resource* has been successfully recovered and returned to the Online state.

内容

リソース <*resource*> の自動復旧が成功し、Online状態に遷移しました。

対処

対処する必要はありません。

(US, 7) *object*: Transitioning into a Fault state caused by a persistent Fault info

内容

オブジェクト<*object*>はPersistentFault属性が有効であるため、Faulted状態に遷移します。

対処

対処する必要はありません。

(US, 8) Cluster host *SysNode* has been successfully *status*.

内容

クラスタホスト <*SysNode*> は正常に <*status*> に遷移しました。

対処

対処する必要はありません。

(US, 9) Cluster host *SysNode* has become online.

内容

クラスタホスト <*SysNode*> は Online 状態に遷移しました。

対処

対処する必要はありません。

(US, 11) Temporary heartbeat failure disappeared. Now receiving heartbeats from cluster host *hostname* again.

内容

一時的なハートビート切れがなくなりました。現在は、*SysNode* からハートビートを受信しています。

対処

対処する必要はありません。

(US, 12) Cluster host *SysNode* has become Faulted. A shut down request will be sent immediately!

内容

クラスタホスト <*SysNode*> は Faulted 状態に遷移したため、直ちに強制停止されます。

対処

対処する必要はありません。

(US, 13) Cluster host *SysNode* will now be shut down!

内容

クラスタノード <*SysNode*> を停止します。

対処

対処する必要はありません。

(US, 16) *app*: Online processing finished!

内容

userApplication <*app*> の Online 処理が終了しました。

対処

対処する必要はありません。

(US, 17) *app*: starting Online processing.

内容

userApplication <*app*> の Online 処理が開始されました。

対処

対処する必要はありません。

(US, 18) *app*: starting Offline processing.

内容

userApplication <*app*> の Offline処理が開始されました。

対処

対処する必要はありません。

(US, 19) *app*: starting Offline (Deact) processing.

内容

userApplication <*app*> の Offline (Deact) 処理が開始されました。

対処

対処する必要はありません。

(US, 20) *app*: Offline (Deact) processing finished!

内容

userApplication <*app*> の Offline (Deact) 処理が終了しました。

対処

対処する必要はありません。

(US, 21) *app*: Offline processing finished!

内容

userApplication <*app*> の Offline 処理が終了しました。

対処

対処する必要はありません。

(US, 22) *app*: starting PreCheck.

内容

userApplication <*app*> の PreCheckScript が開始されました。

対処

対処する必要はありません。

(US, 24) *app*: Fault processing finished!

内容

userApplication <*app*> の Fault 処理が終了しました。

対処

対処する必要はありません。

(US, 25) *app*: Collecting outstanding Faults ....

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(US, 26) *app*: Fault processing finished! Starting Offline processing.

内容

userApplication <*app*> の Fault 処理が終了し、Offline 処理が開始されました。

対処

対処する必要はありません。

(US, 27) *app*: precheck successful.

内容

userApplication <*app*> の PreCheck 処理が完了しました。

対処

対処する必要はありません。

(US, 30) *app*: Offline processing after Fault finished!

内容

userApplication <*app*> の Fault 後の Offline 処理が終了しました。

対処

対処する必要はありません。

(US, 32) FAULT RECOVERY SKIPPED! userApplication is already faulted. No fault recovery is possible for object *object*!

内容

オブジェクト <*object*> の異常が検出されましたが、userApplication はすでに Faulted 状態であるため、自動復旧は行われません。

対処

前後のメッセージを確認し、必要に応じてそれらの対処を行ってください。

(US, 34) *app*: Request standby skipped -- application must be offline or standby for standby request to be honored.

内容

userApplication <*app*> に対する Standby 要求は無視されました。

対処

Standby 要求は Offline または Standby 状態の userApplication に対して行ってください。

(US, 35) *app*: starting Standby processing.

内容

userApplication <*app*> の Standby 処理が開始されました。

対処

対処する必要はありません。

(US, 36) *app*: Standby processing finished!

内容

userApplication <*app*> の Standby 処理が終了しました。

対処

対処する必要はありません。

(US, 37) *app*: Standby processing skipped since this application has no standby capable resources.

内容

Standby状態に遷移できるリソースが存在しないため、userApplication <*app*> に対する Standby 要求は無視されました。

対処

対処する必要はありません。

(US, 40) *app*: Offline processing due to hvshut finished!

内容

RMS 停止の延長で実行された userApplication <*app*> の Offline 処理が終了したことを示します。

対処

対処する必要はありません。

(US, 41) The userApplication <*userapplication*> has gone into the Online state after Standby processing.

内容

userApplication<*userapplication*>はStandby処理完了後、Online状態に遷移しました。

対処

対処する必要はありません。

(US, 44) *resource*: Fault propagation to parent ends here! Reason is either a MonitorOnly attribute of the child reporting the Fault or the "or" character of the current object

内容

親オブジェクトへの Fault の伝播が <*resouce*> で終了しました。理由は、Fault を報告した子リソースが MonitorOnly 属性であるからか、現在のオブジェクトが "or" オブジェクトであるためです。

対処

対処する必要はありません。

(US, 46) *app*: Processing of Clear Request finished. resuming Maintenance Mode.

内容

userApplication <*app*> に対する Clear 要求 (hvutil -c) が完了しました。保守モードを再開します。

対処

対処する必要はありません。

(US, 56) The userApplication *userapplication* is already Online at RMS startup time. Invoking an Online request immediately in order to clean up possible inconsistencies in the state of the resources.

内容

userApplication *userapplication* はRMS起動時にすでにOnline状態だったと判定されました。リソース状態の整合性を保証するためuserApplicationのOnline処理が実行されます。

対処

対処する必要はありません。

6.1.1.18 WLT: Wait リスト

(WLT, 2) Resource *resource*'s *ScriptType* (*script*) has exceeded the ScriptTimeout of *timeout* seconds.

内容

リソース <*resource*> の <*script*> がScriptTimeout で指定した <*timeout*> 秒の時間を超過しました。

対処

<*script*> がタイムアウトした原因を調査し、必要に応じて対処を行ってください。

(WLT, 4) Object *object*'s script has been killed since that object has been deleted.

内容

オブジェクト <*object*> が削除されたため、このオブジェクトのスクリプトを終了します。

対処

対処する必要はありません。

(WLT, 7) Sending *SIGNAL* to script <*script*> (*pid*) now

内容

<*script*> に <*SIGNAL*> を送信しました。

RMS がスクリプトを強制終了したときに表示されるメッセージです。

対処

前後のメッセージを確認し、必要に応じてそれらの対処を行ってください。

6.1.1.19 WRP: ラッパ

(WRP, 19) RMS logging restarted on host <*SysNode*> due to a hvlogclean request.

内容

hvlogclean コマンドの実行により、ノード <*SysNode*> 上で RMS のロギング処理が新たに再開されます。

対処

対処する必要はありません。

(WRP, 20) This switchlog is being closed due to a hvlogclean request. RMS continues logging in a new switchlog that is going to be opened immediately. New detector logs are also going to be reopened right now.

内容

hvlogclean コマンドが実行されたため、switchlog をクローズします。クローズ後すぐに新しい switchlog がオープンされ、以降の RMS のログはそこに書き込まれます。ディテクタログも同様に新しいログに変更されます。

対処

対処する必要はありません。

(WRP, 21) A message cannot be sent into a Unix message queue from the process <*pid*>, <*process*>, after <*number*> attempts in the last <*seconds*> seconds. Still trying.

内容

プロセス <*pid*>、<*process*> による<*number*> 回の試行後、最後の<*seconds*> 秒間で、キューが満杯またはビジー状態であるため、メッセージをUNIX キューに送ることができませんでした。

対処

msgmnb やmsgtql など、システムメッセージキューの調整可能な値を確認し、必要に応じて値を増やしてから再起動してください。

(WRP, 22) A message cannot be sent into a Unix message queue id <*queueid*> by the process <*pid*>, <*process*>.

内容

メッセージキューによるプロセス間通信に失敗しました。

対処

msgmnb やmsgtql など、システムメッセージキューの調整可能な値を確認し、必要に応じて値を増やしてから再起動してください。

(WRP, 26) Child process <*cmd*> with pid <*pid*> has been killed because it has exceeded its timeout period.

内容

プロセスID<*pid*> の子プロセス<*cmd*> のタイムアウト時間が経過したため、親プロセスが子プロセス<*cmd*> を停止しました。

対処

対処する必要はありません。

(WRP, 27) Child process <*cmd*> with pid <*pid*> will not be killed though it has exceeded its timeout period.

内容

プロセスID<*pid*> の子プロセス<*cmd*> のタイムアウト時間が経過しましたが、親プロセスは子プロセス<*cmd*> を停止しません。

対処

対処する必要はありません。

(WRP, 36) Time synchronization has been re-established between the local node and cluster host *SysNode*.

内容

ローカルノードの時刻とクラスタノード <*SysNode*> の時刻が同期しました。

対処

対処する必要はありません。

(WRP, 37) The package parameters of the package <*package*> on the remote host <*hostname*> are: Version = <*version*>, Load = <*load*>.

内容

リモートホスト <*hostname*> 上のパッケージ <*package*> のバージョンは <*version*> で Load は <*load*> です。

対処

対処する必要はありません。

(WRP, 38) The Process Id (pid) and the startup time of the RMS monitor on the remote host <*hostname*> are <*pid*> and <*startuptime*>.

内容

リモートホスト <*hostname*> 上のRMSのプロセス ID と起動時刻は、それぞれ<*pid*>と<*startuptime*> です。

対処

対処する必要はありません。

(WRP, 49) The base monitor on the local host is unable to the ping the echo port on the remote host *SysNode*.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(WRP, 50) The base monitor on the local host is able to ping the echo port on the remote host *SysNode*, but is unable to communicate with the base monitor on that host.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(WRP, 53) Current heartbeat mode is <*mode*>.

内容

ハートビートは <*mode*> モードで動作します。

対処

対処する必要はありません。

(WRP, 59) The cluster host <*SysNode*> does not support ELM heartbeat. ELM heartbeat does not start. Use UDP heartbeat only.

内容

クラスタノード <*SysNode*> は、ELM ハートビートをサポートしていない可能性があるため、ELMハートビートは開始されません。

対処

前後のメッセージを確認し、必要に応じてそれらの対処を行ってください。

(WRP, 63) The ELM heartbeat started for the cluster host <*SysNode*>.

内容

クラスタノード <*SysNode*> との ELM ハートビートが開始されました。

対処

対処する必要はありません。

(WRP, 66) The elm heartbeat detects that the cluster host <*SysNode*> has become offline.

内容

ELM ハートビートにより、クラスタノード <*SysNode*> が offline 状態になったことが検出されました。

対処

対処する必要はありません。

6.1.2 警告(WARNING)メッセージ

この章では、switchlog に現れるRMS Warning メッセージについて詳しく説明します。

表示されたメッセージのコンポーネント名を確認し、以下の表で参照先を決定します。メッセージ番号順に説明されています。

コンポーネント名	参照先
ADC	"6.1.2.1 ADC: Admin 構成"
ADM	"6.1.2.2 ADM: Adminキュー、コマンドキュー、ディテクタキュー"
BAS	"6.1.2.3 BAS: 起動および構成定義エラー"
BM	"6.1.2.4 BM: ベースモニタ"
CTL	"6.1.2.5 CTL: コントローラ"
CUP	"6.1.2.6 CUP: userApplication コントラクト"
DET	"6.1.2.7 DET: ディテクタ"
SCR	"6.1.2.8 SCR: スクリプト"
SWT	"6.1.2.9 SWT: 切替要求 (hvswitch コマンド)"
SYS	"6.1.2.10 SYS: SysNode オブジェクト"
UAP	"6.1.2.11 UAP: userApplication オブジェクト"
US	"6.1.2.12 US: us ファイル"
WLT	"6.1.2.13 WLT: Wait リスト"
WRP	"6.1.2.14 WRP: ラッパ"

6.1.2.1 ADC: Admin 構成

(ADC, 19) Clearing the cluster Waitstate for SysNode <*sysnode*>, by faking a successful host elimination! If <*sysnode*> is actuality still Online, and/or if any applications are Online, this hvutil -u command may result in data corruption!

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(ADC, 23) File <*filename*> can't be opened: <*errortext*>.

内容

リモートノードに送信するためのファイルを開くことができません。

対処

<*errortext*> や、その他のWARNING/ERROR メッセージを確認してください。

(ADC, 24) File cannot be open for read.

内容

リモートノードに送信するためのファイルを読み取ることができません。

対処

メッセージ (ADC, 23) も出力されます。(ADC, 23) の<*errortext*> や、その他のWARNING/ERRORメッセージを確認してください。

(ADC, 51) hvshut utility has timed out.

内容

hvshut コマンドがタイムアウトしました。

なお、hvshut コマンドを -l/-s/-a のいずれかのオプションで実行した場合、クラスタアプリケーションに含まれるリソースの一部が停止に失敗した可能性があります。

対処

hvshut コマンドをタイムアウトさせないようにするためには、使用している環境にあわせてRMS グローバル環境変数 RELIANT_SHUT_MIN_WAIT を大きい値に変更してください。

 参照

RELIANT_SHUT_MIN_WAIT の詳細については、PRIMECLUSTER 4.3A30以降の場合、"PRIMECLUSTER RMS導入運用手引書"の"13.2 RMS グローバル環境変数"の"RELIANT_SHUT_MIN_WAIT"、PRIMECLUSTER 4.3A20以前の場合、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜クラスタ構築・運用時の留意点＞"の"B.1グローバル環境変数"の"RELIANT_SHUT_MIN_WAIT"を参照してください。

RMS環境変数の参照/変更方法については、"PRIMECLUSTER RMS 導入運用手引書"を参照してください。

また、hvshut コマンドを実行した際のオプションに応じて、以下の対処を行ってください。

- -l オプションで実行した場合

  コマンド実行ノードの OS をシャットダウンするか、ノードを強制停止してください。

- -s オプションで実行した場合

  コマンド対象ノードの OS をシャットダウンするか、ノードを強制停止してください。

- -a オプションで実行した場合

  RMS が正常終了したノード以外の全ノードの OS をシャットダウンするか、ノードを強制停止してください。

- -L オプションで実行した場合

  コマンド実行ノードの BM(ベースモニタ)プロセスが停止していない場合は、hvshut -f コマンドを実行し、RMS を強制停止してください。BM プロセスが停止している場合は、対処は必要ありません。

- -A オプションで実行した場合

  BM プロセスが停止していないノードが存在する場合は、それらのノードで hvshut -f コマンドを実行し、RMS を強制停止してください。すべてのノードで BM プロセスが停止している場合、対処は必要ありません。

(ADC, 65) Since RMS on this host has already encountered other Online nodes, it will remain running. However, no nodes reporting incorrect checksums will be brought Online.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.1.2.2 ADM: Adminキュー、コマンドキュー、ディテクタキュー

(ADM, 61) *object* is deactivated. Switch request skipped.

内容

非活性状態のクラスタアプリケーションの切替え要求を実行できません。

対処

クラスタアプリケーションを活性化して、切替え要求を再度発行してください。

(ADM, 65) System *hostname* is currently down !!!!

内容

現在停止状態の対象ノードに対してhvswitch コマンドが実行されました。

対処

対象ノードを起動して切替え要求を再度実行するか、別のノードを選択してください。

(ADM, 69) Shutting down RMS while resource *resource* is not offline.

内容

リソースを Offline にせずに、RMS が停止しました。

対処

OS をシャットダウンするか、ノードを強制停止してください。

(ADM, 80) Application <*userapplication*> has a not null attribute ControlledSwitch. Therefore, it should be switched from the controller. 'hvswitch' command ignored.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(ADM, 105) Shutdown on targethost <*sysnode*> in progress. Switch request for application <*object*> skipped!

内容

切替え要求の対象ノードが以前に発行されたシャットダウン要求に応答しています。切替え要求は取り消されました。

対処

対処する必要はありません。

(ADM, 110) Sysnode <*node*> has been marked as going down, but failed to become Offline. Check for a possibly hanging shutdown. Note that this SysNode cannot re-join the cluster without having finished its shutdown to avoid cluster inconsistency!

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(ADM, 111) Timeout occured for local hvshut request. Reporting a failure back to the command now!

内容

hvshut コマンドがタイムアウトしました。

なお、hvshut コマンドを -l/-s/-a のいずれかのオプションで実行した場合、クラスタアプリケーションに含まれるリソースの一部が停止に失敗した可能性があります。

対処

hvshut コマンドをタイムアウトさせないようにするためには、使用している環境にあわせてRMS グローバル環境変数RELIANT_SHUT_MIN_WAIT を大きい値に変更してください。

 参照

RELIANT_SHUT_MIN_WAIT の詳細については、PRIMECLUSTER 4.3A30以降の場合、"PRIMECLUSTER RMS導入運用手引書"の"13.2 RMS グローバル環境変数"の"RELIANT_SHUT_MIN_WAIT"、PRIMECLUSTER 4.3A20以前の場合、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜クラスタ構築・運用時の留意点＞"の"B.1グローバル環境変数"の"RELIANT_SHUT_MIN_WAIT"を参照してください。

RMS環境変数の参照/変更方法については、"PRIMECLUSTER RMS 導入運用手引書"を参照してください。

また、hvshut コマンドを実行した際のオプションに応じて、以下の対処を行ってください。

- -l オプションで実行した場合

  コマンド実行ノードの OS をシャットダウンするか、ノードを強制停止してください。

- -s オプションで実行した場合

  コマンド対象ノードの OS をシャットダウンするか、ノードを強制停止してください。

- -a オプションで実行した場合

  RMS が正常終了したノード以外の全ノードの OS をシャットダウンするか、ノードを強制停止してください。

- -L オプションで実行した場合

  コマンド実行ノードの BM(ベースモニタ)プロセスが停止していない場合は、hvshut -f コマンドを実行し、RMS を強制停止してください。BM プロセスが停止している場合は、対処は必要ありません。

- -A オプションで実行した場合

  BM プロセスが停止していないノードが存在する場合は、それらのノードで hvshut -f コマンドを実行し、RMS を強制停止してください。すべてのノードで BM プロセスが停止している場合、対処は必要ありません。

(ADM, 113) Terminating due to a timeout of RMS shutdown. All running scripts will be killed!

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(ADM, 114) *userapplication*: Shutdown in progress. AutoSwitchOver (ShutDown) attribute is set, but the userApplication failed to reach a settled Offline state. SwitchOver must be skipped!

内容

RMS のシャットダウン中に *userApplication* が Offline 状態への移行に失敗しました。この場合、AutoSwitchOver 属性に ShutDown オプションが指定されていても、切替え要求は取り消されます。

対処

RMS のシャットダウンが完了し、切替え要求が取り消されていることを確認してください。その後、*userApplication* の切替えを手動で行ってください。また、Offline 状態への移行に失敗した原因についてはログを確認してください。

(ADM, 115) Received "old style" shutdown contract, though no host with RMS 4.0 is member of the cluster. Discarding it!

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADM, 116) Received "new style" shutdown contract, though at least one host with RMS 4.0 is member of the cluster. Discarding it!

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.1.2.3 BAS: 起動および構成定義エラー

(BAS, 1) Object <*object*> is not offline!

内容

<*object*> のOffline 処理に失敗しました。オブジェクトは部分的にOnline のままであるため、切替え要求は取り消されます。

対処

ログを確認して<*object*> のOffline 処理が失敗した原因を突き止めてください。

(BAS, 8) Object <*object*> has no rName attribute. The rName attribute is normally used by the generic detector to determine which resource to monitor. Be sure that your detector can function without an rName attribute.

内容

オブジェクト <*object*> にrName 属性が定義されていません。この属性は汎用RMS ディテクタでは必須ですが、カスタムディテクタに存在しない可能性があります。

対処

対応するカスタムディテクタの設計に問題がなければ、対処する必要はありません。ただし、このオブジェクトで現在または将来に汎用ディテクタを使用することを予定している場合は、rName 属性を指定してください。

(BAS, 22) DetectorStartScript for kind <*kind*> is not defined in either .us or hvgdstartup files, therefore RMS will be using default <g*kind* -k*kind* -t*timeperiod*>.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.1.2.4 BM: ベースモニタ

(BM, 4) The CF cluster timeout <*cftimeout*> exceeds the RMS timeout <*rmstimeout*>. This may result in RMS node elimination request before CF timeout is exceeded. Please check the CF timeout specified in "/etc/default/cluster.config" and the RMS heartbeat miss time specified by hvcm '-h' option.

内容

CF のタイムアウトがRMS のタイムアウトを超えています。この場合、CF がタイムアウトする前にRMS からノードの強制停止要求が発行される可能性があります。

対処

/etc/default/cluster.config に指定されたCF のタイムアウトとhvcm -h で指定されたRMS ハートビートのタイムアウトを確認してください。

(BM, 8) Failed sending message <*message*> to object <*object*> on host <*host*>.

内容

クラスタ内の他のノードにメッセージ <*message*> を送信中に問題が発生すると、このメッセージが出力されます。送信先ノードのRMS が停止しているか、ネットワークに問題がある可能性があります。

対処

送信先ノードの RMS が稼動していること、およびネットワークに問題がないことを確認してください。

クラスタを構成する一部のノードが停止している状態で、fjsnap コマンド、pclsnap コマンド、および、hvdump コマンドを実行した場合に、本メッセージが出力されることがありますが、この場合は対処不要です。

(BM, 28) Application <*userapplication*> has a not null attribute ControlledHvswitch. Therefore, it should be switched on/off from the controller. 'hvutil -f/-c' command ignored.

内容

<*userapplication*> はスケーラブル運用のアプリケーションに制御されているため、hvutil -f/-c コマンドは無視されます。

対処

スケーラブル運用のアプリケーションに対し操作を行ってください。

(BM, 30) Ignoring dynamic modification failure for object <*object*>:attribute <*attribute*> is invalid.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(BM, 31) Ignoring dynamic modification failure at line *linenumber*: cannot modify attribute <*attribute*> of object <*object*> with value <*value*> because the attribute does not exist.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(BM, 53) The RMS-CF-CIP mapping cannot be determined for any host due to the CIP configuration file <*configname*> cannot be opened. Please verify all entries in <*configfilename*> are correct and that CF and CIP are fully configured.

内容

CIP 構成定義ファイルを開くことができないため、各ノードのRMS-CF-CIP のマッピングを確認できません。

対処

CIP 構成定義ファイルに問題がないこと、およびCF とCIP が正しく構成されていることを確認してください。

(BM, 70) Some messages were not sent out during RMS shutdown.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(BM, 76) Failed to find "rmshb" port address in /etc/services. The "hvutil -A" command will fail until a port entry for "rmshb" is made in the /etc/services file and RMS is restarted.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(BM, 77) Failed to allocate a socket for "rmshb" port monitoring.

内容

socket() の呼び出しで、rmshb のポートの割り当てに失敗しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(BM, 78) The reserved port for "rmshb" appears to be in use. The "rmshb" port is reserved in the /etc/services file but another process has it bound already. Select another port by editing the /etc/services file and propagate this change to all nodes in the cluster and then restart RMS.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(BM, 79) Failed to listen() on the "rmshb" port.

内容

listen()システムコールで、rmshbポートの呼び出しに失敗しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(BM, 82) A message to host <*remotehost*> failed to reach that host after <*count*> delivery attempts. Communication with that host has been broken.

内容

remotehost が実行中であり、ノード間の通信が可能であることを確認してください。ping などの標準的な方法で、ローカルのルートアカウントでリモートノードに rlogin または rsh ができることを確認してください。通信が再度確立された後に、ローカルの RMS を再起動してください。

対処

2つのノード間の通信が確実に行われるようにしてください。その後ローカルの RMS モニタを再起動してください。

(BM, 83) Failed to execute the fcntl system call.

内容

RMS でfcntl を使ってclose-on-exec フラグを設定することができませんでした。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(BM, 85) Application <*userapplication*> has a not null attribute *attribute*. Therefore, it should be deactivated from the controller. 'hvutil -d' command ignored.

内容

<*userapplication*> はスケーラブル運用のアプリケーションに制御されているため、hvutil -d コマンドは無視されます。

対処

スケーラブル運用のアプリケーションに対し操作を行ってください。

(BM, 112) Controller <*controller*> has its attribute Follow set to 1, while its ClusterExclusive attribute is set to 0. However, it is controlling, directly or indirectly via a chain of Follow controllers, an application <*application*> -- that application contains a resource named <*resource*> which attribute ClusterExclusive is set to 1. This is not allowed due to a potential problem of that resource becoming Online on more than one host. Cluster exclusive resources must be controlled by cluster exclusive Follow controllers.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(BM, 119) The RMS base monitor failed to be locked in memory via mlockall() - <*errortext*>.

内容

HV_MLOCKALL 環境変数を1 に設定すると、ベースモニタプロセスおよびベースモニタプロセスによって割り当てられたメモリが固定されます。本メッセージが出力された場合は、ベースモニタがメモリをロックできなかったことを示しています。この場合RMSはロックされていないメモリを使用して動作を続けます。

対処

<*errortext*> で原因を突き止め、十分なメモリがあることを確認してください。

6.1.2.5 CTL: コントローラ

(CTL, 6) Controller <*controller*> has detected more than one controlled application Online.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(CTL, 7) Controller <*controller*> has its attribute <IgnoreOnlineRequest> set to 1 and its OnlineScript is empty. Therefore, a request Online to the controller might fail to bring the controlled application Online.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(CTL, 8) Controller <*controller*> has its attribute <IgnoreOffineRequest> set to 1 and its OffineScript is empty. Therefore, a request Offline to the controller might fail to bring the controlled application Offline.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(CTL, 11) Controller <*controller*> has its attributes StandbyCapable set to 1, its attribute <IgnoreStandbyRequest> set to 1 and its OnlineScript is empty. Therefore, a request Standby to the controller might fail to bring the controlled application Standby.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.1.2.6 CUP: userApplication コントラクト

(CUP, 1) *userApplication*: priority list conflict detected, trying again ...

内容

priority list には *userApplication* の切替え先のノードの優先順序が設定されます。RMS の起動、停止による priority list 更新では、ノード間で priority list が一致するように同期処理されますが、一時的にノード間の priority list が一致しない場合に、本メッセージが出力されます。

対処

対処する必要はありません。

(CUP, 9) *userApplication*: Switch Request skipped, processing of current online host contract is not yet settled.

内容

現在オンラインのノードコントラクトの処理が未解決であるため、切替え要求が取り消されました。

対処

クラスタアプリケーションがOnlineにならない場合は、手動で切替え要求を呼び出してください。

(CUP, 11) *userapplication* offline processing failed! The application is still partially online. The switch request is being skipped.

内容

userApplication のOffline 処理に失敗しました。*userApplication* は部分的にOnline のままであるため、切替え要求は取り消されます。

対処

ログファイルを確認して、Offline 処理が失敗した原因を突き止めてください。

(CUP, 12) *userApplication* switch request skipped, required target node is not ready to go online!

内容

SysNode への切替え要求が実行されましたが、*userApplication* は SysNode 上で Online に遷移可能な状態ではありません。

対処

userApplication が SysNode 上で Online に遷移可能な状態となってから、切替え要求を再度実行してください。

(CUP, 13) *userApplication* switch request skipped, no available node is ready to go online!

内容

切替え要求が実行されましたが、*userApplication* が Online 状態に遷移可能な SysNode が存在しません。

対処

userApplication が Online 状態に遷移可能な SysNode が存在する状態となってから、切替え要求を再度実行してください。

(CUP, 14) *userApplication* did not get a response from <*sender*>.

内容

タイムアウトが発生しました。

対処

*userApplication*がOnline にならない場合は、他のすべてのノード上で*userApplication*がOnline になっていないことを確認してから、手動で切替えを実行してください。

(CUP, 15) *userApplication*: targethost <*host*> is no longer available.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(CUP, 16) *userapplication* offline processing failed! The application is still partially online. The switch request is being skipped.

内容

userApplication のOffline 処理に失敗しました。*userApplication* は部分的にOnline のままであるため、切替え要求は取り消されます。

対処

ログファイルを確認して、Offline 処理が失敗した原因を突き止めてください。

(CUP, 17) *userApplication*: current online host request of host "*host*" accepted, local inconsistency has been overridden with the forced flag.

内容

ローカルにInconsistent 状態が存在しますが、強制切替オプション (hvswitch -f) が指定されたため、現在のオンラインノード要求が受け入れられ、ローカルのInconsistent 状態は解消されました。

対処

対処する必要はありません。

(CUP, 18) *userApplication*: current online host request of host "*host*" denied due to a local inconsistent state.

内容

Inconsistent 状態であるため、Online 要求が拒否されます。

対処

Inconsistent 状態をクリアしてください。

(CUP, 19) *userApplication*: is locally online, but is inconsistent on another host Trying to force a CurrentOnlineHost contract ...

内容

アプリケーションは現在ローカルノード上でOnline になっています。アプリケーションは強制切替えオプションを使用して別のノードに切替えられ、不整合は解消されます。

対処

対処する必要はありません。

(CUP, 20) *userApplication*: AutoStart skipped, application is inconsistent on host "*hostname*".

内容

Inconsistent 状態であるため、AutoStartUp の処理は取り消されます。

対処

Inconsistent 状態をクリアしてください。

(CUP, 21) *userApplication*: FailOver skipped, application is inconsistent on host "*hostname*".

内容

Inconsistent 状態であるため、フェイルオーバ処理が取り消されます。

対処

Inconsistent 状態をクリアしてください。

(CUP, 22) *userApplication*: Switch Request skipped, application is inconsistent on host "*hostname*".

内容

Inconsistent 状態であるため、切替え要求は取り消されます。

対処

Inconsistent 状態をクリアしてください。

(CUP, 23) *userApplication*: Switch Request skipped, application is inconsistent on local host.

内容

Inconsistent 状態であるため、切替え要求は取り消されます。

対処

Inconsistent 状態をクリアしてください。

(CUP, 24) *userApplication*: Switch Request processed, local inconsistency has been overridden with the forced flag.

内容

Inconsistent 状態ですが、強制切替オプション (hvswitch -f)により切替え要求が受け入れられ、不整合状態が解消されました。

対処

対処する必要はありません。

(CUP, 25) *userApplication* is currently in an inconsistent state.
The switch request is being skipped.
Clear inconsistency first or you may override this restriction by using the forced switch option.

内容

userApplication が現在ローカルノード上でInconsistent 状態です。Inconsistent 状態をクリアしないかぎりアプリケーションを切替えることはできないため、切替え要求は取り消されます。

対処

Inconsistent 状態をクリアしてください。

(CUP, 26) *userApplication*: LastOnlineHost conflict detected. Processing an AutoStart or PrioSwitch CurrentOnlineHost Contract with OnlinePriority enabled. TargetHost of Switch request is host "*host*", but the local host is the LastOnlineHost. Denying the request.

内容

ノード間で矛盾が検出されました。ローカルノードが最後にOnline状態だったノードであるため、ローカルノード上のアプリケーションがオンラインになります。

対処

対処する必要はありません。

(CUP, 27) *userApplication*: LastOnlineHost conflict occurred. Skipping local Online request, because host "*host*" has a conflicting LastOnlineHost entry.

内容

ノード間で矛盾が検出されました。ローカルノードが最後にOnline状態だったノードではないため、他のノード上のアプリケーションがオンラインになります。

対処

対処する必要はありません。

(CUP, 28) *userApplication*: priority switch skipped, cannot get a deterministic information about the LastOnlineHost. Tried to switch to "*hostname*", but "*loh*" claims to be the LastOnlineHost.
Conflict may be resolved by system administrator intervention (specifying explicitly the targethost in the hvswitch call).

内容

LastOnlineHost の矛盾が検出され、RMS がLastOnlineHost を確認できないため、アプリケーションはどのノード上でもOnline になりません。

対処

対象ノードを指定する切替え要求を実行してください。

(CUP, 29) *userApplication*: LastOnlineHost conflict occurred. Timestamps of conflicting LastOnlineHosts entries do not allow a safe decision, because their difference is lower than time seconds. Conflict must be resolved by system administrator intervention (invalidate LastOnlineHost entry via "hvutil -i *userApplication*" and invoke an explicate hvswitch call).

内容

LastOnlineHost のタイムスタンプエントリの誤差がHV_LOH_INTERVAL 未満でした。そのため、アプリケーションはどのノード上でもOnline になりません。

対処

LastOnlineHost のエントリをhvutil -i <*userApplication*> で無効にし、対象ノードを指定して切替え要求を実行してください。

(CUP, 30) *userApplication*: Denying maintenance mode request. userApplication is busy or is in stateFaulted.

内容

userApplication がビジー状態またはFaulted 状態であるため、保守モードの要求 (hvutil-m on/off) が拒否されます。

対処

Faulted 状態をクリアし、保守モードの要求を再度実行してください。

(CUP, 31) *userApplication*: maintenance mode request was denied by the remote SysNode "*SysNode*" because userApplication is busy or is in stateFaulted or not ready to leave Maintenance Mode. See remote switchlog for details

内容

リモートノードの*userApplication* がビジー状態またはFaulted 状態であるか、保守モードを終了する準備ができていないため、保守モードの要求 (hvutil -m on/off) が拒否されます。

対処

リモートノードのswitchlog で詳細を確認してください。

(CUP, 32) *userApplication*: Denying maintenance mode request. The following object(s) are not in an appropriate state for safely returning to normal operation: <*resource*>

内容

リソースが適切な状態でないため、安全に通常の処理に戻ることができません。このため、保守モードの要求 (hvutil -m on/off) が拒否されます。

対処

指摘されているリソースの状態を修正してください。

(CUP, 33) *userApplication*: Denying maintenance mode request. The initialization of the state of the userApplication is not yet complete.

内容

userApplication の状態の初期化が完了していないため、保守モードの要求 (hvutil -m on/off) が拒否されます。

対処

userApplication の状態の初期化が完了してから、保守モードの要求を再度実行してください。

(CUP, 34) *userApplication*: LastOnlineHost conflict detected. Processing an AutoStart or PrioSwitch CurrentOnlineHost Contract with OnlinePriority enabled. TargetHost of Switch request is host "*host*", but the local host is the LastOnlineHost. The local host takes over Switch request.

内容

ノード間で矛盾が検出されました。ローカルノードが最後にOnline状態だったノードであるため、ローカルノード上のアプリケーションがオンラインになります。

対処

対処する必要はありません。

6.1.2.7 DET: ディテクタ

(DET, 29) Resource <*resource*>: received detector report DetReportsOnlineWarn. The WarningScript "*warningscript*" will be run.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(DET, 31) Resource <*resource*> received detector report "DetReportsOfflineFaulted", the posted state will become <*offlinefault*> until one of the subsequent reports "DetReportsOffline", "DetReportsOnline", "DetReportsStandby" or "DetReportsFaulted"

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(DET, 35) Resource <*resource*> received detector report "DetReportsOnlineWarn", the WarningScript is not defined and will not be run.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

6.1.2.8 SCR: スクリプト

(SCR, 17) Resource <*resource*> WarningScript has failed with status *status*.

内容

<*resource*> の WarningScript が <*status*> で異常終了しました。

対処

<*resource*> に設定した WarningScript に問題がないか調査してください。

(SCR, 25) Controller <*resource*> StateChangeScript has failed with status *status*.

内容

StateChangeScript が、終了コード *n* で終了しました。

対処

終了コード *n* を通知した、Controller の StateChangeScript で設定したスクリプトに問題がないか調査してください。

(SCR, 31) AppStateScript of userApplication *userapplication* has failed with status *status*.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.1.2.9 SWT: 切替要求 (hvswitch コマンド)

(SWT, 1) The 'AutoStartUp' attribute is set and the HV_AUTOSTART_WAIT time for the user application <*appli*> has expired, without an automatic start up having yet taken place. Reason: not all necessary cluster hosts are online!

内容

AutoStartup=1 で、かつ、PartialCluster=0 で、かつ、全ノード起動が HV_AUTOSTART_WAIT の時間内に行われなかったことを示しています。

対処

対処不要です。

(SWT, 5) AutoStartUp skipped by *object*. Reason: object is faulted!

内容

Faulted 状態であるため、AutoStartUp は取り消されます。

対処

Faulted 状態をクリアしてください。

(SWT, 6) AutoStartUp skipped by *object*. Reason: Fault occurred during initialization!

内容

Faulted 状態であるため、AutoStartUp は取り消されます。

対処

Faulted 状態をクリアしてください。

(SWT, 7) AutoStartUp skipped by *object*. Reason: object is deactivated!

内容

userApplication がDeact 状態であるため、AutoStartUp は取り消されます。

対処

userApplication のDeact状態を解除し、アプリケーションを手動で起動してください。

(SWT, 8) AutoStartUp skipped by *object*. Reason: not all necessary cluster hosts are online!

内容

PartialCluster 属性が0 に設定され、必要なすべてのクラスタノードがOnline にならないため、AutoStartUp が取り消されます。

対処

必要なすべてのクラスタノードでRMS を起動した後、必要に応じてアプリケーションを手動で起動してください。

(SWT, 11) *object*: no responsible node available, switch request skipped.

内容

userApplication が切替え可能なノードが存在しないため、切替え要求は取り消されます。

対処

userApplication が切替え可能なノードが準備できたら、切替え要求を再度実行してください。切替え可能なノードとは、userApplication が Offline または Standby 状態のノードです。

(SWT, 12) *object* is busy or locked, switch request skipped.

内容

<*object*> がビジーまたはロック状態であるため、切替え要求は取り消されます。

対処

切替え要求を再度実行してください。

<*object*> が Wait 状態の場合は、状態遷移が完了するのを待ってから切替え要求を再度実行してください。

(SWT, 13) Not all necessary cluster hosts for application <*userapplication*> are online, switch request is being skipped. If the application should be brought online anyway, use the force flag. Be aware, however, that forcing the application online could result in an inconsistent cluster if the application is online somewhere else!

内容

アプリケーションに必要なすべてのクラスタノードがOnline になっていないため、切替え要求は取り消されます。

対処

アプリケーションをOnline にする必要がある場合は、強制切替オプション(hvswitch -f) を使用してください。

注意

強制切替えを実施した場合、整合性が失われたりデータが破損する場合があるので注意が必要です。PRIMECLUSTER 4.3A10以降(Solaris版)、または、PRIMECLUSTER 4.3A30以降(Linux版)では、クラスタアプリケーションの強制切替え時にデータが破損するリスクを低減するため、RMS が起動していないノードを強制停止してからクラスタアプリケーションを強制起動する場合があります。

(SWT, 14) *object* is deactivated, switch request skipped.

内容

アプリケーションがDeact 状態であるため、切替え要求は取り消されます。

対処

アプリケーションのDeact 状態を解除し、要求を再度発行してください。

(SWT, 16) Switch request skipped, no target host found or target host is not ready to go online!

内容

切替えに指定したノードが見つからないか、Online にする準備ができていないため、切替え要求は取り消されます。

対処

対象ノードがOnline になるまで待機するか、対象ノードを起動してください。

(SWT, 18) *object*: is not ready to go online on local host, switch request skipped!

内容

アプリケーションまたはローカルノードが遷移状態であるため、切替え要求は取り消されます。

対処

アプリケーションとローカルノードがOnline になってから、切替え要求を再度実行してください。

(SWT, 19) *object:* is not ready to go online on local host, trying to find another host.

内容

優先順位、または最後にonline状態だったノードへの切替えが指定されている場合で、切替対象となるノードのクラスタアプリケーションがFault状態のとき、切替え要求は拒否されて、クラスタ内の他のノードに切替えられます。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 21) *object*: local node has faulted or offlinefaulted descendants, no other node is ready to go online, switchover skipped.

内容

<*object*> に Faulted または OfflineFaulted のリソースが存在するため、切替要求は取り消されます。

対処

Faulted/OfflineFaulted 状態をクリアしてください。

(SWT, 22) *object*: local node has faulted or offlinefaulted descendants, forwarding switchover request to next host: *targethost*.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 23) *object* is busy or locked, deact request skipped.

内容

対象アプリケーションがビジーまたはロック状態のため、Deact 要求を処理できません。

対処

対象アプリケーションの状態が変更されるまで待機してから、Deact 要求を再度実行してください。

(SWT, 24) *object* is deactivated, switch request skipped.

内容

対象アプリケーションがDeact 状態のため、切替え要求を処理できません。

対処

対象アプリケーションを活性化してください。

(SWT, 28) *hostname* is unknown locally!

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 30) <*object*> was Online on <*onlinehost*>, which is not reachable. Switch request must be skipped to ensure data integrity. This secure mechanism may be overridden with the forced flag (-f) of the hvswitch command. WARNING: Ensure, that no further access to the data is performed by <*onlinehost*>, otherwise the use of the -f flag may break data consistency!

内容

object はリモートノード *onlinehost* で Online 状態でしたが、現在操作不能です。強制停止オプション (hvshut -f) を指定して *onlinehost* をシャットダウンしたか、またはタイミングの問題が原因の可能性があります。データ保護のため、切替要求は取り消されます。

対処

アプリケーションを Online にする必要がある場合は、強制切替オプション (hvswitch -f) を使用してください。

 注意

強制切替えを実施した場合、整合性が失われたりデータが破損する場合があるので注意が必要です。PRIMECLUSTER 4.3A10以降(Solaris版)、または、PRIMECLUSTER 4.3A30以降(Linux版)では、クラスタアプリケーションの強制切替え時にデータが破損するリスクを低減するため、RMS が起動していないノードを強制停止してからクラスタアプリケーションを強制起動する場合があります。*onlinehost* をシャットダウンする際に強制停止オプション (hvshut -f) を指定していない場合は、タイミングの問題が考えられますので、しばらく待ってから再度切替えを行ってください。

(SWT, 31) <*object*> was Online on <*onlinehost*>, which is not reachable. Caused by the use of the force flag the RMS secure mechanism has been overridden, Switch request is processed.

内容

object はリモートノード *onlinehost* で Online 状態でしたが、現在操作不能です。ただし、強制切替オプション (hvswitch -f) が使用されたため、切替要求は処理されます。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 32) <*object*> is currently in an inconsistent state on local host. The switch request is being skipped. Clear inconsistency first or you may override this restriction by using the forced switch option.

内容

アプリケーションが現在ローカルノード上でInconsistent 状態です。Inconsistent 状態をクリアしないかぎりアプリケーションを切替えることはできないため、切替え要求は取り消されます。

対処

Inconsistent 状態をクリアしてください。

アプリケーションをOnline にする必要がある場合は、強制切替オプション(hvswitch -f) を使用してください。

 注意

強制切替えを実施した場合、整合性が失われたりデータが破損する場合があるので注意が必要です。PRIMECLUSTER 4.3A10以降(Solaris版)、または、PRIMECLUSTER 4.3A30以降(Linux版)では、クラスタアプリケーションの強制切替え時にデータが破損するリスクを低減するため、RMS が起動していないノードを強制停止してからクラスタアプリケーションを強制起動する場合があります。

(SWT, 33) <*object*> is not ready to go online on the local host. Due to a local inconsistent state no remote targethost may be used. The switch request is being skipped.

内容

アプリケーションが現在ローカルノード上でInconsistent 状態です。Inconsistent 状態をクリアしないかぎりアプリケーションを切替えることはできないため、切替え要求は取り消されます。

対処

Inconsistent 状態をクリアしてください。

アプリケーションをOnline にする必要がある場合は、強制切替オプション(hvswitch -f) を使用してください。

注意

強制切替えを実施した場合、整合性が失われたりデータが破損する場合があるので注意が必要です。PRIMECLUSTER 4.3A10以降(Solaris版)、または、PRIMECLUSTER 4.3A30以降(Linux版)では、クラスタアプリケーションの強制切替え時にデータが破損するリスクを低減するため、RMS が起動していないノードを強制停止してからクラスタアプリケーションを強制起動する場合があります。

(SWT, 34) <*object*> is not ready to go online on local host trying to find another host.

内容

userApplication をローカルノード上でOnline にする準備ができていないため、RMS は切替え要求を優先順位リストの次のノードに転送します。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 35) *object* is not ready to go online on local host switch request skipped.

内容

userApplication をローカルノードで Online にするための準備ができていないため、切替え要求は取り消されます。

対処

userApplication がローカルノードで Offline または Standby 状態であることを確認してください。

(SWT, 36) <*sysnode*> is in Wait state, switch request skipped.

内容

*sysnode*がWait 状態であるため、切替え要求は取り消されます。

対処

ノードのWait 状態が終了するまで待機してから、切替え要求を再度実行してください。

(SWT, 37) AutoStartUp for application <*userapplication*> is ignored since hvmod had been invoked with the flag '-i'.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 58) Processing policy switch request for application *userapplication*. The cluster host *sysnode* is in a Wait state, no switch request can be processed. The application will go offline now.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 59) Processing policy switch request for application *userapplication*. No cluster host is available to take over this application. The application will go offline now.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 60) Processing policy switch request for application *userapplication* which is in state Standby. The application will go offline now.

内容

切替え処理中に排他アプリケーションがノードに切替わると、Standby 状態のすべてのクラスタアプリケーションは、優先順位が低いため、オフラインになります。このメッセージは、クラスタアプリケーションがStandby 状態にあり、上記の理由からオフラインになることをユーザに通知する警告メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(SWT, 69) AutoStartUp for application <*userapplication*> is ignored since, the environment variable HV_AUTOSTARTUP is set to 0.

内容

HV_AUTOSTARTUP 環境変数が0 に設定されていることにより各アプリケーションのAutoStartUp 属性が無効になります。アプリケーションは自動起動しません。

対処

各アプリケーションのAutoStartUp属性に従ってアプリケーションを起動させるには、HV_AUTOSTARTUP 環境変数を1 に設定してください。

(SWT, 72) *userapplication* received Maintenance Mode request from the controlling userApplication. The request is denied, because the state is either Faulted or Deact or the application is busy or locked.

内容

状態がFaulted またはDeact であるか、アプリケーションがビジーまたはロック中であるため、制御側*userApplication* からの保守モード要求は拒否されます。

対処

Faulted またはDeact 状態をクリアしてから、保守モード要求を再度実行してください。

6.1.2.10 SYS: SysNode オブジェクト

(SYS, 16) The RMS internal SysNode name "*sysnode*" is not compliant with the naming convention of the Reliant Cluster product. A non-compliant setting is possible, but will cause all RMS commands to accept only the SysNode name, but not the HostName (uname -n) of the cluster nodes!

内容

RMS の SysNode 名が <`uname -n`>RMS という形式ではありません。

Oracle Solaris ゾーン環境で PRIMECLUSTER を使用する構成では、ノングローバルゾーンのホスト名が大文字を含む場合、ノングローバルゾーンの RMS 起動時に本メッセージが出力されることがあります。

対処

対処する必要はありません。

(SYS, 18) The SysNode <*sysnode*> does not follow the RMS naming convention for SysNodes. To avoid seeing this message in the future, please rename the SysNode to use the CF-based name of the form "<CFname>RMS" and restart the RMS monitor.

内容

RMSのSysNode名が<CFname>RMSと一致してません。

対処

SysNode 名を<CFname>RMS に変更してください。

(SYS, 88): No heartbeat from cluster host *sysnode* within the last 10 seconds. This may be a temporary problem caused by high system load. RMS will react if this problem persists for *time* seconds more.

内容

RMS 間のハートビートが途切れ、<*time*>秒以上たっても応答がない場合、強制停止を実行します。

対処

以下の要因が考えられます。要因に従って対処を行ってください。

- クラスタインタコネクトがハード故障により通信ができない。

  LAN カード交換、ケーブル交換などを行い、ハード故障の要因を取り除いてください。

- RMS がハートビート処理できないほど、システムの CPU 負荷が長時間発生している。

  <*SysNode*> のホストが高負荷となっている処理を見直してください。

- NTP で急激な時刻戻しが行われた。

  NTP でゆっくりとした時刻合わせを行なってください。

(SYS, 99) The attribute <*alternateip*> specified for SysNode <*sysnode*> should not be used in CF mode. Ignoring it.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

6.1.2.11 UAP: userApplication オブジェクト

(UAP, 2) *object* got token *token* from node *node*.
TOKEN SKIPPED! Reason: *errortext*.

内容

このメッセージは<*reason*>の理由により処理を実行しない場合に出力されるメッセージです。何らかの処理を実行中に Cluster Admin などで別の処理をしようとした場合に出力されます。例えば、userApplication が Standby へ移行する前処理(PreCheck 処理)の実行中に Offline 処理の要求が発行された場合、userApplication は Standby への処理を行っているため、Offline 処理を実行しない旨を出力します。

対処

対処する必要はありません。

(UAP, 3) *object*: double fault occurred and Halt attribute is set. Halt attribute will be ignored, because no other cluster host is available.

内容

切替え可能なノードが存在しません。Halt 属性は無視されます。

対処

切替え可能なクラスタノードを確認してください。

(UAP, 4) *object* has become online, but is also in the HV_AUTOSTARTUP_IGNORE list of cluster hosts to be ignored on startup! The Cluster may be in an inconsistent condition!

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(UAP, 11) *object* is not ready to go online on local node. Online processing skipped.

内容

ローカルノード上のuserApplication はビジーまたはFaulted 状態であるため、Online になる準備ができていません。

対処

Faulted 状態をクリアしてください。

(UAP, 12) *object*: targethost of switch request: <*host*> no longer available, request skipped.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(UAP, 14) *object*: is not ready to go online on local host. Switch request skipped.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(UAP, 18) SendUAppLockContract(): invalid token: *token*.

内容

処理中に無効なトークンを受信しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 25) AutoStartUp skipped by *object*. Reason: not all necessary, cluster hosts are online!

内容

必要なすべてのクラスタノードがOnline になっていないため、userApplication は自動起動しませんでした。

対処

必要なすべてのクラスタノードをOnline にしてください。

(UAP, 30) *object* is not ready to go online on local host. Trying to find another host.

内容

ローカルノード上のuserApplication はOnline になる準備ができていないため、別のノードを検索します。

対処

対処する必要はありません。

(UAP, 52) *userapplication*: double fault occurred and Halt attribute is set. Halt attribute will be ignored, because attribute AutoSwitchOver is set to *attrvalue*.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

6.1.2.12 US: us ファイル

(US, 10) *object*: userApplication transitions into stateOnline, though it was faulted before according to the persistent Fault info. Check for possible inconsistencies

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

(US, 23) *appli*: double fault occurred, processing terminated.

内容

リソースの Offline 処理で異常が発生し、userApplication <*appli*> の Offline 処理が中断されたことを示します。

対処

異常により Faulted 状態となっているリソースを特定し、復旧を行ってください。

(US, 28) *object*: PreCheck failed
switch request will be canceled now and not be forwarded to another host, because this was a directed switch request, where the local host has explicitely been specified as targethost.

内容

直接切替要求（対象ノードが明示的に指定されている切替え要求）の処理中にPreCheckScript が失敗しました。切替え要求は取り消され、優先順位リスト上の次のノードに転送されません。

対処

新しい切替え要求を呼びだし、次の優先順位のノードを対象ノードに指定してください。RMSで切替え要求が自動転送される場合、優先切替え（対象ノードを指定しないhvswitch）を呼び出す必要があります。

(US, 29) *object*: PreCheck failed
trying to find another host ...

内容

優先切替え要求の処理中にPreCheckScript が失敗しました。この場合、切替え要求は取り消され、優先順位リスト上の次のノードに転送されます。

対処

対処する必要はありません。

(US, 43) *object*: PreCheck failed Standby request canceled.

内容

PreCheckScript の実行が失敗し、スタンバイ処理が中止されます。

対処

PreCheckScript が失敗した原因を突き止め、必要に応じてスクリプトを修正してください。

(US, 45) *object*: PreCheck failed switch request will be canceled now and not be forwarded to another host, because AutoSwitchOver=ResourceFailure is not set.

内容

PreCheckScript が失敗しました。AutoSwitchOver 属性にResourceFailure オプションが指定されていないため、RMS は自動処理を行いません。切替え要求は取り消され、優先順位リスト上の次のノードに転送されません。

対処

新しい切替え要求を呼びだし、次の優先順位のノードを対象ノードに指定してください。RMSで切替え要求を自動転送する場合は、AutoSwitchOver 属性のResourceFailure オプションをオンにしてください。

(US, 47) *userapplication*: Processing of Clear Request resulted in a Faulted state. Resuming Maintenance Mode nevertheless. It is highly recommended to analyse and clear the fault condition before leaving Maintenance Mode!

内容

<*userapplication*> に対してClear 要求 (hvutil -c) が発行されました。クリアに失敗したため、アプリケーションがFaulted 状態になりました。

対処

switchlog を確認してエラーの原因を突き止め、障害状態を修正してからhvutil -c を再度実行してください。また、障害状態がクリアされるまでは保守モードを終了しないでください。

(US, 55) *object*: PreCheck failed, because the controller userApplication of type LOCAL "*userapplication*" is not ready to perform a PreCheck.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.1.2.13 WLT: Wait リスト

(WLT, 6) Resource *resource*'s script did not terminate gracefully after receiving SIGTERM.

内容

リソースのスクリプトが正常に終了しませんでした。

対処

スクリプトでタイムアウトが発生していないかどうかを確認してください。

6.1.2.14 WRP: ラッパ

(WRP, 11) Message send failed, queue id <*queueid*>, process <*process*>, <*name*>, to host <*node*>.

内容

RMS はノード間でメッセージを交換してノード間の通信を維持します。メッセージの配信が失

敗すると、このエラーが発生します。クラスタ内で 1つ以上のノードがアクティブでないこと、

またはネットワークの問題が原因です。

対処

(i) クラスタ内の他のノードを確認します。稼動しているノードが無い場合は、switchlog を参照して RMS がこれらのノード上で停止した原因を調べます。

1. 'hvdisp -a'
2. ステップ (a) の出力で、タイプが SysNode であるリソースの状態が、Offline かどうかを調べます。Offline の場合、RMS はそのノード上で稼動していません。
3. Offline 状態のすべてのノードの switchlog を参照して、RMS がそのノード上で稼動していない理由を調べます。

(ii) クラスタを構成する他のノードがアクティブの場合は、ネットワークに問題があります。

クラスタを構成する一部のノードが停止している状態で、fjsnap コマンド、pclsnap コマンド、および、hvdump コマンドを実行した場合に、本メッセージが出力されることがありますが、この場合は対処不要です。

(WRP, 39) The RMS base monitor has not been able to process timer interrupts for the last *n* seconds. This delay may have been caused by an unusually high OS load. The differences between respective values of the times() system call are for tms_utime *utime*, for tms_stime *stime*, for tms_cutime *cutime*, and for tms_cstime *cstime*. If this condition persists, then normal RMS operations can no longer be guaranteed; it can also lead to a loss of heartbeats with remote hosts and to an elimination of the current host from the cluster.

内容

RMS が一定秒数（*n* 秒）動作できませんでした。

対処

一時的な CPU 高負荷状態によって表示されることがあります。負荷が軽減されると RMS は正常に動作します。したがって、短期間の CPU 高負荷では、本メッセージが出力されても影響はありません。

(WRP, 41) The interconnect entry <*interconnect*> specified for SysNode <*sysnode*> has the same IP address as that of the interface <*existinginterconnect*>.

内容

<*interconnect*> と<*existinginterconnect*> のIP アドレスが同じです。

対処

インタコネクトに異なるIP アドレスが指定されていることを確認してください。

(WRP, 51) The 'echo' service for udp may not have been turned on, on the local host. Please ensure that the echo service is turned on.

内容

UDP のecho サービスがローカルノード上で有効になっていない可能性があります。

対処

echo サービスが有効になっていること、および起動されていることを確認してください。

6.1.3 致命的でないエラー(ERROR)メッセージ

この章では、switchlog ファイルに現れる致命的でない (non-fatal) RMS エラーメッセージについて詳しく説明します。

表示されたメッセージのコンポーネント名を確認し、以下の表で参照先を決定します。メッセージ番号順に説明されています。

コンポーネント名	参照先
ADC	"6.1.3.1 ADC: Admin 構成"
ADM	"6.1.3.2 ADM: Adminキュー、コマンドキュー、ディテクタキュー"
BAS	"6.1.3.3 BAS: 起動および構成定義エラー"
BM	"6.1.3.4 BM: ベースモニタ"
CML	"6.1.3.5 CML: コマンドライン"
CRT	"6.1.3.6 CRT: コントラクトおよびコントラクトジョブ"
CTL	"6.1.3.7 CTL: コントローラ"
CUP	"6.1.3.8 CUP: userApplication コントラクト"
DET	"6.1.3.9 DET: ディテクタ"
GEN	"6.1.3.10 GEN: 汎用ディテクタ"
INI	"6.1.3.11 INI: init スクリプト"
MIS	"6.1.3.12 MIS: その他"
QUE	"6.1.3.13 QUE: メッセージキュー"
SCR	"6.1.3.14 SCR: スクリプト"
SWT	"6.1.3.15 SWT: 切替要求 (hvswitch コマンド)"
SYS	"6.1.3.16 SYS: SysNode オブジェクト"
UAP	"6.1.3.17 UAP: userApplication オブジェクト"
US	"6.1.3.18 US: us ファイル"
WLT	"6.1.3.19 WLT: Wait リスト"
WRP	"6.1.3.20 WRP: ラッパ"

6.1.3.1 ADC: Admin 構成

(ADC, 1) Since this host <*hostname*> has been online for no more than *time* seconds and due to the previous error, it will shut down now.

内容

time は、環境変数 HV_CHECKSUM_INTERVAL の値でデフォルト値は、120 秒です。このメッセージが出力されるのは、ローカルノードとリモートノードの RMS 構成定義ファイルのチェックサムが異なり、かつ経過時間が *time* 秒以内であり、かつ以下のいずれかの条件が満たされる場合です。

- リモートノードがクラスタに参入し、ローカルノード上のすべてのアプリケーションがOffline または Faulted の状態である。RMS が終了コード 60 で終了する。
- リモートノードの構成にローカルノードが含まれているが、ローカルノードの構成にリモートノードが含まれていない。ローカルノード *hostname* が終了コード 60 で終了する。

対処

ローカルノードおよびリモートノードが別々の RMS 構成定義ファイルで実行されています。両方のノードが同じ RMS 構成定義ファイルで実行されるようにしてください。

(ADC, 2) Since not all of the applications are offline or faulted on this host <*hostname*>, and due to the previous error, it will remain online, but neither automatic nor manual switchover will be possible on this host until <*detector*> detector will report offline or faulted.

内容

ローカルノードとリモートノードの RMS 構成定義ファイルのチェックサムが異なり、経過時間が HV_CHECKSUM_INTERVAL に指定された秒数以内であり、Offline または Faulted でないアプリケーションが存在します。RMS は Online 状態を維持しますが、ディテクタ *detector* がOffline または Faulted を報告するまでは、このノード上で自動切替および手動切替のいずれもできません。

対処

ローカルノードとリモートノードの両方が同じ RMS 構成定義ファイルで稼動するようにしてください。

(ADC, 3) Remote host <*hostname*> reported the checksum (*remotechecksum*) which is different from the local checksum (*localchecksum*).

内容

このメッセージは、以下の状況で出力されます。

- リモートノード <*hostname*> が報告する RMS 構成定義ファイルのチェックサムと、ローカルノード上の RMS 構成定義ファイルのチェックサムが異なる場合
- RMS グローバル環境変数の設定がノード間で異なる場合

対処

状況に応じて、以下の対処を行ってください。

- リモートノード <*hostname*> が報告する RMS 構成定義ファイルのチェックサムと、ローカルノード上の RMS 構成定義ファイルのチェックサムが異なる場合

  ローカルノードとリモートノードが異なる RMS 構成定義ファイルで実行されています。ローカルノードとリモートノードが同じ RMS 構成定義ファイルで実行されるようにしてください。

- RMS グローバル環境変数の設定がノード間で異なる場合

  すべてのノードの hvenv.local を修正した後、RMS を再起動してください。

(ADC, 4) Host <*hostname*> is not in the local configuration.

内容

リモートノード <*hostname*> が報告する RMS 構成定義ファイルとローカルノード上の RMS 構成定義ファイルが異なる場合、または、RMS グローバル環境変数の設定がノード間で異なる場合、このメッセージが出力されます。

対処

ローカルノードとリモートノードが異なる RMS 構成定義ファイルで実行されています。ローカルノードとリモートノードが同じ RMS 構成定義ファイルで実行されるようにしてください。RMS グローバル環境変数の設定がノード間で異なる場合は、すべてのノードで hvenv.local を同一の設定値に修正後、RMS を再起動してください。

(ADC, 5) Since this host <*hostname*> has been online for more than *time* seconds, and due to the previous error, it will remain online, but neither automatic nor manual switchover will be possible on this host until <*detector*> detector will report offline or faulted.

内容

ローカルノードとリモートノードの RMS 構成定義ファイルのチェックサムが異なり、このノードがオンラインになってから *time* 秒以上が経過した場合に(環境変数 HV_CHECKSUM_INTERVAL が設定されている場合、*time* はその値です。HV_CHECKSUM_INTERVAL が設定されていない場合、*time* は 120 秒です)、RMS が上記のメッセージを出力します。

対処

クラスタ内のすべてのノードが同じ RMS 構成定義ファイルで実行されるようにしてください。

(ADC, 15) Global environment variable <*envattribute*> is not set in hvenv file.

内容

このメッセージは、グローバル環境変数 <*envattribute*> が *hvenv* に設定されていないことが原因で RMS がこの変数の設定に失敗した場合に出力されます。*envattribute* は次のいずれかです:

RELIANT_LOG_LIFE、RELIANT_SHUT_MIN_WAIT、HV_CHECKSUM_INTERVAL、HV_LOG_ACTION_THRESHOLD、HV_LOG_WARNING_THRESHOLD、HV_WAIT_CONFIG、HV_RCSTART。これにより RMS は終了コード 1 で終了します。

対処

環境変数に適切な値を設定してください。

(ADC, 17) <*SysNode*> is not in the Wait state, hvutil -u request skipped!

内容

hvutil -u をノード上で呼び出したが、*SysNode* が Wait 状態ではありませんでした。

対処

SysNode が Wait 状態であることを確認後、再度実行してください。

(ADC, 18) Local environmental variable <*envattribute*> is not set up in hvenv file.

内容

このメッセージは、ローカル環境変数 <*envattribute*> が *hvenv* に設定されていないことが原因で RMS がこの変数の設定に失敗した場合に出力されます。*envattribute* は次のいずれかです:

SCRIPTS_TIME_OUT 、 RELIANT_INITSCRIPT 、 RELIANT_STARTUP_PATH 、 HV_CONNECT_TIMEOUT、HV_MAXPROC、HV_SYSLOG_USE。これにより RMS は終了コード 1 で終了します。

対処

/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local ファイルのローカル環境変数に適切な値を設定してください。

(ADC, 20) <*SysNode*> is not in the Wait state. hvutil -o request skipped!

内容

hvutil -o をノード上で呼び出したが、*SysNode* が Wait 状態ではありませんでした。

対処

SysNode が Wait 状態であることを確認後、再度実行してください。

(ADC, 25) Application <*userapplication*> is locked or busy, modification request skipped.

内容

hvmod が -l オプションの指定なしで起動され、アプリケーションが他の処理を実行中の場合にこのメッセージが表示されます。

対処

クラスタアプリケーションが現在の切替要求を完了した時点で、hvmod コマンドを再発行してください。

(ADC, 27) Dynamic modification failed.

内容

動的変更が失敗しました。障害の原因は先行するメッセージに表示されています。

対処

switchlog でこのメッセージの前に出力されたエラーメッセージを調べるか、または失敗の正確な原因を突き止めてください。

(ADC, 30) HV_WAIT_CONFIG value <*seconds*> is incorrect, using 120 instead.

内容

環境変数 HV_WAIT_CONFIG の値が 0 となっています。値が設定されていない場合は、代わりにデフォルト値の 120 が使用されます。

対処

/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv で HV_WAIT_CONFIG の値を設定してください。

(ADC, 31) Cannot get the NET_SEND_Q queue.

内容

RMS はコントラクト情報の送信に NET_SEND_Q キューを使用します。このキューに問題がある場合、処理は中止されます。この処理には、hvrcp または hvcopy のいずれかを使用します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADC, 32) Message send failed during the file copy of file <*filename*>.

内容

ネットワーク上でファイル <*filename*> を転送中にエラーが発生しました。

対処

ネットワークに問題がないかどうかを確認してください。

(ADC, 33) Dynamic modification timeout.

内容

動的変更の所要時間がタイムアウト値を超えました。環境変数 MODIFYTIMEOUTLIMIT の値が 0 より大きい場合、タイムアウトはその値になります。環境変数の値が 0 以下の場合、タイムアウトは 0 です。環境変数自体が定義されていない場合、タイムアウト値はデフォルトで 120 秒です。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADC, 34) Dynamic modification timeout during start up - bm will exit.

bm 起動中に動的変更の所要時間が環境変数 MODIFYTIMEOUTLIMIT に指定されるタイムアウト値を超えると、このエラーメッセージが出力されます。値が 0 より大きい場合、タイムアウトはその値になります。環境変数の値が 0 以下の場合、タイムアウトは 0 です。環境変数自体が定義されていない場合、タイムアウト値はデフォルトで 120 秒です。RMS は終了コード 63 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADC, 35) Dynamic modification timeout, bm will exit.

内容

重大な内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADC, 37) Dynamic modification failed: cannot make a non-critical resource <*resource*> critical by changing its attribute MonitorOnly to 0 since this resource is not online while it belongs to an online application <*userapplication*>; switch the application offline before making this resource critical.

内容

クラスタアプリケーション <*userapplication*> が Online のときに、動的変更によりリソース<*resource*> を MonitorOnly にしようとすると、変更したいリソース <*resource*> が Online ではなくても、このメッセージが生成されて、動的変更が中止されます。

対処

クラスタアプリケーションを Offline に切替えてからリソースの重要度を上げてください。

(ADC, 38) Dynamic modification failed: application <*userapplication*> has no children, or its children are not valid resources.

内容

動的変更の実行中に、クラスタアプリケーション <*userapplication*> が子を持たないことがわかると、このメッセージが switchlog に書き込まれ、動的変更が異常終了します。

対処

動的変更の実行中に、クラスタアプリケーションに有効な子があることを確認してください。

(ADC, 39) The putenv() has failed (*failurereason*)

内容

RMS ウィザードは動的変更 HVMOD_HOST の実行中に環境変数 HVMOD_HOST を使用します。この変数には、hvmod を呼び出したノードの名前が含まれています。この変数を関数 putenv() で設定できない場合に、このメッセージと理由 *failurereason* が switchlog に書き込まれます。

対処

switchlog で理由 *failurereason* を調べて、この操作が失敗した理由を判別し、修正措置をとってください。

(ADC, 41) The Wizard action failed (*command*)

内容

ウィザードは hvmod の実行中にアクションファイルを使用します。終了コールでプロセスが終了する際、このアクションファイル (*command*) の実行が失敗すると、このメッセージと失敗の理由が switchlog に書き込まれます。

対処

switchlog を調べて失敗の理由を検出し、問題を解決してから hvmod コマンドを再発行してください。

(ADC, 43) The file transfer for <*filename*> failed in "*command*". The dynamic modification will be aborted.

内容

動的変更の実行中に、変更情報を記録したファイルのクラスタのノード間での転送に失敗しました。

対処

ノードとクラスタが *command* を正常に実行できる状態になっていることを確認してください。

(ADC, 44) The file transfer for <*filename*> failed in "*command*". The join will be aborted.

内容

ノードはクラスタに参入すると、RMS 構成定義ファイルを受信します。ファイル転送が失敗すると、動的変更は中止されます。

対処

ノードとクラスタが *command* を正常に実行できる状態になっていることを確認してください。

(ADC, 45) The file transfer for <*filename*> failed in "*command*" with errno <*errno*> - *errorreason*.The dynamic modification will be aborted.

内容

動的変更の実行中に、変更情報を記録したファイルのクラスタのノード間での転送に失敗しました。ファイル転送が失敗すると、動的変更は中止されます。このエラーの具体的な理由を調べるには、OS エラーコード ERRNO および ERRORREASON の説明を参照してください。本マニュアルの "付録B Solaris/Linux ERRNO テーブル" にも一覧があります。

対処

ノードとクラスタが *command* を正常に実行できる状態になっていることを確認してください。

(ADC, 46) The file transfer for <*filename*> failed with unequal write byte count, expected *expectedvalue* actual *actualvalue*. The dynamic modification will be aborted.

内容

動的変更の実行中に、変更情報を記録したファイルのクラスタのノード間での転送に失敗しました。

対処

ノード、クラスタ、およびネットワークが *command* を正常に実行できる状態になっていることを確認してください。

(ADC, 47) RCP fail:can't open file *filename*.

内容

ローカルノードからリモートノードにコピーするファイル <*filename*> を開いて読込むことができない場合、このメッセージが出力されます。

対処

ファイル <*filename*> を読込めることを確認してください。

(ADC, 48) RCP fail:fseek errno *errno*.

内容

ノード間のファイル転送中に OS エラーコード ERRNO で示される問題が発生しました。

対処

ノード、クラスタ、およびネットワークがファイル転送を正常に実行できる状態になっていることを確認してください。

(ADC, 49) Error checking hvdisp temporary file <*filename*>, errno <*errno*>, hvdisp process pid <*processid*> is restarted.

内容

RMS BM(ベースモニタ)は、構成データを hvdisp プロセスに転送するために使用する一時ファイルの整合性とサイズを定期的に確認します。このファイルを確認できないときは hvdisp プロセスを自動的に再起動しますが、このとき一部のファイルが失われて表示されない場合があります。発生したエラーの OS エラーコードは ERRNO に表示されます。

対処

ノードが一時ファイルを確認できる状態になっていることを確認してください。場合によっては hvdisp プロセスを手動で再起動する必要があります。

(ADC, 57) An error occurred while writing out the RMS configuration for the joining host. The hvjoin operation is aborted.

内容

リモートノードはクラスタに参入するときに固有の RMS 構成定義ファイルをコピーし、リモートノードに転送しようとします。RMS 構成定義ファイルを保存できない場合、hvjoin の処理は中止されます。

対処

RMS 構成定義ファイルの保存中に発生したエラーに関する詳しい説明が以前のメッセージの 1つに記述されています。この説明に従ってノード環境を修正するか、当社技術員(SE)に連絡してください。

(ADC, 58) Failed to prepare configuration files for transfer to a joining host. Command used <*command*>.

内容

リモートノードはクラスタに参入するときに固有の RMS 構成定義ファイルを準備し、リモートノードに転送しようとします。そのためにコマンド <*command*> を使用します。<*command*> が失敗した場合、hvjoin の処理は中止されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADC, 59) Failed to store remote configuration files on this host. Command used <*command*>.

内容

ノードはクラスタに参入するときにリモートの RMS 構成定義ファイルを保存し、動的変更を実行しようとします。そのためにコマンド <*command*> を使用します。<*command*> が失敗した場合、hvjoin の処理は中止されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADC, 60) Failed to compress file <*file*>. Command used <*command*>.

内容

ファイル転送は動的変更や hvjoin などの RMS 機能の一部です。ファイル <*file*> をリモートノードに転送する前にコマンド <*command*> で圧縮する必要があります。<*command*> が失敗すると、ファイル転送を伴う処理は中止されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADC, 61) Failed to shut down RMS on host <*host*>.

内容

クラスタ内のすべてのノードで RMS をシャットダウンしようとしましたが、ノード <*host*> の RMS のシャットダウンに失敗しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADC, 62) Failed to shut down RMS on this host, attempting to exit RMS.

内容

クラスタ内のすべてのノードで RMS をシャットダウンしようとしましたが、このノードの RMS のシャットダウンに失敗しました。シャットダウンは自動的に再試行されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADC, 63) Error <*errno*> while reading file <*file*>, reason: <*reason*>.

内容

ファイル <*file*> の読込み中にエラー <*errno*> が発生しました。理由は <*reason*> に示されます。ファイル読込みエラーは動的変更または hvjoin の処理中に発生する場合があります。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADC, 68) Error <*errno*> while opening file <*file*>, reason:<*reason*>.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADC, 70) Message sequence # is out of sync - File transfer of file <*filename*> has failed.

内容

重大な内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.1.3.2 ADM: Adminキュー、コマンドキュー、ディテクタキュー

(ADM, 3) Dynamic modification failed: some resource(s) supposed to come offline failed.

内容

動的変更の実行中に、新しいリソースを親オブジェクトに追加して、リソースを Offline にできないときに、このメッセージが出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADM, 4) Dynamic modification failed: some resource(s) supposed to come online failed.

内容

Online スクリプトを実行して、新規リソースを Online 状態の親オブジェクトに追加する場合、そのリソースを Online にできないと、動的変更は中止されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADM, 5) Dynamic modification failed: object <*object*> is not linked to any application.

内容

動的変更の実行中に、親を持たない(したがって、すべてのクラスタアプリケーションにリンクされていない)オブジェクト <*object*> を追加しようとすると、このメッセージが出力されて、動的変更が中止されます。

対処

動的変更の実行中に追加するすべてのオブジェクトがクラスタアプリケーションにリンクされていることを確認してください。

(ADM, 6) Dynamic modification failed: cannot add new resource <*resource*> since another existing resource with this name will remain in the configuration.

内容

既存のリソースと同じ名前の新規リソース <*resource*> を追加しようとすると、このメッセージが switchlog に書き込まれて、動的変更が中止されます。

対処

新規リソースを追加するときに、その名前が他の既存のリソースと同じでないことを確認してください。

(ADM, 7) Dynamic modification failed: cannot add new resource <*resource*> since another existing resource with this name will not be deleted.

内容

既存のリソースと同じ名前の新規リソース <*resource*> を追加しようとすると、このメッセージが出力されて、動的変更が中止されます。

対処

新規リソースを追加するときに、その名前が他の既存のリソースと同じでないことを確認してください。

(ADM, 8) Dynamic modification failed: cycle of length <*cycle_length*> detected in resource <*resource*> -- <*cycle*>.

内容

RMS リソースのグラフ全体で、親 - 子リンクのチェーンに循環部分があってはいけません。循環部分があると、動的変更が失敗し、上記のメッセージが switchlog に書き込まれます。

対処

循環部分を削除してください。

(ADM, 9) Dynamic modification failed: cannot modify resource <*resource*> since it is going to be deleted.

内容

リソースを削除すると、そのリソースの子で他の親を持たない子もすべて削除されます。したがって、リソースを削除して、削除したリソースの属性、またはそのリソースの子で他の親を持たない子の属性を変更すると、動的変更が中止され、上記のメッセージが switchlog に書き込まれます。

対処

リソースの動的変更を実行するときに、変更するリソースが削除されていないことを確認してください。

(ADM, 11) Dynamic modification failed: cannot delete object <*resource*> since it is a descendant of another object that is going to be deleted.

内容

子オブジェクトを削除しようとしたときに、その親オブジェクトが削除されていると、上記のメッセージが switchlog に書き込まれて、動的変更が中止されます。

対処

オブジェクトを明示的に削除するときに、その親が削除されていないことを確認してください。親が削除されていると、その子も削除されていることになるからです。

(ADM, 12) Dynamic modification failed: cannot delete <*resource*> since its children will be deleted.

内容

リソース <*resource*> を削除しようとしたときに、その子が削除されていると、上記のメッセージが switchlog に書き込まれて、動的変更が中止されます。

対処

リソースを明示的に削除するときに、その子が削除されていないことを確認してください。

(ADM, 13) dynamic modification failed:object <*resource*> is in state <*state*> while needs to be in one of stateOnline, stateStandby, stateOffline, stateFaulted, or stateUnknown.

内容

すべてのリソースは、stateOnline、stateOffline、stateFaulted、stateUnknown、stateStandby のいずれかの状態である必要があります。リソース <*resource*> がこれらの状態のいずれでもない場合は、上記のメッセージが書込まれて、動的変更が中止されます。理論的に、このようなことはあり得ません。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADM, 14) Dynamic modification failed: cannot link to or unlink from an application <*userapplication*>.

内容

リソースの親がクラスタアプリケーションの場合、その親に子をリンクしたり、その親の子をリンク解除することはできません。これらの操作を実行しようとすると、上記のメッセージがswitchlog に書き込まれて、動的変更が中止されます。

対処

クラスタアプリケーションにリソースをリンクしたり、クラスタアプリケーションからリソースをリンク解除してはいけません。

(ADM, 15) Dynamic modification failed: parent object <*parentobject*> is not a resource.

内容

動的変更の実行中に、既存のリソースをリンクしようとしたときに、子オブジェクトのリンク先である親オブジェクト <*parentobject*> がリソースでない場合、動的変更が失敗して、このメッセージが出力されます。

対処

2つのオブジェクトをリンクするときに、子オブジェクトの親がリソースであることを確認してください。

(ADM, 16) Dynamic modification failed: child object <*childobject*> is not a resource.

内容

動的変更の実行中に、既存のリソースをリンクしようとしたときに、親オブジェクトにリンクされる子オブジェクト <*childobject*> がリソースでない場合、動的変更が失敗して、このメッセージが出力されます。

対処

2つのオブジェクトをリンクするときに、親オブジェクトの子がリソースであることを確認してください。

(ADM, 17) Dynamic modification failed: cannot link parent <*parentobject*> and child <*childobject*> since they are already linked.

内容

すでにリンクされている親 <*parentobject*> と子 <*childobject*> をリンクしようとすると、このメッセージが出力されます。動的変更が中止されます。

対処

動的変更を実行するときに、リンクしようとする親と子がリンク済みでないことを確認してください。

(ADM, 18) Dynamic modification failed: cannot link a faulted child <*childobject*> to parent <*parentobject*> which is not faulted.

内容

動的変更の実行中に、2つの既存オブジェクト間で新しいリンクを作成するときに、障害のある子 <*childobject*> を、障害のない親 <*parentobject*> にリンクすることはできません。最初に、子を親と同じ状態にする必要があります。この操作を実行できない場合は、上記のメッセージが switchlog に書き込まれます。動的変更が中止されます。

対処

障害の発生している子を親と同じ状態にしてから、子と親をリンクしてください。

(ADM, 19) Dynamic modification failed: cannot link child <*childobject*> which is not online to online parent <*parentobject*>.

内容

動的変更の実行中に、2つの既存オブジェクトをリンクするときに、Online の親と Online でない子をリンクすることはできません。これらの親と子をリンクしようとすると、動的変更が中止されて、メッセージが switchlog に書き込まれます。

対処

最初に、子 <*childobject*> を Online にしてから、オンラインの親 <*parentobject*> にリンクしてください。

(ADM, 20) Dynamic modification failed: cannot link child <*childobject*> which is neither offline nor standby to offline or standby parent <*parentobject*>.

内容

2つの既存オブジェクトをリンクしようとしたときに、子の状態が Offline または Standby ではなく、親の状態が Offline または Standby の場合、これらのオブジェクトをリンクすることはできず、上記のメッセージが switchlog に書き込まれます。動的変更が中止されます。

対処

まず、子を Offline または Standby にしてから、Offline または Standby の親にリンクしてください。

(ADM, 21) Dynamic modification failed: Cannot unlink parent <*parentobject*> and child <*childobject*> since they are not linked.

内容

リンクされていないオブジェクト <*parentobject*> とオブジェクト <*childobject*> をリンク解除しようとすると、このメッセージが出力されて、動的変更が中止されます。

対処

2つのノードをリンク解除する場合に、2つのオブジェクトが親子関係であることを確認してください。

(ADM, 22) Dynamic modification failed: child <*childobject*> will be unlinked but not linked back to any of the applications.

内容

どのクラスタアプリケーションとのリンクも残らないように子オブジェクト <*childobject*> をリンク解除することはできません。

対処

子がまだクラスタアプリケーションとリンクされていることを確認してください。

(ADM, 23) Dynamic modification failed: sanity check did not pass for linked or unlinked objects.

内容

動的変更では、いくつかの整合性チェックが行われます。整合性チェックで、以下のすべての条件が満たされていることを確認します。

1. userApplication オブジェクトの子だけに、HostName 属性が存在すること。
2. クラスタアプリケーションの子が別の親を持たないこと。
3. 各オブジェクトが 1つのクラスタアプリケーションだけに属していること。
4. リーフオブジェクトがディテクタを持っていること。
5. DeviceName 属性を持つリーフオブジェクトの属性値が有効であること。
6. リーフオブジェクトの rName 属性の長さが最大値より小さいこと。
7. hvgdstartup ファイルに重複行が存在しないこと。
8. ディテクタの kind 引数が hvgdstartup で指定されていること。
9. ディテクタがロード可能であること。
10. rKind 属性の有効値が指定されていること。
11. ScriptTimeout の値がディテクタの通知間隔より大きいこと。
12. 同時に and および or になっているオブジェクトがないこと。
13. ClusterExclusive と LieOffline が相互排他的で、いっしょに使用されていないこと。

これらの整合性チェックが失敗すると、このメッセージが出力されて、動的変更が中止されます。

FATAL メッセージと整合性チェックが失敗した詳しい理由も、switchlog に書き込まれます。

対処

上記の整合性チェックが成功するようにしてください。

(ADM, 24) Dynamic modification failed: object <*object*> that is going to be linked or unlinked will be either deleted, or unlinked from all applications.

内容

オブジェクト <*object*> を RMS リソースグラフから削除して、そのオブジェクトを親オブジェクトから(または親オブジェクトをそのオブジェクトから)リンク解除しようとすると、動的変更が中止され、上記のメッセージが switchlog に書き込まれます。

対処

削除とリンク解除を同時にオブジェクトに対して実行しないようにしてください。

(ADM, 25) Dynamic modification failed: parent object <*parentobject*> is absent.

内容

新規オブジェクトを既存の RMS 構成定義ファイルに追加するときは、既存のオブジェクト<*parentobject*> が新規オブジェクトの親である必要があります。そうでないと、動的変更が中止され、上記のメッセージが switchlog に書き込まれます。

対処

追加する新規オブジェクトに対して指定した親が存在することを確認してください。

(ADM, 26) Dynamic modification failed: parent object <*parentobject*> is neither a resource nor an application.

内容

新規オブジェクトを既存の RMS 構成定義ファイルに追加するときに、指定した親オブジェクト <*parentobject*> がリソースでないと、動的変更が中止され、上記のメッセージが書き込まれます。動的変更が中止されます。

対処

新規オブジェクトに対して指定した親オブジェクトがリソースであることを確認してください。

(ADM, 27) Dynamic modification failed -- child object <*childobject*> is absent.

内容

存在しない子オブジェクト <*childobject*> にリンクしようとすると、このメッセージが出力され、動的変更が中止されます。

対処

リンク先の子オブジェクトが存在することを確認してください。

(ADM, 28) Dynamic modification failed: child object <*childobject*> is not a resource.

内容

既存の RMS 構成定義ファイルに追加する新規オブジェクト <*childobject*> がリソースでないと、このメッセージが出力されます。動的変更が中止されます。

対処

指定した子オブジェクトがリソースであることを確認してください。

(ADM, 29) Dynamic modification failed -- parent object <*parentobject*> is absent.

対処

重大なエラーです。このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADM, 30) Dynamic modification failed: parent object <*parentobject*> is not a resource.

内容

動的変更の実行中に、リソースではない新規オブジェクトを親オブジェクト <*parentobject*> として追加しようとすると、このメッセージが出力されます。動的変更が中止されます。

対処

親オブジェクトとして追加するオブジェクトがリソースであることを確認してください。

(ADM, 31) Dynamic modification failed: child object <*childobject*> is absent.

内容

動的変更の実行中に、指定した子オブジェクト <*childobject*> が存在しないと、このメッセージが出力されます。動的変更が中止されます。

対処

指定した子オブジェクトが存在することを確認してください。

(ADM, 32) Dynamic modification failed: child object <*childobject*> is not a resource.

内容

新規オブジェクトを RMS リソースグラフに追加するときに、この新規オブジェクトの子 <*childobject*> がリソースでないと、このメッセージが出力され、動的変更が中止されます。

対処

新規オブジェクトを追加するときに、その子がリソースであることを確認してください。

(ADM, 33) Dynamic modification failed: object <*object*> cannot be deleted since either it is absent or it is not a resource.

内容

存在しないまたはリソースではないオブジェクト <*object*> を削除しようとすると、このメッセージが出力されます。動的変更が中止されます。

対処

存在しないオブジェクトを削除しないようにしてください。

(ADM, 34) Dynamic modification failed: deleted object <*object*> is neither a resource nor an application nor a host.

内容

動的再構成の間にリソースタイプのオブジェクト、userApplication、SysNode オブジェクトは削除できません。動的再構成の間に削除が許されるのは、リソース、アプリケーション、ノード(SysNode オブジェクト)のみです。

対処

オブジェクトを削除する場合は、これ以外のオブジェクトを削除してください。

(ADM, 37) Dynamic modification failed: resource <*object*> cannot be brought online and offline/standby at the same time.

内容

リソース <*object*> を既存の RMS リソースグラフに追加し、そのリソースが 2つの親オブジェクトの子としてリンクされ、一方の親が Online で、もう一方の親が Offline または Standby の場合に、このメッセージが出力されます。子オブジェクトを親と同じ状態にする必要があります。

対処

追加するリソースの両方の親が同じ状態であることを確認してから、リソースを追加してください。

(ADM, 38) Dynamic modification failed: existing parent resource <*parentobject*> is in state <*state*> but needs to be in one of stateOnline, stateStandby, stateOffline, stateFaulted, or stateUnknown.

内容

動的変更の実行中に、親リソース <*parentobject*> の状態 <*state*> が、stateOnline、stateOffline、stateFaulted、または stateUnknown でない場合は、動的変更が中止されます。

対処

親リソースの状態が上記のいずれかであることを確認してください。

(ADM, 39) Dynamic modification failed: new resource *object* which is a child of application <*userapplication*> has its HostName <*hostname*> the same as another child of application <*userapplication*>.

内容

新規オブジェクト *object* をクラスタアプリケーション <*userapplication*> の子として追加し、その HostName 属性値がクラスタアプリケーション <*userapplication*> の既存の子の HostName 属性値と同じ場合に、このメッセージが出力されます。動的変更が中止されます。

対処

クラスタアプリケーションに追加するオブジェクトの HostName 属性が一意な値であることを確認してください。

(ADM, 40) Dynamic modification failed: a new child <*child_object*> of existing application <*userapplication*> does not have its HostName set to a name of any SysNode.

内容

動的変更の実行中に、新しい子オブジェクト <*childobject*> をアプリケーション <*userapplication*> に追加するときに、このオブジェクトの HostName 属性が指定されていないとこのメッセージが出力されます。動的変更が中止されます。

対処

クラスタアプリケーションの下の第 1 レベルオブジェクトに対して HostName 属性が指定されていることを確認してください。

(ADM, 41) Dynamic modification failed: existing child <*childobject*> is not online, but needs to be linked with <*parentobject*> which is supposed to be brought online.

内容

親 <*parentobject*> と子 <*childobject*> の両方にディテクタが関連付けられていて、子の状態は Online ではないが、Online になる予定の親に子をリンクしようとした場合に、このメッセージが生成され、動的変更が中止されます。

対処

親と子が同じ状態であることを確認してください。

(ADM, 42) Dynamic modification failed: existing child <*childobject*> is online, but needs to be linked with <*parentobject*> which is supposed to be brought offline.

内容

Online の子 <*childobject*> を、Offline になる予定の親オブジェクトにリンクすることはできません。動的変更が中止されます。

対処

親と子が同じ状態であることを確認してください。

(ADM, 43) Dynamic modification failed: linking the same resource <*childobject*> to different applications <*userApplication1*> and <*userApplication2*>.

内容

異なるクラスタアプリケーション <*userApplication1*> および <*userApplication2*> に属する親リソースと子リソースを持つ新しい子オブジェクト <*childobject*> を追加しようとすると、このメッセージが出力されます。動的変更が中止されます。

対処

新規リソースを追加するときに、その親リソースと子リソースが異なるクラスタアプリケーションに属していないことを確認してください。

(ADM, 44) Dynamic modification failed: object <*object*> does not have an existing parent.

内容

既存の親を持たないオブジェクト <*object*> を作成しようとすると、このメッセージが出力されます。動的変更が中止されます。

対処

オブジェクト <*object*> が既存のオブジェクトを親として持つことを確認してください。

(ADM, 45) Dynamic modification failed: HostName is absent or invalid for resource <*object*>.

内容

オブジェクト <*object*> の HostName 属性の値が無効な場合に、このメッセージが出力されて、動的変更が中止されます。HostName 属性がない場合は、(ADM, 40) のメッセージが出力されます。

対処

リソース<*object*> の HostName 属性を有効な SysNode の名前に設定してください。

(ADM, 46) Dynamic modification failed: linking the same resource <*object*> to different applications <*userapplication1*> and <*userapplication2*>.

内容

異なるクラスタアプリケーション <*userapplication1*> および <*userapplication2*> に属する親オブジェクトに、新しい子オブジェクト <object> をリンクして追加しようとすると、このメッセージが生成されます。動的変更が中止されます。

対処

新しい子リソースを追加するときに、その親リソースが異なるクラスタアプリケーションに属していないことを確認してください。

(ADM, 47) Dynamic modification failed: parent object <*parentobject*> belongs to a deleted application.

内容

<*parentobject*> を親として持つノードを新規追加する場合、その <*parentobject*> が削除済みオブジェクトの子であるときは、新規オブジェクトを追加できません。オブジェクトを削除すると、その子が他の親を持たない場合は、子も自動的に削除されます。これにより動的変更が失敗します。

対処

新規オブジェクトを追加するときに、その親が削除されていないことを確認してください。

(ADM, 48) Dynamic modification failed: child object <*childobject*> belongs to a deleted application.

内容

削除済みのクラスタアプリケーションに属するオブジェクト <*childobject*> を削除しようとすると、このメッセージが出力されます。これは、クラスタアプリケーションを削除すると、その子もすべて自動的に削除されるからです。

対処

削除済みのクラスタアプリケーションに属するオブジェクトを削除しないようにしてください。

(ADM, 49) Dynamic modification failed: deleted object <*objectname*> belongs to a deleted application.

内容

削除済みのクラスタアプリケーションに属するオブジェクト <*objectname*> を削除しようとすると、このメッセージが出力されます。これは、クラスタアプリケーションを削除すると、その子もすべて(<*objectname*> を含む)削除されるためです。

対処

オブジェクトを削除する前に、そのオブジェクトが削除中のクラスタアプリケーションに属していないことを確認してください。

(ADM, 50) Dynamic modification failed: cannot delete object <*object*> since it is a descendant of a new object.

内容

新規オブジェクトの子孫であるオブジェクト <*object*> を削除しようとすると、このメッセージが出力されます。動的変更が中止されます。

対処

オブジェクトを削除するときに、それが新規オブジェクトの子孫でないことを確認してください。

(ADM, 51) Dynamic modification failed: cannot link to child <*childobject*> since it will be deleted.

内容

削除する予定の子 <*childobject*> にリンクしようとすると、このメッセージが出力され、動的変更が中止されます。

対処

削除する予定の子オブジェクトにリンクしないようにしてください。

(ADM, 52) Dynamic modification failed: cannot link to parent <*parentobject*> since it will be deleted as a result of deletion of object <*object*>.

内容

オブジェクト <*object*> を削除して、その子孫(親を削除したときに削除される)を、RMS リソースグラフに追加する新規リソースの親として使用すると、このメッセージが出力され、動的変更が中止されます。

対処

削除したオブジェクトの子孫を新規リソースの親として使用しないようにしてください。

(ADM, 53) Dynamic modification failed: <*node*> is absent.

内容

存在しないオブジェクト <*object*> の属性を変更しようとすると、このエラーが発生します。動的変更が中止されます。

対処

既存のオブジェクトの属性を変更してください。

(ADM, 54) Dynamic modification failed: NODE <*object*>, attribute <*attribute*> is invalid.

内容

属性 <*attribute*> の値を無効なノード <*object*> に変更しようとすると、このメッセージが出力され、動的変更が中止されます。

対処

属性 <*attribute*> の有効値を指定してください。

(ADM, 55) Cannot create admin queue.

内容

RMS はプロセス間通信用に Unix キューを内部で使用します。Admin キューは、RMS と他のユーティリティ(hvutil、hvmod、hvshut、hvswitch、hvdisp など)の通信に使われるキューの 1 つです。RMS がこのキューを作成できない場合は、RMS が終了コード 50 で終了します。

対処

RMS を再起動してください。

(ADM, 57) hvdisp - open failed - *filename*.

内容

-m オプションを指定して hvdisp を呼び出したときに、RMS が/opt/SMAW/SMAWRrms/locks/.rms.<*pid*> ファイルを書込み用に開くことができないと、このメッセージが出力されます。

対処

ディレクトリ /opt/SMAW/SMAWRrms/locks/.rms. が存在していること、およびファイルが作成できること(適切な権限、ファイルシステムの空き領域、空き i ノード)を確認してください。これらの問題が 1つでも存在する場合は、必要な管理操作によって問題を解決してください。これらの問題が存在しないにもかかわらず、エラーが発生する場合は、当社技術員(SE)に連絡してください。

(ADM, 58) hvdisp - open failed - *filename* : *errormsg*.

内容

hvdisp コマンドの実行中に、ファイル *file*(/opt/SMAW/SMAWRrms/locks/.rms.<*pid*>) を書込み用に開くことができないと、その理由 *errormsg* の書込みが行われます。

対処

ディレクトリ /opt/SMAW/SMAWRrms/ が存在していること、およびファイルが作成できること(適切な権限、ファイルシステムの空き領域、空き i ノード)を確認してください。これらの問題が 1つでも存在する場合は、必要な管理操作によって問題を解決してください。これらの問題が存在しないにもかかわらず、エラーが発生する場合は、当社技術員(SE)に連絡してください。

(ADM, 59) *userapplication*: modification is in progress, switch request skipped.

内容

hvswitch、hvshut などのコマンドはローカルでない hvmod コマンドと並列に実行できないため、このメッセージが switchlog に書き込まれます。

対処

hvswitch を実行する前に、*userapplication* で hvmod が実行中でないことを確認してください。

(ADM, 60) <*resource*> is not a userApplication object, switch request skipped!

内容

切替えを実行するときは、hvswitch コマンドの引数としてクラスタアプリケーションを指定する必要があります。リソース <*resource*> がクラスタアプリケーションでない場合に、このメッセージが出力されます。

対処

"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" で、hvswitch の正しい使用方法を確認してください。

(ADM, 62) The attribute <ShutdownScript> may not be specified for object <*object*>.

内容

ShutdownScript 属性は SysNode の非表示属性です。この値は RMS BM が自動定義します。

ユーザが変更することはできません。

対処

ShutdownScript 属性に定義済みの値を変更しないようにしてください。

(ADM, 63) System name <*sysnode*> is unknown.

内容

このメッセージは、以下に示す状況で出力されます。

1. hvswitch で指定した SysNode の名前が RMS 構成定義ファイルの一部でない (hvswitch [-f] userApplication [sysnode])。
2. hvshut -s sysnode で指定した SysNode の名前（例: *sysnode* など）が有効でない、つまり現在の RMS 構成定義ファイルの一部でない。
3. hvutil -{ou} で指定した SysNode の名前が不明である（隠れたオプション）。

対処

現在の RMS 構成定義ファイル（例: *configname*.us など）の中で使用している SysNode 名を指定してください。

(ADM, 67) *sysnode* Cannot shut down.

内容

hvshut -a を呼び出したときに、一部のノードが応答しないと、このメッセージが出力されます。

対処

リモートノードにログインします。RMS がまだ稼動している場合は、hvutil -f <*userapplication*> を実行して、クラスタアプリケーションを停止します。この操作により正しく終了しない場合は、switchlog と<*userapplication*> ログを参照して、問題の原因を調べてください。すべてのクラスタアプリケーションが正しく停止したら、強制シャットダウン hvshut -f で RMS 自体をシャットダウンします。その後で RMS のサポートに問題を報告してください。

(ADM, 70) NOT ready to shut down.

内容

hvshut -a を呼び出したノード上でアプリケーションがビジー状態であるため、そのノードをまだシャットダウンできません。

対処

実行中のアクション(切替え、動的再構成など)が終了するのを待ってください。

(ADM, 75) Dynamic modification failed: child <*resource*> of userApplication object <*userapplication*> has HostName attribute <*hostname*> common with other children of the same userApplication.

内容

RMS 内部の整合性チェック機能で、RMS 構成定義ファイルに関する重大な問題が見つかると、このメッセージが出力されます。RMS 設定ウィザードで RMS 構成定義ファイルを設定した場合は、このメッセージが出力されません。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADM, 76) Modification of attribute <*attribute*> is not allowed within existing object <*object*>.

内容

属性 <*attribute*> は定数で、RMS 構成定義ファイルでのみ設定可能です。

対処

<*object*> 内で <*attribute*> を変更しないようにしてください。

(ADM, 77) Dynamic modification failed: cannot delete object *object* since its state is currently being asserted.

内容

アサートしているオブジェクトに対して動的変更を実行すると、このメッセージが switchlog に書き込まれます。

対処

アサートが終了してから変更を行ってください。

(ADM, 78) Dynamic modification failed: PriorityList <*prioritylist*> does not include all the hosts where the application <*userapplication*> may become Online. Make sure that PriorityList contains all hosts from the HostName attribute of the application's children.

内容

<*userapplication*> の PriorityList に、アプリケーションの子の HostName 属性のノード名がすべて含まれるように設定します。

対処

PriorityList 内でノード名が重複しないようにしてください。

(ADM, 79) Dynamic modification failed: PriorityList <*prioritylist*> includes hosts where the application <*userapplication*> may never become Online. Make sure PriorityList contains only hosts from the HostName attributes of the application's children.

内容

親 PriorityList の属性に含まれていないノード名が、1つ以上の子の HostName 属性で指定されています。

対処

アプリケーション <*userapplication*> の PriorityList に、アプリケーションの子の HostName 属性に記載されたノード名がすべて含まれるように設定します。PriorityList 内でノード名が重複しないようにしてください。

(ADM, 81) Dynamic modification failed: application <*userapplication*> may not have more than <*maxcontroller*> parent controllers as specified in its attribute MaxControllers.

内容

<*userapplication*> が、属性 MaxControllers (<*maxcontroller*>) で指定されている数より多くの親コントローラを使用すると、このメッセージが出力されて、動的変更が中止されます。

対処

アプリケーションが使用する親コントローラの数を、MaxControllers 属性で指定されている数より少なくするか、MaxControllers を大きな値に変更してください。

(ADM, 82) Dynamic modification failed: cannot delete *type* <*object*> unless its state is one of Unknown, Wait, Offline or Faulted.

内容

SysNode の状態が、Unknown、Offline、Wait、または Faulted の場合に、この SysNode またはSatNode を実行中の RMS 構成から削除しようとすると、このメッセージが switchlog に書込まれます。

対処

そのノード上で RMS をシャットダウンして、削除を実行してください。

(ADM, 83) Dynamic modification failed: cannot delete SysNode <*sysnode*> since this RMS monitor is running on this SysNode.

内容

動的変更の実行中に、ローカル SysNode <*sysnode*> を削除しようとしました。

対処

動的変更に 'delete *SysNode*;' (*SysNode* はローカルSysNode) が含まれないようにしてください。

(ADM, 84) Dynamic modification failed: cannot add SysNode <*sysnode*> since its name is not valid.

内容

動的変更の一部で指定した名前 <*sysnode*> が、既知のノード名として有効でない場合に、このメッセージが switchlog に書き込まれます。

対処

ネットワークアドレスに有効なノード名を指定してください。

(ADM, 85) Dynamic modification failed: timeout expired, timeout symbol is <*symbol*>.

内容

動的変更の実行時間が長すぎると、このメッセージが出力されます。

対処

ノード間のネットワーク接続が機能していることを確認してください。また、新規追加リソースのスクリプトの実行時間が長すぎないこと、または動的変更で追加する新規ノードが多すぎないこと、または変更ファイルが大きすぎたり複雑すぎたりしないことを確認してください。

(ADM, 86) Dynamic modification failed: application <*userapplication*> cannot be deleted since it is controlled by the controller <*controller*>.

内容

制御されるアプリケーション <*userapplication*> のコントローラ <*controller*> の Resource 属性にアプリケーションの名前が残っている間は、そのアプリケーションを削除できません。

対処

削除したアプリケーションの名前をコントローラの Resource 属性から削除するか、同じ名前の新規アプリケーションを追加するか、制御されるアプリケーションとともにコントローラを削除するか、コントローラの NullDetector 属性 を1 に変更してください。

(ADM, 87) Dynamic modification failed: only local attributes such as ScriptTimeout, DetectorStartScript, NullDetector or MonitorOnly can be modified during local modification (hvmod -l).

内容

このメッセージが出力されるのは、ローカル変更ではローカル属性の変更だけが認められているからです。

対処

ローカルでない変更を行うか、別の属性を変更してください。

(ADM, 88) Dynamic modification failed: attribute <*attribute*> is modified more than once for object <*object*>.

内容

特定のオブジェクトの属性は同じ変更ファイル内で 1 回しか変更できません。オブジェクト<%*object*> の属性 <*attribute*> を 2 回以上変更すると、このメッセージが出力される場合があります。

対処

各オブジェクトの属性を 1 回だけ変更してください。

(ADM, 89) Dynamic modification failed: cannot rename existing object <*sysnode*> to <*othersysnode*> because either there is no object named <*sysnode*>, or another object with the name <*othersysnode*> already exists, or a new object with that name is being added, or the object is not a resource, or it is a SysNode, or it is a controlled application which state will not be compatible with its controller.

内容

既存のノード <*sysnode*> を他のノード <*othersysnode*> に改名しようとした場合に、以下の条件のいずれかに当てはまるとこのメッセージが出力されます。

- <*othersysnode*> は有効なノード名でない
- <*othersysnode*> はすでにクラスタ内の他のノード名として使用されている
- <*othersysnode*> はリソースでない
- <*othersysnode*> は制御されるアプリケーションである

対処

別の有効なノード名を選択してください。

(ADM, 90) Dynamic modification failed: cannot change attribute Resource of the controller object <*controllerobject*> from <*oldresource*> to <*newresource*> because some of <*oldresource*> are going to be deleted.

内容

コントローラオブジェクトによってコントロールされ、削除される予定のリソース名を変更しようとすると、このメッセージが表示されます。

対処

削除されるアプリケーションがコントローラによって制御されていないことを確認してください。

(ADM, 91) Dynamic modification failed: controller <*controller*> has its Resource attribute set to <*resource*>, but application named <*userapplication*> is going to be deleted.

内容

ユーザがコントローラ <*controller*> でリソース <*resource*> をコントロールしようとしたが、そのリソースと関連するユーザアプリケーションが削除される予定の場合に、このメッセージが出力されます。

対処

コントローラの Resource 属性が、削除されるアプリケーションと関連していないことを確認してください。

(ADM, 95) Cannot retrieve information about command line used when starting RMS. Start on remote host must be skipped. Please start RMS manually on remote hosts.

内容

'-a' オプションで RMS を起動して、内部エラーのためリモートノード上で RMS を起動できない場合に、このメッセージが出力されます。重大な内部エラーです。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。当面の回避策としては、再度操作を行うか、各ノードの RMS を手動で起動してください。

(ADM, 96) Remote startup of RMS failed <*startupcommand*>.Reason: *errorreason*.

内容

コマンド <*startupcommand*> が失敗したので、RMS をリモートノード上で起動できないときに、このメッセージが出力されます。

対処

一部のノードにアクセスできないとき、またはネットワークがダウンしているときに、このエラーが発生します。

ネットワーク、リモート先のノードに問題が無いか確認し、原因を回避してから再度操作を行ってください。

(ADM, 98) Dynamic modification failed: controller <*controller*> has its Resource attribute set to <*resource*>, but some of the controlled applications from this list do not exist.

内容

コントローラノードがコントロールするアプリケーションが見つからず、そのアプリケーションがノード上で稼動しているときに、このメッセージが出力されます。

対処

変更ファイルを訂正して、コントローラが既存のアプリケーションだけをコントロールするようにしてください。

(ADM, 99) Dynamic modification failed: cannot change attribute Resource of the controller object <*controller*> from <*oldresource*> to <*newresource*> because one or more of the applications listed in <*newresource*> is not an existing application or its state is incompatible with the state of the controller, or because the list contains duplicate elements.

内容

コントローラオブジェクト <*controller*> の Resource 属性を <*oldresource*> から <*newresource*> に変更しようとして、<*newresource*> にリストされている 1つ以上のアプリケーションが既存のアプリケーションでない場合、またはアプリケーションの状態がコントローラの状態と矛盾する場合、またはリスト内の要素が重複している場合に、このメッセージが出力されます。

対処

リソース <*newresource*> にリストされているアプリケーションが、2 回以上書かれていないことまたは無効であることを確認してください。

(ADM, 100) Dynamic modification failed: because a controller <*controller*> has AutoRecover set to 1, its controlled application <*userapplication*> cannot have PreserveState set to 0 or AutoSwitchOver set to 1.

内容

アプリケーションをコントローラでコントロールする必要があり、コントローラの AutoRecover 属性が 1 に設定されている場合は、アプリケーションの属性 PreserveState および AutoSwitchOver をそれぞれ 1 と No に設定する必要があります。

対処

アプリケーションの属性 PreserveState および AutoSwitchOver を確認してください。

(ADM, 106) The total number of SysNodes specified in the configuration for this cluster is *hosts*. This exceeds the maximum allowable number of SysNodes in a cluster which is *maxhosts.*

内容

クラスタ内の SysNode オブジェクト数の合計が、上限値を超えています。

対処

クラスタ内の SysNode オブジェクト数の合計が *maxhost* を超えないように設定してください。

(ADM, 107) The cumulative length of the SysNode names specified in the configuration for the userApplication <*userapplication*> is *length*. This exceeds the maximum allowable length which is *maxlength*.

内容

クラスタアプリケーション <*userapplication*> の RMS 構成定義ファイルに指定された SysNode 名の長さの累計が、上限値を超えています。

対処

SysNode 名の長さが、制限値以下になるように設定してください。

(ADM, 118) Dynamic modification failed: cannot add SatNode <*satnode*> since its rKind <*rkind*> is not consistent with the rKind of the other SatNodes.

内容

SatNode *satnode* の *rKind* が他の SatNode の *rKind* と異なっています。

対処

すべての SatNode の *rKind* が同じであることを確認してください。

(ADM, 125) Dynamic modification failed: The <*attr*> entry <*value*> for SysNode <*sysnode*> matches the <*attr*> entry or the SysNode name for another SysNode.

内容

エントリ *attr* は一意でなければなりません。

対処

エントリ *attr* が一意であることを確認してください。

(ADM, 126) *userapplication*: This application is controlled by controller *object*. That controller is defined as a LOCAL controller and as such switching this application must be done by switching the controlling application *userapplication*

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADM, 128) <*resource*> is neither a userApplication nor a resource object, switch request skipped!

内容

切替えを実行するときは、hvswitch コマンドの引数としてクラスタアプリケーションまたはリソースを指定する必要があります。<*resource*>がクラスタアプリケーションまたはリソースでない場合に、このメッセージが出力されます。

対処

"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" で、hvswitch の正しい使用方法を確認してください。

(ADM, 129) Shutdown on targethost <*sysnode*> in progress. Switch request for resource <*resource*> skipped!

内容

切替え要求の対象ノードが以前に発行されたシャットダウン要求に応答しています。切替え要求は取り消されました。

対処

対処する必要はありません。

6.1.3.3 BAS: 起動および構成定義エラー

(BAS, 2) Duplicate line in hvgdstartup.

内容

RMS が hvgdstartup で行の重複を検出すると、このメッセージが表示されます。この後、RMS はコード 23 で終了します。

対処

hvgdstartup では、行は一意である必要があります。重複した行はすべて削除してください。

(BAS, 3) No kind specified in hvgdstartup.

内容

hvgdstartup ファイルで、ディテクタのエントリが g<*n*> -t<*n*>' -k<*n*> の形式でない場合、または、-k<*n*>& オプションが脱落しています。この場合は RMS が起動できないため、コード 23 で終了します。

対処

ディテクタの種類（-k<*n*> オプション）が、正しく指定されるようにエントリを修正してください。

(BAS, 6) DetectorStartScript for kind <*kind*> cannot be redefined while detector is running.

内容

動的変更の間に DetectorStartScript の種類を再定義しようとすると、このメッセージが出力されます。

対処

ディテクタの実行中は DetectorStartScript の再定義をしないようにしてください。

(BAS, 9) ERROR IN CONFIGURATION FILE: *message*.

内容

以下のいずれか 1つのメッセージが表示されます。

1. Check for SanityCheckErrorPrint
2. Object <*object*> cannot have its HostName attribute set since it is not a child of any userApplication. Only the direct descendants of userApplication can have the HostName attribute set.
3. In basic.C:parentsCount(...)
4. The node <*node*> belongs to more than one userApplication, *app1* and *app2*. Nodes must be children of one and only one userApplication node.

5. The node <*node*> is a leaf node and this type <*type*> does not have a detector. Leaf nodes must have detectors.
6. The node <*node*> has an empty DeviceName attribute. This node uses a detector and therefore it needs a valid DeviceName attribute.
7. The rName is <*rname*>, its length *length* is larger than max length *maxlength*.
8. The DuplicateLineInHvgdstartup is <*number*>, so the hvgdstartup file has a duplicate line.
9. The NoKindSpecifiedForGdet is <*number*>, so no kind specified in hvgdstartup.
10. Failed to load a detector of kind <*kind*>.
11. The node <*node*> has an invalid rKind attribute. Nodes of type gResource must have a valid rKind attribute.
12. The node <*node*> has a ScriptTimeout value that is less than its detector report time. This will cause a script timeout error to be reported before the detector can report the state of the resource. Increase the ScriptTimeout value for *objectname* (currently *value* seconds) to be greater than the detector cycle time (currently *value* seconds).
13. Node <*node*> has no detector while all its children's "MonitorOnly" attributes are set to 1.
14. The node <*node*> has both attributes "LieOffline" and "ClusterExclusive" set. These attributes are incompatible; only one of them may be used.
15. The type of object <*object*> cannot be or and and at the same time.
16. Object <*object*> is of type and, its state is online, but not all children are online.

対処

上記の説明を参照して構成を修正してください。

(BAS, 14) ERROR IN CONFIGURATION FILE:The object <*object*> belongs to more than one userApplication, *userapplication1* and *userapplication2*.Objects must be children of one and only one userApplication object.

内容

1つのオブジェクトが複数のユーザアプリケーションの一部であることが判明しました。

RMS アプリケーションは、共通オブジェクトを持つことができません。

対処

複数のアプリケーションが共通のオブジェクトを持つことがないよう RMS 構成定義ファイルを見直してください。

(BAS, 15) ERROR IN CONFIGURATION FILE:The object <*object*> is a leaf object and this type <*type*> does not have a detector.Leaf objects must have detectors.

内容

子オブジェクトを持たないオブジェクト(リーフオブジェクト)のタイプは、*type* です。このタイプは、RMS のディテクタを持っていません。RMS 構成定義ファイルにおいては、すべてのリーフオブジェクトがディテクタを持つ必要があります。

対処

すべてのリーフオブジェクトがディテクタを持つように RMS 構成定義ファイルを変更してください。

(BAS, 16) ERROR IN CONFIGURATION FILE:The object *object* has an empty DeviceName attribute.This object uses a detector and therefore it needs a valid DeviceName attribute.

内容

重大な内部エラーです。switchlog にこのメッセージが出力された場合は、BM に重大な障害が発生していることを示しています。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(BAS, 17) ERROR IN CONFIGURATION FILE:The rName is <*rname*>, its length *length* is larger than max length *maxlength*.

内容

rName 属性の値の長さが、上限値 *maxlength* を超えています。

対処

上限値 *maxlength* を超えないよう rName を指定してください。

(BAS, 18) ERROR IN CONFIGURATION FILE:The duplicate line number is <*linenumber*>.

内容

このメッセージには、hvgdstartup ファイルの重複行の行番号が表示されます。

対処

ファイル hvgdstartup に重複行がないようにしてください。

(BAS, 19) ERROR IN CONFIGURATION FILE:The NoKindSpecifiedForGdet is <*kind*>, so no kind specified in hvgdstartup.

内容

hvgdstartup で汎用ディテクタの種類が指定されていません。

対処

hvgdstartup の汎用ディテクタの種類を指定してください。

(BAS, 23) ERROR IN CONFIGURATION FILE: DetectorStartScript for object *object* is not defined. Objects of type *type* should have a valid DetectorStartScript attribute.

内容

オブジェクト *object* に DetectorStartScript が定義されていません。

対処

オブジェクト *object* に DetectorStartScript が定義されていることを確認してください。

(BAS, 24) ERROR IN CONFIGURATION FILE: The object *object* has an invalid rKind attribute. Objects of type gResource must have a valid rKind attribute.

内容

オブジェクト *object* に無効な rKind 属性が指定されています。

対処

オブジェクト *object* に有効な rKind 属性を指定してください。

(BAS, 25) ERROR IN CONFIGURATION FILE:The object *object* has a ScriptTimeout value that is less than its detector report time.This will cause a script timeout error to be reported before the detector can report the state of the resource.Increase the ScriptTimeout value for *object* (currently *seconds* seconds) to be greater than the detector cycle time (currently *detectorcycletime* seconds).

内容

ScriptTimeout の値がディテクタ通知間隔より小さいと、このメッセージが表示されます。この場合、リソースを Online または Offline に変更しようとすると、その移行処理中はリソースに障害が発生しているように見えます。

対処

ScriptTimeout の値がディテクタ通知期間より大きくなるように変更してください。

(BAS, 26) ERROR IN CONFIGURATION FILE:The type of object <*object*> cannot be 'or' and 'and' at the same time.

内容

RMS オブジェクトは or または and のいずれかのタイプである必要がありますが、同時に両方のタイプであることはできません。switchlog にこのメッセージが出力された場合は、RMS の実行可能プログラムに重大な損傷が発生しています。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(BAS, 27) ERROR IN CONFIGURATION FILE:object <*object*> is of type 'and', its state is online, but not all children are online.

内容

このメッセージは、動的変更の実行中、変更の適用前に既存の RMS 構成定義ファイルを検証した際に表示されます。このメッセージが表示されると、動的構成はそれ以上実行されません。

対処

タイプが and の Online オブジェクトすべてに、Online 状態の子オブジェクトが存在するように修正した後、動的変更を実行してください。

(BAS, 29) ERROR IN CONFIGURATION FILE:object <*object*> cannot have its HostName attribute set since it is not a child of any userApplication.

内容

クラスタアプリケーションの子オブジェクトでないオブジェクトに、HostName 属性が設定されています。HostName 属性を設定できるのは、クラスタアプリケーションの子オブジェクトだけです。

対処

オブジェクトの定義から HostName 属性を削除するか、このオブジェクトを他の非 userApplication オブジェクトの子オブジェクトにすることにより、userApplication オブジェクトをこのオブジェクトから切り離してください。

(BAS, 30) ERROR IN CONFIGURATION FILE:The object *object* has both attributes "LieOffline" and "ClusterExclusive" set.These attributes are incompatible; only one of them may be used.

内容

1つの RMS オブジェクトに 2つの属性 LieOffline と ClusterExclusive が同時に設定されています。1つのオブジェクトには、どちらか一方しか指定できません。

対処

RMS オブジェクト *object* から、いずれか一方または両方の属性を削除してください。

(BAS, 31) ERROR IN CONFIGURATION FILE:Failed to load a detector of kind <*kind*>.

内容

RMS BM によりディテクタが起動できませんでした。

対処

ディテクタの実行可能ファイルが正しい場所に存在していること、および実行権限があることを確認してください。

(BAS, 32) ERROR IN CONFIGURATION FILE:Object <*object*> has no detector while all its children's <MonitorOnly> attributes are set to 1.

内容

ディテクタを持たないオブジェクトの、すべての子オブジェクトの MonitorOnly 属性 が 1 に設定されています。ディテクタを持たないオブジェクトには、MonitorOnly が 0 に設定された子オブジェクトが最低 1つ必要です。

対処

ディテクタを持たないオブジェクトには、MonitorOnly が 0 に設定された子オブジェクトが最低 1つ存在するように RMS 構成定義ファイルを変更してください。

(BAS, 36) ERROR IN CONFIGURATION FILE:The object *object* has both attributes "MonitorOnly" and "ClusterExclusive" set. These attributes are incompatible; only one of them may be used.

内容

1つの RMS オブジェクトに 2つの属性 MonitorOnly と ClusterExclusive が同時に設定されています。1つのオブジェクトには、どちらか一方しか指定できません。

対処

RMS オブジェクト *object* から、いずれか一方または両方の属性を削除してください。

(BAS, 37) ERROR IN CONFIGURATION FILE: The satApplication <*satapp*> has no children, or its children are not valid resources.

内容

satApplication *satapp* には子が存在しないか、satApplication の子のいずれかが有効なリソースではありません。

対処

satapp に有効なリソースである子が存在していることを確認してください。

(BAS, 38) ERROR IN CONFIGURATION FILE: The satService <*satserv*> has no children, or its children are not valid resources.

内容

satService *satserv* には子が存在しないか、satService の子のいずれかが有効なリソースではありません。

対処

satserv に有効なリソースである子が存在していることを確認してください。

(BAS, 39) ERROR IN CONFIGURATION FILE: The gResource <*gresource*> belongs to a satellite configuration and it is not allowed to have any children.

内容

gResource *gresource* は子を持つことができません。

対処

gresource に子が存在しないことを確認してください。

(BAS, 40) ERROR IN CONFIGURATION FILE: The object <*object*> belongs to more than one satApplication, *satapplication1* and *satapplication2*. Objects must be children of one and only one satApplication object.

内容

1つのオブジェクトが複数の satApplication に関連付けられています。RMS satApplication は、共通オブジェクトを持つことができません。

対処

複数のアプリケーションが共通のオブジェクトを持つことがないよう構成を変更してください。

(BAS, 41) ERROR IN CONFIGURATION FILE: The object <*object*> belongs to more than one satService, *satservice1* and *satservice2*. Objects must be children of one and only one satService object.

内容

1つのオブジェクトが複数の satService に関連付けられています。RMS satService は、共通オブジェクトを持つことができません。

対処

複数の satService が共通のオブジェクトを持つことがないよう構成を見直してください。

(BAS, 42) ERROR IN CONFIGURATION FILE: The gResource <*gresource*> belonging to a satellite configuration does not have its HostName attribute set. Please ensure that the HostName attribute is set for this gResource.

内容

gResource *gresource* に HostName 属性が設定されていません。

対処

サテライト構成に属する gResource *gresource* に HostName 属性が設定されていることを確認してください。

(BAS, 43) ERROR IN CONFIGURATION FILE: The object *object* has both attributes "MonitorOnly" and "NonCritical" set. These attributes are incompatible; only one of them may be used.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.1.3.4 BM: ベースモニタ

(BM, 13) no symbol for object <*object*> in .inp file, line = *linenumber*.

内容

RMS 内部エラー。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(BM, 14) Local queue is empty on read directive in line:*linenumber*.

内容

RMS 内部エラー。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(BM, 15) destination object <*object*> is absent in line: *linenumber*.

内容

RMS 内部エラー。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(BM, 16) sender object <*object*> is absent in line:*linenumber*.

内容

RMS 内部エラー。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(BM, 17) Dynamic modification failed: line *linenumber*, cannot build an object of unknown type <*symbol*>.

内容

動的変更の実行中に、タイプが不明のオブジェクトを追加しました。

対処

RMS 構成定義ファイルでは、タイプが既知のオブジェクトだけを使用してください。

(BM, 18) Dynamic modification failed: line *linenumber*, cannot set value for attribute <*attribute*> since object <*object*> does not exist.

内容

存在しないオブジェクトの属性を変更することはできません。

対処

存在するオブジェクトの属性だけを変更してください。

(BM, 19) Dynamic modification failed: line *linenumber*, cannot modify attribute <*attribute*> of object <*object*> with value <*value*>.

内容

属性変更の対象として、無効な属性を指定しました。

対処

有効な属性だけを変更してください。

(BM, 20) Dynamic modification failed: line *linenumber*, cannot build object <*object*> because its type <*symbol*> is not a user type.

内容

動的変更の実行中に、システムタイプ <*symbol*> のオブジェクト <*object*> を指定しました。

対処

新規オブジェクトを構成に追加するときは、有効なリソースタイプだけを使用してください。

(BM, 21) Dynamic modification failed: cannot delete object <*object*> because its type <*symbol*> is not a user type.

内容

システムタイプ <*symbol*> のオブジェクト <*object*> を、削除の対象として指定しました。

対処

有効なリソースタイプのオブジェクトだけを削除してください。

(BM, 23) Dynamic modification failed: The <Follow> attribute for controller <*controller*> is set to 1, but the content of a PriorityList of the controlled application <*controlleduserApplication*> is different from the content of the PriorityList of the application <*userapplication*> to which <*controller*> belongs.

内容

制御されるアプリケーション <*controlleduserApplication*> の PriorityList が、コントローラ <*controller*> が属しているアプリケーション <*userApplication*> の PriorityList と異なる場合に、このメッセージが出力されます。

対処

コントローラと制御されるアプリケーションの PriorityList が同じであることを確認してください。

(BM, 24) Dynamic modification failed: some resource(s) supposed to come standby failed.

内容

動的変更の実行中に、Standby 状態のリソースに追加する新規リソースを Standby にできない場合、このメッセージが出力されます。

対処

RMS 構成定義ファイルを分析して、スタンバイ対応リソースを Standby 状態にできるかどうか確認してください。

(BM, 25) Dynamic modification failed: standby capable controller <*controller*> cannot control application <*userapplication*> which has no standby capable resources on host <*sysnode*>.

内容

アプリケーション <*userapplication*> をコントローラ <*controller*> でコントロールするには、アプリケーション <*userapplication*> がノード <*sysnode*> 上で 1つ以上のスタンバイ対応リソースを持っている必要があります。

対処

制御されるアプリケーションが 1つ以上のスタンバイ対応コントローラを持っていること、またはコントローラがスタンバイ対応でないことを確認してください。

(BM, 26) Dynamic modification failed: controller <*controller*> cannot have attributes StandbyCapable and IgnoreStandbyRequest both set to 0.

内容

コントローラの属性 StandbyCapable と IgnoreStandbyRequest の両方を 1 に設定すると、このメッセージが出力されます。

対処

一方の属性だけを 1 に設定し、もう一方を 0 に設定してください。

(BM, 29) Dynamic modification failed: controller object <*controller*> cannot have its attribute 'Follow' set to 1 while one of OnlineTimeout or StandbyTimeout is not null.

内容

コントローラノード <*controller*> の Follow 属性を 1 に設定するには、属性 OnlineTimeout または StandbyTimeout の一方を null にする必要があります。

対処

属性を正しく設定して、再実行してください。

(BM, 42) Dynamic modification failed: application <*userapplication*> is not controlled by any controller, but has one of its attributes ControlledSwitch or ControlledShutdown set to 1.

内容

アプリケーション <*userapplication*> をコントローラでコントロールする必要がある場合に、アプリケーションの属性 ControlledSwitch と ControlledShutdown の一方または両方が 1 に設定されていると、このメッセージが出力されます。

対処

属性を正しく設定して、再実行してください。

(BM, 46) Dynamic modification failed: cannot modify a global attribute <*attribute*> locally on host <*hostname*>.

内容

DetectorStartScript、NullDetector、または NonCritical などのグローバル属性 <*attribute*> を、ノード <*hostname*> 上でローカルに変更することはできません。

対処

attribute をグローバルに変更するか、別の属性をローカルに変更してください。

(BM, 54) The RMS-CF-CIP mapping cannot be determined for any host due to the CIP configuration file <*configfilename*> missing entries.Please verify all entries in <*configfilename*> are correct and that CF and CIP are fully configured.

内容

CIP 構成定義ファイルに、エントリの抜けがあります。

対処

クラスタ内で稼動するすべての RMS ノードのエントリが CIP 構成定義ファイルに含まれていることを確認してください。

(BM, 59) Error *errno* while reading line <linenumber> of .dob file -- <*errorreason*>.

内容

BM は、動的再構成の間に自らの RMS 構成を.dob ファイルから読込みを行います。このファイルが読込めない場合、このメッセージが switchlog に出力されます。この OS エラーは、*errno* および *errorreason* に表示されます。

対処

ノードが .dob ファイルをエラーが表示されることなく読込める状態にあることを確認してください。

(BM, 68) Cannot get message queue parameters using sysdef, errno = <*errno*>, reason: <*reason*>.

内容

メッセージキューパラメタの取得時に sysdef から BM にパラメタを送信できなくなりました。

errno および *reason* の値はエラーの種類を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(BM, 71) Dynamic modification failed: Controller <*controller*> has its attribute Follow set to 1. Therefore, its attribute IndependentSwitch must be set to 0, and its controlled application <*application*> must have attributes
AutoSwitchOver == "No"
StandbyTransitions="No"
AutoStartUp=0
ControlledSwitch = 1
ControlledShutdown = 1
PartialCluster = 0.
However, the real values are
IndependentSwitch = <isw>
AutoSwitchOver = <asw>
StandbyTransitions = <str>
AutoStartUp = <asu>

ControlledSwitch = <csw>
ControlledShutdown = <css>
PartialCluster = <pcl>.

内容

コントローラ属性 Follow が設定されている場合、他の属性 IndependentSwitchOver、AutoSwitchOver、ControlledSwitch および ControlledShutdown の値は、それぞれ 0、No、1、および 1 に設定されている必要があります。しかし、現在の RMS 構成定義ファイルはこのように設定されていません。

対処

コントローラとそれにより制御されるユーザアプリケーションに対し、正しい組合せで属性を設定してください。

(BM, 72) Dynamic modification failed: Controller <*controller*> with the <Follow> attribute set to 1 belongs to an application <*application*> which PersistentFault is <*appfault*>, while its controlled application <*controlledapplication*> has its PersistentFault <*_fault*>.

内容

コントローラの Follow が 1 に指定された場合は、すべての制御されるアプリケーションは、属性 <PersistentFault> について、コントローラが属するアプリケーションと同じ値を持つ必要があります。

対処

RMS 構成定義ファイルを確認後、修正してください。

(BM, 73) The RMS-CF interface is inconsistent and will require operator intervention. The routine "*routine*" failed with error code *errocode* - "*errorreason*".

内容

これは、ルーチン <*routine*> が <*errorreason*> の理由で失敗し、RMS-CF の整合性が失われたことを示すメッセージです。

対処

複数のノードで同時にRMSを停止した際に出力された場合、対処は不要です。それ以外の場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(BM, 74) The attribute DetectorStartScript and hvgdstartup file cannot be used together.The hvgdstartup file is for backward compatibility only and support for it may be withdrawn in future releases.Therefore it is recommended that only the attribute DetectorStartScript be used for setting new configurations.

内容

DetectorStartScript 属性と hvgdstartup ファイルは排他関係にあります。

対処

新しい RMS 構成定義ファイルの設定には必ず DetectorStartScript を使用してください。

hvgdstartup は、将来のリリースではサポートされない可能性があります。

(BM, 75) Dynamic modification failed: controller <*controller*> has its attributes SplitRequest, IgnoreOnlineRequest, and IgnoreOfflineRequest set to 1. If SplitRequest is set to 1, then at least one of IgnoreOfflineRequest or IgnoreOnlineRequest must be set to 0.

内容

コントローラ属性の組合せが正しくありません。IgnoreOfflineRequest と IgnoreOnlineRequest の両方が 1 に設定されていると、制御されるアプリケーションに要求がいっさい伝播されないため、要求は分割されません。

対処

コントローラ属性を正しい組合せで指定してください。

(BM, 80) Dynamic modification failed: controller <*controller*> belongs to the application <*application*> which AutoSwitchOver attribute has "ShutDown" option set, but its controlled application <*controlled*> has not.

内容

制御するアプリケーションの AutoSwitchOver 属性にオプション Shutdown が指定されている場合、このアプリケーションのコントローラにより制御されるすべてのアプリケーションにも、同様に AutoSwitchOver 属性にオプション Shutdown が指定されている必要があります。

対処

AutoSwitchOver 属性を正しく設定してください。

(BM, 81) Dynamic modification failed: local controller attributes such as NullDetector or MonitorOnly cannot be modified during local modification (hvmod -l).

内容

NullDetector や MonitorOnly などのローカルなコントローラ属性の変更は、グローバルな変更の間にのみ可能です。

対処

ローカルでない変更を行うか、別の属性を変更してください。

(BM, 90) Dynamic modification failed: The length of object name <*object*> is *length.* This is greater than the maximum allowable length name of *maxlength*.

内容

オブジェクト名の長さが上限値を超えています。

対処

オブジェクト名の長さが上限値を超えないようにしてください。

(BM, 92) Dynamic modification failed: a non-empty value <*value*> is set to <*ApplicationSequence*> attribute of a non-scalable controller <*controller*>.

内容

スケーラブルコントローラ以外のコントローラでは、Apllication Sequence 属性は設定できません。

対処

ApplicationSequence 属性と Scalable 属性を正しく設定してください。

(BM, 94) Dynamic modification failed: the ApplicationtSequence attribute of a scalable controller <*controller*> includes application name <*hostname*>, but this name is absent from the list of controlled applications set to the value of <*resource*> in the attribute <*Resource*>.

内容

スケーラブルコントローラの ApplicationSequence 属性に、制御されるアプリケーションのリストにないアプリケーション名が含まれています。

対処

コントローラの ApplicationSequence 属性と Resource 属性を正しく設定してください。

(BM, 96) Dynamic modification failed: a scalable controller <*controller*> has its attributes <*Follow*> set to 1 or <*IndependentSwitch*> set to 0.

内容

スケーラブルコントローラでは、属性 Follow を 0 に、IndependentSwitch を 1 に設定する必要があります。

対処

Follow、IndependentSwitch、Scalable の各属性を正しく設定してください。

(BM, 97) Dynamic modification failed: controller <*controller*> attribute <*ApplicationSequence*> is set to <*applicationsequence*> which refers to application(s) not present in the configuration.

内容

スケーラブルコントローラの ApplicationSequence 属性で指定できるのは既存のアプリケーションのみです。

対処

ApplicationSequence 属性を正しく設定してください。

(BM, 98) Dynamic modification failed: two scalable controllers <*controller1*> and <*controller2*> control the same application <*application*>.

内容

1つのアプリケーションを制御できるのは、1つのスケーラブルコントローラのみです。

対処

RMS 設定を修正してください。

(BM, 99) Dynamic modification failed: controlled application <*controlledapp*> runs on host <*hostname*>, but it is controlled by a scalable controller <*scontroller*> which belongs to an application <*controllingapp*> that does not run on that host.

内容

制御されるアプリケーションと制御するアプリケーションで、ノード名が一致していません。制御するアプリケーションは、制御されるアプリケーションが実行されているすべてのノードで実行されていなければなりません。

対処

RMS 設定を修正してください。

(BM, 101) Dynamic modification failed: controlled application <*controlledapp*> runs on host <*hostname*>, but it is controlled by a scalable controller <*scontroller*> which belongs to a controlling application <*controllingapp*> that does not allow for the controller to run on that host.

内容

制御されるアプリケーションと制御するアプリケーションで、ノード名が一致していません。制御するアプリケーションは、制御されるアプリケーションが実行されているすべてのノードで実行されていなければなりません。

対処

RMS 設定を修正してください。

(BM, 103) Dynamic modification failed: Controller <*controller*> has its attribute Follow set to 1 and the controlled application <*application*> has StandbyCapable resources. Therefore the controller itself must have StandbyCapable set to 1 and IgnoreStandbyRequest must be set to 0.

内容

コントローラに Follow 属性が設定され、制御されるアプリケーションが StandbyCapable リソースを持つ場合、コントローラには StandbyCapable を設定し、IgnoreStandbyRequest を無効にしてください。無効になっていない場合、制御されるアプリケーションに Standby 要求が正しく伝播されません。

対処

コントローラとそれにより制御されるユーザアプリケーションに対し、正しい組合せで属性を

設定してください。

(BM, 105) Dynamic modification failed: Invalid kind of generic resource specified in DetectorStartScript <script> for object <object>.

内容

ディテクタの起動スクリプト内の -k フラグに指定された値が正しくありません。

対処

RMS 設定を修正してください。

(BM, 106) The rKind attribute of object <*object*> does not match the value of the '-k' flag of its associated detector.

内容

rKind 属性の値とディタクタ起動行の -k フラグの値が一致していません。

対処

RMS 設定を修正してください。

(BM, 107) Illegal different values for rKind attribute in object <*object*>.

内容

同一オブジェクト内で rKind の異なる値が検出されました。

対処

RMS 設定を修正してください。

(BM, 108) Dynamic modification failed: Scalable controller <*object*> cannot have its attribute <*SplitRequest*> set to 1.

内容

コントローラ属性 Scalable と SplitRequest は同時に指定できません。

対処

RMS 設定を修正してください。

(BM, 109) Dynamic modification failed: Application <*application*> has its attribute PartialCluster set to 1 or is controlled, directly or indirectly, via a Follow controller that belongs to another application that has its attribute PartialCluster set to 1 -- this application <*application*> cannot have a cluster exclusive resource <*resource*>.

内容

排他リソースは、PartialCluster 属性が 1 に設定されたアプリケーションに属することはできません。また、排他リソースを PartialCluster 属性が 1 に設定されたアプリケーションから Follow コントローラによって直接または間接的に制御することもできません。

対処

RMS 設定を修正してください。

(BM, 110) Dynamic modification failed: Application <*application*> is controlled by a scalable controller <*controller*>, therefore it cannot have its attribute <*ControlledShutdown*> set to 1 while its attribute <*AutoSwitchOver*> includes option <*ShutDown*>.

内容

スケーラブルコントローラにより制御されたアプリケーションでは、AutoSwitchOver にオプション <*ShutDown*> が指定されている場合は、ControlledShutdown を 1 に設定することはできません。

対処

RMS 構成定義ファイルを修正してください。

(BM, 111) Dynamic modification failed: Line #line is too big.

内容

RMS 構成定義ファイル内の 1 行の大きさが制限を越えています。

対処

各行が 2000 バイト未満になるように、RMS 構成定義ファイルを修正してください。

(BM, 113) Base monitor has reported 'Faulted' for host <*Sysnode*>.

内容

<*Sysnode*> の RMS が予期せず終了しました。

対処

RMS が予期せず終了した原因を調査し、適切な対処を実行してください。RMSが予期せず終了した場合、予期せず終了したノードを強制停止する旨の(US, 12)のメッセージが続けて出力されます。

<*Sysnode*> が停止している状態で、RMS を起動した場合に、本メッセージが出力されることがありますが、この場合は対処不要です。

(BM, 114) Dynamic modification failed: The SatNode <*satnode*> specified is already an existing SysNode entry.

内容

SatNode *satnode* はすでに SysNode 名に使用されています。

対処

SatNode に別の名前を指定して、再度変更処理を行ってください。

(BM, 122) getaddrinfo failed, reason: *errorreason*, errno <*errno*>. Failed to allocate a socket for "rmshb" port monitoring.

内容

getaddrinfo が異常終了したため、rmshb のポートの割り当てに失敗しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.1.3.5 CML: コマンドライン

(CML, 11) Option (*option*) requires an operand.

内容

hvcm のオプションには、引数を必要とするものがあります。引数を指定しないで hvcm を呼び出すと、このメッセージと hvcm の使用方法が表示され、RMS が終了コード 3 で終了します。

対処

"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" で、hvcm の正しい使用方法を確認してください。

(CML, 12) Unrecognized option *option*.

内容

無効なオプションを指定しました。

対処

"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" で、hvcm の正しい使用方法を確認してください。

(CML, 17) Incorrect range argument with -l option.

内容

-l オプションで、不適切な数字を指定しました。範囲を確認してください。

対処

"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" で、hvcm の -l オプションの範囲引数を確認してください。

(CML, 18) Log level <*loglevel*> is too large. The valid range is 1..*maxloglevel* with the -l option.

内容

hvcm または hvutil の -l オプションで指定したログレベル *loglevel* が最大ログレベル *maxloglevel* より大きい場合に、このメッセージが出力されます。

対処

hvcm または hvutil の -l オプションで、1..*maxloglevel* の範囲のログレベルを指定してください。

(CML, 19) Invalid range <*low* - *high*>.Within the '-l' option, the end range value must be larger than the first one.

内容

hvcm または hvutil の -l オプションでログレベルの範囲を指定し、上限 *high* の値が *low* の値より小さいと、このメッセージが出力されます。

対処

上限を下限より大きい値で指定してください。

(CML, 20) Log level must be numeric.

内容

hvcm または hvutil の -l オプションで指定したログレベルが数値、もしくは display オプションでない場合に、このメッセージが出力されます。

対処

ログレベルを数値で指定してください。

(CML, 21) 0 is an invalid range value. 0 implies all values. If a range is desired, the valid range is 1..*maxloglevel* with the -l option.

内容

hvcm または hvutil の -l オプションでログレベルの範囲を指定し、範囲外の場合、このメッセージが出力されます。

対処

hvcm または hvutil の -l オプションに有効なログレベルを指定してください。有効範囲は1..*maxloglevel* です。

6.1.3.6 CRT: コントラクトおよびコントラクトジョブ

(CRT, 1) FindNextHost: local host not found in priority list of *nodename*.

内容

RMS BM はすべてのクラスタノードの優先順位リストを管理します。通常、ローカルノードは必ずリスト内に存在します。そうでない場合に、このメッセージが出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(CRT, 2) cannot obtain the NET_SEND_Q queue.

内容

RMS は内部キューを使用して、同じノード上のプロセス間または異なるノード上のプロセス間でコントラクトを送信します(コントラクトはクラスタのノード間で送信され、特定の操作に関して異なるノードの同期がとられていることを確認するためのメッセージです)。これらのコントラクトを RMS クラスタのノード間で送信するために使用する NET_SEND_Q キューに問題があると、このメッセージが switchlog に書き込まれます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(CRT, 3) Message send failed.

内容

RMS がクラスタ内で別のノードにメッセージを送信しようとしたときに、NET_SEND_Q キューによるこのメッセージ配信が失敗すると、このメッセージが出力されます。原因として、メッセージ送信先のノードがダウンしているか、クラスタインタコネクトの問題が考えられます。

対処

クラスタ内で他のすべてのノードが稼動していること、およびすべてのノードでネットワークの問題が発生していないことを確認してください。

(CRT, 4) *object*: *type* Contract retransmit failed: Message Id = *messageid* see bmlog for contract details.

内容

あるノード上の RMS が NET_SEND_Q キューを使用して、別のノードまたはそのノード自身に(クラスタにノードが 1つしか存在しない場合)コントラクトを送信するときは、内部で決められた特定の回数だけこのコントラクト送信を試みます。この回数が試行されてもメッセージを送信できない場合は、このメッセージが switchlog に書き込まれて、このコントラクトが破棄されます

(UAP コントラクトは破棄されません)。

対処

クラスタインタコネクトに問題がないことと、クラスタの整合性がとれていること(つまり、複数のノード上でクラスタアプリケーションが Online でないこと、SysNode が保留 Wait 状態でないことなど)を確認してください。

確認した結果問題がある場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(CRT, 5) The contract <*crtname*> is being dropped because the local host <*crthost*> has found the host originator <*otherhost*> in state <*state*>. That host is expected to be in state Online. Please check the interhost communication channels and make sure that these hosts see each other Online.

内容

ローカルノード *crthost* は、Online であるべきコントラクトノードの発信元の状態が、*state* であることを検出しました。

対処

ノード間通信チャネルが正しく動作中であること、およびノードが互いに Online であることを認識していることを確認してください。

6.1.3.7 CTL: コントローラ

(CTL, 1) Controller <*controller*> will not operate properly since its controlled resource <*resource*> is not in the configuration.

内容

コントローラによって制御されるリソースが RMS 構成定義ファイルに存在せず、コントローラの NullDetector 属性が off に設定されている場合に、このメッセージが出力されます。

対処

コントローラが正しく機能するには、制御されるリソースが RMS 構成定義ファイル内に存在する必要があります。

リソースを正しく構成してください。

(CTL, 2) Controller <*controller*> detected more than one controlled application Online. This has lead to the controller fault. Therefore, all the online controlled application will now be switched offline.

内容

1つ以上のノードで、コントローラ <*controller*> に制御されるアプリケーションが 2つ以上 Online になると、コントローラに障害が発生します。

対処

コントローラに制御されるアプリケーションが、複数個 Online にならないようにしてください。

6.1.3.8 CUP: userApplication コントラクト

(CUP, 2) *object*: cluster is in inconsistent condition
current online host conflict,
received: *host*, local: *onlinenode*.

内容

どのノードがクラスタアプリケーションを制御するかについてクラスタノード間で合意に達しない場合にこのメッセージが出力されます。最も可能性の高い原因として、hvswitch 要求の強制実行などのシステム管理者の操作ミスにより、複数ノードでクラスタアプリケーションが同時に Online になった場合が考えられます。

対処

クラスタの不整合を分析して適切な解決策を実行してください。例えば、複数ノードでクラスタアプリケーションが Online になった場合は、1 台のノードを除くすべてのクラスタアプリケーションを hvutil -f コマンドでシャットダウンしてください。

(CUP, 3) *object* is already waiting for an event cannot set timer!

内容

重大な内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(CUP, 5) *object* received unknown contract.

内容

ノードが認識不能なコントラクトをアプリケーションから受け取りました。重大な内部エラーです。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(CUP, 7) *userApplication* is locally online, but is also online on another host.

内容

ユーザアプリケーションがローカルノード上で Online で、他のノード上でも Online です。

対処

ユーザアプリケーションは 1つのノードでのみ Online になることができます。1つを除くすべてのノードでアプリケーションが Offline であることを確認してください。アプリケーションが複数のノードで Online になっている場合は、hvutil -f を使用して余分なノード上のクラスタアプリケーションを Offline 状態にしてください。

(CUP, 8) *object*: could not get an agreement about the current online host; cluster may be in an inconsistent condition!

内容

クラスタアプリケーションを制御するノードがどのノードなのかの認識がクラスタノード間で異なっている場合にこのメッセージが出力されます。最も可能性の高い原因として、hvswitch 要求の強制実行などのシステム管理者の操作ミスにより、複数ノードでクラスタアプリケーションが同時に Online になった場合が考えられます。

このメッセージは (CUP, 2) と同じです。(CUP, 8) がコントラクトの発信元ノードに出力されるのに対し、(CUP, 2) は発信元以外のノードに出力されます。

対処

クラスタの不整合を分析して適切な解決策を実行してください。例えば、複数ノードでクラスタアプリケーションが Online になった場合は、1台のノードを除くすべてのクラスタアプリケーションを hvutil -f コマンドでシャットダウンしてください。

6.1.3.9 DET: ディテクタ

(DET, 1) FAULT REASON: Resource <*resource*> transitioned to a Faulted state due to a child fault.

内容

このメッセージは、依存するリソース(RMS グラフで下位にあるリソース)に発生した障害が理由で、<*resource*> に示されるリソースに障害が発生したとき表示されます。

対処

子リソースに障害が発生した原因を調べ、必要な修正を行ってください。

(DET, 2) FAULT REASON: Resource <*resource*> transitioned to a Faulted state due to a detector report.

内容

ディテクタから予期しない Faulted 状態が通知されたときにこのメッセージが出力されます。

対処

リソースに障害が発生した原因を調査し、適切な対処を実行してください。

(DET, 3) FAULT REASON: Resource <*resource*> transitioned to a Faulted state due to a script failure.

内容

このメッセージは、ディテクタがリソースのスクリプトの実行に失敗したときに表示されます。

対処

スクリプトに誤りがないか確認し、さらにリソースにも問題がないか確認してください。

(DET, 4) FAULT REASON: Resource <*resource*> transitioned to a Faulted state due to a FaultScript failure.This is a double fault.

内容

リソースに障害が発生したため FaultScript を実行しましたが、<*resource*> に示されるリソースの FaultScript の実行に失敗しました。

対処

FaultScript を実行するきっかけとなった故障リソースに対し、故障原因を調査してください。また、FaultScript の実行に失敗した <*resource*> に示されるリソースに対し、FaultScript の実行が失敗したことによるシステムへの影響を調査してください。リソースに障害が発生した原因、および、FaultScript の実行に失敗したことによるシステムへの影響が判明しない場合は、調査用の情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(DET, 5) FAULT REASON: Resource <*resource*> transitioned to a Faulted state due to the resource failing to come Offline after running its OfflineScript (*offlineScript*).

内容

Offline スクリプトを実行すると、リソースは Offline になります。ScriptTimeout 属性に指定された時間(秒)内に状態が変更されない場合、または Offline 以外の状態に変更された場合、リソースは Faulted の状態であると判断されます。

対処

Offline スクリプトを実行後にリソースが Offline 状態に変更されることを確認してください。

(DET, 6) FAULT REASON: Resource <*resource*> transitioned to a Faulted state due to the resource failing to come Online after running its OnlineScript (*onlinescript*).

内容

Online スクリプトを実行すると、リソースは Online になります。ScriptTimeout 属性に指定された時間(秒)内に状態が変更されない場合、または Online 以外の状態に変更された場合、リソースは Faulted の状態であると判断されます。

対処

Online スクリプトを実行後にリソースが Online 状態に変更されることを確認してください。

(DET, 7) FAULT REASON: Resource <*resource*> transitioned to a Faulted state due to the resource unexpectedly becoming Offline.

内容

このメッセージはリソースが不意に Offline になったときに表示されます。ディテクタが BM への応答を停止すると、リソースに障害が発生したと判断されます。

対処

<*resource*> に示されるリソースが不意に Offline 状態になった原因を調査してください。リソースが不意に Offline 状態になった原因が判明しない場合は、調査用の情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(DET, 11) DETECTOR STARTUP FAILED: Corrupted command line <*commandline*>.

内容

このメッセージは、コマンド行に何も指定されていない場合、または無効な値が指定されている場合に表示されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(DET, 12) DETECTOR STARTUP FAILED <*detector*>.REASON: *errorreason*.

内容

ディテクタ *detector* が *errorreason* が理由で起動しない場合、このメッセージが出力されます。理由 *errorreason* は次のいずれかです。

- ディテクタ *detector* が存在しない。
- ディテクタ *detector* に実行権限がない。
- ディテクタのプロセスを出力できない。
- BM が同時に出力するプロセス数が 128 より多い。

対処

エラーの原因に応じて適切な対処を行ってください。

(DET, 13) Failed to execute script <*script*>.

内容

ディテクタスクリプトが不良であるか、フォーマットが誤っています。

対処

ディテクタ起動スクリプトをチェックしてください。

(DET, 24) FAULT REASON: Resource <*resource*> transitioned to a Faulted state due to the resource failing to come Standby after running its OnlineScript (*onlinescript*).

内容

スタンバイ要求中に Online スクリプトを実行すると、リソースは Standby になります。

ScriptTimeout 属性に指定された時間(秒)内に状態が変更されない場合、または Standby か Online 以外の状態に変更された場合、リソースは Faulted の状態であると判断されます。

対処

スタンバイ要求中に Online スクリプトを実行後、リソースが Standby または Online 状態に変更されることを確認してください。

(DET, 26) FAULT REASON: Resource <*resource*> transitioned to a Faulted state due to the resource failing to come Online.

内容

このメッセージは、リソースを Faulted 状態にする可能性のある Online スクリプトを実行した後、リソースが Online になれなかった場合に表示されます。

対処

リソース *resource* が Online 状態になれなかった原因を調べてください。

(DET, 28) <*object*>: CalculateState() was invoked for a non-local object! This must never happen. Check for possible configuration errors!

内容

状態エンジンの中で要求を処理しているときに、要求トークンまたは応答トークンがオブジェクトに配信されましたが、そのオブジェクトがローカルノードに定義されていません。重大な内部エラーです。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(DET, 33) DETECTOR STARTUP FAILED: Restart count exceeded.

内容

ディテクタに異常があり所定回数以上、ディテクタを再起動しました。ディテクタの異常が考えられます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(DET, 34) No heartbeat has been received from the detector with pid <*pid*>, <*startupcommand*>, during the last <*seconds*> seconds. The base monitor will send the process a SIGALRM to interrupt the detector if it is currently stalled waiting for the alarm.

内容

RMS ディテクタが停止しないようにするため、各ディテクタは BM に対し定期的にハートビートメッセージを送信します。ハートビートが一定期間途絶えると、switchlog に本メッセージが出力されます。BM は失速したプロセスにアラームシグナルを送信して、ディテクタがメインループを適切に処理します。メッセージには、BM がディテクタのハートビートを前回受信してからの経過時間が記載されています。この時間が 300 秒を超えていると BM は実行できません。BM は現在リアルタイムプロセスですが、メモリにはロックされません。このメッセージは bm プロセスがスワップアウトされ再度起動されることがなかった場合に出力されます。

対処

truss(1) や strace(1) 等のシステムツールを使用して、BM とディタクタが稼動しているかを確認してください。ハートビートの中断期間がタイムアウト時間の 300 秒を大きく超える場合は、システムスワップが必要であるかメインメモリが不足している可能性があります。

6.1.3.10 GEN: 汎用ディテクタ

(GEN, 1) Usage: *command* -t time_interval -k kind [-d]

内容

<*command*> の使用法が誤っています。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(GEN, 2) Memory lock failed.

内容

内部エラーです。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(GEN, 3) Cannot open *command* log file.

内容

ログの記録に使用するファイル <*command*> ログのオープンに失敗しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(GEN, 4) failed to create mutex: *directory*

内容

hvdisp、hvswitch、hvutil などのさまざまな RMS コマンドは、ディレクトリ *directory* のロックファイルをシグナル処理のために使用します。これらのファイルは、これらのコマンドの終了後に削除されます。ロックディレクトリのファイルは、RMS の起動時にも削除されます。これらのファイルが何らかの理由で削除されないと、このメッセージが出力されます。RMS は終了コード 99 で終了します。

対処

ロックディレクトリ <*directory*> が存在するかどうか確認し、存在する場合は削除してください。

(GEN, 5) *command:* failed to get information about RMS base monitor bm!

内容

汎用ディテクタ <*command*> は、ベースモニタの情報を取得することができませんでした。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(GEN, 7) *command*: failed to lock virtual memory pages, errno = *value*, reason: *reason*.

内容

汎用ディテクタ <*command*> は、仮想メモリページを物理メモリにロックできませんでした。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.1.3.11 INI: init スクリプト

(INI, 1) Cannot open file *dumpfile*, errno = *errno*: *explanation*.

内容

このメッセージは、エラーコード <*errno*>、<*explanation*> が原因でファイル <*dumpfile*> のオープンに失敗したときに表示されます。

対処

<*explanation*> に従って問題を修正してください。

(INI, 9) Cannot close file *dumpfile*, errno = *errno*: *explanation*.

内容

このメッセージは、エラーコード <*errno*>、<*explanation*> が原因でファイル <*dumpfile*> のクローズに失敗したときに表示されます。

対処

<*explanation*> に従って問題を修正してください。

6.1.3.12 MIS: その他

(MIS, 1) No space for object.

内容

内部エラーです。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.1.3.13 QUE: メッセージキュー

(QUE, 13) RCP fail: *filename* is being copied.

内容

ファイル名 *filename* のファイルをコピーしようとしたときに別のコピーが処理中である場合にこのメッセージが出力されます。

対処

同じファイルのコピーを同時に複数作成しないように注意してください。

(QUE, 14) RCP fail: fwrite errno *errno*.

内容

クラスタノード間のファイル転送中に問題が発生しました。

対処

errno に基づいて適切な措置をとってください。

6.1.3.14 SCR: スクリプト

(SCR, 8) Invalid script termination for controller <*controller*>.

内容

コントローラスクリプトが不適切または無効です。

対処

コントローラスクリプトをチェックしてください。

(SCR, 9) REASON: failed to execute script <*script*> with resource <*resource*>: *errorreason*.

内容

- <*script*> に PreCheckScript が設定されている場合、排他設定が行われている複数のクラスタアプリケーションを同一ノード上で起動しようとしている可能性があります。
- 作成したスクリプトが誤っている可能性があります。

対処

- <*script*> が PreOnlineScript、かつ、<*resource*> に SControllerOf_ScalableCtr_* が出力されている場合、スケーラブル運用のアプリケーションに制御されているStandby状態のクラスタアプリケーションが起動できない状態です。
  クラスタを構成する一部のノードを起動した状態で本メッセージが出力された場合は、Standby状態のクラスタアプリケーションを起動するか、すべてのノードのRMSを起動してください。
  すべてのノードでRMSを起動した直後に RMSの停止操作を実施し、本メッセージが出力された場合、RMS が停止していれば対処は不要です。
- 複数のクラスタアプリケーションの間で排他設定が行われており、かつ、優先度が同じか、より高いクラスタアプリケーションがすでに運用中である場合、排他関係にある他のクラスタアプリケーションの起動処理は抑止され、本メッセージが出力されます。
  複数のクラスタアプリケーションの間で排他設定を行っている場合は対処不要です。
- *errorreason* を確認し、作成したスクリプトを見直してください。

上記対処によってこのエラーを解決できない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。

調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(SCR, 20) The attempt to shut down the cluster host *host* has failed: *errorreason*.

内容

以下のいずれかの理由でクラスタノードを停止できない場合に、このメッセージが出力されます。

1. スクリプトが 0 以外の状態で終了した
2. 補足したシグナルのため、スクリプトが終了した
3. その他の不明な失敗

対処

ノードの状態を確認し、スクリプトに対して必要な修正措置をとり、可能な場合は、ノードの状態を手動で修正し、必要に応じて適切な hvutil -{o, u} を発行してください。

(SCR, 21) Failed to execute the script <*script*>, errno = <*errno*>, error reason: <*errorreason*>.

内容

script が実行できない場合に、*errorreason* とともに出力されるメッセージです。

対処

errorreason に基づいて適切な措置をとってください。

(SCR, 26) The sdtool notification script has failed with status status after dynamic modification.

内容

動的変更の後、現在の RMS 構成定義ファイルが変更されたことが、sdtool によってシャットダウン機構に通知されます。sdtool が異常終了した場合は、BM を終了する必要があります。

対処

sdtool およびシャットダウン機構が正常に動作しているかを確認してください。

Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64) xenカーネル環境の場合は対処する必要はありません。

6.1.3.15 SWT: 切替要求 (hvswitch コマンド)

(SWT, 4) *object* is online locally, but is also online on *onlinenode*.

内容

オブジェクト *object* がローカルノードと *onlinenode* の両方で Online 状態になっている場合にこのメッセージが出力されます。オブジェクト *object* で共用ディスクの制御を行っている場合、データ破壊が発生するおそれがあります。

対処

オブジェクト *object* をクラスタ内の 1 ノードでのみ Online 状態にしてください。

(SWT, 20) Could not remove host <*hostname*> from local priority list.

内容

ノードがクラスタを離脱しているのに、内部優先順位リストから該当のエントリを削除できません。プログラムスタックおよびメモリ管理内部の問題です。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(SWT, 25) *objectname*: outstanding switch request of dead host was denied; cluster may be in an inconsistent condition!

内容

切替要求の処理中にノードが動作しなくなりました。クラスタアプリケーションを制御するノードが途中まで進んでいた切替え処理を続けようとしましたが、他のノードが同意しません。これはクラスタの重大な不整合が起こっていることを意味しますが、本来発生すべきでないエラーです。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(SWT, 26) *object*: dead host <*hostname*> was holding an unknown lock. Lock will be skipped!

内容

停止中のノード <*hostname*> が、新規ノードにとって不明なロックをかけている場合に、このメッセージが出力されます。

対処

クラスタがクリーンアップするのを待ってください。

(SWT, 45) hvshut aborted because of a busy uap <*userapplication*>.

内容

アプリケーションがビジーであるために hvshut 要求が中止されました。

対処

アプリケーションがビジーな場合は RMS をシャットダウンしないようにしてください。アプリケーションが処理を終了してから RMS をシャットダウンしてください。

(SWT, 46) hvshut aborted because modification is in progress.

内容

動的変更の実行中であるために hvshut 要求が中止されました。

対処

動的変更の実行中は RMS を停止しないでください。RMS を停止するには、動的変更が終了するまでお待ちください。

(SWT, 84) The userApplication *application* is in an Inconsistent state on multiple hosts. hvswitch cannot be processed until this situation is resolved by bringing the userApplication Offline on all hosts - use hvutil -f *application* to achieve this.

内容

アプリケーションが Inconsistent 状態です。Inconsistent 状態がクリアされていないと、アプリケーションの切替えができないため、切替え要求は取り消されます。

対処

Inconsistent 状態をクリアしてください。

6.1.3.16 SYS: SysNode オブジェクト

(SYS, 1) Error on SysNode: *object*. It failed to send the kill success message to the cluster host: *host*.

内容

クラスタノードが停止した場合、停止を要求したノードは稼動中のノードに成功メッセージを送信する必要があります。成功メッセージの送信が失敗すると、switchlog にこのメッセージが出力されます。

対処

クラスタおよびネットワークがメッセージを送信できる状態になっていることを確認してください。

(SYS, 8) RMS failed to shut down the host *host* via a Shutdown Facility, no further kill functionality is available. The cluster is now hung. An operator intervention is required.

内容

RMS がシャットダウン機構(SF)に停止要求を送信して、強制停止の応答を受け取らないと、このメッセージが出力されます。

対処

CF の状態が LEFTCLUSTER 状態の場合、LEFTCLUSTER 状態を回復してください。LEFTCLUSTER 状態については、"PRIMECLUSTER Cluster Foundation 導入運用手引書" を参照してください。

CF の状態が LEFTCLUSTER 状態でない場合、SysNode の状態を確認してください。

SysNode が Wait 状態の場合は、Wait 状態をクリアしてください。Wait 状態のクリアについては、"PRIMECLUSTER RMS 導入運用手引書" を参照してください。

(SYS, 13) Since this host <*hostname*> has been online for no more than *time* seconds, and due to the previous error, it will shut down now.

内容

このノードのチェックサムがクラスタ内のノードのチェックサムと異なる場合に、このメッセージが出力されます(これは考えられる理由の 1つ)。

対処

すべてのクラスタノードで RMS 構成定義ファイルをチェックし、すべてのノードで同じ RMS 構成定義ファイルが稼動していることを確認してください。

(SYS, 14) Neither automatic nor manual switchover will be possible on this host until <*detector*> detector will report offline or faulted.

内容

あるノードが Offline で他のノードが Online のクラスタで、異なる RMS 構成定義ファイルが稼動しているときに、このメッセージが出力されます。

対処

1つのクラスタ内で同じ構成を実行するか、異なるクラスタに共通のホストが存在しないようにしてください。

(SYS, 15) The uname() system call returned with Error. RMS will be unable to verify the compliance of the RMS naming convention!

内容

uname() システムコールで 0 以外の値が戻ると、このメッセージが出力されます。

対処

SysNode 名が有効なことを確認し、必要に応じて RMS を再起動してください。

(SYS, 17) The RMS internal SysNode name "*sysnode*" is ambiguous with the name "*name*". Please adjust names compliant with the RMS naming convention "SysNode = `uname -n`RMS"

内容

RMS の命名規則 sysnodename_ = `uname -n`RMS では、RMS コマンドで SysNode を指定する必要があるときに、後ろの RMS が付く CF 名と付かない cf-name を使用できます。この規則では、ある SysNode の名前が *xxx*RMS で、別の SysNode の名前が *xxx* の場合、*command xxx* が *xxx*RMS および *xxx* の両方を指すという曖昧さが発生します。

対処

RMS 命名規則に従った名前を使用してください。

(SYS, 48) Remote host <*hostname*> replied the checksum <*remotechecksum*> which is different from the local checksum <*localchecksum*>. The sysnode of this host will not be brought online.

内容

リモートノード <*hostname*> とローカルノードで異なる RMS 構成定義ファイルが稼動している場合、またはこれらのノードに異なる RMS パッケージがインストールされている場合に、このメッセージが出力されます。

対処

すべてのノードで同じ RMS 構成定義ファイルが稼動していること、およびその RMS 構成定義ファイルがすべてのノードに配布されていることを確認してください。すべてのノードに同じRMS パッケージ(同じリリース)がインストールされていることを確認してください。

(SYS, 49) Since this host <*hostname*> has been online for more than *time* seconds, and due to the previous error, it will remain online, but neither automatic nor manual switchover will be possible on this host until <*detector*> detector will report offline or faulted.

内容

このノードのチェックサムがクラスタ内のノードのチェックサムと異なる場合に、このメッセージが出力されます(これは考えられる理由の 1つ)。

対処

すべてのクラスタノードで RMS 構成定義ファイルをチェックし、すべてのノードで同じ RMS 構成定義ファイルが稼動していることを確認してください。

(SYS, 50) Since this host <*hostname*> has been online for no more than *time* seconds, and due to the previous error, it will shut down now.

内容

このノードのチェックサムがクラスタ内のノードのチェックサムと異なる場合に、このメッセージが出力されます(これは考えられる理由の 1つ)。

対処

すべてのクラスタノードで RMS 構成定義ファイルをチェックし、すべてのノードで同じ RMS 構成定義ファイルが稼動していることを確認してください。

(SYS, 84) Request <hvshut -a> timed out. RMS will now terminate! Note: some cluster hosts may still be online!

内容

hvshut -a コマンドがタイムアウトしました。いずれかのノードで RMS が異常終了し、クラスタアプリケーションに含まれるリソースの一部が停止に失敗した可能性があります。

対処

RMS が正常終了したノード以外の全ノードの OS をシャットダウンするか、ノードを強制停止してください。

hvshut コマンドをタイムアウトさせないようにするためには、使用している環境にあわせてRMS グローバル環境変数 RELIANT_SHUT_MIN_WAIT を大きい値に変更してください。

 参照

RELIANT_SHUT_MIN_WAIT の詳細については、PRIMECLUSTER 4.3A30以降の場合、“PRIMECLUSTER RMS導入運用手引書”の“13.2 RMS グローバル環境変数”の“RELIANT_SHUT_MIN_WAIT”、PRIMECLUSTER 4.3A20以前の場合、“PRIMECLUSTER 活用ガイド＜クラスタ構築・運用時の留意点＞”の“B.1グローバル環境変数”の“RELIANT_SHUT_MIN_WAIT”を参照してください。

RMS環境変数の参照/変更方法については、“PRIMECLUSTER RMS 導入運用手引書”を参照してください。

(SYS, 90) *hostname* internal WaitList addition failure! Cannot set timer for delayed detector report action!

内容

システムエラー。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(SYS, 93) The cluster host *nodename* is not in the Wait state. The hvutil command request failed!

内容

'hvutil' コマンド(hvutil -o または -u)を発行したときに、クラスタノード <*nodename*> が Wait 状態でないと、このメッセージが出力されます。

対処

ノードが Wait 状態のときだけ hvutil -{o, u} を再発行するか、このコマンドを発行しないようにしてください。

(SYS, 94) The last detector report for the cluster host *hostname* is not online. The hvutil command request failed!

内容

コマンド (hvutil -o SysNode) を発行して SysNode の Wait 状態をクリアしても、SysNode が Wait 状態の場合に、このメッセージが出力されます。この原因は、クラスタノード <*hostname*> に対する最後のディテクタレポートが Online でないことです。つまり、SysNode の状態が Online からではなく他の状態から Wait 状態に変化した可能性があります。

対処

ノードが Online 状態から Wait 状態になったときだけ、hvutil -o を発行してください。

(SYS, 97) Cannot access the NET_SEND_Q queue.

内容

新しいノードが Online になると、クラスタ内の他のノードは新しいノードが -C オプションで起動されているかどうかを確認します。Online になったノードは NET_SEND_Q キューにより必要な情報を他のノードに送信します。ノードが NET_SEND_Q キューにアクセスできない場合にこのメッセージが出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(SYS, 98) Message send failed in SendJoinOk.

内容

新しいノードが Online になると、クラスタ内の他のノードは新しいノードが -C オプションで起動されているかどうかを確認します。Online になったノードは NET_SEND_Q キューにより必要な情報を他のノードに送信します。ノードが他のノードに必要な情報を送信できない場合にこのメッセージが出力されます。

対処

ネットワークに問題がないかどうかを確認してください。

(SYS, 100) The value of the attribute <*attr*> specified for SysNode <*sysnode*> is <*invalidvalue*> which is invalid. Ensure that the entry for <*attr*> is resolvable to a valid address.

内容

値 *attr* が、有効なネットワークアドレスへの名前解決に失敗しました。

対処

attr に有効なインタフェースが指定されているかを確認してください。

(SYS, 101): Unable to start RMS on the remote SysNode <*SysNode*> using cfsh, rsh or ssh.

内容

ローカルノードの RMS は cfsh、rsh、および ssh のいずれを使用してもリモートノード <*SysNode*> の RMS を起動することができませんでした。

対処

cfsh、rsh、または ssh のいずれかを使用できるようにしてください。

また、このメッセージは、複数のノードで hvcm -a コマンドを実行した場合に出力されることがあります。その場合は、hvcm -a コマンドをクラスタを構成する任意の1ノードだけで実行してください。

6.1.3.17 UAP: userApplication オブジェクト

(UAP, 1) Request to go online will not be granted for application <*userapplication*> since the host <*sysnode*> runs a different RMS configuration.

内容

アプリケーション <*userapplication*> を Online にする要求が発行されたにもかかわらず、ノード<*sysnode*> が異なる RMS 構成定義ファイルを稼動している場合に、このメッセージが出力されます。

対処

同じ RMS 構成定義ファイルで稼動していることを確認してください。

(UAP, 5) *object*: cmp_Prio: *list*.

内容

このメッセージは、優先順位リスト *list* に無効なエントリがある場合に出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 6) Could not add new entry to priority list.

内容

重大な内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 7) Could not remove entries from priority list.

内容

重大な内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 8) *object*: cpy_Prio failed, source list corrupted.

内容

PriorityList が空または壊れている場合に、このメッセージが出力されます。重大な内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 9) *object*: Update of PriorityList failed, cluster may be in inconsistent condition.

内容

内部リストにあるはずのコントラクトが存在しない場合にこのメッセージが出力されます。クラスタの状態が不整合である可能性があります。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 15) *sysnode*: PrepareStandAloneContract() processing unknown contract.

内容

1つのアプリケーション <*sysnode*> だけが Online で、サポートされていないコントラクトを処理する必要がある場合に、このメッセージが出力されます。重大な内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 16) *object*::SendUAppLockContract: local host doesn't hold a lock -- Contract processing denied.

内容

アプリケーション <*userApplication*> のコントラクトに対するロックを持たないローカルノードがコントラクトを処理すると、このメッセージが出力されます。重大な内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 19) *object*::SendUAppLockContract: LOCK Contract cannot be sent.

内容

LOCK コントラクトをネットワーク上で送信できない場合に、このメッセージが出力されます。

対処

ネットワークがダウンしている可能性があります。

ネットワークに問題がないかを確認してください。

(UAP, 21) *object*::SendUAppUnLockContract: UNLOCK Contract cannot be sent.

内容

UNLOCK コントラクトをネットワーク上で送信できない場合に、このメッセージが出力されます。

対処

ネットワークがダウンしている可能性があります。

ネットワークに問題がないかを確認してください。

(UAP, 22) *object* unlock processing failed, cluster may be in an inconsistent condition!

内容

ローカルノードが UNLOCK コントラクトを受信したが、コントラクトでコミットされたフォローアップ処理を実行できない場合に、このメッセージが出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 23) *object* failed to process UNLOCK contract.

内容

ネットワークまたはメモリの問題などが原因で、ノードが受信した UNLOCK コントラクトを伝播できない場合に、このメッセージが出力されます。

対処

このメッセージが出力されるときは、問題の原因を示す追加の ERROR メッセージも必ず出力されます。適切な ERROR メッセージを参照してください。

(UAP, 24) Deleting of local contractUAP object failed, cannot find object.

内容

ローカルコントラクトオブジェクトがコントラクトを完了して、ローカルノードに送信したにもかかわらず、ローカルオブジェクトがそのコントラクトを見つけられない場合に、このメッセージが出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 27) *object* received a DEACT contract in state: *state*.

内容

リモートノード上のクラスタアプリケーションが DeAct 状態であるにもかかわらず、ローカルクラスタアプリケーションが DeAct 状態ではありません。発生すべきでないエラーです。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 28) *object* failed to update the priority list. Cluster may be in an inconsistent state.

内容

ローカルノードは、特定の処理に関する制限解除のコントラクトを受信したときに停止状態のノードがあることがわかると、優先順位リストを更新してその情報を反映させます。このとき更新処理が失敗すると、このメッセージが出力されます。プログラムスタックおよびメモリ管理内部の問題です。重大な内部エラーです。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 29) *object*: contract data section is corrupted.

内容

アプリケーションがコントラクトのデータ部分を読取ることができない場合に、このメッセージが出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 32) *object* received unknown contract.

内容

アプリケーションがコントラクト要求の種類をコードで判別できないため、コントラクトの制限を解除できない場合に、このメッセージが出力されます。重大な内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 33) *object* unknown task in list of outstanding contracts.

内容

userApplication オブジェクトが未解決コントラクトのリスト内でタスクを検出したにもかかわらず、このメッセージが出力されます。発生すべきでないエラーです。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 35) *object*: inconsistency occurred. Any further switch request will be denied (except forced requests). Clear inconsistency before invoking further actions!

内容

アプリケーションの状態が Offline または Standby で、一部のリソースが Online または Faulted の場合に、このメッセージが出力されます。

対処

適切なコマンド(通常は hvutil -c)で、この不整合を解決してください。

(UAP, 41) cannot open file *filename*. Last Online Host for userApplication cannot be stored into non-volatile device.

内容

ファイルオープンエラー。

対処

環境変数 RELIANT_PATH を確認してください。

(UAP, 42) found incorrect entry in status file:<*entry*>

内容

status_info ファイルに不適切なエントリがある場合に、このメッセージが出力されます。

status_info ファイルを手動で編集しない限り、発生すべきでないエラーです。

対処

status info ファイルに手動で編集した不適切なエントリがないか確認してください。不適切なエントリがない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 43) <*object*>: could not insert <*host*> into local priority list.

内容

重大な内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 44) <*object*>: could not remove <*host*> from local priority list.

内容

重大な内部エラーが発生しました。

対処

調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 45) <*object*>: could not remove <*host*> from priority list.

内容

重大な内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(UAP, 51) Failed to execute the fcntl system call to *flags* the file descriptor flags for file *filename*: errno = <*errornumber*>: <*errortext*>.

内容

エラーコード <*errornumber*> の<*errortext*> で説明された理由により、RMS は、ファイル <*filename*> のファイルディスクリプタフラグ <*flags*> に対する fcntl() システムコールを実行できません。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.1.3.18 US: us ファイル

(US, 5) The cluster host *hostname* is no longer reachable! Please check the status of the host and the Ethernet connection.

内容

あるクラスタノードが他のクラスタノード *hostname* にアクセスできない場合、つまり、このクラスタノードが他のノード *hostname* を障害ノードとして認識すると、このメッセージが出力されます。原因として、他のノード *hostname* がダウンしているか、クラスタインタコネクトの問題が考えられます。

対処

ノード *hostname* が本当に停止しているかどうかを確認してください。停止していない場合は、ネットワークに問題がないかどうか確認してください。

(US, 6) RMS has died unexpectedly on the cluster host *hostname*!

内容

ローカルノード上のディテクタは、ノード *hostname* の状態が Online から Offline に変化したことを検出すると、このメッセージを switchlog に書き込み、ノード *hostname* を停止しようとします。

対処

ノード *hostname* の syslog を調べて、ノードが停止した理由を確認してください。

(US, 31) FAULT REASON: Resource *resource* transitioned to a Faulted state due to a detector report.

内容

ディテクタから予期しない Faulted 状態が通知されたときにこのメッセージが出力されます。

対処

リソースに障害が発生した原因を調査し、適切な対処を実行してください。

6.1.3.19 WLT: Wait リスト

(WLT, 1) FAULT REASON: Resource *resource*'s *script* (*scriptexecd*) has exceeded the ScriptTimeout of *timeout* seconds.

内容

リソースのディテクタスクリプトが ScriptTimeout を超過しました。

対処

リソースが故障していないか確認してください。リソースが故障している場合は、適切な対処を実行してください。

リソースが故障していない場合は、リソースの ScriptTimeout 属性に指定された値が、Online/Offline スクリプトの実行時間よりも長くなるように属性値を変更してください。

(WLT, 3) Cluster host *hostname*'s Shutdown Facility invoked via (*script*) has not finished in the last *time* seconds. An operator intervention is required!

内容

ノード *hostname* を停止するシャットダウン機構がまだ終了していません。オペレータの介入が必要です。スクリプトが自動的に終了するか、Unix 'kill' コマンドでスクリプトを終了するまで、このメッセージが定期的(ノードの ScriptTimeout 値と同じ間隔で)に出力されます。スクリプトを kill コマンドで終了すると、ノードが停止しないとみなされます。

対処

スクリプトが終了するのを待ちます。スクリプトが自動的に終了しない場合は、'kill' コマンドでスクリプトを終了してください。

(WLT, 5) CONTROLLER FAULT: Controller <*object*> has propagated <*request*> request to its controlled application(s) <*applications*>, but the request has not been completed within the period of <*timeout*> seconds.

内容

コントローラは、制御されるアプリケーションに対し要求を伝播する際に、制御されるアプリケーションが要求を処理するのに十分な時間待機します。この時間内に要求が完了しなかった場合、コントローラは Fault 状態になります。

対処

コントローラや制御されるアプリケーションのスクリプトを修正するか、制御されるアプリケーションのリソースを修正してください。ユーザ定義のコントローラスクリプトについては、ScriptTimeout 値を増やしてください。

(WLT, 9) sdtool notification timed out after <*timeout*> seconds.

内容

動的変更の後、現在の RMS 構成定義ファイルが変更されたことが、sdtool によってシャットダウン機構に通知されます。この通知が、ローカル SysNode の ScriptTimeout 値で指定した時間内に完了しなかった場合は、BM を終了する必要があります。

対処

sdtool およびシャットダウン機構が正常に動作しているかを確認してください。必要に応じてScriptTimeout の値を大きくしてください。

6.1.3.20 WRP: ラッパ

(WRP, 1) Failed to set script to TS.

内容

スクリプトをタイムシェアリングプロセスに設定することができませんでした。

対処

理由に基づいて適切な措置をとってください。

(WRP, 2) Illegal flag for process wrapper creation.

内容

重大な内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 3) Failed to execv: *command*.

内容

このメッセージは次の場合に出力されます。

1. RMS が *command* コマンドでディテクタプロセスを実行できないので、ディテクタを起動できない場合。
2. hvcm -a がすでに呼び出されていて、各クラスタノード上で RMS BM を *command* コマンドで起動できない場合。
3. RMS が *command* コマンドでスクリプトプロセスを実行できないので、スクリプトを開始できない場合。

RMS はこのメッセージが表示されたノードで停止し、エラー番号 *errno* を返します。エラー番号はオペレーティングシステムにより返される値です。

対処

本マニュアルの "付録B Solaris/Linux ERRNO テーブル" を参照し、エラー番号 *errno* から問題の原因がわかるかどうかを確認してください。原因がわからない場合は、当社技術員(SE)に連絡してください。

(WRP, 4) Failed to create a process: *command*.

内容

このメッセージは次の場合に出力されます。

1. RMS が *command* コマンドを実行するためのディテクタプロセスを作成できないので、ディテクタを起動できない場合。
2. hvcm -a をがすでに呼び出されていて、*command* コマンドで各クラスタノード上の RMS BM を起動できない場合。
3. RMS が *command* コマンドでスクリプトプロセスを作成できないので、スクリプトを開始できない場合。

RMS はこのメッセージが表示されたノードで停止し、エラー番号 *errno* を返します。エラー番号はオペレーティングシステムにより返される値です。

対処

本マニュアルの "付録B Solaris/Linux ERRNO テーブル" を参照し、エラー番号 *errno* から問題の原因がわかるかどうかを確認してください。原因がわからない場合は、当社技術員(SE)に連絡してください。

(WRP, 5) No handler for this signal event <*signal*>.

内容

シグナル *signal* に関連するシグナルハンドラが登録されていません。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 6) Cannot find process (pid=*processid*) in the process wrappers.

内容

重大な内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 7) getservbyname failed for service name: *servicename*.

内容

重大な内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 8) gethostbyname failed for remote host: *host*.

内容

重大な内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 9) Socket open failed.

内容

このメッセージは、RMS が通信用のデータグラムエンドポイントを作成できない場合に出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 10) connect to server failed.

内容

重大な内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 12) Failed to bind port to socket.

内容

このエラーは、RMS が通信用のエンドポイントをバインドできない場合に発生します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 13) Cannot allocate memory, errno <*errno*> - *strerrno*.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 14) No available slot to create a new host instance.

内容

RMS の BM を起動すると、クラスタ内のすべてのノードに対する内部データ構造にスロットが作成されます。hvdet_node の起動時に、RMS は SysNode オブジェクトを送信します。これらの SysNode は、内部データ構造内で別々のスロットに挿入されます。SysNode 名を挿入するスロット (16) の数が足りないと、このメッセージが出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 15) gethostbyname(*hostname*): host name should be in /etc/hosts

内容

SysNode として指定したノード名 *hostname* のエントリが /etc/hosts にないと、このメッセージが switchlog に出力されます。

対処

ノード名 *hostname* を /etc/hosts 内のエントリに正しく記述してください。

(WRP, 16) No available slot for host *hostname*

内容

クラスタインタフェース (64) 用のスロットが不足すると、このメッセージがノード名 *hostname*とともに出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 17) Size of integer or IP address is not 4-bytes

内容

重大な内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 18) Not enough memory in <*processinfo*>

内容

重大な内部エラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

(WRP, 23) The child process <*cmd*> with pid <*pid*> could not be killed due to errno <*errno*>, reason: *reason*.

内容

プロセスID<*pid*> の子プロセス<*cmd*> が *reason* の理由で停止できませんでした。

対処

理由 *reason* に基づいて適切な措置をとってください。

(WRP, 24) Unknown flag option set for 'killChild'.

内容

killChild ルーチンは、KILL_CHILD または DONTKILL_CHILD のいずれかのフラグを受け付けます。これ以外のオプションが指定されると、このメッセージが表示されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

(WRP, 25) Child process <*cmd*> with pid <*pid*> has exceeded its timeout period. Will attempt to kill the child process.

内容

プロセスID<*pid*> の子プロセス<*cmd*> のタイムアウト時間が経過しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

(WRP, 29) RMS on the local host has received a message from host *host*, but the local host is unable to resolve the sending host`s address. This could be due to a misconfiguration. This message will be dropped. Further such messages will appear in the switchlog.

内容

ローカルノード上の RMS がローカルノードで認識できないアドレスを持つノードからのメッセージを受信しました。

対処

RMS 構成定義ファイルの誤りをチェックして、ローカルノードがリモートノードのアドレスを認識できるようにしてください。

(WRP, 30) RMS on the local host has received a message from host *host*, but the local host is unable to resolve the sending host`s address. This message will be dropped. Please check for any misconfiguration.

内容

ローカルノード上の RMS がローカルノードで認識できないアドレスを持つノード *host* からのメッセージを受信しました。

対処

RMS 構成定義ファイルの誤りをチェックして、ローカルノードがリモートノード *host* のアドレスを認識できるようにしてください。

(WRP, 31) RMS has received a message from host *host* with IP address *receivedip*. The local host has calculated the IP address of that host to be *calcip*. This may be due to a misconfiguration in /etc/hosts. Further such messages will appear in the switchlog.

内容

ローカルノードが、IP アドレス *receivedip* を持つノードからのメッセージを受信しましたが、このアドレスがローカルで計算したこのノードの IP アドレスと異なっています。

対処

RMS 構成定義ファイルの誤りがないか、/etc/hosts を確認してください。

(WRP, 32) RMS has received a message from host *host* with IP address *receivedip*. The local host has calculated the IP address of that host to be *calcip*. This may be due to a misconfiguration in /etc/hosts.

内容

ローカルノードが、IP アドレス *receivedip* を持つノード *host* からのメッセージを受信しましたが、このアドレスがローカルで計算したこのノードの IP アドレスと異なっています。このメッセージは、受信メッセージの数が 500 未満の場合は、switchlog に 25 ごとに表示されます。そうでない場合、このメッセージは、250 ごとに表示されます。

対処

RMS 構成定義ファイルの誤りがないか、/etc/hosts を確認してください。

(WRP, 33) Error while creating a message queue with the key <*id*>, errno = <*errno*>, explanation: <*explanation*>.

内容

メッセージキューの作成で、OS の状態に異常が発生しました。

対処

スワップ領域およびパラメータ msgmax、msgmnb、msgmni、msgtql の値など、メッセージキューのメモリ割当てに影響を与える OS の状態を確認してください。メッセージキューの最大数が割り当て済みでないかを確認します。

(WRP, 34) Cluster host *host* is no longer in time sync with local node. Sane operation of RMS can no longer be guaranteed. Further out-of-sync messages will appear in the syslog.

内容

ノード上の時刻がローカルノードの時刻と同期していません。

対処

ノードの時刻とローカルノードの時刻を同期させます。
また、NTP サーバとネットワーク接続されているか、NTP の設定が正しく行われているかを確認してください。

(WRP, 35) Cluster host *host* is no longer in time sync with local node. Sane operation of RMS can no longer be guaranteed.

内容

クラスタノード上の時刻がローカルノードの時刻と大きく(25 秒超)異なっています。

対処

時刻を同期させてください。
また、NTP サーバとネットワーク接続されているか、NTP の設定が正しく行われているかを確認してください。

(WRP, 52) The operation *func* failed with error code *errorcode*.

内容

func の実行がエラーコード *errorcode* で失敗しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 60) The elm heartbeat detects that the cluster host <*hostname*> has become offline.

内容

ELMハートビート断が発生しました。

対処

通常、ELMハートビート断によりノードが強制停止されるため、対処は不要です。

(WRP, 68) Unable to update the RMS lock file, function <*function*>, errno <*errno*> - *errorreason*.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 69) *function* failed, reason: *errorreason*, errno <*errno*>.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 71) Both IPv4 and IPv6 addresses are assigned to <*SysNode*> in /etc/hosts.

内容

<*SysNode*> に対し、IPv4 アドレスとIPv6 アドレスの両方がホストネームデータベースファイル(/etc/hosts, /etc/inet/ipnodes) に記述されています。

対処

<*SysNode*> に対するIP アドレスの記述が、IPv4 またはIPv6 のいずれか1 つのみとなるように、ホストネームデータベースファイルを修正してください。

6.1.4 致命的エラー(FATAL)メッセージ

この章では、switchlog ファイルに現れる致命的な (fatal) RMS エラーメッセージについて詳しく説明します。

表示されたメッセージのコンポーネント名を確認し、以下の表で参照先を決定します。メッセージ番号順に説明されています。

コンポーネント名	参照先
ADC	"6.1.4.1 ADC: Admin 構成"
ADM	"6.1.4.2 ADM: Adminキュー、コマンドキュー、ディテクタキュー"
BM	"6.1.4.3 BM: ベースモニタ"
CML	"6.1.4.4 CML: コマンドライン"
CMM	"6.1.4.5 CMM: 通信"
CRT	"6.1.4.6 CRT: コントラクトおよびコントラクトジョブ"
DET	"6.1.4.7 DET: ディテクタ"
INI	"6.1.4.8 INI: init スクリプト"

コンポーネント名	参照先
MIS	"6.1.4.9 MIS: その他"
QUE	"6.1.4.10 QUE: メッセージキュー"
SCR	"6.1.4.11 SCR: スクリプト"
SYS	"6.1.4.12 SYS: SysNode オブジェクト"
UAP	"6.1.4.13 UAP: userApplication オブジェクト"
US	"6.1.4.14 US: us ファイル"
WRP	"6.1.4.15 WRP: ラッパ"

6.1.4.1 ADC: Admin 構成

(ADC, 16) Because some of the global environment variables were not set in hvenv file, RMS cannot start up. Shutting down.

内容

RMS が正しく機能するには、すべてのグローバル環境変数 RELIANT_LOG_LIFE、RELIANT_SHUT_MIN_WAIT、HV_CHECKSUM_INTERVAL、HV_LOG_ACTION_THRESHOLD、HV_LOG_WARNING_THRESHOLD、HV_WAIT_CONFIG、および HV_RCSTART を hvenv で設定する必要があります。未設定のグローバル環境変数があると、RMS が終了コード 1 で終了します。

対処

すべての環境変数の値を hvenv で設定してください。

(ADC, 21) Because some of the local environment variables were not set in hvenv file, RMS cannot start up. Shutting down.

内容

一部のローカル環境変数を hvenv ファイルで設定してない場合に、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 1 で終了します。

対処

/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local ファイルで、すべてのローカル環境変数を適切な値に設定してあることを確認してください。

(ADC, 69) RMS will not start up - previous errors opening file.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADC, 73) The environment variable <*hvenv*> has value <*value*> which is out of range.

内容

RMS 環境変数<*hvenv*> の値が、許容される範囲を超えています。BM は終了します。

対処

RMS 環境変数に有効な値を指定して、RMS を再起動してください。

6.1.4.2 ADM: Adminキュー、コマンドキュー、ディテクタキュー

(ADM, 1) cannot open admin queue

内容

RMS はプロセス間通信で UNIX メッセージキューを使用します。admin キューは hvutil やhvswitch のようなユーティリティ間の通信に使われるキューの 1つです。このキューを開くときに問題が発生すると、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 3 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(ADM, 2) RMS will not start up - errors in configuration file

内容

RMS は起動時に、動的変更を実行します。このフェーズで、RMS 構成定義ファイルにエラーが見つかると、RMS は終了コード 23 で終了します。

対処

switchlog に上記のメッセージの前に出力されたエラーメッセージに基づいて、RMS 構成定義ファイルにエラーがないことを確認してください。

6.1.4.3 BM: ベースモニタ

(BM, 3) Usage: progname [-c config_file] [-m] [-h time] [-l level] [-n]

内容

引数の抜けまたは不適切な使用が理由で、RMS が正しく起動しないと、このメッセージが引数とともに switchlog に書き込まれます。RMS は終了コード 3 で終了します。

対処

適切な引数を指定して RMS を起動してください。

(BM, 49) Failure calculating configuration checksum

内容

動的再構成の実行中に、RMS は /usr/bin/sum を使用して構成チェックサムを計算します。この計算が失敗すると、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 52 で終了します。

対処

/usr/bin/sum が使用可能かどうかチェックしてください。

(BM, 51) The RMS-CF interface is inconsistent and will require operator intervention. The routine "*routine*" failed with errno *errno* - "*error_reason*"

内容

CF の設定中に、dlopen または dlsym のルーチン *routine* に問題があると、RMS は終了コード 95 または 94 で終了します。*error_reason* はエラーの理由を示します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(BM, 58) Not enough memory -- RMS cannot continue its operations and is shutting down

内容

メモリ不足のため RMS の機能が停止する前に switchlog に書き込まれる一般的なメッセージです。

対処

以下のいずれかが考えられます。

- メモリ資源が不足している
- カーネルパラメタの設定に誤りがある

システム全体で必要となるメモリ資源の見積りを見直してください。PRIMECLUSTER の動作に必要なメモリ容量については、各製品に添付されているPRIMECLUSTERのインストールガイドを参照してください。

上記で解決しない場合は、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" の "カーネルパラメタ・ワークシート" の説明を参照して、カーネルパラメタの設定が正しいことを確認してください。設定に誤りがあった場合は、設定変更後、システムを再起動します。

上記対処によってこのエラーを解決できない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(BM, 67) An error occurred while writing out the RMS configuration after dynamic modification. RMS is shutting down.

内容

動的変更が終了すると、現在の RMS 構成がファイル /var/tmp/config.us にダンプされます。ダンプに失敗すると、RMS は構成のチェックサムを再計算できないためにシャットダウンします。

対処

RMS 構成定義ファイルの書込みに失敗した原因が switchlog に出力されている前のメッセージに記述されています。この説明に従ってノード環境を修正するか、当社技術員(SE)に連絡してください。

(BM, 69) Some of the OS message queue parameters msgmax= <*msgmax*>, msgmnb= <*msgmnb*>, msgmni=<*msgmni*>, msgtql=<*msgtql*> are below lower bounds <*hvmsgmax*>, <*hvmsgmnb*>, <*hvmsgmni*>, <*hvmsgtql*>. RMS is shutting down.

内容

システム定義のメッセージキューパラメタの値が小さすぎるため、RMS が正常に動作できません。RMS は終了コード 28 で終了します。

対処

OS のメッセージキューパラメタを変更し、OS を起動しなおしてから RMS を再起動してください。

(BM, 89) The SysNode length is *length*. This is greater than the maximum allowable length of *maxlength*. RMS will now shut down.

内容

SysNode 名の長さが上限値を超えています。

対処

SysNode 名の長さが *maxlength* より小さくなるようにしてください。

(BM, 116) The RMS-CF interface is inconsistent and will require operator intervention. The CF layer is not yet initialized.

内容

CFの起動が完了する前にRMSが起動されました。

対処

CFの起動が完了した後に、RMSを再度起動してください。

(BM, 117) The RMS-CIP interface state on the local node cannot be determined due to error in popen() -- errno = *errornumber*: *errortext*.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

(BM, 118) The RMS-CIP interface state on the local node is required to be "UP", the current state is *state*.

内容

CFの起動が完了する前にRMSが起動されました。

対処

CFの起動が完了した後に、RMSを再度起動してください。

6.1.4.4 CML: コマンドライン

(CML, 14) ###ERROR: Unable to find or Invalid configuration file.### #####CONFIGURATION MONITOR exits !!!!!######

内容

RMS 用に指定した RMS 構成定義ファイルが存在しないと、RMS が終了コード 1 で終了します。
または、クラスタアプリケーションに登録されてないリソースが残っている可能性があります。
あるいは、クラスタアプリケーションを作成していない可能性があります。

対処

RMS 用に有効な RMS 構成定義ファイルを指定してください。
または、必要に応じて、該当するリソースをクラスタアプリケーションに登録するか、リソースを削除してください。
あるいは、クラスタアプリケーションを作成してください。クラスタアプリケーションの概要と作成方法については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" を参照してください。

6.1.4.5 CMM: 通信

(CMM, 1) Error establishing outbound network communication

内容

アウトバウンドネットワーク通信の作成時にエラーが発生すると、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 12 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

(CMM, 2) Error establishing inbound network communication

内容

インバウンドネットワーク通信の作成時にエラーが発生すると、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 12 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

6.1.4.6 CRT: コントラクトおよびコントラクトジョブ

(CRT, 6) Fatal system error in RMS. RMS will shut down now. Please check the bmlog for SysNode information.

内容

RMS 内でシステムエラーが発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

6.1.4.7 DET: ディテクタ

(DET, 8) Failed to create DET_REP_Q

内容

RMS がディテクタと RMS 自身の通信に使用する UNIX メッセージキュー DET_REP_Q を作成できない場合に、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 12 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

(DET, 9) Message send failed in detector request Q: *queue*

内容

hvlogclean の実行中に、ディテクタ要求キュー *queue* を使用して BM からディテクタに情報を送信します。この通信で問題が発生すると、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 12 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

(DET, 16) Cannot create gdet queue of kind g*kind*

内容

各汎用ディテクタは、BM との通信に使用するメッセージキューを持っています。ディテクタ用に *kind* という種類のキューを作成するときに問題が発生すると、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 12 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

(DET, 18) Error reading hvgdstartup file. Error message: *errorreason*.

内容

RMS がディテクタと RMS 自身の通信に使用する UNIX メッセージキュー DET_REP_Q を作成できない場合に、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 12 で終了します。このファイルを読取るときにエラーが発生すると、上記のメッセージがエラーの理由 *errorreason* とともに出力されます。RMS は終了コード 26 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

6.1.4.8 INI: init スクリプト

(INI, 4) InitScript does not have execute permission.

内容

InitScript は存在しますが、実行できません。

対処

InitScript を実行可能にしてください。

(INI, 7) *sysnode* must be in your configuration file

内容

ローカル SysNode *sysnode* が RMS 構成定義ファイルの一部でない場合に、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 23 で終了します。

対処

ローカル Sysnode *sysnode* が RMS 構成定義ファイルの一部であることを確認してください。

(INI, 10) InitScript has not completed within the allocated time period of *timeout* seconds.

内容

説明: InitScript が、割当てられた実行時間の終了時に実行中でした。タイムアウト時間は、hvenv ファイルの環境変数 SCRIPTS_TIME_OUT に定義された値と 300 のいずれか小さいほうの値です。

対処

タイムアウト値を大きくするか、スクリプトの実行中にタイムアウトが発生する条件を修正してください。

(INI, 11) InitScript failed to start up, errno *errno*, reason: *reason*.

内容

InitScript の起動中にエラーが発生しました。errno コード <*errno*> および理由 <*reason*> が、メッセージに表示されます。

対処

起動が可能なように InitScript のノード条件を修正してください。

(INI, 12) InitScript returned non-zero exit code *exitcode*.

内容

InitScript が、0 以外の終了コード <*exitcode*> で完了しました 。

対処

終了コード 0 を返すように InitScript のノード条件を修正するか、InitScript そのものを修正してください。

(INI, 13) InitScript has been stopped.

内容

InitScript が停止しました。

対処

実行中に停止しないように InitScript のノード条件を修正するか、InitScript そのものを修正してください。

(INI, 14) InitScript has been abnormally terminated.

内容

InitScript 異常終了しました。

対処

実行中に停止しないように InitScript のノード条件を修正するか、InitScript そのものを修正してください。

(INI, 17) Controller *controller* refers to an unknown userApplication <*userapplication*>

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(INI, 18) Configuration uses objects of type "controller" and of type "gcontroller". These object types are mutually exclusive!

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(INI, 19) userApplication <*childapp*> is simultaneously controlled by 2 gcontroller objects <*controller1*> and <*controller2*>. This will result in unresolveable conflicts!

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(INI, 20) Incorrect configuration of the gcontroller object <*controller*>! The attributes "Resource" and "ControllerType" are mandatory.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(INI, 21) Incorrect configuration of the gcontroller object <*controller*>! It has the attribute Local set, but the host list for the controlled application <*childapp*> does not match the host list for the controlling application <*parentapp*>.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.1.4.9 MIS: その他

(MIS, 4) The locks directory *directory* cannot be cleaned of all old locks files: error at *call* of file: *filename*, errno = *errnonumber*, error -- *errortext*.

内容

hvdisp、hvswitch、hvdump などのさまざまな RMS コマンドは、ディレクトリ *directory* のロックファイルをシグナル処理のためにで使用します。これらのファイルは、これらのコマンドの終了後に削除されます。ロックディレクトリのファイルは、RMS の起動時にも削除されます。

これらのファイルが何らかの理由で削除されないと、このメッセージが出力されます。RMS は終了コード 99 で終了します。*call* は、クリーンアップがどの段階で失敗したかを示し、*errornumber* は OS のエラー番号の値で、*errortext* は OS によるエラー番号の説明です。

対処

ロックディレクトリ <*directory*> が存在するかどうか確認し、存在する場合は削除してください。

(MIS, 9) The locks directory *directory* does not exist. An installation error occured or the directory was removed after installation.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.1.4.10 QUE: メッセージキュー

(QUE, 1) Error status in ADMIN_Q.

内容

さまざまなユーティリティが ADMIN_Q を使用して BM と通信します。このキューに問題があると、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 3 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(QUE, 2) Read message failed in ADMIN_Q.

内容

RMS BM が、ユーティリティと RMS の通信に使われる ADMIN_Q のメッセージを抽出できない場合に、このメッセージが出力されます。RMS は終了コード 3 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(QUE, 5) Network message read failed.

内容

ネットワーク上のメッセージ読取りが失敗すると、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 3 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(QUE, 6) Network problem occurred.

内容

メッセージ送信中にネットワークの問題が発生すると、このメッセージが出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(QUE, 11) Read message failed in DET_REP_Q.

内容

すべてのディテクタは DET_REP_Q キューを使用して RMS BM と通信します。このキューのメッセージを読取るときに問題が発生すると、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 15 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(QUE, 12) Error status in DET_REP_Q: *status.*

内容

さまざまなディテクタが状態を報告するのに使用する DET_REP_Q キューの問題を RMS BM が検出すると、このメッセージが出力されます。RMS は終了コード 15 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(QUE, 15) Error No *errornumber* : <*errortext*> in accessing the message queue.

内容

メッセージキューの使用方法に誤りがあります。エラー番号<*errornumber*>の<*errortext*>のテキストにエラーの種類が表示されています。メッセージキューはBM との通信に使用されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.1.4.11 SCR: スクリプト

(SCR, 4) Failed to create a detector request queue for detector *detector_name.*

内容

ディテクタ *detector_name* のディテクタ要求キューを作成できない場合に、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 12 で終了します。重大な内部エラーです。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(SCR, 5) REQUIRED PROCESS RESTART FAILED: Unable to restart *detector*. Shutting down RMS.

内容

ディテクタ *detector* を再起動できない場合に、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 14 で終了します。再起動は以下のいずれかの理由で失敗します。

- ディテクタを 1 分間以内に 3 回以上再起動する必要があった。

- RMS 内でメモリ割当てに問題があった。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(SCR, 10) InitScript did not run ok. RMS is being shut down

内容

RMS は最初に InitScript を実行します。InitScript の値は hvenv の環境変数 RELIANT_INITSCRIPT の値です。この InitScript が何らかの理由で失敗すると(0 以外のコードで終了する、シグナルを取得するなど)、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 56 でシャットダウンします。

対処

InitScript を設定している場合は、設定した InitScript に問題がないか調査してください。InitScript を設定していない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(SCR, 12) incorrect initialization of RealDetReport; Shutting down RMS.

内容

スクリプトはディテクタのレポートに基づいて実行されるため、Online、Offline、Faulted、Standby、NoReport 以外の無効な状態がディテクタから通知されると、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 8 で終了します。

対処

ディテクタが、有効な Online、Offline、Faulted、Standby、NoReport のいずれかの状態だけを通知するようにしてください。

(SCR, 13) ExecScript: Failed to exec script <*script*> for object <*objectname*>: errno *errno*

内容

RMS が特定のオブジェクト <*objectname*> に対してスクリプト <*script*> を実行できない場合に、このエラーメッセージが出力されます。errno *errno* は、このスクリプトの実行が失敗した詳しい理由を示します。RMS は終了コード 8 で終了します。

対処

本マニュアルの "付録B Solaris/Linux ERRNO テーブル" で、errno *errno* を調べて、失敗の理由を判別してください。理由がわからない場合は、当社技術員(SE)に連絡してください。

(SCR, 28) Manual Mode request failed to add satellite node *node* to Manual Mode list.

内容

重大なエラーです。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(SCR, 29) Manual Mode request failed to remove satellite node *node* from Manual Mode list.

内容

重大なエラーです。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.1.4.12 SYS: SysNode オブジェクト

(SYS, 33) The RMS cluster host <*hostname*> does not have a valid entry in the /etc/hosts file. The lookup function gethostbyname failed. Please change the name of the host to a valid /etc/hosts entry and then restart RMS.

内容

ファイル /etc/hosts を検索してノード *hostname* に関する情報を取得する検索関数 gethostbyname で有効なエントリが見つからない場合に、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 114 で終了します。

対処

ファイル /etc/hosts にノード *hostname* の有効なエントリがあることを確認して、RMS を再起動してください。

(SYS, 52) SysNode *sysnode*: error creating necessary message queue NODE_REQ_Q...exiting.

内容

NODE_REQ_Q の作成時に問題が発生すると、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 12 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.1.4.13 UAP: userApplication オブジェクト

(UAP, 36) *object*: double fault occurred, but Halt attribute is set. RMS will exit immediately in order to allow a failover!

内容

オブジェクト *object* に対する Halt 属性を設定するときに二重故障が発生すると、そのノード上で RMS が終了コード 96 で終了します。

対処

リソースに障害が発生した原因を調査し、適切な対処を実行してください。

6.1.4.14 US: us ファイル

(US, 1) RMS will not start up - fatal errors in configuration file.

内容

RMS の起動時に RMS 構成定義ファイルにエラーが発生し、起動に失敗しました。このエラーは通常、RMS 構成定義ファイルを手動で編集し送付した場合に発生します。

対処

RMS 構成定義ファイルのエラーを修正してください。

(US, 42) A State transition error occurred. See the next message for details.

内容

RMS の状態変更中に状態変更エラーが発生しました。エラーの詳細がメッセージの後に出力されます。

対処

エラーの内容に応じて、対処を行なってください。対処が不明な場合は、調査情報を採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.1.4.15 WRP: ラッパ

(WRP, 40) The length of the type name specified for the host *host* is <*length*> which is greater than the maximum allowable length <*maxlength*>. RMS will exit now.

内容

インタコネクト名の長さが上限値を超えています。

対処

インタコネクト名の長さが上限値 *maxlength* を超えないようにしてください。

インタコネクト名の長さを上限値 *maxlength* 以下の長さにしてクラスタシステムを再構築してください。

(WRP, 44) Not enough slots left in the wrapper data structure to create new entries.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 45) The SysNode to the CIP name mapping for <*sysnode*> has failed.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 46) The RMS-CF interface is inconsistent and will require operator intervention. The routine "*routine*" failed with error code *errorcode* -"*errorreason*".

内容

これは、ルーチン <*routine*> の実行が <*errorreason*> の理由で失敗し、RMS とCF 間の整合性が失われたことを示す一般的なメッセージです。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 47) The RMS-CF-CIP mapping cannot be determined for any host as the CIP configuration file <*configfilename*> cannot be opened. Please verify that all the entries in <*configfilename*> are correct and that CF and CIP are fully configured.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

(WRP, 48) The RMS-CF-CIP mapping cannot be determined for any host as the CIP configuration file <*configfilename*> has missing entries. Please verify that all the entries in <*configfilename*> are correct and that CF and CIP are fully configured.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

(WRP, 54) The heartbeat mode setting of <*hbmode*> is wrong. Cannot use ELM heartbeat method on non-CF cluster.

内容

ELM ハートビート方式は、CF モードクラスタ以外では使用できません。

対処

CF をインストールするか、HV_USE_ELM=0 に設定して ELM モードを無効にしてください。

(WRP, 55) The heartbeat mode setting of <*hbmode*> is wrong. The valid settings are '1' for ELM+UDP and '0' for UDP.

内容

HV_USE_ELM の設定が無効です。

対処

HV_USE_ELM を 0 または1 に設定してください。

(WRP, 58) The ELM lock resource <*resource*> for the local host is being held by another node or application.

内容

重大な内部エラーが発生しました。

対処

重大なエラーが発生しました。このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

(WRP, 64) The ELM heartbeat startup failure for the cluster host <*hostname*>.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

(WRP, 67) The RMS-CF-CIP mapping cannot be determined for any host as the CIP configuration file <*configfilename*> has missing entries. Please verify that all the entries in <*configfilename*> are correct and that CF and CIP are fully configured.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

6.2 RMSウィザード メッセージ

RMS ウィザード実行時に出力されるメッセージについて説明します。

重要度を確認し、以下の表から該当箇所を参照してください。メッセージはアルファベット順に説明されています。

重要度	参照先
情報(NOTICE)	"6.2.1 情報(NOTICE)メッセージ"
警告(WARNING)	"6.2.2 警告(WARNING)メッセージ"
エラー(ERROR)	"6.2.3 エラー(ERROR)メッセージ"

6.2.1 情報(NOTICE)メッセージ

RMS ウィザード実行時の情報(NOTICE)メッセージを、アルファベット順に説明します。

NOTICE About to configure <*Interface*> ...

内容

Rfsリソース/引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE About to configure <*Interface*> with <*IpAddress*> <*Netmask*> ...

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE About to configure <*MountPoint*> ...

内容

Rfsリソース/引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: About to export <*MountPoint*>. ...

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: About to switch <*app*> <*state*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE About to unconfigure <*Interface*> ...

内容

Fsystemリソース/引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE About to unconfigure <*InterfaceName*> ...

内容

Fsystemリソース/引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE About to unconfigure <*Interface*> prior to re-configuring.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: About to unconfigure <*MountPoint*>

内容

Fsystemリソース/引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: About to unexport <*MountPoint*>

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: About to unshare <*MountPoint*> ...

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: access to <*Mount*> failed.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: access to <*Mount*> succeeded once again

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Acquire <*NfsDirName*> by moving to <*NfsDirName*>.RMS.moved.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: A forceable attempt will be made to bring <*application*> out of maintenance mode with "hvutil -m forceoff <*application*>" ...

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: A hung umount command for <*BlockSpec*> is already running

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Alarm clock set to <*value*> ...

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: All hosts for <*app*> are not Online or are being shut down, so there is no need to wait for it.

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: An attempt will be made to bring <*application*> out of maintenance mode with "hvutil -m off <*application*>" ...

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*app*> Faulted on all hosts!

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*app*> Faulted on <*host*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*app*> is already Offline on all hosts -- no action required

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*app*> is already <*state*> on <*host*> -- no switch required

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*app*> is busy, on <*host*>, waiting ...

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*app*> is in the Unknown state on <*host*>, waiting ...

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*app*> is maintenance mode, skipping <*x*> ...

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*app*> is not yet coming <*state*> anywhere, re-executing necessary command ...

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*app*> is not yet <*state*> anywhere, waiting ...

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*app*> is not yet <*state*> everywhere, waiting ...

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*app*> is Online on <*host*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*app*> is Standby on <*host*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*application*> is (going) in maintenance mode, ignoring it ...

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*application*> is going Online and is beyond the PreCheckScript stage and therefore has priority, so exit with error here ...

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*application*> is in Wait and <*resource*> is Offline, so <*application*> is in PreCheckScript or Standby processing

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*application*> is Online and has priority, so exit with error here ...

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。
排他関係にあるアプリケーション<*application*>が Online状態であるため、スクリプトはエラー終了します。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*application*> LicenseToKillWait=yes, so may wait a total of approximately <*lower priority sleep value*> seconds, if necessary, to ensure any higher priority application starts its Online processing first ...

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: ApplicationSequence=<*xxx*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*application*> within the same set <*priority set*> with AppPriority=<*priority*>

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*application*> within same set with AppPriority=<*priority*>

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*app*> LicenseToKill=<*xxx*> KillPrioritySet=<*xx*> KillPriority=<*xxx*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*app*> on <*host*>: <*state*>, skipping Standby request

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Break applications due to <*application*> coming <*intended state*> with BreakValue=<*break value*> KillPriority=<*kill priority*>

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Break applications due to <*application*> coming up.

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

---

breakapplicationsX skipping all policy based failover checks, since the intended state "<*intended state*>" is neither Online nor Standby.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Breaking <*application*> after hvswitch due to <*application*> coming up.

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Breaking <*application*> due to <*application*> coming up.

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Breaking <*application*> with Autobreak=yes due to <*application*> coming up.

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: cannot get the address of host <*Host*> from the hosts file

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: cannot get the address of interface <*Address*> from the hosts file!

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: cannot grab mount lock for dostat() check_getbdev(), returning previous state

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: cannot grab mount lock for dostat() <*X*>, returning previous state

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: cannot send context->socket: <*Socket*>, (<*ErrorMsg*>)

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: cannot unlock mount lock for dostat() <*X*>

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE cf host <*Host*> found in <*IpConfFile*>

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE cf host <*Host*> not found in <*IpConfFile*>, researching with uname value

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE CheckForTrustedHosts -a <*Address*> -r <*Resource*> dummy ...

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE CheckForTrustedHosts could not determine ResourceName, skipping ping check

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Check if <*Interface*> is both UP and RUNNING ..

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Checking if <*app*> is <*state*> everywhere ...

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Checking if <*app*> is <*state*> somewhere ...

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Checking <*NfsLock*>

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Check link status by using the link detection tools.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Child processes of <*process id list*> : <*process id list*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: child process=<*pid*> still running

内容

Cmdlineリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Clearing <*application*> due to <*application*> coming up.

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*command*> <*app*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: command <*Command*> timed out, returning <*State*>

内容

Cmdlineリソース/引継ぎネットワークリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: "<*command*>" exited with code <*state*>

内容

Cmdlineリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: command <*pid*> (<*command*>) still running, but has exceeded the timeout value <*timeout*> for reporting a state to RMS, with the previous state unkown, so returning offline

内容

Cmdlineリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: command <*pid*> (<*command*>) still running, but has exceeded the timeout value <*timeout*>, returning the previous state <*state*>

内容

Cmdlineリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*command*> stopping further processing since the NoProceed option has been specified

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Command underlying file system type for <*mount*> is <*BlkidType*>

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Computed broadcast address <*Bcast*>

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Configuring interface <*Interface*> with <*Ipaddress*> <*Netmask*> <*Broadcast*>

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Create <*Interface*> as <*IpAddress*> <*Options*>.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Create new <*NfsDirName*>

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Creating another mount point to re-establish the connection.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: cycle time has been reset to <*Value*>

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: dd if=<*CharSpec*> of=/dev/null count=1025 failed, try again

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Deconfiguring interface <*Interface*>

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Deconfiguring of interface <*Interface*> failed <*errorcode*>.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Deconfiguring of interface <*Interface*> failed.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: delete the old arp entry for <*host*>

内容

引き継ぎネットワークリソースの処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Determining child processes of <*process id list*> ...

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Directory <*NfsDirName*> has files in it.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Directory <*NfsDirName*>.RMS.moved aready present.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Directory <*NfsDirName*>.RMS.moved found and has files in it.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Doing i/o on <*MountPoint*>

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: doopenread of *mount-device* (pid *xxxx*),counter=*x* not done yet reporting status, waiting ...

内容

Fsystem リソースの監視として、マウントポイントのデバイスに対して発行しているシステムコールが規定時間内に復帰しなかったことを示しています。

対処

counter 値が "1～3" 以内であれば、一時的な I/O 負荷が考えられるため対処は不要です。
counter 値がそれより大きい場合は、以下の対処を行ってください。

- このメッセージが出力された時間帯に負荷をかけるような処理をしているようであれば、運用、構成を見直してください。
- ファイルシステムの監視間隔をチューニングしてください。
- Linux の場合は、監視用ディスクデバイスを用意してください。

NOTICE: dostat of *mount-point* (pid *xxxx*),counter=*x* not done yet reporting status, waiting ...

内容

Fsystem リソースの監視として、マウントポイントのデバイスに対して発行しているシステムコールが規定時間内に復帰しなかったことを示しています。

対処

counter 値が "1～3" 以内であれば、一時的な I/O 負荷が考えられるため対処は不要です。
counter 値がそれより大きい場合は、以下の対処を行ってください。

- このメッセージが出力された時間帯に負荷をかけるような処理をしているようであれば、運用、構成を見直してください。
- ファイルシステムの監視間隔をチューニングしてください。
- Linux の場合は、監視用ディスクデバイスを用意してください。

NOTICE: <enable/disable> resource detection for <*resource*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: end of dopopen wait

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE ensure base interface <Interface> is working ...

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: ExecuteCommandForApp missing arguments: App=<*app*> Command=<*command*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Exiting successfully.

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: failed to open device "<*tempfile*>", (<*errormsg*>)

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: failed to open/read device <*Mount*> (<*ErrMsg*>)

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、エラーメッセージが出力されている場合は、そのエラーメッセージの対処に従って下さい。

NOTICE: failed to write tempfile "<*File*>" within <*Maxretry*> try/tries

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: File system type for <*CharSpec*> is <*Type*>, using <*FsckCommand*>

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*Filesystem*> was not mounted at <*MountPoint*>

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Flushing device <*RawDevice*>

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Following processes will be killed:

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE forced umount <*MountPoint*> done.

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: fork() failed for "<*command*>" with <*errno*>

内容

fork()がチェックコマンド<*command*>に対して失敗しました。

対処

本メッセージが出力された後に、エラーメッセージが出力されている場合は、そのエラーメッセージの対処に従い、対処を行ってください。

NOTICE: Found a read only flag in <*MountOptions*>, setting context->rwflag to O_RDONLY

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Found a read only flag in <*MountOptions*>, setting readonly attribute to 1

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: found read only option: <*MountOptions*>

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Fuser: fuser command failed with error code <*RetCode*>

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Fuser: killing active processes on <*MountPoint*> : <*Pids*>

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*FuserLsof*> <*FLOption*> -s <*NfsServer*> <*MountPoint*>. ...

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE FuserLsofPid is <*Pid*>

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Fuser <*MountPoint*> ...

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Fuser: No processes active in <*MountPoint*>

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: FuserPid is <*FuserPid*>

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: getting block device for <*Mount*> failed

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、エラーメッセージが出力されている場合は、そのエラーメッセージの対処に従って下さい。

NOTICE Got <*NfsLock*>

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Hosts for <*app*> are <*host*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: hvappsequence complete

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE hvcheckinterface <*interface*> ...

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE hvcheckinterface <*interface*> Ok, returning ...

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*hv_nfs-c*> <*MountPoint*> already has NFS filesystem mounted on it.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*hv_nfs-c/u*> <*MountPoint*> is a symbolic name and its target already has NFS filesystem mounted on it.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: hvnop -m UApp_ReqStandby -s <*host*> <*app*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: hvutil -m off <*application*> failed with error code <*return value*> (<*error output*>).

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE ifconfig <*Interface*> <*IfConfig*> 2>/dev/null ...

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Ignore Acquire <*NfsDirName*> by move. re-try mount.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: interface <*Address*> is reconfigured, old is <*Interface1*>, new is <*Interface2*>

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: interface check for <*Interface*> failed

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、エラーメッセージが出力されている場合は、そのエラーメッセージの対処に従って下さい。

NOTICE: interface check for <*Interface*> failed, lying online for <*Count*> seconds

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: interface check for <*Interface*> failed, ping scheme skipped

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: interface check for <*Interface*> succeeded

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*Interface*> (<*IpAddress*>) was successfully configured and is working.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*Interface*> (<*IpAddress*>) was successfully unconfigured.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*Interface*> cannot be configured, unconfiguring.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*Interface*> for host <*Host*> bound to <*Interface1*> (<*Address*>)

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*Interface*> is already configured.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*Interface*> is already unconfigured.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*Interface*> is not UP, better initialize it ...

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*Interface*> is not UP, better initialize it to address 0.0.0.0.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*Interface*> wanted on <*WantedInterfaces*> is already configured on <*Interface*> and pings successfully.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*Interface*> was already configured and running. Re-configure it.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*Interface*> was already configured and running. Use it without re-configuration.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*IpAddress*> cannot be configured on <*Interface*>

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: ip addr del <*ipaddrprefix*> failed (<*errorcode*>).

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: ip link set dev <*interface*> down failed (<*errorcode*>).

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE "KillFuserLsof: kill fuser pid <*FuserLsofPid*>"

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE "KillFuserLsof: No fuser process running"

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE "KillFuserLsof: pkill -P <*FuserLsofPid*>"

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: KillFuser: kill fuser pid <*FuserPid*>

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: KillFuser: No fuser process running

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: KillFuser: pkill -P <*FuserPid*>

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: killing parent processes <*process list*> ...

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Killing <*process id list*> ...

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: KillPriority=<*kill priority*>

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE LABEL/UUID Command failed to ascertain device name for label/uuid!

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Leave mount point as garbage.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE LieOffline Enabled.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*LInterface*> cannot be configured on <*Interface*>

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE LogAndExit: mkdir -p <*MountPoint*> ...

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE LogAndExit: rm -f <*LockTarget*> ...

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE LogAndExit: rm -f <*MountPoint*> ...

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE LogAndExit: rm -f <*NfsLock*> ...

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE LogAndExit: rmdir <*NfsDirName*> ...

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Look at the definition of MaxAlias in the file hv_ipalias-c.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Lsof complete

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Lsof: GetRealNameOfSymlink <*MountPoint*> returned no entry, skipping kill of any processes ...

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Lsof: killing active processes on <*MountPoint*> : <*Pids*>

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE lsof -t <*MountPoint*> ...

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: lying interval has expired

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Mac Address for <*Interface*> was successfully reset to the system specified address.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE mkdir <*NfsDirName*>

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE mkdir <*NfsDirName*> and make symbolic link <*MountPoint*>

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*Mount*> done reporting status

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE MountFS nfs <*MountOptions*> <*What*> <*NfsDirName*> for <*MountPoint*>

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Mount NFS mountpoint <*MountPoint*> was successful.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*MountPoint*> is actively used by the processes: <*Pids*>

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*MountPoint*> is already gone.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*MountPoint*> is already mounted, attempt to read data from it.

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*MountPoint*> is currently mounted, attempt to unmount it.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: <*MountPoint*> is mounted and can be accessed.

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*MountPoint*> is not active, Fuser skipping kill of process id(s): <*Pids*>

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*MountPoint*> is not active, Lsof skipping kill of process id(s): <*Pids*>

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: mount point <*Mount*> has a problem, lying <*PrevState*> for <*MaxLieOfflineTime*> seconds

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE mount point <*Mount*> is not in /usr/opt/reliant/dev/nfs

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: mount point <*Mount*> is not mounted

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: mount point <*mount-point*> has a problem, lying online for *xxx* seconds

内容

マウントポイントに問題が発生したが、*xxx* の時間だけ Online を返します。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: mount point <*Mount*> status cannot yet be ascertained, waiting a maximum of <*MaxLieOfflineTime*> seconds

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: mount point <*Mount*> status was ascertained successfully again

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Mount point name <*MountPoint*> is not symbolic link. Found NFS direct mount.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*MountPoint*> not mounted.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE mount -t <*Type*> <*Option*> <*Dev*> <*MountPoint*>

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Move <*NfsDirName*> to <*NfsDirName*>.RMS.moved.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*NfsDirectMount*> removed.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*NfsDirectMount*>.RMS.moved found.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*NfsDirectMount*>.RMS.moved has files. Ignoring moving <*NfsDirectMount*>.RMS.moved to <*NfsDirectMount*>.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE <*NfsDirectMount*>.RMS.moved MOVED TO <*NfsDirectMount*>.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Nfs mount Directory <*NfsDirName*> failed. Could be mount point is busy.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、マウントポイントのディレクトリ配下のファイルを使用しているプロセスや、カレントディレクトリとしているプロセスがないかを確認して下さい。

NOTICE: nfs server is <*NfsServer*> and nfs server mp is <*MountPoint*>

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE NFS symbolic link <*MountPoint*> missing, restoring...

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: no application has been defined, so no hvassert or lying possible

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE No available Mac Address software was found

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: No child processes of <*process id list*> found

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: No command defined for resource

内容

Cmdlineリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: node <*Host*> is offline, command <*Command*> failed

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: no more sockets (<*Errno*>)

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: no ping response received from any host, lying online for <*Count*> seconds

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE No response from any ping hosts <*hosts*>. Try once more ...

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: No Timeout value set -- using 300 seconds

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Ok for <*application*> to start up.

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Ok to start up.

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE ping hosts <*hosts*>

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE ping <*NfsServer*> ...

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: ping reply received from <*Host*>

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: PreCheckTimeout=<*PreCheckTimeout*> LowerPrioritySleep=<*lower priority sleep value*>

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: priority application <*app*> is <*state*> on <*host*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: PriorityApps=<*app*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Processing <*application*>.

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Processing prechecks for application <*application*>.

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE ProcessRoutingInfo -c <*Interface*> <*RoutingInfo*> ...

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE ProcessRoutingInfo -u <*Interface*> <*RoutingInfo*> ...

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: reading from device <*CharSpec*> failed with error code <*RetCode*>

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: reading from device <*CharSpec*> hung ...

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: recvfrom error <*ErrMsg*>

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Remove <*application*> in maintenance mode from the list of lower priority applications, so no waiting for it will occur.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Remove empty directory <*NfsDirName*>.RMS.moved.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Remove existing directory <*MountPoint*>.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Remove existing symbolic link <*MountPoint*>.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE RemoveInterface deconfiguring <*Interface*> ...

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE RemoveInterface Interface=<*Interface*> NoDeconfigure=<*NoDeconfigure*> Cflag=<*Cflag*>

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE RemoveInterface not deconfiguring <*Interface*> ...

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE RemoveInterface resetting mac address for <*Interface*> ...

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Remove symbolic link <*MountPoint*>.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Removing any possible Rawdisk links below reliant/dev/rawdisk...

内容

OS の起動／停止時に SMAWRhv-to(RMS Wizard Tools) の rc スクリプトが、RMS 起動前／停止後の初期化のために、不要な内部ファイルの削除処理を実行するときに表示されるメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Removing any possible stale nfs links below reliant/dev/nfs...

内容

OS の起動／停止時に SMAWRhv-to(RMS Wizard Tools) の rc スクリプトが、RMS 起動前／停止後の初期化のために、不要な内部ファイルの削除処理を実行するときに表示されるメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Removing stale lock file(s) <*lock file list*> ...

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: resetting doopenreadcount from <*OldValue*> to <*NewValue*>

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: resetting dopopencount from <*OldCount*> to <*NewCount*>

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: resetting dostatcount from <*OldCount*> to <*NewCount*>

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: resetting dostatcount from <*OldValue*> to <*NewValue*>

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Resetting Hosts for <*app*> to <*host*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: resetting lying time and returning the previous state, since a child process has still not completed.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Resetting Mac Address

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: ReSetting mac Address of base interface <*interface*> to system defined Mac address failed. <*error code*>

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: resource detection has been disabled

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: resource detection has been enabled

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: resource detection has been reenabled

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: resource has become faulted

内容

リソースがFaultedになりました。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: resource has become offline

内容

リソースがOfflineになりました。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: resource has become offlinefaulted

内容

リソースがOfflineFaultedになりました。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: resource has become online

内容

リソースが Online になりました。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: resource has become onlinewarning

内容

リソースがOnlineWarningになりました。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: resource has become standby

内容

リソースがStandbyになりました。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: resource has become unknown

内容

リソースがUnknownになりました。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: RMS already running - nothing to do

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: RMS is being shut down on <*host*>.

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: RMS is not running on <*host*>, skipping <*x*> ...

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: RMS is running - nothing to do

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: RMS Wizard cleanup successfully terminated.

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: RMS Wizard rc-script invoked: arguments: <*arguments*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: rshx - <*host*> <*command*> <*app*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: send standby request for <*app*> to <*host*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: server <*NfsServer*> is not responding

内容

リソースのNfsServerが、ping要求に応答しない場合に出力されます。

対処

本メッセージが出力された後に、エラーメッセージが出力されている場合は、そのエラーメッセージの対処に従い、対処を行ってください。

NOTICE: server <*NfsServer*> is responding once again

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Setting takeover mac Address of base interface <*interface*> from <*value*> to <*value*>.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Setting takeover mac Address <*value*> of base interface <*interface*> failed. <*error code*>

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Share configuration exists for <*mount point*> ...

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: skip waiting for <*app*> since higher priority applications are already online on all hosts

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Something strange here. Mount point <*MountPoint*> is not symbolic nfs but <*OldMountType*>. Do nothing.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE start automatic recovery of base address <*Interface*> ...

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: starting <*command args*>.

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Starting hvcleanupnfs in the background ...

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: State of <*app*> on <*host*>: <*state*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: State of priority application <app> on <host>: <state>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: stat of <*Mount*> failed

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Stopping the processes running on <*MountPoint*>.

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: successfully killed

内容

Cmdlineリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Switching <*application*> due to <*application*> coming up.

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Switching the lower priority application <*application*> with hvswitch -p, due to <*application*> coming up.

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Symbolic link <*MountPoint*> has been replaced with directory already.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Symbolic link <*MountPoint*> to NFS mountpoint <*Entry*> was successfully recreated.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: sync of the disk <*CharSpec*> with hdparm -f <*CharSpec*> succeeded

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Testing i/o hung on <*MountPoint*>. Waiting ...

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: The command "<*command*>" completed successfully

内容

Cmdlineリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: The command "<*command*>" has exceeded the allotted time limit <*timeout*>, returning offline!

内容

Cmdlineリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: The file system <*MountPoint*> was successfully unmounted.

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE The interface will not be re-configured.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE The physical interface <*Interface*> is already configured, will attempt to configure using a logical interface (alias)

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: There is already a PreCheck error, so skipping Processing <*applications*>

内容

引継ぎネットワークの設定、または、Fsystemリソースの設定に不備があります。

対処

本メッセージが出力された後に、エラーメッセージが出力されている場合は、そのエラーメッセージの対処に従って下さい。

NOTICE: There is an application with higher priority and Faulted on this machine.

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: There is an application with higher priority in Wait on this machine.

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: There is an application with higher priority on this machine.

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE There was no interface active for <*InterfaceName*>.

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: The Unknown state for <*app*> will be ignored as it is not defined to run on <*host*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Timeout set to <*timeout*>

内容

内部コマンドの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE umount -fr <*MountPoint*>

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE UmountFS <*MountPoint*> ...

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE umount -l <*MountPoint*>

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE umount <*MountPoint*>

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE umount <*MountPoint*> done.

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: umount <*MountPoint*> failed with error code <*RetCode*>

内容

Fsystemリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、マウントポイントのディレクトリ配下のファイルを使用しているプロセスや、カレントディレクトリとしているプロセスがないかを確認して下さい。

NOTICE Umount of <*MountPoint*> is properly reflected in /proc/mounts, but fails to delete the entry in /etc/mtab file.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Umount was successful.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Umount was successful. Remove symbolic link <*MountPoint*>.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Using direct mount point.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE Using indirect mount point with symbolic link method.

内容

Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: using normal system files

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: using xxx.pcl system files

内容

Fsystemリソース/Rfsリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: virtual alias <*Address*> reconfigured from <*OldInterface*> to <*NewInterface*>

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: virtual alias <*Address*> is reconfigured, old is <*Interface1*> new is <*Interface2*>

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Waiting for <*application*> to become Offline.

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: Waiting for the last application to become Offline ...

内容

クラスタアプリケーションの排他関係に基づいた処理が実行されていることを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE You might want to increase the maximum number of aliases ...

内容

引継ぎネットワークリソースの処理状態を示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

6.2.2 警告(WARNING)メッセージ

RMS ウィザード実行時の警告(WARNING)メッセージを説明します。

cannot grab mount lock for dostat() check_getbdev(), returning previous state

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

cannot unlock mount lock for dostat() check_getbdev()

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

dostat found <*info*> returning 0

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Application <*application*> cannot be brought Online due to Application <*application*> being in <*current state*> state. <*application*> has LicenseToKillWait=yes set.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Application <*application*> cannot be brought Online due to Application <*application*> being in Faulted or Inconsistent state on <*host*>. <*application*> has LicenseToKillWait=yes set.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Application <*application*> cannot be brought Online due to Application <*application*> being in Online State. <*application*> belongs to the same set as <*application*> and has a higher priority.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Application <*application*> cannot be brought Online due to Application <*application*> being Online in maintenance mode. <*application*> belongs to the same set as <*application*> and has a higher priority.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Application <*application*> cannot be brought Standby due to Application <*application*> being in Online State. <*application*> belongs to the same set as <*application*> and has a higher priority.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Application <*application*> cannot be brought Standby due to Application <*application*> being Online in maintenance mode. <*application*> belongs to the same set as <*application*> and has a higher priority.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Application <*application*> cannot be brought Standby due to Application <*application*> going Online. <*application*> belongs to the same set as <*application*> and has a higher priority.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Attempt to create another mount point failed.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Cannot assign any interface to <*interface*>.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

WARNING Cannot configure a basic interface <*ipaddress*> on <*interface*> without -s option.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Cannot find <*ipaddress*> on interface <*interface*>.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

WARNING Cannot unconfigure <*address*> on basic interface <*interface*> without -s option.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Configuration of interface <*interface*> failed, undoing changes. Link may be down !

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Could Not Reset Mac Address for <*interface*>

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

WARNING Could not set Mac Address <*takeovermac*> for <*interface*>

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

WARNING Ensuring only allowed applications continue to run, with respect to policy based failover management (LicenseToKill/AutoBreak), must be done manually, if required, by executing "hvswitch -p <*application*>", after <*application*> leaves maintenance mode!

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

WARNING Ensuring only allowed applications continue to run, with respect to policy based failover management (LicenseToKill/AutoBreak), must be done manually, if required, by executing "hvswitch -p <*application*>", after <*application*> leaves maintenance mode, because AutoBreakMaintMode = no!

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

WARNING hv_filesys-c called without any mount point.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

WARNING hv_filesys-u called without any mount point.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

WARNING hv_ipalias-c called without any interface name.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

WARNING hvutil -m forceoff <*application*> failed with error code <*return value*> (<*error output*>). <*application*> will not be brought out of maintenance mode!

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

WARNING hvutil -m off <*application*> failed with error code <*return value*> (<*output value*>). <*application*> will not be brought out of maintenance mode!

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

WARNING No ping at all succeeded.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING ScanVfstab called without second parameter.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

WARNING The base interface <*interface*> is not yet configured. A virtual interface cannot be assigned on top of it!

内容

引継ぎIPアドレスに割り当てられたインタフェースが設定されていません。仮想インタフェースは、このインタフェース上で設定できません。

対処

引継ぎIPアドレスに割り当てられたインタフェースを使用できるよう設定してください。

WARNING The file system <*mountpoint*> may not be unmounted.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING The file system <*mountpoint*> was not unmounted.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING The interface <*interface*> was already present, but it could not be re-configured successfully.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING To avoid a possible deadlock situation, Application <*application*> cannot be brought Online due to Application <*application*> already coming <*intended state*>. <*application*> has LicenseToKillWait=yes set.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Trouble with <*interface*>, recovering ...

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Application <*application*> cannot be brought Online due to Application <*application*> being in Faulted State. <*application*> belongs to the same set as <*application*> and has a higher priority.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Application <*application*> cannot be brought Online due to Application <*application*> being still in Wait State. <*application*> belongs to the same set as <*application*> and has a higher priority.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Application <*application*> cannot be brought Online due to Application <*application*> going Online. <*application*> belongs to the same set as <*application*> and has a higher priority.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Application <*application*> cannot be brought Online due to Application <*application*> is probably going to start. <*application*> belongs to the same set as <*application*> and has a higher priority.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Application <*application*> cannot be brought Standby due to Application <*application*> being in Online State. <*application*> belongs to the same set as <*application*> and has lower or higher priority.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING Application <*application*> cannot be brought Standby due to Application <*application*> going Online. <*application*> belongs to the same set as <*application*> and has lower or higher priority.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING <*application*> could not determine its own AutoBreak value. Assuming a value of <*break value*> ...

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

WARNING <*command*> called without any application sequence.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING <*hv_ipalias-u*> called without any ipname.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

WARNING <*interface*> is already configured, but no hosts were successfully pinged.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING <*interface*> is already configured, but not with the requested addresss IpAddress.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING <*interface*> was already configured with a different address.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING <*path*>/<*config*>.apps does not exist. No processing of application priorities is possible!

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

WARNING: doopenread of *mount-device* (pid *xxxx*),counter=*x* not done yet reporting status, waiting ...

内容

Fsystem リソースの監視として、マウントポイントのデバイスに対して発行しているシステムコールが規定時間内に復帰しなかったことを示しています。

対処

counter 値が "1～3" 以内であれば、一時的な I/O 負荷が考えられるため対処は不要です。
counter 値がそれより大きい場合は、以下の対処を行ってください。

- このメッセージが出力された時間帯に負荷をかけるような処理をしているようであれば、運用、構成を見直してください。

- ファイルシステムの監視間隔をチューニングしてください。
- Linux の場合は、監視用ディスクデバイスを用意してください。

WARNING: dostat of *mount-point* (pid *xxxx*),counter=*x* not done yet reporting status, waiting ...

内容

Fsystem リソースの監視として、マウントポイントのデバイスに対して発行しているシステムコールが規定時間内に復帰しなかったことを示しています。

対処

counter 値が "1～3" 以内であれば、一時的な I/O 負荷が考えられるため対処は不要です。
counter 値がそれより大きい場合は、以下の対処を行ってください。

- このメッセージが出力された時間帯に負荷をかけるような処理をしているようであれば、運用、構成を見直してください。
- ファイルシステムの監視間隔をチューニングしてください。
- Linux の場合は、監視用ディスクデバイスを用意してください。

WARNING: failed to ascertain share status for <*mount*> within <*maxretry*> try/tries

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

WARNING: failed to open/read <*tempfile*> within <*maxretry*> try/tries.

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

WARNING: failed to popen <*mount*> within <*maxretry*> try/tries.

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

WARNING: failed to popen <*mount*> within <*retries*> try/tries

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

WARNING: failed to stat <*mount*> within <*maxretry*> in try/tries.

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

WARNING: failed to stat <*mount*> within <*retries*> try/tries

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

WARNING: failed to write tempfile <*file*>, with return code <*return*>

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

WARNING: failed to write tempfile <*tempfile*> within <*maxretry*> try/tries

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

WARNING: If the major/minor device numbers are not the same on all cluster hosts, clients will be required to remount the file systems in a failover situation!

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

WARNING: ip addr add <*ipaddress*>/<*netmask*> failed (<*errorcode*>).

内容

引継ぎIPアドレスに割り当てられたインターフェースの追加に失敗しました。

対処

引継ぎIPアドレスに割り当てられたインタフェースを使用できるよう設定してください。

WARNING: ip link set dev <*interface*> up failed (<*errorcode*>).

内容

引継ぎIPアドレスに割り当てられたインターフェースの起動に失敗しました。

対処

引継ぎIPアドレスに割り当てられたインタフェースを使用できるよう設定してください。

WARNING: Root access is essential for most functionality!

内容

hvw コマンドは root 権限で実行する必要があります。

対処

hvw コマンドを終了し、root 権限で再度実行してください。

WARNING: stat of <*mount*> failed

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

WARNING: stat of <*mountpoint*> failed

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING: status processing timed out, returning previous state <*state*>

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING: The IpAddress <*ipaddress resource*> failed to reach the state Offline in a safe time limit of 180.

内容

<*IpAddress resource*> が180秒以内にOffline状態になりませんでした。

対処

本メッセージが出力された前後の userApplication の状態に応じて、以下の対処を実施してください。

- GLS リソースまたは引継ぎネットワークリソースを含む userApplication が正常に Offline 状態になっている場合

  対処不要です。

- userApplication が Offline 状態になっておらず、RMS のエラーメッセージが出力されている場合

  RMS のエラーメッセージの対処法に従ってください。

WARNING: <*mountpount*>, counter=<*retrycount*> not done yet reporting status, waiting ...

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

WARNING: <*resource* > is mounted and the NFS server is not reachable, so returning offline because mounted read only or application is non-switchable or NFS server under RMS control.

内容

<*resouce* > はマウントされていますが、NFS サーバに到達できません。ReadOnly でマウントされているか、切替えできないアプリケーションか、NFS サーバが RMS 制御下であるため、Detector が Offline を返しました。

対処

Nfs リソースが Offline を返す前に出力している情報です。切替えが発生する直前に表示されるので、対処は不要です。

6.2.3 エラー（ERROR）メッセージ

RMS ウィザード実行時のエラー（ERRORおよびFATAL ERROR）メッセージを説明します。

ERROR Avoid data corruption and abort the umount action to prevent a failover

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR Cannot create directory <*mountpoint*>.

内容

Filesystemがマウントされるディレクトリが作成できないことを示すエラーメッセージです。

対処

ディレクトリが作成されるパスが存在するかどうかを確認し、利用可能な領域が十分にあれば、新しいディレクトリを作成してください。

ERROR Cannot create symlink <*mountpoint*>.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR cannot read alias file <*alias_file*>.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR Cannot recreate NFS symbolic link <*mountpoint*> to <*entry*>

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR cannot remove existing directory <*mountpoint*> to make symbolic link <*mountpoint*>.

内容

既存のディレクトリ<*mountpoint*>を削除できないため、シンボリックリンク<*mountpoint*> を作成できません。

対処

ディレクトリ <*mountpoint*> が削除可能か確認してください。例えば、ファイルやサブディレクトリが存在すると削除することができません。

ERROR cannot remove existing symbolic link <*mountpoint*>.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR: "<*command*>" exited with code <*state*>

内容

<*command*>がコード<*state*>で終了しました。

対処

<*command*>がコード<*state*>で終了した原因を確認し、対処を行ってください。

ERROR Create <*ipaddress*> on interface <*interface*> failed. Out of alias slots.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR e2fsck -p <*device*> failed with error code <*code*>

内容

Fsystem リソースの Online処理で実行されたe2fsck -pコマンドが失敗したことを意味します。

<*device*>: ファイルシステムが配置されているデバイス名

<*code*>: e2fsck -p コマンドの復帰値

対処

- Fsystem リソースの故障が発生していない場合

  対処は不要です。

- Fsystem リソースの故障が発生し、userApplication の切替え後に、業務が継続できる場合

  hvutil コマンドで Faulted 状態をクリアしてください。

- Fsystem リソースの故障が発生し、業務が継続できない場合

  hvutil コマンドでFaulted 状態をクリアした後、該当のFsystem リソースが登録されている、すべてのRMSをシャットダウンしてください。

  その後、"Red Hat Enterprise Linux fsck/e2fsckメッセージガイド"の対処法に従ってファイルシステムを修復してください。

  ファイルシステム修復後にRMSを起動し、業務を再開させてください。

  なお、上記対処によって、ファイルシステムの修復ができない場合は、当社技術員(SE)に連絡してください。

ERROR Failed to ping <*nfsserver*>

内容

NFSサーバ<*nfsserver*>と通信できません。

対処

NFSサーバ<*nfsserver*>と通信可能であるか確認してください。

ERROR hv_nfs-c/hv_nfs-v called without any mount point.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR Invalid MAC Address <*macaddr*> for the interface <*interface*> Valid format is fld:fld:fld:fld:fld:fld where fld matches pattern "[0-9a-z][0-9a-z]"

内容

/usr/opt/reliant/etc/hvipalias ファイルのMACアドレスの設定に誤りがあります。

対処

/usr/opt/reliant/etc/hvipalias ファイルのMACアドレスを、設定可能な文字列に修正してください。

詳細については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"の"リソースの設定"を参照してください。

ERROR Lost <*mountpoint*>, about to re-configure

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

ERROR Restart <*command args*>

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

ERROR Testing i/o on <*mountpoint*> failed.

内容

マウントされたFilesystemへのi/o処理が失敗しました。

対処

マウントポイントがアクセス可能かどうかを確認してください。

ERROR There are no interfaces defined for <*host*> <*interface*> in <*ipconffile*>.

内容

/usr/opt/reliant/etc/hvipalias ファイルに <*host*> に対応する ネットワークインタフェース<*interface*> がないことを示すメッセージです。

対処

ネットワークインタフェース<*interface*>が使用可能であるか確認してください。

ERROR There is no address defined for <*interface*> in <*hostsfile*>.

内容

/etc/hostsファイルに必要なIPアドレスのエントリがないことを示すメッセージです。

対処

/etc/hostsファイルに、必要なIPアドレスのエントリを追加してください。

ERROR There is no address defined for <*interfacename*> in <*hostsfile*>.

内容

/etc/hostsファイルに必要なノード名のエントリがないことを示すメッセージです。

対処

/etc/hostsファイルに、必要なノード名のエントリを追加してください。

ERROR There is no entry of mount point <*mount point*> of type <*value*>.

内容

/etc/[v]fstab[.pcl]ファイルに、マウントされるファイルシステムに必要なエントリがないことを示すメッセージです。

対処

/etc/[v]fstab[.pcl]ファイルに、必要なエントリを追加してください。

ERROR There is no generic driver for <*interfacename*>.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR There is no interface <*interface*> in <*path*>, aborting startup.

内容

/usr/opt/reliant/etc/hvipaliasファイルに必要な引継ぎIPアドレスがないことを示すメッセージです。

対処

/usr/opt/reliant/etc/hvipaliasファイルに必要な引継ぎIPアドレスを追加してください。

ERROR There is no interface <*value*> in /etc/hosts, aborting startup.

内容

/etc/hostsファイルに必要なノード名のエントリがないことを示すメッセージです。

対処

/etc/hostsファイルに、必要なノード名のエントリを追加してください。

ERROR There is no netmask or prefix defined for <*host*> <*interface*> in <*ipconffile*>.

内容

/usr/opt/reliant/etc/hvipalias ファイルに必要な Netmask (IPv4 の場合) または Prefix (IPv6 の場合) のエントリがないことを示すメッセージです。

対処

/usr/opt/reliant/etc/hvipalias ファイルに必要な Netmask (IPv4 の場合) または Prefix (IPv6 の場合) のエントリを追加してください。

ERROR There is no or no valid netname for <*interfacename*> in <*hostsfile*>.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

ERROR There is no RMS entry for shared file system <*mount point*> in <*path*>.

内容

マウントされるファイルシステムに必要なエントリが、以下のファイルに存在しないことを示すメッセージです。

- Solarisの場合

  /etc/dfs/dfstab[.pcl]

- Linuxの場合

  /etc/exports[.pcl]

対処

対応するファイルに、必要なエントリを追加してください。

詳細については、"PRIMECLUSTER 導入運用手引書"の"リソースの設定"を参照してください。

ERROR There is no RMS entry for <*mountpoint*> in <*fstab*>.

内容

<fstab>ファイルに、マウントされるファイルシステムに必要なエントリがないことを示すメッセージです。

対処

<fstab>ファイルに、必要なエントリを追加してください。

ERROR There is no RMS entry for <*mountpoint*> in <*dfstab*>.

内容

/etc/dfs/dfstab[.pcl]ファイル(Solarisの場合)、または/etc/exports[.pcl]ファイル(Linuxの場合)に、マウントされるファイルシステムに必要なエントリがないことを示すメッセージです。

対処

/etc/dfs/dfstab[.pcl]ファイル(Solarisの場合)、または/etc/exports[.pcl]ファイル(Linuxの場合)に、必要なエントリを追加してください。

ERROR There is no script <*path*>/hv_<*value*>-<value>, returning FALSE.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR Timeout configuring <*mountpoint*>

内容

ファイルシステムリソースのOnline処理、またはOffline処理がタイムアウトしました。

対処

スクリプトタイムアウト値が見積り値と同じであることを確認してください。異なる場合は、見積り値を設定してください。

処理時間が、見積り値に収まらずタイムアウトしている場合は、タイムアウトした原因を調査してください。原因が不明な場合は、調査資料を採取し、当社技術員にご連絡ください。

ERROR Timeout deconfiguring <*mountpoint*>

内容

ファイルシステムリソースのOnline処理、またはOffline処理がタイムアウトしました。

対処

スクリプトタイムアウト値が見積り値と同じであることを確認してください。異なる場合は、見積り値を設定してください。

処理時間が、見積り値に収まらずタイムアウトしている場合は、タイムアウトした原因を調査してください。原因が不明な場合は、調査資料を採取し、当社技術員にご連絡ください。

ERROR Timeout in hvexec during precheck phase.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR Timeout in hv_filesys-c

内容

ファイルシステムリソースのOnline処理、またはOffline処理がタイムアウトしました。

対処

スクリプトタイムアウト値が見積り値と同じであることを確認してください。異なる場合は、見積り値を設定してください。

処理時間が、見積り値に収まらずタイムアウトしている場合は、タイムアウトした原因を調査してください。原因が不明な場合は、調査資料を採取し、当社技術員にご連絡ください。

ERROR Timeout in hv_filesys-u

内容

ファイルシステムリソースのOnline処理、またはOffline処理がタイムアウトしました。

対処

スクリプトタイムアウト値が見積り値と同じであることを確認してください。異なる場合は、見積り値を設定してください。

処理時間が、見積り値に収まらずタイムアウトしている場合は、タイムアウトした原因を調査してください。原因が不明な場合は、調査資料を採取し、当社技術員にご連絡ください。

ERROR Timeout in hv_ipalias-c.

内容

引継ぎネットワークリソースのOnline処理またはOffline処理がタイムアウトしました。

対処

スクリプトタイムアウト値が見積り値と同じであることを確認してください。異なる場合は、見積り値を設定してください。

処理時間が、見積り値に収まらずタイムアウトしている場合は、タイムアウトした原因を調査してください。原因が不明な場合は、調査資料を採取し、当社技術員にご連絡ください。

ERROR Timeout in hv_ipalias-u.

内容

引継ぎネットワークリソースのOnline処理またはOffline処理がタイムアウトしました。

対処

スクリプトタイムアウト値が見積り値と同じであることを確認してください。異なる場合は、見積り値を設定してください。

処理時間が、見積り値に収まらずタイムアウトしている場合は、タイムアウトした原因を調査してください。原因が不明な場合は、調査資料を採取し、当社技術員にご連絡ください。

ERROR Timeout in <*command*>

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR Timeout processing Fuser <*mountpoint*>

内容

ファイルシステムリソースのOnline処理、または Offline 処理がタイムアウトしました。

対処

スクリプトタイムアウト値が見積り値と同じであることを確認してください。異なる場合は、見積り値を設定してください。

処理時間が、見積り値に収まらずタイムアウトしている場合は、タイムアウトした原因を調査してください。原因が不明な場合は、調査資料を採取し、当社技術員にご連絡ください。

ERROR Timeout processing ifadmin -d <*ipaddress*>.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR Timeout processing umount <*mountpoint*>

内容

ファイルシステムリソースのOnline処理、または Offline 処理がタイムアウトしました。

対処

スクリプトタイムアウト値が見積り値と同じであることを確認してください。異なる場合は、見積り値を設定してください。

処理時間が、見積り値に収まらずタイムアウトしている場合は、タイムアウトした原因を調査してください。原因が不明な場合は、調査資料を採取し、当社技術員にご連絡ください。

ERROR Timeout processing UmountFS <*option*>.

内容

ファイルシステムリソースのOnline処理、または Offline 処理がタイムアウトしました。

対処

スクリプトタイムアウト値が見積り値と同じであることを確認してください。異なる場合は、見積り値を設定してください。

処理時間が、見積り値に収まらずタイムアウトしている場合は、タイムアウトした原因を調査してください。原因が不明な場合は、調査資料を採取し、当社技術員にご連絡ください。

ERROR Timeout processing UmountFS <*umountoptions*> <*target*>

内容

ファイルシステムリソースのOnline処理、または Offline 処理がタイムアウトしました。

対処

スクリプトタイムアウト値が見積り値と同じであることを確認してください。異なる場合は、見積り値を設定してください。

処理時間が、見積り値に収まらずタイムアウトしている場合は、タイムアウトした原因を調査してください。原因が不明な場合は、調査資料を採取し、当社技術員にご連絡ください。

ERROR Timeout while processing UmountFS -L <*mountpoint*>

内容

ファイルシステムリソースのOnline処理、または Offline 処理がタイムアウトしました。

対処

スクリプトタイムアウト値が見積り値と同じであることを確認してください。異なる場合は、見積り値を設定してください。

処理時間が、見積り値に収まらずタイムアウトしている場合は、タイムアウトした原因を調査してください。原因が不明な場合は、調査資料を採取し、当社技術員にご連絡ください。

ERROR Timeout processing <*fuser/lsof*> -s <*nfsserver*> <*mountpoint*>

内容

<*MountPoint*>のアンマウント処理中に、スクリプトがタイムアウトしました。

対処

スクリプトタイムアウト値が見積り値と同じであることを確認してください。異なる場合は、見積り値を設定してください。

処理時間が、見積り値に収まらずタイムアウトしている場合は、タイムアウトした原因を調査してください。原因が不明な場合は、調査資料を採取し、当社技術員にご連絡ください。

ERROR Timeout while processing temporary mount

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR: appOnlineOrWait: fork() failed: <*errmsg*>

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

ERROR: check_getbdev: fork() failed: <*errormsg*>

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

ERROR: could not parse server name for mount point <*mount*>

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR: doopenread: fork() failed: <*errormsg*>

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

ERROR: dopopen: fork() failed: <*errormsg*>

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

ERROR: dostat: fork() failed: <*errormsg*>

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

ERROR: popen: fork() failed: <*errormsg*>

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

ERROR: probing of device <*mount*> failed <*errorno*>

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

ERROR: Request rejected: userApplication is in Maintenance Mode! - <*application*>

内容

<*application*> がメンテナンスモードのため、hvswitch は拒否されました。

対処

<*application*> のメンテナンスモードを終了し、hvswitch を実行してください。

ERROR: server <*nfsserver*> is not responding

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

ERROR: The RMS file system /opt/SMAW/SMAWRrms is full. Proper RMS operation, including this detector can no longer be guaranteed! Please make space in the file system.

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

ERROR: The RMS file system /opt/SMAW/SMAWRrms is full. The detector can no longer function properly and the stat routine will report (perhaps incorrectly) ok, as long as the condition persists!

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

ERROR: unknown interface <*interface*>

内容

情報メッセージです。

対処

本メッセージが出力された後に、リソース故障が発生した場合は、当社技術員に連絡してください。

ERROR <*hv_nfs-c/u*> cannot determine OldMountType.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR <*hv_nfs-c/u*> <*mountpoint*> already has local filesystem mounted on it.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

ERROR <*hv_nfs-c/u*> <*mountpoint*> is a symbolic name and its target already has local filesystem mounted on it.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

ERROR <*hv_nfs-c/u*> <*mountpoint*> is a symbolic name and its target already has NFS filesystem mounted on it.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

ERROR <*hv_nfs-c*> <*mountpoint*> already has NFS filesystem mounted on it.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

ERROR <*mountpoint*> cannot be a mount point.

内容

<*mountpoint*>にファイルシステムをマウントできません。

対処

<*mountpoint*>にファイルシステムをマウントできるか確認してください。

ERROR <*mountpoint*> is not of type nfs.

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR: xfs_repair <*device*> failed with error code <*code*>.

内容

Fsystem リソースの Online処理で実行された xfs_repairコマンドが失敗したことを意味します。

<*device*>: ファイルシステムが配置されているデバイス名
<*code*>: xfs_repair コマンドの復帰値

対処

- Fsystem リソースの故障が発生し、userApplication の切替え後に、業務が継続できる場合

  hvutil コマンドで Faulted 状態をクリアしてください。

- Fsystem リソースの故障が発生し、業務が継続できない場合

  hvutil コマンドでFaulted 状態をクリアした後、該当のFsystem リソースが登録されている、すべてのRMSをシャットダウンしてください。
  その後、ファイルシステムを修復してください。
  ファイルシステム修復後にRMSを起動し、業務を再開させてください。
  なお、ファイルシステムの修復ができない場合は、当社技術員(SE)に連絡してください。

FATAL ERROR: cannot get any disk for Persistent Reservation in diskclass <*diskclass*>

内容

Persistent Reservation のためのディスクを取得できません。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

FATAL ERROR: exit because child process returned <*lyingretries*> times with signal <*signal*>

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

FATAL ERROR: shutting down RMS!

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

FATAL ERROR: <*resource*> could not open the hvgdconfig file <*file*>. This error must be corrected before RMS will successfully start!

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

FATAL ERROR: <*resource*> does not have an entry in the hvgdconfig file. This error must be corrected before RMS will successfully start!

内容

RMSWTの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

6.3 コンソールエラーメッセージ

コンソールに表示される RMS エラーメッセージについて説明します。

メッセージはアルファベット順に説明されています。

 注意

メッセージ中の斜体で表記している部分は、実際の値、名称、文字列に置き換えられます。

斜体部分で始まるメッセージを検索する場合は注意してください。

/etc/rc3.d/S99RMS: NOTICE: RMS configuration file not exist or not readable - RMS not starting.

内容

RMS 構成定義ファイルが存在しないか、または読めないためRMSが起動できません。

対処

userAppliction を一度も作成していないシステムでは、本メッセージが表示されても対処は不要です。
userApplication を作成しているにも関わらず本メッセージが出力される場合は、RMS 構成定義ファイルを確認してください。

1.doopenread の WARNING
WARNING: doopenread of *mount-device* (pid *xxxx*), counter=*x* not done yet reporting status, waiting ...
2.doopenread の NOTICE
NOTICE: doopenread of *mount-device* (pid *xxxx*), counter=*x* not done yet reporting status, waiting ...
3.dostat の WARNING
WARNING: dostat of *mount-point* (pid *xxxx*), counter=*x* not done yet reporting status, waiting ...
4.dostat の NOTICE
NOTICE: dostat of *mount-point* (pid *xxxx*), counter=*x* not done yet reporting status, waiting ...

内容

Fsystem リソースの監視として、マウントポイントのデバイスに対して発行しているシステムコールが規定時間内に復帰しなかったことを示しています。

対処

counter 値が "1～3" 以内であれば、一時的な I/O 負荷が考えられるため対処は不要です。
counter 値がそれより大きい場合は、以下の対処を行ってください。

- このメッセージが出力された時間帯に負荷をかけるような処理をしているようであれば、運用、構成を見直してください。
- ファイルシステムの監視間隔をチューニングしてください。
- Linux の場合は、監視用ディスクデバイスを用意してください。

Assertion condition failed.

内容

-f オプションまたは -F オプションの使用中に hvassert が失敗すると、このメッセージが出力されて、hvassert が終了コード 1 で終了します。

対処

対処する必要はありません。

BEWARE: 'hvshut -f' may break the consistency of the cluster. No further action may be executed by RMS until the cluster consistency is re-established.This re-establishment includes restart of RMS on the shut down host. Do you wish to proceed?(yes = shut down RMS / no = leave RMS running).

内容

hvshut -f の処理をこのまま実行するかを尋ねるメッセージです。実行する場合は yes を選択し、中止する場合は no を選択します。

対処

メッセージに応答してください。

hvshut -f を使用すると、データの整合性が失われたりデータが破損する場合があるので、注意してください。

BEWARE: the hvreset command will result in a reinitialization of the graph of the specified userApplication. This affects basically the RMS state engine only. The re-initialization does not mean, that activities invoked by RMS so far will be made undone. Manual cleanup of halfway configured resources may be necessary. Do you wish to proceed?(yes = reset application graph / no = abort hvreset).

内容

hvreset の処理をこのまま実行するかを尋ねるメッセージです。実行する場合は yes を選択し、中止する場合は no を選択します。

対処

メッセージに応答してください。

Can't open modification file.

内容

-c オプションを使用して hvmod を呼び出すと、hvmod は一時ファイルを使用します。このファイルを書込み用に開くことができない場合、このメッセージが出力されて、hvmod が終了コード 1 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Cannot start RMS! BM is currently running.

内容

RMS はすでにローカルノード上で実行されています。

対処

現在実行しているバージョンの RMS をシャットダウンして、再起動してください。

Change dest_object to *node*.

対処

対処する必要はありません。

command1 cannot get list of resources via <*command2*> from hvcm.

内容

RMS ウィザードは hvmod を使用して動的変更を実行します。コマンド *command2* の実行時に問題が発生すると、このメッセージが出力されて、hvmod が終了コード 15 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Command aborted.

内容

コマンドを実行しようとすると確認メッセージが表示される場合があります。コマンドを実行するかどうかの質問に no で応答すると、このメッセージが出力されてコマンドの実行は中止されます。

対処

対処する必要はありません。

command: bad state: *state*.

内容

指定可能な*state* 以外を用いて hvassert を実行すると、このメッセージが生成されて hvassert が終了コード 1 で終了します。

対処

状態が hvassert に対して指定可能な *state* 状態かどうか確認してください。

command: bad timeout: *timeout*.

内容

hvassert コマンドで指定したタイムアウトが数字でない場合に、このメッセージが出力されて、コマンドが終了コード 1 で終了します。

対処

hvassert のタイムアウト値を数字で指定してください。

command: cannot open file *filename*.

内容

hvsend は、RMS リソースグラフ内のオブジェクトにメッセージを送信するために使用されます。送信するメッセージの一覧は、ファイルから取得することができます。このファイルを開くことができなかった場合、hvsend コマンドは、上記のメッセージを出力して終了コード 8 で終了します。

対処

ファイル *filename* が存在することを確認してください。

command: cannot put message in queue

内容

コマンド *command* はメッセージキューを使用して RMS BM にメッセージを送信します。このメッセージの送信が何らかの理由で失敗した場合に、このメッセージが出力されて、コマンドが終了コード 0 以外で終了します。

対処

RMS の停止処理中にコマンドを実行すると、本メッセージが出力される場合があります。この場合、再度コマンドを実行してください。RMS の停止処理中以外にコマンドを実行して本メッセージが出力された場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

command: could not create a pipe

内容

コマンド *command* が書込み用に tty を開くことができない場合に、このメッセージが出力されて、コマンドが終了コード 7 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

command failed due to errors in <*argument*>.

内容

hvmod を呼び出すと、hvmod は hvbuild を内部で使用します。hvbuild の実行時に問題が発生すると、このメッセージが出力されて、hvmod が中止され、終了コード 1 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

command: failed due to undefined variable: local_host.

内容

hvsend コマンドは、環境変数 RELIANT_HOSTNAME を検出できない場合に、このメッセージを出力して終了コード 7 で終了します。

対処

RELIANT_HOSTNAME が定義されていることを確認してください。

<*command*> failed with exit code *exitcode*

内容

RMS コマンドが実行した *command* が終了コード *exitcode* で異常終了しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

command: file already exists

内容

ユーザが hvdisp -o を呼び出したときに、引数として指定した出力ファイルがすでに存在している場合に、このメッセージが出力されて、hvdisp が終了コード 6 で終了します。

対処

存在しないファイル名を hvdisp -o の引数として指定してください。

---

command: message queue is not ready yet!

内容

コマンド *command* はメッセージキューを使用して RMS BM にメッセージを送信します。このメッセージキューが何らかの理由で使用できない場合に、このメッセージが出力されて、コマンドが終了コード 3 で終了します。

対処

RMS の起動または停止処理中にコマンドを実行すると、本メッセージが出力される場合があります。この場合、再度コマンドを実行してください。RMS の起動または停止処理中以外にコマンドを実行して本メッセージが出力された場合は、このメッセージを記録

して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

command: Must be super-user to issue this command

内容

これは、コマンド *command* を実行するのに、システム管理者権限が必要であることを示すメッセージです。

対処

コマンドを発行する前にシステム管理者権限であることを確認してください。

command: RMS is not running

内容

コマンド *command* を呼び出すと、そのコマンドは RMS が稼動しているかどうかを確認します。

RMS が稼動していない場合は、このメッセージが出力されて、コマンドが終了コード 2 で終了します。

対処

異なるコマンドを呼び出す前に、RMS が稼動していることを確認してください。

Command timed out!

対処

対処する必要はありません。

Could not open localfile or could not create temporary file *filename*

内容

hvrcp の実行中に、ローカルファイルを読込み用に開くことができない場合、または一時ファイル *filename* を書込み用に開くことができない場合に、このメッセージが出力されて、hvrcp が終了コード 7 で終了します。

対処

ローカルファイルに対する権限を調べて、読取り可能なファイルであることを確認してください。

Could not restart RMS. RELIANT_PATH not set.

内容

ディテクタは RMS を再起動するときに、環境変数 RELIANT_PATH の値をチェックします。この変数の値を判別できない場合に、このメッセージが出力されます。

対処

RELIANT_PATH が適切な値に設定されていることを確認してください。

debugging is on, watch your disk space in /var

内容

デバッグモードが on なので、/var のディスクスペースに注意してくださいというメッセージです。hvutil -l でデバッグモードを on にした場合に表示されます。

対処

/var のディスクスペースが充分であることを確認してください。

Delay *delay* seconds.....

内容

hvsend で指定した遅れ *delay* を秒で知らせる通知メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

DISCLAIMER: The hvdump utility will collect the scripts, configuration files, log files and any core dumps. These will be shipped out to RMS support. If there are any proprietary files you do not want included, please exit now. Do you want to proceed? (yes = continue / no = quit)

内容

hvdump -E を実行するとこのメッセージが出力されます。

hvdump コマンドは、スクリプト、RMS 構成定義ファイル、ログファイル、およびコアダンプの収集を行います。これらのファイルは RMS のサポートに提供されます。提供を望まない独自のファイルがある場合は、処理を中止してください。処理を続行しますか?(yes = 続行 / no = 中止)上記の質問に対して yes を選択した場合にのみ、hvdump -E は情報の収集を行います。

対処

メッセージに応答してください。

DISCLAIMER: The hvdump utility will now collect the necessary information. These will be shipped to RMS support.

内容

hvdump コマンドが情報の収集を開始したことを示すメッセージです。

対処

対処する必要はありません。

Dynamic modification is in progress, can't assert states.

内容

動的変更の実行中に、hvassert を実行することはできません。

対処

動的変更の終了後に hvassert を実行してください。

ERROR: Assertion terminated: RMS is shutdown

内容

hvassert を実行中に対象ノードの RMS が hvshut (-f以外) により停止すると、このメッセージが出力されて、hvassert が終了コード 12 で終了します。

対処

対処する必要はありません。

Error becoming a real time process: *errorreason*

内容

Solaris 上では RMS BM はリアルタイムプロセスとして動作します(したがって、他のプロセスより優先度が高い)。*errorreason* が理由で BM がリアルタイムプロセスになることができないと、このメッセージが表示されます。

対処

理由 *errorreason* に基づいて適切な措置をとってください。*errorreason* については、"付録A CF 理由コードテーブル" を参照してください。

ERROR: Forcibly switch request denied, the following node(s) are in LEFTCLUSTER state: *nodes*

内容

hvswitch -f が実行されクラスタアプリケーションの強制切替えを行う際に、CFがLEFTCLUSTER状態のノード *nodes* が存在したため、クラスタアプリケーションの強制切替え要求は拒否されました。

対処

nodes のノードをすべて、以下のいずれかの状態にしてから、クラスタアプリケーションの強制起動を行ってください。

- CFがDOWN状態、かつ、RMSがOffline状態
- CFがUP状態、かつ、RMSがOnline状態

CFをLEFTCLUSTER状態から回復させる方法については、"PRIMECLUSTER Cluster Foundation 導入運用手引書"を参照してください。

ERROR: Forcibly switch request denied, unabele to kill node <*node*>

内容

hvswitch -f が実行されクラスタアプリケーションの強制切替えを行う際に、RMS が起動していないノード <*node*> を強制停止できないため、クラスタアプリケーションの強制切替え要求は拒否されました。

対処

<*node*>のOSを手動で停止してから、再度クラスタアプリケーションの強制起動を実行してください。

また、ノード強制停止が行なえるよう、シャットダウン機構の設定を見直してください。

ERROR: Hvshut terminates due to timeout, some objects may still be Online.

内容

hvshut コマンドがタイムアウトしました。

なお、hvshut コマンドを -l/-s/-a のいずれかのオプションで実行した場合、クラスタアプリケーションに含まれるリソースの一部が停止に失敗した可能性があります。

対処

hvshut コマンドをタイムアウトさせないようにするためには、使用している環境にあわせてRMS グローバル環境変数 RELIANT_SHUT_MIN_WAIT を大きい値に変更してください。

 参照

RELIANT_SHUT_MIN_WAIT の詳細については、PRIMECLUSTER 4.3A30以降の場合、"PRIMECLUSTER RMS導入運用手引書"の"13.2 RMS グローバル環境変数"の"RELIANT_SHUT_MIN_WAIT"、PRIMECLUSTER 4.3A20以前の場合、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜クラスタ構築・運用時の留意点＞"の"B.1グローバル環境変数"の"RELIANT_SHUT_MIN_WAIT"を参照してください。

RMS環境変数の参照/変更方法については、"PRIMECLUSTER RMS 導入運用手引書"を参照してください。

また、hvshut コマンドを実行した際のオプションに応じて、以下の対処を行ってください。

- -l オプションで実行した場合

  コマンド実行ノードの OS をシャットダウンするか、ノードを強制停止してください。

- -s オプションで実行した場合

  コマンド対象ノードの OS をシャットダウンするか、ノードを強制停止してください。

- -a オプションで実行した場合

  RMS が正常終了したノード以外の全ノードの OS をシャットダウンするか、ノードを強制停止してください。

- -L オプションで実行した場合

  コマンド実行ノードの BM(ベースモニタ)プロセスが停止していない場合は、hvshut -f コマンドを実行し、RMS を強制停止してください。BM プロセスが停止している場合は、対処は必要ありません。

- -A オプションで実行した場合

  BM プロセスが停止していないノードが存在する場合は、それらのノードで hvshut -f コマンドを実行し、RMS を強制停止してください。すべてのノードで BM プロセスが停止している場合、対処は必要ありません。

ERROR: Local SysNode must be specified

内容:

リソース単位の起動要求では、hvswitchコマンドの引数に、コマンドを実行するノードのSysNode名を指定する必要があります。

対処:

コマンドを実行するノードのSysNode名を指定して、hvswitchコマンドを実行してください。

このメッセージは、4.3A40 以降にのみ出力されます。

Error setting up real time parameters: *errorreason*

内容

RMS BM をリアルタイムプロセスとして実行するためのパラメタを設定するときに問題が発生すると、このメッセージが問題の理由 *errorreason* とともに表示されます。

対処

問題の理由 *errorreason* に基づいて適切な措置をとってください。*errorreason* については、"付録A CF 理由コードテーブル" を参照してください。

Error while starting up bm on the remote host <*targethost*>: *errorreason*

内容

-s オプション付きで hvcm を呼び出して、RMS をリモートノード <*targethost*> 上で起動するときに、問題が発生すると、このメッセージと問題の理由 <*errorreason*> が表示されます。

対処

問題の理由 *errorreason* に基づいて適切な措置をとり、hvcm -s を再発行してください。*errorreason* については、"付録A CF 理由コードテーブル" を参照してください。

Error while starting up local bm: *errorreason*

内容

ローカル bm 起動中にエラーが発生しました。

対処

理由 *errorreason* に基づいて適切な処置をとってください。*errorreason* については、付録A CF 理由コードテーブル を参照してください。

Failed to dup a file descriptor.

内容

環境の設定中に RMS がファイルディスクリプタの dup に失敗すると、このメッセージが出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Failed to exec the hvenv file <*hvenvfile*>.

内容

RMS は、hvenv 環境変数ファイル *hvenvfile* の exec に失敗しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Failed to open pipe.

内容

通信パイプのオープンに失敗すると、このメッセージが出力されて、RMS が終了コード 1 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

FATAL ERROR Could not restart RMS. Restart count exceeded.

内容

ディテクタは RMS を再起動しようとするときに、RMS の再起動が必要だった回数を履歴します。この回数が 3 回を超えると、このメッセージが出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

FATAL ERROR: Could not restart RMS. Restart script (*script*) does not exist.

内容

スクリプト *script* が存在しないためにディテクタが RMS を再起動できない場合、このメッセージが出力されます。

対処

スクリプト *script* が存在することを確認してください。

FATAL ERROR: Could not restart RMS. Failed to recreate RMS restart count file.

内容

ディテクタは RMS を再起動するときに、必要な情報をカウントファイルに書き出すことによって、RMS の再起動を必要とした回数を記録しています。このカウントファイルがオープンできない場合に、上記メッセージが出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

FATAL ERROR: RMS has failed to start!

内容

クラスタアプリケーションが作成されていないため、RMS を起動できません。

対処

クラスタアプリケーションを作成してください。

File open failed (*path*): *errorreason*.

内容

hvassert コマンドが RMS BM と通信する際に使用するファイル *path* を開くことができない場合に、このメッセージが失敗の理由 *errorreason* とともに表示されて、hvassert が終了コード 5 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

File system of directory <*directory*> has no data blocks !!

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Forced shut down on the local cluster host!

内容

ディテクタは BM を再起動するときに、このメッセージを出力してから、再起動を開始します。

対処

対処する必要はありません。

Fork failed.

内容

RMS がプロセスのフォークに失敗した場合にこのメッセージが出力されて、RMS が終了コード 1 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

hvutil: Could not determine if RMS is running on <*targethost*>, errno *exitcode*

内容

hvutil -A *targethost* が呼び出されると、このメッセージが表示されます。*targethost* 上で RMS が稼動中であるかどうかが、このコマンドで確認できなかったことを示しています。*exitcode* は、/usr/include/sys/errno.h の値を表しています。

対処

exitcode の値に応じて対処してください。

---

hvutil: Could not determine IP address of <*targethost*>

内容

クラスタノード名に対する IP アドレスが検出できませんでした。

対処

/etc/hosts ファイルに、すべてのクラスタノードの *targethost* を追加します。

hvutil: debug option must be a positive number for on, 0 for off.

内容

ログレベルとして 0 または 1 以外の値を指定して hvutil -L を呼び出すと、このメッセージが出力されて、終了コード 6 で終了します。

対処

このコマンドに対する有効なログレベル 0 または 1 を指定してください。

hvutil: Detector time period must be greater than *minimumtime*.

内容

hvutil -t の引数として指定したディテクタ時間が *minimumtime* より小さい場合は、hvutil が中止され、終了コード 5 で終了します。

対処

minimumtime より大きい時間を指定して hvutil を呼び出してください。

hvutil: Failed to allocate socket

内容

リモートノードとの通信に使用するソケットの割当てに失敗しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

hvutil: Missing /etc/services entry for "rmshb"

内容

/etc/services ファイルで、RMS ハートビート用のエントリに抜けがあります。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

hvutil: Notify string is longer than *mesglen* bytes

内容

通知文字列が長すぎます。

対処

通知文字列を *mesglen* バイト以下にしてください。

hvutil: Processing Manual Mode request (*request*) for satellite node *node*.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

hvutil: RMS is not running on <*targethost*>

内容

hvutil -A *targethost* が呼び出されると、このメッセージが表示されます。指定されたノード上でRMS が稼動中であることを示しています。

対処

対処する必要はありません。

---

hvutil: RMS is running on <*targethost*>

内容

hvutil -A *targethost* が呼び出されると、このメッセージが表示されます。指定されたノード上でRMS が稼動中であることを示しています。

対処

対処する必要はありません。

---

hvutil: The resource <*resource*> does not have a detector associated with it

内容

リソース *resource* には関連付けられたディテクタがありません。

対処

ディテクタが関連付けられているリソースで hvutil -N を実行してください。

---

hvutil: The resource <*resource*> is not a valid resource

内容

リソース *resource* は、有効なリソースではありません。

対処

ディテクタが関連付けられ、かつリソースグラフの一部であるリソースで hvutil -N を実行してください。

---

hvutil: time period of detector must be an integer.

内容

hvutil -t の引数として指定したディテクタ時間が数字でない場合は、hvutil が中止され、終了コード 6 で終了します。

対処

ディテクタ時間が整数であることを確認してください。

---

hvutil: Unable to open the notification file <*path*> due to reason: *reason*

内容

hvutil は、*reason* の理由によりファイル *path* を開けませんでした。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Invalid delay.

内容

hvsend で指定したメッセージ送信の遅延がゼロより小さいと、このメッセージが表示されます。

対処

有効な値を指定してください。

It may take few seconds to do Debug Information collection.

内容

リソースグラフに関する情報をダンプ出力する hvdump コマンドが、その情報を収集している間にこのメッセージが出力されます。

対処

対処する必要はありません。

localfile *filename* does not exist or is not an ordinary file

内容

hvrcp の引数として指定したローカルファイルが存在しない場合または通常のファイルでない場合は、hvrcp が終了コード7 で終了します。

対処

ローカルファイルが存在し、通常のファイルであることを確認してください。

Manual Mode request (*request*) failed for satellite node *node*.

内容

重大なエラーです。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Manual Mode request successfully processed for satellite node *node*.

内容

情報メッセージです。

対処

対処する必要はありません。

Name of the modification file is too long.

内容

-f オプションで引数として指定した変更ファイルの名前、または -c オプションで指定した変更ディレクティブが 113 より大きい場合に、このメッセージが出力されて、hvmod が終了コード 4 で終了します。

対処

-f オプションと -c オプションで指定した引数が長すぎないことを確認してください。

NOTICE: failed to open/read device *mount-device*

内容

Fsystem リソースのリソース状態が Online 以外です。RMS では、ファイルシステムの状態を確認するために、GDS ボリュームに対して open/read を実行していますが、ボリュームが停止状態であるため、open/read に失敗していることを示しています。

対処

メッセージが出力されているだけであり、業務への影響はありません。

NOTICE: RMS died but has been successfully restarted, reconnecting

内容

RMS が起動されていないことを示すメッセージです。

対処

RMS を起動する必要がある場合は、RMS を起動してください。

NOTICE: User has been warned of 'hvshut -A' and has elected to proceed.

内容

ユーザーが 'hvshut -A' を起動した後、確認メッセージに答えて実行を指定すると、このメッセージが出力されます。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: User has been warned of 'hvshut -f -a' and has elected to proceed.

内容

ユーザが hvshut -f -a の実行を選択すると、上記の確認メッセージが出力されます。

対処

対処する必要はありません。

NOTICE: User has been warned of 'hvshut -L' and has elected to proceed.

内容

ユーザが hvshut - L を呼び出して、コマンドを続行しようとすると、hvshut - L の呼び出しを確認するために、このメッセージが出力されます。

対処

対処する必要はありません。

RELIANT_LOG_PATH is not defined

内容

-d オプションを使用しないで hvlogclean コマンドを呼び出すときは、hvloginit スクリプトを取得するのに環境変数 RELIANT_LOG_PATH の値が必要です。この環境変数の値が見つからない場合に、上記のメッセージが出力されて、コマンドが終了コード 6 で終了します。

対処

環境変数 RELIANT_LOG_PATH が未設定でなく、適切な値に設定されていることを確認してください。

RELIANT_PATH is not defined

内容

-d オプションを使用しないで hvlogclean コマンドを呼び出すときは、hvloginit スクリプトを取得するのに環境変数 RELIANT_PATH の値が必要です。この環境変数の値が見つからない場合に、上記のメッセージが出力されて、コマンドが終了コード 6 で終了します。

対処

RELIANT_PATH が適切な値に設定されていることを確認してください。

Remote host <*hostname*> is not Online.

内容

hvassert の実行時に、リモートノード *hostname* が Online でない場合に、このメッセージが出力されて、hvassert が終了コード 1 で終了します。

対処

hvassert を実行する前に、リモートノードが Online であることを確認してください。

Remote host does not exist - *host*.

内容

hvassert -h *host* ... として指定した SysNode が RMS リソースグラフの一部でない場合に、このメッセージが出力されて、hvassert が終了コード 10 で終了します。

対処

hvassert で指定したリモートノードが存在することを確認してください。

Remote system is not online.

内容

RMS が稼動していないリモートノード上のオブジェクトに対して hvassert を実行しようとすると、このメッセージが出力されて、hvassert が終了コード 10 で終了します。

対処

hvassert を実行する前に、リモートシステムで RMS が稼動していることを確認してください。

Reset of RMS has been aborted.

内容

hvreset コマンドは、起動されると確認メッセージを表示します。このメッセージに yes で応答しなかった場合は、hvreset は実行を中止して上記のメッセージを出力します。

対処

対処する必要はありません。

Resource does not exist - *resource*.

内容

RMS リソースグラフの一部でないリソースに対して hvassert を実行しようとすると、このメッセージが出力されて、hvassert が終了コード 10 で終了します。

対処

リソースに対して hvassert を実行する前に、そのリソースが存在することを確認してください。

Resource is already online on target node

内容

Resource がすでに Online 状態のため、hvswitch コマンドによるリソースの起動要求が拒否されました。

対処

対処する必要はありません。
誤ったリソースを指定していた場合は、正しいリソースを指定して、hvswitch コマンドを再実行してください。

resource is not in state *state*.

内容

オブジェクト *resource* に対して hvassert を実行しようとしたときに、リソースの状態が *state* でないことがわかると、このメッセージが出力されて、hvassert が終了コード 1 で終了します。

対処

対処する必要はありません。

Resource type must be userApplication or gResource

内容

hvswitch/hvutil コマンドの引数として、クラスタアプリケーションまたはクラスタリソースを指定する必要があります。

対処

"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" で、hvswitch/hvutil の正しい使用方法を確認してください。

Request cannot be processed. The following resource(s) are unexpectedly online

内容

一部のリソースのみが起動している状態で、他のリソースが予期せずに Online となっているため、hvswitch/hvutil コマンドにより、そのノード上でリソースを起動/停止することができません。

対処

予期せずに Online となっているリソースを、Online となる前の状態に手動で戻してから、hvswitch/hvutil コマンドにより、リソースを起動/停止してください。

RMS environment failure: Failed to set environment using hvenv. Default values for environment variables will be used.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

RMS environment failure: Failed to set environment variable <*path*> for command: <*errno*>.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

RMS environment failure: The following required variable is not defined in RMS environment:

内容

RMS が動作するために必要としている RMS 環境変数の 1つが hvenv にありません。

対処

重大なエラーです。hvenv.* ファイルの環境定義情報が正しいかどうかを確認してください。

RMS environment failure: <*function*> failed with errno <*errno*>.

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

RMS has failed to start! didn't find a valid entry in the RMS default configuration file *"configfilename"*

内容

デフォルトの RMS 構成定義ファイルが存在するにもかかわらず、実行する RMS 構成定義ファイルを参照する有効なエントリがない場合に、このメッセージが出力されます。

対処

デフォルトの RMS 構成定義ファイル名をデフォルトの RMS 構成定義ファイルに入れるか、起動する構成の中に現在の構成名を入れてください。

RMS has failed to start! 'hvcm' has been invoked without specifying a configuration with the -c attribute, but with specifying other command line options. This may cause ambiguity and is therefore not possible. Please specify the entire commandline or use 'hvcm' without further options to run the default configuration.

内容

-c オプションに対する引数がありません。-c の次に他のコマンドラインオプションを指定してRMS を起動すると、このメッセージが出力されます。

対処

hvcm に -c オプションを指定する場合、-c *configname* は、コマンド行の最後の引数として指定してください。デフォルトの構成を使用する場合は、引数を指定せずに hvcm を実行して RMS をローカルノードで起動し、hvcm -a を使用して全ノードの RMS を起動してください。

RMS has failed to start! invalid entry in the RMS default configuration file "*configfilename*"

内容

デフォルトの RMS 構成定義ファイルに無効なエントリがある場合は、RMS を起動できません。有効なエントリは、「1. *configname*」または「2. hvcm <*options*> -c <*configname*>」です。形式 2 のオプション指定について、詳細は "PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照してください。

対処

デフォルトの RMS 構成定義ファイルに含まれる無効なエントリをすべて削除してください。詳細は "PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照してください。

RMS has failed to start! multiple entries in the RMS default configuration file "*configfilename*"

内容

デフォルトの RMS 構成定義ファイル config.us に複数のエントリがある場合は、RMS を起動できません。

対処

デフォルトの RMS 構成定義ファイルに含まれるあいまいなエントリをすべて削除し、有効な RMS 構成を 1つだけ残してください。

RMS has failed to start! RELIANT_HOSTNAME is not defined in the RMS environment

内容

環境変数 RELIANT_HOSTNAME が正しく設定されていません。

対処

RMS 環境変数 RELIANT_HOSTNAME が誤って " "(空文字列) に設定されていないこと、または hvenv.local で明示的に未設定になっていないことを確認してください。

RMS has failed to start! the number of arguments specified at the command line overrides the internal buffer of the RMS start utility

内容

コマンドラインで指定した引数の数がバッファの容量 (= 30 コマンドライン引数) を超えると、このメッセージが出力されます。

対処

"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" で、hvcm の正しい構文と使用方法を確認してください。

RMS has failed to start! the number of arguments specified at the RMS default configuration file "*configfilename*" overrides the internal buffer of the RMS start utility

内容

デフォルトの RMS 構成定義ファイルを使用して RMS を起動する場合に、デフォルトの RMS 構成定義ファイルで指定されている引数の数が多すぎるためにこのメッセージが出力されます。

対処

デフォルトの RMS 構成定義ファイルから不要な引数を削除してください。"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" で、RMS を起動するのに必要な hvcm のオプションを確認してください。

RMS has failed to start! the options "-a" and "-s" are incompatible and may not be specified both

内容

-a オプションと -s オプションを同時に使用して RMS を起動すると、このメッセージが出力されます。

対処

"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" で、hvcm の正しい形式を確認してください。

rms is dead

内容

hvrcp コマンドは、RMS BM が稼動しているかどうかを 10 秒おきにチェックします。

RMS BM が稼動していない場合に、このメッセージが出力されて、hvrcp が終了コード 1 で終了します。

対処

RMS をノード上で稼動してください。

RMS on node *node* could not be shutdown with hvshut -A.

内容

hvshut -A でノードをシャットダウンできない場合に出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Root access required to start hvcm

内容

RMS を起動するには、システム管理者権限が必要です。

対処

システム管理者権限で実行してください。

Sending *data* to *resource*.

内容

ログ出力をオンにし、オブジェクト *resource* に *data* を送信中にこのメッセージが出力されます。

対処

対処する必要はありません。

Shutdown of RMS has been aborted.

内容

hvshut -L を実行すると、hvshut コマンドから確認を要求されます。no を指定すると hvshut -L は中止され、このメッセージが出力されます。

対処

対処する必要はありません。

Starting Reliant Monitor Services now

内容

RMS の起動時にこのメッセージが出力されます。

対処

対処する必要はありません。

Starting RMS on remote host *host* now

内容

RMS がリモートノード *host* で起動されるときにこのメッセージが出力されます。

対処

対処する必要はありません。

startup aborted per user request

内容

-c オプションを指定して RMS を起動するときに、指定した RMS 構成定義ファイルが CONFIG.rms のエントリと異なると、新しい RMS 構成定義ファイルをアクティブにするかどうかを尋ねる質問が表示されます。no で答えると、このメッセージが出力されます。

対処

対処する必要はありません。

systemctl command exited with *retcode*

内容

hvcm コマンド実行時に、systemctl コマンドが正常終了しなかった場合、このメッセージが出力されます。

対処

retcode に基づいて適切な措置をとってください。

このメッセージは、4.3A40 以降にのみ出力されます。

The command '*command*' could not be executed

内容

コマンド *command* の実行が失敗しました。

対処

command が有効なコマンドであるかを確認してください。

The command '*command*' failed to reset uid information with errno '*errno*' - '*errorreason*'.

内容

コマンド *command* は、実行ユーザ ID のリセットに失敗しました。

対処

seteuid(2) が *errno* により失敗したため、*errno* の値に応じて対処してください。

The command '*command*' failed to set the effective uid information with errno '*errno*' - '*errorreason*'.

内容

コマンド *command* は、実行ユーザ ID のセットに失敗しました。

対処

seteuid(2) が *errno* により失敗したため、*errno* の値に応じて対処してください。

The configuration file "<*nondefaultconfig*>" has been specified as option argument of the -c option, but the Wizard Tools activated configuration is "<*defaultconfig*>" (see <*defaultconfig*>). The base monitor will not be started. The desired configuration file must be re-activated by using PCS Wizard activation command.

内容

Activate された構成と異なるため、-c オプションで指定された構成で RMS を起動できません。

対処

-c オプションで指定した構成を Activate して、RMS を起動してください。

The file '*filename*' could not be opened: *errormsg*

内容

RMS コマンド の実行中に *errormsg* が原因でファイル *filename* がオープンできなかった場合にこのメッセージが出力され、コマンドが終了コード 8 で終了します。

対処

errormsg に基づいて適切な措置をとってください。

The length of return message from BM is illegal (*actuallength* actual *expectedlength* expected).

内容

hvassert コマンドが BM から受け取る戻りメッセージの長さが、*expectedlength* ではなく*actuallength* の場合に、このメッセージが出力され、hvassert が終了コード 5 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員（SE）に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

The state of RMS service is not active but *state*

内容

RMS の systemd サービス（smawrrms.service）の状態が active でないノードの BM を起動しようとした場合、このメッセージが出力され、BM の起動に失敗します。

対処

RMS の systemd サービスの状態が active でない原因を取り除いた後、systemctl コマンドによりサービスを起動し、サービスの状態が active になったことを確認してください。それでも復旧できない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してくだ

さい。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

注意

このメッセージは、4.3A40 以降にのみ出力されます。

The state of RMS service is not online/degraded but *state*

内容

RMS の SMF サービス(svc:/milestone/smawrrms)の状態が online でも degraded でもないノードの BM を起動しようとした場合、このメッセージが出力され、BM の起動に失敗します。

対処

RMS の SMF サービスの状態が online または degraded でない原因を取り除いた後、サービスの状態が online または degraded になったことを確認してください。それでも復旧できない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

The system call *systemcall* could not be executed: *errormsg*

内容

RMS コマンドの実行中に *errormsg* が原因でシステムコール *systemcall* が実行できなかった場合にこのメッセージが出力され、コマンドが終了コード 7 で終了します。

対処

errormsg に基づいて適切な措置をとってください。

The use of the -f (force) flag could cause your data to be corrupted and could cause your node to be killed. Do not continue if the result of this forced command is not clear. The use of force flag of hvswitch overrides the RMS internal security mechanism. In particular RMS does no longer prevent resources, which have been marked as "ClusterExclusive", from coming Online on more than one host in the cluster. It is recommended to double check the state of all affected resources before continuing. Do you wish to proceed ? (default: no) [yes, no]:

内容

hvswitch -f の処理をこのまま実行するか尋ねるメッセージです。クラスタアプリケーションを強制的に起動する場合は yes を選択し、中止する場合は no を選択します

対処

メッセージに応答してください。
hvswitch -f を使用すると、データの整合性が失われたりデータが破損する場合があるので、注意してください。hvswitch -f を使用する場合は、強制的に起動するクラスタアプリケーション配下のリソースが、他の故障ノード上で動作中でないことを確認してください。

注意

PRIMECLUSTER 4.3A10以降(Solaris版)、または、PRIMECLUSTER 4.3A30以降(Linux版)では、本メッセージの最後の、"Do you wish to proceed ? (default: no) [yes, no]:"の前に以下のメッセージが追加で表示されます。

```
IMPORTANT: This command may kill nodes on which RMS is not running in order to reduce the risk of data corruption!
Ensure that RMS is running on all other nodes. Or shut down OS of the nodes on  which RMS is not running.
```

このメッセージは、クラスタアプリケーションの強制起動時にデータが破損するリスクを低減するため、RMSが起動していないノードを強制停止する場合があることを示しています。

参照

クラスタアプリケーションを強制起動する際は、PRIMECLUSTER 4.3A30以降の場合、“PRIMECLUSTER 導入運用手引書”の“7.5.1 クラスタアプリケーションの強制切替えに関する注意”、PRIMECLUSTER 4.3A20以前の場合、“PRIMECLUSTER 活用ガイド＜クラスタ構築・運用時の留意点＞”の“6.1.1 クラスタアプリケーションの強制切替えに関する注意”を確認してから行ってください。

The userApplication is in the state Inconsistent on any node

内容

userApplication がいずれかのノードで Inconsistent 状態のため、hvswitch/hvutil コマンドにより、リソースを起動/停止することができません。

対処

Inconsistent 状態を解決し、すべてのノードで userApplication が Inconsistent でない状態にしてから、hvswitch/hvutil コマンドにより、リソースを起動/停止してください。

The userApplication must be in the state Online, Offline or Standby on target node

内容

userApplication が Online/Offline/Standby のいずれの状態でもないため、hvswitch コマンドにより、リソースを起動することができません。

対処

userApplication を Online/Offline/Standby のいずれかの状態にしてから、hvswitch コマンドにより、リソースを起動してください。

The user has invoked the hvcm command with the -a flag on a host where RMS is already running, sending request to start all remaining hosts.

内容

hvcm に -a フラグを指定して実行すると、クラスタ内の他のノードで RMS が起動します。

対処

対処する必要はありません。

timed out! Most likely rms on the remote host is dead.

内容

hvrcp の実行中に、ローカルノード上の BM がリモートノード上の BM から応答を受け取らなかったために、コマンドがタイムアウトになりました。最も疑われる原因として、リモートブート上の RMS が停止している可能性があります。

対処

リモートノード上の RMS が稼動していることを確認してください。

timestamp: NOTICE: User has been warned of 'hvshut -f' and has elected to proceed.

内容

ユーザが hvshut -f を呼び出して、コマンドの続行を選択すると、それを確認するために、このメッセージが出力されます。

対処

対処する必要はありません。

Too many asserted objects, *maximum* is the max.

内容

maximum より多くのオブジェクトをアサートしようとすると、このメッセージが出力されます。

対処

アサートするオブジェクトの個数を *maximum* より少なくしてください。

Unable to execute command: command

内容

hvmod の実行中に、コマンド<*command*> が実行できないと、hvmod は終了コード1 で終了します。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Unable to start RMS on the remote host using cfsh, rsh or ssh

内容

RMSの処理で内部異常が発生しました。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Usage: hvassert [-h SysNode] [-q] -s resource_name resource_state | [-h SysNode] [-q] -w resource_name resource_state seconds | [-h SysNode] [-q] -d resource_name state_detail [seconds]

内容

hvassert コマンドを正しい方法で呼び出さないと、このメッセージが出力されて、コマンドが終了コード 6 で終了します。

対処

メッセージに示された使用方法に従ってください。

Usage: hvcm [-V] [-a] [-s targethost] [-c config_file] [-h time] [-l level]

内容

使用方法が誤っています。

対処

"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" で、hvcm の正しい使用方法を確認してください。

Usage: hvconfig -l | -o config_file

内容

hvconfig コマンドを不適切な方法で使用すると、このメッセージが出力されて、コマンドが終了コード 6 で終了します。

対処

コマンドを正しい方法で使用してください。

Usage: hvdisp {-a | -c | -h | -i | -l | -n | -S resource_name [-u | -c] | -z resource_name | -T resource_type [-u | -c] | -u | resource_name | ENV | ENVL} [-o out_file]

内容

hvdisp コマンドを不適切な方法で使用すると、このメッセージが出力されて、コマンドが終了コード 6 で終了します。

対処

コマンドを正しい方法で使用してください。

Usage: hvdump {-g | -f out_file | -t wait_time}

内容

hvdump コマンドを不適切な方法で使用すると、このメッセージが出力されて、コマンドが終了コード 6 で終了します。

対処

コマンドを正しい方法で使用してください。

Usage: hvlogclean [-d]

内容

hvlogclean コマンドを不適切な方法で使用すると、このメッセージが出力されて、コマンドが終了コード 6 で終了します。

対処

コマンドを正しい方法で使用してください。

Usage: hvreset [-t timeout] userApplication

内容

hvreset コマンドを不適切な方法で使用すると、このメッセージが出力されて、コマンドが終了コード 2 で終了します。

対処

コマンドを正しい方法で使用してください。

Usage: hvshut {-f | -L | -a | -l | -s SysNode | -A}

内容

hvshut の使用方法がメッセージに示される使用方法に反している場合は、hvshut コマンドが終了コード 6 で終了します。

対処

コマンドを正しい方法で使用してください。

Usage: hvswitch [-f] userApplication [SysNode] | -p userApplication

内容

hvswitch コマンドで不明なオプションを使用するか、hvswitch に対して 3 つ以上の引数を指定すると、hvswitch が終了コード 6 で終了します。

対処

コマンドを正しい方法で使用してください。

Usage: hvswitch [-f] userApplication [SysNode] | [-f] resource SysNode | -p userApplication

内容

hvswitch コマンドで不明なオプションを使用するか、hvswitch に対して 3 つ以上の引数を指定すると、hvswitch が終了コード 6 で終了します。

対処

コマンドを正しい方法で使用してください。

注意

このメッセージは、4.3A40 以降にのみ出力されます。

Usage: hvutil {-a | -d | -c | -s} userApplication | -f [-q] userApplication | {-t n | -N string } resource | -L {level | display} resource | {-o | -u} SysNode | -l {level | display} | -w | -W | -i {all | userApplication} | -r | -m {on|off|forceoff} userApplication | -M {on|off|forceoff} | {-C | -E} SatNode

内容

このメッセージは、以下のいずれかの場合に出力されます。

- 複数の引数を指定して hvutil -u 呼び出した。終了コード 7。
- オプションまたは引数を指定しないで hvutil を呼び出した。終了コード 7。
- 不正なオプションを指定して hvutil を呼び出した。終了コード 7。
- 引数を指定しないで hvutil -i を呼び出した。終了コード 13。
- 引数を指定して hvutil -r を呼び出した。終了コード 14。
- 引数を指定して hvutil {-w | -W} を呼び出した。終了コード 9。
- NoConfirm を唯一の引数として hvutil -n を呼び出した。終了コード 5。
- on、off、または forceoff 以外の引数を指定して hvutil {-m | -M} を呼び出した。終了コード 16。
- 引数を指定しないで hvutil -m を呼び出した。または、引数を指定して hvutil -M を呼び出した。終了コード 16。

対処

hvutil を正しい方法で使用してください。

Usage: hvutil {-a | -d | -c | -s} userApplication | -f [-q] userApplication | {-f | -c} resource | {-t n | -N string } resource | -L {level | display} resource | {-o | -u} SysNode | -l {level | display} | -w | -W | -i {all | userApplication} | -r | -m {on|off|forceoff} userApplication | -M {on|off|forceoff} | {-C | -E} SatNode

内容

このメッセージは、以下のいずれかの場合に出力されます。

- 複数の引数を指定して hvutil -u 呼び出した。終了コード 7。
- オプションまたは引数を指定しないで hvutil を呼び出した。終了コード 7。
- 不正なオプションを指定して hvutil を呼び出した。終了コード 7。
- 引数を指定しないで hvutil -i を呼び出した。終了コード 13。
- 引数を指定して hvutil -r を呼び出した。終了コード 14。
- 引数を指定して hvutil {-w | -W} を呼び出した。終了コード 9。
- NoConfirm を唯一の引数として hvutil -n を呼び出した。終了コード 5。
- on、off、または forceoff 以外の引数を指定して hvutil {-m | -M} を呼び出した。終了コード 16。
- 引数を指定しないで hvutil -m を呼び出した。または、引数を指定して hvutil -M を呼び出した。終了コード 16。

対処

hvutil を正しい方法で使用してください。

注意

このメッセージは、4.3A40 以降にのみ出力されます。

WARNING: The '-L' option of the hvshut command will shut down the RMS software without bringing down any of the applications. In this situation, it would be possible to bring up the same application on another node in the cluster which *may* cause data corruption.
Do you wish to proceed ? (yes = shut down RMS / no = leave RMS running).

内容

このメッセージは、'hvshut -L' が実行された場合に表示されます。"yes" を選択するとコマンドを実行し、"no" を選択するとコマンドを停止します。

対処

コマンドを実行する場合は"yes"を選択し、コマンドを停止する場合は"no"を選択してください。

WARNING: The '-A' option of the hvshut command will shut down the RMS software without bringing down any of the applications on all hosts in the cluster.
Do you wish to proceed ? (yes = shut down RMS on all hosts / no = leave RMS running).

内容

このメッセージは、'hvshut -A' が実行された場合に表示されます。"yes" を選択するとコマンドを実行し、"no" を選択するとコマンドを停止します。

対処

コマンドを実行する場合は"yes"を選択し、コマンドを停止する場合は"no"を選択してください。

WARNING: There is an ongoing kill of cluster host(s) <*nodes*>. If the host <*node*> is needed in order to provide failover support for applications on the host(s) <*nodes*> then this hvshut command should be aborted.
Do you wish to proceed with the hvshut of host <node> (yes = shut down RMS / no = leave RMS running).

内容

クラスタノードの強制停止処理中にユーザが 'hvshut' を実行した場合、このメッセージが出力されます。"yes" を選択するとコマンドを実行し、"no" を選択するとコマンドを停止します。

対処

コマンドを実行する場合は"yes"を選択し、コマンドを停止する場合は"no"を選択してください。

WARNING: You are about to attempt to resolve a SysNode 'Wait' state by telling RMS that the node in question (<*sysnode*>) has not actually gone down. This option will only work if, and only if, the cluster node and the RMS instance on that cluster node have been continuously up since before the 'Wait' state began. If the RMS instance on that cluster node has gone down and been restarted this option (hvutil -o) will not work and may cause the RMS instance on that node to hang. If the RMS instance on that node has gone down and been restarted, shut it down again (hvshut -f) and run the 'hvutil -u <*sysnode*>' command on this cluster host and then restart RMS on the other cluster node.

内容

このメッセージは、'hvutil -u' が実行された場合に表示されます。"yes" を選択するとコマンドを実行し、"no" を選択するとコマンドを停止します。

対処

コマンドを実行する場合は"yes"を選択し、コマンドを停止する場合は"no"を選択してください。

WARNING: Data corruption may occur, if the Sysnode referred to as option-argument of the '-u' option hasn't been completely deactivated.
Do you wish to proceed ? (default: no) [yes, no]:

内容

このメッセージは、'hvutil -u' が実行された場合に表示されます。"yes" を選択するとコマンドを実行し、"no" を選択するとコマンドを停止します。

対処

コマンドを実行する場合は"yes"を選択し、コマンドを停止する場合は"no"を選択してください。

第7章 特定コマンド実行時のメッセージ

本章では、以下のコマンド実行時に、標準エラー出力(stderr)または標準出力(stdout)出力されるメッセージについて説明します。

各コマンドのメッセージは以下を参照してください。

コマンド名	機能	参照先
cfconfig	クラスタノードの構成／構成削除	"7.1 cfconfig コマンドメッセージ"
cipconfig	CIP の起動／停止	"7.2 cipconfig コマンドメッセージ"
cftool	ノード通信状態(CIP 情報)の出力	"7.3 cftool コマンドメッセージ"
rcqconfig	クォーラム情報の操作	"7.4 rcqconfig コマンドメッセージ"
rcqquery	クォーラム情報の取得	"7.5 rcqquery コマンドメッセージ"
panicinfo_setup	シャットダウン機構の設定 (Linux のみ)	"7.6 panicinfo_setup コマンドメッセージ(Linux)"
cfbackup	クラスタ構成情報の保存	"7.7 cfbackup コマンドメッセージ"
cfrestore	保存されたクラスタ構成情報の復元	"7.8 cfrestore コマンドメッセージ"
wgcnfclient	RMS 構成名の設定／参照 (Solaris のみ)	"7.9 wgcnfclient コマンドメッセージ(Solaris)"
clrwzconfig	クラスタアプリケーション情報の登録／削除／確認(Linux のみ)	"7.10 clrwzconfig コマンドメッセージ(Linux)"
pclsnap	システム情報採取ツール	"7.11 pclsnapコマンドメッセージ"
wvstat	Web-Based Admin Viewの操作状態の表示	"7.12 wvstatコマンドメッセージ"
clallshutdown	クラスタを構成する全ノードの停止	"7.13 clallshutdownコマンドメッセージ"

注意

- メッセージ中の斜体で表記している部分は、実際の値、名称、文字列に置き換えられます。
- 多くのメッセージに付いている #0407 のような形式の 16 進数は、CF 理由コードです。各コードの意味は、"付録A CF 理由コードテーブル" を参照してください。

7.1 cfconfig コマンドメッセージ

cfconfig コマンドを実行すると、エラーが発生した場合に stderr にエラーメッセージが出力されます。

表示形式は以下のとおりです。

cfconfig: *メッセージ本文*

参照

cfconfig のコマンドオプションおよび関連機能については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞"を参照してください。"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" には、エラー以外のすべての関連コマンド出力のフォーマットについても記載されています。

7.1.1 使用方法メッセージ

以下の場合には使用方法が表示されます。

- 複数の cfconfig オプションが指定された場合 (各オプションは択一式)
- 指定された cfconfig オプションが無効な場合
- cfconfig オプションが未指定の場合
- "-h" オプションが指定されている場合

Usage:

cfconfig [-d|-G|-g|-h|-L|-l|-S *nodename clustername device* [*device* [...]] |-s *clustername device*

[*device* [...]]|-u]

-d delete configuration

-g get configuration

-G get configuration including address information

-h help

-L fast load (use configured devicelist)

-l load

-S set configuration (including nodename)

-s set configuration

-u unload

デバイスは、ネットワークデバイスか、/dev/ip[0-3] などの IP デバイスを使用することができます。デバイスの後ろには、IP アドレスおよびブロードキャストアドレスを指定します。

7.1.2 エラーメッセージ

cfconfig コマンドを実行してエラーが発生したときに出力されるメッセージを、コマンドに指定したオプション毎に説明します。

7.1.2.1 cfconfig -l

cfconfig: cannot load: #0423: generic: permission denied

内容

CF の起動でエラーが発生しました。本メッセージはシステム管理者権限のないユーザが CF を起動しようとした場合に出力されます。システムログファイルに以下の詳細エラーメッセージも出力されます。

```
OSDU_start: failed to open /dev/cf (EACCES)
```

対処

CF の起動、停止、および構成はシステム管理者権限で実行してください。

cfconfig: cannot load: #041f: generic: no such file or directory および cfconfig: check that configuration has been specified

内容

CF の起動でエラーが発生しました。通常、このエラーメッセージは CF 構成定義ファイル、/etc/default/cluster が見つからない場合に出力されます。システムログファイルに以下の詳細エラーメッセージも出力されます。

OSDU_getconfig: failed to open config file (*errno*)

OSDU_getconfig: failed to stat config file (*errno*)

対処

CF 構成定義ファイル、/etc/default/cluster を作成してください。

cfconfig: cannot load: #0405: generic: no such device/resource および cfconfig: check if configuration entries match node's device list

内容

CF の起動でエラーが発生しました。通常、このエラーメッセージはノードに設置されたハードウェア(ネットワークインタフェース)が CF 構成定義ファイルと不一致な場合に出力されます。

対処

ノードに設置されたハードウェア(ネットワークインタフェース)と、CF 構成定義ファイルの設定を一致させてください。

cfconfig: cannot load: #04*xx*: generic: *reason_text*

内容

CF の起動でエラーが発生しました。このエラーメッセージは CF クラスタ構成定義ファイルが破損している場合、またはファイルが存在しない場合などに出力されます。

対処

クラスタ構成情報を削除し、再指定してからコマンドを再試行してください。それでも同じエラーが発生する場合はシステムログファイルに以下の詳細エラーメッセージが出力されますので、そちらを確認してください。

OSDU_getconfig: corrupted config file

OSDU_getconfig: failed to open config file (*errno*)

OSDU_getconfig: failed to stat config file (*errno*)

OSDU_getconfig: read failed (*errno*)

また、本エラーメッセージは CF ドライバまたは他のカーネルコンポーネントに障害がある場合に出力されます。この場合、メッセージを記録して、調査情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。
システムログファイルに以下の詳細エラーメッセージも出力されます。

OSDU_getconfig: malloc failed

OSDU_getstatus: mconn status ioctl failed (*errno*)

OSDU_nodename: malloc failed

OSDU_nodename: uname failed (*errno*)

OSDU_start: failed to get configuration

OSDU_start: failed to get nodename

OSDU_start: failed to kick off join

OSDU_start: failed to open /dev/cf (*errno*)

OSDU_start: failed to open /dev/mconn (*errno*)

OSDU_start: failed to select devices

OSDU_start: failed to set clustername

OSDU_start: failed to set nodename

OSDU_start: icf_devices_init failed

OSDU_start: icf_devices_setup failed

OSDU_start: IOC_SOSD_DEVSELECTED ioctl failed

OSDU_start: netinit failed

CF のネットワークインタフェースのデバイスドライバが予期しない方法で DLPI メッセージに応答した場合、システムログに詳細メッセージが出力されますが、関連するコマンドエラーメッセージは出力されません。これらのメッセージは、適切なネットワークインタフェースがクラスタインタコネクトに構成されていないことを示す警告メッセージです。メッセージの内容を以下に示します。

dl_attach: DL_ACCESS error

dl_attach: DL_ATTACH_REQ putmsg failed (*errno*)

dl_attach: DL_BADPPA error

dl_attach: DL_OUTSTATE error

dl_attach: DL_SYSERR error

dl_attach: getmsg for DL_ATTACH response failed (*errno*)

dl_attach: unknown error

dl_attach: unknown error *hexvalue*

dl_bind: DL_ACCESS error

dl_bind: DL_BADADDR error

dl_bind: DL_BIND_REQ putmsg failed (*errno*)

dl_bind: DL_BOUND error

dl_bind: DL_INITFAILED error

dl_bind: DL_NOADDR error

dl_bind: DL_NOAUTO error

dl_bind: DL_NOTESTAUTO error

dl_bind: DL_NOTINIT error

dl_bind: DL_NOXIDAUTO error

dl_bind: DL_OUTSTATE error

dl_bind: DL_SYSERR error

dl_bind: DL_UNSUPPORTED error

dl_bind: getmsg for DL_BIND response failed (*errno*)

dl_bind: unknown error

dl_bind: unknown error *hexvalue*

dl_info: DL_INFO_REQ putmsg failed (*errno*)

dl_info: getmsg for DL_INFO_ACK failed (*errno*)

CF では、カーネルデバイスツリーをチェックしている間にデバイスまたはストリームが予期しない方法で応答する適格ネットワークインタフェースを検索することもできます。これによりシステムログに詳細メッセージが出力される場合がありますが、関連するコマンド

エラーメッセージは出力されません。これらのメッセージは、適切なネットワークインタフェースがクラスタインタコネクトに構成されていないことを示す警告メッセージです。メッセージの内容を以下に示します。

get_net_dev: cannot determine driver name of *nodename* device

get_net_dev: cannot determine instance number of *nodename* device

get_net_dev: device table overflow - ignoring /dev/*drivernameN*

get_net_dev: dl_attach failed: /dev/*drivernameN*

get_net_dev: dl_bind failed: /dev/*drivernameN*

get_net_dev: dl_info failed: /dev/*drivername*

get_net_dev: failed to open device: /dev/*drivername* (*errno*)

get_net_dev: not an ethernet device: /dev/*drivername*

get_net_dev: not DL_STYLE2 device: /dev/*drivername*

icf_devices_init: cannot determine instance number of *drivername* device

icf_devices_init: device table overflow - ignoring /dev/scin

icf_devices_init: di_init failed

icf_devices_init: di_prom_init failed

icf_devices_init: dl_bind failed: /dev/scin

icf_devices_init: failed to open device: /dev/scin (*errno*)

icf_devices_init: no devices found

icf_devices_select: *devname* device not found

icf_devices_select: fstat of mc1x device failed: /devices/pseudo/icf*n* - *devname*

(*errno*)

icf_devices_select: mc1_select_dev failed: /devices/pseudo/icf*n* - *devname* (*errno*)

icf_devices_select: open of mc1x device failed: /devices/pseudo/icf*n* - *devname*

(*errno*)

icf_devices_setup: calloc failed: *devname*

icf_devices_setup: failed to create mc1x dev: /devices/pseudo/icf*n* - *devname*

(*errno*)

icf_devices_setup: failed to open /dev/kstat (*errno*)

icf_devices_setup: failed to open mc1x device: /devices/pseudo/icf*n* - *devname*

(*errno*)

icf_devices_setup: failed to stat mc1x device: /dev/mc1x (*errno*)

icf_devices_setup: failed to stat mc1x device: /devices/pseudo/icf*n* - *devname*

(*errno*)

icf_devices_setup: I_LIST failed: *devname*

(*errno*) icf_devices_setup:I_LIST 0 failed:*devname* (*errno*)

icf_devices_setup: I_PLINK failed: /devices/pseudo/icf*n* - *devname* (*errno*)

icf_devices_setup: I_POP failed: *devname* (*errno*)

icf_devices_setup: I_PUSH failed: *devname* (*errno*)

icf_devices_setup: mc1_set_device_id failed: /devices/pseudo/icf*n* - *devname*

(*errno*)

icf_devices_setup: mc1x_get_device_info failed: /devices/pseudo/icf*n* - *devname*

(*errno*)

icf_devices_setup: mc1x device already linked: /devices/pseudo/icf*n* - *devname*

(*errno*)

icf_devices_setup: mc1x not a device

mc1_select_device: MC1_IOC_SEL_DEV ioctl failed (*errno*)

mc1_set_device_id: MC1_IOC_SET_ID ioctl failed (*errno*)

mc1x_get_device_info: MC1X_IOC_GET_INFO ioctl failed (*errno*)

7.1.2.2 cfconfig -u

cfconfig: cannot unload: #0406: generic: resource is busy および cfconfig: check if dependent service-layer module(s) active

内容

CF のシャットダウンでエラーが発生しました。このエラーメッセージは PRIMECLUSTER 階層型サービスの CF リソースが稼動中であるか、PRIMECLUSTER 階層型サービスに CF リソースの割当てが行われている場合に出力されます。

対処

RMS、SIS、OPS、CIP などを停止させてから CF をアンロードする必要があります。個々の製品の停止方法については、製品の README を参照してください。システムログファイルに以下の詳細エラーメッセージも出力されます。

OSDU_stop: failed to unload cf_drv

システムを再起動しているシャットダウンスクリプトが cfconfig コマンドを呼び出すという特別な場合には、以下のエラーメッセージがシステムログファイルに出力されます。

OSDU_stop: runlevel now *n*: sent EVENT_NODE_LEAVING_CLUSTER (#*xxxx*)

cfconfig: cannot unload: #0423: generic: permission denied

CF のシャットダウンでエラーが発生しました。通常、このエラーメッセージは権限のないユーザがCF を停止させようとした場合に出力されます。CF の起動、停止、および構成はシステム管理者権限で実行してください。システムログファイルに以下の詳細エラーメッセージも出力されます。

OSDU_stop: failed to open /dev/cf (EACCES)

cfconfig: cannot unload: #04*xx*: generic:*reason_text*

内容

このエラーメッセージは CF ドライバまたは他のカーネルコンポーネントに障害がある場合に出力されます。

対処

当社技術員(SE)に連絡してください。システムログファイルに以下の詳細エラーメッセージも出力されます。

mc1x_get_device_info: MC1X_IOC_GET_INFO ioctl failed (*errno*)

OSDU_stop: disable unload failed

OSDU_stop: enable unload failed

OSDU_stop: failed to open /dev/cf (*errno*)

OSDU_stop: failed to open mc1x device: /devices/pseudo/icf*n* (*errno*)

OSDU_stop: failed to unlink mc1x device: /devices/pseudo/icf*n* (*errno*)

OSDU_stop: failed to unload cf_drv

OSDU_stop: failed to unload mc1 module

OSDU_stop: failed to unload mc1x driver

OSDU_stop: mc1x_get_device_info failed: /devices/pseudo/icf*n*

7.1.2.3 cfconfig -s または cfconfig -S

cfconfig: specified nodename: bad length: #407: generic: invalid parameter

内容

このエラーメッセージは通常、nodename が長すぎることを表します。上限値は、31 文字です。

対処

nodename を 11 文字以内にしてください。

cfconfig: invalid nodename: #407: generic: invalid parameter

内容

このエラーメッセージは nodename に表示できない文字が 1つ以上含まれていることを示します。

対処

nodename には空白を含まない印刷可能な文字を使用してください。

cfconfig: node already configured: #0406: generic: resource is busy

内容

本メッセージは既存の CF 構成が存在する場合に出力されます。

対処

ノードの構成を変更するには、cfconfig -d で既存の構成をすべて削除しておく必要があります。また、CF の起動、停止、および構成はシステム管理者権限で実行してください。CF ドライバまたは他のカーネルコンポーネントに障害がある場合にもこのエラーメッセージが出力されることが稀にあります。本対処で問題が解決しない場合には、当社技術員(SE)に連絡してください。システムログファイルに以下の詳細エラーメッセージも出力されます。

OSDU_getconfig: corrupted config file

OSDU_getconfig: failed to open config file (*errno*)

```
OSDU_getconfig: failed to stat config file (errno)

OSDU_getconfig: malloc failed

OSDU_getconfig: read failed (errno)
```

cfconfig: too many devices specified: #0407: generic: invalid parameter

内容

コマンドラインで指定したデバイスの数が多すぎます。現在指定できるのは最大 255 個です。

対処

コマンドラインで指定するデバイスの数を 255 個以内にしてください。

cfconfig: clustername cannot be a device: #0407: generic: invalid parameter

内容

このエラーメッセージは -s の後の第 1 引数、"clustername" を省略して、クラスタインタコネクト用デバイスを指定した場合に出力されます。

対処

-s で、クラスタインタコネクト用デバイスを指定する場合、第 1 引数、"clustername" を省略しないでください。

cfconfig: invalid clustername: #0407: generic: invalid parameter

内容

第 1 引数の "clustername" に空白文字、もしくは印刷不能文字が含まれています。

対処

第 1 引数の "clustername" に空白文字、および印刷不能文字を含まない文字列を指定してください。

cfconfig: duplicate device names specified: #0407: generic: invalid parameter

内容

このエラーメッセージはコマンドラインに指定されたデバイス名が重複している場合に出力されます。これは通常入力ミスによるもので、デバイス名は一度しか送信できません。

対処

デバイス名は重複しないように指定してください。

cfconfig: device [device [...]]:#0405: generic: no such device/resource

内容

このエラーメッセージは指定されたデバイス名が CF 適格デバイスではない場合に出力されます。

cftool -d で表示されるデバイスのみが CF 適格デバイスです。

対処

引数には cftool -d で表示される CF 適格デバイスを指定してください。

cfconfig: cannot open mconn: #04*xx*: generic:*reason_text*

内容

CF デバイスのオープンに失敗しました。

対処

本メッセージが出力された場合には、メッセージを記録して、調査情報を採取してください。その後、当社技術員(SE)に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

---

cfconfig: cannot set configuration: #04*xx*: generic: *reason_text*

内容

このメッセージは cfconfig -s コマンドまたは cfconfig -S コマンドが同時実行された場合に出力されます。それ以外では、CF ドライバまたは他のカーネルコンポーネントに障害がある場合にのみ出力されます。

対処

当社技術員(SE)に連絡してください。システムログファイルに以下の詳細エラーメッセージも出力されます。

OSDU_setconfig: config file exists

OSDU_setconfig: failed to create config file (*errno*)

OSDU_setconfig: write failed (*errno*)

---

cfconfig: cannot get new configuration: #04*xx*: generic: *reason_text*

内容

このメッセージは保存されている構成の読込みを行うことができない場合に出力されます。この現象は cfconfig -s コマンドまたは cfconfig -S コマンドが同時実行された場合、またはディスクのハードウェアエラーが通知された場合に起こります。それ以外では、CF ドライバまたは他のカーネルコンポーネントに障害がある場合にのみ出力されます。

対処

当社技術員 (SE) に連絡してください。システムログファイルに以下の詳細エラーメッセージも出力されます。

OSDU_getconfig: corrupted config file

OSDU_getconfig: failed to open config file (*errno*)

OSDU_getconfig: failed to stat config file (*errno*)

OSDU_getconfig: malloc failed

OSDU_getconfig: read failed (*errno*)

---

cfconfig: cannot load: #04*xx*: generic: *reason_text*

内容

このエラーメッセージは CF 起動ルーチンのデバイス検出が失敗した場合に出力されます。(前述の cfconfig -l のエラーメッセージを参照してください)

対処

前述の cfconfig -l のエラーメッセージを参照してください。

7.1.2.4 cfconfig -g

---

cfconfig: cannot get configuration: #04*xx*: generic: *reason_text*

内容

このメッセージは CF 構成の読込みを行うことができない場合に出力されます。この現象は cfconfig コマンドが同時実行された場合、またはディスクのハードウェアエラーが通知された場合に起こります。それ以外では、CF ドライバまたは他のカーネルコンポーネントに障害がある場合にのみ出力されます。

対処

当社技術員 (SE) に連絡してください。システムログファイルに以下の詳細エラーメッセージも出力されます。

OSDU_getconfig: corrupted config file

OSDU_getconfig: failed to open config file (*errno*)

OSDU_getconfig: failed to stat config file (*errno*)

OSDU_getconfig: malloc failed

OSDU_getconfig: read failed (*errno*)

7.1.2.5 cfconfig -d

cfconfig: cannot get joinstate: #0407: generic: invalid parameter

内容

通常、このエラーメッセージは CF ドライバまたは他のカーネルコンポーネントに障害がある場合に出力されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cfconfig: cannot delete configuration: #0406: generic: resource is busy

内容

このエラーメッセージは CF が稼動中である場合 (CF リソースが稼動中であるか、CF リソースが割当てられている場合) に出力されます。稼動中のクラスタメンバになっている構成ノードは削除できない場合があります。

対処

cfconfig -u により CF を停止後、再度コマンドを実行してください。

cfconfig: cannot delete configuration: #04*xx*: generic: *reason_text*

内容

CF を起動、停止、および構成するには管理者権限が必要です。CF ドライバまたは他のカーネルコンポーネントに障害がある場合にもこのエラーメッセージが出力されます。

対処

当社技術員 (SE) に連絡してください。システムログファイルに以下の詳細エラーメッセージも出力されます。

OSDU_delconfig: failed to delete config file (*errno*)

7.2 cipconfig コマンドメッセージ

cipconfig コマンドを実行すると、エラーが発生した場合に stderr にエラーメッセージが出力されます。

表示形式は以下のとおりです。

cipconfig: *メッセージ本文*

参照

cipconfig のコマンドオプションおよび関連機能については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照してください。

"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" には、エラー以外のすべての関連コマンド出力のフォーマットについても記載されています。

7.2.1 使用方法メッセージ

以下の場合には使用方法が表示されます。

- 複数の cipconfig オプションが指定された場合 (各オプションは択一式)
- 指定された cipconfig オプションが無効な場合
- cipconfig オプションが未指定の場合
- "-h" オプションが指定されている場合

usage: cipconfig [-l|-u|-h]

-l start/load

-u stop/unload

-h help

7.2.2 エラーメッセージ

cipconfig コマンドを実行してエラーが発生したときに出力されるメッセージを、コマンドに指定したオプション毎に分けて説明します。

7.2.2.1 cipconfig -l

cipconfig: could not start CIP - detected a problem with CF. または cipconfig: cannot open mconn: #04*xx*: generic:*reason_text*

内容

CF からのノード状態情報の取得に失敗しました。もしくは、CF デバイスのオープンに失敗しました。

対処

本メッセージが出力された場合には、メッセージを記録して、調査情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cipconfig: cannot setup cip: #04*xx*: generic: *reason_text*

内容

CIP の起動でエラーが発生しました。構成定義ファイルに問題がある可能性があります。システムログファイルに以下の詳細エラーメッセージが出力されます。

OSDU_cip_start: cip kickoff failed (*errno*)

OSDU_cip_start: dl_attach failed: *devpathn*

OSDU_cip_start: dl_bind failed: *devpathn*

OSDU_cip_start: dl_info failed: *devpath*

OSDU_cip_start: failed to open device: /dev/cip (*errno*)

OSDU_cip_start: failed to open device: *devpath* (*errno*)

OSDU_cip_start: I_PLINK failed: *devpath* (*errno*)

OSDU_cip_start: POPing module failed: *errno*

OSDU_cip_start: ppa *n* is not valid: *devpath*

OSDU_cip_start: setup controller/speed failed: *devpath* (*errno*)

cip のネットワークインタフェースのデバイスドライバが予期しない方法で DLPI メッセージに応答した場合、以下の詳細メッセージが出力される場合があります。

dl_info: DL_INFO_REQ putmsg failed (*errno*)

dl_info: getmsg for DL_INFO_ACK failed (*errno*)

dl_attach: DL_ACCESS error

dl_attach: DL_ATTACH_REQ putmsg failed (*errno*)

dl_attach: DL_BADPPA error

dl_attach: DL_OUTSTATE error

dl_attach: DL_SYSERR error

dl_attach: getmsg for DL_ATTACH response failed (*errno*)

dl_attach: unknown error

dl_attach: unknown error *hexvalue*

dl_bind: DL_ACCESS error

dl_bind: DL_BADADDR error

dl_bind: DL_BIND_REQ putmsg failed (*errno*)

dl_bind: DL_BOUND error

dl_bind: DL_INITFAILED error

dl_bind: DL_NOADDR error

dl_bind: DL_NOAUTO error

dl_bind: DL_NOTESTAUTO error

dl_bind: DL_NOTINIT error

dl_bind: DL_NOXIDAUTO error

dl_bind: DL_OUTSTATE error

dl_bind: DL_SYSERR error

dl_bind: DL_UNSUPPORTED error

dl_bind: getmsg for DL_BIND response failed (*errno*)

dl_bind: unknown error

dl_bind: unknown error *hexvalue*

対処

正しく CIP を設定したにも関わらず、上記のメッセージが出力される場合は、当社技術員 (SE) に連絡してください。

7.2.2.2 cipconfig -u

cipconfig: cannot unload cip: #04*xx*: generic: *reason_text*

対処

CIP のシャットダウンでエラーが発生しました。これは通常、クラスタ上位サービスが CIP をオープンしている(使用している)ことを示します。

対処

オープンしているインタフェースを停止させてください。システムログファイルに以下の詳細エラーメッセージが出力されます。

OSDU_cip_stop: failed to unload cip driver

OSDU_cip_stop: failed to open device: /dev/cip (*errno*)

7.3 cftool コマンドメッセージ

cftool コマンドを実行すると、エラーが発生した場合に stderr にエラーメッセージが出力されます。

表示形式は以下のとおりです。

cftool: *メッセージ本文*

 参照

cftool のコマンドオプションおよび関連機能については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照してください。"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" には、エラー以外のすべての関連コマンド出力のフォーマットについても記載されています。

7.3.1 使用方法メッセージ

以下の場合には使用方法が表示されます。

- 複数の cftool オプションが指定された場合 (一部のオプションは択一式)
- 指定された cftool オプションが無効な場合
- cftool オプションが未指定の場合
- "-h" オプションが指定されている場合

usage: cftool [-c][-l][-n][-r][-d][-v][-p][-e][-i *nodename*][-A *cluster*][-T *timeout*]

[-F][-C *count*][-I *nodename*][-E *xx.xx.xx.xx.xx.xx*][-P][-m][-u][-k][-q][-h]

-c clustername

-l local nodeinfo

-n nodeinfo

-r routes

-d devinfo

-v version

-p ping

-e echo

-i icf stats for nodename

-m mac stats

-u clear all stats

-k set node status to down

-q quiet mode

-h help

-F flush ping queue. Be careful, please

-T timeout millisecond ping timeout

-I raw ping test by node name

-P raw ping

-A cluster ping all interfaces in one cluster

-E xx.xx.xx.xx.xx.xx raw ping by 48-bit physical address

-C count stop after sending count raw ping messages

デバイスは、ネットワークデバイスか、/dev/ip[0-3] などの IP デバイスを使用することができます。

デバイスの後ろには、IP アドレスおよびブロードキャストアドレスを指定します。

7.3.2 エラーメッセージ

cftool コマンドを実行してエラーが発生したときに出力されるメッセージを、コマンドに指定したオプション毎に分けて説明します。

7.3.2.1 全オプション共通

cftool: CF not yet initialized

内容

CF が初期化されていません。

対処

CF を起動後、コマンドを実行してください。

7.3.2.2 cftool -c

cftool: failed to get cluster name: #*xxxx*: service: *reason_text*

内容

CF からのクラスタ名の取得に失敗しました。

対処

本メッセージが出力された場合には、メッセージを記録して、調査情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.3.2.3 cftool -d

cftool: cannot open mconn: #04*xx*: generic: *reason_text*

内容

CF デバイスのオープンに失敗しました。

対処

本メッセージが出力された場合には、メッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.3.2.4 cftool -e

cftool: cannot open mconn: #04*xx*: generic: *reason_text*

内容

CF デバイスのオープンに失敗しました。

対処

本メッセージが出力された場合には、メッセージを記録して、調査情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.3.2.5 cftool -i nodename

---

cftool: *nodename*: No such node
cftool: cannot get node details: #*xxxx*: service:*reason_text*

内容

これらのメッセージは指定されたノード名が現在稼動中のクラスタノードでないことを示します。

対処

引数に現在稼動中のクラスタノードを指定してください。

---

cftool: cannot open mconn: #04*xx*: generic: *reason_text*

内容

CF デバイスのオープンに失敗しました。

対処

本メッセージが出力された場合には、メッセージを記録して、調査情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.3.2.6 cftool -k

---

cftool(down): illegal node number

内容

このメッセージは指定されたノード番号が数値でないか、有効範囲外 (1 ～ 64 以外) であることを示します。

対処

ノード番号には、有効範囲外 (1 ～ 64 以外) の数値を指定してください。

---

cftool(down): not executing on active cluster node

内容

このメッセージは稼動していないクラスタノードまたは指定された LEFTCLUSTER ノード上でコマンドを実行した場合に出力されます。

対処

稼動中のクラスタノードにおいてコマンドを実行してください。

---

cftool(down): cannot declare node down: #0426: generic: invalid node name
cftool(down): cannot declare node down: #0427: generic: invalid node number
cftool(down): cannot declare node down: #0428: generic: node is not in LEFTCLUSTER state

内容

指定された情報が LEFTCLUSTER 状態のクラスタノードと不一致な場合に上記のいずれかのメッセージが出力されます。

対処

LEFTCLUSTER 状態のクラスタノードの情報を正しく指定してください。

cftool(down): cannot declare node down: #*xxxx*: service:*reason_text*

内容

内部エラーにより指定されたクラスタノードの DOWN 宣言に失敗しました。

対処

このエラーメッセージは CF ドライバまたは他のカーネルコンポーネントに障害がある場合にのみ出力されます。
本メッセージが出力された場合には、メッセージを記録して、調査情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.3.2.7 cftool -l

cftool: cannot get nodename: #04*xx*: generic: *reason_text*
cftool: cannot get the state of the local node: #04*xx*: generic:*reason_text*

内容

CF からのノード名の取得に失敗しました。もしくは、CF からの JOIN 状態の取得に失敗しました。

対処

本メッセージが出力された場合には、メッセージを記録して、調査情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.3.2.8 cftool -m

cftool: cannot open mconn: #04*xx*: generic: *reason_text*
cftool: cannot get icf mac statistics: #04*xx*: generic: *reason_text*

内容

CF デバイスのオープンに失敗しました。もしくは、CF からの MAC 統計情報の取得に失敗しました。

対処

本メッセージが出力された場合には、メッセージを記録して、調査情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.3.2.9 cftool -n

cftool: cannot get node id: #*xxxx*: service: *reason_text*
cftool: cannot get node details: #*xxxx*: service:*reason_text*

内容

CF からのノード ID の取得に失敗しました。もしくは、CF からのノード情報の取得に失敗しました。

対処

本メッセージが出力された場合には、メッセージを記録して、調査情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.3.2.10 cftool -p

cftool: cannot open mconn: #04*xx*: generic: *reason_text*

内容

CF デバイスのオープンに失敗しました。

対処

本メッセージが出力された場合には、メッセージを記録して、調査情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.3.2.11 cftool -r

cftool: cannot get node details: #*xxxx*: service: *reason_text*

内容

CF からのノード情報の取得に失敗しました。

対処

本メッセージが出力された場合には、メッセージを記録して、調査情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.3.2.12 cftool -u

cftool: cannot open mconn: #04*xx*: generic: *reason_text*
cftool: clear icf statistics: #04*xx*: generic:*reason_text*

内容

CF デバイスのオープンに失敗しました。もしくは、CF の ICF 統計情報のクリアに失敗しました。

対処

本メッセージが出力された場合には、メッセージを記録して、調査情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.3.2.13 cftool -v

cftool: cannot open mconn: #04*xx*: generic:*reason_text*
cftool: unexpected error retrieving version: #04*xx*: generic: *reason_text*

内容

CF デバイスのオープンに失敗しました。もしくは、CF からのバージョン情報の取得に失敗しました。

対処

本メッセージが出力された場合には、メッセージを記録して、調査情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.4 rcqconfig コマンドメッセージ

rcqconfig コマンドを実行すると、エラーが発生した場合にエラーメッセージが標準エラーに出力されます。
cfconfig -l 実行中の詳細エラーメッセージは、システムログにのみに記録され、標準出力または標準エラー出力には現れません。

表示形式は以下のとおりです。

rcqconfig: *メッセージ本文*

 参照

rcqconfig のコマンドオプションおよび関連機能については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照してください。

7.4.1 使用方法メッセージ

以下の場合には使用方法が表示されます。

- 複数の rcqconfig オプションが指定された場合 (一部のオプションは択一式)
- 指定された rcqconfig オプションが無効な場合
- "-h" オプションが指定されている場合

usage: rcqconfig [-g | -h] or

rcqconfig -s or

rcqconfig [-v] [-c]

[-a Add-node-1 ...Add-node-n]

[-x Ignore-node-1 ...Ignore-node-n]

[-d Delete-node-1 ...Delete-node-n]

[-m quorum-method-1 ... quorum-method-n]

7.4.2 エラーメッセージ

rcqconfig コマンドを実行してエラーが発生したときに出力されるメッセージを、コマンドに指定したオプション毎に分けて説明します。

7.4.2.1 全オプション共通

rcqconfig -a node-1 node-2 . . . . node-n -g and -a cannot exist together.

内容

-g オプションと -a オプションは、同時に指定できません。

対処

"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照し、正しい構文定義で指定してください。

Nodename is not valid nodename.

内容

このエラーメッセージは、ノード名が指定されていないか 31 バイトより大きいことを示しています。

対処

"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照し、正しい構文定義で指定してください。

rcqconfig : failed to start

内容

rcqconfig の起動に失敗した場合に出力されます。

対処

このメッセージと同時に出力される理由を示すメッセージを参照してください。

rcqconfig failed to configure qsm since quorum node set is empty.

内容

クラスタ整合状態 (クォーラム) のマシン (qsm) は、クォーラムノードセットに指定されたクラスタノードの状態を修正するカーネルモジュールです。このエラーメッセージは、通常、クォーラムの設定が存在しないことを示しています。

対処

クォーラムノードを構成する構文については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照してください。

cfreg_start_transaction:`#2813: cfreg daemon not present`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、そのノード上で同期デーモンが動作していないことを示しています。エラーの原因は、cfreg デーモンの停止であることが考えられます。システムログまたはコンソール内のそれ以前のメッセージに、デーモン停止の原因が示されます。

対処

cfregd -r を使用してデーモンを再起動してください。再度デーモンが停止した場合は、その際に表示されるエラーメッセージにより問題が判別できます。原因として、最も考えられるのはレジストリデータの損傷です。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cfreg_start_transaction:`#2815: registry is busy`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、デーモンが同期状態にないか、トランザクションが別のアプリケーションによって開始されていることを示しています。エラーの原因は、レジストリの状態に整合性がないためです。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cfreg_start_transaction:`#2810: an active transaction exists`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、アプリケーションがすでにトランザクションを開始していることを示しています。クラスタが安定した状態にある場合は、複数のノードから同時に異なった変更がなされたことが原因でこのエラーメッセージが出力されます。このため、コミットにはより長い時間がかかります。

対処

コマンドを再度実行してください。問題が再度発生する場合は、クラスタが安定した状態にない恐れがあります。問題点は、ログファイルのエラーメッセージで示されます。この場合は、cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Too many nodename are defined for quorum. Max node = 64

内容

クォーラムを構成するノードとして指定した数が 64 を超えている場合に出力されます。

対処

クォーラムを構成するノードは、64 以内で指定してください。

cfreg_get:`#2809: specified transaction invalid`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、指定されたデータをレジストリから獲得するために提供された情報が無効であることを示しています (例えば、制限時間経過や同期デーモンの停止等により、トランザクションが中止された場合)。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cfreg_get:`#2819: data or key buffer too small`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、指定されたデータバッファのサイズが、エントリの全データを格納するには小さすぎることを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Cannot add node node that is not up.

内容

このエラーメッセージは、通常、NSM ノード空間において UP の状態にないノードをユーザが追加しようとしたことを示しています。

対処

停止しているノードを起動するか、クォーラムを構成するリストからそのノードを削除します。

Cannot proceed. Quorum node set is empty.

内容

オプションにノードが指定されていない、または、構成されたノードが存在しない場合に出力されます。
rcqconfig の起動に失敗すると、このエラーメッセージが標準エラーに出力されます。

対処

オプションにノードを指定してください。または、ノードを含むクォーラムを構成後にコマンドを実行してください。

cfreg_put:`#2809: specified transaction invalid`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、指定されたデータをレジストリから獲得するために提供された情報が無効であることを示しています (例えば、制限時間経過や同期デーモンの停止等により、トランザクションが中止された場合)。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

cfreg_put:`#2820: registry entry data too large`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、指定されたサイズのデータが 28K よりも大きいことを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.4.2.2 rcqconfig -s

stopping quorum space methods `#0408: unsuccessful`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、メソッドが指定されていないことを示しています。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.4.2.3 rcqconfig -x ignore_node-1 .... ignore_node-n

-g and -x cannot exist together.

内容

このエラーメッセージは、get configuration オプション (-g) が、このオプション (-x) とともに指定できないことを示しています。

対処

"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照し、正しい構文定義で指定してください。

Nodename is not valid nodename.

内容

このエラーメッセージは、ノード名が指定されていないか 31 バイトより大きいことを示しています。

対処

"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照し、正しい構文定義で指定してください。

rcqconfig : failed to start

内容

rcqconfig の起動に失敗した場合に出力されます。

対処

このメッセージと同時に出力される理由を示すメッセージを参照してください。

cfreg_start_transaction:`#2813: cfreg daemon not present`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、そのノード上で同期デーモンが動作していないことを示しています。このエラーの原因は、cfreg デーモンの停止であることが考えられます。システムログまたはコンソール内のそれ以前のメッセージに、デーモン停止の原因が示されます。

対処

cfregd -r を使用してデーモンを再起動してください。再度デーモンが停止した場合は、その際に表示されるエラーメッセージにより問題が判別できます。原因として、最も考えられるのはレジストリデータの損傷です。
問題が解決しない場合は、メッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cfreg_start_transaction:`#2815: registry is busy`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、デーモンが同期状態にないか、トランザクションが別のアプリケーションによって開始されていることを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、メッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

---

cfreg_start_transaction:`#2810: an active transaction exists`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、アプリケーションがすでにトランザクションを開始していることを示しています。クラスタが安定した状態にある場合は、複数のノードから同時に異なった変更がなされたことが原因でこのエラーメッセージが出力されます。このため、コミットにはより長い時間がかかります。

対処

コマンドを再度実行してください。問題が再度発生する場合は、クラスタが安定した状態にない恐れがあります。問題点は、ログファイルのエラーメッセージで示されます。この場合は、cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、メッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Too many ignore node names are defined for quorum.Max node = 64

内容

指定したignore_node の数が 64 を超えている場合に出力されます。

対処

ignore_node の数は、64 以下で指定してください。

---

cfreg_get:`#2809: specified transaction invalid`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、指定されたデータをレジストリから獲得するために提供された情報が無効であることを示しています (例えば、制限時間経過や同期デーモンの停止等により、トランザクションが中止された場合)。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、メッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

---

cfreg_get:`#2804: entry with specified key does not exist`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、指定されたエントリが存在しないことを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

---

cfreg_get:`#2819: data or key buffer too small`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、指定されたデータバッファのサイズが、エントリの全データを格納するには小さすぎることを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Can not add node node that is not up.

内容

このエラーメッセージは、通常、NSM ノード空間において UP の状態にないノードをユーザが追加しようとしたことを示しています。

対処

停止しているノードを起動するか、クォーラムを構成するリストからそのノードを削除します。

Can not proceed. Quorum node set is empty.

内容

オプションにノードが指定されていない、または、構成されたノードが存在しない場合に出力されます。

対処

オプションにノードを指定してください。または、ノードを含むクォーラムを構成後にコマンドを実行してください。

---

cfreg_put:`#2809: specified transaction invalid`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、指定されたデータをレジストリから獲得するために提供された情報が無効であることを示しています (例えば、制限時間経過や同期デーモンの停止等により、トランザクションが中止された場合)。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

---

cfreg_put:`#2820: registry entry data too large`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、他のサブシステムで使用されるイベント情報 (カーネルに送られる情報) が 32K より大きいことを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

---

cfreg_put:`#2807: data file format is corrupted`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、レジストリのデータファイルフォーマットが損傷していることを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cms_post_event: `#0c01: event information is too large`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、他のサブシステムで使用されるイベント情報 (カーネルに送られる情報) が 32K より大きいことを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.4.2.4 rcqconfig -m method_name-1 .... method_name -n

-g and -m cannot exist together.

内容

このエラーメッセージは、get configuration オプション (-g) がこのオプション (-m) とともに指定できないことを示しています。

対処

"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照し、正しい構文定義で指定してください。

Methodname is not valid method name.

内容

このエラーメッセージは、ノード名が指定されていないか 31 バイトより大きいことを示しています。

対処

"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照し、正しい構文定義で指定してください。

rcqconfig : failed to start

内容

rcqconfig の起動に失敗した場合に出力されます。

対処

このメッセージと同時に出力される理由を示すメッセージを参照してください。

cfreg_start_transaction:`#2813: cfreg daemon not present`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、そのノード上で同期デーモンが動作していないことを示しています。このエラーの原因は、cfreg デーモンの停止であることが考えられます。システムログまたはコンソール内のそれ以前のメッセージに、デーモン停止の原因が示されます。

対処

cfregd -r を使用してデーモンを再起動してください。再度デーモンが停止した場合は、その際に表示されるエラーメッセージにより問題が判別できます。原因として、最も考えられるのはレジストリデータの損傷です。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cfreg_start_transaction:`#2815: registry is busy`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、デーモンが同期状態にないか、トランザクションが別のアプリケーションによって開始されていることを示しています。このエラーの原因は、レジストリの状態に整合性がないためです。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cfreg_start_transaction:`#2810: an active transaction exists`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、アプリケーションがすでにトランザクションを開始していることを示しています。クラスタが安定した状態にある場合は、複数のノードから同時に異なった変更がなされたことが原因でこのエラーメッセージが出力されます。このため、コミットにはより長い時間がかかります。

対処

コマンドを再度実行してください。問題が再度発生する場合は、クラスタが安定した状態にない恐れがあります。cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

Too many method names are defined for quorum. Max method = 8

内容

指定されたメソッドの数が上限値の 8 を超えている場合に出力されます。

対処

メソッドの数は、8 以下で指定してください。

cfreg_get:`#2809: specified transaction invalid`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、指定されたデータをレジストリから獲得するために提供された情報が無効であることを示しています (例えば、制限時間経過や同期デーモンの停止等により、トランザクションが中止された場合)。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cfreg_get:`#2804: entry with specified key does not exist`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、指定されたエントリが存在しないことを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

cfreg_get:`#2819: data or key buffer too small`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、指定されたデータバッファのサイズが、エントリの全データを格納するには小さすぎることを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cfreg_put:`#2809: specified transaction invalid`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、指定されたデータをレジストリから獲得するために提供された情報が無効であることを示しています (例えば、制限時間経過や同期デーモンの停止等により、トランザクションが中止された場合)。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cfreg_put:`#2820: registry entry data too large`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、他のサブシステムで使用されるイベント情報 (カーネルに送られる情報) が 32K より大きいことを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cfreg_put:`#2807: data file format is corrupted`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、レジストリのデータファイルフォーマットが損傷していることを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cms_post_event: `#0c01: event information is too large`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、他のサブシステムで使用されるイベント情報 (カーネルに送られる情報) が 32K より大きいことを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

7.4.2.5 rcqconfig -d node-1 node-2 .... node-n

-g and -d cannot exist together.

内容

このエラーメッセージは、通常、get configuration オプション (-g) がこのオプション (-d) とともに指定できないことを示しています。

対処

"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照し、正しい構文定義で指定してください。

Nodename is not valid nodename.

内容

このエラーメッセージは、ノード名が指定されていないか 31 バイトより大きいことを示しています。

対処

"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞" を参照し、正しい構文定義で指定してください。

rcqconfig : failed to start

内容

rcqconfig の起動に失敗した場合に出力されます。

対処

このメッセージと同時に出力される理由を示すメッセージを参照してください。

cfreg_start_transaction:`#2813: cfreg daemon not present`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、そのノード上で同期デーモンが動作していないことを示しています。このエラーの原因は、cfreg デーモンの停止であることが考えられます。システムログまたはコンソール内のそれ以前のメッセージに、デーモン停止の原因が示されます。

対処

cfregd -r を使用してデーモンを再起動してください。再度デーモンが停止した場合は、その際に表示されるエラーメッセージにより問題が判別できます。原因として、最も考えられるのはレジストリデータの損傷です。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

cfreg_start_transaction:`#2815: registry is busy`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、デーモンが同期状態にないか、トランザクションが別のアプリケーションによって開始されていることを示しています。このエラーの原因は、レジストリの状態に整合性がないためです。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

cfreg_start_transaction:`#2810: an active transaction exists`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、アプリケーションがすでにトランザクションを開始していることを示しています。クラスタが安定した状態にある場合は、複数のノードから同時に異なった変更がなされたことが原因でこのエラーメッセージが出力されます。このため、コミットにはより長い時間がかかります。

対処

コマンドを再度実行してください。問題が再度発生する場合は、クラスタが安定した状態にない恐れがあります。cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

Too many nodename are defined for quorum. Max node = 64

内容

クォーラムを構成するノードとして指定した数が上限値 64 を超えている場合に出力されます。

対処

クォーラムを構成するノードは、64 以下で指定してください。

cfreg_get:`#2809: specified transaction invalid`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、指定されたデータをレジストリから獲得するために提供された情報が無効であることを示しています (例えば、制限時間経過や同期デーモンの停止等により、トランザクションが中止された場合)。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

cfreg_get:`#2804: entry with specified key does not exist`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、指定されたエントリが存在しないことを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>"を参照してください。

cfreg_get:`#2819: data or key buffer too small`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、指定されたデータバッファのサイズが、エントリの全データを格納するには小さすぎることを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

cfreg_put:`#2809: specified transaction invalid`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、指定されたデータをレジストリから獲得するために提供された情報が無効であることを示しています (例えば、制限時間経過や同期デーモンの停止等により、トランザクションが中止された場合)。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

cfreg_put:`#2820: registry entry data too large`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、指定されたサイズのデータが 28K よりも大きいことを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

cfreg_put:`#2807: data file format is corrupted`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、レジストリのデータファイルフォーマットが損傷していることを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

cms_post_event: `#0c01: event information is too large`

内容

rcqconfig コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、他のサブシステムで使用されるイベント情報 (カーネルに送られる情報) が 32K より大きいことを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.5 rcqquery コマンドメッセージ

rcqquery コマンドを実行すると、エラーが発生した場合に stderr にエラーメッセージが出力されます。さらに詳細な情報を取得するには、libcf ライブラリの補助ルーチンを使用します。ただし、詳細メッセージの出力先はシステムログファイルに限られ、標準出力や標準エラー出力には出力されません。

表示形式は以下のとおりです。

rcqquery: *メッセージ本文*

参照

rcqquery のコマンドオプションおよび関連機能については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜コマンドリファレンス編＞"を参照してください。

7.5.1 使用方法メッセージ

以下の場合には使用方法が表示されます。

- 指定された rcqquery オプションが無効な場合
- "-h" オプションが指定されている場合

Usage: rcqquery [-v] [-l] [-h]

-v verbose

-l loop

-h help

7.5.2 エラーメッセージ

rcqquery コマンドを実行してエラーが発生したときに出力されるメッセージを、コマンドに指定したオプション毎に分けて説明します。

7.5.2.1 rcqquery -v -l

failed to register user event `# 0c0b: user level ENS event memory limit overflow`

内容

rcqquery コマンド実行時にエラーが発生しました。このエラーメッセージは、通常、割り当てられたメモリの総容量または、オープンごとの使用に割り当てられたメモリの容量が上限値を超えていることを示しています。

対処

cfconfig -u を使ってクラスタをアンロードし、cfconfig -l で再ロードしてください。

問題が解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.6 panicinfo_setup コマンドメッセージ（Linux）

panicinfo_setup コマンドを実行したときに出力されるメッセージについて説明します。コマンドが何らかの原因で失敗した場合、その原因に応じてメッセージが stderr に出力されます。
表示形式は以下のとおりです。

重要度 : *メッセージ本文*

メッセージに出力される重要度を確認し、以下の表から該当箇所を参照してください。

重要度	意味
警告(WARNING)	"7.6.1 警告（WARNING）メッセージ"
エラー (ERROR)	"7.6.2 エラー（ERROR）メッセージ"

7.6.1 警告（WARNING）メッセージ

シャットダウン機構の設定時の警告（WARNING）メッセージについて説明します。

WARNING: /etc/panicinfo.conf file already exists.
(I)nitialize, (C)opy or (Q)uit (I/C/Q) ?

内容

すでに panicinfo 定義ファイルが存在します。

対処

panicinfo 定義ファイルを初期化する場合は "I" を、コマンド実行ノードの panicinfo 定義ファイルを変更せずに配布する場合は "C" を、コマンドを終了する場合は "Q" を入力してください。

7.6.2 エラー(ERROR)メッセージ

シャットダウン機構の設定時のエラー(ERROR)メッセージを、アルファベット順に説明します。

ERROR: <*command*> failed

内容

コマンド <*command*> の実行に失敗しました。

対処

コマンド実行ノードでコマンド <*command*> が正常に実行できることをコマンドの復帰値により確認してください。確認後、再度コマンドを実行してください。

ERROR: <*command*> failed on <*node*>

内容

ノード <*node*> でのコマンド <*command*> の実行に失敗しました。

対処

ノード <*node*> でコマンド <*command*> が正常に実行できることをコマンドの復帰値により確認してください。確認後、再度コマンドを実行してください。

ERROR: <*command*> timeout

内容

コマンド <*command*> の実行がタイムアウトしました。

対処

コマンド実行ノードでコマンド <*command*> が正常に実行できることをコマンドの復帰値により確認してください。確認後、再度コマンドを実行してください。

ERROR: failed to distribute index file to <*node*>

内容

ノード <*node*> へのインデックスファイルの配布に失敗しました。

対処

"PRIMECLUSTER 導入運用手引書" の "CF、CIPの設定" を参照して、CFSH,CFCP の設定が行われているか確認をしてください。上記設定が行われていない場合、設定を行ってください。

上記設定が行われている場合、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR: failed to distribute /etc/panicinfo.conf file to <*node*>

内容

ノード<*node*>への panicinfo 定義ファイルの配布に失敗しました。

対処

"PRIMECLUSTER 導入運用手引書 " の "CF、CIP の設定" を参照して、CFSH,CFCP の設定が行われているか確認をしてください。上記設定が行われていない場合、設定を行ってください。

上記設定が行われている場合、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞"を参照してください。

ERROR: /etc/sysconfig/netdump is invalid on <*node*>
ERROR: Cannot find the Netdump client's IP address for <*device*> on <*node*>

内容

ノード <*node*> での Netdump クライアント設定の読込みに失敗しました。

対処

Netdump が正常に設定されていることを確認してください。

ERROR: failed to change mode of index file on <*node*>

内容

ノード <*node*> でのインデックスファイルのモード変更に失敗しました。

対処

ノード <*node*> で /etc/opt/FJSVcllkcd/etc/SA_lkcd.idx ファイルに対する chmod コマンドが正常に実行されることを確認後、再度コマンドを実行してください。

コマンドが正常に実行されなかった場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR: failed to patch rcsd.cfg on <*node*>

内容

ノード <*node*> での rcsd.cfg 更新作業に失敗しました。

対処

ノード <*node*> で /etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg ファイルが存在すること、内容が適切であることを確認し、再度コマンドを実行してください。

ERROR: failed to change owner of index and rcsd.cfg file on <*node*>

内容

ノード <*node*> での所有者の変更に失敗しました。

対処

ノード <*node*> で /etc/opt/FJSVcllkcd/etc/SA_lkcd.idx ファイル、および /etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg ファイルに対する chown コマンドが実行できることを確認し、再度コマンドを実行してください。

コマンドが正常に実行されなかった場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR: failed to change group of index and rcsd.cfg file on <*node*>

内容

ノード <*node*> での所有グループの変更に失敗しました。

対処

ノード <*node*> で /etc/opt/FJSVcllkcd/etc/SA_lkcd.idx ファイル、および/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg ファイルに対する chgrp コマンドが実行できることを確認し、再度コマンドを実行してください。

コマンドが正常に実行されなかった場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR: failed to change mode of /etc/panicinfo.conf file on <*node*>

内容

ノード <*node*> での panicinfo 定義ファイルのモード変更に失敗しました。

対処

ノード <*node*> で /etc/panicinfo.conf ファイルに対する chmod コマンドが正常に実行されることを確認後、再度コマンドを実行してください。

コマンドが正常に実行されなかった場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR: failed to change owner of /etc/panicinfo.conf file on <*node*>

内容

ノード <*node*> での所有者の変更に失敗しました。

対処

ノード <*node*> で /etc/panicinfo.conf ファイルに対する chmod コマンドが正常に実行されることを確認後、再度コマンドを実行してください。

コマンドが正常に実行されなかった場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR: failed to change group of /etc/panicinfo.conf file on <*node*>

内容

ノード <*node*> での所有グループの変更に失敗しました。

対処

ノード <*node*> で /etc/panicinfo.conf ファイルに対する chgrp コマンドが正常に実行されることを確認後、再度コマンドを実行してください。

コマンドが正常に実行されなかった場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR: internal error, ...

内容

内部エラー。

対処

このメッセージを記録して、調査情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

ERROR: Reading the Shutdown Agent configuration failed.

内容

SA の設定の読み込みに失敗しました。SA の設定を間違えている場合があります。

対処

Shutdown Agent の設定を確認後、再度コマンドを実行してください。

ERROR: Reading the Shutdown Facility configuration failed.

内容

SF の設定の読み込みに失敗しました。SF の設定を間違えている場合があります。

対処

SF の設定を確認後、再度コマンドを実行してください。

ERROR: The Blade Shutdown Agent configuration cannot be found.

内容

Blade Shutdown Agent の設定ファイルがありません。Blade Shutdown Agent の設定が終了していない場合が考えられます。

対処

Blade Shutdown Agent の設定が終了していることを確認後、再度コマンドを実行してください。

ERROR: The IPMI Shutdown Agent configuration cannot be found.

内容

IPMI Shutdown Agent の設定ファイルがありません。Blade Shutdown Agent の設定が終了していない場合が考えられます。

対処

IPMI Shutdown Agent の設定が終了していることを確認後、再度コマンドを実行してください。

ERROR: The IPMI Shutdown Agent configuration is different between nodes.

内容

IPMI Shutdown Agent の構成定義ファイル(SA_ipmi.cfg)がノード間で異なっています。

対処

全ノードで /etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA_ipmi.cfg の内容を一致させてください。

全ノードで /etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA_ipmi.cfg の内容を一致させた後、再度コマンドを実行してください。

ERROR: The iRMC IP address of <*node*> is not set correctly in IPMI Shutdown Agent configuration. (iRMC IP address of <*node*> : <*ip-address*>)

内容

IPMI Shutdown Agent の構成定義ファイル(SA_ipmi.cfg)に設定されているノード <*node*> の iRMC の IPアドレスに誤りがあります。
(ノード<*node*> の iRMC の IPアドレス : <*ip-address*>)

対処

全ノードの /etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA_ipmi.cfg に設定されているノード<*node*> に対する iRMC の IPアドレスを正しい値に修正してください。

iRMC の IPアドレスを正しい値に修正後、再度コマンドを実行してください。

ERROR: The RSB Shutdown Agent configuration cannot be found.

内容

RSB Shutdown Agent の設定ファイルがありません。RSB Shutdown Agent の設定が終了していない場合が考えられます。

対処

RSB Shutdown Agent の設定が終了していることを確認後、再度コマンドを実行してください。

ERROR: The Shutdown Facility configuration cannot be found.

内容

SF の設定ファイルがありません。SF の設定が終了していない場合が考えられます。

対処

SF の設定が終了していることを確認後、再度コマンドを実行してください。

ERROR: <*ファイル名*> generation failed.

内容

<*ファイル名*> の作成に失敗しました。

対処

<*ファイル名*> が作成できる状態であることを確認後、再度コマンドを実行してください。

7.7 cfbackup コマンドメッセージ

cfbackup コマンドを実行したときに出力されるメッセージについて説明します。

コマンド実行時に出力されるメッセージは、その種類によって以下に記録されます。

- エラーメッセージ → 標準エラー出力 (stderr)
- 警告メッセージ → ログファイル出力

表示形式は以下のとおりです。

日付 時刻 コマンド名 メッセージ本文

各コマンドの標準エラー出力(エラーメッセージ)とログファイル出力(警告メッセージ)は、以下を参照してください。

コマンド名	参照先
エラーメッセージ	"7.7.1 標準エラー出力"
警告メッセージ	"7.7.2 ログファイル出力"

すべてのメッセージは日付と時刻で始まり、メッセージの種類によっては、その後に文字列「WARNING:」が続きます。その後にコマンド名、およびエラーテキストの本文が続きます。

7.7.1 標準エラー出力

cfbackup コマンド実行時の標準エラー出力メッセージを、アルファベット順に説明します。

---

date time cfbackup: invalid option specified

内容

cfbackup コマンドに無効な引数が使用されています。

対処

コマンドの構文を正しく指定してください。コマンドの構文は次のとおりです。

```
cfbackup  [-test] [-f][n]
```

---

date time cfbackup: cmd must be run as root

内容

システム管理者権限で実行する必要があります。

対処

システム管理者権限で実行してください。

date time cfbackup: ccbr files & directories must be accessible

内容

CCBR 基本ファイル (/opt/SMAW/ccbr ディレクトリ、/opt/SMAW/ccbr/plugins ディレクトリ、および /opt/SMAW/ccbr/ccbr.conf ファイル) のいずれかにアクセスできません。

対処

上記の各 CCBR 基本ファイルにアクセスできることを確認してください。

7.7.2 ログファイル出力

cfbackup コマンド実行時のログファイル出力メッセージを、アルファベット順に説明します。

date time WARNING: cfbackup: specified generation *n* too small - using *p*

内容

/opt/SMAW/ccbr/ccbr.gen の値より小さな世代番号が cfbackup コマンドに指定されました。
/opt/SMAW/ccbr/ccbr.gen の値が使用されます。

対処

対処する必要はありません。

date time cfbackup [FORCE] *n* [(TEST)] log started

内容

このメッセージは、cfbackup の処理が開始したことを示します。

対処

対処する必要はありません。

date time nodename not an active cluster node

内容

これは応答不要メッセージです。指定されたノードがアクティブな PRIMECLUSTER ノードでないことを示しています。

対処

対処する必要はありません。

date time no runnable plug-ins! cmd aborted.

内容

cfbackup コマンドは、/opt/SMAW/ccbr/plugins ディレクトリで実行可能なスクリプトを発見できませんでした。

対処

システムに PRIMECLUSTER のパッケージが適切にインストールされていない可能性があります。インストール時にエラーが発生していないことを確認してください。

適切にインストールされている場合には、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取します。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

date time cfbackup n ended unsuccessfully

内容

このメッセージは、cfbackupコマンドがエラーコード2または3で終了したことを示します。

対処

このメッセージと同時に出力される理由を示すメッセージを参照してください。

date time validation failed in pluginname

内容

このエラーメッセージは、プラグインモジュールの検証ルーチンが、cfbackupコマンドにエラーコード2または3を返したことを示します。

対処

/opt/SMAW/ccbr/ccbr.confに定義されているCCBRHOMEディレクトリ配下のファイルを採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。

date time backup failed in pluginname

内容

このエラーメッセージは、プラグインモジュールのバックアップルーチンが、cfbackupコマンドにエラーコード2または3を返したことを示します。

対処

/opt/SMAW/ccbr/ccbr.confに定義されているCCBRHOMEディレクトリ配下のファイルを採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。

date time archive file creation failed

内容

このエラーメッセージはcfbackupコマンドがバックアップツリーからアーカイブファイルの作成に失敗したことを示しています。

対処

/opt/SMAW/ccbr/ccbr.confに定義されているCCBRHOMEディレクトリ配下のファイルを採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。

date time archive file compression failed

内容

このエラーメッセージはcfbackupコマンドが圧縮アーカイブファイルの作成(compress)に失敗したことを示しています。

対処

/opt/SMAW/ccbr/ccbr.confに定義されているCCBRHOMEディレクトリ配下のファイルを採取し、当社技術員(SE)に連絡してください。

date time cfbackup n ended

内容

このエラーメッセージはcfbackupコマンドがすべての処理を完了したことを示しています。処理の間に返されたリターンコードのうち、最も値が高いものがリターン/エラーコードの値として使用されます。

対処

対処する必要はありません。

7.8 cfrestore コマンドメッセージ

cfrestore コマンドを実行したときに出力されるメッセージについて説明します。

コマンド実行時に出力されるメッセージは、その種類によって以下に記録されます。

- エラーメッセージ → 標準エラー出力 (stderr)
- 警告メッセージ → ログファイル出力

表示形式は以下のとおりです。

日付 時刻 コマンド名 メッセージ本文

各コマンドの標準エラー出力(エラーメッセージ)とログファイル出力(警告メッセージ)は、以下を参照してください。

エラー種別	参照先
エラーメッセージ	"7.8.1 標準エラー出力"
警告メッセージ	"7.8.2 ログファイル出力"

すべてのメッセージは日付と時刻で始まり、メッセージの種類によっては、その後に文字列「WARNING:」が続きます。その後にコマンド名、およびエラーテキストの本文が続きます。

7.8.1 標準エラー出力

cfrestore コマンド実行時の標準エラー出力メッセージを、アルファベット順に説明します。

date time cfrestore: invalid option specified

内容

cfrestore コマンドに無効な引数が使用されています。

対処

正しいコマンド構文で指定してください。コマンド構文は以下のとおりです。

```
cfrestore [-test] [-f] [p] [-y] [-M]  [n]
```

注意:

-test

プラグイン開発者用です。このオプションを使用すると、実行が完了した後も$CCBROOT ツリーが残されます (通常は削除されます)。さらに、cpio では、すべての保存されたファイルを / ではなく /tmp/ccbr/ にリストアします。これによりプラグインの開発者は、実行してみなくても結果の確認ができます。

-f

FORCE モードオプションでは、重大なエラーが検出されてもすべて無視され、アーカイブファイルが必ずリストアされます。

-p

PASS モードオプションでは、圧縮されたアーカイブから展開したツリーを指定することができます。

-y

cfrestore コマンドにより確認を求められた場合、自動的に常に YES を返します。

-M

マルチユーザモードでもリストアを行います。通常は、このオプションを使用しないでください。

n

バックアップおよびリストアに使用する世代番号を指定します。

date time cfrestore: cmd must be run as root

内容

システム管理者権限で実行する必要があります。

対処

システム管理者権限で実行してください。

---

date time cfrestore: cmd must be run in single-user mode

内容

シングルユーザモードで実行する必要があります。

対処

シングルユーザモードで実行してください。

---

date time cfrestore: ccbr files & directories must be accessible

内容

CCBR 基本ファイル (/opt/SMAW/ccbr ディレクトリ、/opt/SMAW/ccbr/plugins ディレクトリ、および /opt/SMAW/ccbr/ccbr.conf ファイル) のいずれかにアクセスできません。

対処

上記の各 CCBR 基本ファイルにアクセスできることを確認してください。

7.8.2 ログファイル出力

cfrestore コマンド実行時のログファイル出力メッセージを、アルファベット順に説明します。

---

date time cfrestore [FORCE] [TREE] [YES] n [(TEST)] log started

内容

このメッセージは、cfrestore の処理が開始したことを示します。

対処

対処する必要はありません。

---

date time ERROR: nodename IS an active cluster node

内容

このエラーメッセージは、指定されたノードがアクティブな PRIMECLUSTER ノードであることを示しています。このため、クラスタ構成情報のリストアを実行すると重大なエラーが発生する可能性があります。

対処

リストアを行なう場合は、ノードを停止してから行なってください。

---

date time cfrestore *n* ended unsuccessfully

内容

このメッセージは、cfrestore コマンドがエラーコード 2 または 3 で終了したことを示します。

対処

このメッセージと同時に出力される理由を示すメッセージを参照してください。

---

date time no runnable plug-ins! cmd aborted.

内容

cfrestore コマンドは、/opt/SMAW/ccbr/plugins ディレクトリで実行可能なスクリプトを発見できませんでした。

対処

システムに PRIMECLUSTER のパッケージが適切にインストールされていない可能性があります。インストール時にエラーが発生していないことを確認してください。

適切にインストールされている場合には、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取します。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

date time unable to find selected archive file: *archivefile*

内容

このエラーメッセージは、cfrestore コマンドが $CCBROOT.tar.Z のアーカイブファイルを検出できなかったことを示しています (Solaris)。CCBROOT の値は、ノード名および世代番号を使用して設定されます。

対処

archivefile が存在することを確認してください。

date time archive file uncompression failed

内容

このエラーメッセージは cfrestore コマンドが圧縮アーカイブファイルの伸張 (uncompress) に失敗したことを示しています。

対処

/opt/SMAW/ccbr/ccbr.conf に定義されている CCBRHOME ディレクトリ配下のファイルを採取し、当社技術員 (SE) に連絡してください。

date time archive file extraction failed

内容

このエラーメッセージは cfrestore コマンドがアーカイブファイルからバックアップツリーの展開に失敗したことを示しています。

対処

/opt/SMAW/ccbr/ccbr.conf に定義されている CCBRHOME ディレクトリ配下のファイルを採取し、当社技術員 (SE) に連絡してください。

date time archive file recompression failed

内容

このエラーメッセージは cfrestore コマンドが圧縮アーカイブファイルの作成 (compress) に失敗したことを示しています。

対処

/opt/SMAW/ccbr/ccbr.conf に定義されている CCBRHOME ディレクトリ配下のファイルを採取し、当社技術員 (SE) に連絡してください。

date time warning: backup created with FORCE option

内容

このエラーメッセージは、FORCE モードでアーカイブファイルが作成されたことを示しています (通常、エラー状態を無視してアーカイブを作成します)。

対処

バックアップアーカイブのエラーログファイルを参照して、本データのリストアが有効であることを必ず確認してください。

date time plugin present at backup is missing for restore: *pluginname*

内容

このエラーメッセージは、プラグインモジュールが指定された /opt/SMAW/ccbr/plugins ディレクトリに存在しないことを示しています。通常 PRIMECLUSTER パッケージがアンインストールされたか、インストールされていないことが考えられます。また、新旧のパッケージで該当するプラグインの名称が異なっている可能性があります。

対処

/opt/SMAW/ccbr/ccbr.conf に定義されている CCBRHOME ディレクトリ配下のファイルを採取し、当社技術員 (SE) に連絡してください。

date time negative reply terminates processing

内容

このエラーメッセージは、cfrestore の問い合わせ、"Are you sure you want to continue(y/n) ?" に「はい」と答えなかったことを示しています。FORCE モードでない限り、処理が止まる可能性があります。

対処

上記問い合わせに対しては "y" と返答してください。

date time plugin validation failed

内容

このエラーメッセージは、プラグインモジュールの検証ルーチンが、cfrestore コマンドにエラーコード 2 または 3 を返したことを示します。妥当性検証に実行に失敗した可能性があります。プラグインが原因を特定できるように、妥当性検証は継続します。

対処

/opt/SMAW/ccbr/ccbr.conf に定義されている CCBRHOME ディレクトリ配下のファイルを採取し、当社技術員 (SE) に連絡してください。

date time cpio copy for cfrestore failed

内容

このエラーメッセージは、バックアップツリーのルートサブディレクトリから生成した全ファイルツリーの自動 cpio リストアが失敗したことを示しています。cpio コマンドは詳細モードで実行されます。
このため、どのファイルがリストアされたかについて履歴が残されます。リストア処理が不完全な場合、通常一部のリストアは実行されています。これにより重大な問題が発生する可能性があります。

対処

変更されたファイルを手動でリストアしてください。

date time NOTE: no root subdirectory for cpio copy step

内容

このエラーメッセージは、cfrestore がバックアップツリーから自動的にリストアするファイルを検出できなかったことを示しています。
通常は、アーカイブファイルが損傷していることが考えられます。

対処

/opt/SMAW/ccbr/ccbr.conf に定義されている CCBRHOME ディレクトリ配下のファイルを採取し、当社技術員 (SE) に連絡してください。

date time plugin restore failed

内容

このエラーメッセージは、指定されたプラグインモジュールのリストアルーチンが、cfrestore コマンドにエラーコード 2 または 3 を返したことを示します。リストアルーチンを起動するのに必要なプラグインはの数は多くありません。プラグインが原因を特定できるように、リストア処理は継続します。

対処

この時点での問題は、自動 cpio リストアの後に、個別に検証し、手動で修正してください。

date time cfrestore n ended

内容

このエラーメッセージは cfrestore コマンドがすべての処理を完了したことを示しています。処理の間に返されたリターンコードのうち、最も値が高いものがリターン/エラーコードの値として使用されます。

対処

対処する必要はありません。

7.9 wgcnfclient コマンドメッセージ(Solaris)

wgcnfclient コマンド実行時に表示されるメッセージについて、メッセージ番号順に説明します。

表示形式は以下のとおりです。

```
メッセージ番号: メッセージ本文
```

0000: Message not found!!

内容

未分類のエラーが発生しました。

対処

意図しないエラーが発生しました。

再度実行しても同じエラーが出力される場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

0001: Illegal option.

内容

オプションが正しくありません。

対処

オプションやオプション引数の指定方法を確認して正しい用法でコマンドを実行してください。

0002: No system administrator authority.

内容

システム管理者権限ではありません。

対処

システム管理者権限でコマンドを実行してください。

0003: File not found. (file:*file-name*)

内容

ファイルが見つかりません。(file:*file-name*)

対処

動作環境ファイルが存在しません。
FJSVwvucw パッケージを再インストールしてください。

0004: The edit of the file failed.

内容

ファイルの編集に失敗しました。

対処

メモリ不足などシステムの状態が不安定な場合に出力される可能性があります。
これ以外にメッセージが表示されている場合は、その対処法に従ってください。

再度コマンドを実行しても同じエラーが出力される場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

0005: Unknown keyword. (keyword:*keyword*)

内容

未知のキーワードです。(keyword:*keyword*)

対処

指定したキーワードを確認し、正しいキーワードでコマンドを実行してください。

0006: The distribution of the file failed.

内容

ファイルの配布に失敗しました。

対処

実行したノードを含むすべてのクラスタノードで CRM が起動していることを確認してください。起動されていなかった場合は、すべてのクラスタノードで CRM が起動したあと、コマンドを実行してください。
メモリ不足などシステムの状態が不安定なクラスタノードが存在していないか確認し、再度コマンドを実行してください。またこのとき "-v" オプションを指定するとどのノードで失敗したかを知ることができます。

再度同じエラーが出力される場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

0007: The cluster configuration management facility is not running.

内容

クラスタ構成管理機構が動作していません。

対処

実行したノードを含むすべてのクラスタノードで CRM が起動していることを確認してください。起動されていなかった場合は、すべてのクラスタノードで CRM が起動したあと、コマンドを実行してください。
メモリ不足などシステムの状態が不安定なクラスタノードが存在していないか確認し、何度かコマンドを実行してください。またこのとき "-v" オプションを指定するとどのノードで失敗したかを知ることができます。

何度か実行しても同じエラーが出力される場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" を参照してください。

0009: The command received a signal.

内容

シグナルを受信しました。

対処

コマンドの実行中にシグナルを受信しました。

再度実行しても同じエラーが出力される場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.10 clrwzconfig コマンドメッセージ（Linux）

Linux で clrwzconfig コマンドを実行した時に出力されるメッセージについて説明します。

表示形式は以下のとおりです。

メッセージ番号: *メッセージ本文*

メッセージ番号を確認し、以下の表から該当箇所を参照してください。

メッセージ番号	参照先
8000～	"7.10.1 情報メッセージ"
8050～	"7.10.2 警告メッセージ"
8100～	"7.10.3 エラーメッセージ"

7.10.1 情報メッセージ

clrwzconfig コマンド実行時の情報メッセージを、メッセージ番号順に説明します。
情報メッセージは状態を示していますので、対処は不要です。

8000. Cluster application information was registered in the cluster resource management facility.

クラスタアプリケーション情報がクラスタリソース管理機構に登録されました。

内容

クラスタアプリケーション情報がクラスタリソース構成管理機構に正しく登録されたことを示します。

8001. Cluster application information was removed from the cluster resource management facility.

クラスタアプリケーション情報がクラスタリソース管理機構から削除されました。

内容

クラスタアプリケーション情報がクラスタリソース構成管理機構から正しく削除されたことを示します。

8002. Cluster application information has been registered in the cluster resource management facility.

クラスタアプリケーション情報はクラスタリソース管理機構に登録されています。

内容

登録しようとしたクラスタアプリケーション情報は既にクラスタリソース構成管理機構に設定されてたことを示します。

8020. Cluster application information will be removed from the cluster resource management facility. Are you sure you want to continue? (*yes*/*no*)

クラスタリソース管理機構からクラスタアプリケーション情報を削除しますか？ (*yes*/*no*)

内容

クラスタリソース管理機構からクラスタアプリケーション情報を削除するかどうかを問い合わせています。
yes を入力した場合: クラスタアプリケーション情報は削除されます。
no を入力した場合: クラスタアプリケーション情報は削除されません。

7.10.2 警告メッセージ

clrwzconfig コマンド実行時の警告メッセージを、メッセージ番号順に説明します。

8050. Cluster application information is not registered in the cluster resource management facility. Add the information.

クラスタアプリケーション情報がクラスタリソース管理機構に登録されていません。
クラスタアプリケーション情報をクラスタリソース管理機構に登録してください。

内容

クラスタアプリケーション情報がクラスタリソース管理機構に登録されていないことを示しています。

対処

クラスタアプリケーション情報をクラスタリソース管理機構に登録してください。

7.10.3 エラーメッセージ

clrwzconfig コマンド実行時のエラーメッセージを、メッセージ番号順に説明します。

8100. illegal option.
Usage: clrwzconfig [-d config_name | -c]

オプションが正しくありません。
使用方法: clrwzconfig [-c | -d config_name]

内容

コマンドに指定されたオプションが正しくありません。

対処

コマンドの使用法に従い、オプションを正しく指定し、再度実行してください。

8101. The cluster configuration management facility is not running.
Start it on all the cluster nodes.

クラスタ制御の構成管理機構が動作していません。
クラスタを構成する全ノードでクラスタ制御の構成管理機構を起動してください。

内容

クラスタ制御の構成管理機構が動作していないため、コマンドが異常終了しました。

対処

クラスタを構成する全ノードでクラスタ制御の構成管理機構を起動してください。

8102. RMS is running.(%s)
Stop it on all the cluster nodes.

RMS が起動しています。(%s)
クラスタを構成する全ノードで RMS を停止してください。

内容

RMS が起動しているため、コマンドが異常終了しました。%s には、RMS が起動している全てのノード名 (CF ノード名) がカンマ区切りで列挙されます。

対処

クラスタを構成する全ノードで RMS を停止してください。

8103. RMS configuration has not been activated.
Please execute clrwzconfig command after activating RMS configuration(Configuration-Activate).

RMS 構成定義ファイルの配布 (Configuration-Activate) が実施されていません。
RMS 構成定義ファイルの配布 (Configuration-Activate) を実施後、clrwzconfig コマンドを実行してください。

内容

RMS 構成定義ファイルの配布 (Configuration-Activate) が実施されていないため、コマンドが異常終了しました。

対処

RMS 構成定義ファイルの配布 (Configuration-Activate) を実施した後、再度コマンドを実行してください。

8104. RMS configuration(%s) is invalid. The current effective configuration is %s.

RMS 構成 (%s) が不正です。現在有効な RMS 構成は %s です。

内容

%s (上) には、-d オプションで指定した RMS 構成定義ファイル (現在有効ではない RMS 構成定義ファイル) が表示されます。

%s(下) には、Generate/Activate 済みの、現在有効な RMS 構成定義ファイルが表示されます。

対処

現在有効となっている RMS 構成定義ファイルが削除したい構成定義ファイルであるか確認したうえで、現在有効となっている構成を指定しコマンドを再度実行してください。

8120. Registration of the Cluster application information failed.(function:%d-%s-%s detail:%d)

クラスタアプリケーション情報の登録に失敗しました。(function:%d-%s-%s detail:%d)

内容

%d-%s-%s には、[異常となったフェーズコード(内部定義コード)] - [異常となった関数名] - [異常となったコマンド名] が表示されます。

%d には、[異常となったコマンドの復帰値] が表示されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

8130. Deleting the Cluster application information failed.(function:%d-%s-%s detail:%d)

クラスタアプリケーション情報の削除に失敗しました。(function:%d-%s-%s detail:%d)

内容

%d-%s-%s には、[異常となったフェーズコード(内部定義コード)] - [異常となった関数名] - [異常となったコマンド名] が表示されます。

%d には、[異常となったコマンドの復帰値] が表示されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

8140. Checking registration of the Cluster application information failed.(function:%d-%s-%s detail:%d)

クラスタアプリケーション情報の登録確認に失敗しました。(function:%d-%s-%s detail:%d)

内容

%d-%s-%s には、[異常となったフェーズコード(内部定義コード)] - [異常となった関数名] - [異常となったコマンド名] が表示されます。

%d には、[異常となったコマンドの復帰値] が表示されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

8150. The clrwzconfig command failed.(function:%d-%s-%s detail:%d)

コマンド処理中に異常が発生しました。(function:%d-%s-%s detail:%d)

内容

%d-%s-%s には、[異常となったフェーズコード(内部定義コード)] - [異常となった関数名] - [異常となったコマンド名] が表示されます。

%d には、[異常となったコマンドの復帰値] が表示されます。

対処

このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

8151. The clrwzconfig command failed. The command might have been executed concurrently.(function:%d-%s-%s detail:%d)
Execute clrwzconfig again.

コマンド処理中に異常が発生しました。(function:%d-%s-%s detail:%d)
clrwzconfig コマンドが同時実行された可能性があります。clrwzconfig コマンドを再実行してください。

内容

%d-%s-%s には、[異常となったフェーズコード(内部定義コード)] - [異常となった関数名] - [異常となったコマンド名] が表示されます。

%d には、[異常となったコマンドの復帰値] が表示されます。

対処

コマンドを再実行してください。

再実行で解決しない場合は、このメッセージを記録して、調査用の情報を採取してください。その後、当社技術員 (SE) に連絡してください。調査情報の採取方法については、"PRIMECLUSTER 活用ガイド＜トラブルシューティング編＞" を参照してください。

7.11 pclsnapコマンドメッセージ

pclsnap コマンド実行時のメッセージについて説明します。

ERROR: failed to generate the output file "xxx".
DIAG: ...

内容

pclsnap コマンドが出力ファイルの生成に失敗しました。出力ディレクトリの空き容量不足が原因です。

対処

出力ディレクトリを空き容量の大きなディレクトリに変更して、再度コマンドを実行してください。例えば、出力ディレクトリを /var/crash にする場合、以下のように指定してください。

```
# /opt/FJSVpclsnap/bin/pclsnap -a /var/crash/output
```

WARNING: The output file "xxx" may not contain some data files.
DIAG: ...

内容

pclsnap コマンドの出力ファイルは生成されますが、一部の採取対象情報が出力ファイルに含まれていない可能性があります。一時ディレクトリの空き容量不足が原因です。

対処

一時ディレクトリを空き容量の大きなディレクトリに変更して、再度コマンドを実行してください。例えば、一時ディレクトリを/var/crashに変更する場合、以下のように指定してください。

```
# /opt/FJSVpclsnap/bin/pclsnap -a -T/var/crash output
```

一時ディレクトリを変更しても同様の警告メッセージが出力される場合、次の原因が考えられます。

(1) システム状態に起因して、特定の情報採取コマンドがタイムアウトする

(2) 採取対象ファイルが、一時ディレクトリの空き領域と比較して大きい

(1) の場合は、pclsnap の出力ファイルに含まれる pclsnap.elog ファイルにタイムアウト発生のログが記録されています。pclsnap の出力ファイルとともに、可能であればクラッシュダンプを採取してください。

(2) の場合は、次の (a)(b) などが一時ディレクトリの空き容量よりも大きくなっていないか、確認してください。

(a) ログファイルのサイズ

- /var/log/messages
- /var/opt/SMAW*/log/ 配下のログファイル (SMAWsf/log/rcsd.log など)

(b) コアファイルの合計サイズ

- GFSのコアファイル

  /var/opt/FJSVsfcfs/cores/*

- GDSのコアファイル

  /var/opt/FJSVsdx/*core/*

これらが一時ディレクトリの空き容量よりも大きい場合には、該当ファイルを出力ディレクトリおよび一時ディレクトリとは別パーティションに移動して、再度 pclsnap コマンドを実行してください。なお、移動したファイルは消さずに保存しておいてください。

7.12 wvstatコマンドメッセージ

wvstatコマンド実行時のメッセージについて説明します。

wvstat Warn: Can't connect to server <*IP address or hostname*>, <*port number*>

内容

管理サーバへに接続できませんでした。

対処

Web-Based Admin View が起動していない、もしくはWeb-Based Admin View の設定に誤りがある可能性があります。Web-Based Admin View を再起動して、再度コマンドを実行してください。それでもメッセージが表示される場合は、“PRIMECLUSTER Web-Based Admin View 操作手引書”を参照して、設定を確認してください。

7.13 clallshutdownコマンドメッセージ

clallshutdownコマンド実行時のメッセージについて説明します。

<*command*> does not exist.

内容

<*command*>で示されるコマンドがありません。

対処

- <*command*>で示されるコマンドがOS標準である場合、OSのインストールが失敗している可能性があります。

  OSのインストールからやり直してください。

- <*command*>で示されるコマンドが、PRIMECLUSTERのコマンドである場合、PRIMECLUSTERのインストールが失敗している場合があります。

  PRIMECLUSTERのインストールをやり直してください。

<*command*> does not execute.

内容

<*command*>で示されるコマンドに実行権がありません。

対処

- <command>で示されるコマンドがOS標準である場合、OSのインストールが失敗している可能性があります。

  OSのインストールからやり直してください。

- <*command*>で示されるコマンドが、PRIMECLUSTERのコマンドである場合、PRIMECLUSTERのインストールが失敗している場合があります。

  PRIMECLUSTERのインストールをやり直してください。

No system administorator authority.(uid:<*USERID*>)

内容

root権限がありません(<*USERID*>はcallshutdownコマンドを実行したユーザのユーザIDを示します)。

対処

root権限でcallshutdownコマンドを実行してください。

Error in option specification.
Usage:callshutdown -i state [-g time]

内容

callshutdownコマンドのusageの表示です。

対処

callshutdownコマンドに正しいオプションを指定してください。

The node in LEFTCLUSTER state exists in cluster.(node:<*LEFT_NODE*>)

内容

<*LEFT_NODE*>で示されたノードがLEFTCLUSTER状態です。

対処

LEFTCLUSTER状態を解消してください。

Execute the callshutdown command to stop the node safely with RMS running.

内容

RMSが動作していないノードでcallshutdownコマンドを実行しました。

対処

RMSが動作しているノードでclallshutdownコマンドを実行してください。

Fail to stop RMS. (errno:<*STATUS*>)

内容

RMSの停止処理が失敗しました。
<*STATUS*>はRMSを停止するコマンド(hvshut -a)の復帰値を意味します。

対処

RMSで何らかの問題が発生している可能性があります。
PRIMECLUSTER 4.3A30以降の場合は、"PRIMECLUSTER RMS導入運用手引書"、PRIMECLUSTER 4.3A20以前の場合、"PRIMECLUSTER RMSリファレンスガイド"、または"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" に従って原因を調査してください。

The command "cftool -n" cannot finish normally.(errno:<*STATUS*>)

内容

cftoolコマンドの実行(cftool -n)が失敗しました。
<*STATUS*>はcftool -nの復帰値を意味します。

対処

CFで何らかの問題が発生している可能性があります。
"PRIMECLUSTER Cluster Foundation 導入運用手引書"の"診断とトラブルシューティング"、または"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" に従って原因を調査してください。

The command "clexec" cannot finish normally.

内容

clexecコマンドの実行が失敗しました。

対処

CFで何らかの問題が発生している可能性があります。
"PRIMECLUSTER Cluster Foundation 導入運用手引書"の"診断とトラブルシューティング"、または"PRIMECLUSTER 活用ガイド<トラブルシューティング編>" に従って原因を調査してください。

<*CONF_FILE*> does not exist.

内容

<*CONF_FILE*>で示されるclallshutdownコマンドの設定ファイルがありません。

対処

PRIMECLUSTERのインストールが失敗している可能性があります。
インストールをやり直してください。

付録A　CF 理由コードテーブル

CF 理由コードテーブルについて説明します。

処理成功の場合は以下のコードが通知されます。

コード	理由	サービス	意味
0401	REASON_SUCCESS	－	Operation was successful 処理成功

A.1 generic error codes

コード	理由	サービス	意味
0401	REASON_NOERR	generic	Request not completed 要求は未完了
0402	REASON_ALERTED	generic	Interrupted call 割り込み呼び出し
0403	REASON_TIMEOUT	generic	Timedout call タイムアウト呼び出し
0404	REASON_NO_MEMORY	generic	Out of memory メモリ不足
0405	REASON_NO_SUCH_DEVICE	generic	No such device/resource デバイスまたはリソースが存在しない
0406	REASON_DEVICE_BUSY	generic	Resource is busy リソースビジー
0407	REASON_INVALID_PARAMETER	generic	Invalid parameter 無効なパラメタ
0408	REASON_UNSUCCESSFUL	generic	Unsuccessful 失敗
0409	REASON_ADDRESS_ALREADY_EXI STS	generic	Address already exists アドレスがすでに存在する
040a	REASON_BAD_ADDRESS	generic	Bad memory address 不正なメモリアドレス
040b	REASON_INSUFFICIENT_RESOURC ES	generic	Insufficient resources リソース不足
040c	REASON_BUFFER_OVERFLOW	generic	Buffer overflow バッファオーバーフロー
040d	REASON_INVALID_OWNER	generic	Invalid owner 無効な所有者
040e	REASON_INVALID_HANDLE	generic	Invalid handle 無効なハンドル
040f	REASON_DUPNAME	generic	Duplicate name 名前の重複
0410	REASON_USAGE	generic	Usage 使用方法
0411	REASON_NODATA	generic	No data データなし

コード	理由	サービス	意味
0412	REASON_NOT_INITIALIZED	generic	Driver not initialized ドライバが初期化されていない
0413	REASON_UNLOADING	generic	Driver unloading ドライバをアンロード中
0414	REASON_REASSEMBLY_DOWN	generic	Sender died while sending data データ送信中に送信側が機能停止
0415	REASON_WENT_DOWN	generic	Destination node went down 宛先ノードが停止中
0416	REASON_TRANSMIT_TIMEOUT	generic	Data transmission timeout データ通信タイムアウト
0417	REASON_BAD_PORT	generic	Bad destination port 不正な宛先ポート
0418	REASON_BAD_DEST	generic	Bad destination 不正な宛先
0419	REASON_YANK	generic	Message transmission flushed メッセージ通信フラッシュ
041a	REASON_SVC_BUSY	generic	SVC has pending transmissions SVC が通信を中断中
041b	REASON_SVC_UNREGISTER	generic	SVC has been unregistered SVC が未登録
041c	REASON_INVALID_VERSION	generic	Invalid version 無効なバージョン
041d	REASON_NOT_SUPPORTED	generic	Function not supported 機能がサポートされていない
041e	REASON_EPERM	generic	Not super-user スーパーユーザ権限がない
041f	REASON_ENOENT	generic	No such file or directory ファイルまたはディレクトリが存在しない
0420	REASON_EINTR	generic	Interrupted system call 割り込みシステムコール
0421	REASON_EIO	generic	I/O error I/O エラー
0422	REASON_ENXIO	generic	No such device or address (I/O req) デバイスまたはアドレス (I/O req) が存在しない
0423	REASON_EACCES	generic	Permission denied 権限拒否
0424	REASON_EEXIST	generic	File exists ファイルが存在する
0425	REASON_DDI_FAILURE	generic	Error in DDI/DKI routine DDI/DKI ルーチンエラー
0426	REASON_INVALID_NODENAME	generic	Invalid node name 無効なノード名
0427	REASON_INVALID_NODENUMBER	generic	Invalid node number 無効なノード番号

コード	理由	サービス	意味
0428	REASON_NODE_NOT_LEFTC	generic	Node is not in LEFTCLUSTER state ノードがLEFTCLUSTER 状態になっていない
0429	REASON_CORRUPT_CONFIG	generic	Corrupt/invalid cluster config クラスタ構成が破損または無効
042a	REASON_FLUSH	generic	Messages transmission flushed メッセージ通信フラッシュ
042b	REASON_MAX_ENTRY	generic	Maximum entries reached エントリ数が最大値に達した
042c	REASON_NO_CONFIGURATION	generic	No configuration exists 構成が存在しない

A.2 mrpc reasons

コード	理由	サービス	意味
0801	REASON_MRPC_CLT_SVCUNAVAIL	mrpc	Service not registered on Client クライアントにサービスが未登録
0802	REASON_MRPC_SRV_SVCUNAVAIL	mrpc	Service not registered on Server サーバにサービスが未登録
0803	REASON_MRPC_CLT_PROCUNAVAIL	mrpc	Service Procedure not avail on Clt Clt のサービスプロシジャが無効
0804	REASON_MRPC_SRV_PROCUNAVAIL	mrpc	Service Procedure not avail on Srv Srv のサービスプロシジャが無効
0805	REASON_MRPC_INARGTOOLONG	mrpc	Input argument size too big 入力引数のサイズが大きすぎる
0806	REASON_MRPC_OUTARGTOOLONG	mrpc	Output argument size too big 出力引数のサイズが大きすぎる
0807	REASON_MRPC_RETARGOVERFLOW	mrpc	Return argument size overflow 戻り値サイズがオーバーフロー
0808	REASON_MRPC_VERSMISMATCH	mrpc	Version mismatch バージョンが不一致
0809	REASON_MRPC_ICF_FAILURE	mrpc	ICF send failed ICF の送信が失敗
080a	REASON_MRPC_INTR	mrpc	Interrupted RPC 割り込み RPC
080b	REASON_MRPC_RECURSIVE	mrpc	Illegal recursive call 不正な再帰呼び出し
080c	REASON_MRPC_SVC_EXIST	mrpc	Service already registered サービスは登録済み

A.3 ens reasons

コード	理由	サービス	意味
0c01	REASON_ENS_INFOTOOBIG	ens	Event information is too large イベント情報のサイズが大きすぎる

コード	理由	サービス	意味
0c02	REASON_ENS_TOOSOON	ens	Attempt to post event before ens_init ens_init の前にイベントのポストを試行
0c03	REASON_ENS_NODEST	ens	Remote or local not specified in howto howto にリモートまたはローカルが未指定
0c04	REASON_ENS_DAEMONNOTIFY	ens	Invalid event posting by event daemon イベントデーモンが無効なイベントを送信
0c05	REASON_ENS_NOICF	ens	Attempt to post remote before ICF config ICF 設定の前にリモート送信を試行
0c06	REASON_ENS_OLDACKVERS	ens	Old version kernel has acked event 旧バージョンのカーネルに確認応答されたイベントが存在する
0c07	REASON_ENS_IMPLICITACK	ens	Event handler did not obtain ack handle イベントハンドラが ack ハンドルの取得に失敗
0c08	REASON_ENS_ACKNOTREQ	ens	Event acknowledgment not required イベントの確認応答は不要
0c09	REASON_ENS_NOTEVHANDLER	ens	Obtainer of ack handle not event handler ack ハンドルをイベントハンドラ以外が取得している
0c0a	REASON_ENS_NOACKHANDLE	ens	Cannot locate event ack handle イベントの ack ハンドルが見つからない
0c0b	REASON_ENS_MEMLIMIT	ens	User level ENS event memory limit overflow ユーザレベル ENS イベントのメモリオーバーフロー
0c0c	REASON_ENS_DUPREG	ens	Duplicate event registration イベント登録の重複
0c0d	REASON_ENS_REGNOTFOUND	ens	Event registration not found イベントの登録が見つからない
0c0e	REASON_ENS_INFOTOOSMALL	ens	Event information size too small イベント情報のサイズが小さすぎる
0c0f	REASON_ENS_BADFAILNODE	ens	Node cannot post LEFTCLUSTER or NODE DOWN for itself ノードがノード自身の LEFTCLUSTER またはノードダウンの送信に失敗

A.4 nsm reasons

コード	理由	サービス	意味
1001	REASON_NSM_BADVERSION	nsm	Data structure version mismatch データ構造のバージョン不一致
1002	REASON_NSM_NONODES	nsm	No nodes have been specified ノードが未指定
1003	REASON_NSM_TOOMANYNODES	nsm	Too many nodes have been specified 指定されたノード数が多すぎる
1004	REASON_NSM_BADNODEID	nsm	Node ID out of node name space range ノードID が名前空間範囲外
1005	REASON_NSM_BADNETALEN	nsm	Invalid network address length 無効なネットワークアドレス長
1006	REASON_NSM_ICFCREATE	nsm	Failure trying to create ICF node ICF ノードの作成失敗
1007	REASON_NSM_ICFDELETE	nsm	Failure trying to delete ICF node ICF ノードの削除失敗
1008	REASON_NSM_BADSTARTNODE	nsm	Invalid starting node specified 開始ノードの指定が無効
1009	REASON_NSM_BADINFOLEN	nsm	Invalid event information length イベント情報の長さが無効
100a	REASON_NSM_BADCNODEID	nsm	Control node out of name space range 制御ノードが名前空間範囲外
100b	REASON_NSM_BADCNSTATUS	nsm	Control node status invalid 制御ノードの状態が無効
100c	REASON_NSM_BADANODEID	nsm	Invalid node ID for node being added 追加されたノードのノードID が無効
100d	REASON_NSM_ADDNODEUP	nsm	Node being added is already operational 追加されたノードはすでに稼動中
100e	REASON_NSM_NONODE	nsm	Node does not exist in the node name space ノードの名前空間にノードが存在しない
100f	REASON_NSM_NODEFAILURE	nsm	A node has been declared dead ノードが機能停止状態
1010	REASON_NSM_NODETIMEOUT	nsm	Heartbeat timeout has expired for a node ノードのハートビートがタイムアウト
1011	REASON_NSM_BADOUTSIZE	nsm	Invalid value for MRPC outsize MRPC の出力サイズ値が無効
1012	REASON_NSM_BADINSIZE	nsm	Invalid value for MRPC insize MRPC の入力サイズ値が無効
1013	REASON_NSM_BADNDNOTIFY	nsm	Failure to post NODE DOWN event ノードダウンイベントの送信失敗
1014	REASON_NSM_VERSIONERR	nsm	nsetinfo versioning error nsetinfo のバージョン管理エラー

A.5 mrpc reasons

コード	理由	サービス	意味
1401	REASON_ICF_MRPC_SZSM	mrpc	icfmrpc Output argument size too small 出力引数のサイズが小さすぎる
1402	REASON_ICF_MRPC_BADNDNUM	mrpc	icfmrpc Node does not exist ノードが存在しない
1403	REASON_ICF_MRPC_BADADDR	mrpc	icfmrpc mesh address does not exist メッシュアドレスが存在しない

A.6 user events

コード	理由	サービス	意味
1801	REASON_UEV_ALREADYOPEN	uev	Process already has event device open プロセスはすでにイベントデバイスをオープンしている
1802	REASON_UEV_TOOMANYEVENTS	uev	Too many user events initialized 初期化したユーザイベントの数が多すぎる
1803	REASON_UEV_BADHANDLE	uev	Invalid user event handle specified 指定されたユーザイベントハンドルが無効
1804	REASON_UEV_NOTOPEN	uev	Process does not have event device open プロセスはイベントデバイスをオープンしていない
1805	REASON_UEV_REGISTERED	uev	Duplicate user event registration ユーザイベント登録の重複

A.7 node group

コード	理由	サービス	意味
1c01	REASON_NG_DEF_SYNTAX	ng	Bad definition syntax 不正な定義構文
1c02	REASON_NG_DUPNAME	ng	Name exists already 名前がすでに存在する
1c03	REASON_NG_EXIST	ng	Group does not exist グループが存在しない
1c04	REASON_NG_ND_EXIST	ng	Node does not exist ノードが存在しない
1c05	REASON_NG_NAMELEN	ng	Too long a node name ノード名が長すぎる
1c06	REASON_NG_STATE	ng	Unknown parser state 不明なパーサ状態
1c07	REASON_NG_NODEINFO	ng	Failed to get up-node info up-node 情報の取得失敗
1c08	REASON_NG_ITER_STALE	ng	Iterator is stale イテレータが無効

コード	理由	サービス	意味
1c09	REASON_NG_ITER_NOSPACE	ng	Iterator pool exhausted イテレータプールの不足
1c0a	REASON_NG_ITER_NOENT	ng	The end of iteration 繰り返しの終端
1c0b	REASON_NG_MEMBER	ng	Node is not a group member ノードがグループメンバではない
1c0c	REASON_NG_NOENT	ng	No node is up 稼動しているノードがない
1c0d	REASON_NG_UNPACK	ng	Failed to unpack definition 定義のアンパックが失敗
1c0e	REASON_NG_DUPDEF	ng	Identical group definition 同一のグループ定義

A.8 distributed mount services

コード	理由	サービス	意味
2001	REASON_DMS_INVALIDCNG	dms	Invalid client node group クライアントノードグループが無効
2002	REASON_DMS_MNTINUSE	dms	Mount in use マウントが使用中
2003	REASON_DMS_DEVINUSE	dms	Device in use デバイスが使用中
2004	REASON_DMS_FSCKFAILED	dms	Failover fsck failed フェイルオーバ fsck が失敗
2005	REASON_DMS_MNTFAILED	dms	Failover mount failed フェイルオーバマウントが失敗
2006	REASON_DMS_MNTBUSY	dms	Mount is busy マウントビジー
2007	REASON_DMS_NOMNTPT	dms	No mount point specified マウントポイントが未指定
2008	REASON_DMS_NODBENT	dms	Specified mount point not found 指定されたマウントポイントが見つからない
2009	REASON_DMS_BADSTATE	dms	Server is up or failover in progress サーバが稼動中またはフェイルオーバが進行中
200a	REASON_DMS_SUBMOUNT	dms	Specified mount point is CFS submount マウントポイントに CFS サブマウントが指定された
200b	REASON_MAX_REASON_VAL	dms	Last reason 最後の理由

A.9 join

コード	理由	サービス	意味
2401	REASON_JOIN_FAILED	join	Node has failed to join cluster ノードがクラスタ参入が失敗
2402	REASON_JOIN_DISABLED	join	Cluster join not started クラスタ参入が開始していない
2403	REASON_JOIN_SHUTDOWN	join	Join daemon shut down JOIN デーモン停止

A.10 cfreg

コード	理由	サービス	意味
2801	REASON_CFREG_STOPREQUESTED	cfreg	cfreg daemon stop requested cfreg デーモンの停止が要求された
2802	REASON_CFREG_DUPDAEMON	cfreg	cfreg daemon already running cfreg デーモンは起動済み
2803	REASON_CFREG_BADCONFIG	cfreg	Internal cfreg configuration error 内部 cfreg 構成エラー
2804	REASON_CFREG_NOENTRY	cfreg	Entry with specified key does not exist 指定されたキーを持つエントリが存在しない
2805	REASON_CFREG_COMMITTED	cfreg	Specified transaction committed 指定されたトランザクションがコミットされている
2806	REASON_CFREG_NOTOPEN	cfreg	Data file not open データファイルがオープンされていない
2807	REASON_CFREG_CORRUPTFILE	cfreg	Data file format is corrupt データファイルフォーマットが壊れている
2808	REASON_CFREG_NSIERR	cfreg	Internal packaging error 内部パッケージングエラー
2809	REASON_CFREG_INVALIDTRANS	cfreg	Specified transaction invalid 指定されたトランザクションが無効
280a	REASON_CFREG_ACTIVETRANS	cfreg	An active transaction exists 実行中のトランザクションが存在する
280b	REASON_CFREG_NOREQUESTS	cfreg	No daemon requests available デーモン要求は利用不可
280c	REASON_CFREG_REQOVERFLOW	cfreg	Daemon request buffer overflow デーモン要求バッファのオーバーフロー
280d	REASON_CFREG_NODAEMON	cfreg	cfreg daemon not present cfreg デーモンが存在しない
280e	REASON_CFREG_BADREQUEST	cfreg	Unknown daemon request 未知のデーモン要求

コード	理由	サービス	意味
280f	REASON_CFREG_REGBUSY	cfreg	Register is busy レジスタが使用中
2810	REASON_CFREG_REGOWNED	cfreg	Registry is owned レジストリが排他使用中
2811	REASON_CFREG_INVALIDUPDATE	cfreg	Invalid update アップデートが無効
2812	REASON_CFREG_INVALIDKEY	cfreg	Inva lid registry key レジストリキーが無効
2813	REASON_CFREG_OVERFLOW	cfreg	Data or key buffer too small データまたはキーバッファが小さすぎる
2814	REASON_CFREG_TOOBIG	cfreg	Registry entry data too large レジストリのエントリデータが大きすぎる

A.11 cflog Message Catalogs

コード	理由	サービス	意味
2c01	REASON_CFLOG_NOCAT	cflog	cflog could not open message catalog cflog がメッセージカタログをオープンできない

A.12 qsm Message Catalogs

コード	理由	サービス	意味
3001	REASON_QSM_DUPMETHODNAME	qsm	Duplicate quorum method name クォーラムメソッド名の重複
3002	REASON_QSM_TRYAGAIN	qsm	Need to try again later 時間をおいて再度実行が必要
3003	REASON _QSM_BUSY	qsm	Method has been registered already メソッドはすでに登録済み
3004	REASON_QSM_IDLE	qsm	Method has not been registered メソッドは未登録
3005	REASON_QSM_STOP	qsm	qsm stop requested qsm の停止が要求された

A.13 sens

コード	理由	サービス	意味
3401	REASON_SENS_BADSEQ	sens	Invalid sequence number シーケンス番号が無効
3402	REASON_SENS_TOOSOON	sens	SENS not initialized SENS が初期化されていない
3403	REASON_SENS_DUPACK	sens	Duplicate registration for completion ack 完了 ack の登録が重複

コード	理由	サービス	意味
3404	REASON_SENS_NOREG	sens	Registration does not exist 登録が存在しない
3405	REASON_SENS_BADMAP	sens	Node missing from node map ノードマップにノードが記載されていない
3406	REASON_SENS_NOUREG	sens	User event registration does not exist ユーザイベントの登録が存在しない
3407	REASON_SENS_NOUEVENT	sens	Event not received イベントが受信されていない

A.14 CFRS

コード	理由	サービス	意味
3801	REASON_CFRS_BADFCPSRCCONF	cfrs	cfcp not configured on source node cfcp がソースノードで設定されていない
3802	REASON_CFRS_BADFCPDSTCONF	cfrs	cfcp not configured on destination node cfcp が宛先ノードで設定されていない
3803	REASON_CFRS_BADEXECSRCCONF	cfrs	cfsh not configured on source node cfsh がソースノードで設定されていない
3804	REASON_CFRS_BADEXECDSTCONF	cfrs	cfsh not configured on execution node cfsh が実行ノードで設定されていない
3805	REASON_CFRS_BADDSTPATH	cfrs	Invalid destination file path 宛先ファイルのパスが無効
3806	REASON_CFRS_DSTPATHTOOLONG	cfrs	Destination file path too long 宛先ファイルのパスが長すぎる
3807	REASON_CFRS_SRCACCESSERR	cfrs	Cannot access source file ソースファイルにアクセスできない
3808	REASON_CFRS_SRCNOTREG	cfrs	Source file is not regular file ソースファイルが通常のファイルではない
3809	REASON_CFRS_SRCREADERR	cfrs	Source file read error ソースファイル読込みエラー
380a	REASON_CFRS_NOCMD	cfrs	No command string specified コマンドストリングが指定されていない
380b	REASON_CFRS_CMDTOOLONG	cfrs	Command string too long コマンドストリングが長すぎる
380c	REASON_CFRS_OUTPUTWRTERR	cfrs	Command output write error コマンド出力書込みエラー

コード	理由	サービス	意味
380d	REASON_CFRS_NSIERROR	cfrs	Internal CFRS NSI error 内部 CFRS NSI エラー
380e	REASON_CFRS_DSTABORTEXEC	cfrs	Execution aborted on execution node 実行ノードで実行が中止された
380f	REASON_CFRS_INVALIDIOCTL	cfrs	Invalid ioctl call ioctl コールが無効
3810	REASON_CFRS_BADDSTNODE	cfrs	Destination node not in cluster 宛先ノードがクラスタにない
3811	REASON_CFRS_BADROPHANDLE	cfrs	Bad remote operation handle リモート操作ハンドルが不正
3812	REASON_CFRS_SRCEXECABORTED	cfrs	Remote exec aborted on source node ソースノードでリモート実行が中止された
3813	REASON_CFRS_RESPOUTTOOSMALL	cfrs	Response output buffer too small 応答出力バッファが小さすぎる
3814	REASON_CFRS_MRPCOUTSIZE	cfrs	Unexpected MRPC outsize error 予期しない MRPC 出力サイズエラー
3815	REASON_CFRS_DSTNODELEFT	cfrs	Destination node has left the cluster 宛先ノードがクラスタから離れた
3816	REASON_CFRS_DSTDAEMONDOWN	cfrs	cfregd on destination node down 宛先ノードの cfregd が停止
3817	REASON_CFRS_DSTSTATERR	cfrs	Failure to stat dst file dst ファイルの stat 失敗
3818	REASON_CFRS_DSTNOTREG	cfrs	Existing dstpath not regular file 既存の dstpath が通常のファイルではない
3819	REASON_CFRS_DSTTMPOPENERR	cfrs	Cannot open tmp file on dst node dst ノードの tmp ファイルをオープンできない
381a	REASON_CFRS_DSTTMPCHOWNERR	cfrs	Cannot chown tmp file on dst node dst ノードのtmp ファイルをchown できない
381b	REASON_CFRS_DSTTMPCHMODERR	cfr s	Cannot chmod tmp file on dst node dst ノードの tmp ファイルがchmod できない
381c	REASON_CFRS_DSTTMPWRITEERR	cfrs	tmp file write error on dst node dst ノードの tmp ファイル書込みエラー
381d	REASON_CFRS_DSTTMPCLOSEERR	cfrs	tmp file close error on dst node dst ノードの tmp ファイルクローズエラー

コード	理由	サービス	意味
381e	REASON_CFRS_DSTRENAMEERR	cfrs	Failed to rename existing dstpath 既存の dstpath のリネームに失敗
381f	REASON_CFRS_TMPRENAMEERR	cfrs	Failed to tmp file to dstpath tmp ファイルのリネームに失敗
3820	REASON_CFRS_DUPIFC	cfrs	Duplicate remote operation handle error リモート操作ハンドルの重複エラー
3821	REASON_CFRS_STALESUBFCREQ	cfrs	Stale remote operation handle error リモート操作ハンドルの stale エラー
3822	REASON_CFRS_BADSPAWN	cfrs	Failure to spawn exec cmd on dstnode dstnode で exec cmd の生成に失敗
3823	REASON_MAX_REASON_VAL	cfrs	last reason 最後の理由

付録B　Solaris/Linux ERRNO テーブル

Solaris および Linux に関する ERRNO テーブルについて説明します。

Solaris番号	Linux番号	名前	説明
1	1	EPERM	**Operation not permitted / not super-user** 所有者またはスーパーユーザ以外には許されない方法でファイルを変更しようとした場合が典型的な例です。また、一般ユーザがスーパーユーザにのみ許された操作を行おうとした場合にも表示されます。
2	2	ENOENT	**No such file or directory** ファイル名を指定されましたが、存在するはずのファイルが存在しないか、またはパスに指定されたディレクトリの 1 つが存在しません。
3	3	ESRCH	**No such process, LWP, or thread** システム上に指定された PID、LWPID_t、または thread_t に対応するシステム上にプロセスが見つかりません。
4	4	EINTR	**Interrupted system call** システムサービス機能の実行中に、ユーザが非同期信号 (割り込みや終了) を発行しました。信号の処理後に実行が再開される場合は、あたかも割り込まれた機能呼び出しがこのエラー条件を返したように見えます。マルチスレッドのアプリケーションでは、別のスレッドまたは LWP が fork(2) を呼び出すたびに EINTR が返されます。
5	5	EIO	**I/O error** 物理的 I/O エラーが発生しました。このエラーは、実際に原因となった処理の次の呼び出し処理で発生する場合があります。
6	6	ENXIO	**No such device or address** 特別なファイルの I/O で、存在しないサブデバイスやデバイスの制限範囲外に存在するサブデバイスを参照した場合です。その他例えば、テープデバイスがオンラインでない場合や、ディスクパックがドライバにロードされていない場合にこのエラーが発生します。
7	7	E2BIG	**Arg list too long** ARG_MAX で指定されたバイト数より長い引数のリストが exec 関数のメンバに対して指定されました (exec(2) を参照)。引数のリストの最大値は、引数リストのサイズと環境にエクスポートされたシェル変数のサイズの合計です。
8	8	ENOEXEC	**Exec format error** 発行された実行要求につき、権限は十分ですが形式が正しくありません (a.out(4) を参照)。
9	9	EBADF	**Bad file number** ファイル記述子で指定したファイルが開かれていないか、read(2) (または write(2)) 要求が、書込み用 (write に対しては読込み用) のみに開かれたファイル対して行われています。

Solaris番号	Linux番号	名前	説明
10	10	ECHILD	**No child processes** wait(2) 関数を実行したプロセスに、子プロセスが存在しないか、待ち対象の子プロセスがありません
11	11	EAGAIN	**Try again / no more processes or no more LWPs** このエラーは、システムのプロセステーブルがいっぱいなために fork(2) 関数が失敗した場合や、ユーザがそれ以上プロセスを作成することを許されていない場合、または、メモリやスワップ領域の不足により呼び出しが失敗した場合などに発生します。
12	12	ENOMEM	**Out of memory / not enough space** brk()、sbrk() (brk(2) を参照、または exec 関数の実行中に、システムが用意できる以上の領域をプログラムが要求しています。これは一時的な状態ではありません。サイズの上限は、システムパレメタで指定されています。アーキテクチャによっては、テキスト、データ、またはスタックセグメントの配列によって要求されたセグメントレジスタの数が多すぎる場合や、fork(2) 関数の実行中にスワップ領域が不足した場合にもこのエラーは発生します。RFS(Remote File Sharing) に関連したリソースでこのエラーが発生した場合は、呼び出しが行われたシステムの状態により、一時的なメモリ不足である可能性があります。
13	13	EACCES	**Permission denied** 保護システムによって禁止された方法でファイルにアクセスしようとしました。
14	14	EFAULT	**Bad address** ルーチンの引数を使用する際に、ハードウェア障害が発生しました。例えば、ポインタ引数を受け取るルーチンに無効なアドレスが渡されると、システムがそれを検出するたびに、errno が EFAULT に設定される可能性があります。 システムによって、誤ったアドレスを検出する能力が異なるため、実装例によっては、誤ったアドレスをルーチンに渡すと未定義の動作が生じます。
15	15	NOTBLK	**Block device required** ブロックデバイスが必要な場所に非ブロックデバイスまたはファイルが指定されています (例:mount(2) 関数の呼び出し)。
16	16	EBUSY	**Device or resource busy** すでにマウントされているデバイスのマウント、または、アクティブなファイル (開かれたファイル、現在のディレクトリ、マウントされたファイル、アクティブなテキストセグメント) が存在するデバイスのアンマウントを行おうとしました。このエラーはまた、起動済みのアカウンティングをさらに起動しようとすると発生します。デバイスまたはリソースは現在使用できません。EBUSY は、さらに、ミューテックス、セマフォ、条件変数、および読込み/ 書込みロックにおいても、ロックされている

Solaris番号	Linux番号	名前	説明
			ことを示すために使用されます。また、プロセッサ制御関数 P_ONLINEでも使用されます。
17	17	EEXIST	**File exists** 既存のファイルが不適切な場面で指定されています (例: link(2) 関数の呼び出し)。
18	18	EXDEV	**Cross-device link** 別のデバイス上のファイルに対するハードリンクを行おうとしました。
19	19	ENODEV	**No such device** デバイスに対して不適切な処理を行おうとしました (例: 書込み専用デバイスに対する読込み処理)。
20	20	ENOTDIR	**Not a directory** ディレクトリが必要な場所 (例: chdir(2) 関数のパス接頭辞や引数) にディレクトリ以外のものが指定されました。
21	21	EISDIR	**Is a directory** ディレクトリに対して書込みを行おうとしました。
22	22	EINVAL	**Invalid argument** 無効な引数 (例: マウントされていないデバイスのアンマウント) が指定され、signal(3C) または kill(2) 関数の呼び出しに未定義の信号が記述されています。
23	23	ENFILE	**File table overflow** システムファイルのテーブルがいっぱいです (SYS_OPEN のファイルが開かれ、現在のところ別のファイルが開けない状態です)。
24	24	EMFILE	**Too many open files** いかなるプロセスも OPEN_MAX を超えるファイル記述子を一度に開くことはできません。
25	25	ENOTTY	**Not a TTY - inappropriate ioctl for device** ioctl(2) 関数の呼び出しで、特殊文字デバイスではないファイルが指定されています。
26	26	ETXTBSY	**Text file busy (obsolete)** 現在書込み用に開かれているピュア手続きプログラムを実行しようとしました。また、現在使用中のピュア手続きプログラムを、書込み用に開いたり削除したりしようとしました。
27	27	EFBIG	**File too large** ファイルのサイズが、リソース RLIMIT_FSIZE によって指定された限界を超えました。ファイルのサイズがファイルシステムでサポートする最大値を超えているか、ファイル記述子のオフセット最大値を超えています。
28	28	ENOSPC	**No space left on device** 通常ファイルの書込み中またはディレトリエントリの作成中に、デバイスの空き領域がなくなりました。fcntl(2) 関数の場合は、システムにこれ以上のレコードエントリが残っていないため、ファイ

Solaris番号	Linux番号	名前	説明
			ルのレコードロックの設定または削除ができません。
29	29	ESPIPE	**Illegal seek** lseek(2) 関数の呼び出しがパイプに発行されました。
30	30	EROFS	**Read-only file system** 読込み専用でマウントされたデバイス上でファイルまたはディレクトリを変更しようとしました。
31	31	EMLINK	**Too many links** 最大数 LINK_MAX を超えるリンクをファイルに設定しようとしました。
32	32	EPIPE	**Broken pipe** データを読み取るプロセスのないパイプへの書込みです。通常この状態が発生すると信号が生成され、その信号が無視されると、エラーが返されます。
33	33	EDOM	**Math argument out of domain of function** math package(3M) 関数の引数が、関数のドメイン外の値です。
34	34	ERANGE	**Math result not representable** math package(3M) 関数の値がマシン精度の範囲内にありません。
35	42	ENOMSG	**No message of desired type** 指定されたメッセージキューには存在しないタイプのメッセージを受け取ろうとしました (msgrcv(2) を参照)。
36	43	EIDRM	**Identifier removed** このエラーは、ファイルシステムの名前空間から識別子を削除したために実行が再開されたプロセスに返されます (msgctl(2)、semctl(2)、shmctl(2) を参照)。
37	44	ECHRNG	**Channel number out of range**
38	45	EL2NSYNC	**Level 2 not synchronized**
39	46	EL3HLT	**Level 3 halted**
40	47	EL3RST	**Level 3 reset**
41	48	ELNRNG	**Link number out of range**
42	49	EUNATCH	**Protocol driver not attached**
43	50	ENOCSI	**No CSI structure available**
44	51	EL2HLT	**Level 2 halted**
45	35	EDEADLK	**Resource deadlock condition** デッドロックが検出され、回避されました。このエラーは、ファイルおよびレコードロッキングに関連し、ミューテックス、セマフォ、条件変数および読込み/ 書込みロックについても発生します。
46	37	ENOLCK	**No record locks available** これ以上使用できるロックがありません。システムロックのテーブルがいっぱいです (fcntl(2) を参照)。

Solaris番号	Linux番号	名前	説明
47	125	ECANCELED	**Operation canceled** 関連する同期処理が完了前にキャンセルされました。
48	95	ENOTSUP	**Not supported** この機能は、このバージョンのシステムではサポートされていません。今後のバージョンでの検討課題とさせていただきます。
49	122	EDQUOT	**Disc quota exceeded** ユーザに割り当てられたディスクブロックの不足、または、ユーザに割り当てられた inodes の不足による新規作成ファイルへの inode 割り当て失敗により、通常ファイルに対する write(2) 処理、ディレクトリまたはシンボリックリンクの作成、または、ディレクトリエントリの作成が失敗しました。
50	52	EBADE	**Invalid exchange**
51	53	EBADR	**Invalid request descriptor**
52	54	EXFULL	**Exchange full**
53	55	ENOANO	**No anode**
54	56	EBADRQC	**Invalid request code**
55	57	EBADSLT	**Invalid slot**
56	35	EDEADLOCK	**File locking deadlock error**
57	59	EBFONT	**Bad font file format**
58	-	EOWNERDEAD	**Process died with the lock**
59	-	ENOTRECOVERABLE	**Lock is not recoverable**
60	60	ENOSTR	**Device not a stream** STREAMS デバイスではないファイル記述子で、putmsg(2) またはgetmsg(2) 呼び出しを行おうとしました。
61	61	ENODATA	**No data available** データがありません (遅延なし I/O 用)。
62	62	ETIME	**Timer expired** STREAMS ioctl(2) 呼び出しに設定したタイマー期間が経過しました。エラーの原因はデバイス固有の問題であり、ハードウェアまたはソフトウェアの障害が考えられます。また、特定の処理に対して、設定したタイムアウト値が短すぎた可能性があります。ioctl() 処理のステータスは、不定です。_lwp_cond_timedwait(2) または cond_timedwait(2) でもこのエラーが返されます。
63	63	ENOSR	**Out of stream resources** STREAMS に対する open(2) 呼び出しの際に、STREAMS キューまたは STREAMS 先頭データの構造体がありませんでした。これは一時的な現象で、他のプロセスがリソースを開放すれば解消される可能性があります。

Solaris番号	Linux番号	名前	説明
64	64	ENONET	**Node is not on the network** RFS (Remote File Sharing) に固有のエラーです。このエラーは、ノードのネットワークへの接続が完了していない時点で、ユーザがリモートリソースの宣言、宣言の取り消し、マウント、アンマウントを行おうとすると発生します。
65	65	ENOPKG	**Package not installed** このエラーは、インストールされていないパッケージからの呼び出しを行うと発生します。
66	66	EREMOTE	**Object is remote** RFS 固有のエラーです。このエラーは、ユーザがローカルノード上にないリソースの宣言、または、リモートノード上のデバイス (またはパス名) のマウントやアンマウントを行おうとすると発生します。
67	67	ENOLINK	**Link has been severed** RFS 固有のエラーです。リモートノードへのリンク (仮想回線) が失われると発生します。
68	68	EADV	**Advertise error** RFS 固有のエラーです。このエラーは、宣言済みのリソースの宣言、宣言されたリソースが存在する RFS の停止、または宣言されたリソースの強制アンマウントを行おうとすると発生します。
69	69	ESRMNT	**Srmount error** RFS 固有のエラーです。このエラーは、リソースがまだリモートノードにマウントされた状態で RFS を停止しようとしたり、現時点でリソースがマウントされているリモートノードを含まないクライアントリストによりリソースが再宣言されたりすると発生します。
70	70	ECOMM	**Communication error on send** RFS 固有のエラーです。このエラーは、現在のプロセスがリモートノードからのメッセージを待機している状態で、仮想回線が失われると発生します。
71	71	EPROTO	**Protocol error** 何らかのプロトコルエラーが発生しました。このエラーはデバイス固有のエラーですが、通常はハードウェアの障害ではありません。
72	-	ELOCKUNMAPPED	**Locked lock was unmapped**
74	72	EMULTIHOP	**Multihop attempted** RFS 固有のエラーです。直接アクセスが不可能なリモートリソースにアクセスしようとすると発生します。
76	73	EDOTDOT	**RFS specific error** RFS 固有のエラーです。プロセスがマウントポイントから戻されたことを、サーバからクライアントに伝える方法です。
77	74	EBADMSG	**Not a data message** /* 読込み不可能なメッセージの読込みを行おう

Solaris番号	Linux番号	名前	説明
			とした */STREAMS デバイスへの read(2)、getmsg(2)、または ioctl(2) I_RECVFD 呼び出しの間に、処理できないデータがキューの先頭に置かれました。この処理不可能なデータは呼び出しの種類によって異なります。 read(): 制限情報または、送信ファイル記述子 getmsg(): 送信記述子 ioctl(): 制御またはデータ情報
78	36	ENAMETOOLONG	**File name too long** _POSIX_NO_TRUNC が有効な状態で、パス引数の長さが PATH_MAX を超えているか、パスコンポーネントが NAME_MAX を超えています。limits(4) を参照してください。
79	75	EOVERFLOW	**Value too large for defined data type**
80	76	ENOTUNIQ	**Name not unique on network** 指定されたログ名が一意ではありません。
81	77	EBADFD	**File descriptor in bad state** ファイル記述子で指定したファイルが開かれていないか、または、読込み要求が書込み専用に開かれたファイルに対して行われています。
83	79	ELIBACC	**Cannot access a needed shared library** 静的共有ライブラリを必要とする a.out を実行しようとしましたが、静的共有ライブラリが存在しないか、ユーザに使用する権限がありません。
84	80	ELIBBAD	**Accessing a corrupted shared library** 静的共有ライブラリ (リンク先) を必要とする a.out を実行しようとしましたが、exec が静的共有ライブラリをロードできませんでした。静的共有ライブラリが破損している可能性があります。
85	81	ELIBSCN	**.lib section in a.out corrupted** 静的共有ライブラリ (リンク先) を必要とする a.out を実行しようとしましたが、a.out の .lib セクションのデータに誤りがあります。.lib セクションでは、exec に対してどの静的共有ライブラリが必要かを指定しています。a.out が破損している可能性があります。
86	82	ELIBMAX	**Attempting to link in too many shared libraries** 現在のシステム構成で許される数以上の静的共有ライブラリを必要とする a.out を実行しようとしました。"NFSAdministration Guide" を参照してください。
87	83	ELIBEXEC	**Cannot exec a shared library directly** 共有ライブラリを直接実行しようとしました。
88	84	EILSEQ	**Illegal byte sequence** 複数の文字を 1 つの文字として処理しようとした際に、不当なバイトシーケンスがありました。
89	38	ENOSYS	**Function not implemented / operation not applicable** この処理はファイルシステムでサポートされていません。

Solaris番号	Linux番号	名前	説明
90	40	ELOO P	**Symbolic link loop** パス名のトラバーサル中に検出したシンボリックリンクの数がMAXSYMLINKS を超えました。
91	85	ERESTART	**Restartable system call** 中断されたシステムコールを再開する必要があります。
92	86	ESTRPIPE	**Streams pipe error (not externally visible)** パイプ /FIFO の場合は、ストリームヘッドでスリープしません。
93	39	ENOTEMPTY	**Directory not empty**
94	87	EUSERS	**Too many users** UFS のユーザが多すぎます。
95	88	ENOTSOCK	**Socket operation on non-socket**
96	89	EDESTADDRREQ	**Destination address required** トランスポートエンドポイントの処理に必要なアドレスが省略されています。宛先のアドレスは省略できません。
97	90	EMSGSIZE	**Message too long** トランスポートプロバイダに送られたメッセージが、内部のメッセージバッファまたはその他ネットワークの制限を超えています。
98	91	EPROTOTYPE	**Protocol wrong type for socket** 要求されたソケットタイプのセマンティクスをサポートしていないプロトコルが指定されました。
99	92	ENOPROTOOPT	**Protocol not available** プロトコルのオプションを取得または設定する際に、誤ったオプションまたはレベルが指定されました。
120	93	EPROTONOSUPP ORT	**Protocol not supported** プロトコルがシステムに構成されていないか、その実装が存在しません。
121	94	ESOCKTNOSUPP ORT	**Socket type not supported** ソケットタイプのサポートがシステムに構成されていないか、その実装が存在しません。
122	95	EOPNOTSUPP	**Operation not supported on transport end-point** 例えば、データグラムトランスポートのエンドポイントの接続を受け付ける場合などです。
123	96	EPFNOSUPPORT	**Protocol family not supported** プロトコルファミリがシステムに構成されていないか、その実装が存在しません。インターネットプロトコルに使用されます。
124	97	EAFNOSUPPORT	**Address family not supported by protocol** 要求されたプロトコルとの互換性がないアドレスが使用されました。
125	98	EADDRINUSE	**Address already in use** 指定されたアドレスはすでに使用されているため、プロトコルで受け付けられません。

Solaris番号	Linux番号	名前	説明
126	99	EADDRNOTAVAIL	**Cannot assign requested address** 現在のノード上にないアドレスでトランスポートのエンドポイントを作成しようとした場合に、このエラーが返されます。
127	100	ENETDOWN	**Network is down** 処理中にネットワークが停止しました。
128	101	ENETUNREACH	**Network is unreachable** アクセス不可能なネットワークに対して処理を行おうとしました。
129	102	ENETRESET	**Network dropped connection because of reset** 接続先のノードがクラッシュし、再起動されました。
130	103	ECONNABORTED	**Software caused connection abort** ノードで内部的に接続の解除が発生しました。
131	104	ECONNRESET	**Connection reset by peer** ピア (対等な状態の接続) により接続が強制終了されました。このエラーは通常、タイムアウトまたはリブートによってリモートノードとの接続が失われることにより発生します。
132	105	ENOBUFS	**No buffer space available** システムのバッファ領域が不足していたか、キューがいっぱいであったため、トランスポートエンドポイントまたはパイプの処理が行われませんでした。
133	106	EISCONN	**Transport endpoint is already connected** 接続済みのトランスポートエンドポイントに対して接続要求がなされたか、接続済みのトランスポートエンドポイント上の sendto(3N) または接続完了後に sendmsg(3N) 要求により、接続先が指定されました。
134	107	ENOTCONN	**Transport endpoint is not connected** トランスポートエンドポイントが接続されていないか、(データグラムの送信時に) アドレスが指定されていないため、データの送信または受信の要求が認められませんでした。
135	117	EUCLEAN	**Structure needs cleaning**
137	118	ENOTNAM	**Not a XENIX named type file**
138	119	ENAVAIL	**No XENIX semaphores available**
139	120	EISNAM	**Is a named type file**
140	121	EREMOTEIO	**Remote I/O error**
141	-	EINIT	**Define EINIT 141** /* 予約済み */
142	-	EREMDEV	**Define EREMDEV 142** /* エラー 142 */
143	108	ESHUTDOWN	**Cannot send after transport endpoint shutdown** トランスポートエンドポイントがすでにシャットダウンされていたため、データ送信要求が認められませんでした。

Solaris番号	Linux番号	名前	説明
144	109	ETOOMANYREFS	**Too many references: cannot splice**
145	110	ETIMEDOUT	**Connection timed out** タイムアウト時間が経過しても接続先が適切な応答を返さなかったため connect(3N) または send(3N) 要求が失敗しました。または、ファイルがソフトオプションでマウントされた NFS ファイルシステム上にあるため write(2) または fsync(3C) 要求が失敗しました。
146	111	ECONNREFUSED	**Connection refused** 接続先のマシンにより明示的に拒絶されたため、接続できませんでした。このエラーは通常、リモートノード上で起動されていないサービスに接続しようとした場合に発生します。
147	112	EHOSTDOWN	**Node is down** 接続先のノードがダウンしているため、トランスポートプロバイダ処理が失敗しました。
148	113	EHOSTUNREACH	**No route to node** アクセス不可能なノードに対してトランスポートプロバイダ処理を行おうとしました。
149	114	EALREADY	**Operation already in progress** すでに処理を実行中のノンブロッキングオブジェクトに対して処理を行おうとしました。
150	115	EINPROGRESS	**Operation now in progress** 長時間を要する処理 (connect() など) をノンブロッキングオブジェクトに対して行おうとしました。
151	116	ESTALE	**Stale NFS file handle**
-	11	EWOULDBLOCK	**Operation would block**
-	123	ENOMEDIUM	**No medium found**
-	124	EMEDIUMTYPE	**Wrong medium type**

付録C　リリース情報

本マニュアルの主な変更内容を説明します。

項番	版数	修正箇所	内容
1	4版	6.1.1 ADC: Admin 構成	以下のメッセージを追加しました。 (ADC, 23) (ADC, 24)
2	4版	6.1.2 ADM: Adminキュー、コマンドキュー、ディテクタキュー	以下のメッセージを追加しました。 (ADM, 65) (ADM, 114)
3	4版	6.1.3 BAS: 起動および構成定義エラー	以下のメッセージを追加しました。 (BAS, 1) (BAS, 8)
4	4版	6.1.4 BM: ベースモニタ	以下のメッセージを追加しました。 (BM, 4) (BM, 53) (BM, 119)
5	4版	6.1.9 CUP: userApplication コントラクト	以下のメッセージを追加しました。 (CUP, 11) (CUP, 12) (CUP, 13) (CUP, 14) (CUP, 16) (CUP, 19) (CUP, 20) (CUP, 21) (CUP, 22) (CUP, 23) (CUP, 24) (CUP, 25) (CUP, 28) (CUP, 29) (CUP, 30) (CUP, 31) (CUP, 32) (CUP, 33)
6	4版	6.1.17 SWT: 切替要求 (hvswitch コマンド)	以下のメッセージを追加しました。 (SWT, 5) (SWT, 6) (SWT, 7) (SWT, 8) (SWT, 12) (SWT, 13) (SWT, 14) (SWT, 16) (SWT, 18) (SWT, 23) (SWT, 24) (SWT, 32) (SWT, 33) (SWT, 34) (SWT, 36)

項番	版数	修正箇所	内容
			(SWT, 69) (SWT, 72)
7	4版	6.1.18 SYS: SysNode オブジェクト	以下のメッセージを追加しました。 (SYS, 16) (SYS, 18)
8	4版	6.1.19 UAP: userApplication オブジェクト	以下のメッセージを追加しました。 (UAP, 3) (UAP, 11) (UAP, 25) (UAP, 30)
9	4版	6.1.20 US: us ファイル	以下のメッセージを追加しました。 (US, 28) (US, 29) (US, 45) (US, 47)
10	4版	6.1.21 WLT: Wait リスト	以下のメッセージを追加しました。 (WLT, 6)
11	4版	6.1.22 WRP: ラッパ	以下のメッセージを追加しました。 (WRP, 21) (WRP, 41) (WRP, 51)
12	5版	4.5 エラー（ERROR）メッセージ	以下のメッセージを修正しました。 "7040" "7042" "7203" "7204"
13	5版	4.5 エラー（ERROR）メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 "7230" "7231" "7232" "7233" "7234" "7235" "7236" "7237"
14	5版	5.1 CFメッセージ	以下のメッセージを修正しました。 "cf: elmlog !rebuld complete in 1 lbolt" " cf: elmlog !rebuld starting due to node joining configuration.”
15	6版	4.5 エラー(ERROR)メッセージ	以下のメッセージの対処を修正しました。 "6201" "6222" "6300" "7040"
16	6版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 Advertisement Client : sendto error on socket errno 146 SMAWsf : fopen of /etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg failed, errno 2 SMAWsf : SA SA_xscfp.so to test host <nodename> failed

項番	版数	修正箇所	内容
			SMAWsf : SA SA_xscfr.so to test host <nodename> failed SMAWsf : SA SA_rccu.so to test host <nodename> failed SMAWsf : SA SA_pprcip.so to test host <nodename> failed SMAWsf : SA SA_pprcir.so to test host <nodename> failed SMAWsf : WARNING: No context allocation. MA <Monitoring Agent> for host <nodename> is neglected
17	6版	6.2.2 警告(WARNING)メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 The IpAddress <IpAddress resource> failed to reach the state Offline in a safe time limit of 180.
18	7版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 SMAWsf : SA SA_ilomp.so to test host <nodename> failed
19	8版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 SMAWsf : SA SA_mmbp.so to test host <nodename> failed SMAWsf : SA SA_mmbr.so to test host <nodename> failed
20	9版	2.3インストールスクリプトのエラーメッセージ(Linux)	以下のメッセージを追加しました。 Please see the following log file. /var/log/install/cluster_install ERROR: syntax error (<PSET> <PLAT>) ERROR: </usr/sbin/dmidecode> command not found
21	9版	2.4 アンインストールスクリプトのエラーメッセージ(Linux)	以下のメッセージを追加しました。 Please see the following log file. /var/log/install/cluster_uninstall ERROR: syntax error (<PSET> <PLAT>)
22	9版	第3章 GUI のメッセージ 4.5 エラー(ERROR)メッセージ 5.1 CFメッセージ 5.2 シャットダウン機構メッセージ 6.1 RMSメッセージ 6.2 RMSウィザード メッセージ 6.3 コンソールエラーメッセージ	メッセージを追加しました。
23	9版	4.3 情報(INFO)メッセージ 4.5 エラー(ERROR)メッセージ 6.1.16 SCR: スクリプト 6.1.18 SYS: SysNode オブジェクト	以下のメッセージを修正しました。 "3052" "3053" "6836" "6905" "7040" "7050" "7051" "7052" "7053" "7054" "7055"

項番	版数	修正箇所	内容
			"7056" (SCR, 9) (SYS, 8)
24	9版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 sfsacfgupdate: ERROR: <command> command failed. return_value=<value>. sfsacfgupdate: ERROR: Could not find <file>. sfsacfgupdate: ERROR: Could not find ipmitool command. sfsacfgupdate: ERROR: ipmi service doesn't start. sfsacfgupdate: ERROR: <file> is invalid. sfsacfgupdate: ERROR: Reading the Shutdown Agent configuration failed. sfsacfgupdate: ERROR: Failed to copy the backup of <file> on node <node>. sfsacfgupdate: ERROR: <file> generation failed. sfsacfgupdate: ERROR: Failed to distribute <file> to node <node>. sfsacfgupdate: ERROR: Failed to change the access permission of <file> on node <node>. sfsacfgupdate: ERROR: Failed to change the group of <file> on node <node>. sfsacfgupdate: ERROR: Failed to change the owner of <file> on node <node>. SMAWsf : SA SA_icmp to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_ilomr.so to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_libvirtgp to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_libvirtgr to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_vmchkhost to test host nodename failed
25	9版	5.2 シャットダウン機構メッセージ 6.1 RMSメッセージ	以下のメッセージの対処を修正しました。 SMAWsf : fopen of /etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg failed, errno 2 (SCR, 26)
26	9版	6.2.1 情報(NOTICE)メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 NOTICE: cannot grab mount lock for dostat() check_getbdev(), returning previous state
27	9版	7.12 wvstatコマンドメッセージ	以下のメッセージを追加しました。 wvstat Warn: Can't connect to server <IPアドレス>, <ポート番号>
28	10版	2.2 One Shot Installer のメッセージ(Solaris)	One Shot Installerのサポートバージョンについて注意を追加しました。
29	10版	4.2 応答(QUESTION)メッセージ	以下のメッセージを変更しました。 1421 1423
30	10版	5.1 CF メッセージ	以下のメッセージの対処を変更しました。

項番	版数	修正箇所	内容
			CF: Local node is missing a route from node:nodename または CF: missing route on local device:devicename
31	10版	6.1.1 ADC: Admin 構成 6.1.2 ADM: Admin キュー、コマンドキュー、ディテクタキュー 6.1.18 SYS: SysNode オブジェクト	以下のメッセージの内容と対処を修正しました。 (ADC, 51) (ADM, 69) (ADM, 111) (SYS, 84)
32	10版	6.1.18 SYS: SysNode オブジェクト	以下のメッセージを追加しました。 (SYS, 101)
33	10版	6.3 コンソールエラーメッセージ	以下のメッセージの内容と対処を修正しました。 ERROR: Hvshut terminates due to timeout, some objects may still be Online.
34	10版	6.1.5 CML: コマンドライン	以下のメッセージの内容を変更しました。 (CML, 18) (CML, 19) (CML, 20) (CML, 21)
35	10版	6.1.17 SWT: 切替要求 (hvswitch コマンド)	以下のメッセージの内容を変更しました。 (SWT, 4) (SWT, 13) (SWT, 30) (SWT, 31) (SWT, 32) (SWT, 33)
36	10版	6.1.18 SYS:SysNodeオブジェクト	以下のメッセージを追加しました。 (SYS, 101)
37	10版	6.3 コンソールエラーメッセージ	以下のメッセージの対処を修正しました。 ERROR: Forcibly switch request denied, unabele to kill node <node>
38	10版	6.3 コンソールエラーメッセージ	以下のメッセージを追加しました。 ERROR: Forcibly switch request denied, the following node(s) are in LEFTCLUSTER state: nodes
39	10版	6.3 コンソールエラーメッセージ	以下のメッセージを変更しました。 The use of the -f (force) flag could cause your data to be corrupted and could cause your node to be killed. Do not continue if the result of this forced command is not clear.
40	10版	6.3 コンソールエラーメッセージ	以下のメッセージの対処を変更しました。 Usage: hvshut {-f | -L | -a | -l | -s SysNode | -A}
41	10版	6.3 コンソールエラーメッセージ	以下のメッセージの内容と対処を修正しました。 ERROR: Hvshut terminates due to timeout, some objects may still be Online.

項番	版数	修正箇所	内容
42	10版	6.3 コンソールエラーメッセージ	以下のメッセージを変更しました。 Usage: hvutil {-a | -d | -f | -c | -s} userApplication | {-t n | -N string } resource | -L{0|1} resource | {-o | -u} SysNode | -l level | -w | -W | -i {all | userApplication} | -r | -m {on|off|forceoff} userApplication | -M {on|off|forceoff} {-C | -E} SatNode
43	10版	第7章 特定コマンド実行時のメッセージ 7.13 clallshutdownコマンド	clallshutdownコマンドのメッセージを追加しました。
44	11版	1.2.3 その他の形式	CFのメッセージの見分け方を記載しました。
45	11版	3.1.1 情報メッセージ 3.1.3 エラーメッセージ 5.1 CF メッセージ 6.1 RMSメッセージ	メッセージを追加しました。
46	11版	3.1.2 警告メッセージ	以下のメッセージを変更しました。 2905 :Please select at least one CF node to continue.
47	11版	3.1.3 エラーメッセージ	以下のメッセージを追加しました。 "2946" "2967" "2968" "2969" "2970" "2971" "2972" "2978" "2980" "2981" "2982" "2983" "2984" "2985" "2987" "2988"
48	11版	3.1.3 エラーメッセージ	以下のメッセージ、内容、対処を変更しました。 2541:The IP range ip1/netmask1 overlaps with ip2/netmask2, which is in use on node.
49	11版	3.1.3 エラーメッセージ	以下のメッセージ、内容、対処を変更しました。 "2586" "2587" "2588" "2591" "2941" "2942" "2943" "2944" "2950" "2952" "2967" "2968"
50	11版	4.2 応答（QUESTION）メッセージ	以下のメッセージを変更しました。 "1421" "1423"

項番	版数	修正箇所	内容
51	11版	4.3 情報(INFO)メッセージ 4.5 エラー(ERROR)メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 "3110" "3111" "7037" "7240" "7241" "7242" "7243"
52	11版	4.5 エラー(ERROR)メッセージ	以下のメッセージを変更しました。 "7040"
53	11版	5.1 CF メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 CF: Questionable node <nodeA> detected by node <nodeB> CF: Questionable node message received from node <nodeA>: <nodeB> detected this node as questionable CF: (TRACE): <nodeA>: detected as a questionable node. CF: (TRACE): nodename: heartbeat reply received: Stopping requested heartbeat. CF: (TRACE): Starting requested heartbeat for node: nodename. CF: (TRACE): Starting voluntary heartbeat for node: nodename.
54	11版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 SMAWsf : /etc/sysconfig/libvirt-guests is not configured on Hypervisor of host <*nodename*>. rcsd died abnormally.
55	11版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	以下のメッセージの内容と対処を変更しました。 (SMAWsf, 50, 4)
56	11版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	以下のメッセージの対処を変更しました。 SMAWsf : SA SA_icmp to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_ilomp.so to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_ilomr.so to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_rccu.so to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_xscfp.so to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_xscfr.so to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_pprcip.so to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_pprcir.so to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_sunF to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_blade to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_ipmi to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_lkcd to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_libvirtgp to test host nodename failed

項番	版数	修正箇所	内容
			SMAWsf : SA SA_libvirtgr to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_vmchkhost to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_vmgp to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_vmSPgp to test host nodename failed SMAWsf : SA SA_vmSPgr to test host nodename failed SMAWsf : SA Shutdown Agent to test host nodename failed
57	11版	6.1.1 ADC: Admin 構成	以下のメッセージの内容と対処を変更しました。 (ADC, 3) The command '*command*' failed to reset uid information with errno '*errno*' - '*errorreason*'.
58	11版	6.1.9 CUP: userApplication コントラクト 6.1.10 DET: ディテクタ 6.3 コンソールエラーメッセージ	以下のメッセージの内容を変更しました。 (CUP, 1) (DET, 25) The file '*filename*' could not be opened: *errormsg* The system call *systemcall* could not be executed: *errormsg*
59	11版	6.1.4 BM:ベースモニタ 6.1.17 SWT: 切替要求 (hvswitch コマンド) 6.1.19 UAP: userApplication オブジェクト 6.1.20 US: us ファイル	以下のメッセージを変更しました。 (BM, 4) (SWT, 5) (UAP, 2) (US, 26)
60	11版	6.2.2 警告(WARNING)メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 WARNING: Root access is essential for most functionality!
61	11版	6.2.3 エラー(ERROR)メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 ERROR e2fsck -p <*device*> failed with error code <*code*>
62	11版	6.2.3 エラー(ERROR)メッセージ	以下のメッセージ、内容、対処を変更しました。 ERROR There is no netmask or prefix defined for <host> <interface> in <ipconffile>.
63	11版	6.3 コンソールエラーメッセージ	以下のメッセージを変更しました。 *command*: cannot put message in queue Usage: hvcm [-V] [-a] [-s targethost] [-c config_file] [-h time] [-l level]
64	11版	6.3 コンソールエラーメッセージ	以下のメッセージの内容と対処を変更しました。 <*command*> failed with exit code *exitcode*
65	11版	6.3 コンソールエラーメッセージ	以下のメッセージの対処を変更しました。 *command*: message queue is not ready yet!
66	11版	6.3 コンソールエラーメッセージ	以下のメッセージを追加しました。 ERROR: Assertion terminated: RMS is shutdown The command '*command*' failed to set the effective uid information with errno '*errno*' - '*errorreason*'.

項番	版数	修正箇所	内容
			The state of RMS service is not online/degraded but *state*
67	11版	6.3 コンソールエラーメッセージ	以下のメッセージを削除しました。 hvsend: dest_object is not specified. Modification file name is missing on the command line, usage: hvmod [-i] [-l] -f config_file.us | -E | -L | [-i] [-l] -c "modification directives" Too many arguments, usage: hvmod -E Usage: hveject -s host Usage: hvjoin -s host Usage: hvmod [-i] [-l] -f config_file.us | -E | -L | [-i] [-l] -c "modification directives" Usage: hvrcp localfile node:remotefile Usage: hvsend { [-m message] [-s system] [-w waittime] dest_object | -f in_file [dest_object] }
68	11版	7.12 wvstatコマンドメッセージ	以下のメッセージを変更しました。 wvstat Warn: Can't connect to server <IP address or hostname>, <port number>
69	12版	3.2.2 警告メッセージ	以下のメッセージの内容を変更しました。 "0837"
70	12版	4.5 エラー(ERROR)メッセージ	以下のメッセージの対処を変更しました。 "7232"
71	12版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 Error in option specification. (option:*option*) No system administrator authority. The SA <*Shutdown Agent*> is not registered."
72	12版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	メッセージ"sfsacfgupdate: ERROR: Could not find <file>."を"Could not find <*file*>."に変更し、対処も変更しました。
73	12版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	メッセージ"sfsacfgupdate: ERROR: <file> is invalid."を"<*file*> is invalid."に変更しました。
74	12版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	メッセージ"sfsacfgupdate: ERROR: <command> command failed. return_value=<value>."を"<*command*> command failed. return_value=<*value*>."に変更し、対処も変更しました。
75	13版	第3章 GUI のメッセージ	"3.2 CRMビューのメッセージ"を追加しました。
76	13版	3.1 Cluster Admin のメッセージ 第5章 CF のメッセージ 第6章 RMS に関するメッセージ	メッセージを情報(対処の有無別)、警告、エラーの各種別に分類しました。
77	13版	3.1.3 警告メッセージ	以下のメッセージの対処を変更しました。 "3120"
78	13版	3.1.3 エラーメッセージ	以下のメッセージの対処を変更しました。 "2505"
79	13版	4.2 応答(QUESTION)メッセージ	以下のメッセージの内容を修正しました。 "1421" "1423"

項番	版数	修正箇所	内容
80	13版	4.5 エラー(ERROR)メッセージ	以下のメッセージの対処を追加しました。 "7232"
81	13版	5.1 CFメッセージ 6.1 RMSメッセージ 6.2 RMSウィザードメッセージ 7.6.2 エラー(ERROR)メッセージ	メッセージを追加しました。
82	13版	5.1.1 対処不要な情報(NOTICE)メッセージ	メッセージの内容を修正しました。
83	13版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	以下のメッセージを削除しました。 (SMAWsf, 10, 9) : A request to reconfigure came in during a shutdown cycle, this request was ignored (SMAWsf, 30, 16) : Illegal catlog open parameter (SMAWsf, 50, 3) : The SF-CF initialization failed, status %d
84	13版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 disablesb.cfg does not exist, errno *errno* SA SA_xscfsnmpg0p.so to test host *nodename* failed SA SA_xscfsnmpg1p.so to test host *nodename* failed SA SA_xscfsnmpg0r.so to test host *nodename* failed SA SA_xscfsnmpg1r.so to test host *nodename* failed SA SA_xscfsnmp0r.so to test host *nodename* failed SA SA_xscfsnmp1r.so to test host *nodename* failed Saving the configuration information of the logical domain failed. The domain type is not a control domain. The guest domain information of the specified node name is not registered. (nodename:*nodename*) The Migration function cannot be used in this environment. (nodename:*nodename*) The RCSD on host *nodename* is NOT running in CF mode The specified guest domain cannot be connected. (nodename:*nodename*)
85	13版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	%sおよび%dで表しているメッセージを修正しました。
86	13版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	"SMAWsf :"で始まるメッセージから"SMAWsf :"部分を削除しました。
87	13版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	"(SMAWsf, 10, X) :"で始まるメッセージから"(SMAWsf, 10, X) :"部分を削除しました。
88	13版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	"(SMAWsf, 30, X) :"で始まるメッセージから"(SMAWsf, 30, X) :"部分を削除しました。
89	13版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	"(SMAWsf, 50, X) :"で始まるメッセージから"(SMAWsf, 50, X) :"部分を削除しました。
90	13版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	メッセージ"Sending ACK to host *nodename* failed, ackId=%d"を"Sending *type* to host *nodename* failed, ackId=*number*"に変更しました。
91	13版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	メッセージ"SMAWsf: The SF-CF initialization failed，status 9218"を"The SF-CF initialization failed, status *value*"に変更し、内容と対処も変更しました。

項番	版数	修正箇所	内容
92	13版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	メッセージ(SMAWsf, 30, 2)を"Usage: sdtool {-d[on | off] | -s | -S | -m | -M | -r | -b | -C | -l | -e | -k node-name}"に変更しました。
93	13版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	メッセージ(SMAWsf, 30, 12)を"A shutdown is in progress. try again later"に変更しました。
94	13版	6.1 RMSメッセージ 6.2 RMSウィザードメッセージ 7.6.2 エラー(ERROR)メッセージ	メッセージを追加しました。
95	13版	6.1 RMSメッセージ	メッセージ、内容、対処を修正しました。
96	13版	6.1.2.4 BM: ベースモニタ	以下のメッセージの対処を修正しました。 (BM, 8)
97	13版	6.1.2.6 CUP: userApplication コントラクト	以下のメッセージ、対処、内容を修正しました。 (CUP, 12) (CUP, 13)
98	13版	6.1.2.9 SWT: 切替要求 (hvswitch コマンド)	以下のメッセージ、対処を修正しました。 (SWT, 12)
99	13版	6.1.2.9 SWT: 切替要求 (hvswitch コマンド) 6.3 コンソールエラーメッセージ	以下のメッセージの対処の注意を修正しました。 (SWT, 13) (SWT, 30) (SWT, 32) (SWT, 33) The use of the -f (force) flag could cause your data to be corrupted and could cause your node to be killed. Do not continue if the result of this forced command is not clear. The use of force flag of hvswitch overrides the RMS internal security mechanism. In particular RMS does no longer prevent resources, which have been marked as "ClusterExclusive", from coming Online on more than one host in the cluster. It is recommended to double check the state of all affected resources before continuing. Do you wish to proceed ? (default: no) [yes, no]:
100	13版	6.1.2.9 SWT: 切替要求 (hvswitch コマンド)	以下のメッセージを追加しました。 (SWT, 74)
101	13版	6.1.2.14 WRP: ラッパ	以下のメッセージの対処を修正しました。 (WRP, 11)
102	13版	6.1.3.1 ADC: Admin 構成	以下のメッセージ、対処、内容を修正しました。 (ADC, 17) (ADC, 20)
103	13版	6.1.3.14 SCR: スクリプト	以下のメッセージの対処を追加しました。 (SCR, 9)
104	13版	6.2.2 警告(WARNING)メッセージ	以下のメッセージの対処を修正しました。 WARNING: The IpAddress <*ipaddress resource*> failed to reach the state Offline in a safe time limit of 180.

項番	版数	修正箇所	内容
105	14版	2.3インストールスクリプトのエラーメッセージ(Linux)	以下のメッセージを追加しました。 ERROR: Failed to install FJQSS<Information Collection Tool>
106	14版	4.4 警告(WARNING)メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 ccmtrcstr: FJSVclerr Onltrc start fail
107	14版	5.1.3 警告(WARNING)メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 CF: Initialization failed. Error: Unsupported network interface devices found.
108	14版	5.2 シャットダウン機構メッセージ	以下のメッセージの対処を変更しました。 The specified guest domain cannot be connected. (nodename:*nodename*)
109	14版	6.1.1.14 SWT: 切替要求 (hvswitch コマンド)	以下のメッセージを追加しました。 (SWT, 89) (SWT, 90)
110	14版	6.1.3.2 ADM: Adminキュー、コマンドキュー、ディテクタキュー	(ADM, 100)の内容を変更しました。
111	14版	6.1.3.2 ADM: Adminキュー、コマンドキュー、ディテクタキュー	以下のメッセージを追加しました。 (ADM, 128) (ADM, 129)
112	14版	6.1.3.4 BM: ベースモニタ	以下のメッセージの対処を修正しました。 (BM, 113)
113	14版	6.1.3.14 SCR: スクリプト	以下のメッセージの内容と対処を変更しました。 (SCR, 9)
114	14版	6.2.1 情報(NOTICE)メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 NOTICE: Removing any possible Rawdisk links below reliant/dev/rawdisk... NOTICE: ip addr del <ipaddrprefix> failed (<errorcode>). NOTICE: ip link set dev <interface> down failed (<errorcode>).
115	14版	6.2.1 情報(NOTICE)メッセージ	以下のメッセージの内容を変更しました。 NOTICE: <application> is Online and has priority, so exit with error here ... NOTICE: Removing any possible stale nfs links below reliant/dev/nfs...
116	14版	6.2.2 警告(WARNING)メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 WARNING: ip addr add <ipaddress>/<netmask> failed (<errorcode>). WARNING: ip link set dev <interface> up failed (<errorcode>).
117	14版	6.2.3 エラー(ERROR)メッセージ	以下のメッセージを追加しました。 ERROR: xfs_repair <device> failed with error code <code>.
118	14版	6.3 コンソールエラーメッセージ	以下のメッセージを追加しました。 ERROR: Local SysNode must be specified Request cannot be processed. The following resource(s) are unexpectedly online Resource is already online on target node Resource type must be userApplication or gResource systemctl command exited with retcode The state of RMS service is not active but state

項番	版数	修正箇所	内容
			The userApplication is in the state Inconsistent on any node The userApplication must be in the state Online, Offline or Standby on target node Usage: hvswitch [-f] userApplication [SysNode] | [-f] resource SysNode | -p userApplication Usage: hvutil {-a | -d | -c | -s} userApplication | -f [-q] userApplication | {-f | -c} resource | {-t n | -N string } resource | -L {level | display} resource | {-o | -u} SysNode | -l {level | display} | -w | -W | -i {all | userApplication} | -r | -m {on|off|forceoff} userApplication | -M {on|off|forceoff} | {-C | -E} SatNode

索　引